

CICS Transaction Server for z/
OSバージョン 5 リリース 6

CICSplex SM 管理



注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[製品の特記事項](#)に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM® CICS® Transaction Server for z/OS®, バージョン 5 リリース 6 (製品番号 5655-Y305655-BTA)、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典：

CICS Transaction Server for z/OS
Version 5 Release 5
CICSplex SM Administration

発行：

日本アイ・ビー・エム株式会社

担当：

トランスレーション・サービス・センター

© Copyright International Business Machines Corporation 1974, 2020.

目次

この PDF について.....	ix
第 1 章プラットフォームのセットアップ.....	1
CICS プラットフォームの設計.....	2
プラットフォーム用の zFS の準備.....	5
プラットフォームの作成.....	7
プラットフォームのデプロイ.....	8
第 2 章 CICSplex SM アドレス・スペース (CMAS) の設定.....	11
CMAS のセットアップの前に.....	11
CICSplex SM 補助記憶域の使用法.....	11
総称アラートを IBM Tivoli NetView に送信するための準備.....	12
CMAS を開始する準備.....	13
CICSplex SM データ・セットの作成と管理.....	15
CICSplex SM データ・リポジトリの作成.....	15
CICSplex SM データ・リポジトリの取り込み.....	17
CMAS 関連の CICS システム初期設定パラメーター.....	17
CICSplex SM データ・リポジトリの拡張.....	20
CICSplex SM データ・リポジトリのバックアップを取る.....	20
CICSplex SM システム・パラメーターの編集.....	22
CMAS 関連の CICS システム初期設定パラメーター.....	22
CMAS におけるタスクの制御.....	25
CMAS データ・セットの作成とカスタマイズ.....	26
CMAS における CICS ストレージの制御.....	27
CMAS 用 START コマンド.....	28
CMAS ジャーナリング.....	29
CMAS のシャットダウン.....	31
CMAS の再始動.....	32
第 3 章 CICS MAS の設定.....	35
MAS のセットアップの前に.....	35
CICS グローバル・ユーザー出口およびユーザー置換可能モジュールの使用.....	35
LPA からのモジュールの使用を制御する.....	35
z/OS MAS の始動の準備.....	36
MAS データ・セットの作成とカスタマイズ.....	36
MAS 開始前の始動 JCL の変更.....	38
CICS 始動時の Db2 および IBM MQ 接続のアクティブ化.....	39
z/OS MAS 関連の CICS システム初期設定パラメーター.....	39
ヒストリー記録用の MAS の準備.....	43
CICS システムの管理の停止および再開.....	43
MAS における長時間実行タスクの数の制御.....	44
第 4 章 CICSplex SM の構成.....	47
CICSplex の作成.....	47
CICS システム定義の作成.....	47
CICS システム・グループの作成.....	48
CICS システム・グループへの CICS システムの追加.....	48
CMAS の CICSplex への割り当て.....	49
CMAS から CMAS への接続の確立.....	50

第 5 章 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーをセットアップする server.....	53
CICS システムを Web ユーザー・インターフェース・サーバーとして動作させるための準備.....	53
WUI の CICS システム初期設定パラメーターの検討.....	54
WUI の言語およびコード・ページ情報の指定.....	55
WUI のコード・ページ変換テーブルの準備.....	56
Web ユーザー・インターフェース・サーバー・リポジトリ (EYUWREP) の作成.....	56
WUI データ・セットの作成とカスタマイズ.....	57
WUI のカスタマイズ可能ビューおよびメニュー・ヘルプ・データ・セットの指定.....	59
Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメーターの指定.....	60
WUI の必須パラメーター.....	60
WUI のオプション・パラメーター.....	60
WUI の一時データ・キュー定義の作成.....	68
WUI の JCL DD ステートメントの指定.....	69
Web ユーザー・インターフェースの開始と停止.....	70
第 6 章 CMCI のセットアップ.....	71
CICSplex SM での CMCI のセットアップ.....	71
WUI 領域の CMCI の構成.....	72
CMCI JVM サーバーを使用するための WUI 領域の構成.....	77
CICS バンドル・デプロイメント API 用の CMCI JVM サーバーの構成.....	81
CICSplex での複数の CMCI JVM サーバーのセットアップ.....	83
CICSplex SM WUI サーバーと CMCI JVM サーバーの間の構成パラメーターのマッピング.....	83
CMCI でのレコード・カウント警告.....	87
CMCI のストレージ要件の見積もり.....	91
CMCI JVM サーバーに対するクライアント・ホワइटリストの定義.....	92
スタンドアロン CICS 領域での CMCI のセットアップ.....	94
スタンドアロン CICS 領域での CMCI のセキュリティの構成.....	96
第 7 章 CICSplex SM の管理.....	99
CMAS コンテキスト、コンテキスト、およびスコープの設定.....	99
Web ユーザー・インターフェース管理ビューへのアクセス.....	99
アクション・ボタンの使用.....	99
管理ビューでのアクション.....	100
データ・リポジトリ定義を管理するためのバッチ・ツール.....	100
EYU9XDBT 定義ユーティリティ.....	101
バッチ・リポジトリ更新機能 (BATCHREP).....	110
CMAS 構成の管理.....	127
CMAS 構成定義とその関連ビュー.....	128
保守ポイント CMAS の処理.....	128
CMAS から CMAS へのリンクの管理.....	130
CMAS から CMAS へのリンク定義の説明の更新.....	130
CMAS から CMAS へのリンク定義の説明の削除.....	131
CMAS の再始動の管理.....	131
CICSplex 定義の管理.....	133
CICSplex 定義からの CMAS の割り当て解除.....	133
トポロジー定義の管理.....	134
トポロジー定義.....	134
CICS システム・グループ定義の管理.....	135
CICS システム定義の作業.....	135
時間枠定義の管理.....	135
MAS トポロジー定義の処理.....	142
アクティブな MAS の停止.....	143
アクティブな MAS の更新.....	143
CMAS での NetView への総称アラートの送信の有効化.....	143

第 8 章プラットフォームおよびアプリケーションの管理.....	145
プラットフォームの管理.....	145
アプリケーションの管理.....	148
第 9 章 CMAS コンポーネントのトレース.....	151
第 10 章 MAS コンポーネントのトレース.....	153
第 11 章プラットフォーム、アプリケーション、およびポリシーのトラブルシューティング.....	155
プラットフォーム・エラーの診断.....	155
アプリケーション・エラーの診断.....	157
ポリシーに関するエラーの診断.....	161
付録 A CICSplex SM 操作ビュー.....	165
システム・グループ - CSYSGRP.....	165
CICS システム定義 - CSYSDEF.....	166
CICSplex 認知の MAS - MAS.....	177
CMAS 別の MAS 状況 - MASSTAT.....	188
ローカル CMAS 認知の CMAS - CMASLIST.....	189
CMAS 管理の CICSplex - CMASPLEX.....	190
CICSplex 管理の CMAS - CICSplex.....	194
CMAS から CMAS へのリンク - CMTCLNK.....	197
CMAS から MAS へのリンク - CMTPLNK.....	199
付録 B バッチ・リポジトリ更新要求 - BATCHREP.....	203
付録 C CMAS 構成管理ビュー.....	205
CICSplex の定義 - CPLEXDEF.....	205
CICSplex 定義中の CMAS - CPLXCMAS.....	209
CMAS から CMAS へのリンク定義 - CMTCMDEF.....	213
CMAS からリモート MAS へのリンク定義 - CMTPMDEF.....	216
付録 D モニター管理ビュー.....	219
仕様 - MONSPEC.....	219
グループ - MONGROUP.....	221
定義 - MONDEF.....	222
時間枠 - PERIODEF.....	224
仕様とシステムとの間のリンク - LNKSMSCS.....	225
仕様とシステムとの間のリンク - LNKSMSCG.....	226
モニター仕様内のモニター・グループ - MONINSPC.....	227
グループ内の定義 - MONINGRP.....	228
付録 E トポロジー管理ビュー.....	231
CICS システム定義 - CSYSDEF.....	231
システム・グループ - CSYSGRP.....	242
システム・グループとグループとの間のリンク - CSGLCGCG.....	243
システムとグループとの間のリンク - CSGLCGCS.....	244
時間枠 - PERIODEF.....	245
付録 F ワークロード・マネージャー管理ビュー.....	247
仕様 - WLMSPEC.....	247
グループ - WLMGROUP.....	250
定義 - WLMDEF.....	251

トランザクション・グループ定義 - TRANGRP.....	253
仕様とシステムとの間のリンク - LNKSWSGS.....	257
仕様とシステムとの間のリンク - LNKSWSGS.....	258
仕様内の WLM グループ - WLMINSPE.....	259
WLM グループ内の定義 - WLMINGRP.....	260
トランザクション・グループ内のトランザクション - DTRINGRP.....	261
付録 G RTA システム使用可能性モニター.....	263
CICS システム定義 - CSYSDEF.....	263
仕様 - RTASPEC.....	274
アクション - ACTION.....	278
時間枠 - PERIODEF.....	280
仕様とシステムとの間のリンク - LNKSRSCE.....	281
仕様とシステム・グループとの間のリンク - LNKSRSCE.....	282
付録 H CICS システム・リンクおよび関連リソース.....	285
すべてのシステム・リンク - SYSLINK.....	285
ISC/MRO 接続定義 - CONNDEF.....	286
セッション定義 - SESSDEF.....	291
IPIC 接続定義 - IPCONDEF.....	295
TCP/IP サービス定義 - TCPDEF.....	300
CICS システム定義 - CSYSDEF.....	306
付録 I RTA MAS リソース・モニター.....	319
仕様 - RTASPEC.....	319
グループ - RTAGROUP.....	323
定義 - RTADEF.....	325
評価 - EVALDEF.....	328
状況プローブ - STATDEF.....	334
アクション - ACTION.....	336
時間枠 - PERIODEF.....	338
仕様とシステムとの間のリンク - LNKSRSCE.....	340
仕様とシステム・グループとの間のリンク - LNKSRSCE.....	341
仕様内のグループ - RTAINSPC.....	342
グループ内の定義 - RTAINGRP.....	343
RTA グループ内の状況定義 - STAINGRP.....	344
付録 J RTA 分析点モニター.....	347
分析点仕様 - APSPEC.....	347
グループ - RTAGROUP.....	348
定義 - RTADEF.....	349
評価 - EVALDEF.....	352
アクション - ACTION.....	358
時間枠 - PERIODEF.....	360
1 次 CMAS 分析点仕様 - CMDMPAPS.....	361
2 次 CMAS 分析点仕様 - CMDMSAPS.....	362
分析点仕様内のグループ - RTAINAPS.....	363
グループ内の定義 - RTAINGRP.....	364
RTA グループ内の状況定義 - STAINGRP.....	365
付録 K ベーシック CICS リソース管理ビュー.....	367
リソース・グループ - RESGROUP.....	367
リソース記述 - RESDESC.....	368
リソース・グループ内の CICS リソース定義 - RESINGRP.....	381
リソース記述内のリソース・グループ - RESINDSC.....	382
リソース記述 - RDSCPROC.....	383
CICS システム - SYSRES.....	384

付録 L CICS リソース定義	387
ATOMSERVICE 定義 - ATOMDEF	387
バンドル定義 - BUNDDEF	389
CICS 配置 JAR ファイル定義 - EJDJDEF	391
CorbaServer 定義 - EJCODEF	393
DB2 接続定義 - DB2CDEF	396
DB2 項目定義 - DB2EDEF	401
DB2 トランザクションの定義 - DB2TDEF	404
文書テンプレートの定義 - DOCDEF	406
FEPI ノード定義 - FENODDEF	409
FEPI プール定義 - FEPOODEF	410
FEPI プロパティ・セット定義 - FEPRODEF	412
FEPI ターゲット定義 - FETRGDEF	415
ファイル定義 - FILEDEF	416
ファイル・セグメント定義 - FSEGDEF	423
エンキュー・モデル定義 - ENQMDEF	432
IPIC 接続定義 - IPCONDEF	434
ISC/MRO 接続定義 - CONNDEF	439
ジャーナル・モデルの定義 - JRNMDEF	444
JVM サーバー定義 - JVMSVDEF	446
LIBRARY 定義 - LIBDEF	448
LSR プール定義 - LSRDEF	454
マップ・セットの定義 - MAPDEF	458
WebSphere MQ 接続定義 - MQCONDEF	460
WebSphere MQ モニター定義 - MQMONDEF	462
パーティション・セットの定義 - PRTNDEF	464
パートナー定義 - PARTDEF	466
パイプライン定義 - PIPEDEF	468
プロセス・タイプの定義 - PROCDEF	470
プロファイル定義 - PROFDEF	472
プログラム定義 - PROGDEF	475
要求モデルの定義 - RQMDEF	480
セッション定義 - SESSDEF	484
TCP/IP サービス定義 - TCPDEF	488
一時記憶域モデルの定義 - TSMDEF	493
端末定義 - TERMDEF	496
トランザクション・クラス定義 - TRNCLDEF	502
トランザクション定義 - TRANDEF	504
一時データ・キューの定義 - TDQDEF	511
TYPETERM 定義 - TYPTMDEF	516
URI マッピング定義 - URIMPDEF	526
Web サービス定義 - WEBSVDEF	530
付録 M 完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー	533
リソース・グループ - RESGROUP	533
リソース割り当て - RASGNDEF	534
リソース記述 - RESDESC	537
リソース・グループ内の CICS リソース定義 - RESINGRP	550
リソース記述内のリソース・グループ - RESINDSC	551
リソース記述内のリソース割り当て - RASINDSC	552
リソース記述 - RDSCPROC	553
リソース割り当て - RASPROC	554
CICS システム - SYSRES	556
特記事項	559

索引.....	565
---------	-----

この PDF について

この PDF では、CICSplex SM 環境を管理するために必要な情報を示しています。

使用される用語や表記の詳細については、IBM Knowledge Center の [CICS 資料で使用されている表記規則および用語](#)を参照してください。

この PDF の日付

この PDF は、2020 年 5 月 28 日に作成されました。

第1章 プラットフォームのセットアップ

プラットフォームは、クラウド対応の CICS Transaction Server for z/OS の主要機能です。CICS 領域を迅速なアプリケーション・デプロイメントのプラットフォームとしてグループ化できるので、基礎となるトポロジーからアプリケーションが分離され、柔軟性が高まります。

始める前に

CICSplex® SM は、CICS 領域の単一システム・イメージを提供するための前提条件です。ビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) やワークロード管理など、CICSplex SM の他の機能は不要です。

プラットフォームの概要については、[仕組み: プラットフォーム](#)を参照してください。プラットフォーム・リソースの保護については、[プラットフォームおよびアプリケーションのセキュリティ](#)を参照してください。

このタスクについて

プラットフォームのセットアップの大部分の作業は、CICS Explorer®で行います。CICS クラウド・パースペクティブは、プラットフォームのライフサイクルを管理するためのビューを提供します。CICS Explorerでの作業に加えて、必要なディレクトリー構造を zFS でセットアップします。

下記のステップは、プラットフォームのセットアップ・プロセスの概要を示しています。各ステップに、さらに詳細な説明へのリンクがあります。

手順

1. プラットフォームを設計します。
どのようなアプリケーション、ポリシー、リソースをプラットフォームにデプロイするかを検討すると共に、新しい CICS 領域と領域タイプを作成するのか、それとも既存の CICS 領域とシステム・グループ定義を取り入れるのかを検討します。詳しくは、[2 ページの『CICS プラットフォームの設計』](#)を参照してください。
2. zFS で、プラットフォーム・ホーム・ディレクトリーを構成します。
詳しくは、[プラットフォーム用の zFS の準備](#)を参照してください。
3. CICS Explorer で、プラットフォーム・プロジェクトを作成します。
このプロジェクトに、領域タイプを追加し、デプロイする CICS バンドルとデプロイ先の領域タイプを指定します。
4. CICS Explorer から、プラットフォーム・プロジェクトを zFS にエクスポートします。
エクスポート処理では、CICS プラットフォーム・プロジェクトで参照される CICS バンドルがパッケージされ、プラットフォーム・バンドルと CICS バンドルのすべてのファイルが zFS のプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーにエクスポートされます。詳しくは、[8 ページの『プラットフォームのデプロイ』](#)を参照してください。
5. CICS Explorer で、プラットフォーム定義を作成します。
プラットフォーム定義は CICSplex SM PLATDEF リソース定義です。この定義で、zFS のプラットフォーム・ホーム・ディレクトリー内のプラットフォーム・バンドルを指し示し、プラットフォームのターゲット CICSplex を指定します。詳しくは、[CICS プラットフォームのデプロイ](#)を参照してください。
6. プラットフォーム・プロジェクト内の領域タイプで作成した CICS 領域定義ごとに、実際の CICS 領域をセットアップします。
詳しくは、[8 ページの『プラットフォームのデプロイ』](#)を参照してください。
7. CICS Explorer で、プラットフォームを実行する CICSplex にプラットフォーム定義をインストールします。
CICSplex SM は、プラットフォーム・バンドル内の情報を使用してプラットフォームをターゲット CICSplex にインストールします。プラットフォームと一緒にインストールされる CICS バンドルもインストールされます。詳しくは、[8 ページの『プラットフォームのデプロイ』](#)を参照してください。
8. CICS 領域を開始します。

9. プラットフォームと一緒に CICS バンドルがデプロイされている場合は、CICS Explorer で使用可能にして、プラットフォームで使えるようにします。

タスクの結果

CICSplex 内で稼働するプラットフォームができました。

次のタスク

CICSplex にプラットフォームをセットアップした後、パッケージされたアプリケーションをそこにデプロイできます。詳しくは、[プラットフォームへのアプリケーションのデプロイ](#)を参照してください。環境を制御するためのポリシーをデプロイすることにより、サービス品質をさらに加えることもできます。これらのポリシーは、プラットフォーム内のすべての領域または特定のアプリケーションに適用できます。詳しくは、[CICS ポリシー](#)を参照してください。

プラットフォームの実行について詳しくは、[プラットフォームおよびアプリケーションの管理](#)を参照してください。

CICS プラットフォームの設計

プラットフォームを作成する前に、既存の CICS 領域をプラットフォームにマップする作業をどのように計画するかや、プラットフォームで使用するためにどのような新しい CICS 領域を特に作成する可能性があるかを明確にしてください。また、プラットフォームにデプロイされるアプリケーションが使用できるようになるサービスについても、検討してください。

ご使用のプラットフォームに関する設計について、以下の項目を考慮してください。

- プラットフォームの一部として採用する既存の CICS 領域とシステム・グループ定義 (CSYSGRP)。
- プラットフォーム内で作成する新しい CICS 領域と領域タイプ。
- プラットフォーム上にデプロイするアプリケーション。
- プラットフォーム上にデプロイするポリシー。
- プラットフォーム上に CICS バンドルとしてデプロイする個別リソース。

プラットフォームを設計してインストールし終えた後に容量要件が増減する場合には、CICS Explorer を使用して、アクティブなプラットフォームに CICS 領域をさらに追加したり、アクティブなプラットフォームから CICS 領域を削除したりできます。

領域タイプの設計

領域タイプとは、共通の特性を共有する複数の CICS 領域を一緒に収集し、プラットフォーム内で 1 つの単位として管理できるようにする論理グループ化のことです。グループとして管理する共通の CICS 領域の特性を検索し、それらの特性を使用してプラットフォーム内の CICS 領域を適切な領域タイプに分割します。以下の例のように、領域タイプを使用して、機能的、地理的、または法的要件を満たすように CICS 領域をグループ化することもできます。

- 端末専有領域 (TOR)、ファイル専有領域 (FOR)、アプリケーション専有領域 (AOR): CICS 機能タイプ
- 実動、テスト、開発: ビジネス機能タイプ
- 給与計算、人事、会計: ビジネス処理機能タイプ
- 英国、アジア、ヨーロッパ: 大陸、国、都道府県別の区域

プラットフォーム・アーキテクチャーの例については、[プラットフォームの例](#)を参照してください。

プラットフォーム内に新しい領域タイプを設計して作成することができます。あるいは、プラットフォーム内の領域タイプとして、既存のシステム・グループ定義 (CSYSGRP) を採用できます。単一のプラットフォームは、作成された領域タイプと採用された領域タイプの両方を含むことができます。作成された領域タイプの使用時には、プラットフォーム別にこれらの CICS 領域に関する CICSplex SM トポロジーを作成し、プラットフォームのライフサイクルと関連付けます。採用された領域タイプの使用時には、プラットフォームのライフサイクルとは無関係にこれらの CICS 領域に関する CICSplex SM トポロジーをセットアップして保守します。

プラットフォーム内の1つのCICS領域に複数の目的がある場合は、その領域を複数の領域タイプに共用領域として組み込むことができます。CICS領域を、他のプラットフォーム内の領域タイプと共用することもできます。領域タイプ間でのCICS領域の共用がプラットフォーム設計に含まれている場合は、作成された領域タイプには、作成された領域のみを含めることができ、採用された領域タイプには、採用された領域のみを含めることができることに注意してください。領域の共用について詳しくは、[5ページの『プラットフォーム内の領域タイプ間でのCICS領域の共用』](#)を参照してください。

CICS TS バージョン 5.1 領域が MAS として CICS TS バージョン 5.1、5.2、または 5.3 CMAS に接続している場合、その領域は、MAS として CICS TS バージョン 5.2 または CICS TS バージョン 5.3 に接続している CICS TS バージョン 5.2 領域や CICS TS バージョン 5.3 領域と一緒にプラットフォームの一部にすることができます。CICS TS バージョン 5.2 または バージョン 5.3 を使用して作成されたアプリケーションを、CICS TS バージョン 5.1 領域が含まれているプラットフォーム上にインストールできます。しかし、CICS TS バージョン 5.2 または バージョン 5.3 アプリケーションをプラットフォーム内の CICS TS バージョン 5.1 領域にインストールすることには、以下の制限があります。

- 専用 PROGRAM リソースや専用 LIBRARY リソースなどの、アプリケーションの専用リソースは CICS TS バージョン 5.1 領域ではサポートされないため、これらの領域内には作成されません。プラットフォーム上に複数のバージョンのアプリケーションをインストールする場合、そのために CICS TS バージョン 5.1 領域でリソース名が競合することがあります。この場合、重複するリソースの CICS TS バージョン 5.1 領域へのインストールは失敗してメッセージ DFHAM4950 または DFHAM4834 が発行され、これらの領域で新しいバージョンのアプリケーションに関する CICS バンドルは使用できなくなります。
- 同じ ID とバージョンの複数の CICS バンドルは、CICS TS バージョン 5.1 領域ではサポートされません。同じ ID とバージョンの CICS バンドルが含まれる複数のバージョンのアプリケーションをプラットフォーム上にインストールする場合、CICS バンドルの CICS TS バージョン 5.1 領域へのインストールは失敗し、この領域からメッセージ DFHAM4952 が発行されます。この場合、アプリケーションは INCOMPLETE 状況になり、CICS TS バージョン 5.1 領域で使用できなくなります。

これらの制限のために、CICS TS バージョン 5.2 または バージョン 5.3 を使用して作成された複数のバージョンのアプリケーションを CICS TS バージョン 5.1 領域が含まれているプラットフォーム上にインストールできても、新しい方のバージョンのアプリケーションの CICS TS バージョン 5.1 領域内へのインストールは失敗する可能性が高いと考えられます。インストール・エラーが発生しないようにするには、複数のバージョンがあるアプリケーションをインストールしようとしている領域タイプ内に CICS TS バージョン 5.2 または バージョン 5.3 領域だけを組み込んでください。

プラットフォームでの新しい CICS 領域の設計

プラットフォームの設計時に、プラットフォーム上にデプロイしようとしているアプリケーションの要件を正確に満たすために、作成された領域タイプ内に新しい CICS 領域を組み込むことができます。作成された領域を使用して、プラットフォームの一部として採用する計画の既存の CICS 領域を補足する追加の機能を提供できます。または、作成された領域だけで構成されるようにプラットフォームを設計できます。

プラットフォーム設計では、作成された領域タイプごとの CICS 領域に必要な特性を考慮してください。作成された領域タイプでは、それに含まれる CICS 領域のプロパティを指定できます。1つの領域タイプに含まれるすべての CICS 領域の特定の領域属性値は、それらの属性を領域タイプ・レベルで指定することによって複製できます。必須設定値を受け入れることのできる CICS 領域だけを、その領域タイプに含めることができます。CICS 領域内の設定を領域タイプの設定と同じにすることも、CICS 領域内で設定を行わないことも可能です。後者の場合は、領域タイプの設定から提供されます。しかし、CICS 領域内の設定と領域タイプの設定は競合できません。共用される領域は、それらの領域が含まれているすべての領域タイプからの設定を受け入れることができなければなりません。

以下の領域属性値を領域タイプ・レベルで指定することができます。

ルーティング領域として適格 (WLMSTATUS 属性)

この CICS 領域を、CICS 領域始動時にルーティング領域として関連するワークロードに関連させるかどうかを示します。

ターゲット領域として適格 (DYNROUTE 属性)

CICS の始動時に、この CICS 領域がターゲット領域としてアクティブになり、ワークロードのターゲットとして作業を受け入れるかどうかを示します。

BAS インストールが使用可能 (AUTOINST 属性)

リソース記述により CICS 領域に関連付けられたリソースを、MAS から CMAS への接続時に自動的にインストールするかどうかを示します。

BAS インストール失敗アクション (AINSFAIL 属性)

BAS インストールに失敗した場合に行うアクションを示します。

使用しているプラットフォームのアーキテクチャーにおいて、ある領域タイプのすべての CICS 領域がそれらのエリアで特定の機能または制限を持つ必要がある場合には、領域タイプのセットアップ時に該当する値を領域タイプ・レベルで指定します。作成された領域タイプに、属性に関する要件が特にならない場合は、CICS 領域ですべての設定が許可されるようにするため、属性に値を指定しないでください。領域属性値を領域タイプ・レベルで指定すると、その属性値はロックされ、その後はその領域タイプに属する CICS 領域で変更できなくなります。

既存の CICS 領域のプラットフォームへのマッピング

既存のシステムを評価して可能な候補をプラットフォームにするには、複数のシステム・グループ定義 (CSYSGRP) と複数の CICS 領域が含まれる最上位グループを検索します。最上位グループはプラットフォームとして再実装するのに適した候補になる可能性があり、CSYSGRP は領域タイプの採用に適した候補になる可能性があります。既存のトポロジーの一部をプラットフォームとしてパッケージ化すると、もっと簡単にリソースやアプリケーションを管理したり CICS 領域にデプロイしたりできます。

プラットフォームの一部として組み込む各 CICS システム・グループ (CSYSGRP) は、以下の要件を満たしている必要があります。

- そのグループは、既にインストールされたプラットフォームによってまだ採用されていない。そのグループが既にプラットフォームに関連付けられている場合、それを領域タイプとして採用することはできません。
- そのグループは、サブグループを含んでいない。
- そのグループの修正が必要にならない (例えば WLM または RTA に関するグループ)。プラットフォームは、領域タイプとして使用されるグループのロックを必要とします。
- グループ内のすべての CICS 領域で CICSplex SM システム・パラメーター MASPLTWAIT(YES) が指定されている。MASPLTWAIT(YES) はビジネス・アプリケーション・サービスにも必要です。このパラメーターは、CICS 領域が初期化される場合、アプリケーションまたはオペレーティング・システムのリソースを自動的にインストールするために必須です。

CSYSGRP 内にこれらの要件を満たしていない CICS 領域がある場合、特にその CICS 領域をプラットフォームの一部として使用する必要があるときは、それらの領域のシステム定義 (CSYSDEF) をそのプラットフォーム専用で作成した新しい CSYSGRP に追加してください。

対象となるプラットフォームにおいて CICSplex SM データ・リポジトリ (EYUDREP) が十分大きいことの確認

大規模なデプロイメントを計画している場合、CICSplex SM データ・リポジトリのサイズが十分であることを確認してください。データ・リポジトリは、CICSplex SM のシステム構成や定義データが保管される VSAM データ・セットです。各 CMAS には独自のデータ・リポジトリがあります。

プラットフォームやアプリケーションのリソースは、CICS CSD からではなく、データ・リポジトリから管理されます。そのため、データ・リポジトリには、プラットフォームの定義とそこにデプロイされるアプリケーションやバンドルのための十分なスペースが必要です。データ・リポジトリの現行サイズは、IDCAMS ユーティリティの LISTCAT 機能を使用することによって判別できます。

データ・リポジトリを拡張する場合、IDCAMS ユーティリティの REPRO 機能を使用します。この JCL の例は、CICSTS51.CPSM.SEYUSAMP ライブラリーの EYUJXDRP メンバーにあります。JCL 内の RECORDS(xx,yy) ステートメント上で、自分の環境にとって適切な 1 次 (xx) および 2 次 (yy) の値を指定します。初期値は 500 と 3000 です。

プラットフォーム内の領域タイプ間での CICS 領域の共用

領域タイプ間で領域を共用すると、構成の価値を上げることができ、プラットフォーム内のセットアップが簡単になります。それぞれを分離したままにする場合より考慮事項は増えますが、計画の負荷を軽減できます。

CICS 領域を共用する理由はさまざまです。例えば、開発 CICSplex 上のプラットフォームで、すべての領域タイプで共用される単一の CICS 領域を使用することもできます。すべての領域タイプで共用される単一の CICS 領域を使用すると、複数の CICS 領域の構成、管理、保守が不要になるので、新規開発が簡素化されます。複数のプラットフォームが TOR の単一セットか 1 つの FOR を共用している実稼働環境で、CICS 領域を共用することもできます。

プラットフォームのセットアップ中か、インストール済みのアクティブなプラットフォームで、CICS 領域を領域タイプ間で共用できます。作成された領域タイプには、作成された CICS 領域のみを含めることができ、採用された領域タイプには、採用された CICS 領域のみを含めることができます。

作成された領域タイプ内で、すべての CICS 領域の特定の領域属性値を、プラットフォーム・プロジェクト内でそれらの属性を領域タイプ・レベルで指定することによって複製できます。共用される CICS 領域は、それらの領域が含まれているすべての領域タイプからの設定を受け入れることができなければなりません。例えば、CICS 領域がワークロード管理に関するルーティング領域として適格でなければならないと指定している領域タイプを作成することがあります。この領域タイプは、CICS 領域がルーティング領域として不適格である必要がある領域タイプと、CICS 領域を共用できません。しかし、同様に CICS 領域がルーティング領域として適格である必要がある領域タイプや、領域タイプ・レベルで設定が指定されていない領域タイプとは、CICS 領域を共用できます。

1 つのプラットフォーム内と複数のプラットフォーム間のどちらで CICS 領域を共用していても、特定の CICS リソース間で競合が存在することのないように注意しなければなりません。プラットフォームやアプリケーションのバンドル・インストールでは、CICS バンドル・レベルでの競合のみ検査されます。2 種類のバンドルを同じ領域にインストールし、両方とも同じリソースを作成する場合、バンドルの重複部分は使用できなくなります。

複数のプラットフォームが CICS 領域の 1 つのグループを共用しており、両方のプラットフォームで同じリソースをインストールする必要がある場合、一方のプラットフォームのみこれらのバンドルのインストールを試行する必要があります。最初にこのプラットフォームのインストールが行われてから、破棄される必要があります。両方のプラットフォームとも同じバンドルのセットをインストールできますが、この方法の結果は不確実です。プラットフォームのインストール時に、2 つ目のプラットフォームに関するバンドルがインストールされなかったことが示されます。2 つ目のプラットフォームでプラットフォームの ENABLESTATUS が INCOMPLETE になり、バンドル・インストールが失敗したことが共用領域に記録されます。この 2 番目の方法を採用する場合は、プラットフォームの破棄に注意してください。一方のプラットフォームにしかバンドルがインストールされないの、もう一方のプラットフォームに、機能に必要なバンドルがインストールされていることを確認する必要があります。この技法の使用時の最悪のシナリオは、両方のプラットフォームが同時にインストールされることです。この場合、各プラットフォームでバンドルのサブセットがインストールされ、両方のプラットフォームともプラットフォームの ENABLESTATUS が INCOMPLETE になります。しかし、このシナリオでも、これらのプラットフォームは破棄時に残っているすべてのバンドルを正しくクリーンアップします。

プラットフォーム用の zFS の準備

プラットフォームを作成してデプロイするには、その前に zFS でプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーを構成する必要があります。専用ファイル・システムの作成、ファイル・システム・セキュリティのセットアップ、CICS Explorer からアクセスするための FTP セキュリティのセットアップを行います。

始める前に

プラットフォームの概要については、**仕組み: プラットフォーム**を参照してください。このタスクは、プラットフォームをどのような構造にするかを決定していることを前提としています。(まだの場合は、を参照してください。)

このタスクについて

ディレクトリーの概要については、[z/OS UNIX のプラットフォーム・ディレクトリーの構造](#)を参照してください。プラットフォーム・ホーム・ディレクトリーでは、さまざまなプラットフォーム・リソースやアプリケーション・リソースがいくつかのサブディレクトリーで保持されます。これらのサブディレクトリーは、CICS Explorer からプラットフォームがエクスポートされるときに作成されます。

手順

1. zFS プラットフォーム・ホーム・ディレクトリーとして使用する z/OS UNIX ファイル・システム・データ・セットを作成します。

これは、プラットフォーム内ですべての CICS 領域によって使用される専用ファイル・システムです。デフォルトのプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーは `/var/cicsts/CICSplex/platform1/` です (CICSplex はプラットフォームがインストールされる CICSplex の名前、platform1 はプラットフォームの名前)。

ベスト・プラクティスは、このデフォルトを保持することです。別のディレクトリーをプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーとして使用する場合は、CICS プラットフォーム・プロジェクトの作成後に、プラットフォーム・バンドルを変更して代替のディレクトリー名を指定する必要があります。これは、CICS Explorer プラットフォーム記述子エディターで行います。

- a) 非共有 zFS を使用する場合は、読み取り/書き込みファイル・システムとして、データ・セットを `/var` に `/var/cicsts` としてマウントします。
- b) 多重システム (LPAR) 環境で共有ファイル・システムを使用する場合、データ・セットをルート・ファイル・システム (`/`) に `/cicsts` としてマウントします。また、アクセスが必要なシステムごとに、`/var/cicsts` から `/cicsts` 共有ディレクトリーへのシンボリック・リンクを作成します。
- c) 多重システム環境かシスプレックス間環境で、すべてのシステム間でファイル・システムを共有できない場合、プラットフォーム・ホーム・ディレクトリー用にセットアップした構造を各 zFS ファイル・システム内で複製します。プラットフォーム、アプリケーション、または CICS バンドルをエクスポートする際には、必ずプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーのコンテンツが各 zFS ファイル・システムに複製されていることを確認します。CICS Explorer でエクスポート・プロセスを繰り返したり、個々のファイル・システムごとに該当する z/OS 接続を選択したりできます。
- d) ディレクトリーが既存でない場合は、`/var/cicsts/CICSplex` と `/var/cicsts/CICSplex/platform1` のサブディレクトリーを作成します。

CICS Explorer を使用する場合、これらのディレクトリーが自動的に作成されます。

2. ファイル・システム・セキュリティをセットアップします。

このファイル・システム・セキュリティによって、CICSplex SM CMAS 領域を含む、プラットフォーム内のすべての CICS 領域が、プラットフォーム・ホーム・ディレクトリー内のバンドル・ファイルを読み取れるようになります。

- a) `/var/cicsts` のディレクトリー所有者を、バンドル・ファイルを作成するために使用されるユーザー ID に変更します。
- b) `/var/cicsts` のディレクトリーのグループ所有権を、プラットフォーム内のすべての CICS 領域が属するグループに変更します。
- c) ディレクトリーの所有者に、読み取り、書き込み、および実行の許可を付与します。また、グループに読み取りおよび実行の許可を付与します。
例えば、`rwxr-x---` とします。
- d) オプション: 複数の管理者ユーザー ID が書き込み権限を必要とする場合、または異なる複数のグループが読み取り権限を必要とする場合、UNIX システム・サービス (USS) のアクセス制御リスト (ACL) エントリーを使用すると、グループ許可または所有者許可を追加できます。これは、**FSSEC** リソース・クラスをアクティブにし、**setfacl** コマンドを使用することによって、実現できます。

3. FTP セキュリティをセットアップします。

このレベルのセキュリティによって、CICS Explorer からエクスポートされたバンドルが zFS 上のプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーに書き込まれ、またプラットフォーム内のすべての CICS 領域から読み取られるようになります。

- a) z/OS FTP デーモンのファイル・モード作成マスクを設定し、所有者が書き込み許可を持ち、グループが読み取り許可を持つようにします。

この構成を行うには、FTP.DATA 構成ファイル内で **UMASK** ステートメントを使用します。

- b) オプション: ACL エントリーも使用してセキュリティを制御している場合は、デフォルト ACL が zFS プラットフォーム・ホーム・ディレクトリー (/var/cicsts/CICSplex/platform1 など。CICSplex は CICSplex の名前、platform1 はプラットフォームの名前) から継承されるようにします。

タスクの結果

zFS 環境が正しいディレクトリーと許可で構成されました。デプロイメント・プロセスの一部として CICS Explorer から zFS にプラットフォームをエクスポートするときに、追加のディレクトリーが作成されます。

次のタスク

7 ページの『[プラットフォームの作成](#)』の手順に従ってプラットフォーム・バンドルを作成できるようになりました。

プラットフォームの作成

CICS Explorer でプラットフォームを作成します。CICS プラットフォーム・プロジェクトを作成して、プラットフォーム・バンドルを定義します。プラットフォーム・バンドルは、プラットフォームについて記述する一種の管理バンドルです。プラットフォーム・バンドルは、プラットフォームの領域タイプを指定します。

始める前に

プラットフォームの概要については、[仕組み: プラットフォーム](#)を参照してください。このタスクは、以下の項目が既に完了していることを前提としています。

1. プラットフォームをどのような構造にするかを決定した。まだの場合は、[プラットフォームの構造](#)を参照してください。
2. zFS にプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーをセットアップした。まだの場合は、[プラットフォーム用の zFS の準備](#)を参照してください。

ご使用のプラットフォームのレベルで CICS バンドルをデプロイする場合は、CICS プラットフォーム・プロジェクトの作成時に追加する準備が整った CICS バンドルを作成できます。例えば、プラットフォーム内のすべての CICS 領域で必要とされるリソースや、プラットフォームにデプロイされる複数のアプリケーションに適用されるポリシーを入れた CICS バンドルをデプロイできます。プラットフォーム用のアプリケーション、リソース、またはポリシーがまだセットアップされていない場合、プラットフォームの作成後またはデプロイ後の任意の時点で CICS バンドルをプラットフォームに追加できます。CICS バンドルの作成については、[CICS バンドルの定義](#)を参照してください。

このタスクについて

CICS Explorer でプラットフォームを作成します。以下のステップは、手順の概要を示しています。詳細なステップについては、[CICS Explorer 製品資料内の『プラットフォームとアプリケーションの処理』](#)を参照してください。

手順

1. CICS プラットフォーム・プロジェクトを作成します。プロジェクトの名前と、プラットフォーム自体の名前と説明を入力します。
プロジェクトの場所は、ローカル・ワークスペース内のどこに CICS プラットフォーム・プロジェクトが保管されるかを指定します。
2. プラットフォームの 1 つ以上の領域タイプを追加します。各領域タイプに名前を付けてから、新しいシステム・グループを使用する作成された領域タイプか、既存のシステム・グループを使用する採用された領域タイプかを指定します。作成された領域タイプの場合、領域タイプ用に作成される CICS システム・グループ (CSYSGRP) の名前を入力します。
採用された領域タイプとして既存の CICS システム・グループを追加するには、CICSplex SM に対する接続がなければなりません。

3. オプション: プラットフォームと共にデプロイする CICS バンドルを指定してから、デプロイ先の領域タイプを選択します。
- プラットフォームと共にデプロイする準備のできた CICS バンドルがない場合は、この段階をスキップしてください。
4. CICS Explorer のプラットフォーム記述子エディターを使用して CICS プラットフォーム・プロジェクトを編集し、プラットフォーム・バンドルの指定を確認して完成させます。
- プラットフォーム記述子エディターは、プラットフォーム・プロジェクトの作成後に自動的に開きます。後でプラットフォーム記述子エディターを開くときには、プラットフォーム・バンドルのいずれかの .xml ファイル (ただし manifest.xml ファイルを除く) をダブルクリックしてください。
- a) デフォルトのプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーの代わりに別のディレクトリーを使用する必要がある場合は、既にセットアップ済みのホーム・ディレクトリーを参照して、それをプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーとして指定します。
 - b) 領域タイプを確認し、必要に応じて、作成された領域タイプや採用された領域タイプを追加したり削除したりします。
- プラットフォームがインストールされてアクティブになった後、領域タイプ内で個々の CICS 領域を追加したり削除したりできます。しかし、インストールされたプラットフォーム内で領域タイプを変更することはできないため、プラットフォームのインストール前に領域タイプを確定してください。
- c) プラットフォーム内の作成された領域タイプごとに、その領域タイプ内のすべての CICS 領域内で適用しなければならない設定を指定します。
- 設定値を受け入れることのできる CICS 領域だけを、その領域タイプに含めることができます。作成された領域タイプに、属性に関する要件が特にならない場合は、CICS 領域ですべての設定が許可されるようにするため、属性に値を指定しないでください。
- d) プラットフォーム内の作成された領域タイプごとに、その領域タイプ内の一部になる CICS 領域に関する 1 つ以上の CICS 領域定義を追加します。デフォルトの CICS 領域定義が指定されています。
- これを作成された領域タイプ内の CICS 領域に関する実際の定義に置き換える必要があります。
- CICS 領域ごとの基本プロパティーと、その領域の組み込み先の作成された領域タイプを指定します。
- e) プラットフォームと共にデプロイされるすべての CICS バンドルを確認します。必要に応じてバンドルを追加したり削除したりし、各 CICS バンドルのデプロイ先の領域タイプを確認したり変更したりします。
- プラットフォームをインストールした後、アプリケーションやポリシーを開発していく時点で、プラットフォーム・レベルで他の CICS バンドルをデプロイすることができます。

次のタスク

CICS プラットフォーム・プロジェクトを zFS 上のプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーにエクスポートし、プラットフォーム内の領域タイプで作成したそれぞれの CICS 領域定義に一致するように CICS 領域をセットアップしてから、CICSplex でプラットフォームをインストールして使用可能にします。説明は、[プラットフォームのデプロイ](#)を参照してください。

プラットフォームのデプロイ

プラットフォームをデプロイするには、CICS Explorer から zFS 内のプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーに CICS プラットフォーム・プロジェクトをエクスポートし、プラットフォーム内で作成したそれぞれの CICS 領域定義に一致するよう CICS 領域をセットアップし、CICSplex SM でプラットフォーム定義 (PLATDEF) を作成してインストールします。

始める前に

プラットフォームの概要については、[仕組み: プラットフォーム](#)を参照してください。このタスクは、以下の項目が既に完了していることを前提としています。

- プラットフォームをどのような構造にするかを決定した。まだの場合は、[プラットフォームのインストール](#)を参照してください。
- zFS にプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーをセットアップした。まだの場合は、[プラットフォーム用の zFS の準備](#)を参照してください。

- CICS Explorer で CICS プラットフォーム・プロジェクトを作成した。まだの場合は、[CICS プラットフォームの作成を参照してください](#)。

また、CICSplex SM データ・リポジトリのサイズが十分であることも確認してください。4 ページの『[対象となるプラットフォームにおいて CICSplex SM データ・リポジトリ \(EYUDREP\) が十分大きいことの確認](#)』を参照してください。

このタスクについて

CICS Explorer でプラットフォームをデプロイしますが、CICS Explorer の外部でいくつかの追加ステップを実行することによって、CICS 領域をセットアップして開始し、CICSplex SM に認識させる必要があります。以下のステップは、手順の概要を示しています。詳細なステップについては、[CICS Explorer 製品資料内の『プラットフォームとアプリケーションの処理』](#)を参照してください。

手順

1. CICS Explorer の CICS クラウド・パースペクティブを使用し、CICS Explorer から zFS 内のプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーに CICS プラットフォーム・プロジェクトをエクスポートします。
エクスポート処理では、CICS プラットフォーム・プロジェクトで参照される CICS バンドルをパッケージ化し、プラットフォーム・バンドルのすべてのファイルと CICS バンドルを zFS のプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーにエクスポートします。エクスポート中に、ウィザードはプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーのサブディレクトリーの有無を検査し、存在しない場合はそれを作成します。プラットフォーム・ディレクトリーの構造について詳しくは、[z/OS UNIX のプラットフォーム・ディレクトリーの構造を参照してください](#)。
2. CICS Explorer を使用してプラットフォーム定義 (PLATDEF) を作成します。この定義で、zFS 内のプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーを指し示し、プラットフォームのターゲット CICSplex を指定します。
プラットフォーム・エクスポート・ウィザード内のボックスをチェックすると、プラットフォーム・プロジェクトをエクスポートした後すぐにプラットフォーム定義を作成する選択が可能です。別の時点でプラットフォーム定義を作成するには、CICS Explorer の「新規プラットフォーム定義 (New Platform Definition)」ウィザードを使用します。
CICSplex SMCMA のデータ・リポジトリ内にプラットフォーム定義が作成されます。
3. プラットフォーム・プロジェクト内の領域タイプで作成した CICS 領域定義ごとに、実際の CICS 領域をセットアップします。新しい CICS 領域をセットアップする代わりに、まだ CICSplex SM によって管理されていない既存の CICS 領域を使用することもできます。
 - a) 作成したシステム定義に一致する APPLID、SYSID、その他の属性を使用して CICS 領域を作成します。ベスト・プラクティスとして、1 つの領域タイプ内の各 CICS 領域が互いの複製になるようにするのが適切です。これを行う手順については、[CICS 領域のセットアップを参照してください](#)。
 - b) CICS 領域に対して一連の手順を実行し、これを管理対象アプリケーション・システム (MAS) として CICSplex SM に認識させます。これを行う方法については、[Setting up a CICSplex SM managed application system \(MAS\)](#) を参照してください。この時点では、まだ CICS 領域を開始しないでください。
4. CICS Explorer を使用して、プラットフォーム定義をインストールします。これにより、ターゲット CICSplex 内にプラットフォームが作成されます。
プラットフォーム定義をインストールすると、CICSplex SM は、そのプラットフォームを表す PLATFORM リソースを CICSplex 内に作成します。さらに、CICSplex SM は、そのプラットフォームに関するレコードをデータ・リポジトリ内に作成します。このレコードは、プラットフォームのバンドルのリカバリー処理で使用されます。
5. 作成された領域タイプの CICS 領域の場合、この時点で通常の方式を使用して領域を始動してから、CICS Explorer の「クラウド・エクスプローラー」ビューをリフレッシュして、プラットフォームの状況が現在 ACTIVE になっていることを確認します。
6. プラットフォームと一緒にデプロイする CICS バンドルがある場合は、プラットフォームを右クリックし、「使用可能」をクリックします。

タスクの結果

プラットフォームがインストールされ、使用可能になりました。

次のタスク

パッケージされたアプリケーションをプラットフォームにデプロイできます。詳しくは、[プラットフォームへのアプリケーションのデプロイ](#)を参照してください。環境を制御するためのポリシーをデプロイすることにより、サービス品質をさらに加えることもできます。詳しくは、[CICS ポリシー](#)を参照してください。

プラットフォームの実行について詳しくは、[プラットフォームおよびアプリケーションの管理](#)を参照してください。

第 2 章 CICSplex SM アドレス・スペース (CMAS) の設定

この手順を行うことで、CICSplex SM アドレス・スペース (CMAS) を操作できるようにします。

CMAS のセットアップ作業を行うときに使用するセットアップ作業の要約は、[CICSplex SM セットアップ・チェックリストおよびワークシート](#)に記載されています。

CMAS のセットアップの前に

初期設定値、リリース間での変更内容、リリース・レベルの互換性、およびシステムに適用する必要がある保守を確認します。

[CICSplex SM 環境の設計](#)で説明されている、CMAS のセットアップに関する考慮事項を確認します。

MVS™ の初期設定に使用する SYS1.PARMLIB の IEASYSxx メンバーをチェックし、インストール中に参照する初期設定値をメモしておいてください。初期設定値の詳細については、[CICSplex SM の IEASYSxx 値の記録](#)を参照してください。

ご使用の CICSplex SM システムを旧リリースから CICSplex SM for CICS TS for z/OS, バージョン 5.6 に移行する場合は、ご使用のレベルの CICSplex SM のアップグレード情報をお読みください。

CICSplex SM CMAS の稼働するシステムは、同じリリース・レベルの CICS システムのみとなります。例えば、CICS TS 5.6 CMAS は CICS TS 5.6 領域でしか実行しません。始動時に、CMAS は CICS のリリース・レベルをチェックし、リリースが一致しない場合はメッセージ EYUXL0142 を出して停止します。管理対象 CICS システムには、同じ制約はありません。

CICSplex SM への修正および予防保守の適用の詳細については、を参照してください。

CMAS の適切な使用法については、[CICSplex SM アドレス・スペース \(CMAS\)](#)にある情報を参照してください。

CICSplex SM 補助記憶域の使用法

CMAS が初期化されると、複数の MVS データ・スペースが作成されます。

CICSplex SM は、これらのデータ・スペースを使用することで、CMAS およびそれに接続された MAS のデータに迅速にアクセスが可能になります。これらのデータ・スペースは、論理的には CMAS に所有されていますが、物理的には ESSD アドレス・スペース (EYUX560) に所有されています。データ・スペースは、データ・スペースを論理的に所有する CMAS と、その CMAS に接続されているすべてのローカル MAS およびバッチ・ジョブが停止すると、削除されます。CMAS が再び初期設定されるとき、データ・スペースが再作成されます。

作成されるデータ・スペースの数は、CMAS の **CACHEDSNUM** 値によって異なります。この設定値は、データ・スペースが 1 つしかないデータ・キャッシュ・マネージャーを除き、各コンポーネントに割り振られるデータ・スペースの数を制御します。したがって、CMAS に必要な SCOPE=ALL データ・スペースの数は、次のように計算できます。

number of SCOPE=ALL data spaces = (9 * CACHEDSNUM) + 1

CACHEDSNUM パラメーターのデフォルト値は 2 で、IBM サポートから指示がない限り、通常はこの値を変更しません。したがって、各 CMAS には通常 19 個の SCOPE=ALL データ・スペースが必要です。

データ・スペースのサイズは、CMAS が実行する作業 (エンド・ユーザー・インターフェース、ワークロード管理、MAS リソース・モニター、およびリアルタイム分析処理など) の量、および CMAS に接続されている MAS の数によって異なります。サイズは、比較的利用度の低い CICSplex SM 構成では 20 MB のストレージ、MAS の数および要求される作業の量ともに複雑な構成では 100 MB 以上のストレージになります。このようなストレージの使用量の増加に対して準備をしておかないと、CICSplex SM の使用を最初に開始したときに補助記憶域が不足することがあります。

このような補助記憶域不足を回避するために、補助記憶域が環境内で 100 MB のストレージの増加に対応できるようにしてください。さらに、外部モニター・パッケージを使用して、CICSplex SM のデータ・スペース使用量をモニターし、EYUX560 ジョブによって使用されるストレージの量を判別することができます。

補助記憶域不足で IBM 担当員に連絡したときに、CICSplex SM オンライン・デバッグ・トランザクション (COD0 および CODB) を使用して EYUX560 のストレージ使用を評価するように求められる場合があります。COD0 トランザクションと CODB トランザクションについては、[対話式デバッグ・トランザクションの使用 \(COD0 および CODB\)](#) を参照してください。

補助記憶域不足が発生した場合は、補助記憶域の容量を動的に増やすか、CICSplex SM に、割り振られたデータ・スペースを解放させることによって問題を緩和できます。

1. 補助記憶域の容量を動的に増やすには、追加のページ・データ・セットを割り振り、次に MVS コンソール・コマンド PAGEADD を使用して、新しいページ・データ・セットを使用可能にします。
2. CICSplex SM に、割り振られたデータ・スペースを解放させるには、まず CMAS に接続されているすべてのローカル MAS の CICSplex SM エージェントを停止します。エージェントを停止するには、各 MAS に対して COSH トランザクションを使用するか、MAS が WUI サーバーの場合は COVC および COSH トランザクションを使用します。

ローカル MAS が CICSplex SM WLM TOR として動作しており、DTR プログラムがその MAS に対して EYU9XLOP として指定されている場合は、その MAS に対して COSH トランザクションを使用する前に、DTR プログラムを EYU9XLOP 以外のものに変更しなければなりません。例えば、IBM デフォルト・プログラムである DFHDYP に変更することができます。

3. すべてのローカル MAS の CICSplex SM エージェントを停止した後、COSD トランザクションを使用して CMAS 自体を停止します。
4. 補助記憶域の容量を増やした後、CMAS を再始動することができます。CICSplex SM エージェントを停止した後、アクティブなままのローカル MAS を再接続するには、これらの CICS 領域内で COLM トランザクションを実行します。

COLM は、CONSOLE から変更コマンドを使用して実行することができます。

総称アラートを IBM Tivoli NetView に送信するための準備

分析中にユーザー定義の条件が 1 つ以上発生した場合は、CICSplex SM のリアルタイム分析 (RTA) コンポーネントから IBM Tivoli® NetView® システムに総称アラートを送信させることができます。

IBM Tivoli NetView システムがアラートを受信する準備ができていることを確認するには、以下の NPDA コマンドを使用します。

```
DFILTER AREC
```

このコマンドにより、イベント・タイプ・レコード IMPD が IBM Tivoli NetView システム内の IBM Tivoli NetView データベースに渡されていることを検証します。

結果のリストには、IMPD および RSLV の ETYPES に対して PASS の ACTION が示されるはずですが。

これらのレコード・タイプをフィルターに追加する必要がある場合は、以下の NPDA コマンドを実行します。

```
SRFILTER AREC PASS E IMPD  
SRFILTER AREC PASS E RSLV
```

IBM Tivoli NetView Alert Receiver の名前がデフォルト値 (NETVALRT) から変更された場合は、CICSplex SM システムのパラメーター ALERTRCVR を使用して必須名を指定することができます。ALERTRCVR パラメーターについて詳細については、[CICSplex SM システム・パラメーター](#) を参照してください。

CMAS を開始する準備

CICSplex SM アドレス・スペース (CMAS) の始動は、MVS システムの IPL 時に行うか、システム・コンソールから実行するか、バッチ・ジョブとして実行できます。

- MVS システムの IPL 時に CMAS を始動するには、以下の手順を実行します。
 - SYS1.PROCLIB などのシステム・プロシージャ・ライブラリーに、CMAS 始動プロシージャがあることを確認します。
 - CMAS の始動プロシージャが、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) の「開始済みタスク (Started Tasks)」テーブルにあることを確認します。
 - SYS1.PARMLIB の IEASYSxx メンバーによって参照される COMMNDaa メンバーを (CICSplex SM の IEASYSxx 値の記録に説明されているように) 変更して、CMAS の START コマンドを組み込みます。
組み込む START コマンドは、28 ページの『CMAS 用 START コマンド』で説明しています。
- システム・コンソールから CMAS を始動するには、以下の手順を実行します。
 - SYS1.PROCLIB などのシステム・プロシージャ・ライブラリーに、CMAS 始動プロシージャがあることを確認します。
 - CMAS の始動プロシージャが、外部セキュリティー・マネージャー (ESM) の「開始済みタスク (Started Tasks)」テーブルにあることを確認します。
 - 28 ページの『CMAS 用 START コマンド』で説明するように、オペレーターに START コマンドを発行させます。
- CMAS をバッチ・ジョブとして始動するには、以下の手順を実行します。
 - SYS1.PROCLIB などのシステム・プロシージャ・ライブラリーに、CMAS 始動プロシージャがあることを確認します。
 - CMAS プロシージャを起動するジョブ・ストリームを構成します。
 - ジョブを実行依頼して CMAS を起動します。

どの方法で CMAS を開始する場合でも、プロシージャが適切なパラメーターを参照していることを確認してください。

- CICS SIT パラメーター (22 ページの『CMAS 関連の CICS システム初期設定パラメーター』に説明されています)。
- CICSplex SM 開始パラメーター (CICSplex SM システム・パラメーターに説明されています)。

CMAS の目的は CICSplex SM 管理対象アプリケーション・システム (MAS) を管理することなので、シスプレックス内のどの MAS よりも高いディスパッチング優先順位を設定して CMAS を実行することが重要です。CMAS は、接続している他の CMAS と通信します。これら通信先の CMAS は、同等のディスパッチング優先順位で実行する必要があります。1つの LPAR 上のある CMAS が、データを受信する必要のある他の CMAS より高速に情報を処理して送信することがないようにするためです。したがって、CMAS ジョブには MVS サービス・クラス SYSSTC を定義してください。そうしないと、CICSplex SM にとって重大なパフォーマンス上の問題が生じる可能性があります。

CMAS を初めて始動した後は、環境に合わせて CMAS を構成する必要があります。この構成には、CMAS を管理する対象の CICSplexes の設定と、この CMAS と別の CMAS 間で必要な通信リンクの設定が含まれます。

CMAS を開始するために使用できるサンプル・プロシージャが、EYUCMASP メンバーに提供されています。このメンバーは、DFHISTAR ジョブを実行したときに生成されたものです。このメンバーは、DFHISTAR ジョブの LIB パラメーターで指定したライブラリーに保管されています。

この CICS 領域に対してデータ・セットを作成する必要があります。CMAS 用の CICS 領域データ・セットを作成するための JCL は、CICSTS56.CPSM.XDFHINST の EYUCMSDS メンバーに提供されています。このメンバーは、DFHISTAR ジョブを実行したときに生成されたものです。

14 ページの図 1 に、追加の CICSplex SM 要件を強調した EYUCMASP プロシージャのセグメントを示します。

```

//EYUCMASP  PROC DSNCSO=CICSTS56.CPSM.CMAS01.DFHCSO, CSD Data Set name
//          DSNLQ=CICSTS56.CPSM.RGNLOAD, CICS Table Module library
//          RGNLQ=CICSTS56.CPSM.CMAS01,          CICS Region DSN qualifier
//          CICSRLQ=CICSTS56.CICS
//          CPSMHLQ=CICSTS56.CPSM
//          ACTHLQ=CICSTS56.CICS
//          PRMLIB=CICSTS56.XDFHINST
//          ACTIVATE=SDFHLIC,
//          CICSPRM=EYUCMSO,          CICS Parameters
//          CPSMPRM=EYUCMSO,          CPSM Parameters
//CICS      EXEC PGM=EYU9XECS,          CMAS Startup program
//          PARM='SYSIN',          CICS Parameters location
//          REGION=OK          Region Size
//*
//STEPLIB  DD DISP=SHR,DSN=&CPSMHLQ..SEYUAUTH
//          DD DISP=SHR,DSN=&CICSRLQ..SDFHAUTH
//          DD DISP=SHR,DSN=&ACTHLQ..SDFHLIC
//DFHRPL   DD DISP=SHR,DSN=&CPSMHLQ..SEYULOAD
//          DD DISP=SHR,DSN=&CICSRLQ..SDFHLOAD
//SYSIN    DD DISP=SHR,DSN=&PRMLIB,(&CICSPRM)
//
//EYULOG   DD SYSOUT=*
//
//EYUDREP  DD DISP=SHR,DSN=CICSTS56.CPSM.EYUDREP.cmasname
//EYUPARM  DD DISP=SHR,DSN=&PRMLIB(&CPSMPRM)

```

図 1. CMAS 特定の JCL 必要条件

14 ページの図 1 に示されたサンプル JCL で、以下のステートメントを検討してください。JCL を以下のように変更したことを確認します。

EXEC PGM=EYU9XECS ステートメント

CMAS を開始し、ESSS の有無を検証するか、ESSS を作成します。CMAS を初期設定するために、CMAS 始動プログラムである EYU9XECS を実行することが必要です。

STEPLIB DD ステートメント

CICSTS56.CPSM.SEYUAUTH 許可ロード・ライブラリー、および必須の SDFHLIC ライセンス・ファイルを組み込みます。

DFHRPL DD ステートメント

CICSTS56.CPSM.SEYULOAD ロード・ライブラリーを組み込みます。CICS リソース定義テーブル・ロード・モジュールを含むロード・ライブラリーを組み込みます。これらを、ユーザー提供のロード・ライブラリーにリンク・エディットする必要があります。そして、このロード・ライブラリーを DFHRPL 連結の中に指定します。

DFHRPL 連結にアプリケーション・ロード・ライブラリーを組み込まないでください。

SYSIN DD ステートメント

CICS システム 初期設定指定変更パラメーターの入ったライブラリー・メンバーを識別します。

EYULOG DD ステートメント

CMAS および関連した管理下アプリケーション・システム (MAS) のメッセージの送信先となるログを識別します。

EYULOG として順次データ・セットを使用する場合は、3 つの 1 次シリンダーと 1 つの 2 次シリンダーを割り振ります。

EYUDREP DD ステートメント

CMAS がデータ・リポジトリとして使用するライブラリーを識別します。cmasname は、DFHISTAR ジョブで CMASNAME パラメーターに指定した名前です。CMASNAME 値は、CICSplex SM データ・リポジトリを作成するために、EYU9XDUT によって使用されます。

EYUPARM DD ステートメント

CICSplex SM システム・パラメーターを含むライブラリーを識別します。

CICSplex SM データ・セットの作成と管理

EYUCMSDS ポストインストール・ジョブを使用して CICSplex SM データ・セットを作成します。
EYUCMSDS ジョブは DFHISTAR ジョブ実行時に生成されます。

CICSplex SM インストール後メンバーには、単純な CICSplex SM 構成を作成する方法が記載されています。
EYUCMSDS ジョブは、DFHISTAR ジョブの LIB パラメーターで指定したライブラリーに保管されています。

代替データ・リポジトリ・ファイル定義 (EYUDREPN) は、ロギングが必要でない状態において CMAS によって使用されます。ロギングをバイパスする現行の機能は、CICSplex をインポートまたは追加します。さらに CICSplex を除去または削除します。これらの状態においてバックアウトは不要です。したがって、ロギングは必須ではありません。EYUDREPN ファイル定義のリカバリー属性を変更しないでください。

EYUDREP ファイル定義は、CMAS の EYU9XLCD によって PLTPI の処理中に自動的に作成され、属性 LSRPOOLID(1) を指定します。CMAS は、LSRPOOL 1 を作成はしません、そして LSRPOOL 1 が存在しない場合には、CICS ファイル制御 DFHFCL は LSRPOOL 1 のサイズを計算し、EYUDREP が CMAS で最初に開くとき、それを動的に作成します。その代わりに、DFHCSD にお客様自身の LSRPOOL 1 の仕様を定義することもできます。お客様自身の LSRPOOL 1 を定義する場合は、CMAS の十分なパフォーマンスを確認するために、LSRPOOL 1 の使用量統計をモニターしてください。

CICSplex SM データ・リポジトリの作成

CMAS 関連データ・セットは、データ・リポジトリです。各 CMAS には、それに関連した固有のデータ・リポジトリが必要です。データ・リポジトリには、関連した CMAS に適用可能な CICSplex SM 管理定義が含まれます。

データ・リポジトリは、CICSplex SM システム管理の重要なコンポーネントです。環境内の各 CMAS に関連した定期的なバックアップを実施する必要があります。

データ・リポジトリは、CICS に対して、SYNCPPOINT 操作および SYNCPPOINT ROLLBACK 操作に使用される リカバリー可能ファイルとして定義されています。CMAS は、これらの操作を正しく機能させるため、CICS システム・ログを必要とします。したがって、タイプ DUMMY として定義されたシステム・ログを使用して CMAS を実行しないでください。このようなシステム・ログで実行すると、CICSplex SM データ・リポジトリのデータ保全性が損なわれます。

データ・リポジトリを含むデータ・セットを作成するには、EYUCMSDS という名前のインストール後ジョブを使用します。

同一の MVS イメージで複数の CMAS を実行する場合は、それぞれの CMAS ごとにデータ・リポジトリを作成しなければなりません。EYUCMSDS インストール後ジョブを生成する DFHISTAR ジョブを編集し、再実行依頼することができます。

カスタマイズした既存のジョブが上書きされないようにするには、11 ページの『第 2 章 CICSplex SM アドレス・スペース (CMAS) の設定』の説明に従って SELECT パラメーターを使用できます。または、DFHISTAR が再実行依頼されないようにする場合、EYUCMSDS ジョブを編集して、ジョブを実行するたびに SYSIDNT および CMASNAME パラメーターに固有の名前が指定されるようにすることができます。

注：DREPCNVT ステップを実行して既存の CMAS DREP を最新のバージョンにアップグレードするには、入力として DREP データ・セットのコピーではなく、それ自体を使用します。そうしない場合、CMAS の再始動時に CMAS 分離の問題が発生する可能性があります。

EYUCMSDS ジョブには、データ・リポジトリの作成に関連する以下のステップが含まれます。

DELDREP

このステップはデータ・リポジトリ・セットを削除します。これはジョブの再実行依頼を可能にします。

DEFDREP

このステップは、次に示すデータ・リポジトリ・データ・セットに VSAM KSDS クラスターを割り振ります。

```
dsindex.EYUDREP.cmasname
```

dsindex

DFHISTAR ジョブの DSINFO パラメーターによって定義されます。

cmasname

DFHISTAR ジョブの CMASNAME パラメーターによって定義されます。

CICSplex SM は、複数の制御間隔にまたがる VSAM レコードをサポートしません。CICSplex SM データ・リポジトリを作成するために使用する IDCAMS ジョブで、SPANNED パラメーターを指定していないことを確認してください。IDCAMs デフォルトである非スパン・レコードを受け入れます。

DREPINIT

このステップは、CICS TS for z/OS, バージョン 5.6 CMAS 用のデータ・リポジトリをセットアップするために使用されます。

DFHISTAR ジョブの実行時に OLDDREP パラメーターに値を指定しなかった場合、EYUCMSDS ジョブで DREPINIT ステップが生成されます。このステップは、EYU9XDUT を実行して、ステップ DREPALLOC で割り振られた新規データ・リポジトリを初期設定します。新規データ・リポジトリに前のバージョンの CICSplex SM のレコードは含まれません。EYU9XDUT ユーティリティでは、ステップ DREPINIT に関する以下のパラメーターが使用されます。

CMASNAME=xxxxxxxx

- データ・リポジトリの初期設定後は、この名前を変更できません。
- この名前は、その CICSplex SM 環境内で固有でなければなりません。別の CMAS、CICSplex、CICS システム、または CICS システム・グループの名前と同じ名前を使用しないでください。
- 先頭の文字は、英字または各国語文字でなければならず、数字であってはなりません。
- 2 から 8 番目の文字は、英字、各国語文字、または数字にすることができます。

SYSID=xxxx

- データ・リポジトリの初期設定後は、この ID を変更できません。
- この値は、CMAS の SYSIDNT (SIT パラメーター) と一致しなければなりません。 [22 ページの『CMAS 関連の CICS システム 初期設定パラメーター』](#)を参照してください。
- この値は、他の CMAS、または CICSplex SM に定義されている CICS システムの SYSID と同じにしてはいけません。
- 4 文字すべては、英字、各国語文字、または数字にすることができます。

TIMEZONE=x

x は、単一の英字 (B から Z、グリニッジ時間帯コードのいずれかを表す) でなければなりません。

ZONEOFFSET=nn

nn は、2 桁の数値 (00 から 59、TIMEZONE への調整 (オフセット) を表す) でなければなりません。

DAYLIGHT=x

x は、単一の文字 (Y または N、夏時間調整時刻を表す) でなければなりません。

DREPINIT ステップでは、EYUXDPRM に DD ステートメントが必要です。これは WUI パラメーターをセットアップします。

WUI=YES|NO

WUI=YES のデフォルトにより、WUI サーバーとその CICSplex の始動に必要な CICSplex SM リソース定義が作成されます。このパラメーターにより、データ・リポジトリの作成時に WUI サーバーとその CICSplex を始動するのに必要なリソース定義を作成できます。WUI を既存のシステムに追加する場合は、EYU9XDBT または BATCHREP ユーティリティを使用します。

WUIAPPLID=xxxxxxxx

xxxxxxxx は、WUI に割り振られる APPLID を指定する、英字、国別文字、または数字でなければなりません。先頭文字は英字または国別文字にする必要があります。WUI=YES が指定されている場合、このパラメーターは必須です。

WUINAME=xxxxxxxx

xxxxxxxx は、WUI に割り振られる名前を指定する、英字、国別文字、または数字でなければなりません。先頭文字は英字または国別文字にする必要があります。WUINAME が指定されていない場合、WUIAPPLID に指定された値を取ります。

WUIPLEX=xxxxxxxx

xxxxxxxx は、WUI CICSplex に割り振られる名前を指定する、英字、国別文字、または数字でなければなりません。先頭文字は英字または国別文字にする必要があります。デフォルトでは、文字 WUIP で始まり、CMSSYSID が続きます。例えば、デフォルトの CMSSYSID である CM01 を使用すると、デフォルトの WUIPLEX 名は WUIPCM01 になります。

WUISYSID=xxxx

xxxx は、WUI システム ID に割り振られる名前を指定する、英字、国別文字、または数字でなければなりません。先頭文字は英字または国別文字にする必要があります。WUI=YES が指定されている場合、このパラメーターは必須です。

DREPCNVT

OLDDREP パラメーターで既存のデータ・リポジトリの名前を指定すると、このステップが生成されます。このステップでは、EYU9XDUT を実行し、CICSplex SM の前のリリースからの既存のデータ・リポジトリ・レコードを変換して CICSplex SM for CICS TS for z/OS, バージョン 5.6 で使用できるようにします。

注: DREPCNVT ステップを実行して既存の CMAS DREP を最新のバージョンにアップグレードするには、入力として DREP データ・セットのコピーではなく、それ自体を使用します。そうしない場合、CMAS の再始動時に CMAS 分離の問題が発生する可能性があります。

パラメーターに指定した入力データ・リポジトリのすべてのレコードが、ステップ DREPALOC で割り振られた新規データ・リポジトリに追加されます。入力データ・リポジトリは変更されていません。EYU9XDUT ユーティリティーでは、ステップ DREPCNVT に関する以下のパラメーターが使用されます。

TARGETVER=0560

0560 は、新規の出力データ・リポジトリのバージョンを表します。

17 ページの『CMAS 関連の CICS システム初期設定パラメーター』を参照してください。

注: EYU9XDUT ユーティリティーは、データ・リポジトリのバックアウトにも使用されます。詳しくは、CICSplex SM のアップグレードを参照してください。

CICSplex SM データ・リポジトリの取り込み

CICSplex SM 提供の抽出ルーチン EYU9BCSD を使用して、入力ファイル内のそれぞれの CSD レコードごとに CICSplex SM リソース定義レコードを生成することができます。

EYU9BCSD からの出力は、データ・リポジトリへのレコード転送に使用されます。

CMAS 関連の CICS システム初期設定パラメーター

EYUCMSSP メンバーは、カスタマイズされていない状態のものが TDFHINST に提供されています。また、DFHISTAR によってカスタマイズされたものが XDFHINST に提供されます。これには、CMAS 用の CICS システム初期設定パラメーターが含まれます。

17 ページの表 1 に、CMAS に関連した CICS システム初期設定パラメーターおよびそのデフォルトの設定値を示します。

1. 表の 2 列目にアスタリスクが記載されている場合は、CMAS を開始する前に、1 列目に示されたパラメーターにユーザー独自の値を提供されます。
2. 表の 2 列目にアスタリスクが記載されていない場合は、パラメーターの値を 1 列目に示されている値を変更しないでください。

表 1. CMAS に関する CICS システム初期設定パラメーター		
パラメーター	ユーザーの値	説明
AIEXIT=DFHZATDX		z/OS Communications Server 端末自動インストール・プログラム。

表 1. CMAS に関する CICS システム初期設定パラメーター (続き)		
パラメーター	ユーザーの値	説明
APPLID=	*	CMAS として動作するこの CICS の z/OS Communications Server アプリケーション ID。NAME(value) が CICSplex SM システム・パラメーターとして指定されていない場合に、CMAS 名として使用されます。
AUXTR=ON		補助トレース - 例外レコード。
AUTORESETTIME=YES		時刻の同期。
AUXTRSW=NEXT		非連続補助トレース切り替え。
CICSSVC=216	*	LPA にインストール済みの CICS SVC。
CPSMCONN=CMAS		この領域を CMAS として初期設定する
CSDACC=READWRITE		CSD への読み取りおよび書き込み更新を可能にする。
CSDRECOV=ALL		CSD 順方向リカバリーおよびバックアウト。
DFLTUSER=CICSUSER	*	非 CESN RACF® ユーザー ID。
DSALIM=5M		16 MB より下の DSA ストレージの制限。5 MB が最小初期値です。
DUMPDS=A	*	トランザクション・ダンプ・データ・セット。
DUMPSW=NEXT	*	次のトランザクション・ダンプ・データ・セットへの切り替え。
EDSALIM=800M		16 MB より上で 2 GB より下の EDSA ストレージの制限。追加情報については、27 ページの『 CMAS における CICS ストレージの制御 』を参照してください。
FCT=NO		ファイル制御テーブルなし。
GMTEXT='CICSplex System Manager CICS Transaction Server for z/OS'	*	デフォルト・ログオン・メッセージ。
GRPLIST=DFHLIST		CICS グループ・リスト。追加情報については、動的に作成された CICSplex SM の CICS リソース定義のオーバーライド を参照してください。
ICV=100		領域終了間隔。
ICVR=20000		ランナウェイ・タスク・インターバル。小規模なプロセッサで実行され、BAS を通して多数のリソースが定義されている CMAS の場合は、この値をおよそ 90000 まで増やすことができます。
ICVTS=0		端末スキャン遅延インターバル。
INTTR=ON		主記憶装置トレースをアクティブにします。
IRCSTRT=YES		システム 初期設定時の IRC 始動。
ISC=YES		初期設定時の領域間通信またはシステム間連絡に必要なロード・プログラム。
MXT=500		存在する最大タスク数。追加情報については、27 ページの『 CMAS における CICS ストレージの制御 』を参照してください。

表 1. CMAS に関する CICS システム初期設定パラメーター (続き)		
パラメーター	ユーザーの値	説明
PSTYPE=NOPS		CMAS の持続セッションなし
RENTPGM=PROTECT		CICS が読み取り専用キー 0 の保護ストレージから ERDSA を割り振ることを指定します。
SEC=NO	*	<p>この CMAS のために CICS 外部セキュリティ検査を実行するかどうかを示します。CICS セキュリティー検査は、EYUPARM DD で指定されている CICSplex SM 外部セキュリティ検査 (これは CICSplex SM SEC システム・パラメーターで制御される) に依存していません。CMAS 用の SEC CICSplex SM システム・パラメーターについては、CICSplex SM システム・パラメーターを参照してください。</p> <p>CICS 外部セキュリティ検査のシステム初期設定パラメーターは、通常の方法で他の CICS セキュリティー関連のオプション (例、XTRAN および XCMD) とともに指定することができます。</p> <p>CICS コマンドまたはリソース・セキュリティは、CMAS では適切ではありません。XTRAN システム初期設定パラメーターは、一般的に、CMAS で使用されるさまざまな CICSplex SM トランザクションへのアクセスを制御するために使用されます。</p> <p>CICSplex SM 提供のトランザクション定義に、CMDSEC=YES または RESSEC=YES を持つものはありません。この定義を変更する場合、あるいは CMDSEC=ALWAYS または RESSEC=ALWAYS システム初期設定パラメーターが CMAS で設定される場合、CICSplex SM トランザクションが NOTAUTH 応答を受信すると、結果は予測不能なものとなります。</p>
SIT=6\$		システム初期設定テーブル接尾部。
SPOOL=YES		システム・スプーリング・インターフェース。CICSplex SM バッチ・リポジトリ更新機能を使用する場合に必要です。
START=AUTO		<p>通常は START=AUTO を指定して、CICS 初期設定プログラムに、実行する始動タイプを決定させることができます。</p> <p>CMAS の初回の始動時は、必ず CICS グローバル・カタログ式データ・セットとローカル・カタログ式データ・セットを新たに初期設定してください。DFHRMUTL および DFHCCUTL をそれぞれ使用します (DFHRMUTL の SET_AUTO_START パラメーターで AUTOINIT を使用)。これにより、CMAS が確実に初期始動を行い、必要な CICS リソース定義がインストールされ、CMAS-CMAS 接続が確立されます。</p> <p>その後、DFHRMUTL を使用して AUTOINT または AUTOCOLD のいずれかを指定し、グローバル・カタログ式データ・セットをリセットすることにより、CMAS の始動タイプを変更できます。詳しくは、32 ページの『CMAS の再始動』を参照してください。</p>

表 1. CMAS に関する CICS システム初期設定パラメーター (続き)		
パラメーター	ユーザーの値	説明
SYSIDNT=	*	CICS システム ID。SYSIDNT 値は、EYUDREP DD ステートメントによって参照されるデータ・リポジトリの初期設定に使用した EYU9XDUT SYSID パラメーター値と一致しなければなりません。
SYSTR=OFF		システム・アクティビティー・トレースなし。
TCT=NO		端末管理テーブル不要。
TST=NO		一時記憶域テーブル不要。
USERTR=ON		ユーザー・トレース機能を使用可能にする。
WRKAREA=2048		共通作業域のバイト数。
XAPPC=NO		APPC セッションの RACF 検査。
XCMD=NO		CMAS の場合、CICS コマンドに NO を指定する必要があります。
XDB2=NO		Db2 [®] リソースの RACF 検査。
XDCT=NO		一時データ・キューの RACF 検査。
XFCT=NO		CMAS の場合、ファイルに NO を指定する必要があります。
XHFS=NO		z/OS UNIX ファイルへの Web クライアント・アクセスのセキュリティ検査。CMAS の場合、XHFS=NO を指定する必要があります。
XJCT=NO		ジャーナルの RACF 検査。
XPCT=NO		CMAS の開始済みトランザクションは NO でなければなりません。
XPPT=NO		CMAS の PPT エントリーは NO でなければなりません。
XPSB=NO		DL/I PSB の RACF 検査。
XRES=NO		CICS 文書テンプレートの RACF 検査。
XRF=NO		XRF サポートなし。拡張回復機能 (XRF) はサポートされていません。これは、CMAS が MVS データ・スペースを使用する方法によるものです。
XTRAN=NO		トランザクション接続の RACF 検査。
XTST=NO		一時記憶域キューの RACF 検査。

CICSplex SM データ・リポジトリの拡張

CICSplex SM データ・リポジトリがいっぱいになり、拡張が必要になる可能性があります。CICSplex SM データ・リポジトリを拡張するには、IDCAMS ユーティリティの REPRO 機能を使用します。この JCL の例は、CICSTS56.CPSM.SEYUSAMP ライブラリーの EYUJXDRP メンバーにあります。

JCL 内の RECORDS(xx,yy) ステートメント上で、自分の環境にとって適切な 1 次 (xx) および 2 次 (yy) の値を指定します。初期値は 500 と 3000 です。

CICSplex SM データ・リポジトリのバックアップを取る

CICSplex SM データ・リポジトリは、CICS に対して EYUDREP という名前の VSAM ファイルとして定義されます。このデータ・セットは CICS ファイル制御を介してアクセスされるため、災害時リカバリー目

的で VSAM データ・セットのバックアップを取る場合の CICS 標準のすべての方法を、データ・リポジトリに対して使用できます。

以下の方法で、データ・リポジトリのコピー、およびデータ・セット障害後のデータ・リポジトリの復元を行います。

- HSM、または DSS、あるいは他のユーティリティーを使用して、関連した CMAS が実行していないときにコピーを取ります。並行コピー手法を使用すると、リポジトリが使用不可になる時間を短縮することができます。
- HSM または DSS を使用して、関連した CMAS の実行中にオープン時バックアップ技法を用いてコピーを取ります。このとき並行コピー技法を併用すると、オープン時バックアップを使用しやすくなります。このプロシージャには、順方向リカバリー・ログが必要です (21 ページの『データ・リポジトリの順方向リカバリー・ログの定義』を参照してください)。
- HSM または DSS を使用して、データ・セット障害後にデータ・セットを復元します。
- CICS VSAM Recovery (CICS/VR) などの順方向リカバリー製品を使用して、最新のコピーを取った後でデータ・セットに行われた更新を再適用します。このプロシージャには順方向リカバリー・ログが必要です。
- 災害時リカバリーの目的でリモート・サイトにあるデータ・セットの最新コピーが必要な場合は、リモート・サイト・リカバリー技法を使用します。そのためには順方向リカバリー・ログが必要です。

データ・リポジトリの順方向リカバリー・ログの定義

データ・リポジトリは、EYUDREP という名前の VSAM ファイルとして CMAS に定義します。

CICSplex SM には、関連した順方向リカバリー・ログを持たず、したがって順方向リカバリーには適格ではないものとしてこのファイルを定義した、デフォルトの定義があります。

順方向リカバリーを使用する場合、ジャーナル・ログ・ストリームが必要となります。CICS ログ・ストリームの定義と設定については、[順方向リカバリー・ログで使用するログ・ストリームの計画](#)で説明されています。

順方向リカバリー、オープン時バックアップ、またはリモート・サイト・リカバリーを使用する場合は、EYUDREP の定義を変更します。EYUDREP の定義で以下のキーワードを指定し、順方向リカバリー・ログを持つように定義します。

```
RECOVERY(ALL)
FWDRECOVLOG(nn)
```

nn は 1 から 99 までの数値です。

これを行う方法の例については、[動的に作成された CICSplex SM の CICS リソース定義のオーバーライド](#)を参照してください。

EYUDREP のデフォルト定義も、リポジトリをオープン時バックアップに対して適格であると定義していません。リポジトリをオープン時バックアップに対して適格にするには、以下のキーワードを指定します。

```
RECOVERY(ALL)
FWDRECOVLOG(nn)
BACKUPTYPE(DYNAMIC)
```

ここで、nn は 1 から 99 までの数値です。

DEFINE FILE の RECOVERY、FWDRECOVLOG、および BACKUPTYPE パラメーターについては、[FILE 属性](#)で説明しています。

1. RECOVERY、FWDRECOVLOG および BACKUPTYPE 以外の EYUDREP の定義にあるキーワードは変更しないでください。さらに、RECOVERY(NONE) は設定しないでください。RECOVERY(NONE) を設定すると、トランザクション障害または CMAS 障害の後にリポジトリが破壊される場合があります。
2. EYUDREP FILE 定義のリカバリー・オプションは変更しないでください。この定義は、データ・リポジトリ・ファイル操作がロギングを必要としないものと、CICSplex SM が判断したときに使用されます。CMAS の初期設定時に EYUDREP に対する LSR プール・メッセージが表示されますが、これは正

常なので無視してください。CICS JCL に EYUDREPN の DD ステートメントがないことを確認してください。また、EYUDREPN をデータ・セット名に関連付けないでください。

3. CICSplex SM データ・リポジトリ初期設定が失敗して (メッセージ EUIXD0105E により報告されるとおり)、バッチ・バックアウトを必要とする EYUDREP データ・セットにある場合 (例えば、CICS によりメッセージ DFHFC0921 が送出される)、EYUDREP データ・セットに対する CICS バックアウト必須状況をリセットするためには、このデータ・セットをリカバリーしてから、CMAS ローカルおよびグローバル・カタログを削除して再定義しなければなりません。
4. ICF カタログ内の IDCAMS DEFINE CLUSTER 定義による CICSplex SM データ・リポジトリ・データ・セットのオープン時バックアップの要求はサポートされていません。

CICSplex SM システム・パラメーターの編集

CICSTS56.CPSM.XDFHINST または TDFHINST データ・セットの EYUCMSOP メンバーには、CMAS 用のサンプル・パラメーターが含まれています。このメンバーは、編集する必要があります。

CICSplex SM システム・パラメーターには、各パラメーターの詳細が示されています。

CMAS が、セキュリティがアクティブな MAS (MAS に対する CICS システム 初期設定パラメーターが SEC=YES) に接続する場合は、CMAS で CICSplex SM セキュリティがアクティブでなければなりません。CICSplex SM セキュリティが CMAS でアクティブにされていない場合、CMAS と MAS の間の接続は、確立できません。この接続を試みると、コンソール、CMAS ジョブ・ログ、および CMAS EYULOG に以下のメッセージが発行されます。

```
EYUCR0007E Security mismatch between CMAS cmasname and
MAS masname. Connection terminating.
```

CMAS で CICSplex SM セキュリティをアクティブにするには、CICSplex SM システム・パラメーター SEC(YES) を指定します。デフォルトは、SEC(NO) です。CMAS に対して CICS システム 初期設定パラメーターで SEC=YES を指定しても、CICSplex SM セキュリティには影響しません。

CMAS 関連の CICS システム初期設定パラメーター

EYUCMSSP メンバーは、カスタマイズ前のものが TDFHINST に、そして DFHISTAR によるカスタマイズ後のものが XDFHINST に提供されます。このメンバーには、CMAS 用の CICS システム 初期設定パラメーターが含まれています。

22 ページの表 2 に、CMAS に関連した CICS システム 初期設定パラメーターおよびそのデフォルトの設定値を示します。

- 表の 2 列目にアスタリスクが記載されている場合は、CMAS を開始する前に、1 列目に記載されているパラメーターにユーザー独自の値を提供する必要があります。
- 表の 2 列目にアスタリスクが記載されていない場合は、1 列目に記載されているパラメーターの値を変更しないでください。

表 2. CMAS に関する CICS システム初期設定パラメーター		
パラメーター	ユーザーの値	説明
AIEXIT=DFHZATDX		z/OS Communications Server 端末自動インストール・プログラム。
APPLID=	*	CMAS として動作するこの CICS の z/OS Communications Server アプリケーション ID。 NAME(value) が CICSplex SM システム・パラメーターとして指定されていない場合に、CMAS 名として使用されます。
AUXTR=ON		補助トレース例外レコード。
AUTORESETTIME=IMMEDIATE		時刻の同期。

表 2. CMAS に関する CICS システム初期設定パラメーター (続き)		
パラメーター	ユーザーの値	説明
AUXTRSW=NEXT		非連続補助トレース切り替え。
CICSSVC=216	*	LPA にインストール済みの CICS SVC。
CPSMCONN=CMAS		この領域を CMAS として初期設定する
CSDACC=READWRITE		CSD への読み取りおよび書き込み更新を可能にする。
CSDRECOV=ALL		CSD 順方向リカバリーおよびバックアウト。
DFLTUSER=CICSUSER	*	非 CESN RACF ユーザー ID。
DSALIM=5M		16 MB より下の DSA ストレージの制限。5 MB が最小初期値です。
DUMPDS=A	*	トランザクション・ダンプ・データ・セット。
DUMPSW=NEXT	*	次のトランザクション・ダンプ・データ・セットへの切り替え。
EDSALIM=800M	*	16 MB より上で 2 GB より下の EDSA ストレージの制限。詳しくは、 27 ページの『CMAS における CICS ストレージの制御』 を参照してください。
FCT=NO		ファイル制御テーブルなし。
GMTEXT='CICSplex System Manager CICS Transaction Server for z/OS'	*	デフォルト・ログオン・メッセージ。
GRPLIST=DFHLIST		CICS グループ・リスト。詳しくは、動的に作成された CICSplex SM の CICS リソース定義のオーバーライドを参照してください。
ICV=100		領域終了間隔。
ICVR=20000		ランナウェイ・タスク・インターバル。小規模なプロセッサで実行され、BAS を通して多数のリソースが定義されている CMAS の場合は、この値をおよそ 90000 まで増やすことができます。
ICVTSD=0		端末スキャン遅延インターバル。
INTTR=ON		主記憶装置トレースをアクティブにします。
IRCSTRT=YES		システム 初期設定時の IRC 始動。
ISC=YES		初期設定時の領域間通信またはシステム 間連絡に必要なロード・プログラム。
MXT=500		存在する最大タスク数。追加情報については、 27 ページの『CMAS における CICS ストレージの制御』 を参照してください。
PSTYPE=NOPS		CMAS の持続セッションなし。
RENTPGM=PROTECT		CICS が読み取り専用キー 0 の保護ストレージから ERDSA を割り振ることを指定します。

表 2. CMAS に関する CICS システム初期設定パラメーター (続き)		
パラメーター	ユーザーの値	説明
SEC=NO	*	<p>この CMAS のために CICS 外部セキュリティ検査を実行するかどうかを示します。CICS セキュリティ検査は、EYUPARM DD で指定されている CICSplex SM 外部セキュリティ検査 (これは CICSplex SM SEC システム・パラメーターで制御される) に依存していません。CMAS 用の SEC CICSplex SM システム・パラメーターについては、CICSplex SM システム・パラメーターを参照してください。</p> <p>CICS 外部セキュリティ検査のシステム初期設定パラメーターは、通常の方法で他の CICS セキュリティ関連のオプション (例、XTRAN および XCMD) とともに指定することができます。</p> <p>CICS コマンドまたはリソース・セキュリティは、CMAS では適切ではありません。XTRAN システム初期設定パラメーターは、一般的に、CMAS で使用されるさまざまな CICSplex SM トランザクションへのアクセスを制御するために使用されます。</p> <p>CICSplex SM 提供のトランザクション定義に、CMDSEC=YES または RESSEC=YES を持つものはありません。この定義を変更する場合、あるいは CMDSEC=ALWAYS または RESSEC=ALWAYS システム初期設定パラメーターが CMAS で設定される場合、CICSplex SM トランザクションが NOTAUTH 応答を受信すると、結果は予測不能なものとなります。</p>
SIT=6\$		システム初期設定テーブル接尾部。
SPOOL=YES		システム・スプーリング・インターフェース。CICSplex SM バッチ・リポジトリ更新機能を使用する場合に必要です。
START=AUTO		<p>通常は START=AUTO を指定して、CICS 初期設定プログラムに、実行する始動タイプを決定させることができます。</p> <p>CMAS の初回の始動時は、必ず CICS グローバル・カタログ式データ・セットとローカル・カタログ式データ・セットを新たに初期設定してください。DFHRMUTL および DFHCCUTL をそれぞれ使用します (DFHRMUTL の SET_AUTO_START パラメーターで AUTOINIT を使用)。これにより、CMAS が確実に初期始動を行い、必要な CICS リソース定義がインストールされ、CMAS-CMAS 接続が確立されます。</p> <p>その後、DFHRMUTL を使用して AUTOINT または AUTOCOLD のいずれかを指定し、グローバル・カタログ式データ・セットをリセットすることにより、CMAS の始動タイプを変更できます。詳しくは、32 ページの『CMAS の再始動』を参照してください。</p>
SYSIDNT=	*	CICS システム ID。SYSIDNT 値は、EYUDREP DD ステートメントによって参照されるデータ・リポジトリの初期設定に使用した EYU9XDUT SYSID パラメーター値と一致しなければなりません。

表 2. CMAS に関する CICS システム初期設定パラメーター (続き)		
パラメーター	ユーザーの値	説明
SYSTR=OFF		システム・アクティビティー・トレースなし。
TCT=NO		端末管理テーブル不要。
TST=NO		一時記憶域テーブル不要。
USERTR=ON		ユーザー・トレース機能を使用可能にする。
WRKAREA=2048		共通作業域のバイト数。
XAPPC=NO		APPC セッションの RACF 検査。
XCMD=NO		CMAS の場合、CICS コマンドに NO を指定する必要があります。
XDB2=NO		Db2 リソースの RACF 検査。
XDCT=NO		一時データ・キューの RACF 検査。
XFCT=NO		CMAS の場合、ファイルに NO を指定する必要があります。
XHFS=NO		z/OS UNIX ファイルへの Web クライアント・アクセスのセキュリティ検査。CMAS の場合、XHFS=NO を指定する必要があります。
XJCT=NO		ジャーナルの RACF 検査。
XPSB=NO		DL/I PSB の RACF 検査。
XRES=NO		CICS 文書テンプレートの RACF 検査。
XRF=NO		XRF サポートなし。拡張回復機能 (XRF) はサポートされていません。これは、CMAS が MVS データ・スペースを使用する方法によるものです。
XTRAN=NO		トランザクション接続の RACF 検査。
XTST=NO		一時記憶域キューの RACF 検査。

CMAS におけるタスクの制御

CMAS での操作の多くは、特に CMAS ネットワークの CMAS 間で行われる多くのタスクなど、複数の非同期タスクによって実行されます。

データ・リポジトリ同期化、ワークロード管理状態共用および単一システム・イメージなどの操作を行った結果として、相互に依存する多数の非同期タスクが確立または使用されて要求が実行される場合があります。使用できるタスクの数は、その他の要因、例えば、CMAS ネットワークのサイズ、管理されている MAS の数、定義される CICSplex の数、実行される API 活動の量、WUI/API/RTA 要求の有効範囲、および CICSplex SM によって提供されるすべての主要な機能によって左右されます。

CMAS 自体でそのタスク処理モデルを調整することができ、タイムアウト機構により遅延要求および遅延応答に対する許容性がありますが、最大ユーザー・タスク (MXT) は、相互に依存するマルチタスク非同期タスク処理モデルの制御には適用されません。適切に設定しないと、要求された機能の実行に必要な 1 つ以上の非同期タスクが MXT スロットを待機していることで遅れている場合に、WUI ハングが長時間に渡り生じる場合があります。タスク接続での遅延を回避するには、MXT を設定します。

CMAS におけるタスク使用量は、API 使用の増加、CMAS の増加、MAS の増加、新規機能の使用といった追加の要件によって増えていくため、MXT 値は MXT 遅延の回避が続けられるレベルに設定します。

各 CMAS 内のタスク・アクティビティーに対するその関係についての MXT 値を、定期的な間隔でモニターします。CMAS が MXT の遅延を経験し始めたら、遅延を避けるため MXT 値を調整します。

個々の CMAS 内のタスク処理アクティビティをモニターするには、ホストとして働く CMAS の基礎になっている CICS システムによって生成される統計を収集し、検討します。CICS トランザクション・マネージャーのグローバル統計には、タスク接続での MXT 値がもつ効果に関する情報が含まれています。

CMAS データ・セットの作成とカスタマイズ

DFHISTAR では、DFHISTAR ジョブを実行依頼するときに設定するパラメーターに従って、CMAS データ・セットの作成とカスタマイズができます。

CMAS 用の DFHISTAR インストール後メンバー

SCOPE を POST または ALL にして DFHISTAR を実行すると、CMAS 用の以下のインストール後メンバーが XDFHINST ライブラリーに作成されます。

- EYUCMSDS - CMAS 用のすべてのデータ・セットの作成と初期設定を行います。EYUCMSDS には、必要に応じてジョブを再実行できるよう、データ・セットの削除を行うステップも含まれています。これらの削除は、最初にジョブを実行するときには失敗することが预期されています。EYUCMSDS には以下のステップが含まれています。
 1. DELDREP と DEFDREP は、新規 CMAS データ・リポジトリの削除と定義を行います。
 2. DFHISTAR OLDDREP パラメーターを指定していない場合には、DREPINIT が組み込まれます。これは、EYU9XDUT ユーティリティを使用して、新規 CMAS データ・リポジトリを初期設定します。EYU9XDUT は、CMAS を定義するためのレコードをデータ・リポジトリに作成するとともに、デフォルトで WUI CICSplex を作成します。DFHISTAR WUI=NO オプションを指定している場合、WUI CICSplex は作成されません。
 3. DFHISTAR OLDDREP パラメーターを使用して既存のデータ・リポジトリの名前を指定している場合は、DREPCNVT が組み込まれます。これは、既存のリポジトリのすべてのレコードを CICS TS for z/OS, バージョン 5.6 リリースに適合するフォーマットにアップグレードし、新規データ・リポジトリにコピーします。
 4. DELREGDS が CICS データ・セットを削除します。
 5. DEFTRACE が CICS 補助トレース・データ・セット DFHAUXT および DFHBUXT を定義します。
 6. DEFHTML が CICS DFHHTML データ・セットを定義します。
 7. DEFDMPS が CICS トランザクション・ダンプ・データ・セット DFHDMPA および DFHDMPB を定義します。
 8. DEFTSTD が CICS 補助一時記憶域データ・セット DFHTEMP を定義します。
 9. DEFINTD が CICS 区画内一時データ・セット DFHINTRA を定義します。
 10. DEFLCD が CICS ローカル・カタログ DFHLCD を定義します。
 11. INITLCD が、CICS ローカル・カタログを初期設定するために DFHCCUTL ユーティリティを使用します。
 12. DEFGCD が CICS グローバル・カタログ DFHGCD を定義します。
 13. INITGCD が、CICS グローバル・カタログを初期設定するために DFHRMUTL ユーティリティを使用します。
 14. DEFLRQ が CICS ローカル要求キュー・データ・セット DFHLRQ を定義します。
 15. DFHISTAR JES=JES3 オプションを指定する場合は、JES3DELA および JES3DELB が組み込まれます。これらは、CICS DFHCSD データ・セットの削除と定義を行います。
 16. DELCSD が CICS DFHCSD データ・セットを削除します。
 17. DEFCSD が CICS DFHCSD データ・セットを定義します。
 18. INITCSD が、DFHCSD データ・セットを初期設定するために DFHCSDUP ユーティリティを使用します。
- EYUCMSSP - CMAS の CICS システム 初期設定の指定変更値。
- EYUCMSOP - CMAS 用の EYUPARM パラメーター。

- EYUCMASP - CMAS を開始します。
- EYUCMASJ - CMAS を開始するための JCL。EYUCMASP を実行します。

CICSplex SM パラメーターのデフォルト値を使用する場合、EYUCMASP PROC ステートメントは次に示されているサンプル・コードのようになります。

```
EYUCMASP PROC DSNCSO='CICSTS56.CPSM.CMAS01.DFHCSO',
            RGNHLQ='CICSTS56.CPSM.CMAS01',
            CICSHLQ='CICSTS56.CICS',
            CPSMHLQ='CICSTS56.CPSM',
            PRMLIB='CICSTS56.XDFHINST'
            ACTHLQ=CICSTS56.CICS
            ACTIVATE=SDFHLIC,
            CICSPRM=EYUCMSSP,
            CPSMPRM=EYUCMSOP
```

CICS Parameters
CPSM Parameters

DFHISTAR を使用したインストール後ジョブのカスタマイズ

DFHISTAR を使用して、異なる CMAS 用の CMAS インストール後ジョブのコピーを生成することができます。DFHISTAR には、インストール後ジョブのコピーの新規名を指定することのできる、SELECT パラメーターがあります。形式は次のとおりです。

```
SELECT jobname newname
```

jobname

再生成するジョブの名前です。

newname

新規コピーの名前です。

複数の SELECT パラメーターを指定し、DFHISTAR ジョブの単一の実行で再生成する複数のジョブを選択することができます。いったん DFHISTAR ジョブに SELECT パラメーターを組み込むと、SELECT に指定したジョブだけが生成されます。

CMAS の名前が CMAS02 で、CICS システム ID が CM02 の場合、DFHISTAR パラメーターを変更して次の値を指定することができます。

```
CMASNAME CMAS02
CMSSYSID CM02
WUI YES
WUIPLEX WUIPCM02
WUINAME WUINCM02
WUISYSID WU02
SELECT EYUCMSDS CM02CMDS
SELECT EYUCMSSP CM02CMSP
SELECT EYUCMSOP CM02CMOP
```

JCL to create the data sets for CMAS02
CICS SIT overrides for CMAS02
CICSplex SM EYUPARM parameters for CMAS02

これらのパラメーターを使用すると、WUIPCM02 という CICSplex 内の WUINCM02 と呼ばれる WUI の定義により CMAS データ・リポジトリを初期設定するためのステップが CM02CMDS に組み込まれます。それから、プロシーチャー EYUCMASP を使用して、次のパラメーターを指定することにより、CMAS CMAS02 を開始することができます。

```
START EYUCMASP, DSNCSO='CICSTS56.CPSM.CMAS02.DFHCSO',
            RGNHLQ='CICSTS56.CPSM.CMAS02', CICSHLQ='CICSTS56.CICS',
            CPSMHLQ='CICSTS56.CPSM', PRMLIB='CICSTS56.XDFHINST'
            ACTHLQ=CICSTS56.CICS
            ACTIVATE=SDFHLIC, CICSPRM=CM02CMSP, CPSMPRM=CM02CMOP
```

EYUCMASJ を使用して WUI を開始する場合、これを編集して次の値を指定します。

```
CICSPRM=CM02CMSP, CPSMPRM=CM02CMOP
```

CMAS における CICS ストレージの制御

CICSplex SM アドレス・スペース (CMAS) は、MVS データ・スペースのストレージと、CMAS のホストである CICS システムが提供するストレージをともに使用します。EDSALIM 値を設定して、CMAS での CICS ストレージの使用量をモニターすることで、CMAS が効率よく動作するようにします。

CMAS は、管理対象アプリケーション・システム (MAS) の管理および制御専用の特殊アプリケーションです。CMAS は標準のタスク・モデルを持たず、MVS データ・スペースのストレージを大量に使用します。しかし、CMAS のホストとなる CICS システムが提供するストレージも使用します。

相互に依存するマルチタスク非同期タスク処理モデルでは、タスクと実行中の機能との間の通信のため、CMAS は共用ストレージを使用します。また、CMAS の要件によっては、CMAS-CMAS および CMAS-MAS リンクを使用してバッファ要求と応答を送信するため、共用ストレージを大量に使用します。CMAS のホストである CICS システムは、この共用ストレージを管理します。

CMAS に追加の要件が加わると、その CICS ストレージ使用量は増加します。例えば、API 使用の増加、CMAS の増加、MAS の増加、CMAS-CMAS ネットワーク・トラフィックの増加、および新しい機能の使用により、CICS ストレージの使用量が増加します。

拡張動的ストレージ域 (EDSA) 全体の制限は、EDSALIM 値により指定されます。EDSALIM には、動作を妨げることのない十分なストレージが CMAS に提供されるように値を設定します。特に、CMAS-CMAS および CMAS-MAS ネットワーク・トラフィック用に十分なストレージを設けることは、CMAS の通信リンクで大量のデータが配布待ちである場合があることから、WUI の応答時間にとって重要となります。

各 CMAS 内のストレージ使用に対するその効果についての EDSALIM 値を、定期的な間隔でモニターします。CMAS でストレージ不足 (SOS) やストレージのフラグメント化が発生するか、またはこのような状態の傾向がある場合は、CMAS のストレージ要件に合うように、EDSALIM 値を大きくします。64 KB の最大フリー域より下でストレージのフラグメント化が起こると、スループットおよび応答時間に悪影響が生じます。

個々の CMAS 内のストレージ使用をモニターするには、CMAS CICS システムによって生成される統計を収集し、検討します。CICS ストレージ・マネージャーのグローバル統計には、CICS がホストとして働く CMAS による、CICS ストレージの全体的使用量の情報が含まれています。

CMAS 用 START コマンド

CMAS の開始に使用できるコマンドの構文には、以下に説明されています。

```
START procname [,DSNCSD=dsn][,RGNHLQ=idx][,CICSHLQ=idx] [,CPSMHLQ=idx] [,PRMLIB=lib]
[,CICSPRM=mem][,CPSMPRM=mem]
```

procname

1 から 8 文字のプロシージャーの名前です。EYUCMASP はサンプル・プロシージャーの名前です。カスタマイズされていない状態のものが TDFHINST ライブラリーに提供されています。また、DFHISTAR によってカスタマイズされたものが XDFHINST ライブラリーに提供されます。

DSNCSD=dsn

CMAS 用の CSD ファイルの入ったデータ・セットの名前を指定します。

RGNHLQ=idx

この CMAS に固有の DFHxxxx データ・セットとともに使用する高位修飾子を指定します。

CICSHLQ=idx

SDFHAUTH および SDFHLOAD ライブラリーとともに使用する高位修飾子を指定します。

CPSMHLQ=idx

SEYUAUTH および SEYULOAD ライブラリーとともに使用する高位修飾子を指定します。

PRMLIB=idx

CICSPRM および CPSMPRM によって識別されるメンバーの含まれているライブラリーの名前を指定します。

CICSPRM=mem

CICS システム 初期設定パラメーターを含むメンバーを識別します。EYUCMSSP サンプルは、カスタマイズされていない状態のものが TDFHINST ライブラリーに提供されており、DFHISTAR によってカスタマイズされたものが XDFHINST ライブラリーに提供されます。

CPSMPRM=mem

CICSplex SM システム・パラメーターを含むメンバーを識別します。EYUCMSOP サンプルは、カスタマイズされていない状態のものが TDFHINST ライブラリーに提供されており、DFHISTAR によってカスタマイズされたものも XDFHINST ライブラリーに提供されます。

CMAS ジャーナリング

CMAS では、CICSplex でのさまざまなアクティビティを追跡するための CICS ジャーナル・レコードを作成できます。これらのジャーナル・レコードによって、データのリカバリーや、CICSplex に影響を与えるイベントの再構築に役立つ監査記録が提供されます。

ジャーナル・レコードは、以下の状況で作成されます。

- データ・リポジトリ内の定義が追加、削除、または更新されたとき
- MAS に対して操作アクションが発行されたとき
- リアルタイム分析イベントが生成されたとき

ジャーナル・レコードは 32 KB バッファに格納され、バッファがいっぱいになったとき、または CICS 領域の通常シャットダウンが開始されたときに、対応するログ・ストリームにフラッシュされます。

CICS 領域がアクティブなままのときにバッファをログ・ストリームにフラッシュするには、**EXEC CICS** インターフェースまたは CECI トランザクションを使って **WRITE JOURNALNAME** コマンドに **WAIT** オプションを指定します。

1 つまたは複数のレコード・タイプを要求するには、CMAS の始動 JCL 内に適切な CICSplex SM システム・パラメーターを指定してください。

JRNLDEFCH(YES)

データ・リポジトリ定義変更の場合

JRNLOPACT(YES)

操作アクションの場合

JRNLRTAEV(YES)

リアルタイム分析イベントの場合

これらのパラメーターの詳細については、[CICSplex SM システム・パラメーター](#)を参照してください。

EYUJRNL デフォルト・ログ・ストリーム名を使用したくない場合は、CSD で、適切なログ・ストリーム名を含む JOURNALMODEL リソースを定義してください。

- JOURNALMODEL リソース定義を CMAS 初期設定中に使用できるようにするには、CSD グループ・リストに JOURNALMODEL リソース定義を組み込みます。システム初期設定 GRPLIST パラメーターを使用して、このグループ・リストを CMAS 始動に組み込みます。
- JOURNALMODEL リソースを CSD に追加するには、サンプル・メンバー `CICSTS56.CPSM.SEYUSAMP(EYUJRNE$)` に含まれる JCL を編集および実行して、バッチ・ユーティリティー `DFHCSDUP` を実行するか、CICS CEDA トランザクションを使用してください。
- また、新規のグループ・リストを参照するように GRPLIST パラメーターを設定することによって、CMAS の始動に使用される CICS システム初期設定パラメーターも変更しなければなりません。

CMAS によって作成されたジャーナル・レコードには、EYUBCPJR という名前の DSECT によってマップされたデータが含まれます。各レコードは、標準の接頭部と変数データ域から構成されています。データ域の内容は、作成されているジャーナル・レコードのタイプに固有のものです。

[31 ページの図 2](#) は、EYUBCPJR の形式を示しています。

```

*-----*
*               EYUBCPJR DSECT Prefix               *
*-----*
EYUBCPJR      DSECT
EYUBCPJR      DS    00

CPJR_PREFIX   DS    00                Prefix of record
CPJR_CMASNAME DS    CL8              CMAS Name which produced record
CPJR_CONTEXT  DS    CL8              Plex Name
CPJR_SCOPE    DS    CL8              Scope Name
CPJR_USER     DS    CL8              User Name
CPJR_STCK     DS    D                Store clock
CPJR_VERSION  DS    H                Current record version
CPJR_VER_ZERO EQU    0000            Version 0
CPJR_VER_ONE  EQU    0001            Version 1
CPJR_VER_CURR EQU    CPJR_VER_ONE    Current Version
CPJR_TYPE     DS    H                Record type
CPJR_TYPE_DEFCH DS    0001          Definition Add/Change/Delete
CPJR_TYPE_RTAEV EQU    0002          Rta Event
CPJR_TYPE_OPACT EQU    0003          Operation action
CPJR_LENGTH   DS    F                Length of entire record plus x
                                           prefix area
                                           Available for use
CPJR_LEN      DS    FL8
CPJR_DATA_AREA EQU    *-CPJR_PREFIX    Length of Prefix area
                                           Data area
                                           DS    0H

*-----*
*               Data record for RTA Events           *
*-----*

CPJR_RTA_DATA DS    0H
CPJR_RTA_TYPE DS    X                Record type
CPJR_RTATYPE_CRT EQU    0001          Event Created
CPJR_RTATYPE_REM EQU    0002          Event Removed
CPJR_RTATYPE_UPD EQU    0003          Event Updated
CPJR_RTATYPE_RES EQU    0004          Event Resolved
CPJR_RTA_GTYPE DS    X                Generated by type
CPJR_RTAGTYPE_SAM EQU    0001          Event produced by Sam
CPJR_RTAGTYPE_APM EQU    0002          Event produced by Apm
CPJR_RTAGTYPE_MRM EQU    0003          Event produced by Mrm
CPJR_RTA_EVENT DS    CL8              Event Name
CPJR_RTA_MSGSTRT DS    CL30           External Entry Message
CPJR_RTA_MSGEND DS    CL30           External Exit Message
CPJR_RTA_EVENTXT DS    CL30           Event Text
CPJR_RTA_SEVERITY DS    CL3           Severity Level
CPJR_RTA_DATA_L EQU    *-CPJR_RTA_DATA Length of the record

```



```

*-----*
*                Data record for Definition changes                *
*-----*

CPJR_DEF_DATA          DS    0H
CPJR_DEF_TYPE          DS    X          Record type
CPJR_DEFTYPE_ADD       EQU 0001          Definition Added
CPJR_DEFTYPE_DEL       EQU 0002          Definition Deleted
CPJR_DEFTYPE_UPD       EQU 0003          Definition Update
                        DS    X          Reserved
CPJR_DEF_MAJORNAM      DS    CL8         Major Name
CPJR_DEF_MAJORID       DS    CL8         ADMIN Restype
CPJR_DEF_MAJORVR       DS    XL4         Major Version
CPJR_DEF_MAJORVR_NONE  EQU -1           Major Version None
CPJR_DEF_MINORNAM      DS    CL8         Minor Name
CPJR_DEF_MINORID       DS    CL8         ADMIN Restype
CPJR_DEF_MINORVR       DS    XL4         Minor Version
CPJR_DEF_MINORVR_NONE  EQU -1           Minor Version None
CPJR_DEF_SYSID         DS    CL8         System Id where change      x
                        was originated
CPJR_DEF_DATA_L        EQU *-CPJR_DEF_DATA Length of the record

*-----*
*                Data record for Operation commands                *
*-----*

CPJR_OPS_DATA          DS    0H
CPJR_OPS_LENGTH        DS    H          Length of fixed and variable x
                        portion of data area
CPJR_OPS_NUMFLDS       DS    H          Number of fields
CPJR_ACTION            DS    CL12       Name of action

CPJR_RESNAME           DS    CL8         Resource Name
CPJR_OPS_STRTENT       DS    0C         Start of data entries
CPJR_OPS_DATA_L        EQU *-CPJR_OPS_DATA Length of the record
*
CPJR_OPS_ENTRY         DS    0C
CPJR_OPS_FIELD         DS    CL12       Field Name
CPJR_OPS_DATALEN       DS    X          Length of the Data
CPJR_OPS_ENTLEN        DS    X          Length of entire entry
CPJR_OPS_FLDDATA       DS    0C         Start of the Data
CPJR_OPS_ENT_L         EQU *-CPJR_OPS_ENTRY Fixed portion length

```

図 2. EYUBCPJR DSECT

プログラムを作成して CICS ジャーナル・レコードにアクセスし、これをフォーマットする方法の詳細については、[CICS ログ・マネージャー](#)を参照してください。

CMAS のシャットダウン

CMAS は、WUI シャットダウン・アクション・ボタンまたは COSD トランザクションを使用してシャットダウンできます。

CODB システム・レベル・デバッグ・トランザクションの CMASSTOP コマンドを使用して、CMAS をシャットダウンすることも可能ですが、CODB は、IBM のお客様サポート担当員がお願いした場合にのみ使用してください。次の方法で CMAS をシャットダウンすることのないようにしてください。

- CMAS に対して CEMT PERFORM SHUTDOWN コマンドを実行する。
- MVS から CMAS ジョブを取り消す。

これらのいずれかのアクションを実行すると、CMAS は自分自身を正常にシャットダウンできません。

同時に複数の CMAS をシャットダウンすると、EYUCP0205S のメッセージを受け取る場合があります。この状況ではメッセージは問題を示してはおらず、このメッセージが出る時の通常の動作として、CICSplex SM は診断 SVC ダンプを生成しません。このメッセージは、CMAS シャットダウンを順番に行うことで回避できます。

「シャットダウン (Shutdown)」ボタンの使用

1. メインメニューから、「**CICSplex SM 操作ビュー (CICSplex SM operations views)**」>「**ローカル CMAS 認知の CMAS (CMASs known to local CMAS)**」とクリックして、「**ローカル CMAS 認知の CMAS (CMASs known to local CMAS)**」表示形式ビューを開きます。

- CMAS の横にあるレコード・チェック・ボックスをクリックして、「シャットダウン...(Shutdown...)」をクリックします。「シャットダウン (Shutdown)」確認ビューが表示されます。
 - 「はい」をクリックして確定します。「ローカル CMAS 認知の CMAS (CMASs known to local CMAS)」表形式ビューが再度表示され、その CMAS の状況が INACTIVE であることを示します。
2. メインメニューから、「CICSplex SM 操作ビュー (CICSplex SM operations views)」>「CICSplex に既知の MAS (MASs known to CICSplex)」とクリックして、「CICSplex に既知の MAS (MASs known to CICSplex)」表形式ビューを開きます。
- CMAS 名をクリックして、「CMAS の詳細 (CMAS detail)」ビューを表示します。
 - 「シャットダウン...(Shutdown...)」をクリックします。「シャットダウン (Shutdown)」確認ビューが表示されます。
 - 「はい」をクリックして確定します。「CICSplex に既知の MAS (MASs known to CICSplex)」表形式ビューが再表示されます。

COSD トランザクションの使用

MVS コンソールを含む任意の端末から、トランザクション ID である COSD を発行することができます。

COSD

CMAS の再始動

CMAS はコールド・リスタートを実行するか、緊急時再始動を行うことにより自動的に再始動できます。

自動再始動

COSD トランザクションまたは「WUI SHUTDOWN」ボタンを使用して正常に停止した CMAS は自動的に再始動できます。望ましい CMAS の再始動方法は、自動による再始動です。再始動する方法 (初期、コールド、ウォーム、または緊急時) の選択を CICS に委任できるからです。CICS は、グローバル・カタログ内の 2 つのレコード (リカバリー・マネージャー制御レコードと、リカバリー・マネージャー自動開始指定変更レコード) を調べて判断します。

自動再始動は、次のように行います。

- **START** システム初期設定パラメーターに AUTO オプションを指定します。

コールド・リスタート

手動コールド・リスタートが必要になるのは、CMAS が使用する CICS リソース定義のいずれかに変更を加えた場合です。また、CMAS-CMAS 接続定義 (CMTCMDEF) のいずれかを追加または削除した場合にも、手動コールド・リスタートを実行する必要があります。

コールド・リスタートは、次のように行います。

- **START** システム初期設定パラメーターに COLD オプションを指定します。

緊急時再始動

手動による緊急時再始動が必要になるのは、CMAS が異常終了した場合 (COSD トランザクションから以外、あるいは WUI の「シャットダウン (SHUTDOWN)」ボタンを使用した以外) です。緊急時再始動の際、CICS は重要なバックアウト処理を実行します。CMAS が MVS 自動リスタート・マネージャー (ARM) に登録されている場合は、緊急再始動は自動的に行われます。CMAS が ARM に登録されていない場合は、自分で緊急時再始動を実行する必要があります。

緊急時再始動は、次のように行います。

- **START** システム初期設定パラメーターに AUTO オプションを指定します。

CICS リソース定義または CICSplex SM 接続定義を変更していなければ、CMAS は、緊急再始動の後、初期設定されて正常に機能します。

CMAS の最後の実行 (つまり、異常終了した実行) より後に変更を加えた場合、CMAS は正常に機能しないことがあります。その状況では、COSD トランザクションを使用するか WUI の「シャットダウン (SHUTDOWN)」ボタンを使用して、CMAS をシャットダウンしてから、**START=COLD** オプションを指定して CMAS を再始動する必要があります。CMAS のシャットダウンの詳細については、[31 ページの『CMAS のシャットダウン』](#)を参照してください。

第 3 章 CICS MAS の設定

CICS システムが管理対象アプリケーション・システム (MAS) として CICSplex SM に認識されるようにするには、さまざまなステップを実行する必要があります。

注: MAS が CMASYSID を指定しており、CMAS がアクティブでも CICSplex を管理していない場合、MAS は、指定された CMAS が CICSplex を管理ようになるまで待機してから、CICSplex に結合します。この動作は、CMASYSID が指定されていないときと同じです。

MAS のセットアップの前に

初期設定値、リリース間での変更内容、およびシステムに適用する必要がある保守を確認します。

CICSplex SM 環境の設計で説明されている、MAS のセットアップに関する考慮事項を確認します。

MVS の初期設定に使用する SYS1.PARMLIB の IEASYSxx メンバーをチェックし、インストール中に参照する初期設定値をメモしておいてください。初期設定値の詳細については、[CICSplex SM の IEASYSxx 値の記録](#)を参照してください。

ご使用の CICSplex SM システムを旧リリースから CICSplex SM for CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 6 に移行する場合は、ご使用のレベルの CICSplex SM のアップグレード情報をお読みください。

CICS グローバル・ユーザー出口およびユーザー置換可能モジュールの使用

CICS グローバル・ユーザー出口およびユーザー置換可能モジュール DTRPROG を使用することで、MAS をモニターできます。

CICSplex SM は、『[Developing system programs](#)』の『[Customizing with user-replaceable programs](#)』に記載された規格に準拠した方法で、これらの出口を使用します。CICSplex SM は、これらの出口を情報の取得目的のみに使用します。アプリケーション環境は変更されません。

XMNOUT 出口および XSTOUT 出口は、CICSplex SM の管理対象アプリケーション・システム (MAS) のモニター・サービスが有効になると使用されます。

- XMNOUT 出口は、タスクおよび CICS モニター・データを取得します。XMNOUT は、ローカル MAS のみ使用されます。
- XSTOUT 出口は、統計データが CICS によってリセットされる前にそのデータを取得します。

これらの出口は、モニター情報および統計情報を取得し、常に "continue processing" という戻りコードを戻します。MAS のシャットダウン要求が受け取られると、これらの出口は使用できなくなります。

ローカル MAS のトポロジー要求が有効である場合、XMEOUT、XDUREQ、XDUREQC、XRSINDI、XSNOFF、および XDUOUT 出口が次のように使用されます。

- XMEOUT 出口はストレージ不足イベントを検出します。
- XDUREQ 出口は、システム・ダンプおよびトランザクション・ダンプのイベントを検出します。
- XDUREQC 出口が、ダンプ・アクションが完了したことを検出する。
- XRSINDI 出口は、トポロジー・リソースが変化したことを検出する。
- XSNOFF 出口は、ユーザーのサインオフ・イベントを検出します。
- XDUOUT 出口は、トランザクション・ダンプのイベントを検出します。

CICSplex SM では、ワークロード・บาลancingの一部として動的ルーティング・プログラム・ユーザー置換可能モジュール (DTRPROG) を使用しています。

LPA からのモジュールの使用を制御する

CICS で LPA からのモジュールを使用するかどうかを制御することができます。これは、LPA および PRVMOD CICS システム初期設定パラメーターを指定するか、あるいは、STEPLIB または DFHRPL の連結

で SYS1.CICSTS56.CPSM.SEYULPA ライブラリー (LPA ライブラリーとして MVS に定義) を追加または除外することで行います。

1. RMODE(ANY) 属性を用いてリンク・エディットされる モジュールは、ELPA にロードされます。
2. 通常 STEPLIB からロードされる LPA 常駐バージョンのモジュールは、ライブラリーの STEPLIB DD 連結内に残っている場合、LPA から使用されません。モジュールは STEPLIB 連結内に見つかり、アドレス・スペースの専用域にロードされ、LPA バージョンは無視されます。このような状態にならないようにするには、CICSplex SM モジュールを LPA にインストールするに記載されているように、LPA 適格モジュールを LPA ライブラリーに移動します。

LPA 適格モジュールの使用を制御する方法の詳細については、MVS リンク・パック域への CICSplex SM モジュールのインストールを参照し、特に次の事項に関連する情報に注意してください。

- 「モジュールが見つからない (module-not-found)」警告メッセージ DFHLD0109I
- LPA モジュールに関連する CICS システム 初期設定パラメーター

z/OS MAS の始動の準備

MAS を開始する前に、データ・セットの作成、始動 JCL の変更、外部接続のアクティブ化、システム 初期設定パラメーターの検討、およびログの準備を行います。

MAS (CMAS が管理する CICS システム) があれば、CMAS の後にこれを始動します。これは、CICS システムは、CICS システムが関連付けられた CMAS が開始されないと、CICSplex SM に対して不明とされるためです。

注: MAS が CMASYSID を指定しており、CMAS がアクティブでも CICSplex を管理していない場合、MAS は、指定された CMAS が CICSplex を管理するようになるまで待機してから、CICSplex に結合します。この動作は、CMASYSID が指定されていないときと同じです。

MAS データ・セットの作成とカスタマイズ

DFHISTAR を使用して、DFHISTAR ジョブを実行依頼するときに設定するパラメーターに従って、管理対象 CICS システム (MAS) データ・セットの作成とカスタマイズができます。

MAS 用の DFHISTAR インストール後メンバー

SCOPE を POST または ALL にして DFHISTAR を実行すると、管理対象 CICS システム (MAS) 用の以下のインストール後メンバーが XDFHINST ライブラリーに作成されます。

- EYUCSYDS - MAS 用のすべてのデータ・セットの作成と始動を行います。EYUCSYDS には、必要に応じてジョブを再実行できるよう、データ・セットの削除を行うステップも含まれています。これらの削除は、最初にジョブを実行するときには失敗することが予期されています。EYUCSYDS には以下のステップが含まれています。
 1. DELHIST および DEFHIST が、CICSplex SM ヒストリー・データ・セット EYUHISTA および EYUHISTB の削除と定義を行います。
 2. HISTINIT が EYU9XHID ユーティリティーを使用してヒストリー・データ・セットを開始します。
 3. DFHISTAR JES=JES3 オプションを指定する場合は、JES3DELA および JES3DEFA が組み込まれます。これらは、CICS ローカル・カタログ、グローバル・カタログ、およびローカル要求キューの削除と定義を行います。
 4. DELREGDS が CICS データ・セットを削除します。
 5. DEFTRACE が CICS 補助トレース・データ・セット DFHAUXT および DFHBUXT を定義します。
 6. DEFHTML が CICS DFHHTML データ・セットを定義します。
 7. DEFDMPS が CICS トランザクション・ダンプ・データ・セット DFHDMPA および DFHDMPB を定義します。
 8. DEFTSTD が CICS 補助一時記憶域データ・セット DFHTEMP を定義します。
 9. DEFINTD が CICS 区画内一時データ・セット DFHINTRA を定義します。

10. DEFLCD が CICS ローカル・カタログ DFHLCD を定義します。
11. INITLCD が DFHCCUTL ユーティリティを使用して CICS ローカル・カタログを開始します。
12. DEFGCD が CICS グローバル・カタログ DFHGCD を定義します。
13. INITGCD が DFHRMUTL ユーティリティを使用して CICS グローバル・カタログを開始します。
14. DEFLRQ が CICS ローカル要求キュー・データ・セット DFHLRQ を定義します。
15. DFHISTAR JES=JES3 オプションを指定する場合は、JES3DEFA および JES3DELB が組み込まれます。これらは、CICS DFHCSD データ・セットの削除と定義を行います。
16. DELCSD が CICS DFHCSD データ・セットを削除します。
17. DEFCSO が CICS DFHCSD データ・セットを定義します。
18. INITCSD が DFHCSDUP ユーティリティを使用して DFHCSD データ・セットを開始します。
- EYUJHIST が CICSplex SM ヒストリー・データ・セットの対を作成します。EYUCSYDS には、EYUHISTA と EYUHISTB という 2 つのヒストリー・データ・セットを作成するためのステップが含まれています。さらに多くのヒストリー・データ・セットを追加したい場合に (最大で 26 まで)、EYUJHIST を使用できます。これには以下のステップが含まれています。
 - DELHIST および DEFHIST が、CICSplex SM ヒストリー・データ・セットの対の削除と定義を行います。
 - HISTINIT が EYU9XHID ユーティリティを使用してヒストリー・データ・セットを開始します。
- EYULMSSP は、管理対象 CICS システムの CICS システム初期設定の指定変更値を提供します。
- EYULMSOP は、管理対象 CICS システム用の CICSplex SM EYUPARM パラメーターを提供します。
- EYUCSYSP が管理対象 CICS システムを開始します。
- EYUCSYSJ が管理対象 CICS システムを開始します。EYUCSYSP を実行します。

CICSplex SM パラメーターのデフォルト値を使用する場合、EYUCSYSP PROC ステートメントは次に示されているサンプル・コードのようになります。

```
EYUCSYSP PROC DSNCSO='CICSTS56.CPSM.CSYS01.DFHCSD',
RGNHLQ='CICSTS56.CPSM.CSYS01',
CICSHLQ='CICSTS56.CICS',
CPSMHLQ='CICSTS56.CPSM',
PRMLIB='CICSTS56.XDFHINST',
CICSPRM=EYULMSSP,           CICS Parameters
CPSMPRM=EYULMSOP           CPSM Parameters
```

DFHISTAR を使用したインストール後ジョブのカスタマイズ

DFHISTAR を使用して、異なる CICS 領域用の、管理対象 CICS システム・インストール後ジョブのコピーを生成することができます。DFHISTAR SELECT パラメーターを使用して、インストール後ジョブのコピーの新規名を指定します。形式は次のとおりです。

```
SELECT jobname newname
```

jobname

再生成するジョブの名前です。

newname

新規コピーの名前です。

複数の SELECT パラメーターを指定し、DFHISTAR ジョブの単一の実行で再生成する複数のジョブを選択することができます。いったん DFHISTAR ジョブに SELECT パラメーターを組み込むと、SELECT に指定したジョブだけが生成されます。

MAS の名前が CSYS02 で、CICS システム ID が CS02 の場合、DFHISTAR パラメーターを変更して次のオプションを指定することができます。

```
CMASNAME name of the CMAS to which this managed system connects
CMSYSID CICS system identifier of the CMAS to which this managed system connects
CSYSPLEX name of the CICSplex to which this managed system is to be associated
CSYSNAME CSYS02
```



```

CSYSYSID CS02
SELECT EYUCSYDS CS02CSDS
SELECT EYULMSSP CS02CSSP
SELECT EYULMS0P CS02CS0P

```

JCL to create the data sets for CSYS02
 CICS system initialization overrides for CSYS02
 CICSplex SM EYUPARM parameters for CSYS02

それから、プロシージャー EYUCSYSP を使用して、管理対象 CICS システム CSYS02 を開始することができます。

```

START EYUCSYSP, DSNCSO='CICSTS56.CPSM.CSYS02.DFHCSD',
RGNHLQ='CICSTS56.CPSM.CSYS02', CICSHLQ='CICSTS56.CICS',
CPMHLQ='CICSTS56.CPSM', PRMLIB='CICSTS56.XDFHINST'
CICSPRM=CM02CSSP, CPSMPRM=CM02CS0P

```

EYUCSYSJ を使用して WUI を開始する場合、これを編集して次のオプションを指定します。

```
CICSPRM=CS02CSSP, CPSMPRM=CS02CS0P
```

MAS 開始前の始動 JCL の変更

システムの始動 JCL を変更します。これには、DD ステートメントを変更して CICSplex SM データ・セットを組み込み、適切な CICS システム初期設定パラメーターが含まれていることを確認します。

変更の必要がある DD ステートメントは、[38 ページの図 3](#) のとおりです。

図 3. z/OS MAS 特定の JCL 必要条件

```

//STEPLIB DD DSN=CICSTS56.CPSM.SEYUAUTH,DISP=SHR
//DFHRPL DD DSN=CICSTS56.CPSM.SEYULOAD,DISP=SHR
//EYUPARM DD DSN=(Any PO or PS data set with LRECL=80)
//EYUHISTA DD DSN=(Optional 1st history data set)
//EYUHISTB DD DSN=(Optional 2nd history data set)
//EYUHISTn DD DSN=(Optional nth history data set)
...

```

CICS システム用に始動 JCL のこれらの DD ステートメント変更する場合は、以下のようにステートメントをコーディングします。

STEPLIB DD ステートメント

CICSTS56.CPSM.SEYUAUTH 許可ロード・ライブラリーを組み込みます。

DFHRPL DD ステートメント

CICSTS56.CPSM.SEYULOAD ロード・ライブラリーを組み込みます。

EYUPARM DD ステートメント

CICSplex SM パラメーターを含むライブラリーを識別します。

- メンバー EYULMS0P (CICSTS56.CPSM.SEYUPARM データ・セット内) には、ローカル MAS のサンプル・システム・パラメーターが含まれています。このメンバーを編集する必要があります。各パラメーターの詳細については、[CICSplex SM システム・パラメーター](#)を参照してください。EYULMS0P はカスタマイズされていないものが XDFHINST に、カスタマイズされたものが XDFHINST に提供されています。
- ビジネス・アプリケーション・サービスを使用して MAS に CICS リソースをインストールする場合は、そのシステムに CICSplex SM システム・パラメーター MASPLTWAIT(YES) を指定する必要があります。このパラメーターを指定すると、すべての CICS リソースがインストールされ、CICSplex SM MAS が完全に初期設定されるまで、CICS PLT 処理は中断されます。
- オペレーティング・システムに MAS を含める場合は、システムに CICSplex SM システム・パラメーター MASPLTWAIT(YES) も指定する必要があります。このパラメーターは、CICS 領域が初期化される場合、アプリケーションまたはオペレーティング・システムの CICS リソースを自動的にインストールするために必須です。

EYUHISTx DD ステートメント

MAS のヒストリー・データ・セットを識別します。各 MAS に、個別の CICSplex SM ヒストリー・データ・セットのセットが必要です。JCL 内の DD カードに EYUHISTx という形式の DD 名を指定することでデータ・セットを MAS 領域に割り振ります。ここで、x は、A から Z の値を取る接尾部です。動的割り振りは、サポートされていません。OLD を破棄する際には、データ・セットを割り振ります。接

尾部の文字は、アルファベット文字を省略することなく、昇順で使用されます。例えば、4つのヒストリー・データ・セットが必要であれば、DD名は、EYUHISTA、EYUHISTB、EYUHISTC、およびEYUHISTDを使用します。43ページの『ヒストリー記録用のMASの準備』を参照してください。

CICS 始動時の Db2 および IBM MQ 接続のアクティブ化

CICS とともに Db2 または IBM MQ を使用している場合は、特別に調整を行って接続を定義してアクティブにする必要があります。

注：CICS TS V5.6 では、PLTPI を使用して CICSplex SM PLT プログラムを直接実行するためのサポートが除去されました。領域の初期設定中に CICSplex SM を呼び出すには、CICS システム初期設定パラメーター **CPSMCONN** を使用する必要があります。

Db2 接続

CICS システムを CICS Db2 接続機能と一緒に使用する場合、CICSplex SM に定義された Db2 接続を BAS を使用してインストールすることができます。

以下のようにして、CICS の始動中に Db2 接続をアクティブにします。

1. CICSplex SM に適した DB2CDEF リソース定義がインストール可能であり、その定義が自動インストールされるように設定されていることを確認します。
2. 以下のいずれかの構成が実装されていることを確認します。
 - CICS システム初期設定パラメーター **CPSMCONN=LMA**S および **DB2CONN=YES** を指定します。
 - CICS システム初期設定パラメーター **CPSMCONN=LMA**S および **DB2CONN=NO** を指定します。CICS Db2 接続機能は、正しい PLT プログラムを使用して開始する必要があります。
3. **MASPLTWAIT(YES)** CICSplex SM パラメーターを指定します。これによって、DB2CDEF リソース定義が(その他すべての BAS リソース定義と同様に) PLT 処理中にインストールされます。

BAS リソースのインストール・ステップの後、Db2 PLT プログラムが実行され、Db2 接続が開始します。

IBM MQ 接続

CICS システムを CICS-MQ アダプターと一緒に使用する場合、CICSplex SM に定義された CICS-MQ 接続を BAS を使用してインストールすることができます。

以下のようにして、CICS の始動中に CICS-MQ 接続をアクティブにします。

1. CICSplex SM に適した MQCONDEF リソース定義がインストール可能であり、その定義が自動インストールされるように設定されていることを確認します。
2. 以下のいずれかの構成が実装されていることを確認します。
 - CICS システム初期設定パラメーター **CPSMCONN=LMA**S および **MQCONN=YES** を指定します。
 - CICS システム初期設定パラメーター **CPSMCONN=LMA**S および **MQCONN=NO** を指定します。CICS-MQ アダプターは、正しい PLT プログラムを使用して開始する必要があります。
3. **MASPLTWAIT(YES)** CICSplex SM パラメーターを指定します。これによって、MQCONDEF リソース定義が(その他すべての BAS リソース定義と同様に) PLT 処理中にインストールされます。

BAS リソースのインストール・ステップの後、CICS-MQ アダプター PLT プログラムが実行され、CICS-MQ 接続が開始します。

z/OS MAS 関連の CICS システム初期設定パラメーター

CICS SYSIN ステートメントによって指定された順次データ・セットまたは区分データ・セットのメンバーに、適切な CICS システム初期設定パラメーターが組み込まれていることを確認してください。

40 ページの表 3 には、パラメーターのさらに詳細な説明があります。

MAS ごとにリストされているパラメーターをすべて検討し、指定されている値が適切かを確認してください。特定のリソース・タイプ(XCMD、XFCT、XPCT、またはXPPT)にYESを指定する場合、そのリソー

ス・タイプについて CICSplex SM セキュリティー・プロファイルが存在していなければなりません。セキュリティ・プロファイルの作成方法の詳細については、[CICSplex SM security](#) を参照してください。

注：「TASK」ビューおよび「MLOCTAN」ビューで使用可能なすべてのデータを取得するためには、MCT に値が指定されていること、パフォーマンス・クラスの CICS モニター機能がアクティブにされていること、パフォーマンス・クラス・データが収集されていることが必要です。次の表の MCT、MONITOR、MN、および MNPER パラメーターに関する注を参照してください。

表 3. z/OS MAS の CICS システム初期設定パラメーター	
パラメーター	説明
APPLID=	この CICS システムの z/OS Communications Server アプリケーション ID。NAME(value) が CICSplex SM システム・パラメーターとして指定されていない場合に、MAS 名として使用されます。
AIEXIT=DFHZATDX	z/OS Communications Server 端末自動インストール・プログラム。
AUTORESETTIME=IMMEDIATE	時刻の同期。
AUXTR=ON	補助トレース - 例外レコード。
AUXTRSW=NEXT	非連続補助トレース切り替え。
CPSMCONN=LMA5	領域をローカル MAS として起動します。
DFLTUSER=userid	ユーザーが ESM に定義されていない場合に、セキュリティ検査に使用するユーザー ID を指定。
DSALIM=5M	24 ビット (16 MB 境界より下) ストレージでの DSA ストレージの制限。この値は 5 MB 以上に設定してください。
EDSALIM=800M	31 ビット (16 MB 境界より上) ストレージでの EDSA ストレージの制限。
DSRTPGM=EYU9XLOP	分散 START ルーティング・プログラム。
DTRPGM=EYU9XLOP	動的ルーティング・プログラム
DUMPDS=A	トランザクション・ダンプ・データ・セット。
DUMPSW=NEXT	次のトランザクション・ダンプ・データ・セットへの切り替え。
FCT=NO	ファイル管理テーブルは使用されていません。
GMTEXT='CICSplex System Manager - CICS Transaction Server for z/OS'	デフォルト・ログオン・メッセージ。
GRPLIST=DFHLIST	アプリケーション・リソース定義のグループ・リストを追加します。追加情報については、 CICSplex SM の CICS リソース定義 を参照してください。
ICV=100	領域終了間隔。
ICVR=5000	ランナウェイ・タスク・インターバル。
ICVTSO=0	端末スキャン遅延インターバル。
INTTR=ON	主記憶装置トレースをアクティブにします。
IRCSTR=YES	システム初期設定時の IRC 始動。
ISC=YES	コード YES により、領域間およびシステム間通信に必要な CICS プログラムを組み込む。

表 3. z/OS MAS の CICS システム初期設定パラメーター (続き)	
パラメーター	説明
MCT=	モニター管理テーブル。CICS パフォーマンス・クラスのモニター機能がアクティブになっている場合は、このパラメーターの値を指定してください。2\$ (デフォルト) または既存のテーブルを使用することができます。注を参照してください。
MN=ON	CICS モニターをアクティブにします。注を参照してください。
MNFREQ=001500	15 分ごとにパフォーマンス・クラス・データを書き込みます。
MNPER=ON	パフォーマンス・クラスをモニターするように CICS に指示します。注を参照してください。
<p>MCT、MONITOR、MN、および MNPER パラメーターに関する注: 「TASK」ビューおよび「MLOCTRAN」ビューで使用可能なすべてのデータを入手するためには、MCT に値が指定されていること、パフォーマンス・クラスの CICS モニター機能がアクティブにされていること、パフォーマンス・クラス・データが収集されていることが必要です。</p> <p>このデータを SMF データ・セットに書き込みたくない場合、モニター・レコードを抑止することができます。 CICSplex SM システム・パラメーター の SUPPRESSCMF パラメーターの説明を参照してください。</p>	
MXT=500	最大タスク数。CICSplex SM の MAS タスクを収容するため、通常の CICS 領域より 20 だけ大きい値にします。CICSplex SM では、これらの 20 個の追加タスクが全部使用されることはほとんどありません。MXT を単独で使用してアプリケーション・トランザクションを制御する場合は、この値を増加することにより、同時に実行されるアプリケーション・トランザクションが増える場合があります。このような状態にならないようにするには、アプリケーションのトランザクション・クラスを定義します。次に、同時トランザクション数を制限するクラス最大タスク (CMXT) 値を設定します。
SEC= {YES NO}	<p>この CICS システムに対して外部セキュリティー検査を行うかどうかを指示します。</p> <p>YES</p> <p>READ アクセス権が付与されている場合、</p> <ul style="list-style-type: none"> • READ は許可されます。 • UPDATE は拒否されます。 <p>UPDATE アクセス権が付与されている場合、</p> <ul style="list-style-type: none"> • READ は許可されます。 • UPDATE は許可されます。 <p>NO</p> <p>セキュリティー検査は実行されません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CICS セキュリティーでは、CMAS について SEC= で指定された値が、MAS について SEC= で指定された値を上書きします。 2. CICSplex SM セキュリティーをアクティブにするには、MAS に SEC=YES を設定します。接続先の CMAS には、CICSplex SM システム・パラメーター SEC(YES) を指定する必要があります。CICSplex SM セキュリティーが CMAS でアクティブにされていない場合、CMAS と MAS の間の接続は、確立できません。接続を試行するときは、メッセージ EYUCR0007E がコンソール、CMAS ジョブ・ログ、および EYULOG に発行されます。 <p>CMAS の SEC パラメーターの詳細については、CICSplex SM システム・パラメーター を参照してください。</p>

表 3. z/OS MAS の CICS システム初期設定パラメーター (続き)	
パラメーター	説明
SECPREFIX={YES NO <u>prefix</u> }	すべてのリソース名の先頭に追加する接頭部としてユーザー ID を使用して、この CICS システムを他の CICS システムから識別するかどうかを指定。
SIT=6\$	システム 初期設定テーブル接尾部。
SPOOL=YES	システム・スプーリング・インターフェース。
START=AUTO	他のオプションを指定変更するコールド・スタート。
SYSIDNT=	CICS システムの ID を示します。この名前は CICSplex 内で固有でなければなりません。
SYSTR=OFF	補助トレース - システム・アクティビティーなし。
TCT=NO	端末管理テーブルは使用されていません。
TS=(COLD,3)	一時記憶域のコールド・スタート。
TST=NO	一時記憶域テーブルは使用されていません。
USERTR=ON	補助トレース - ユーザー・トレース有効。
XAPPC=NO	APPC セッションの RACF 検査。
TCPIP=YES	CICS TCPIP サービスをアクティブにします。
XCMD= { <u>YES</u> name NO}	セキュリティ検査に EXEC CICS システム・コマンドを含めるかどうかを指定します。
XDB2= { <u>No</u> name}	セキュリティ検査に Db2 リソースを含めるかどうかを指定します。
XDCT=NO	一時データ・キューの RACF 検査。
XFCT= { <u>YES</u> name NO}	ファイルをセキュリティ検査に組み込むかどうかを指定します。
XHFS=NO	z/OS UNIX ファイルへの Web クライアント・アクセスのセキュリティ検査。
XPCT= NO	EXEC 開始トランザクションの RACF 検査。
XPPT= { <u>YES</u> name NO}	プログラムをセキュリティ検査に組み込むかどうかを指定します。
XRES=NO	XRES セキュリティ検査の対象となる CICS リソースへのアクセスのセキュリティ検査。XRES セキュリティ検査の対象となるリソースのリストについては、 <u>XRES リソース・セキュリティ・パラメーターを使用したセキュリティ</u> を参照してください。
XRF=NO	XRF サポートは生成されない。
XPSB=NO	DL/I PSB の RACF 検査。
XTRAN=NO	トランザクション接続の RACF 検査。
XTST=NO	一時記憶域キューの RACF 検査。
XUSER={ <u>YES</u> NO}	CICS が代理ユーザー・チェックを実行するかどうかを指定します。YES を指定する場合は、CICS 領域のユーザー ID を、COLM または CORM トランザクションを使用して MAS を始動するユーザー ID の代理として定義しなければなりません。

ヒストリー記録用の MAS の準備

CICSplex SM では、完了したタスクのデータ (ヒストリー・タスク・データ) の保管と表示ができます。

アクティブ・タスクが完了すると、そのデータは履歴データ・ストアに保管されます。このデータ・ストアは、複数の VSAM KSDS データ・セットからなります。最低 2 個のデータ・セットが必要で、最大で 26 個のデータ・セットを含めることができます。

各 MAS に、個別の CICSplex SM ヒストリー・データ・セットのセットが必要です。データ・セットは、JCL 内の DD カードに EYUHISTx という形式の DD 名を指定することで MAS 領域を割り振ります。ここで、x は、A から Z の値を取る接尾部です。動的割り振りは、サポートされていません。OLD を破棄する際には、データ・セットを割り振ります。接尾部の文字は、アルファベット文字を省略することなく、昇順で使用されます。例えば、4 つのヒストリー・データ・セットが必要であれば、DD 名は、EYUHISTA、EYUHISTB、EYUHISTC、および EYUHISTD を使用します。

CICSplex SM ヒストリー・データ・セットは、REUSE キーワードを使用して定義します。タスク・ヒストリー記録では、使用頻度が最低のデータ・セット、すなわち EYUHISTA を最初に開始したときのデータ・セットが使用されます。EYUHISTA がいっぱいになると EYUHISTB に切り替わる、という方法で昇順で切り替わっていきます。いっぱいになったそれぞれのデータ・セットは、ヒストリー・レコーダーのすべてのデータ・セットがいっぱいになり、これらのデータ・セットを再利用しなければならなくなるまでオープンしたままになります。すべてのデータ・セットがいっぱいになった時点で、EYUHISTA は閉じられ、空になり、再度開かれ、そして再使用されます。次に、EYUHISTB が使用されて、前述のように昇順で切り替わります。データ・セットが再使用される際には、前の内容は破棄されます。

ヒストリー・レコーダーがデータ・セットを再使用のため空にするまでは、ヒストリカル・タスク・データを使用することができます。データは、CMAS および MAS を複数回再始動しても保守されます。作業単位でのリカバリー可能性は必要ではないため、ヒストリー・データ・セットをリカバリー可能としての定義はありません。ただし、CICSplex SM ヒストリー・レコーダーでは、ファイルをリカバリー不能として定義する必要があります。これは、MAS 領域への不要なロギングを避けるためです。

また、ヒストリー・データ・セットが VSAM 圧縮を使用するように定義しないでください。CICSplex SM ヒストリー機能は、データ・セットにいくつのレコードが入るか計算するためにデータ・セットを初期化するので、データ・セットへ安全性の高い順次書き込みを行うことができ、I/O 使用量を減らすことができます。VSAM 圧縮を使用すると、この計算が無効になり、データ・セットがいっぱいになってデータ・セットの切り替えが必要になった場合にデータが失われる原因となります。

CICSplex SM には、ヒストリー・データ・セットの最適サイズを判別するためのチューニング補助機能 (HISTRECSMSG EYUPARM パラメーター) があります。HISTRECSMSG は、データ・セットに書き込まれたレコード数 (千単位) を記したメッセージの定期的な出力を活動化します。完了した各タスクは、1 つのレコードを持ちます。CICS ファイル制御は、拡張形式 KSDS データ・セットをサポートするため、サイズが 4 GB を超える大きなヒストリー・データ・セットを定義することが可能です。しかし、非常に大きなデータ・セットの使用を検討しているユーザーは、CICSplex SM ヒストリー・レコーダーがデータ・セットを空にして再使用するときに、大量のデータが失われ、以後のクエリーで使用することができなくなるということに注意してください。非常に大きなデータ・セットを少数使用する代わりに、データ・セットの数を増やしてデータを分割するという方法もあります。例えば、1 時間分の完了済みタスク・データを保持できるデータ・セットを 25 個用意することで、少なくとも 1 日分のデータを常に保守することができます。最も古いデータ・セットが再使用される時に、1 時間分のデータが失われるだけで済みます。

CICSplex SM には、2 つのヒストリー・データ・セットを定義して初期化するための、サンプル・ジョブ EYUJHIST が用意されています。これは、カスタマイズされていないものが TDFHINST に、DFHISTAR によってカスタマイズされたものが XDFHINST に提供されます。

CICS システムの管理の停止および再開

アクティブな CICS システムの MAS の管理を停止して再開することができます。その MAS のシャットダウン処理が正しくインストールされたかをチェックすることもできます。

CICS システムの管理の停止

アクティブな CICS システムの MAS エージェント・コードの停止は、以下の 2 つの方法で行えます。

- WUI メインメニューから、「**CICSplex SM 操作**」>「**CICSplex 認知の MAS**」をクリックし、CICS システムを選択し、「**停止**」をクリックする。または

- MAS 内のトランザクション COSH を実行する。COSH は、3270 端末、コンソール、または ATI から始動します。

MAS エージェントを停止すると、CICSplex SM は、CICS システムを再始動するか (36 ページの『z/OS MAS の始動の準備』を参照)、あるいは COLM または CORM トランザクションが実行されるまで、MAS にアクセスできません。

MAS が CICSplex SM ワークロード管理ルーティング領域としてアクティブになっていて、動的ルーティング・プログラムが EYU9XLOP に設定されている場合、STOP コマンドは実行されません。このような場合は、STOP コマンドを実行する前に、「WUI CICS 領域操作ビュー」を使用して、動的ルーティング・プログラムを EYU9XLOP から CICS デフォルト動的ルーティング・プログラム DFHDYP または別の有効な動的ルーティング・プログラムに変更しなければなりません。

CICS システムの管理を再開する

実行されている CICS システムを MAS として再アクティブ化するには、次のように CICS COLM トランザクションを発行します。

CICSplex SM がシステムの管理を再開したときに、ローカル MAS がワークロード管理ルーティング領域として認識されるようにするには、動的ルーティング・プログラムを EYU9XLOP に設定してください。動的ルーティング・プログラムを変更するには、CICS CEMT トランザクションを使用してから、ローカル MAS を再アクティブ化してください。

MAS の終了

CICSplex SM MAS シャットダウン処理が正常にインストールされていることを確認するには、CICS システムを終了し、ログをチェックして以下のシャットダウン・メッセージがあるかどうかを調べます。

```
EYUXL0016I MAS shutdown complete
```

MAS エージェント・コードを実行中の CICS システムを終了するには、次のようにします。

1. WUI メインメニューから、「**CICS 領域 (CICS regions)**」をクリックします。
2. 1 つ以上の CICS システムを選択します。
3. 「シャットダウン」をクリックします。

MAS における長時間実行タスクの数の制御

MAS エージェントには、トランザクション CONL の下で実行される基本の長時間実行システム・タスク (LRT) が 1 つ含まれています。デフォルトでは、このタスクは、API、WUI、および RTA を介して MAS に送られたほとんどの要求を処理します。また、CONL システム・タスクは、動的にインストールされたリソースに関する情報の収集、この情報の CMAS への送信など、MAS の内部要求も処理します。LRT が 1 つの要求の処理で使用中になると、それ以降の MAS に送られるすべての要求は、現行要求が終了するまで遅れます。

MASALTLRTCNT EYUPARM にゼロ以外の値を指定すると、トランザクション ID 「CONA」を使用するシステム・タスクの下で実行される代替 LRT を要求できます。これをアクティブにすると、通常は基本 LRT で処理される API、WUI、および RTA 要求は代替 LRT で処理されます。1 度に 1 つの代替 LRT しかアクティブになりません。アクティブな代替 LRT が MASALTLRTTIM EYUPARM で指定された値より長く使用中になった場合、MAS に送られる後続の API、WUI、および RTA 要求は、別の CONA システム・タスクに送られます。

代替 LRT を使用すると、前の要求がまだ完了していなくても、後続の要求を処理できます。このため、基本 LRT は、WUI、API、または RTA 要求を処理することによる遅延を発生させずに内部要求を処理できます。

代替長時間実行システム・タスクの数 (MASALTLRTCNT) は、MAS 終了時または MAS が再始動モードになった時点で発行される EYUNL0911I、EYUNL0912I、EYUNL0913I メッセージに基づいて調整できます。EYUNL0911I には、この実行におけるアクティブな CONA システム・タスクの数が表示されます。EYUNL0912I には、同時に使用中になる CONA システム・タスクの最大数が表示されます。この値が EYUNL0911I で表示される値より小さい場合には、これが EYUNL0912I で表示された値に等しいか、それ

より 1 だけ大きくなるように MASALTRTCNT を低くすることができます。EYUNL0912I の値が EYUNL0911I で表示された値と同じである場合には、EYUNL0913I で表示される値 (同時にすべてのアクティブ CONA システム・タスクがビジーであった回数) はゼロ以外です。この値に基づき、MASALTRTCNT の値を増やすことができます。

代替 LRT の優先順位は、MASALTRTPRI EYUPARM で制御できます。MASALTRTPRI 値にデフォルト値の 255 より小さい値を指定すると、API ユーザーおよび WUI ユーザーの応答時間に悪影響を与え、RTA EVENT が適切なタイミングで作成されない、または解決されなくなる可能性があります。

注：複数の WLM ターゲット領域の MASALTRTCNT に異なる値を指定すると、異なる長時間実行タスク・カウントのために、これらの領域への不均衡なトランザクション配分が発生する可能性があります。

第 4 章 CICSplex SM の構成

CICSplex SM を構成するには、CMAS とデータ・リポジトリの作成、WUI サーバーの作成、CICS 領域の構成が必要です。領域を論理的にまとめてグループに編成することができます。また、高可用性環境を提供するために複数の CMAS を作成して、その CMAS 間の接続を作成することもできます。

このタスクについて

CICSplex を構成する複数の CICS 領域を含む単一のシステム・イメージを作成するには、トポロジー定義を作成する必要があります。これらの定義により、CICS 領域を CICSplex に関連付け、オプションでそれらの領域のサブセットを CICS システム・グループとして指定します。CICS 領域とシステム・グループの名前は、各 CICSplex 内で固有でなければなりません。

CICSplex の作成

CICSplex を作成するには、CICS Explorer または Web ユーザー・インターフェースを使用して、データ・リポジトリ内に定義を作成します。

このタスクについて

CICSplex を定義するときに現行コンテキストとして識別される CMAS は、CICSplex の保守ポイント CMAS になります。必要に応じた数の CICSplex を 1 つの CMAS に関連付けることができます。

手順

1. 保守ポイントにする CMAS にコンテキストを設定して、CICSplex の定義を作成します。
 - CICS Explorer で、SM 管理パースペクティブを開き、「定義」 > 「**CICSplex の定義**」をクリックします。
 - Web ユーザー・インターフェースで、「**CICSplex の定義**」表形式ビューを開き、「作成」をクリックします。
2. CICSplex の名前を入力します。
最大 8 文字の名前を入力できます。セキュリティー設定などの追加オプションも設定できます。
3. 定義を作成します。

タスクの結果

選択した CMAS に関連付けられたデータ・リポジトリで CICSplex が定義されます。定義がデータ・リポジトリに追加されるとすぐに CICSplex は使用可能になります。

次のタスク

CICSplex を構成する CICS 領域を定義します。CICSplex には CICS 領域を無制限に割り当てることができます。

CICS システム定義の作成

CICS 領域を CICSplex に追加するには、CICSplex SM をサポートするようにその領域を構成し、データ・リポジトリ内にシステム定義を作成しなければなりません。CICS Explorer または Web ユーザー・インターフェースを使用して、定義を作成できます。

このタスクについて

CICSplex SM によって管理される CICS 領域は、MAS と呼ばれます。MAS は、関連付けられる CMAS に対してローカルです。ローカル MAS は、CMAS と同じ MVS イメージ上にあり、環境サービス・システム・サービス (ESSS) を使用して CMAS と通信します。ESSS は、MVS イメージ内の、CICSplex SM に使用されるすべてのデータ・スペースを所有するコンポーネントです。

手順

1. CICS 領域の JCL を更新して EYUPARM パラメーターを追加し、CICS 領域を再始動します。
2. コンテキストを CICSplex に設定し、CICS システム定義を作成します。
 - CICS Explorer で、SM 管理パースペクティブを開き、「定義」 > 「システム定義」をクリックします。
 - Web ユーザー・インターフェースで、「トポロジー管理」 > 「システム定義」をクリックし、「作成」をクリックします。
3. システム定義の名前を入力します。

名前は、CICSplex 内で固有でなければならず、長さ 8 文字を超えることはできません。CICSplex SM が割り当てていない名前であれば、VTAM® APPLID などの名前と一致する名前でもかまいません。セキュリティチェックが必要かどうかや、CICS 領域が実行されるタイム・ゾーンを設定することもできます。

タスクの結果

CICS システム・グループの作成

オプションで、1 つ以上のシステム・グループを作成して、類似した CICS 領域をまとめて論理的にグループ化することができます。CICS システム・グループは、ワークロード管理を使用する場合や、スコープを使用してリソースを CICS 領域のセットにデプロイする場合に便利です。

このタスクについて

CICS Explorer または Web ユーザー・インターフェースを使用して CICS システム・グループを作成することができます。CICSplex に関連付けることができるシステム・グループの数に制限はありません。

手順

1. コンテキストを CICSplex に設定し、CICS システム・グループ定義を作成します。
 - CICS Explorer で、SM 管理パースペクティブを開き、「定義」 > 「システム・グループ定義」をクリックします。
 - Web ユーザー・インターフェースで、「管理」 > 「トポロジー管理」 > 「システム・グループ」をクリックし、「作成」をクリックします。
2. システム・グループの名前を入力します。

名前は、最大 8 文字の長さにすることができ、CICSplex で固有でなければなりません。
3. データ・リポジトリに定義を保管します。

タスクの結果

CICS システム・グループは CICSplex に関連付けられます。

次のタスク

CICSplex に CICS システム・グループを作成したら、CICS システムを適切なグループに割り当てます。

CICS システム・グループへの CICS システムの追加

CICS システムを 1 つ以上のシステム・グループに割り当てて、類似した領域をまとめて論理的にグループ化することができます。システム・グループを使用してワークロード管理を実装することもできるので、システムを適切なグループに割り当てることは重要です。

このタスクについて

ワークロード管理を使用しない場合は、必要に応じて CICS システムを CICS システム・グループに編成することができます。例えば、すべてのアプリケーション専有領域 (AOR)、すべてのファイル専有領域 (FOR)、すべての端末専有領域 (TOR) を、それぞれまとめてグループ化することができます。

ワークロード管理を使用する場合は、特定のワークロード処理のターゲット領域として動作するすべての CICS システムを、ルーティング領域として動作する CICS システムと同じ CICSplex に配置する必要があります。1 つの CICSplex に関連付けられる複数のルーティング領域は、同じ MVS イメージ上にあっても異なるイメージ上にあってもかまいません。また、ルーティング領域として動作する CICS システムは、CMAS にローカル接続していなければなりません。

CICS Explorer または Web ユーザー・インターフェースを使用して、システム・グループに CICS システムを追加できます。

手順

- CICS Explorer を使用して、SM パースペクティブを開き、「ウィンドウ」>「ビューの表示」>「システム定義」をクリックして、システム定義をリストします。
 - a) 割り当てるシステム定義を右クリックして、「グループに追加」をクリックします。
 - b) システム・グループを選択します。
- Web ユーザー・インターフェースを使用して「トポロジー管理」>「システム定義」をクリックします。
 - a) CICS システム定義を選択し、「**CICS システム・グループへの追加**」をクリックします。
 - b) 既存のシステム・グループの名前を指定して、「はい」をクリックします。

タスクの結果

指定したシステム・グループに CICS システムが追加されました。

次のタスク

基本トポロジーを作成した後、さらに CMAS を追加して、高可用性環境を作成することができます。

CMAS の CICSplex への割り当て

CICSplex を管理する追加の CMAS を作成して、高可用性環境を提供できます。これらの追加 CMAS は CICSplex に関連付ける必要があります。

このタスクについて

CICSplex を作成するとき、定義の作成時にコンテキストとなる CMAS が、その CICSplex の保守ポイント CMAS になります。単一 CICSplex の管理に関する CMAS の数に制限はありません。

CICS Explorer または Web ユーザー・インターフェースを使用して、CICSplex に CMAS を割り当てることができます。

手順

- Web ユーザー・インターフェースを使用して、「**CICSplex の定義**」ビューを開き、CICSplex を選択します。
 - a) 「割り当て」をクリックします。
 - b) 指定された CICSplex に関連付ける CMAS の名前を指定します。
 - c) 「はい」をクリックして確定します。

タスクの結果

指定された CMAS はデータ・リポジトリ中の CICSplex 定義に追加されます。

次のタスク

CMAS を相互接続します。通信が確立されると、保守ポイント CMAS からその他の CMAS に、それらの CMAS が CICSplex の管理に使用されることが通知されます。また、保守ポイント CMAS は、データ・リポジトリを同期して、同じ情報が含まれるようにします。

複数の CMAS を使用する方法の詳細については、[保守ポイント CMAS の処理](#)を参照してください。

CMAS から CMAS への接続の確立

複数の CMAS が CICSplex の管理に関係する場合、それらの CMAS 間のリンクを作成することをお勧めします。この例では、2 つの CMAS、CMSSYS1 と CMSSYS2 との間のリンクを定義する方法について説明します。これらは、両方とも CICSplex PLXPROD1 の管理に関係します。

CMAS から CMAS へのリンクは、CMAS に対して CICSplex PLXPROD1 を定義する前に定義する必要があります。このことに注意してください。CMAS から CMAS へのリンクを作成する前に CMAS に対して PLXPROD1 を定義した場合、重複保守ポイント状態が発生し、CMAS から CMAS への接続は終了します。

これらの CMAS はそれぞれ別の MVS イメージで実行されています。2 つのリンク、CMSSYS1 から CMSSYS2 へのリンクと、CMSSYS2 から CMSSYS1 に戻るリンクを作成する必要があります。これらのリンクを定義している間、両方の CMAS が実行されている必要があります。

1. CMAS CMSSYS1 に直接接続している WUI にログインします。
2. CMSSYS1 から定義されている CMAS から CMAS への既存のリンクを表示します。
 - a. メインメニューから「管理ビュー」>「**CMAS 構成管理ビュー**」>「**CMAS から CMAS へのリンク定義**」をクリックして、「**CMAS から CMAS へのリンク定義**」表形式ビューを開きます。
 - b. コンテキスト (表形式ビューの上部付近に表示されています) が、構成タスクの CMAS になっている必要があります。CMSSYS1 から開始します。コンテキストが CMSSYS1 ではない場合、「**CMAS コンテキスト**」フィールドに CMSSYS1 を指定して、「**最新表示**」をクリックします。コンテキストは、その後、変更されるまですべての後続のビューとメニューで修正されます。
3. 新しい CMAS 間リンクを作成します。
 - a. 「**作成**」をクリックして、「**CMAS から CMAS へのリンク定義**」作成ビューを開きます。
 - b. 以下の情報を入力します。

ターゲット **CMAS (Target CMAS)**
CMSSYS2

説明
システム 2 での CMSSYS2 へのリンク

ターゲット **VTAM のアプリケーション ID**
CMSSYS2

注: VTAM は現在 z/OS Communications Server になっています。

ターゲット・システム **ID**
CM2B

リンク・プロトコル
LU62

送信バッファ・サイズ
4060

受信バッファ・サイズ
4060

使用される接続時間セキュリティのタイプ
LOCAL

他のフィールドはブランクのままにしておくことができます。

- c. 「はい」をクリックして確定します。

「**CMAS から CMAS へのリンク定義**」ビューが再表示され、作成したリンクのエントリが含まれています。これによって、CMSSYS1 のデータ・リポジトリで CMSSYS1 から CMSSYS2 へのリンクが定義されていることが確認されました。次に、対応する CMSSYS2 から CMSSYS1 へのリンクを作成する必要があります。

4. CMAS CMSSYS2 に直接接続している WUI にログインします。
5. CMSSYS2 から CMSSYS1 へのリンクとして適切なデータを使用して、ステップ [50 ページの『2』](#) と [50 ページの『3』](#) を繰り返します。

これで、CMSSYS1 と CMSSYS2 との間に両方向リンクが作成されました。リンクは即時に使用可能になります。CMAS を最初に再始動する必要はありません。CMAS を再始動すると、CMAS 始動中に、必要な定義が自動的に作成されます。

注：MRO 接続ではこれにより、接続がリモート CMAS でまだ作成されていない場合に、一時的エラー（メッセージ DFHIR3788、戻りコード X'68'）が発生することがあります。エラーは、接続が作成されると自動的に解決されます。

第 5 章 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーをセットアップする server

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースを使用するため、パラメーターの指定やデータ・セットの作成など、いくつかのタスクを行います。

このタスクについて

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェースのセキュリティもセットアップする 必要があります。ユーザー・セキュリティ・アクセス、Secure Sockets Layer (SSL) サポート、MVS データ・セットへのアクセスが含まれます。詳しくは、[CICSplex SM Web User Interface security access overview](#) を参照してください。

CICS システムを Web ユーザー・インターフェース・サーバーとして動作させるための準備

CICS システムを Web ユーザー・インターフェース・サーバーとして機能させ、Web サポートを有効にするためのセットアップに役立つハイレベルの計画ガイドと手順について説明します。

- Web ユーザー・インターフェース・サーバーとして動作させるために選択する CICS システムは、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 6 の CMAS に接続された、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 6 の専用 CICSplex SM MAS でなければなりません。MAS のセットアップ方法については、[35 ページの『第 3 章 CICS MAS の設定』](#)を参照してください。
- WUI サーバーのセットアップに関する考慮事項については、[CICSplex SM 環境の設計](#)を参照してください。
- 必要な Web ユーザー・インターフェース・サーバーの数を決定します。

- 複数の各国語をサポートする場合は、サポートする言語ごとに 1 つの Web ユーザー・インターフェース・サーバーが必要です。
- 複数の MVS イメージで Web ユーザー・インターフェース・サーバーを使用できます。
- 複数の Web ユーザー・インターフェース・サーバーを使用して、可用性を高めることができます。
- Web ユーザー・インターフェース・サーバーは、ユーザーが Web ブラウザー (または、DATA/CONNECT データ・インターフェースを使用するアプリケーション) からサインオンする場合に、状態データを作成および維持します。この状態データがあるので、Web ブラウザーまたは、データ・インターフェースを使用するアプリケーションとサーバーの間に親和性が作成されます。

動的仮想 IP アドレス (DVIPA) や分散 DVIPA のような技法を使用すると、この親和性を保持することができない場合があります。この親和性が保持されない場合は、通常、Web ブラウザーにサインオン画面が再表示されたり、データ・インターフェース・アプリケーションが BADSTUB ステータスを受け取ったりします。

- Web ユーザー・インターフェース・サーバーが、(例えばファイアウォールやその他の理由でのネットワーク・アドレス変換のため) ユーザーが Web ブラウザーで使用するものとは異なるローカル IP アドレスまたは名前を使用する場合、TCPIPHTTPHOST Web ユーザー・インターフェース・サーバー初期設定パラメーターを使用して、Web ユーザー・インターフェース・サーバーが Web ブラウザーに送信する Web アドレスを生成する方法を制御します。

CICS システムを Web ユーザー・インターフェース・サーバーとして機能させるためのセットアップを行うには、次の手順を実行してください。

1. CICS システムを作成し、CICS 提供のインストール検査手順を使用して操作可能であることを確認します。
2. ご使用の Web ユーザー・インターフェース・サーバー用に別個の CICSplex を構成します。
3. Web ユーザー・インターフェースの接続先 CMAS が、Web ユーザー・インターフェース・サーバーのアクセスが必要なすべての CICSplex を管理していることを確認します。これは、Web ユーザー・イン

ターフェース・サーバーが CICSplex SM API アプリケーションとして動作するためです。ただし、Web ユーザー・インターフェースが接続する CMAS では、これらの CICSplex 内の MAS を管理する必要はありません。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーが稼働する MVS イメージに複数の CMAS が存在する場合は、CMAS が管理している CICSplex に応じて、どの CMAS に Web ユーザー・インターフェースが接続するかを考慮します。この接続を制御するには、2 とおりの方法があります。

- Web ユーザー・インターフェース・サーバーのローカル MAS が属する CICSplex が、Web ユーザー・インターフェースの接続先となる 1 つまたは複数の CMAS によってのみ管理されるようにする。
 - Web ユーザー・インターフェース・サーバーが、必ずサーバーのローカル MAS の CMASYSID EYUPARM によって指定される特定の CMAS に接続するようにする。
4. Web ユーザー・インターフェース・サーバー CICS システムを、ローカル MAS として CICSplex SM に定義し、CICSplex SM インストール検査手順を使用して CICS システムが正しくセットアップされていることを確認します。
 5. ご使用の Web ユーザー・インターフェース・サーバーの基本モニターを考慮してください。Web ユーザー・インターフェース・サーバーは MAS として定義されているので、標準の CICSplex SM モニターを使用できます。

CICS Web サポートの構成

Web サポートを提供するよう Web ユーザー・インターフェースを構成できます。

1. Web ユーザー・インターフェースの初期設定時に、TCPIP SERVICE リソース定義が作成され、Web ユーザー・インターフェースによって開かれます。ただし、一時 TCPIP SERVICE リソース定義を作成して、CICS Web サポートのサンプル・アプリケーションを実行する必要があります。この一時 TCPIP SERVICE リソース定義は、CICS Web サポートのテストが終了した後で、Web ユーザー・インターフェース初期設定が開始する前に廃棄します。
2. SSL では、Web ユーザー・インターフェースは、鍵データベースのデフォルト証明書か名前付き証明書のいずれかを使用できます。ただし、ラベルに英数字文字のみが含まれ、最大文字数の 32 文字である場合に限り、名前付き証明書のみを使用となります。

Configuring CICS web support components では、CICS Web サポートの基本コンポーネントをセットアップする方法、および提供されているサンプル・プログラムを使用してその操作を検証する方法が説明されています。

SSL を使用するための CICS の構成 では、Secure Sockets Layer (SSL) を使用する際に必要な追加構成について取り上げられています。

WUI の CICS システム初期設定パラメーターの検討

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーのセットアップでは、これらのシステム初期設定パラメーターを検討して、CICS を正しく構成できるようにします。

1. CICS 共通作業域 (CWA) のストレージ・キー、および CICS システム初期設定パラメーター CWAKEY および WRKAREA の CWA に必要なストレージ量を指定します。

次の形式を使用します。

```
CWAKEY=CICS  
WRKAREA=2048
```

2. Web ユーザー・インターフェースの例外トレース・エントリーが、First Failure Data Capture を行うために必要とされたとおり確実に CICS auxtrace データ・セットに書き込まれるようにするには、CICS システム初期設定パラメーター USERTR、SYSTR、および AUXTR を指定します。

```
USERTR=ON  
SYSTR=OFF  
AUXTR=ON
```

3. CPSMCONN CICS システム初期設定パラメーターを指定して、CICS の初期設定時に CICSplex SM コードを自動的に開始し、領域を CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーとして初期化

します。システム初期設定パラメーターの使用は、初期設定およびシャットダウンのプログラム・リスト・テーブル (PLTPI および PLTSD) にある CICSplex SM WUI 初期設定プログラムとシャットダウン・プログラムを指定するための代替方法です。

```
CPSMCONN=WUI
```

4. 現地時間の次の午前 0 時に CICS 時刻とシステム時刻との差異が 30 分を超える場合 (例えば、夏時間および冬時間に合わせるために刻時設定を進めたり戻したりした場合) に CICS が行うアクションを指定します。

```
AUTORESETTIME=IMMEDIATE
```

引き続き、クライアントは CEMT PERFORM RESET コマンドを発行します。

夏時間調整のために CICSplex SM をセットアップして管理する方法については、[CICSplex SM の夏時間調整の変更処理](#)を参照してください。

5. CICSplex SM ローカル MAS の実行に必要な CICS システム初期設定パラメーターを指定することに加えて、適切な CICS システム初期設定パラメーターを指定して、ご使用の CICS のリリースで CICS Web インターフェース・サポートを使用可能にします。

WUI の言語およびコード・ページ情報の指定

Web ユーザー・インターフェースでは、INITPARM システム初期設定パラメーターによってサーバー言語とクライアント・コード・ページを指定する必要があります。

INITPARM パラメーターで、Web ユーザー・インターフェース・サーバーの言語を表すように EYU9VKEC をコード化し、クライアントのコード・ページを表すように EYU9VWAN をコード化します。

サーバー言語とクライアント・コード・ページは、[55 ページの表 4](#) から選択し、INITPARM パラメーターで指定することができます。

```
INITPARM=(EYU9VKEC='xxx',EYU9VWAN='yyyy')
```

xxx は Web ユーザー・インターフェース・サーバーの言語 ID、yyyy はクライアントのコード・ページ ID です。

表 4. INITPARM の言語 ID と コード・ページ ID			
言語	言語 ID (EYU9VKEC)	クライアント・コード・ページ	デフォルトのクライアント・コード・ページ ID (EYU9VWAN)
米国英語	ENU	ISO-8859-1 (819)	ENU1
日本語	JPN	Shift-JIS (943)	JPN1
中国語 (簡体字)	CHS	GB2312 (1381)	CHS1
中国語 (簡体字)	CHS	GB18030 (05488)	CHS2

例えば、選択した言語が英語の場合は、次のように INITPARM パラメーターをコード化します。

```
INITPARM=(EYU9VKEC='ENU',EYU9VWAN='ENU1')
```

1. 次の例に示すように、コード・ページ ID は、Web ユーザー・インターフェースへのアクセスで使用する Web アドレスのコード・ページ ID を置き換えることにより、個々のユーザー要求ごとにオーバーライドできます。

```
http://hostname:port/CICSplexSM/code page
```

hostname は TCPIPHOSTNAME Web ユーザー・インターフェース・サーバー初期設定パラメーターで指定される名前、port は TCPIPSPORT Web ユーザー・インターフェース・サーバー初期設定パラメーターで指定される値です。Web ユーザー・インターフェース・サーバー初期設定パラメーターについて

は、60 ページの『Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメーターの指定』を参照してください。

2. INITPARM システム 初期設定パラメーターが指定されていない場合や、EYU9VKEC または EYU9VWAN に値が指定されていない場合、言語のデフォルト値は ENU に、コード・ページのデフォルト値は ENU1 になります。ただし、デフォルト値が使用されるたびに、オペレーター・メッセージが発行されます。
3. 中国語 (簡体字) WUI サーバーは、GB2312 (CHS1) または GB18030 (CHS2) のいずれか一方を使用してクライアントの Web ブラウザーをサポートできます。GB2312 クライアントの場合、サーバーは EBCDIC コード・ページ 935 を使用します。GB18030 クライアントの場合、サーバーはコード・ページ 935 のスーパーセットである 2 番目の EBCDIC コード・ページ 1388 を想定します。

GB2312 クライアントの Web ブラウザーを使用して編集されたビュー・セットとメニューは、935 に保管され、いずれのクライアント・コード・ページでも使用可能になります。ただし、ビュー・セットまたはメニューが GB18030 クライアントを使用して編集され、935 では使用不可の文字が使用されている場合は、出力されるビュー・セットまたはメニューが GB2312 クライアントに正しく表示されません。

4. Web ブラウザーの中には、選択可能なクライアント・コード・ページの一部をサポートしないものもあります。例えば、以前の Web ブラウザーの多くは GB18030 をサポートしません。

WUI のコード・ページ変換テーブルの準備

SDFHLOAD ライブラリーで提供される DFHCNV のデフォルトのバージョンを使用することができます。これには、CICSplex SM コード・ページが自動的に組み込まれています。

独自の DFHCNV ソース・モジュールのバージョンを使用する場合、変換テーブル・ロード・モジュールを保守するための CICS プロシージャを使用して、モジュールをアセンブルおよびリンク・エディットしてください。

例であるサンプル集は EYU\$CNV1 と呼ばれる CICSTS56.CPSM.SEYUSAMP にあり、テーブルのアセンブル時に DFHCNV に自動的に追加される項目を示します。このサンプル集には、言語とクライアント・コード・ページの、サポートされているすべての組み合わせのエントリーが入っています。

EYUENU1

英語のエントリー

EYUJPN1

日本語のエントリー

EYUCHS1

中国語 (簡体字) のエントリー (GB2312 クライアント)

EYUCHS2

中国語 (簡体字) のエントリー (GB18030 クライアント)

DFHCNV ソースに、EYU\$CNV1 のコピー・ステートメントを組み込む必要はありません。

注: EYU\$CNV1 サンプルではなく、DFHCNVW \$ サンプルを使用してください。EYU\$CNV1 サンプルは、CICSplex SM 変換定義について紹介するためにだけ用意されたものです。ただし、定義は DFHCNV マクロによって生成されるので、DFHCNV テーブルに明示的に追加する必要はありません。CICS で提供される DFHCNV テーブルには、DFHWPUD および DFHWPBH 用のエントリーも含まれますが、これらのエントリーの修正が必要となるのは、異なるコード・ページを使用する場合のみとなります。

Web ユーザー・インターフェース・サーバー・リポジトリ (EYUWREP) の作成

Web ユーザー・インターフェースのサーバー・リポジトリ (EYUWREP) には、Web ユーザー・インターフェース・サーバーのビュー定義とメニュー定義が入っています。

IDCAMS ユーティリティーを使用して、これらの定義の VSAM ファイルを作成できます。


```

DEFINE CLUSTER (
NAME( dsname )
VOLUMES( dsvol )
RECORDS( 5000 5000 )
RECORDSIZE( 8192 32000 )
CONTROLINTERVALSIZE( 8192 )
SPANNED
INDEXED
KEYS( 20 20 )
SHAREOPTIONS( 2 )
)

```

図 4. Web ユーザー・インターフェース・リポジトリを作成するためのサンプル定義

デフォルトでは、各 Web ユーザー・インターフェース・サーバーには、他の Web ユーザー・インターフェース・サーバーと共用されない、固有の Web ユーザー・インターフェースのサーバー・リポジトリがあります。

インポート機能とエクスポート機能を使用して定義をアップグレードします。詳しくは、[WUI の管理](#)を参照してください。

ビュー・エディターを使用して変更を加える場合、または COVC トランザクションを使用して定義をインポートする場合には、Web ユーザー・インターフェースのサーバー・リポジトリが更新されるたびに、リポジトリのデータをバックアップします。Web ユーザー・インターフェース・リポジトリは、IDCAMS、DFSMSdss、または同等のユーティリティを使用してバックアップできます。

サンプル JCL、EYUJWREP により、Web ユーザー・インターフェース・リポジトリが作成されます。サンプル JCL は、TDFHINST ではカスタマイズされていない状態で、XDFHINST では DFHISTAR によってカスタマイズされて提供されています。

Web ユーザー・インターフェースのサーバー・リポジトリ (EYUWREP) の共用

同じ CICSplex SM リリースで実行されている複数の WUI サーバーの間で Web ユーザー・インターフェースのサーバー・リポジトリを共用できます (ただし VSAM RLS を使ってリポジトリにアクセスする場合)。WUI サーバー・リポジトリを共用できるようにするには、次の手順を実行します。

1. パラメーター **RLS=YES** を DFHSIT テーブルに追加するか、システム初期設定パラメーターをオーバーライドするときにそのパラメーターを追加します。
2. IDCAMS 機能を使用して VSAM ファイルを作成するときに、**LOG(UNDO)** パラメーターをリポジトリ・ファイル定義に追加します。

初期設定中、Web ユーザー・インターフェース・サーバーは、そのリポジトリで RLS を使用可能にするかどうかを判別し、EYUWREP ファイルおよび enqmodel 定義に適切な属性を設定します。

パフォーマンス向上のため、Web ユーザー・インターフェース・サーバーは、オブジェクトをメモリー内のキャッシュに入れます。1つのサーバーにログオンしているユーザーがビュー・エディター、ユーザー・エディター、またはお気に入りエディターを使用してオブジェクトを作成または更新した場合、そのサーバー・リポジトリを共用する他のサーバーにログオンしているユーザーには、自分のローカル・キャッシュが再ロードされるまで変更内容が示されない可能性があります。キャッシュは、サーバーを再始動することによって再ロードされます。

WUI データ・セットの作成とカスタマイズ

DFHISTAR を使用すると、DFHISTAR ジョブを実行依頼するときに設定するパラメーターに従って、Web ユーザー・インターフェース (WUI) サーバー・データ・セットの作成とカスタマイズができます。

WUI 用の DFHISTAR インストール後メンバー

SCOPE を POST または ALL にして DFHISTAR を実行すると、CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース (WUI) サーバー用の以下のインストール後メンバーが XDFHINST ライブラリーに作成されます。

- EYUWUIDS - WUI 用のすべてのデータ・セットの作成と始動を行います。EYUWUIDS には、必要に応じてジョブを再実行できるよう、データ・セットの削除を行うステップも含まれています。これらの削除

は、最初にジョブを実行するときには失敗することが予期されています。EYUWUIDS には以下のステップが含まれています。

- DELWREP が CICSplex SM WUI データ・リポジトリ EYUWREP を削除します。
- DEFWREP が CICSplex SM WUI データ・リポジトリ EYUWREP を定義します。
- DELCOVDS が、WUI インポートおよびエクスポート・データ・セット EYUCOVI および EYUCOVE を削除します。
- DEFCOVDS が、WUI インポートおよびエクスポート・データ・セット EYUCOVI および EYUCOVE を定義します。
- DFHISTAR JES=JES3 オプションを指定する場合は、JES3DELA および JES3DEFA が組み込まれます。これらは、CICS ローカル・カタログ、グローバル・カタログ、およびローカル要求キューの削除と定義を行います。
- DELREGDS が CICS データ・セットを削除します。
- DEFTRACE が CICS 補助トレース・データ・セット DFHAUXT および DFHBUXT を定義します。
- DEFHTML が CICS DFHHTML データ・セットを定義します。
- DEFDMPS が CICS トランザクション・ダンプ・データ・セット DFHDMPA および DFHDMPB を定義します。
- DEFTSTD が CICS 補助一時記憶域データ・セット DFHTEMP を定義します。
- DEFINTD が CICS 区画内一時データ・セット DFHINTRA を定義します。
- DEFLCD が CICS ローカル・カタログ DFHLCD を定義します。
- INITLCD が DFHCCUTL ユーティリティーを使用して CICS ローカル・カタログを開始します。
- DEFGCD が CICS グローバル・カタログ DFHGCD を定義します。
- INITGCD が DFHRMUTL ユーティリティーを使用して CICS グローバル・カタログを開始します。
- DEFLRQ が CICS ローカル要求キュー・データ・セット DFHLRQ を定義します。
- DFHISTAR JES=JES3 オプションを指定する場合は、JES3DELA および JES3DELB が組み込まれます。これらは、CICS DFHCSD データ・セットの削除と定義を行います。
- DELCSD が CICS DFHCSD データ・セットを削除します。
- DEFCSD が CICS DFHCSD データ・セットを定義します。
- INITCSD が DFHCSDUP ユーティリティーを使用して DFHCSD データ・セットを開始します。
- EYUJWREP: WUI データ・リポジトリ EYUWREP を作成します。EYUWUIDS には、EYUWREP の削除と定義を行うためのステップが含まれています。EYUWREP のみの削除と定義を行い、WUI 用の他のデータ・セットの削除と定義を行わない場合には、EYUJWREP を実行できます。
 - DELWREP: CICSplex SM WUI データ・リポジトリ EYUWREP を削除します。
 - DEFWREP: CICSplex SM WUI データ・リポジトリ EYUWREP を定義します。
- EYUWUIISP - WUI 用の CICS システム初期設定パラメーターの指定変更値。
- EYUWUIOP - WUI 用の CICSplex SM EYUPARM パラメーター。
- EYUWUIIN - WUI 用の CICSplex SM EYUWUI パラメーター。
- EYUWUIP - WUI を開始します。
- EYUWUIJ - EYUWUIP を起動します。

CICSplex SM パラメーターのデフォルト値を使用する場合、EYUWUIP PROC ステートメントは次に示されているサンプル・コードのようになります。

```
EYUWUIP PROC DSNCSO='CICSTS56.CPSM.WUINCM01.DFHCSD',
  RGNHLQ='CICSTS56.CPSM.WUINCM01',
  CICSRLQ='CICSTS56.CICS',
  CPSMHLQ='CICSTS56.CPSM',
  PRMLIB='CICSTS56.XDFHINST',
  CICSPRM=EYUWUIISP,
  CPSMPRM=EYUWUIOP,
  WUIPRM=EYUWUIIN
```

CICS Parameters
CPSM Parameters
WUI Parameters

DFHISTAR を使用したインストール後ジョブのカスタマイズ

DFHISTAR を使用して、異なる CICS 領域用の WUI インストール後ジョブのコピーを生成することができます。DFHISTAR SELECT パラメーターを使用して、インストール後ジョブのコピーの新規名を指定します。形式は次のとおりです。

```
SELECT jobname newname
```

jobname

再生成するジョブの名前です。

newname

新規コピーの名前です。

複数の SELECT パラメーターを指定し、DFHISTAR ジョブの単一の実行で再生成する複数のジョブを選択することができます。いったん DFHISTAR ジョブに SELECT パラメーターを組み込むと、SELECT に指定したジョブだけが生成されます。

名前が WUINCM02 で CICS システム ID が WU02 である WUI が、名前が CMAS02 で CICS システム ID が CM02 である CMAS と接続する場合、DFHISTAR パラメーターを変更して次のオプションを指定することができます。

```
CMASNAME CMAS02
CMSSYSID CM02
WUIPLEX WUIPCM02
WUINAME WUINCM02
WUISYSID WU02
TCPIPST TCP/IP host name for this WUI
TCPIPRT TCP/IP port number for this WUI
SELECT EYUWUIDS WU02WUUDS      JCL to create the data sets for WUINCM02
SELECT EYUWUIISP WU02WUISP      CICS SIT overrides for WUINCM02
SELECT EYUWUIOP WU02WUOP        CICSplex SM EYUPARM parameters for WUINCM02
SELECT EYUWUIIN WU02WUIN        CICSplex SM EYUWUI parameters for WUINCM02
SELECT EYUWUIJ CW02WUIJ         JCL statement
SELECT EYUWUIP CW02WUIP         PROC statement
```

それから、次のコマンドでプロシージャ EYUWUIP を使用して、WUI WUINCM02 を開始することができます。

```
START EYUWUIP, DSNCSID='CICSTS56.CPSM.WUINCM02.DFHCSID',
RGNHLQ='CICSTS56.CPSM.WUINCM02', CICSHLQ='CICSTS56.CICS',
CPSMHLQ='CICSTS56.CPSM', PRMLIB='CICSTS56', CICSPRM=WU02WUISP, CPSMPRM=WU02WUOP,
WUIPRM=WU02WUIN
```

EYUWUIJ を使用して WUI を開始する場合、これを編集して次の値を指定します。

```
CICSPRM=WU02WUISP, CSMPRM=WU02WUOP, WUIPRM=WU02WUIN
```

WUI のカスタマイズ可能ビューおよびメニュー・ヘルプ・データ・セットの指定

Web ユーザー・インターフェースでサイトを 使用して、個々のビューおよびメニューに関するカスタマイズされたヘルプを提供できます。

このヘルプは HTML 形式の文書で、Web ユーザー・インターフェース・サーバーまたは外部サーバーによってサービスが提供されます。Web ユーザー・インターフェースで HTML 文書のサービスを提供する場合は、HTML 文書を含む区分データ・セットを提供する必要があります。

ビュー・エディターを使用してビューおよびメニューをカスタマイズし、カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプ・データ・セットへのリンクを組み込むことができます。ビュー・エディターでは、次のオプションを指定できます。

- このビューまたはメニューで使用可能なヘルプなし
- DFHHTML から Web ユーザー・インターフェースによってサービスが提供されるヘルプ・ページのメンバー名
- 別の HTTP サーバーによってサービスが提供される外部ヘルプ・ページの Web アドレス

ビュー・エディターについては、[Web ユーザー・インターフェースのカスタマイズ](#) を参照してください。

カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプ・データ・セット (DFHHTML) は、単一のデータ・セットにする必要があります。他のデータ・セットと連結しないでください。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメーターの指定

Web ユーザー・インターフェース (WUI) サーバーの初期設定パラメーターは、始動ジョブまたは固定ブロック 80 のデータ・セットで指定できます。

CICSplex SM WUI サーバー初期設定パラメーターに対する変更のリリース別の要約については、[CICSplex SM の変更点](#) を参照してください。

DD 名については、69 ページの『[WUI の JCL DD ステートメントの指定](#)』を参照してください。これらのパラメーターはすべて、特に断りがない限り、以下の条件に従います。

- 列 1 のアスタリスク付きの行はコメントであり、無視される。
- 値には小文字を含めることができない。
- 値は、パラメーターのすぐ後に続く括弧内で指定しなければならない。
- 値は 32 文字より長くすることはできない。

例

```
* An EYUWUI parameter data set
DEFAULTMENU(OURHOME)
TCPIPHOSTNAME(MVSXX.COMPANY.COM)
TCPIPPORT(4445)
CMCIPOPT(4446)
```

WUI の必須パラメーター

Web ユーザー・インターフェース・サーバーを初期設定するために、TCPIPHOSTNAME および TCPIPPORT パラメーターを設定します。Web ユーザー・インターフェースは、すべてのパラメーターに対して最大長 44 文字の名前をサポートしています。

TCPIPHOSTNAME(name)

この Web ユーザー・インターフェース・サーバーの TCP/IP ホスト名を指定します。通常この名前は、MVS システムのホスト名とドメイン名 (つまり、完全修飾名) ですが、コロン 16 進またはドット 10 進形式の固有の IP アドレスになる場合もあります。ホスト名は、クライアントの HTTP バージョンと TCPIPHOSTNAME Web ユーザー・インターフェース・サーバー・パラメーターの値に応じて、Web アドレスを構成するために通常 Web ユーザー・インターフェースによって使用されます。

この値は、常に DATA/CONNECT Web ユーザー・インターフェースのデータ・インターフェース要求の TCPIPHOSTNAME ヘッダーの中で返されます。

TCPIPPORT(value)

Web ユーザー・インターフェースに割り振ったポートの TCP/IP ポート番号を指定します。

WUI のオプション・パラメーター

Web ユーザー・インターフェース・サーバーをセットアップするときに、いくつかのオプションの初期設定パラメーターを指定できます。特定の環境では特定のパラメーターが必要です。例えば、CICS 管理クライアント・インターフェース (CMCI) を CICSplex SM と共に使用するには、**CMCIPOPT** パラメーターを設定する必要があります。

TCP/IP オプション

追加の TCP/IP パラメーターを指定して、TCP/IP 接続を構成することができます。Web ユーザー・インターフェースは、すべてのオプションに対して最大長 44 文字の名前をサポートしています。

TCPIPADDRESS(name | INADDR_ANY)

Web ユーザー・インターフェースが着信要求を listen するときのドット 10 進またはコロン 16 進 IP アドレスを指定します。INADDR_ANY が指定されている (デフォルト) 場合、Web ユーザー・インターフェースは、認識されているアドレスのいずれかで z/OS ホストの TCP/IP を listen します。

通常は、z/OS ホストに複数の TCP/IP アドレスが存在しない限り、TCPIPADDRESS パラメーターを指定する必要はありません。

TCPIPHTTPHOST(NO|YES)

Web アドレスの構成に使用される TCP/IP ホスト名を、HTTP バージョン 1.1 要求以降の着信 HTTP 要求に基づいて生成する必要があるかどうかを示します。

このオプションは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーに送信される HTTP 1.1 以前の要求には影響しません。Web ユーザー・インターフェース・サーバーは、常に HTTP 1.0 (およびそれ以前) 要求の **TCPIPHOSTNAME** パラメーターで指定されるホスト名を使用して Web アドレスを構成します。

NO

HTTP 1.1 (以降) 要求の場合、Web ユーザー・インターフェース・サーバーによって構成される Web アドレスで使用されるホスト名は、**TCPIPHOSTNAME** パラメーターで指定される値に基づいています。

YES

HTTP 1.1 (以降) 要求の場合、Web ユーザー・インターフェース・サーバーによって構成される Web アドレスで使用されるホスト名は、HTTP 1.1 規格に従った着信 URI または HTTP の「Host」ヘッダーに基づいています。

HTTP 1.1 クライアントを **TCPIPHTTPHOST(YES)** が実行される Web ユーザー・インターフェース・サーバーで使用する場合は、サーバーで使用される IP アドレスまたは名前を、HTTP 1.1 クライアントによって使用される IP アドレスまたは名前と同じにする必要はありません。こうすることで、名前アドレス変換 (NAT) が実行されたときに (ファイアウォールなどによる)、Web ユーザー・インターフェースの使用が可能になります。

TCPIPSSL(YES) を **TCPIPHTTPHOST(YES)** と共に使用し、HTTP 1.1 クライアントを異なる IP アドレス名を使用すると、ホスト名の不一致により SSL 証明書の警告を受け取る可能性があります。

TCPIPSSL(NO|YES|ATTLBSBASIC)

Web ユーザー・インターフェース・サーバーと Web ブラウザーの間でデータ暗号化が必要かどうかを示します。

NO

Web ユーザー・インターフェース・サーバーと Web ブラウザーの間でデータの暗号化は必要ありません。

YES

YES を選択した場合は、適切なシステム初期設定パラメーターを指定して、CICS Web インターフェースの SSL サポートを有効にしてください。詳細については、[CICS Web サポートでの SSL](#) を参照してください。

さらに、オプションの **CMCISSL** パラメーターに値 NO または ATTLBSAWARE が設定されている場合を除き、**TCPIPSSLCERT** および **TCPIPSSLCIPHERS** 設定が常に適用されます。

ATTLBSBASIC

ATTLBSBASIC を選択する場合は、**TCPIPSPORT** パラメーターを指定して、z/OS Communications Server が AT-TLS ポートとして実行するように構成されているポートを指定する必要があります。AT-TLS について詳しくは、[z/OS Communications Server: Application Transparent Transport Layer Security \(AT-TLS\)](#) を参照してください。

TCPIPSSLCERT(name)

Web ユーザー・インターフェースと Web ブラウザーの間の接続で使用する SSL 証明書のラベルを指定します。明示的な証明書を指定する場合は、ラベルを 44 文字より長くしてはなりません。

デフォルトは、鍵リングの中のデフォルト証明書です。このフィールドでは大/小文字の区別がありません。大文字には変換されません。

TCPIPSSLCIPHERS(cipher_list)

TCPIPSSLCIPHERS 属性は、次の 2 とおりの方法で指定できます。

- 最大 22 の 2 桁の暗号スイート・コードのリストとして解釈される、最大 44 の 16 進数字のストリングです。

- SSL 暗号スイート仕様ファイルの名前。これは、**USSCONFIG** システム 初期設定パラメーターにより指定されているディレクトリーの security/ciphers サブディレクトリー にある z/OS UNIX ファイルのことです。たとえば、**USSCONFIG** が /var/cicsts/dfhconfig に設定されており、**TCPIPSSLCIPHERS** が strongciphers.xml に設定されている場合、全修飾ファイル名は /var/cicsts/dfhconfig/security/ciphers/strongciphers.xml になります。

暗号スイート・コードは、SSL 通信に Web ユーザー・インターフェース・サーバーでサポートされる一連のアルゴリズムを記述するのに使用されます。TCPIPSSLCIPHERS パラメーターを指定しない場合は、Web ユーザー・インターフェース・サーバーが使用するシステム 初期設定オプションの ENCRYPTION を使用して、暗号スイートが設定されます。

詳しくは、[暗号スイートおよび暗号スイート仕様ファイルを参照してください](#)。

CMCI オプション

追加のパラメーターを指定して、CICSplex SM での CMCI の使用を有効にすることができます。CMCI のデフォルトは、CICS システム 初期設定パラメーター **SEC** および WUI サーバー 初期設定パラメーター **TCPIPSSL** から導出されます。**TCPIPSSL** が YES に設定されている場合、CMCI は **TCPIPSSLCERT** および **TCPIPSSLCIPHERS** パラメーターを使用します。

オプションの **CMCIAUTH** および **CMCISSL** パラメーターが指定されている場合、CMCI はこれらのパラメーターを使用してセキュリティのレベルを定義します。**CMCISSL** が YES または CLIENTAUTH に設定されている場合、CMCI は **TCPIPSSLCERT** および **TCPIPSSLCIPHERS** パラメーターを使用します。**CMCIAUTH** および **CMCISSL** の影響を受ける TCIPSERVICE 属性の詳細については、[TCIPSERVICE の属性を参照してください](#)。

CMCIORT(value)

CICS 管理クライアント・インターフェース (CMCI) に割り振られる TCP/IP ポート番号を指定します。CICSplex SM 環境で CMCI を使用するには、このパラメーターが必要です。1 から 65535 までの範囲で番号を指定しますが、TCPIPPORT パラメーターで WUI に指定したのと同じポート番号を使用しないでください。このパラメーターを設定した場合、CMCI をサポートするために TCIPSERVICE および URIMAP 定義が自動インストールされます。あるいは、CMCI JVM サーバーが構成されている場合は、このポートを使用するように指示されます。

CMCIAUTH(NO | BASIC | CERTIFICATE | AUTOREGISTER | AUTOMATIC)

CMCI TCIPSERVICE AUTHENTICATE 属性または CMCI JVM サーバー 認証構成の設定を指定します。**CMCIAUTH** を指定する場合は、**CMCISSL** も指定する必要があります。

CMCISSL(NO | YES | CLIENTAUTH | ATTLISAWARE)

CMCI TCIPSERVICE SSL 属性または CMCI JVM サーバー SSL 構成の設定を指定します。**CMCISSL** を指定する場合は、**CMCIAUTH** も指定する必要があります。

注：このパラメーターに値 NO または ATTLISAWARE を設定した場合、**TCPIPSSLCERT** および **TCPIPSSLCIPHERS** 設定は無視されます。

インポート・オプション

インポート・オプションを使用すると、Web ユーザー・インターフェースから自動的に WUI データ・リポジトリ定義をインポートできます。WUI データ・リポジトリには、ビュー・セットとメニュー、WUI マップ・オブジェクト、ユーザー・オブジェクト、およびユーザー・グループ・プロファイルが含まれます。定義は、指定された一時データ・キューまたはデータ・セット、あるいはその両方からインポートできます。

自動インポートは、COVC トランザクションのインポート機能に対する代替方法です。自動インポートを使用する場合、3 つのパラメーターをすべて使用して、一時データ・キューおよびデータ・セットを指定することができます。COVC を使用する場合、1 回のインポート操作で指定できるのは、一時データ・キューまたはデータ・セットのいずれかに制限されています。

AUTOIMPORTDSN(*dsn_name*)

IBM 提供のビュー定義およびメニュー定義を含むデータ・セットの名前を指定します。現在、提供された WUI ビュー定義およびメニュー定義のセットは、SEYUVIEW データ・セットに入っています。AUTOIMPORTDSN 名を指定する場合、AUTOIMPORTMEM パラメーターを使用してデータ・セット・メンバーの名前を指定する必要があります。

AUTOIMPORTDSN および AUTOIMPORTMEM パラメーターを使用するのは、(PTF による) サービスの結果として、特定の IBM 提供のビュー・セットおよびメニュー定義をインポートする場合です。

AUTOIMPORTMEM(*member_name*)

インポートする特定の IBM 提供のビューおよびメニューの定義を含むデータ・セット・メンバー (複数可) の名前を指定します。名前の末尾にアスタリスクを使用して、同じ文字で始まるデータ・セット・メンバーのグループを指定できます。例えば、AUTOIMPORTDSN における IBM 提供の SEYUVIEW データ・セットに AUTOIMPORTMEM(EYUEA*) を指定すると、文字 EYUEA で始まるすべてのメンバーをインポートします。

AUTOIMPORTDSN および AUTOIMPORTMEM パラメーターを使用するのは、(PTF による) サービスの結果として、特定の IBM 提供のビュー・セットおよびメニュー定義をインポートする場合です。

AUTOIMPORTTDQ(*tdq_name*)

CICS 区画外一時データ・キューの名前を指定します。このキューから、サーバーの初期設定時に、WUI データ・リポジトリ定義の完全なセットをサーバーによってインポートします。このオプションを使用するには、値を明示的に入力します。ただし、自動的なデフォルトはなく、キュー名 COVI (DD 名 EYUCOVI) は、サンプル EYUEWDEF で示したように定義されます。

AUTOIMPORTTDQ パラメーターを使用するのは、WUI サーバーを初めて始動する場合、またはユーザーが既に CICSplex SM ユーザーであり、独自にカスタマイズされた定義を含む他のデータ・リポジトリ定義を、既存のデータ・セットにインポートする場合です。インポート操作を実行するためにリソースが必要になるので、それ以外の場合にはこのパラメーターの使用を避けてください。

データ・フォーマット・オプション

これらのオプションにより、Web ユーザー・インターフェース・ディスプレイへの表示方法を決定します。

CVDASTYLE(MIXED | UPPER)

CVDA や EYUDA を大文字と大/小文字混合の文字のどちらで表示するかを示します。

MIXED

大/小文字混合テキストです。例えば「Enabled」のように、先頭の文字が大文字で、残りの文字が小文字になります。

UPPER

テキストが大文字だけで表示されます。

DATEFORMAT (format | MMDDYY)

Web ユーザー・インターフェース・ディスプレイに日付を表示するときに使用する形式を指定します。

YYMMDD

DDMMYY

MMDDYY

YYYYMMDD

DDMMYYYY

MMDDYYYY

ここで、

DD

日。

MM

月。

YY

2 桁の形式の年。

YYYY

4 桁の形式の年。

DATESEPARATOR(character | /)

Web ユーザー・インターフェース・ディスプレイの日付エレメントを区切るために使用する文字を指定します。

DECIMALSEPARATOR(character | .)

Web ユーザー・インターフェース・ディスプレイの小数点を示すために使用する文字を指定します。

GMMTEXTMSG(NO | YES | BEFORE | AFTER)

CICS の「good morning」メッセージの処理方法を指定します。

NO

メッセージは発行されません。

YES

メッセージはサインオンの前後に発行されます。

BEFORE

メッセージはサインオンの前にのみ発行されます。

AFTER

メッセージはサインオンの後にのみ発行されます。

MSGCASE (MIXED | UPPER)

メッセージがオペレーターに対するものか、EYULOG を大/小文字混合または大文字で表示するかどうかを示します。

MIXED

大/小文字混合テキストが表示されます。例えば「Enabled」のように、先頭の文字が大文字で、残りの文字が小文字になります。

大文字小文字混合を指定した場合は、カタカナ表示の端末では、小文字がカタカナとして誤って表示される可能性があります。

UPPER

テキストが大文字だけで表示されます。

デフォルトは MSGCASE(MIXED) ですが、すべての EYUWUI パラメーターが読み込まれてから有効になります。TCPIPSSLCERT など、特定の EYUWUI パラメーターには、大/小文字混合の値が含まれる場合があります。これらは、MSGCASE(MIXED) が EYUWUI 入力ストリームで第 1 パラメーターになっている場合を除き、EYULOG に大文字でエコー出力されます。

THOUSNDSEPARATOR(character | ,)

必要な場合に Web ユーザー・インターフェース・ディスプレイでの数を 1000 桁ごとに区切るために使用する文字を指定します。例えばデフォルトを使用する場合、100 000 は 100,000 として表示されます。

1. スペース文字 (16 進数の 40) は有効な THOUSNDSEPARATOR 値で、数字をスペースによってまとめることができます。
2. 0 (ゼロ) を使用して THOUSNDSEPARATOR 値を抑止します。
3. THOUSNDSEPARATOR 値は、個々のビュー定義で必要とされる場合にのみ使用されます。

TIMESEPARATOR(character | :)

Web ユーザー・インターフェース・ディスプレイの時、分、および秒数を区切るために使用する文字を指定します。

環境オプション

これらのオプションは、コンテキストとスコープの値、ホーム・メニューとナビゲーション・フレーム、デフォルトのマップ・オブジェクト、および新しく開いたマップの外観を指定します。

AUTOREFRESH(YES | NO)

WUI サーバーの自動最新表示オプションを使用不可にします。デフォルト設定の YES では、ビュー定義に基づいた自動最新表示制御が表示されます。NO を指定すると、ビュー定義で自動最新表示制御が

設定されている場合でも、自動最新表示制御は表示されません。自動最新表示オプションについて詳しくは、[ビューの最新表示](#)を参照してください。

DEFAULTCMASCTXT(name | EYUCMS1A)

ユーザーが Web ユーザー・インターフェースにサインオンするときに設定される CMAS コンテキストを指定します。

DEFAULTCONTEXT(name | EYUPLX01)

ユーザーが Web ユーザー・インターフェースにサインオンするときに設定されるコンテキストを指定します。

DEFAULTMAPBAS(name | EYUSTARTMAPBAS)

ビジネス・アプリケーション・サービスの定義のマップを生成するために使用されるマップ・オブジェクトの名前を指定します。

DEFAULTMAPCOLL(value | 0)

生成されたマップの行数が、ここに指定した数に満たない場合、マップは展開された状態で開かれます。表示される行数がこの数よりも大きい場合、マップは完全に省略された状態で開かれます。デフォルト値 0 の場合は、生成されたマップを開くと、すべての行が表示されます。

DEFAULTMAPMON(name | EYUSTARTMAPMON)

モニター定義のマップを生成するために使用するマップ・オブジェクトの名前を指定します。

DEFAULTMAPRTA(name | EYUSTARTMAPRTA)

リアルタイム分析の定義のマップを生成するために使用するマップ・オブジェクトの名前を指定します。

DEFAULTMAPWLM(name | EYUSTARTMAPWLM)

ワークロード管理の定義のマップを生成するために使用するマップ・オブジェクトの名前を指定します。

DEFAULTMENU(name | EYUSTARTMENU)

Web ユーザー・インターフェースにサインオンした後にユーザーに表示されるメニュー名を指定します。

DEFAULTNAVIGATE(name | EYUSTARTNAVIGATE)

Web ユーザー・インターフェースにサインオンした後にユーザーに表示されるナビゲーション・フレーム名を指定します。

DEFAULTSCOPE(name | EYUPLX01)

ユーザーが Web ユーザー・インターフェースにサインオンするときに設定されるスコープを指定します。

DEFAULTWARNCNT(value)

レコード・カウント警告メカニズムを起動するために必要なレコード数を指定します。この整数値は 0 から 99999999 の範囲で、デフォルト値は 0 であり、これは警告が発行されないことを意味します。このオプションは、WUI および CICS 管理クライアント・インターフェース (CMCI) の両方の動作に影響します。

WUI についてのみ、WUI ユーザー・グループをセットアップするときに、ユーザーのグループに適用するレコード・カウント警告値を設定することもできます。ユーザー・グループの DEFAULTWARNCNT の設定は、セキュリティを有効にして WUI を実行する場合にのみ、WUI に適用されます。ユーザー・グループに設定される値は、そのグループのユーザーに対する DEFAULTWARNCNT パラメーターの設定値よりも優先されます。

GLOBALPREFILTER(YES | NO)

ビューがはじめて表示されるとき (データ収集の前) にフィルター・パラメーターを指定します。WUI ユーザー・グループをセットアップするときに、このパラメーターを指定することもできます (セキュリティが有効になった状態で WUI が実行される場合)。ユーザー・グループに設定される値は、そのグループのユーザーについての GLOBALPREFILTER パラメーターの設定値よりも優先されます。

RESOURCELIMIT(WARNING | FAIL)

リソースの限界に達したときに警告または障害を発行するかどうかを指定します。

WARNING

WUI の場合のみ、デフォルト設定の WARNING ではメッセージ EYUVC1258W が発行され、ユーザーが「OK」を選択すると警告しきい値を迂回できます。

CMCI の場合のみ、CMCI はメッセージ DFHWU4302 を含む HTTP 403 応答で応答します。ユーザーは、CMCI 要求 URI オプション **OVERRIDEWARNINGCOUNT** を使用して警告しきい値をバイパスできます。

FAIL

WUI の場合のみ、FAIL を指定するとメッセージ EYUVC1267E が発行され、新規リソース要求は拒否されます。

CMCI の場合のみ、CMCI はメッセージ DFHWU4302 を含む HTTP 403 応答で応答し、新しいリソース要求を拒否します。

操作オプション

操作オプションにより、Web ユーザー・インターフェースがビュー・セット名を指定せずにオブジェクト名を指定した外部要求を受け取る場合に使用する、デフォルトのビュー・セットを名前指定します。このオプションで名前指定するビュー・セットで、指定できるオブジェクトを示す必要があります。詳しくは、[Providing access to WUI views and menus](#) を参照してください。

これらのパラメーターは、この方法で Web ユーザー・インターフェース・ディスプレイを起動しない場合は無視できます。

DEFAULTCICSplex(name | EYUSTARTCICSplex)

デフォルトの CICSplex ビュー・セットの名前を指定します。

DEFAULTCICSrgn(name | EYUSTARTCICSrgn)

デフォルトの CICS 領域ビュー・セットの名前を指定します。

DEFAULTCONNECT(name | EYUSTARTCONNECT)

デフォルトの接続ビュー・セットの名前を指定します。

DEFAULTCSysgrp(name | EYUSTARTCSysgrp)

デフォルトの CICS システム・グループ・ビュー・セットの名前を指定します。

DEFAULTDB2SS(name | EYUSTARTDB2SS)

デフォルトの Db2 サブシステム・ビュー・セットの名前を指定します。

DEFAULTEJCObean(name | EYUSTARTEJCObean)

CorbaServer ビュー・セットのデフォルトのエンタープライズ Bean の名前を指定します。

DEFAULTEJDJbean(name | EYUSTARTEJDJbean)

CICS 配置 JAR ファイル・ビュー・セットのデフォルトのエンタープライズ Bean の名前を指定します。

DEFAULTEVENT(name | EYUSTARTEVENT)

デフォルトのイベント・ビュー・セットの名前を指定します。

DEFAULTLOCfile(name | EYUSTARTLOCfile)

デフォルトのローカル・ファイル・ビュー・セットの名前を指定します。

DEFAULTLOCTRAN(name | EYUSTARTLOCTRAN)

デフォルトのローカル・トランザクション・ビュー・セットの名前を指定します。

DEFAULTPROGRAM(name | EYUSTARTPROGRAM)

デフォルトのプログラム・ビュー・セットの名前を指定します。

DEFAULTREMfile(name | EYUSTARTREMfile)

デフォルトのリモート・ファイル・ビュー・セットの名前を指定します。

DEFAULTREMTRAN(name | EYUSTARTREMTRAN)

デフォルトのリモート・トランザクション・ビュー・セットの名前を指定します。

DEFAULTTASK(name | EYUSTARTTASK)

デフォルトのタスク・ビュー・セットの名前を指定します。

ユーザー・オプション

これらのオプションは、構成できるユーザー設定を指定します。

INACTIVETIMEOUT(value | 30)

非アクティブなユーザー・セッションが終了するまでの期間を分単位で指定します。最大許可期間は 10080 分 (7 日間) です。

MAXUSERS(value | 20)

Web ユーザー・インターフェースの同時ユーザーの最大数を指定します。同時ユーザーの最大許可数は 50 人です。

SIGNONPANEL(BASIC | ENHANCED)

Web ユーザー・インターフェース・サーバーが CICS セキュリティーをアクティブ (システム初期設定パラメーターで SEC=YES) にしている場合、Web ユーザー・インターフェースのサインオン・パネルが以下のアクションのいずれかを行うかどうかを指定します。

- GROUP オプションを表示する
- 直前に使用した USER および GROUP 値を保管する
- 入力が必要なサインオン・フィールドにカーソルを置く

デフォルト値 ENHANCED が指定されている場合は、GROUP オプションがサインオン画面に表示され、以下のイベントが発生します。

- ユーザーが値を入力する場合、サインオンが続行し、次のようになります。
 - 指定されたグループにユーザー ID が接続されている場合、グループは WUI ユーザー・グループ・プロファイルに使用されます。
 - 指定されたグループにユーザー ID が接続されていない場合、またはグループ名が無効な場合には、サインオンは続行しますが、WUI グループ・プロファイルはユーザーのデフォルト・グループに設定され、サインオンが完了した後に、メッセージ EYUVC1227W が WUI ユーザーに発行されます。メッセージ EYUVS0024W は WUI サーバーの EYULOG に書き込まれます。
- ユーザーが値を入力しない場合、ユーザー・グループ・プロファイルはユーザーのデフォルト・グループに設定されます。

GROUP オプションは、サインオンしているユーザーの現行接続グループを変更しません。WUI によって構築されるセキュリティ環境は、常にユーザーのデフォルト・グループに基づいたものとなります。WUI サインオン画面のグループ・オプションは、ユーザーをどの WUI ユーザー・グループ・プロファイルに関連付けるかを指定し、外部セキュリティ・マネージャーによるセキュリティ上の決定は変更しません。

SIGNONPANEL(ENHANCED) オプションが設定され、JavaScript が Web ブラウザーで使用可能な場合、サインオン処理は以下のアクションを実行します。

- Cookie にユーザー ID およびグループ値を保管して、サインオン処理が次に実行されるときに、前に入力された値がフォームに入力されるようにする
- 入力が必要なサインオン・フィールドにカーソルを置く

値 BASIC が指定されている場合は、GROUP オプションがサインオン画面に表示されず、ユーザー・グループ・プロファイルはユーザーのデフォルト・グループに設定されます。値は保管されず、カーソルはサインオン・パネル上に位置しません。

Web ユーザー・インターフェースのユーザー・グループ・プロファイルがデフォルト・グループに基づいて設定されても、GROUP オプションによって指定されても、一致する Web ユーザー・インターフェースのグループ・プロファイルが見つからない場合には、通常ならユーザー・グループ・プロファイルによって設定される値は、システム・デフォルトに設定されます。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーが CICS セキュリティーを非アクティブ (システム初期設定パラメーターで SEC=NO) にして実行している場合、SIGNONPANEL オプションは無視されます。

アクセシビリティ・オプション

これらのオプションにより、Web ユーザー・インターフェース・ディスプレイのデフォルトの色を指定します。

アクセシビリティ・オプションは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーのすべてのユーザーに影響を与えるので、通常は変更しません。アクセシビリティ上の理由からこれらのオプションを変更する場合は、Web ユーザー・インターフェース・ディスプレイが不鮮明になることのないように注意してください。

それぞれのオプションは、6桁の16進数字で色を指定します。先頭の2桁は赤色要素を表します。その次の2桁は緑色要素を表します。最後の2桁は青色要素を表します。例えば、FFFFFFは白を、000000は黒を、FF0000は高輝度赤を、00FF00は高輝度緑を、0000FFは高輝度青を表します。

COLORPAPER(color)

メイン作業フレームの背景色。

COLORPAPERHEAVY(color)

ナビゲーションとアシスタンス・フレームの背景色。

COLORPAPERLIGHT(color)

多くのインターフェース項目で使用される背景色 (例えば、情報メッセージ、テーブル列見出し、詳細ビュー・ラベル、ビュー選択、および最新表示域)。

COLORPAPERWARN(color)

警告メッセージの背景色。

COLORPAPERERROR(color)

エラー・メッセージの背景色。

COLORPAPERALT(color)

テーブル表示の代替行の背景色。

COLORPAPERRULE(color)

ナビゲーション・アイコンとヘルプ・アイコンを含むアシスタンス・フレーム・バーの背景色。

COLORINK(color)

メイン作業フレームのテキスト色。

COLORINKBANNER(color)

ナビゲーションおよびアシスタンス・フレームのテキスト色。

COLORINKLINK(color)

未アクセス・リンクのテキスト色。

COLORINKVLINK(color)

一度見たリンクのテキスト色。

問題判別オプション

このオプションでは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーに必要なトレース・レベルを指定できます。



重要:トレースは、IBM サポート・センターの担当者の依頼があった場合にのみアクティブにしてください。

WUITRACE(trace levels)

Web ユーザー・インターフェース・サーバーのトレース・レベルを指定します。

次の例に示すように、指定するトレース・レベルは、コンマで区切る必要があります。

```
WUITRACE(8,11,13,15,18)
```

トレース・レベルの範囲を定義できます。次の例のように定義します。

```
WUITRACE(1:5)
  activates trace levels 1 through 5

WUITRACE(1:5,13,28:31)
  activates trace levels 1 through 5, 13, and 28 through 31
```

WUI の一時データ・キュー定義の作成

COVP、COLG、COVI、および COVE 一時データ・キュー (TDQ) の定義が必要です。

COVP

Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメーター・データ・セット EYUWUI。このデータ・セットは、固定ブロック 80 の入力データ・セットです。

COLG

CICSplex SM 出力ログ EYULOG。このデータ・セットは、可変長の出力データ・セットです。

COVI

Web ユーザー・インターフェースのインポート・データ・セットのサンプル定義 EYUCOVI。このデータ・セットは、可変長の入力データ・セットです。

COVE

Web ユーザー・インターフェースのエクスポート・データ・セットのサンプル定義 EYUCOVE。このデータ・セットは、可変長の出力データ・セットです。

CICS Transaction Server 定義

一時データ・キュー (TDQ) 定義は EYU\$WDEF サンプル内にあります。これは SEYUSAMP ライブラリーで提供されます。COVI および COVE は、追加のインポートおよびエクスポート一時データ・キューを作成するために使用可能なサンプルとして提供されています。

WUI の JCL DD ステートメントの指定

EYUWUI、EYUWREP、EYULOG、DFHHTML、EYUCOVI、および EYUCOVE データ・セットでは、Web ユーザー・インターフェース・サーバーに DD ステートメントを追加します。

EYUWUI

Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメーター・データ・セット。60 ページの『Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメーターの指定』を参照してください。

EYUWREP

Web ユーザー・インターフェース・サーバーのリポジトリ・データ・セット。56 ページの『Web ユーザー・インターフェース・サーバー・リポジトリ (EYUWREP) の作成』を参照してください。

EYULOG

CICSplex SM 出力ログ。

DFHHTML

カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプ・データ・セット。59 ページの『WUI のカスタマイズ可能ビューおよびメニュー・ヘルプ・データ・セットの指定』を参照してください。このステートメントはオプションです。

EYUCOVI

Web ユーザー・インターフェース・サーバーのインポート・データ・セット。詳細については、68 ページの『WUI の一時データ・キュー定義の作成』を参照してください。このステートメントはオプションです。

EYUCOVE

Web ユーザー・インターフェース・サーバーのエクスポート・データ・セット。詳細については、68 ページの『WUI の一時データ・キュー定義の作成』を参照してください。このステートメントはオプションです。

例えば、次のようになります。

```
/*
//DFHHTML DD DISP=SHR,DSN=data set name
//EYUWREP DD DISP=SHR,DSN=data set name
//EYUCOVI DD DISP=SHR,DSN=data set name
//EYULOG DD SYSOUT=*
//EYUWUI DD *
DEFAULTMENU(OURHOME)
TCPHOSTNAME(MVSXX.COMPANY.COM)
TCPIP(4445)
/*
```

Web ユーザー・インターフェースの開始と停止

Web ユーザー・インターフェースをセットアップした 後、追加作業を行う必要があります。

始動 JCL の実行依頼

Web ユーザー・インターフェース・サーバーの始動 JCL を実行依頼し、最初の始動を行います。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーが正常に始動したことを示すメッセージがジョブ・ログに表示されます。

```
08.52.33 JOB03331 +EYUVS0001I IYCQCTA5 CICSPLEX SM WEB USER INTERFACE INITIALIZATION STARTED.  
08.52.37 JOB03331 +EYUVS0002I IYCQCTA5 CICSPlex SM Web User Interface initialization complete.
```

PLTPI の処理中には Web ユーザー・インターフェース・サーバーを始動しないように選択した場合は、COVC トランザクションの Start コマンドを使用して始動できます。

Web ブラウザー接続の確認

次の Web アドレスを入力して、Web ユーザー・インターフェースと Web ブラウザーの間の接続を確認します。http://hostname:port/CICSPlexSM。

hostname は TCIPHOSTNAME Web ユーザー・インターフェース・サーバー初期設定パラメーターで指定される名前、port は TCIPPORT Web ユーザー・インターフェース・サーバー初期設定パラメーターで指定される値です。

Web ユーザー・インターフェース・サーバー初期設定パラメーターについては、[60 ページの『Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメーターの指定』](#)を参照してください。「サインインの開始」ボタンのある Web ユーザー・インターフェース・サーバーの「ウェルカム」パネルが表示されます。

ビュー定義とメニュー定義の入手

Web ユーザー・インターフェースが始動したら、ビュー定義とメニュー定義を入手できます。以下の 2 つの方法で、これらのビューを入手することができます。

- CICS 端末にログインして、COVC トランザクションを実行する。COVC トランザクションのインポート・オプションを使用して、スターター・セットのビューおよびメニューをインポートします。スターター・セットのビューおよびメニューは、CICSTS56.CPSM.SEYUVIEW にあります。COVC トランザクションについては、[CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェース・トランザクション \(COVC\)](#) を参照してください。
- ビュー・エディターを使用します。説明は、[ビュー・エディター](#)を参照してください。

Web ユーザー・インターフェース・サーバーのシャットダウン

Web ユーザー・インターフェース・サーバーは、それを実行中の CICS システムをシャットダウンするか、または COVC トランザクションを使用することにより、シャットダウンできます。COVC トランザクションについて詳しくは、[CICSPlex SM Web ユーザー・インターフェース・トランザクション \(COVC\)](#) を参照してください。

第 6 章 CMCI のセットアップ

CICS Explorer などの HTTP システム 管理クライアントから CICS 領域を構成して管理するには、CICS 環境に CICS 管理クライアント・インターフェース (CMCI) をセットアップする必要があります。

このタスクについて

CICSplex SM 環境またはスタンドアロン CICS 領域 (SMSS) で CMCI をセットアップできます。

CICSplex SM で CMCI を使用する場合、ユーザーは CICS Explorer などの HTTP クライアントで、CICSplex SM によって管理されているすべての CICS 領域内の定義リソース、操作リソース、および CSD リソースを管理できます。

スタンドアロン CICS 領域 (SMSS) で CMCI を使用する場合、ユーザーは CICS Explorer などの HTTP クライアントで、その領域に関連付けられた操作リソースと CSD リソースのみ管理できます。コンテキストはその CICS 領域のアプリケーション ID として指定されます。

CICSplex SM での CMCI のセットアップ

CICS 管理クライアント・インターフェース (CMCI) を CICSplex SM 環境にインストールするには、WUI 領域に CMCI を構成する必要があります。

CMCI セットアップの計画

1. 高可用性のために、複数の CICSplex SM WUI 領域にセットアップできます。
2. CMCI で多要素認証 (MFA) や CMCI GraphQL API 機能などの拡張クライアント認証を使用するには、CMCI で CMCI JVM サーバーを使用する必要があります。CICS バンドル・デプロイメント API を介したバンドルのデプロイメントを有効にするには、[81 ページの『CICS バンドル・デプロイメント API 用の CMCI JVM サーバーの構成』](#)の説明に従って追加の構成を実行する必要があります。
3. ご使用の環境に基づいて、[CMCI のストレージ要件を見積もってください](#)。

注: CMCI インターフェースは、デフォルトで CMCI JVM サーバーを使用します。この CMCI 構成手順は、CMCI が CMCI JVM サーバーを使用することを前提としています。CMCI で CMCI JVM サーバーを使用しない場合は、機能切り替え `com.ibm.cics.cmci.jvmserver=false` を設定して CMCI JVM サーバーをオフに切り替え、[CICS TS 5.4 製品情報内の『CICSplex SM での CMCI のセットアップ』](#)の指示に従って CMCI JVM サーバーを使用しないように CMCI をセットアップできます。ただし、この機能切り替えは CICS TS の将来のリリースでは除去されるので、できるだけ早く CMCI JVM サーバーにアップグレードすることを強くお勧めします。

始める前に

1 つ以上の CICSplex SM WUI 領域が構成されている必要があります。CICSplex SM WUI 領域をセットアップするには、[CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーの設定](#)に従ってください。

セットアップ・ガイド

シナリオ 1: CMCI が構成されていない WUI 領域に CMCI をセットアップする

[72 ページの『WUI 領域の CMCI の構成』](#)の説明に従ってください。

シナリオ 2: WUI 領域に CMCI が既にセットアップされているが、CMCI JVM サーバーは使用されていない。CMCI JVM サーバーを使用するように WUI 領域をアップグレードすることを検討している。

詳しくは、[77 ページの『CMCI JVM サーバーを使用するための WUI 領域の構成』](#)を参照してください。

シナリオ 3: CICSplex 内で複数の CMCI JVM サーバーを実行する

CICSplex 内で複数の CMCI JVM サーバーを実行する場合は、Liberty でシングル・サインオン (SSO) サポートを構成すると、1 つの CMCI JVM サーバーで HTTP クライアント・ユーザーの認証を 1 回行うだ

けで、同じ CICSplex 内の他の CMCI JVM サーバーに再認証なしでアクセスできるようになります。詳しくは、[83 ページの『CICSplex での複数の CMCI JVM サーバーのセットアップ』](#)を参照してください。

シナリオ 4: CMCI JVM サーバーを使用するようにセットアップされた WUI 領域があり、CICS バンドル・デプロイメント API を使用する。

CMCI JVM サーバーで API を使用するように追加構成を実行する必要があります。詳しくは、[81 ページの『CICS バンドル・デプロイメント API 用の CMCI JVM サーバーの構成』](#)を参照してください。

WUI 領域の CMCI の構成

WUI 領域に CMCI がない場合は、その WUI 領域に CMCI JVM サーバーを使用して CMCI をセットアップできます。CMCI JVM サーバーは、拡張クライアント認証のサポート、GraphQL API のサポート、および CICS バンドル・デプロイメント API のサポートを提供する Liberty サーバーです。

始める前に

CMCI JVM サーバーのシステム要件

1. 必要な Java™ コンポーネントがすべてインストールされていることを確認してください。[Java コンポーネントのチェックリスト](#)に従ってください。
2. 領域に Java サポートがセットアップされていることを確認してください。詳しくは、[Setting up Java support](#) を参照してください。

接続で多要素認証 (MFA) 資格情報を使用できるようにするための追加要件

- 多要素認証をサポートするには、IBM Multi-Factor Authentication for z/OS、または RACF が構成された同等の製品が必要です。代替の外部セキュリティ・マネージャー (ESM) を使用する場合、詳細についてベンダーに問い合わせてください。
- CMCI JVM サーバーの実行場所となる領域と、このサーバーの接続先 CMAS が同じ CICS レベルであることを確認します。CICSplex SM トポロジーのセットアップに関する CICS レベルの考慮事項については、[Designing your CICSplex SM environment](#) を参照してください。

手順

1. 領域内の 64 ビット (2 GB 境界より上) ストレージと補助記憶域の適切なレベルを以下のように指定します。
 - 領域の 64 ビット・ストレージに制限を設定するには、z/OS **MEMLIMIT** パラメーターを使用します。
 - CICSplex SM システム・パラメーターの **MAXAUXCPM** と **MAXAUXTOTL** を使用して、CMAS の補助記憶域を設定します。

発生する可能性のあるストレージの問題を回避するためのこれらの値の設定については、[91 ページの『CMCI のストレージ要件の見積もり』](#)を参照してください。

2. CSD 上の CICS リソース (例えば、プログラム、ファイル、トランザクションなど) を CICS Explorer が照会できるように、CICS システム初期設定パラメーター **CSDSTRNO** を少なくとも 4 にしておきます (CSDSTRNO=4)。

CSDSTRNO が 4 より小さい場合、要求は CNX0591E RESP=CSDERR RESP2=5 (十分でない VSAM スtring) で失敗することがあります。

3. **KEYRING**、**NISTSP800131A**、および **SEC** システム初期設定パラメーターの値を確認します。

これらのシステム初期設定パラメーターは、**APPLID** および **DFLTUSER** と一緒に、CMCI JVM サーバー構成パラメーターにマップされます。場合によっては CMCI JVM サーバーで追加構成が必要になる可能性があるということに注意してください。詳しくは、[83 ページの『CICSplex SM WUI サーバーと CMCI JVM サーバーの間の構成パラメーターのマッピング』](#)を参照してください。

4. WUI サーバー初期設定パラメーターを指定して、CICSplex SM で CMCI を使用できるようにします。これらのパラメーターとしては、CMCI オプション、TCP/IP オプション、環境オプションなどがあります。

WUI サーバー初期設定パラメーターを指定するときは、以下のことを考慮してください。

- **CMCI**PORT パラメーターに固有値を指定する必要があります。このパラメーターは CMCI に TCP/IP ポート番号を割り振ります。**CMCI**PORT パラメーターに値を設定することで、CMCI が WUI 領域に確実にインストールされます。CMCI では、Web ユーザー・インターフェースに対して別のポートを使用する必要があります。
- デフォルトでは、URIMAP と TCPIPService のリソース定義は、**SEC CICS** システム初期設定パラメーターと **TCPIPSSL** WUI サーバーの初期化パラメーターから派生するセキュリティー設定とともに自動インストールされます。オプションの **CMCIAUTH** パラメーターおよび **CMCISSL** パラメーターを使用してデフォルトの CMCI TCPIPService 設定をオーバーライドすることにより、セキュリティー強化のために SSL 認証を使用可能にすることができます。WUI のセキュリティーのセットアップについて詳しくは、[CICSplex SM Web User Interface security access overview](#) を参照してください。
- WUI サーバーの初期化パラメーター **DEFAULTWARNCNT** にゼロ以外の値を設定することを検討してください。このパラメーターに適切な値を設定することで、受け入れられない量のデータが取り出されることはなくなり、また CICS リソースに対して要求を出すときに長時間待ちおよび潜在的なストレージ問題を回避できます。CMCI での警告カウント・メカニズムについては、[87 ページの『CMCI でのレコード・カウント警告』](#)を参照してください。

詳しい説明は、[Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメーター](#)を参照してください。

注：CMCI オプションや TCP/IP オプションなどの WUI サーバー初期設定パラメーターが CMCI JVM サーバー構成パラメーターにどのようにマップされるかを知ることは役に立ちます。CMCI JVM サーバーと互換性がない値もあることに注意してください。詳しくは、[83 ページの『CICSplex SM WUI サーバーと CMCI JVM サーバーの間の構成パラメーターのマッピング』](#)を参照してください。

5. リソース定義グループ DFHWU がインストールされていることを確認します。

グループ DFHWU には、CMCI 環境にとって必要なリソース定義が含まれています。

CMCI JVM サーバー の構成

6. 以下のシステム初期設定パラメーターを領域に追加します。

- **JVMPROFILEDIR**
- **START=INITIAL**
- **EDSALIM**

7. CMCI JVM サーバーの JVM プロファイルを作成します。

a) /usr/lpp/cics56/JVMProfiles にある EYUCMCIJ.jvmprofile を、**JVMPROFILEDIR** システム初期設定パラメーターで指定された場所にコピーします。

b) JVM プロファイルの **JAVA_HOME** および **WORK_DIR** の値を検証または更新します。

詳しくは、[JVM プロファイルで使用されるシンボル](#)を参照してください。

c) 以下の行を JVM プロファイルに追加することで、WUI 領域の SAF プロファイル接頭部を指定します。

SAF プロファイル接頭部は各 WUI 領域で使用される RACF ルールを決定して、同じ SAF プロファイル接頭部を持つ複数の WUI 領域で同じセキュリティー構成が共用されるようにします。例えば、CICS バンドル・デプロイメント API のユーザーを認証する場合に、同じ SAF プロファイル接頭部を持つ複数の WUI 領域内の CMCI JVM サーバーでは、同じユーザーが API にアクセスすることが許可されます。

```
-Dcom.ibm.cics.jvmserver.wlp.saf.profilePrefix=${MYPREFIX}
```

ここで、**\${MYPREFIX}** は、セキュリティー構成を共用する必要がある WUI 領域の SAF プロファイル接頭部です。

8. CMCI JVM サーバー のストレージ要件を設定します。

付属の EYUCMCIJ.jvmprofile ファイルでは共用ライブラリー領域の使用が無効になっており、必要とされる非 CICS 31 ビット・ストレージの量が削減されます。デフォルトの場合、CMCI JVM サーバ

一用に自動的に作成される JVMSERVER リソースでは、**THREADLIMIT** 属性の値が 15 になっています。したがって、ストレージ要件の初期見積もりとしては以下の値を使用できます。

- 24 ビット・ストレージ: 512 KB
- 31 ビット・ストレージ: 100 MB

引き続き、[JVM サーバーのストレージ要件の計算](#)の説明に従ってストレージ要件をモニターし、確認します。

9. CMCI JVM サーバー用の Liberty エンジェル・プロセス開始タスクを構成します。

- a) Liberty エンジェル・プロセスが実行されていない場合は、[Liberty サーバー・エンジェル・プロセス](#)のステップに従ってそれを作成します。
- b) 既に Liberty エンジェル・プロセスが実行されている場合は、エンジェル JCL の ROOT シンボリック・パラメーターで指定された Liberty のバージョンが、CICS で提供される Liberty のバージョン以上のレベルであることを確認します。

例: 開始タスクのシステム・ログから Liberty のバージョンを確認する

Liberty エンジェル・プロセスが Liberty 18.0.0.2 以上で実行されている場合、開始タスクのシステム・ログには、Liberty のバージョンを示す次のようなメッセージが含まれています。

```
CWWKB0079I THE ANGEL BUILD LEVEL IS 18.0.0.2 20180619-0654 2018.7.0.0 20180619-0654
```

例: メッセージ DFHSJ1405I から Liberty のバージョンを確認する

CICS JVM サーバーで実行されている Liberty のバージョンが、次のメッセージで示されます。

```
DFHSJ1405I 08/22/2018 17:04:39 IYK3ZDRI JVMSERVER EYUCMCIJ is running WebSphere Application Server  
Version 18.0.0.2 Liberty - (18.0.0.2-cl180220180619-0403) process ID  
67174497.
```

例: スクリプトを実行して Liberty のバージョンを確認する

エンジェル JCL が次の ROOT パラメーターを指定しているとします。

```
// SET ROOT='/usr/lpp/zosmf/wlp'
```

Liberty のバージョンを調べるには、次のスクリプトを実行します。

```
/usr/lpp/zosmf/wlp/bin/productInfo version --verbose
```

CICS の場合は、次のスクリプトを実行します。

```
/usr/lpp/cicsts56/wlp/bin/productInfo version --verbose
```

```

WebSphereApplicationServer.properties:
com.ibm.websphere.productId=com.ibm.websphere.appserver
com.ibm.websphere.productOwner=IBM
com.ibm.websphere.productVersion=16.0.0.3
com.ibm.websphere.productName=WebSphere Application Server
com.ibm.websphere.productInstallType=Archive
com.ibm.websphere.productEdition=zOS
com.ibm.websphere.productLicenseType=IPLA

WebSphereApplicationServerZOS.properties:
com.ibm.websphere.productId=com.ibm.websphere.appserver.zos
com.ibm.websphere.productOwner=IBM CORP
com.ibm.websphere.productVersion=16.0.0.3 <== Liberty Version
com.ibm.websphere.productName=WAS FOR Z/OS
com.ibm.websphere.productPID=5655-WAS
com.ibm.websphere.productQualifier=WAS Z/OS
com.ibm.websphere.productReplaces=com.ibm.websphere.appserver
com.ibm.websphere.productEdition=
com.ibm.websphere.gssp=true

zOSMF.properties:
com.ibm.websphere.productId=com.ibm.zosmf
com.ibm.websphere.productOwner=IBM
com.ibm.websphere.productVersion=2.2.0
com.ibm.websphere.productName=z/OSMF
com.ibm.websphere.productPID=5650-ZOS
com.ibm.websphere.productQualifier=z/OSMF
com.ibm.websphere.productReplaces=com.ibm.websphere.appserver.zos
com.ibm.websphere.productEdition=N/A

```

図 5. 出力例

c) Liberty のバージョンが CICS で提供される Liberty のバージョンより低いレベルの場合は、CICS Liberty インストールを使用して、指定されたエンジェル・プロセスを構成します。

1) CMCI JVM サーバーの JVM プロファイル EYUCMCIJ.jvmprofile 内の次の行のコメントを外します。

```
#-Dcom.ibm.ws.zos.core.angelName=<named_angel>
```

2) -Dcom.ibm.ws.zos.core.angelName プロパティにエンジェル名を指定します。

このプロパティは、指定されたエンジェル・プロセスに CMCI JVM サーバーが接続できるようにします。詳しくは、[Liberty サーバー・エンジェル・プロセス](#)を参照してください。

d) 領域を開始する前に、Liberty エンジェル・プロセスの準備ができていることを確認します。

10. Liberty エンジェル・プロセスを使用するように WUI 領域のセキュリティを構成します。

RACF を使用している場合は、以下のように、SEYUSAMP に含まれるサンプル CLIST EYU\$ANGL を使用することにより、WUI 領域で Liberty エンジェル・プロセスを使用するための RACF 定義を作成することができます。

a) SEYUSAMP 内の CLIST EYU\$ANGL のコピーを取ります。

b) 以下の変数を指定することにより、コピーを更新します。

WUI_REGION_USERID

WUI 領域を実行するユーザー ID を指定します。

ANGEL_NAME

名前付きエンジェル・プロセスを使用している場合、値は ANGEL.name です (name は -Dcom.ibm.ws.zos.core.angelName プロパティの値)。

名前エンジェル・プロセスを使用していない (-Dcom.ibm.ws.zos.core.angelName が指定されていない) 場合、値は ANGEL です。

c) CLIST を実行します。

RACF 以外の外部セキュリティ・マネージャーを使用している場合の手順については、外部製品の資料を参照してください。

11. CMCI JVM サーバーから発生したタスクは、デフォルトで CJSU トランザクションで実行されます。WUI 領域でトランザクションのセキュリティがアクティブの場合は、CJSU トランザクションに CICS デフォルト・ユーザー・アクセスを付与します。

あるいは、CICS のデフォルト・ユーザーに基づいて、CJSU トランザクションに対する追加のアクセス権限が付与された新規ユーザー ID を作成することもできます。そのユーザー ID を、`com.ibm.cics.jvmserver.unclassified.userid` プロパティの中で指定する必要があります。

また、JVM サーバーで実行される未分類の作業について、CJSU の重複トランザクションを使用することもできます。この場合、`com.ibm.cics.jvmserver.unclassified.tranid` プロパティでトランザクション ID を指定し、このトランザクションに必要なアクセス権を付与する必要があります。

JVM システム・プロパティについては、[JVM システム・プロパティ](#)を参照してください。

Liberty JVM サーバーのセキュリティ構成について詳しくは、[Liberty JVM サーバーに関するセキュリティの構成](#)を参照してください。

12. 領域 JCL を更新して、CMCI 診断用の新しい DD ステートメントを組み込みます。

```
//JVMOUT DD SYSOUT=*,LRECL=1024
//JVMERR DD SYSOUT=*,LRECL=1024
//JVMTRACE DD SYSOUT=*,LRECL=1024
//MSGLOG DD SYSOUT=*,LRECL=1024
```

13. 機能切り替え構成ファイルを参照して、CMCI JVM サーバーの機能切り替えが `true` に設定されているか、デフォルトのままになっていることを確認します。

```
com.ibm.cics.cmci.jvmserver=true
```

機能切り替え構成については、[機能切り替えの指定](#)を参照してください。

14. CMCI JVM サーバーでユーザーが認証できるようにします。

CMCI JVM サーバーで認証するためのアクセス権限 (CMCI を使用する権限を含む) をユーザーに付与する必要があります。

RACF を使用している場合は、以下のように、CMCI JVM サーバーを介してユーザーを認証するように SEYUSAMP 内のサンプル CLIST EYU\$CMCI を更新できます。

- a) SEYUSAMP 内の CLIST EYU\$CMCI のコピーをとります。
- b) 以下の変数を指定することにより、コピーを更新します。

WUI_REGION_USERID

WUI 領域を実行するユーザー ID を指定します。

WUI_APPLID

WUI 領域の APPLID を指定します。

CMCIUSER_ACCESS_LIST

CICS Explorer 経由で CMCI にアクセスするユーザーまたはユーザー・グループのリストを指定します。

profile_prefix

JVM プロファイルで定義されている、WUI 領域の SAF プロファイル接頭部を指定します。

- c) CLIST を実行します。

RACF 以外の外部セキュリティ・マネージャーを使用している場合の手順については、外部製品の資料を参照してください。

次のタスク

CMCI JVM サーバーに接続できるクライアントを制限するには、CMCI JVM サーバーに対してクライアント・ホワイトリストを定義します。詳しくは、[92 ページの『CMCI JVM サーバーに対するクライアント・ホワイトリストの定義』](#)を参照してください。

CICS バンドル・デプロイメント API を使用して CICS バンドルをデプロイする場合は、CMCI JVM サーバーの追加構成を実行する必要があります。詳しくは、[81 ページの『CICS バンドル・デプロイメント API 用の CMCI JVM サーバーの構成』](#)を参照してください。

CMCI JVM サーバーを使用するための WUI 領域の構成

WUI 領域に CMCI が構成されていても、CMCI JVM サーバーが無効になっている場合は、WUI 領域をアップグレードすることで、CMCI JVM サーバーを使用できるようになります。CMCI JVM サーバーは、拡張クライアント認証のサポート、GraphQL API のサポート、および CICS バンドル・デプロイメント API のサポートを提供する Liberty サーバーです。

始める前に

CMCI JVM サーバーのシステム要件

1. 必要な Java コンポーネントがすべてインストールされていることを確認してください。[Java コンポーネントのチェックリスト](#)に従ってください。
2. 領域に Java サポートがセットアップされていることを確認してください。詳しくは、[Setting up Java support](#) を参照してください。

接続で多要素認証 (MFA) 資格情報を使用できるようにするための追加要件

- 多要素認証をサポートするには、IBM Multi-Factor Authentication for z/OS、または RACF が構成された同等の製品が必要です。代替の外部セキュリティ・マネージャー (ESM) を使用する場合、詳細についてベンダーに問い合わせてください。
- CMCI JVM サーバーの実行場所となる領域と、このサーバーの接続先 CMAS が同じ CICS レベルであることを確認します。CICSplex SM トポロジーのセットアップに関する CICS レベルの考慮事項については、[Designing your CICSplex SM environment](#) を参照してください。

このタスクについて

WUI 領域での CMCI JVM サーバーの使用を構成して使用可能にする必要があります。

手順

1. 以下のシステム 初期設定パラメーターを領域に追加します。
 - **JVMPROFILEDIR**
 - **START=INITIAL**
 - **EDSALIM**
2. **KEYRING**、**NISTSP800131A**、および **SEC** システム 初期設定パラメーターの値を確認します。
これらのシステム 初期設定パラメーターは、**APPLID** および **DFLTUSER** と一緒に、CMCI JVM サーバー構成パラメーターにマップされます。場合によっては CMCI JVM サーバーで追加構成が必要になる可能性があるということに注意してください。詳しくは、[83 ページの『CICSplex SM WUI サーバーと CMCI JVM サーバーの間の構成パラメーターのマッピング』](#)を参照してください。
3. CMCI オプションや TCP/IP オプションなどの WUI サーバー 初期設定パラメーターを確認します。
CMCI JVM サーバーと互換性のない値をいくつか変更しなければならない場合があります。詳しくは、[83 ページの『CICSplex SM WUI サーバーと CMCI JVM サーバーの間の構成パラメーターのマッピング』](#)を参照してください。
4. CMCI JVM サーバーの JVM プロファイルを作成します。
 - a) /usr/lpp/cics56/JVMProfiles にある EYUCMCIJ.jvmprofile を、**JVMPROFILEDIR** システム 初期設定パラメーターで指定された場所にコピーします。
 - b) JVM プロファイルの **JAVA_HOME** および **WORK_DIR** の値を検証または更新します。
詳しくは、[JVM プロファイルで使用されるシンボル](#)を参照してください。
 - c) 以下の行を JVM プロファイルに追加することで、WUI 領域の SAF プロファイル接頭部を指定します。

SAF プロファイル接頭部は各 WUI 領域で使用される RACF ルールを決定して、同じ SAF プロファイル接頭部を持つ複数の WUI 領域で同じセキュリティ構成が共用されるようにします。例えば、CICS バンドル・デプロイメント API のユーザーを認証する場合に、同じ SAF プロファイル接頭部を持つ複数の WUI 領域内の CMCI JVM サーバーでは、同じユーザーが API にアクセスすることが許可されます。

```
-Dcom.ibm.cics.jvmserver.wlp.saf.profilePrefix=${MYPREFIX}
```

ここで、`${MYPREFIX}` は、セキュリティ構成を共用する必要がある WUI 領域の SAF プロファイル接頭部です。

5. CMCI JVM サーバー のストレージ要件を設定します。

付属の `EYUCMCIJ.jvmprofile` ファイルでは共用ライブラリー領域の使用が無効になっており、必要とされる非 CICS 31 ビット・ストレージの量が削減されます。デフォルトの場合、CMCI JVM サーバー用に自動的に作成される JVMSERVER リソースでは、**THREADLIMIT** 属性の値が 15 になっています。したがって、ストレージ要件の初期見積もりとしては以下の値を使用できます。

- 24 ビット・ストレージ: 512 KB
- 31 ビット・ストレージ: 100 MB

引き続き、[JVM サーバーのストレージ要件の計算](#)の説明に従ってストレージ要件をモニターし、確認します。

6. CMCI JVM サーバー用の Liberty エンジェル・プロセス開始タスクを構成します。

- a) Liberty エンジェル・プロセスが実行されていない場合は、[Liberty サーバー・エンジェル・プロセス](#)のステップに従ってそれを作成します。
- b) 既に Liberty エンジェル・プロセスが実行されている場合は、エンジェル JCL の ROOT シンボリック・パラメーターで指定された Liberty のバージョンが、CICS で提供される Liberty のバージョン以上のレベルであることを確認します。

例: 開始タスクのシステム・ログから Liberty のバージョンを確認する

Liberty エンジェル・プロセスが Liberty 18.0.0.2 以上で実行されている場合、開始タスクのシステム・ログには、Liberty のバージョンを示す次のようなメッセージが含まれています。

```
CWWKB0079I THE ANGEL BUILD LEVEL IS 18.0.0.2 20180619-0654 2018.7.0.0 20180619-0654
```

例: メッセージ DFHSJ1405 から Liberty のバージョンを確認する

CICS JVM サーバーで実行されている Liberty のバージョンが、次のメッセージで示されます。

```
DFHSJ1405I 08/22/2018 17:04:39 IYK3ZDRI JVMSERVER EYUCMCIJ is running WebSphere Application Server
Version 18.0.0.2 Liberty - (18.0.0.2-cl180220180619-0403) process ID
67174497.
```

例: スクリプトを実行して Liberty のバージョンを確認する

エンジェル JCL が次の ROOT パラメーターを指定しているとします。

```
// SET ROOT='/usr/lpp/zosmf/wlp'
```

Liberty のバージョンを調べるには、次のスクリプトを実行します。

```
/usr/lpp/zosmf/wlp/bin/productInfo version --verbose
```

CICS の場合は、次のスクリプトを実行します。

```
/usr/lpp/cicsts56/wlp/bin/productInfo version --verbose
```

```

WebSphereApplicationServer.properties:
com.ibm.websphere.productId=com.ibm.websphere.appserver
com.ibm.websphere.productOwner=IBM
com.ibm.websphere.productVersion=16.0.0.3
com.ibm.websphere.productName=WebSphere Application Server
com.ibm.websphere.productInstallType=Archive
com.ibm.websphere.productEdition=zOS
com.ibm.websphere.productLicenseType=IPLA

WebSphereApplicationServerZOS.properties:
com.ibm.websphere.productId=com.ibm.websphere.appserver.zos
com.ibm.websphere.productOwner=IBM CORP
com.ibm.websphere.productVersion=16.0.0.3 <== Liberty Version
com.ibm.websphere.productName=WAS FOR Z/OS
com.ibm.websphere.productPID=5655-WAS
com.ibm.websphere.productQualifier=WAS Z/OS
com.ibm.websphere.productReplaces=com.ibm.websphere.appserver
com.ibm.websphere.productEdition=
com.ibm.websphere.gssp=true

zOSMF.properties:
com.ibm.websphere.productId=com.ibm.zosmf
com.ibm.websphere.productOwner=IBM
com.ibm.websphere.productVersion=2.2.0
com.ibm.websphere.productName=z/OSMF
com.ibm.websphere.productPID=5650-ZOS
com.ibm.websphere.productQualifier=z/OSMF
com.ibm.websphere.productReplaces=com.ibm.websphere.appserver.zos
com.ibm.websphere.productEdition=N/A

```

図 6. 出力例

c) Liberty のバージョンが CICS で提供される Liberty のバージョンより低いレベルの場合は、CICS Liberty インストールを使用して、指定されたエンジェル・プロセスを構成します。

1) CMCI JVM サーバーの JVM プロファイル EYUCMCIJ.jvmprofile 内の次の行のコメントを外します。

```
#-Dcom.ibm.ws.zos.core.angelName=<named_angel>
```

2) -Dcom.ibm.ws.zos.core.angelName プロパティにエンジェル名を指定します。

このプロパティは、指定されたエンジェル・プロセスに CMCI JVM サーバーが接続できるようにします。詳しくは、[Liberty サーバー・エンジェル・プロセス](#)を参照してください。

d) 領域を開始する前に、Liberty エンジェル・プロセスの準備ができていることを確認します。

7. Liberty エンジェル・プロセスを使用するように WUI 領域のセキュリティを構成します。

RACF を使用している場合は、以下のように、SEYUSAMP に含まれるサンプル CLIST EYU\$ANGL を使用することにより、WUI 領域で Liberty エンジェル・プロセスを使用するための RACF 定義を作成することができます。

a) SEYUSAMP 内の CLIST EYU\$ANGL のコピーを取ります。

b) 以下の変数を指定することにより、コピーを更新します。

WUI_REGION_USERID

WUI 領域を実行するユーザー ID を指定します。

ANGEL_NAME

名前付きエンジェル・プロセスを使用している場合、値は ANGEL.name です (name は -Dcom.ibm.ws.zos.core.angelName プロパティの値)。

名前エンジェル・プロセスを使用していない (-Dcom.ibm.ws.zos.core.angelName が指定されていない) 場合、値は ANGEL です。

c) CLIST を実行します。

RACF 以外の外部セキュリティ・マネージャーを使用している場合の手順については、外部製品の資料を参照してください。

8. CMCI JVM サーバーから発生したタスクは、デフォルトで CJSU トランザクションで実行されます。WUI 領域でトランザクションのセキュリティがアクティブの場合は、CJSU トランザクションに CICS デフォルト・ユーザー・アクセスを付与します。

あるいは、CICS のデフォルト・ユーザーに基づいて、CJSU トランザクションに対する追加のアクセス権限が付与された新規ユーザー ID を作成することもできます。そのユーザー ID を、`com.ibm.cics.jvmserver.unclassified.userid` プロパティの中で指定する必要があります。

また、JVM サーバーで実行される未分類の作業について、CJSU の重複トランザクションを使用することもできます。この場合、`com.ibm.cics.jvmserver.unclassified.tranid` プロパティでトランザクション ID を指定し、このトランザクションに必要なアクセス権を付与する必要があります。

JVM システム・プロパティについて詳しくは、[JVM システム・プロパティ](#)を参照してください。

Liberty JVM サーバーのセキュリティ構成について詳しくは、[Liberty JVM サーバーに関するセキュリティの構成](#)を参照してください。

9. 領域 JCL を更新して、CMCI 診断用の新しい DD ステートメントを組み込みます。

```
//JVMOUT DD SYSOUT=*,LRECL=1024
//JVMERR DD SYSOUT=*,LRECL=1024
//JVMTRACE DD SYSOUT=*,LRECL=1024
//MSGLOG DD SYSOUT=*,LRECL=1024
```

10. 機能切り替え構成ファイルを参照して、CMCI JVM サーバーの機能切り替えが `true` に設定されているか、デフォルトのままになっていることを確認します。

```
com.ibm.cics.cmci.jvmserver=true
```

機能切り替え構成については、[機能切り替えの指定](#)を参照してください。

11. CMCI JVM サーバーでユーザーが認証できるようにします。

CMCI JVM サーバーで認証するためのアクセス権限 (CMCI を使用する権限を含む) をユーザーに付与する必要があります。

RACF を使用している場合は、以下のように、CMCI JVM サーバーを介してユーザーを認証するように SEYUSAMP 内のサンプル CLIST EYU\$CMCI を更新できます。

- a) SEYUSAMP 内の CLIST EYU\$CMCI のコピーをとります。
- b) 以下の変数を指定することにより、コピーを更新します。

WUI_REGION_USERID

WUI 領域を実行するユーザー ID を指定します。

WUI_APPLID

WUI 領域の APPLID を指定します。

CMCIUSER_ACCESS_LIST

CICS Explorer 経由で CMCI にアクセスするユーザーまたはユーザー・グループのリストを指定します。

profile_prefix

JVM プロファイルで定義されている、WUI 領域の SAF プロファイル接頭部を指定します。

- c) CLIST を実行します。

RACF 以外の外部セキュリティ・マネージャーを使用している場合の手順については、外部製品の資料を参照してください。

次のタスク

CMCI JVM サーバーに接続できるクライアントを制限するには、CMCI JVM サーバーに対してクライアント・ホワイトリストを定義します。詳しくは、[92 ページの『CMCI JVM サーバーに対するクライアント・ホワイトリストの定義』](#)を参照してください。

CICS バンドル・デプロイメント API を使用して CICS バンドルをデプロイする場合は、CMCI JVM サーバーの追加構成を実行する必要があります。詳しくは、[81 ページの『CICS バンドル・デプロイメント API 用の CMCI JVM サーバーの構成』](#)を参照してください。

CICS バンドル・デプロイメント API 用の CMCI JVM サーバーの構成

CICS 管理クライアント・インターフェース (CMCI) は、CICS バンドル・デプロイメント API を介して CICS バンドルを領域にデプロイすることをサポートします。この API は、Maven プラグインや Gradle プラグインなどの HTTP クライアントで使用できます。CICS バンドル・デプロイメント API を使用するには、システム・プログラマーは CMCI JVM サーバーの追加構成を行う必要があります。

始める前に

この API 向けの構成を行う前に、API がどのように機能するのかを理解することを強くお勧めします。
[How it works: CICS bundle deployment API](#) を参照してください。

ソフトウェア要件

CICS バンドル・デプロイメント API は、WUI 領域内でセットアップされる必要がある CMCI JVM サーバーによってサポートされます。次のことを確認します。

- CICS TS V5.6 以降である CICS 領域がある。
- この領域は、デプロイメント・ターゲット領域を含む CICSplex の WUI 領域となるように構成されます。[53 ページの『第 5 章 CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース・サーバーをセットアップする server』](#)を参照してください。
- この WUI 領域は、CMCI JVM サーバーを使用するように構成される必要があります。
 - この WUI 領域で CMCI をセットアップしていない場合は、CMCI JVM サーバーを直接セットアップできます。[72 ページの『WUI 領域の CMCI の構成』](#)を参照してください。
 - この WUI 領域内で CMCI をセットアップ済みであるが、WUI 領域で CMCI JVM サーバーが使用されない場合は、CMCI JVM サーバーを使用するように WUI 領域をアップグレードできます。[77 ページの『CMCI JVM サーバーを使用するための WUI 領域の構成』](#)を参照してください。

システム初期設定パラメーターを [SEC=YES](#) に設定します。

手順

1. CMCI JVM サーバー用の JVM プロファイルである EYUCMCIJ.jvmprofile 内でバンドルのディレクトリ (**-Dcom.ibm.cics.jvmserver.cmci.bundles.dir**) を指定することで、CICS バンドル・デプロイメント API を使用可能にします。

以下の行を追加します。

```
-Dcom.ibm.cics.jvmserver.cmci.bundles.dir=<bundles_directory>
```

バンドルの管理に API を使用するための専用ディレクトリを zFS 上に作成することをお勧めします。CICS バンドル・デプロイメント API にプッシュされたバンドルは、バンドルのディレクトリに保管され、CICS ターゲット領域によってアクセスされます。

2. オプション: JVM プロファイル内で、API を渡すことが許可されるデータに関する仕様を追加することもできます。

-Dcom.ibm.cics.jvmserver.cmci.deploy.timeout={120000|timeout_limit}

CICS バンドルをデプロイするためのタイムアウト制限をミリ秒単位で指定します。これには、すべてのバンドル・ライフサイクル・アクション (無効化、破棄、インストール、使用可能化を含む) の時間が含まれます。

デフォルト値は 120000 (120 秒) です。

-Dcom.ibm.cics.jvmserver.cmci.max.file.size={52428800|max_file_size}

アップロードされる CICS バンドルに許可される最大サイズをバイト単位で指定します。デフォルト・サイズは 52428800 (50 MB) です。

アップロードされたバンドルのサイズがこのサイズを超える場合は、400 Bad Request メッセージ「SRVE8021E: アップロードするファイルが大きすぎます (The file being uploaded is too large)」が発行されます。

-Dcom.ibm.cics.jvmserver.cmci.max.request.size={104857600|max_request_size}

multipart 要求または form-data 要求に許可される最大サイズをバイト単位で指定します。デフォルト・サイズは 104857600 (100 MB) です。

アップロードされたすべてのファイルの合計サイズがこのしきい値を超える場合は、Web コンテナは例外をスローします。

3. CLIST でセキュリティ・レベルを構成します。

RACF を使用している場合は、SEYUSAMP 内のサンプル CLIST EYU\$BUND をコピーして更新できます。以下の必須オプションを指定します。

deploy_userid

バンドル・デプロイメントを実行する権限を持つユーザー ID を指定します。この目的用の機能 ID (例: DPLYUSR) を作成することをお勧めします。または、ご使用の領域ユーザー ID に十分な権限があることを確認して、機能 ID の代わりにこの領域ユーザー ID 指定してください。

mngdbndl_access_list

CICS バンドル・デプロイメント API へのアクセス権限を持つユーザー・グループ (例: DEVELOPER) を指定します。

profile_prefix

JVM プロファイルで定義されている、WUI 領域の SAF プロファイル接頭部を指定します。

wui_region_userid

CMCI JVM サーバーを使用するように構成した CICSplex SM WUI 領域のユーザー ID を指定します (例: CICSRRGN)。

以下のオプションの指定は任意です。指定されない場合、デフォルト値が使用されます。

classname

RACF トランザクション・グループ化クラスの名前を指定します。デフォルト値は GCICSTRN です。

cicsplex

デプロイメント機能 ID (deploy_userid) が照会してバンドルをデプロイすることを許可されている CICSplex。

デフォルト値の * を使用した場合は、deploy_userid は任意の CICSplex への照会とバンドルのデプロイを行うことができます。

cmas

デプロイメント機能 ID (deploy_userid) が照会することを許可されている CMAS。

デフォルト値の * を使用した場合は、deploy_userid は指定された CICSplex 内の任意の CMAS に照会できます。

notify

アクセス違反の場合に通知を受ける TSO ユーザー ID を指定します。デフォルト値は IBMUSER です。

owner

プロファイル所有者の TSO ユーザー ID を指定します。デフォルト値は IBMUSER です。

領域

デプロイメント機能 ID (deploy_userid) が照会してバンドルをデプロイすることを許可されているターゲット CICS 領域を指定します。

デフォルト値の * を使用した場合は、deploy_userid は指定された CICSplex 内の任意の CICS 領域への照会とバンドルのデプロイを行うことができます。

次に CLIST を実行します。

4. UNIX コマンド **chmod** を使用するかアクセス制御リスト (ACL) を適用することで、zFS 上のバンドルのディレクトリーへのアクセス権限をユーザー ID に付与します。詳しくは、[Implementing security for](#)

[z/OS UNIX files](#) および [CICS 領域に対する z/OS UNIX ディレクトリーおよびファイルへのアクセス権限の付与](#)を参照してください。

- デプロイメント機能 ID (この例では DPLYUSR) には、バンドルのディレクトリーへの READ、WRITE、および EXECUTE 権限が必要です。
- ターゲット CICS 領域の領域ユーザー ID には、ディレクトリーに対する READ および EXECUTE 権限が必要です。

次のタスク

CICS バンドル・デプロイメント API 向けの構成を行った後に、Java 開発者は、CICS 側で提供される Maven プラグインや Gradle プラグインなどのクライアントを使用して CICS バンドルをデプロイできます。説明は、[How it works: CICS bundle deployment API](#) を参照してください。

CICSplex での複数の CMCI JVM サーバーのセットアップ

CICSplex で複数の CMCI JVM サーバーを実行できます。ただし、1 つの CMCI JVM サーバーで HTTP クライアント・ユーザーの認証を 1 回行うだけで同じ CICSplex 内の他の CMCI JVM サーバーに再認証なしでアクセスできるようにするには、Liberty でシングル・サインオン (SSO) サポートを構成する必要があります。

SSO を使用すると、ユーザーは 1 つの CMCI JVM サーバーで認証するだけで、プロンプトが再度出されることなく、CICSplex 内の他の CMCI JVM サーバーにアクセスできるようになります。ユーザーが 1 つの CMCI JVM サーバーで認証されると、認証プロセスでそのユーザー用に作成された SSO トークンが Cookie でクライアントに転送されます。この Cookie は、同じ CICSplex 内の他の CMCI JVM サーバーに認証情報を伝搬するために使用されます。

認証のみ共用されます。CMCI キャッシュ内の結果セットは共用されません。

LTPA および SSO に対する Liberty サポートの概要については、[認証](#)を参照してください。

このタスクについて

CMCI JVM サーバー間で SSO を使用するには、CICSplex で実行される CMCI JVM サーバーが同じ LTPA 鍵を使用し、同じユーザー・レジストリーを共用する必要があります。

複数の異なるドメインにある CMCI JVM サーバーをサポートするように SSO を構成できます。

手順

- Liberty で LTPA を構成します。
[Liberty での LTPA の構成の説明](#)に従ってください。Liberty サーバー構成で設定できる LTPA プロパティーについては、[LTPA トークン \(ltpa\)](#)を参照してください。
- Liberty で LTPA Cookie を使用するよう、SSO 構成サポートをカスタマイズします。
[Liberty での LTPA Cookie を使用した SSO 構成のカスタマイズ](#)の説明に従ってください。

CICSplex SM WUI サーバーと CMCI JVM サーバーの間の構成パラメーターのマッピング

セットアップ時に、CMCI JVM サーバー は CICSplex SM WUI 構成プロパティーを読み取り、それに応じてその JVM 構成プロパティーを構成します。WUI サーバー初期設定パラメーター (CMCI オプションや TCP/IP オプションなど) および WUI 領域 SIT パラメーターから、CMCI JVM サーバー 構成パラメーターへのマッピングがリストされます。パラメーターによっては、CMCI JVM サーバーで追加構成が必要なものもあります。

84 ページの表 5 は、CICSplex SM WUI サーバー初期設定パラメーターが CMCI JVM サーバー構成パラメーターにどのようにマップされるかを示すとともに、CMCI JVM サーバーで必要な追加構成を示しています。

表 5. CICSplex SM WUI サーバー初期設定パラメーターと CMCI JVM サーバー構成パラメーターの間のマッピング

CICSplex SM WUI パラメーター名	WUI パラメーター 値	CMCI への影響	CMCI JVM サーバー構成要素
CMCIAUTH	AUTOMATIC	CMCI は、基本認証とクライアント証明書認証の両方をサポートします。❶	ssl 要素内の clientAuthenticationSupported="true" webAppSecurity 要素内の allowFailOverToBasicAuth="true" 基本認証とクライアント認証がサポートされています。
	AUTOREGISTER	サポートなし。AUTOMATIC として構成されます。	サポートなし。AUTOMATIC として構成されます。
	BASIC	CMCI は基本認証を必要とします。 SEC=YES になっているときはこれがデフォルトです。❶	ssl 要素内の clientAuthentication="false" および clientAuthenticationSupported="false" webAppSecurity 要素内の allowFailOverToBasicAuth="false" 基本認証のみがサポートされています。
	CERTIFICATE	CMCI はクライアント証明書認証を必要とします。❶ ❷	true に設定された ssl 要素内の clientAuthentication="true" webAppSecurity 要素内の allowFailOverToBasicAuth="false" クライアント認証のみがサポートされています。
	NO	CMCI はクライアント認証を必要としません。 SEC=NO になっているときはこれがデフォルトです。	セキュリティは構成されません。
CMCIPORT (必須)	value	CMCI の HTTP または HTTP ポートを設定します。	httpEndPoint 要素内の httpPort または httpsPort

表 5. CICSplex SM WUI サーバー初期設定パラメーターと CMCI JVM サーバー構成パラメーターの間のマッピング (続き)			
CICSplex SM WUI パラメーター名	WUI パラメーター 値	CMCI への影響	CMCI JVM サーバー構成要素
CMCISSL (TCPIPSSL をオーバーライド)	ATTLISAWARE	CMCI への 非 HTTPS 接続が使用されます。	SSL を使用するように CMCI JVM サーバーを構成せずに、httpEndPoint 要素内の httpsPort を無効にしてください。
	CLIENTAUTH	CMCI への HTTPS 接続が使用されます。CMCI はクライアント証明書認証を必要とします。	ssl 要素内の clientAuthentication="true" SSL を使用するように CMCI JVM サーバーを構成し、httpEndPoint 要素内の httpPort を無効にしてください。
	NO	CMCI への 非 HTTPS 接続が使用されます。	SSL を使用するように CMCI JVM サーバーを構成せずに、httpEndPoint 要素内の httpsPort を無効にしてください。
	YES	CMCI への HTTPS 接続が使用されます。	SSL を使用するように CMCI JVM サーバーを構成し、httpEndPoint 要素内の httpPort を無効にしてください。
TCPIPADDRESS (TCPIPHOSTNAME をオーバーライド)	name	指定された TCP/IP アドレスのみを使用した CMCI へのクライアント接続を許可します。	httpEndPoint 要素内の host
	INADDR_ANY	LPAR に関連付けられているいずれかの TCP/IP アドレスを使用した CMCI へのクライアント接続を許可します。	httpEndPoint 要素内の host="*"
TCPIPHOSTNAME (必須)	name	LPAR に関連付けられているいずれかのホスト名を使用したクライアント接続を許可します。	httpEndPoint 要素内の host="*"
TCPIPHTTPHOST	YES NO	CMCI は使用しない。	適用外
TCPIPSSL (CMCISSL によりオーバーライドされることがある)	YES	CMCI への HTTPS 接続が使用されます。	SSL を使用するように CMCI JVM サーバーを構成し、httpEndPoint 要素内の httpPort を無効にしてください。
	NO	CMCI への 非 HTTPS 接続が使用されます。これはデフォルトです。	SSL を使用するように CMCI JVM サーバーを構成せずに、httpEndPoint 要素内の httpsPort を無効にしてください。
TCPIPSSLCERT	name	TCPIPSSL=YES が有効な場合、または CMCISSL が NO 以外の値に設定されている場合に有効になります。	使用されません。 Liberty はデフォルトの証明書を使用します。 3
TCPIPSSLCIPHERS	cipher_list	TCPIPSSL=YES が有効な場合、または CMCISSL が NO 以外の値に設定されている場合に有効になります。 CMCI で使用可能な暗号のリストを指定します。 4	ssl 要素内の enabledCiphers SSL がアクティブのときだけ使用されます。 4

注:

1. **SEC=YES** になっているときに有効です。
2. **KEYRING** システム 初期設定パラメーターが有効になっていなければなりません。
3. デフォルトの SSL 証明書が Liberty で構成されていることを確認してください。詳しくは、[Liberty での SSL のデフォルト](#)を参照してください。
4. 無効な暗号がリストに含まれている場合、CICS は無効な暗号を除去し、有効な暗号が少なくとも 1 つ残っている限り続行します。有効な暗号がなければ、CMCI へのアクセスは拒否されます。Liberty は、無効な暗号を構成することを許可しますが、接続を拒否し、Liberty ログに **Unsupported ciphersuite** というメッセージを記録します。このような場合は、問題の原因を特定するうえで以下のメッセージが役立ちます。

DFHSO0145W は、無効な暗号が指定されたことを示します。

DFHSO0146I では、CICS によって除去された無効な暗号がリストされます。

Liberty のリファレンス :

ssl 要素の属性については、[Liberty での SSL 構成属性](#)を参照してください。

webAppSecurity 要素の属性については、[Liberty での Web コンテナー・アプリケーション・セキュリティー \(webAppSecurity\)](#)を参照してください。

httpEndPoint 要素の属性については、[Liberty での HTTP エンドポイント \(httpEndpoint\)](#)を参照してください。

86 ページの表 6 は、WUI 領域システム 初期設定パラメーターが CMCI JVM サーバー 構成パラメーターにどのようにマップされるかを示すとともに、CMCI JVM サーバーでどのような追加構成が必要かを示しています。

表 6. CICSplex SM WUI 領域システム 初期設定パラメーターと CMCI JVM サーバー構成パラメーターの間のマッピング			
CICSplex SM WUI 領域 SIT パラメーター名	WUI 領域 SIT パラメーター名	CMCI への影響	CMCI JVM サーバー構成要素
APPLID	applid (アプリケーション ID)	CMCI セキュリティー・プロファイルの接頭部を設定します。	safCredentials 要素内の profilePrefix
DFLTUSER	userid	CMCI 非認証デフォルト・ユーザーを設定します。	safCredentials 要素内の unauthenticatedUser セキュリティーがアクティブのときに使用されます。
KEYRING	keyring-name	HTTPS またはクライアント証明書認証に使用される鍵リングの名前を指定します。	keyStore 要素内の location SSL またはクライアント認証がアクティブのときに使用されます。
MINTLSLEVEL		CMCI は使用しない。	ssl 要素内の sslProtocol を構成することで、SSL プロトコルを設定できます。
NISTSP800131A	NOCHECK CHECK	NIST SP800-131A 標準に準拠しているかどうかを検査するよう CMCI に指示します。	SP800-131a で実行されるように Liberty を構成してください。

表 6. CICSplex SM WUI 領域システム初期設定パラメーターと CMCI JVM サーバー構成パラメーターの間のマッピング (続き)			
CICSplex SM WUI 領域 SIT パラメーター名	WUI 領域 SIT パラメーター名	CMCI への影響	CMCI JVM サーバー構成要素
SEC	NO	認証を無効にします。	Liberty セキュリティーを無効にします。
	YES	CMCIAUTH によってオーバーライドされない限り、CMCI での基本認証を有効にします。	Liberty セキュリティーを有効にします。

Liberty のリファレンス：

safCredentials 要素の属性については、[Liberty](#) でのインターフェース [SAFCredential](#) を参照してください。

ssl 要素の属性については、[Liberty](#) での [SSL 構成属性](#) を参照してください。

CMCI でのレコード・カウント警告

レコード・カウント警告をセットアップすると、CICS 管理クライアント・インターフェース (CMCI) 要求は、許容できないほど大量のデータの取り出しが要求の結果として起きそうな場合には失敗します。レコード・カウント警告のセットアップは、CMCI のセットアップ時の WUI サーバー構成中に、ゼロ以外の値を **DEFAULTWARNCNT** 初期化パラメーターに指定することによって行います。

DEFAULTWARNCNT には、0 から 99999999 の派煮の整数値を指定することができます。デフォルト値は 0 で、警告が出されないことを意味します。

警告メカニズムにより、返されるレコードの数が警告カウント値より多いと判断されると、要求は HTTP 403 応答コードで失敗します。ユーザーが何らかの結果を取り出すには、**SCOPE**、**CRITERIA**、そして場合によっては **PARAMETER** オプションの値を変えて新しい要求を発行する必要があります。返される値が警告カウント値より小か等しい場合には、要求は通常の方法で処理されます。

注：CMCI 要求では、**count**、**index**、**SUMMONLY** オプションを使用して、レコードの表示を制限するか、レコードが表示されないようにすることができます。ただし、これらのオプションが、要求されるレコードの数に影響することはない、またそれがレコード・カウント警告メカニズムに影響を及ぼすことはありません。

ユーザーがレコード・カウント警告をバイパスできるようにする方法

DEFAULTWARNCNT がゼロ以外の値に設定されていると、警告カウント限度が有効になります。ユーザーは、要求内で CMCI URI オプション **OVERRIDEWARNINGCOUNT** を使用して、警告カウント限度をバイパスできます。CMCI URI オプション **OVERRIDEWARNINGCOUNT** を有効にするには、CMCI をセットアップする際に、WUI サーバーの構成中に **RESOURCELIMIT** 初期設定パラメーターを **WARNING** に設定しなければなりません。ユーザーが警告カウント限度をバイパスできないようにするには、**RESOURCELIMIT** を **FAIL** に設定します。

RESOURCELIMIT(WARNING) が有効の場合に、要求の結果として警告カウント限度よりも多い量のデータが取り出されることになると、403 HTTP 応答が返され、**errorInfo** 属性 **override_warning_count_allowed** が **yes** に設定されていることが示されます。その後ユーザーは、要求内で CMCI URI オプション **OVERRIDEWARNINGCOUNT** を使用して、警告カウント限度をバイパスできます。

しかし、**RESOURCELIMIT(FAIL)** が有効の場合は、上記のような要求は拒否され、403 HTTP 応答で **errorInfo** 属性 **override_warning_count_allowed** が **no** に設定されていることが示されます。**OVERRIDEWARNINGCOUNT** オプションを指定して要求を発行しても、結果は同じ 403 HTTP 応答になります。

適用できる CMCI リソース

この機能はすべてのリソースには適用されません。CMCI では、レコード・カウント警告は、以下のリソースに関連した CMCI 要求にのみ適用されます。

CMCI リソース
AIMODEL
ATOMSERV
BRFACIL
BUNDLE
BUNDPART
CFDTPOOL
CICSDSA
CICSPAGP
CICSRGN
CICSSTOR
CLCACHE
CMDT
CONNECT
DBCTLSS
DB2CONN
DB2ENTRY
DB2TRN
DOCTEMP
DOMSPOOL
DSNAME
DSPGBL
DSPMODE
DSPPOOL
EJCOBEAN
EJCOSE
EJDJAR
EJDJBAN
ENQUEUE
ENQMODEL
EPADAPT
EPADSET
EPAINSET
EVCSDATA

CMCI リソース
EVCSINFO
EVCSOPT
EVCSPEC
EVNTBIND
EVNTGBL
EXCI
EXITGLUE
EXITTRUE
EXTRATDQ
FEPICONN
FEPINODE
FEPIPOOL
FEPIPROP
FEPITRGT
HOST
HTASK
INDTDQ
INTRATDQ
IPCONN
IPFACIL
JRNLMODL
JRNLNAME
JVM
JVMPPOOL
JVMPROF
JVMSERV
LIBDSN
LIBRARY
LOADACT
LOADER
LOCFILE
LOCTRAN
LSRPBUF
LSRPOOL
MASHIST

CMCI リソース
MODENAME
MONITOR
MQCON
MQCONN
MQINI
MVSESTG
MVSTCB
MVSTCBGL
MVSWLM
OSGIBUND
OSGISERV
PARTNER
PIPELINE
PROCTYP
PROFILE
PROGRAM
RECOVERY
REMFIL
REMTDQ
REMTAN
REQID
RPLIST
RQMODEL
RULE
STREAMNM
SYSDUMP
SYSARM
TASK
TASKASSC
TASKESTG
TASKFILE
TASKRMI
TASKTSQ
TCPIPGBL
TCPIPS

CMCI リソース
TDQGBL
TERMNL
TRANCLAS
TRANDUMP
TSKSPOLS
TSKSPool
TSMODEL
TSPOOL
TSQGBL
TSQNAME
TSQSHR
UOW
UOWDSNF
UOWENQ
UOWLINK
URIMAP
URIMPGBL
WEBSERV
WORKREQ
XMLTRANS

CMCI のストレージ要件の見積もり

CICS 管理クライアント・インターフェースを使用するときに潜在的なストレージ問題が発生するのを回避するためには、適切なレベルの 64 ビット (2 GB 境界より上) のストレージを CICS 領域に指定し、さらに補助ストレージを指定する必要があります。WUI 領域または CICS 領域の 64 ビット・ストレージに制限を設定するには、z/OS パラメーター **MEMLIMIT** を使用し、CMAS の補助ストレージを設定するには、CICSplex SM システム・パラメーター **MAXAUXCPsm** および **MAXAUXTOTL** を使用します。

このタスクについて

大量のワークロードで CMCI を実行すると、WUI サーバーでストレージ不足の状況が発生し、補助ストレージを使い果たすことによって CMAS がシャットダウンすることがあります。

CMCI は、WUI サーバー用に保持されている結果セットを、サブプール WU_64 の GCDSA にある、CICS 領域の 64 ビット・ストレージに格納します。

CMCI 要求の間、CMAS は要求されたリソース・レコードを収集および保管します。それらのレコードは補助ストレージにバックアップされます。CMCI を介して要求を同時実行すると、各要求で CMAS によって保持されるレコードの数が乗算されます。

WUI 領域で CMCI と共に CMCI JVM サーバーを使用している場合、JVM サーバーは保持されている結果セットに加えてストレージを使用します。見積もりの中には、CMCI JVM サーバーのストレージ要件を含めるようにしてください。

手順

1. 典型的な要求のストレージ要件を計算します。
要求に対して大量のレコードを生成する可能性があるリソースを選択して、レコードの数に各レコードのサイズを掛けます。レコード・サイズを決定するには、[CICSplex SM リソース・テーブル](#)の適切な表を参照してください。
2. 保持されている結果セットの 64 ビット・ストレージの合計所要量を計算します。
単一の要求に対して保持されている結果レコードの予想最大数を見積もり、その数値に各要求の予想ストレージ数を掛けます。例えば、単一の要求で 100,000 個の CICS 端末を持てる場合、この数値にステップ 1 で決定したリソース・レコードのサイズを掛けます。
3. CICSplex SM 環境に CMCI をセットアップする場合は、CMAS の補助ストレージ要件を見積もります。
予想される同時要求の最大数を見積もり、その数値にステップ 2 で計算した各要求の予想ストレージ数を掛けます。同時要求の数は、任意の時間に CMCI を使用することが予想されるユーザーの総数、およびそれらのユーザーが発行する可能性がある同時要求の数から導き出すことができます。
4. より多くのストレージをメタデータ用に追加することを検討します。
CMCI は、各要求で要求されたすべてのリソース・レコードを新しい保持されている結果のために保管します。新しいリソース・タイプの最初の要求では、例えば、CICS プログラムに対する最初の要求の場合、少量の属性メタデータも保管されます。大きな要求の場合、属性メタデータのサイズおよび要求を行うために使用されるその他のストレージ量は、レコード自体に必要なストレージと比べたらごくわずかなものです。WUI サーバーの CMCI で内部的に使用される追加メタデータをカバーするために、最終的な予想値に 2% 追加することを検討します。この追加されたメタデータは、CMAS 計算に必須のものではありません。

CMCI JVM サーバーのストレージ要件

5. CMCI JVM サーバー は、WUI 領域で実行されている Liberty JVM サーバーです。JVM サーバーのストレージ要件を計算するには、[JVM サーバーのストレージ要件の計算](#)を参照してください。
CMCI JVM サーバー の最大ヒープ・サイズとして推奨される値は、少なくとも 2 GB です。

次のタスク

- CICSplex SM 環境に CMCI をインストールしている場合は、補助ストレージの見積もりを使用して、WUI サーバーに関連付けられている CMAS の **MAXAUXCP** および **MAXAUXTOTL** パラメーターの値を設定します。
- 保持されている結果セットに必要な 64 ビット・ストレージに、最大ヒープ・サイズを加えた見積もり値を使用して、WUI 領域 (シングル・サーバー・バージョンの CMCI を実行している場合は CICS 領域) の **z/OS MEMLIMIT** 値を決定します。64 ビット・ストレージを使用する他の CICS 機能を考慮する必要があります。

CICS の **MEMLIMIT** 値、および CICS 領域に現在適用されている **MEMLIMIT** の値を確認する方法については、「[パフォーマンスの改善](#)」の『[MEMLIMIT の見積もり、確認、および設定](#)』を参照してください。
z/OS での **MEMLIMIT** について詳しくは、「[z/OS MVS P プログラミング: 拡張アドレッシング機能ガイド](#)」の『[専用メモリー・オブジェクトの使用制限](#)』を参照してください。

CMCI JVM サーバーに対するクライアント・ホワイトリストの定義

クライアント・ホワイトリストを使用して、CMCI JVM サーバーに接続できるクライアントを制限できます。例えば、どのレベルの CICS Explorer またはブラウザーが CMCI JVM サーバーに接続できるかを制限することができます。

注: この機能により、CMCI に接続できるクライアントを管理できますが、これで CMCI が保護されると期待することはできません。

始める前に

ご使用の CMCI 構成で CMCI JVM サーバー がセットアップされ、稼働状態になっている必要があります。CMCI JVM サーバー をセットアップするには、72 ページの『[WUI 領域の CMCI の構成](#)』または 77 ページの『[CMCI JVM サーバーを使用するための WUI 領域の構成](#)』の指示に従ってください。

このタスクについて

クライアント・ホワイトリストは、CICS Explorer またはブラウザーなどのクライアントによって送信される有効なユーザー・エージェント HTTP ヘッダーのリストを格納する、ASCII ファイルです。

com.ibm.cics.jvmserver.cmci.user.agent.white.list JVM プロパティーを使用して、ホワイトリスト・ファイルの場所を指定します。プロパティーが CMCI JVM サーバー の JVM プロファイルに定義されていない場合は、すべてのクライアントが受け入れられます。

ユーザー・エージェントがファイル内にない場合、要求は HTTP コード 403 で拒否されて、メッセージ DFHSJ1412 が発行されます。

com.ibm.cics.jvmserver.cmci.user.agent.white.list.reject.text JVM プロパティーを使用して、ユーザーに返す代替応答テキストを指定できます。

これらの JVM システム・プロパティーについては、[JVM システム・プロパティー](#)を参照してください。

注：CICS Explorer ユーザー・エージェントは、複数の CICS Explorer コンポーネントの各バージョンをエンコードするので、コンポーネントが更新されると変更されることがあります。IBM CICS Explorer for Aqua V3.1¹ (フィックスパック 5.4.0.5) 以降では、「ヘルプ」>「バージョン情報」>「インストール詳細」>「構成」をクリックして、実行中の CICS Explorer インストール済み環境で表示されるユーザー・エージェントを検出できます。CMCI ユーザー・エージェント・ストリングは、「インストール詳細」ダイアログ・ボックスの「構成」タブにリストされます。

手順

1. クライアント・ホワイトリスト・ファイルを定義します。

ファイルでは、行の先頭で番号記号 (#) を使用して、コメントを指定できます。また、項目の最後の文字として、アスタリスク (*) をワイルドカードとして使用することもできます。ファイルは ASCII ファイル・エンコード方式で保管する必要があります。

```
# CICS Explorer User-Agent header
IBM_CICS_Explorer/5.5.6.201912070533 IBM_zOS_Explorer/3.2.9.201912061644 JRE/1.8.0_211 (Windows 7)

IBM_CICS_Explorer/5.5.6.201912070533 IBM_zOS_Explorer/3.2.9.201912061644 JRE/1.8.0_211 (Windows 8)

IBM_CICS_Explorer/5.5.6.201912070533 IBM_zOS_Explorer/3.2.9.201912061644 JRE/1.8.0_211 (Mac OS X)
```

図 7. CICS Explorer がクライアントであるクライアント・ホワイトリスト・ファイルの例

```
Mozilla/5.0 (Windows NT 10.0; Win64; x64; rv:65.0) Gecko/20100101 Firefox/65.0
```

```
Mozilla/5.0 (Windows NT 10.0; Win64; x64) AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko) Chrome/71.0.3578.98 Safari/537.36
```

```
Mozilla/5.0 (Macintosh; Intel Mac OS X 10_14_2) AppleWebKit/605.1.15 (KHTML, like Gecko) Version/12.0.2 Safari/605.1.15
```

図 8. ブラウザーがクライアントであるクライアント・ホワイトリスト・ファイルの例

2. 以下のように、ファイルの場所を指定します。

CMCI JVM サーバーの JVM プロファイル EYUCMCIJ.jvmprofile 内の次の行のコメントを外し、ファイルの場所を指定します。

```
-Dcom.ibm.cics.jvmserver.cmci.user.agent.white.list=/var/userAgentWhiteList
```

ホワイトリストに含まれていないクライアントからユーザーが CMCI JVM サーバーに接続しようとする、要求は HTTP コード 403 で拒否されます。カスタム応答テキストをユーザーに返す場合は、ステップ 94 ページの『3』から続行します。

¹ Aqua は IBM Explorer for z/OS Aqua を指します。

3. オプション: CMCI JVM サーバーの JVM プロファイル EYUCMCIJ.jvmprofile に次の行を追加します。ここで、*response_text* はユーザーに対するメッセージです。

```
-Dcom.ibm.cics.jvmserver.cmci.user.agent.white.list.reject.text=response_text
```

タスクの結果

ホワイトリストで処理される有効なユーザー・エージェントごとに、メッセージ DFHSJ1410I が発行されます。ホワイトリストに定義されているユーザー・エージェントのみが CMCI に接続できます。

トラブルシューティング: CMCI に対するアクセスを許可されたユーザー・エージェントがない場合、クライアントのホワイトリスト構成に問題がある可能性があります。例えば、**com.ibm.cics.jvmserver.cmci.user.agent.white.list** JVM プロパティに指定されたファイルが見つからないか、そのファイルに無効な値が含まれていることがあります。そのような場合、CSMT に対してメッセージ DFHSJ1408 が出力され、CMCI への接続を試みるユーザーにはメッセージ DFHWU4303 が出力されます。

次のタスク

ホワイトリストの更新

このファイル内のホワイトリスト値はキャッシュに保持され、デフォルトでは Liberty キャッシュ・ファイル・モニタリングによって更新されます。Liberty キャッシュ・ファイル・モニタリングは、デフォルトでは 10 秒ごとに、ファイルが変更されたかどうかを検査します。

リストを更新する必要がある場合は、CMCI JVM サーバーの JVM プロファイルで次の Java システム・プロパティを設定することによって、デフォルトをオーバーライドすることができます。

```
-Dcom.ibm.cics.jvmserver.cmci.user.agent.white.list.monitor.interval=20s
```

スタンドアロン CICS 領域での CMCI のセットアップ

スタンドアロン領域 (SMSS) で CICS 管理クライアント・インターフェース (CMCI) をセットアップすることができます。この構成では CMCI JVM サーバーはサポートされていません。

このタスクについて

SMSS で CMCI をセットアップするためのサンプル・リソース定義が提供されています。サンプルは、グループ DFH\$WU の CICS システム定義ファイル (CSD) に組み込まれています。

- DFH\$WUUR はサンプル URIMAP 定義です。
- DFH\$WUTC はサンプル TCPIP SERVICE 定義です。

これらのリソースはそのままインストールできます。通常は、コピーして変更を加え、自分の環境に合わせます。ただし、URIMAP パスは常に CICSSystemManagement/* として指定する必要があります。

デフォルトで提供される手順では、インターフェースのセキュリティはアクティブになりません。セキュリティがアクティブでない場合、検査システムのプログラミング・インターフェース・コマンドによって作成されるメッセージには、領域のデフォルトのユーザー ID が含まれます。

SMSS で CMCI のセキュリティをセットアップするために、96 ページの『[スタンドアロン CICS 領域での CMCI のセキュリティの構成](#)』に示されているような手順で、提供されているサンプルを調整することができます。

提供されているサンプルを使用して SMSS で CMCI をセットアップするには、以下の手順を使用します。

手順

1. CICS 始動 JCL (ジョブ制御言語) を変更します。
 - a) *hlq*.CPSM.SEYUAUTH ライブラリーを STEPLIB 連結に追加します。ここで、*hlq* は、CICSTS56 などの高位修飾子です。

b) *hlq*.CPSM.SEYULOAD ライブラリーを DFHRPL 連結に追加します。ここで、*hlq* は、CICSTS56 などの高位修飾子です。

これらのライブラリーは CICS のライブラリーと同じ CICS TS レベル、つまり、STEPLIB 連結での CICS *hlq*.CICS.SDFHAUTH および CICS *hlq*.CICS.SDFHLOAD ライブラリーと同じでなければなりません。

2. CICS 領域に関するシステム初期設定パラメーター CPSMCONN が NO に設定されていることを確認します。
CICS Explorer が CMCI スタンドアロン領域に接続するには、CPSMCONN を NO に設定しなければなりません。
3. CICS の始動時にグループ・リスト (GRPLIST) に組み込まれたリストに RDO グループ DFHFEPI がインストールされていることを確認します。DFHFEPI グループは、デフォルトの CICS 始動リスト DFHLIST に組み込まれています。このグループには、CMCI にとって必要なリソースが含まれています。
4. CICS 領域を始動します。
5. サンプル URIMAP 定義の DFH\$WUUR をインストールします。

このサンプル URI マップは、トランザクション CWWU を使用し、プログラム DFHWBA を呼び出して、CICS Web 要求を分析します。DFH\$WUUR には、以下の属性値が含まれます。

属性名	属性値
説明	サンプルのシステム 管理インターフェース URI マップ
グループ	DFH\$WU
Host	*
パス	CICSSystemManagement/*
ポート	いいえ
プログラム	DFHWUIPG
スキーム	HTTP
状況	有効
TCP/IP サービス名	DFH\$WUTC
トランザクション	CWWU
URI マップ	DFH\$WUUR
使用法	サーバー

サンプル定義のこれ以外の属性は、デフォルト値を保持します。

注: TCP/IP サービス名は TCPIPSERVICE 定義に一致しなければなりません。DFH\$WUTC 以外の名前を持つ TCPIPSERVICE 定義を使用する場合には、それに応じて TCP/IP サービス名を URIMAP 定義で確実にリネームしてください。

6. サンプルの TCPIPSERVICE 定義である DFH\$WUTC をコピーしてリネームし、ポート番号を固有値に変更します。
DFH\$WUTC には、以下の属性値が含まれます。

属性名	属性値
認証レベル	いいえ
CICS トランザクション ID	CWXN
説明	サンプルのシステム 管理インターフェース TCPIP サービス
グループ	DFH\$WU
Host	任意

属性名	属性値
ポート	1490
Protocol	HTTP
キュー・バックログ限度	0
SSL	いいえ
状況	Open (オープン)
TCP/IP サービス名	DFH\$WUTC
ソケット・クローズに対するタイムアウト	いいえ
ユーザー置き換え可能モジュール名	DFHWBAAX

サンプル定義のこれ以外の属性は、デフォルト値を保持します。

7. TCPIPService 定義をインストールします。

ヒント:

- CODB、COD0、COD1、COD2、COSH、COLU、CWWU、CWXN のトランザクションを RACF に対して、または等価の外部セキュリティ・マネージャーに対して定義し、CMCI ユーザーがそれらのトランザクションにアクセスすることを確実に許可されるようにしてください。
- CICS が使用する DFHCNV テーブルに DFHWBUD エントリが確実に含まれるようにしてください。
- 独自のバージョンの DFHCNV ソース・モジュールを使用する場合は、新規マクロを使用してそれをアセンブルおよびリンク・エディットするか、または必要なコード・ページを含めるようにしてください。

次のタスク

CICS Explorer またはブラウザーを使用して、セットアップが正しく機能するか検査します。

必要に応じて、以下の検査を使用できます。

1. スタンドアロン領域で TCPIPService が OPEN になっており URIMAP が ENABLED になっているか検査します。ポートを確認し、URIMAP が TCPIPService をコピー済みの古い DFH\$WUTC リソースではなく新しい名前参照していることを確認します。
2. ブラウザーで、以下の要求を使用して URL にアクセスします。ブラウザーから結果が返された場合は、セットアップは想定どおりに機能しています。CMCI URIMAP は、先頭が以下の URL に関する要求のみに応答します。

```
http://hostname:port/CICSSystemManagement/CICSTask/
```

3. 以下のような、領域ジョブ・ログ上の SMSS 関連メッセージを検査します。

```
EYUXL0022I xxxxxxxx SMSS Phase I initialization complete
EYUXL0007I xxxxxxPhase II initialization complete
EYUNL0099I xxxxxxxx SMSS LRT initialization complete
```

4. ジョブ・ログと MSGUSR ログの両方にあるインストール・エラーを検査します。
5. CICS Explorer の CMCI ポートへの接続を試行して、この接続が機能するかどうか検査します。

スタンドアロン CICS 領域での CMCI のセキュリティの構成

スタンドアロン CICS 領域 (SMSS) で CMCI のセキュリティを構成するには、サンプル定義の設定を変更する必要があります。HTTP 基本認証を使用するか、高水準のセキュリティ用の Secure Sockets Layer (SSL) 認証を使用するかを選択できます。

このタスクについて

インターフェースへのアクセスを保護するために使用できるセキュリティ手段について詳しくは、[CICS Web サポートのセキュリティ](#)を参照してください。

SMSS で CMCI のセキュリティをセットアップするには、以下に示されている手順のようにして、CICS 提供のサンプル定義 DFH\$WUTC および DFH\$WUUR を調整することができます。

手順

1. サンプルの TCPIP SERVICE 定義、DFH\$WUTC、およびサンプルの URIMAP 定義、DFH\$WUUR をコピーしてリネームします。
これらのサンプルは、グループ DFH\$WU の CICS システム定義ファイル (CSD) に組み込まれています。
2. TCPIP SERVICE 定義を変更して、使用するセキュリティ機能を取り込みます。
Web クライアントのセキュリティを含む TCPIP SERVICE 定義を作成する方法については、[CICS Web サポートの TCPIP SERVICE リソース定義の作成](#)を参照してください。
3. URIMAP 定義内の TCPIP SERVICE 属性を変更して、リネームした TCPIP SERVICE を参照するようにします。
SCHEME 属性を HTTP から HTTPS に変更することもできますが、この変更は、関連付けられている TCPIP SERVICE でセキュリティが有効になると自動的にインストール済みの URIMAP に加えられるので必須ではありません。
4. 定義を CICS 領域にインストールします。
これらのリソース定義をインストールするために使用できるメソッドについての説明は、[Ways of defining CICS resources](#) を参照してください。
注: CWWU と CWXN のトランザクションを RACF に対して、または等価の外部セキュリティ・マネージャーに対して定義し、CMCI ユーザーがそれらのトランザクションにアクセスすることを確実に許可されるようにしてください。

タスクの結果

セキュリティがアクティブの場合、検査システムのプログラミング・インターフェース・コマンドによって作成されるメッセージには、CICS Explorer にログオンするのに使用するユーザー ID が含まれます。

第 7 章 CICSplex SM の管理

CICSplex SM 環境を構成すると、CICS Explorer または Web ユーザー・インターフェースを使用してその環境を管理できます。

このタスクについて

CICS Explorer と Web ユーザー・インターフェースの両方が、お客様が定義した CICSplex で作業するためのビューを提供します。CICS には、データ・リポジトリ内の定義を管理するバッチ・ツールもあります。

CMAS コンテキスト、コンテキスト、およびスコープの設定

メニューの選択基準領域およびビューの選択基準と最新表示域領域で、現行のメニューからナビゲートするときに使用されるコンテキスト、CMAS コンテキスト、およびスコープを設定できます。

これらの値のいずれかを変更するには、必要なフィールドを上書きし、「設定」ボタンを選択します。

コンテキストまたは CMAS コンテキストのいずれかがすべての操作に使用されます。これらの用語は以下のように使用されます。

- **コンテキスト**

CICSplex 名であり、ほとんどすべてのビューで使用されます。

- **CMAS コンテキスト**

CMAS の名前です。CMAS 状況や、CMAS に接続された CICSplexes など、CMAS レベルの構成データを表示しているときにのみ使用されます。

- **スコープ**

CICSplex、CICS グループ MAS、または論理スコープ名です。スコープはコンテキストのサブセットであり、CICSplex SM コマンドの効果を特定の CICS システムまたはリソースに限定します。CMAS コンテキストが使用されている場合、スコープは無視されます。スコープは、特定のリソース・タイプに対してのみ使用されます。

Web ユーザー・インターフェース管理ビューへのアクセス

Web ユーザー・インターフェースのメインメニューから CICSplex SM 管理ビューにアクセスするには、「管理ビュー」をクリックします。

管理ビューは以下のように分割されています。

- 一般ビュー。CICSplex の構成およびトポロジを管理するためのビューが含まれます。
- リアルタイム分析ビュー。システム可用性および MAS リソースをモニターするためのビューが含まれます。
- ビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) を使用した CICS リソース定義。すべてのタイプの CICS リソースと CICSplex SM リソースを管理するためのビューが含まれます。

アクション・ボタンの使用

WUI ビューのアクション・ボタンを使用して、作成、更新、または削除などのアクションを実行できます。特定のビューで使用可能なアクションは、そのビューの作業域の最下部にボタンとして表示されます。

開いているビューからアクション・ボタンを使用するには、以下のようになります。

1. オプションで、作業域の左側にある 1 つ以上の「レコード」チェック・ボックスを選択するか、「すべて選択」ボタンを使用して、アクションを適用するレコードを選択します。
2. 必要なアクション・ボタンをクリックします。1 つまたは一連の確認パネルが表示されます。確認パネルにより、選択した各リソースに対するアクションを確認またはキャンセルしたり、場合によっては追加のオプションを含めたりすることができます。

3. 必要なボタンを選択するか、場合によっては、パラメーターを入力したり、チェック・ボックスを選択したり、ラジオ・ボタンを選択したりして確認パネルを完了します。

アクションが処理されてビューが再表示され、アクションの結果が示されます。アクションが正常に完了した場合は、作業域上部のメッセージ領域にメッセージ EYUVC1230I が表示されます。アクションが正常に完了しなかった場合は、1 つ以上のエラー・メッセージが表示されます。

管理ビューでのアクション

管理ビューで利用できるいくつかの共通タイプアクションがあります。

作成

新しい定義を作成し、それをデータ・リポジトリに追加します。管理定義名は、1 文字から 8 文字の長さで指定できます。名前には英字、数字、国別文字を含めることができます。ただし、先頭文字は英字でなければなりません。

追加先 ...

2 つの定義間の関連を追加します。結果として生じる確認パネルで、関連を作成するもう一方の定義を特定するようプロンプトが出されます。関連を追加すると、データ・リポジトリ内の定義間の関係が作成されます。関連の追加は、定義とグループ、グループと仕様、および仕様と CICS システムの間で行うことができます。

マップ

データ・リポジトリ内に、関連した定義のビジュアル・マップを表示するには、「マップ」をクリックします。

除去

データ・リポジトリから 1 つの定義、または 2 つの定義間の関連を削除します。

更新 (Update)

データ・リポジトリ内の定義を更新します。結果として生じるパネルは、選択したリソースの編集可能な詳細ビューです。

これらのアクションはすべて、データ・リポジトリの内容に影響を与えるもので、変更は即時適用されます。ただし、データ・リポジトリに対するこれらの変更の多くは、現在アクティブな CICS システムには影響しません。これらの変更は、次回 CICS システムを再始動した時に CICS システムに影響を与えます。

注：

1. 「時間枠定義」(EYUSTARTPERIODDEF) ビューを使用して定義を更新すると、変更はデータ・リポジトリと現在アクティブな CICS システムの両方に影響を与えます。
2. 現在実行されている MAS に対する変更は、データ・リポジトリには含まれません。
3. これらのアクションはすべて、バッチ・リポジトリ機能を使用しても実行できます。この機能については、[110 ページの『バッチ・リポジトリ更新機能 \(BATCHREP\)』](#)で説明されています。

データ・リポジトリ定義を管理するためのバッチ・ツール

CICSplex SM は、データ・リポジトリを管理するためのバッチ・ツールを提供します。

各 CMAS に関連付けられたデータ・リポジトリには、CICSplex SM 環境を確立するための定義が含まれています。これらの定義は、個々のレコードとして保管されます。これらの定義は、[CICSplex SM の構成](#)で説明されている WUI ビューを使用して作成および保守することができます。ただし、アプリケーションをある CMAS から別の CMAS に移動する場合や、ご使用の管理タスク内に大きな反復要素がある場合など、大量の定義を更新する場合は、バッチ・ツールのうちのいずれかを使用してジョブを実行する方が簡単です。これらを使用すると、データ・リポジトリ内の定義を作成および更新し、ある CMAS から別の CMAS へ、CMAS-CMAS リンク定義を含むデータ・リポジトリ定義をインポートおよびエクスポートすることができます。以下の 2 つのバッチ・ツールが提供されています。

EYU9XDBT CICSplex SM 定義ユーティリティー

これは、簡素化された用語、定義済みのデフォルト情報、および複雑な管理タスクを簡素化するためのフィルターを使用した、使いやすい REXX ツールです。デバッグ機能も強化されています。これは CICSplex SM と同じリリース・レベルのデータ・リポジトリに制限されています。EYU9XDBT は、インストール中に初期 CICSplex SM 環境をセットアップするために使用されます。これは、包括的なサンプル JCL に同梱されています。

バッチ・リポジトリ更新機能 (BATCHREP)

このツールを使用すると、入力ファイルを作成および編集することによってバッチ更新タスクを実行できますが、EYU9XDBT の定義済みの情報やサンプルは含まれません。このツールでは、以前のリリース・レベルの CMAS から定義をインポートすることができ、REXX 環境を必要としません。CICSplex SM バッチ・リポジトリ更新ユーティリティー、WUI、または CICSplex SM API のいずれかを使用して、BATCHREP ジョブを実行依頼できます。

以下のツールのどちらを使用しても、CMAS を作成することはできません。

EYU9XDBT CICSplex SM 定義ユーティリティー

EYU9XDBT CICSplex SM 定義ユーティリティーは CICSplex SM API を使用して、いくつかの単純なパラメーターに必要な CICSplex 名を指定します。ユーティリティーにより定義が自動的にセットアップされます。BATCHREP ユーティリティーとは違って、入力ファイルを手動で編集しません。

基本 CMAS 環境が確立された後、このユーティリティーを使用して、すべての CMAS および CICSplex 定義アクティビティーを実行することができます。これらのアクティビティーには、次のものがあります。

- CICS 領域、CICS グループ、および CICSplex を CMAS に定義する
- CICS 領域、CICS グループ、および CICSplex を CMAS から削除する
- CICS 領域を CICS グループに追加する
- CICS 領域を CICS グループから削除する
- CMAS 間リンク定義の作成
- CMAS または CICSplex コンテキストに定義された CICSplex SM オブジェクトをインポート、印刷、またはエクスポートする

以下のサンプルが用意されています。

EYUJXBT0

クイック・リファレンスとして使用する注釈付きの EYU9XDBT JCL 構文が含まれます。

EYUJXBT1

EYU9XDBT を呼び出し、CICSplex、CICS システム・グループ、および CICS システム定義を定義するためのサンプル JCL が含まれています。

EYUJXBT2

EYU9XBTP を呼び出し、同じ MVS イメージ上にある同じ CICS TS リリース・レベルで実行されている CMAS について CMAS-CMAS リンク定義を作成するためのサンプル JCL が含まれています。

EYUJXBT3

EYU9XBTP を呼び出し、コンテキストを 1 番目の CMAS 名に設定し、2 番目の CMAS にリンクをインポートして、異なる MVS イメージ上にある CMAS について CMAS-CMAS リンク定義を作成するためのサンプル JCL が含まれています。

EYUJXBT4

EYU9XBTP を呼び出し、コンテキストを 2 番目の CMAS 名に設定し、1 番目の CMAS にリンクをインポートして、異なる MVS イメージ上にある CMAS について CMAS-CMAS リンク定義を作成するためのサンプル JCL が含まれています。

EYU9XDBT ユーティリティーのコマンド

EYU9XDBT CICSplex SM 定義ユーティリティーのコマンド・ストリームでは、多くのコマンドを使用できます。

EYU9XDBT は、入力ストリーム内のすべてのコマンドを順次に読み込んで処理します。OPTION DUPREC コマンドおよび OPTION FEEDBACK コマンドなどは、それらが関連し、操作するコマンドの前に置くように、正しい順序で指定します。例えば、OPTION DUPREC は、操作したい IMPORT コマンドに先行します。

コメント

EYU9XDBT コマンド・ストリームには、コメントを含めることができます。カラム 1 にアスタリスクを、カラム 2 にブランクを指定するとコメントになります。

継続

ハイフン (-) は継続を示します。継続文字は、DEFINE コマンドと REMOVE コマンドでサポートされています。例えば、DEFINE REGION コマンドには複数のサブパラメーターがあり、それらは以下のように別々の行に記述することができます。

```
DEFINE REGION    region_name    -
                APPLID region_applid -
                SYSID  region_sysidnt
```

コマンド

ADD TOGROUP *groupname*

領域またはグループを CICS グループに追加します。ADD コマンドのあとに、REGION または CICSGRP サブパラメーターのいずれかで、追加するオブジェクトを指定します。ADD コマンドの例については、[105 ページの『EYUJXBT1 で使用するパラメーター』](#)を参照してください。

CONTEXT {*cmas_name* | *CICSplex_name*}

後続のコマンドのコンテキストを設定します。CONTEXT コマンドの例については、[105 ページの『EYUJXBT1 で使用するパラメーター』](#)を参照してください。

DEFINE *object_type object_name mandatory_identifiers*⁺

指定されたオブジェクトを定義します。タイプは CICSplex、REGION、または CICSGRP のいずれかです。オブジェクト・タイプの CICSplex、REGION、および CICSGRP は、CPLEXDEF、CSYSDEF、および CICSGRP 定義の同義語です。

- CICSplex を定義するには、*object_type* を CICSplex と指定し、*object_name* を指定する必要があります。オブジェクト名は、定義している CICSplex の 1 文字から 8 文字の英数字名です。*object_name* の最初の文字は英字でなければなりません。CICSplex オブジェクト・タイプに関連する必須の識別子は他にはありません。コマンドの形式は以下のとおりです。

```
DEFINE CICSplex plexname
```

このコマンドは、CICSplex SM CMAS リポジトリ内に CPLEXDEF を作成します。

- REGION を定義するには、*object_type* を REGION とし、定義している CICS 領域の 1 文字から 8 文字の英数字名を *object_name* に、さらに、必須の識別子 APPLID と SYSID を指定する必要があります。コマンドの形式は以下のとおりです。

```
DEFINE REGION region_name    -
                APPLID region_applid -
                SYSID  region_sysidnt
```

このコマンドは、CICSplex SM CMAS リポジトリ内に CSYSDEF を作成します。

- CICSGRP を定義するには、*object_type* を CICSGRP と指定し、*object_name* を指定する必要があります。オブジェクト名は、定義している CICS システム・グループの 1 文字から 8 文字の英数字名です。*object_name* の最初の文字は英字でなければなりません。CICSGRP オブジェクト・タイプに関連する必須の識別子は他にはありません。コマンドの形式は以下のとおりです。

```
DEFINE CICSGRP group_name
```

このコマンドは、CICSplex SM CMAS リポジトリ内に CICSGRP を作成します。

DEFINE コマンドの例については、[105 ページの『EYUJXBT1 で使用するパラメーター』](#)を参照してください。

DELETE *object_type object_name*

指定されたオブジェクトを削除します。オブジェクトのタイプは CICSplex、REGION、または CICSGRP のいずれかです。*object_name* には、ワイルドカード文字としてアスタリスクを指定できます。

EXPORT *DDname resource_type resource_id*

現行コンテキスト内の指定されたタイプおよび ID (識別子) のすべての定義を、指定された出力ファイルに書き込みます。後で SYSIN 内でさらに EXPORT ステートメントを同じ DDname に指定した場合は、それらのレコードが DDname に追加されます。*resource_type* には、CICSplex SM リソース・タ

イブのいずれか 1 つを省略せずに指定するか、あるいは、すべてのリソース・タイプの場合はアスタリスク (*) を指定します。有効なリソース・タイプは CICSplex SM データ・リポジトリに書き込まれる任意のリソースで、これにはすべての BAS オブジェクト、WLM 定義、RTA 定義、トポロジー定義、またはモニター定義も含まれます。BAS RESINGRP リソース・レコードはエクスポートできませんが、各 BAS リソース定義には、エクスポート可能な同等の XXXINGRP リソース・レコードがあります。
resource_id には、汎用 (ワイルドカード) 文字としてアスタリスクを指定できます。リソース・タイプとリソース ID の両方をアスタリスクに設定すると、EYU9XDBT は現行コンテキスト内のすべての定義をエクスポートします。

注: 末尾ブランクは末尾ワイルドカード文字として扱われるため、EXPORT *DDname* は、*DDname* コンテキスト内のすべての定義をエクスポートします。

IMPORT *DDname resource_type resource_id*

名前付き DD ステートメントで定義された入力ファイルから、指定されたタイプと ID のすべての定義を現行コンテキストでリポジトリにインポートします。*resource_type* には、CICSplex SM リソース・タイプのいずれか 1 つを省略せずに指定するか、あるいは、すべてのリソース・タイプの場合はアスタリスクを指定します。有効なリソース・タイプは CICSplex SM データ・リポジトリに書き込まれる任意のリソースで、これにはすべての BAS オブジェクト、WLM 定義、RTA 定義、トポロジー定義、またはモニター定義も含まれます。BAS RESINGRP リソース・レコードはインポートできませんが、各 BAS リソース定義には、インポート可能な同等の XXXINGRP リソース・レコードがあります。
resource_id には、ワイルドカード文字としてアスタリスクを指定できます。リソース・タイプとリソース ID の両方をアスタリスクに設定すると、EYU9XDBT は入力データ・セットで検出したすべての定義をインポートします。

インポートされたファイルについては、以下の規則に注意してください。

- 入力レコードは 80 バイトのレコードでなければならず、データは 72 バイトに切り捨てられます。
- インポート・ファイル内の二重引用符 (") は、ストリング区切り文字として使用されます。そのため、入力ファイルに二重引用符文字を含めたい場合は、テキスト・ストリングに二重引用符を 2 つ連続して使用する必要があります。例えば、ファイルを CICSplex SM オブジェクトにインポートした場合、インポート・ファイル内のストリング「"double" "quote" "example"」は、「double"quote"example」となります。
- 継続行は、最大長を超えてしまう行を表すために、インポート・ファイルで使用されます。以下の例では、255 バイトのストリングで表される JVM クラスのプログラム定義を使用して、インポート・ファイルで継続行がどのように表されるかを示しています。

```
PROGDEF_JVMCLASS = "AAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA";
PROGDEF_JVMCLASS = PROGDEF._JVMCLASS || "AAAAAAAAAAAAAAAAAAAAABBBBBBBB";
PROGDEF_JVMCLASS = PROGDEF._JVMCLASS || "BBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBB";
PROGDEF_JVMCLASS = PROGDEF._JVMCLASS || "BBBBBBBBBCCCCCCCCCCCCCCCCCCC";

PROGDEF_JVMCLASS = PROGDEF._JVMCLASS || "ZZZZZZ";
```

プログラム定義ステートメント PROGDEF_JVMCLASS = "AAA..." は、最初の行がオーバーフローし、定義の次のセクションを前のセクションに追加することによって、各行が連続して続きます。システム変数用の REXX 構文「.」が、行が継続行であることを示すために使用されます。この例では、各継続行ごとに「PROGDEF_JVMCLASS」が「PROGDEF._JVMCLASS」で置き換えられています。継続行にある REXX 連結バー「||」は、ストリングの次のセクションを既存のストリングに追加します。

OPTION [DUPREC | FEEDBACK | REPORT]

コマンド処理中に EYU9XDBT が実行するアクションを要求します。この要求は、DUPREC、FEEDBACK、または REPORT です。複数のアクションを要求するには、それぞれのアクションを別々の OPTION コマンド・ステートメントで指定します。DUPREC、FEEDBACK、および REPORT の各アクションには、以下のように選択できるオプションがあります。

DUPREC {ABORT | REJECT | SKIP | UPDATE}

DUPREC は、インポート処理中に重複レコードが見つかった場合に、EYU9XDBT に実行させるアクションを指定します。このコマンドは、それが参照する IMPORT または DEFINE ステートメントの前に指定する必要があります。指定可能なオプションは以下のとおりです。

- **ABORT:** DEFINE または IMPORT コマンドの処理中に、定義しているオブジェクトの名前と既存のリポジトリ定義の名前が重複している場合、定義またはインポートされている重複名はスキップされ、データ・リポジトリは変更されません。ABORT オプションはリカバリー不能エラーとして扱われ、EYU9XDBT はメッセージをジョブ・ログに書き込み、戻りコード 12 を出します。ジョブは即時に停止します。
- **REJECT:** DEFINE または IMPORT コマンドの処理中に、定義しているオブジェクトの名前と既存のリポジトリ定義の名前が重複している場合、定義またはインポートされている重複名はスキップされ、データ・リポジトリは変更されません。REJECT オプションはエラーとして処理され、EYU9XDBT はジョブ・ログにメッセージを書き込みます。EYU9XDBT は REJECT エラーの戻りコード 8 を出します。REJECT が、デフォルト・オプションです。
- **SKIP:** DEFINE または IMPORT コマンドの処理中に、定義しているオブジェクトの名前が既存のリポジトリ定義の名前と同じである場合、新しい定義はスキップされ、データ・リポジトリは変更されません。これは正常であるとして処理されます (戻りコード 0)。
- **UPDATE:** DEFINE または IMPORT コマンドの処理中に、定義しているオブジェクトの名前と既存のリポジトリ定義の名前が重複している場合、既存の定義が、定義またはインポートされているレコードの属性で更新されます。既存の定義が特定の属性を変更しても更新できない場合、その定義は削除され、DEFINE または IMPORT コマンドから再作成されます。このアクションは正常であるとして処理されます (戻りコード 0)。

注: **OPTION DUPREC UPDATE** シナリオで CICSplex 名を保守ポイント CMAS に関連付ける CPLXCMAS レコードをインポートすると、コマンド応答は常に「レコードがスキップされました (Record skipped)」になります。CPLEXDEF レコードが CMAS にインポートされるたびに、1 つの CPLXCMAS レコードが暗黙的に作成されます。これらのレコードは、対応する CPLEXDEF レコードが削除されたときのみ暗黙的に削除されることがあります。

FEEDBACK {QUIET | VERBOSE}

FEEDBACK は、CICSplex SM API からエラーが返された場合に、EYU9XDBT が例外条件報告をどのように処理するかを指定します。指定可能なオプションは以下のとおりです。

- **QUIET:** EYU9XDBT は、基本的な EYU9XDBT メッセージのみをジョブ・ログに書き込みます。QUIET は、FEEDBACK のデフォルトのオプションです。
- **VERBOSE:** EYU9XDBT は、標準のメッセージ報告応答および理由コードに加えて、関連する CICSplex SM フィードバック・データを、SYSTSPRT DD ステートメントで指定された宛先に書き込みます。

REPORT {FULL | SUMMARY}

- **FULL:** これがデフォルト・オプションで、この変更前の現在のレポート状態です。プログラムが EYUDREP オブジェクトに対して PRINT、IMPORT、EXPORT、または DELETE コマンドを処理すると、そのオブジェクトのすべての属性がレポートに出力されます。大容量のデータ・リポジトリの場合、このレポート・オプションを使用すると何千行ものデータが生成される可能性があります。
- **SUMMARY:** この指定により、出力されるリソース・テーブルの内容が、PRINT、IMPORT、EXPORT、および DELETE コマンドのキー・フィールド ID のみに制限されます。

OPTION REPORT コマンドをコマンド・ストリームで連続して使用することにより、一部のプロセスではすべての属性データをリストし、その他のプロセスでは属性データを要約するだけとすることができます。以下に例を示します。

```
* Set the context to my CICSplex
CONTEXT myplex01
* Specify that duplicates are to be updated
OPTION DUPREC UPDATE
* Specify that I only want record identifiers printed
OPTION REPORT SUMMARY
* Now import my CSYSDEF records
IMPORT CPSMI01 CSYSDEF * *
* Now do a detailed print of what was just imported ...
OPTION REPORT FULL
* ... and print all CSYSDEF details.
PRINT CSYSDEF * *
```


PRINT resource_type resource_id

CMAS リポジトリから現行コンテキスト内の定義を出力します。*resource_type* には、CICSplex SM リソース・タイプのいずれか 1 つを省略せずに指定するか、あるいは、すべてのリソース・タイプの場合はアスタリスクを指定します。*resource_id* には、ワイルドカード文字としてアスタリスクを指定できます。リソース・タイプとリソース ID の両方にアスタリスクを指定すると、EYU9XDBT は現行コンテキスト内のすべての定義を出力します。

REMOVE FROMGROUP groupname

名前付きグループから、指定されたオブジェクトを削除します。REMOVE コマンドのあとに、REGION または CICSGRP サブパラメーターのいずれかで、オブジェクトを指定します。

EYU9XDBT ユーティリティーで使用するデータ・セット

CICSplex、CICS 領域、および CICS グループを定義するために、EYU9XDBT CICSplex SM 定義ユーティリティーは、SEYUPARM ライブラリーで提供されるいくつかの事前定義済み情報を使用します。

以下の DD ステートメントが、この情報を参照します。

EYUCPDEF

この DD ステートメントは、EYUCPDEF というメンバーを参照します。このメンバーは、DEFINE CICSplex コマンドをサポートするためのデフォルト値を提供します。独自のインストール要件に合わせて、その中にある CPLEXDEF を変更することができます。

EYUCSDEF

この DD ステートメントは、EYUCSDEF というメンバーを参照します。このメンバーは、DEFINE REGION コマンドをサポートするためのデフォルト値を提供します。独自のインストール要件に合わせて、その中にある CSYSDEF を変更することができます。

EYUCSGRP

この DD ステートメントは、EYUCSGRP というメンバーを参照します。このメンバーは、DEFINE CICSGRP コマンドをサポートするためのデフォルト値を提供します。独自のインストール要件に合わせて、その中にある CSYSGRP を変更することができます。

EYUJXBTP で使用するパラメーター

EYUJXBTP は、EYU9XDBT プログラムを呼び出すためにサンプル EYUJXBT1、EYUJXBT2、EYUJXBT3 および EYUJXBT4 で使用される JCL プロシーチャーです。

使用されるデータ・セットの説明については、[105 ページの『EYU9XDBT ユーティリティーで使用するデータ・セット』](#)を参照してください。

EYUJXBT1 で使用するパラメーター

EYUJXBT1 JCL サンプルは、CICSplex の初期定義、CICSplex と保守ポイントとしての CMAS の関連付け、および、CICS システムとその CICSplex との関連付けとグループ化を提供します。

作成する定義を入れるリポジトリを所有する CMAS は、EYUJXBT1 ジョブを実行するときにアクティブでなければなりません。また、EYUJXBT1 ジョブは、CMAS と同じ z/OS イメージで実行する必要があります。EYUJXBT1 JCL には、リポジトリのためのデータ・セット定義 (DD) ステートメントはありません。そのリポジトリへのすべてのアクセスは、API を使用して CMAS を介して行われるからです。

EYUJXBT1 には、ユーザーがそれを編集して独自の名前を指定する、以下のパラメーターがあります。

CONTEXT

ユーティリティーが動作する CICSplex SM コンテキストを設定します。CICSplex を定義する場合にのみ、コンテキストを CMAS として定義します。余分な領域の定義、あるいはオブジェクトのインポートやエクスポートなど、既存の CICSplex で動作するアクションの場合は、コンテキストを CICSplex に設定します。

EYUJXBT1 ジョブは、このパラメーターを 2 回使用します。1 回目の使用は、ユーティリティーが CMAS の場所を探索して通信可能とするためです (2 回目の使用については以下を参照)。CMAS コンテキストを設定するパラメーターの形式は次のとおりです。

```
CONTEXT cmasname
```

ここで、*cmasname* は CICSplex の保守ポイントとなる CMAS の名前です。

DEFINE CICSplex

CICSplex の名前を指定します。CICSplex を定義する場合、CONTEXT パラメーターで指定された CMAS が CICSplex の保守ポイントになります。

パラメーターの形式は以下のとおりです。

```
DEFINE CICSplex plexname
```

複数の CICSplex を定義できる命名規則を使用するなどして、CICSplex に 1 文字から 8 文字の名前を選択します。以下に例を示します。

- 最初の 3 文字は、Hursley を表す HUR のように場所を識別します。
- 中間の文字で、テスト用 CICSplex と実動 CICSplex を表す TEST や PROD のようにタイプを示します。
- 最後の 1 文字で、CICSplex の固有の英数字 ID を示します。

CICSplex 定義を完了するために必要な他のすべてのパラメーターが、用意されている EYUJXBTP サンプルの EYUCPDEF DD ステートメントで定義された EYUCPDEF ファイルによって提供されます。

提供されている EYUJXBTP ジョブは、CICSplex を 1 つだけ定義するようセットアップされています。必要な定義を EYUJXBTP に追加することにより、Web ユーザー・インターフェース・サーバー用に個別の CICSplex を作成することをお勧めします。

CONTEXT

CONTEXT の 2 回目の使用は、DEFINE CICSplex パラメーターのあとに出現し、コンテキストを CICSplex に再設定します。

コンテキストを CICSplex に設定するためのパラメーターの形式は以下のとおりです。

```
CONTEXT plexname
```

ここで、*plexname* は DEFINE CICSplex パラメーターに指定した名前です。

DEFINE CICSGRP

CICSplex のサブセットである CICS システム・グループを定義します。

このパラメーターの形式は次のとおりです。

```
DEFINE CICSGRP group_name
```

ここで、*group_name* は 1 文字から 8 文字までの英数字からなる CICS システム・グループの名前です。先頭文字は英字である必要があります。

DEFINE REGION

CICSplex に組み込む各 CICS 領域の名前とその他のキー属性を指定します。パラメーターとそのサブパラメーターの形式は次のとおりです。

```
DEFINE REGION region_name -  
  APPLID region_applid -  
  SYSID region_sysidnt
```

これらの定義では、APPLID を領域名として使用することをお勧めします。領域名を APPLID と同じにすると、以下のような利点があります。

- 領域について別の名前を考案する必要がありません。
- 領域に 2 つの ID を持たせるのではなく名前を同じにすれば、混乱を避けることができます。
- NAME EYUPARM を除外することにより、EYUPARM パラメーターを CICS 領域間で共用できます。各 CICS 領域の NAME EYUPARM は、各 CICS 領域の APPLID システム初期設定テーブル・パラメーターで指定されている z/OS Communications Server の APPLID をデフォルトにしています。

SYSID は、領域の SYSIDNT システム初期設定パラメーターに指定される名前です。

EYUJXBTP ジョブには DEFINE REGION パラメーターが 1 回含まれていますが、お客様の要件に合うどのグループ内でも必要な数だけ定義することができます。

ADD TOGROUP

DEFINE CICSGRP コマンドで定義された CICS システム・グループに追加する CICS 領域の名前を指定します。

グループに CICS 領域を追加するためのこのパラメーターの形式は次のとおりです。

```
ADD TOGROUP      grpname -  
REGION          regname
```

1 つのグループを別のグループに組み込むことによって、CICS システム・グループをネストすることもできます。グループを (別の) グループに追加するためのパラメーターの形式は次のとおりです。

```
ADD TOGROUP      grpname1 -  
CICSGRP          grpname2
```

EYUJXBT1 ジョブを実行して CICSplex の初期定義を作成したあとに、別の CICSplex の作成や、領域または CICS システム・グループのさらなる追加が必要になる場合があります。その場合は、CMAS データ・リポジトリにさらなるオブジェクトを追加するよう適切に変更した EYUJXBT1 ジョブを再度実行します。更新をバックアウトしなければならない場合に備えて、前の定義を保管してから変更を行うこともできます。

EYUJXBT2 で使用するパラメーター

EYUJXBT2 サンプルは、CMAS-CMAS 接続を作成するための定義をインポートします。このサンプルは、コンテキストを 1 番目の CMAS 名に設定し、そのリンクを 2 番目の CMAS にインポートします。次に、サンプルはコンテキストを 2 番目の CMAS 名に変更し、そのリンクを 1 番目の CMAS にインポートします。

作成する定義を入れるリポジトリを所有する CMAS は、EYUJXBT2 ジョブを実行するときにアクティブでなければなりません。また、EYUJXBT2 ジョブは、CMAS と同じ z/OS イメージで実行する必要があります。EYUJXBT2 JCL には、リポジトリのためのデータ・セット定義 (DD) ステートメントはありません。そのリポジトリへのすべてのアクセスは、API を使用して CMAS を介して行われるからです。

EYUJXBT2 は、IMPORT コマンドの使用例を提供し、ユーザーが編集して独自の名前を指定する以下のパラメーターを持っています。

CONTEXT

ユーティリティーが動作する CICSplex SM コンテキストを設定します。

コンテキストを設定するためのパラメーターの形式は以下のとおりです。

```
CONTEXT masname
```

ここで、*masname* は変更する CMAS の名前です。

OPTION DUPREC

インポート・ストリームに、ローカル・データ・リポジトリに既に存在する定義を検出した場合に、プログラムが実行するアクションを指定します。指定可能なオプションは以下のとおりです。

- OPTION DUPREC REJECT。重複定義に続くコマンドはリジェクトされます。
- OPTION DUPREC ABORT。ジョブは終了します。
- OPTION DUPREC SKIP。既存のレコードをそのままの場所に置いておきます。
- OPTION DUPREC UPDATE。既存の定義を置き換えます。

IMPORT

定義をリポジトリにインポートします。

パラメーターの形式は以下のとおりです。

```
IMPORT CMAS1LNK * *
```

EYUJXBT2 には、CMAS1LNK のための入力データ・ストリームがあり、これには CMAS-CMAS 定義 (CMTCMDEF リソース・テーブル) が含まれています。

2 次 CMAS を追加する場合は、それをご使用の CICSplex に割り当ててから CICSplex 管理に参加させる必要があります。以下のいずれかの方法で行います。

- EYUSTARTCPLEXDEF WUI ビューから割り当てアクションを実行します。
- CPLEXDEF リソース・テーブルに対して、ASSIGN の CICSplex SM API アクションを使用します。

EYUJXBT3 で使用するパラメーター

EYUJXBT3 および EYUJXBT4 のサンプルを使用して、異なる z/OS イメージ上の CMAS に対する CMAS-CMAS 接続を作成するための定義をインポートします。EYUJXBT3 は、コンテキストを 1 番目の CMAS 名に設定し、そのリンクを 2 番目の CMAS にインポートします。

作成する定義を入れるリポジトリを所有する CMAS は、EYUJXBT3 を実行するときにアクティブでなければなりません。EYUJXBT3 ジョブは、定義を作成する CMAS と同じ z/OS イメージで実行する必要があります。EYUJXBT3 JCL には、リポジトリのためのデータ・セット定義 (DD) ステートメントはありません。そのリポジトリへのすべてのアクセスは、API を使用して CMAS を介して行われるからです。

EYUJXBT3 は、IMPORT コマンドの使用例を提供し、ユーザーが編集して独自の名前を指定する以下のパラメーターがあります。

CONTEXT

ユーティリティーが動作する CICSplex SM コンテキストを設定します。

コンテキストを設定するためのパラメーターの形式は以下のとおりです。

```
CONTEXT cmasname
```

ここで、*cmasname* は変更する CMAS の名前です。

OPTION DUPREC

インポート・ストリームに、ローカル・データ・リポジトリに既に存在する定義を検出した場合に、プログラムが実行するアクションを指定します。以下のオプションの範囲を指定できます。

REJECT

重複定義に続くすべてのコマンドをリジェクトします。

ABORT

ジョブを強制終了します。

SKIP

既存のレコードをそのままの場所に置いておきます。

UPDATE

既存の定義を置き換えます。

IMPORT

定義をリポジトリにインポートします。

パラメーターの形式は以下のとおりです。

```
IMPORT CMAS1LNK * *
```

EYUJXBT3 には、CMAS1LNK のための入力データ・ストリームがあり、これには CMAS-CMAS 定義 (CMTCMDEF リソース・テーブルを使用して作成) が含まれています。

2 次 CMAS を追加する場合は、それをご使用の CICSplex に割り当ててから CICSplex 管理に参加させる必要があります。以下のいずれかの方法で行います。

- EYUSTARTCPLEXDEF WUI ビューから ASSIGN アクション・コマンドを発行します。
- CPLEXDEF リソース・テーブルに対して、ASSIGN の CICSplex SM API アクションを使用します。

EYUJXBT4 で使用するパラメーター

EYUJXBT4 および EYUJXBT3 のサンプルを使用して、異なる z/OS イメージ上の CMAS に対する CMAS-CMAS 接続を作成するための定義をインポートします。EYUJXBT4 は、コンテキストを 2 番目の CMAS 名に設定し、そのリンクを 1 番目の CMAS にインポートします。

作成する定義を入れるリポジトリを所有する CMAS は、EYUJXBT4 を実行するときにアクティブでなければなりません。EYUJXBT4 ジョブは、定義を作成する CMAS と同じ z/OS イメージで実行する必要があります。EYUJXBT4 JCL には、リポジトリのためのデータ・セット定義 (DD) ステートメントはありません。そのリポジトリへのすべてのアクセスは、API を使用して CMAS を介して行われるからです。

EYUJXBT4 は、IMPORT コマンドの使用例を提供し、ユーザーが編集して独自の名前を指定する以下のパラメーターがあります。

CONTEXT

ユーティリティーが動作する CICSplex SM コンテキストを設定します。

コンテキストを設定するためのパラメーターの形式は以下のとおりです。

```
CONTEXT cmasname
```

ここで、*cmasname* は変更される CMAS の名前です。

OPTION DUPREC

インポート・ストリームに、ローカル・データ・リポジトリに既に存在する定義を検出した場合に、プログラムが実行するアクションを指定します。以下のオプションの範囲を指定できます。

REJECT

重複定義に続くすべてのコマンドをリジェクトします。

ABORT

ジョブを強制終了します。

SKIP

既存のレコードをそのままの場所に置いておきます。

UPDATE

既存の定義を置き換えます。

IMPORT

定義をリポジトリにインポートします。

パラメーターの形式は以下のとおりです。

```
IMPORT CMAS2LNK * *
```

EYUJXBT4 には、CMAS2LNK のための入力データ・ストリームがあり、これには CMAS-CMAS 定義 (CMTCMDEF リソース・テーブルを使用して作成) が含まれています。

2 次 CMAS を追加する場合は、それをご使用の CICSplex に割り当ててから CICSplex 管理に参加させる必要があります。以下のいずれかの方法でこれを行うことができます。

- EYUJXBT4 から ASSGN アクション・コマンドを発行します。
- CPLEXDEF リソース・テーブルに対して、ASSGN の CICSplex SM API アクションを使用します。

EYU9XDBT ユーティリティーのエラー処理

EYU9XDBT ユーティリティー・プログラムの処理では、3 つのレベルのエラーが発生する可能性があります。

それらのエラーは以下のとおりです。

- EYU9XDBT によって検出されるコマンド・パラメーター・ストリーム内のエラー。

EYU9XDBT は各コマンドを、コマンド入力ストリーム内で発生するとおりに処理します。ユーティリティー・プログラムがコマンド内のエラー (例えば、認識できないパラメーター) を検出すると、それ以上コマンドを読み取らずに処理を停止し、メッセージ「EYUXU1448E Data stream rejected」を発行し、EYU9XDBT 戻りコード 12 を表示します。

- CICSplex SM が EYU9XDBT からの呼び出しを処理しているときに検出した CICSplex SM API のエラー。

コマンドとそのパラメーターが EYU9XDBT によって認識されると、CICSplex SM API を呼び出して、指定されたアクションを実行します。ただし、CICSplex SM がエラーを検出した場合、そのコマンドだけが (EYU9XDBT 戻りコードが 8 または 12 で) 失敗し、EYU9XDBT は次のコマンドを続行します。例えば、SYSID ABCDE を指定する DEFINE REGION コマンドは EYU9XDBT によって受け入れられますが、SYSID 値の長さが 4 文字を超えているために CICSplex SM によって拒否され、次のエラー・メッセージが生成されます。

EYUAR0021E

属性 (CSYSDEF._SYSID) のデータ長が無効です

EYUXU1441S

CSYSDEF データで TBUILD が失敗しました: FAILURE

EYUXU1448E

データ・ストリームは拒否されました

- プログラムが、割り当てた量を超えてストレージを使用しようとしたときの異常終了コード 878。

EYU9XDBT では、この異常終了は領域サイズが不十分なために発生します。解決策は、領域サイズを大きくすることです。この異常終了コードは、以下の状況で発生する可能性があります。

- 領域サイズを設定する際に、EYU9XDBT がメモリー内に多数の定義を保持することを考慮していない場合。

定義サイズに定義カウントをかけて、必要なストレージを計算することができます。ただし、領域サイズを変更できない場合は、既存のコマンドを変更してより少ないストレージを使用できる可能性があります。各コマンドは個別に実行されるため、コマンド当たりの定義の数を減らすことは、ストレージ要件を軽減する簡単で効果的な方法です。

ストレージ要件を軽減する 1 つの方法は、IMPORT、EXPORT、および PRINT コマンドで定義タイプと定義名を定義するために汎用の * (アスタリスク) 文字を使用しないようにすることです。そうしないと、多数の定義がストレージ内に保持される可能性があります。代わりに、実行可能な最少数の定義を選択する別々のコマンドを使用します。

バッチ・リポジトリ更新機能 (BATCHREP)

BATCHREP バッチ処理されるリポジトリ更新機能により、データ・リポジトリの管理処理を合理化できます。

多数の定義を作成するために複数のビュー画面を繰り返し使用する代わりに、標準入力ファイルを作成して定義を一度にすべてデータ・リポジトリに追加することができます。これにより、トランザクション・グループ内のトランザクション (DTRINGRP) の関連付けのような定義を作成する労力を軽減することができます。この作成作業には何百ものトランザクションの識別が含まれる場合があります。同様に、ビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) を使用して CICS リソース定義を作成および保守する場合、バッチ・リポジトリ更新機能は定義プロセスを高速化できます。

バッチ・リポジトリ更新 (BATCHREP) ジョブの実行依頼

BATCHREP ジョブの実行依頼には 3 つの手順があります。

バッチ・リポジトリ更新ジョブを実行依頼するには、以下の作業が必要です。

1. 順次データ・セットまたは区分データ・セット・メンバーを作成して、そこに、バッチ・リポジトリ更新機能への入力を収容します。データ・セットは固定ブロック・フォーマット (RECFM(FB))、および論理レコード長が 80 (LRECL(80)) でなければなりません。

出力を区分データ・セットのメンバーに送信する場合、データ・セットに、コマンドを正常に実行するための十分なディレクトリー・エントリーとスペースがあることを確認する必要があります。これを怠ると、CMAS が強制終了する可能性があります。

2. [111 ページの『バッチ・リポジトリ更新 \(BATCHREP\) の入力ファイルの作成』](#)で説明されているように、入力を作成します。
3. 以下のいずれかの方式を使用して、バッチ・リポジトリ更新ジョブを実行依頼します。

- CICS Explorer でバッチ・リポジトリ更新ジョブ操作を実行する ([CICS Explorer 製品資料内の『Submitting a batched repository-update \(BATCHREP\) job』](#)の説明を参照)。
- [バッチ・リポジトリ更新ジョブ WUI ビュー \(117 ページの『WUI を使用したバッチ・リポジトリ更新 \(BATCHREP\) ジョブの実行依頼』](#)の説明を参照)。
- [バッチ・リポジトリ更新ユーティリティー \(118 ページの『バッチ・リポジトリ更新ユーティリティーの使用』](#)の説明を参照)。
- CICSplex SM API (BATCHREP リソース・テーブルを使用)。

立て続けに同じ定義を処理するバッチ・リポジトリ更新ジョブを実行依頼すると、1 つ以上の制御ステートメントが失敗する可能性があります。そのような状況では、リポジトリ更新ジョブを分割し、結果のジョブを順次実行依頼するのが最善の手順です。

バッチ・リポジトリ更新 (BATCHREP) の入力ファイルの作成

バッチ・リポジトリ更新機能の入力ファイルは、データ・リポジトリへの更新を記述する制御ステートメントで構成されています。

入力ファイルは、以下の要件に従う必要があります。

- 制御ステートメントは大文字にする必要があります。
- 各制御ステートメントの最後は、セミコロン (;) で終了する必要があります。
- コメントは、先頭が「/*」、最後が「*/」で区切られていなければなりません。(カラム 1 に「*」が付いている行もすべてコメントとして扱われます。)

制御ステートメントとコメントは複数の行にまたがることができます。

入力ファイルを作成するときは、まず、更新が適用されるコンテキスト (CMAS または CICSplex) を識別する必要があります。これを行うには、以下の制御ステートメントを使用します。

```
CONTEXT [plexid]
```

ここで、*plexid* はローカル CMAS の名前またはローカル CMAS に関連付けられた CICSplex の名前です (ローカル CMAS は、バッチ・リポジトリ更新ジョブが実行される CMAS です)。更新のコンテキストとして CICSplex を指定する場合、ローカル CMAS はその CICSplex の保守ポイントでなければなりません。このパラメーターを省略すると、ローカル CMAS がコンテキストとみなされます。

コンテキストを設定すると、他の CONTEXT ステートメントで明示的にこれを変更するまで、バッチ・リポジトリ更新ジョブに対して有効なままになります。

入力ファイル内の残りの制御ステートメントは、作成している更新のタイプによって異なります。以下のセクションでは、各更新タイプの制御ステートメントについて詳しく説明します。

CICSplex SM 定義の作成および保守

データ・リポジトリ内の CICSplex SM 定義を作成、更新、削除、または確認するには、1 つ以上の制御ステートメントを使用します。

制御ステートメントの形式は次のとおりです。

```
command object keyword1(value) keyword2
```

ここで、

command

バッチ・リポジトリ更新機能コマンドの名前 (大文字) です。次のいずれかを指定します。

CREATE

レコードを作成し、それをローカル CMAS に関連付けられたデータ・リポジトリに追加する場合に使用します。

UPDATE

データ・リポジトリ内の既存のレコードを更新する場合に使用します。

注: バッチ・リポジトリ更新機能を使用して LNKSxSCG レコードを更新することはできませんが、WUI を使用すれば可能です。

REMOVE

データ・リポジトリから既存のレコードを削除する場合に使用します。

レコードを削除すると、そのレコードとデータ・リポジトリ内の他のレコードとの間の関連はすべて失われます。例えば、1 つの CICS システム定義を削除すると、その CICS システムとすべての CICS システム・グループまたはコンポーネント仕様との間の関連も削除されます。

BAS 定義を削除する場合は、DEFVER() キーワードを指定する必要があります。

LIST

データ・リポジトリからレコードをリストする場合に使用します。

DUMP

データ・リポジトリからレコードをリストし、その前に CREATE 制御ステートメントを挿入する場合に使用します。

DUMP コマンドで得られる出力は、定義を作成する別のバッチ・リポジトリ更新ジョブへの入力として使用できます。DUMP コマンドの出力は、次のようにフォーマット設定されます。

- データ行はカラム 72 で切られます。
- 継続文字はカラム 1 に置かれます。

デフォルトでは、出力はスプール・ファイルに書き込まれ、バッチ・リポジトリ更新機能への入力として使用する前に、スプールから抽出して編集する必要があります。抽出されたレコードには、カラム 1 に ANS 制御文字が含まれているため、CICSplex SM による処理用にデータを位置合わせするには、レコードを 1 文字左にシフトする必要があります。また、データ・セットからすべてのページ・ヘッダー情報を削除する必要があります。リストの作成例については、[126 ページの図 10](#) を参照してください。ただし、OUTPUT コマンドを使用して、正しい形式で出力をデータ・セットに直接書き込むことができます。詳しくは、[116 ページの『バッチ・リポジトリ更新機能への再入力のためのデータ・セットの作成』](#)を参照してください。

CICSplex SM には、他のものを作成する前に特定の定義が存在する必要があります。したがって、データ・リポジトリ・レコードをダンプする際には、以下のガイドラインに従う必要があります。

- 常に、CICS システム (CSYSDEF) および CICS システム・グループ (CSYSGRP) のレコードを最初にダンプします。
- 関連レコード (LNKxxxxx、xxxINGRP、または xxxINSPC など) の前に、基本 CICSplex SM 定義レコード (xxxDEF、xxxGROUP、および xxxSPEC など) をダンプします。
- ビジネス・アプリケーション・サービスの場合:
 - RESDESC レコードおよび RASGNDEF レコードの前に、RESGROUP レコードをダンプします。
 - RESINDSC レコードおよび RASINDSC レコードの前に、RESDESC レコードと RASGNDEF レコードをダンプします。
 - xxxINGRP レコード (FILINGRP など) の前に、リソース定義レコード (FILEDEF など) をダンプします。
 - SYSLINK レコードの前に、CONNDEF、SESSDEF、IPCONDEF、および TCPDEF の各レコードをダンプします。

上記のガイドラインに従うと、DUMP コマンドの出力は、バッチ・リポジトリ更新機能が新しい定義を作成するための正しい順序になります。新しい定義を作成するために DUMP コマンド出力を使用する例については、[125 ページの『データ・リポジトリ内のレコードの管理例』](#)を参照してください。

注: DUMP コマンドおよび LIST コマンドの出力には、CICS リソース (接続やファイルなど) に関連付けられたすべてのパスワードのレコードが、可視の状態に含まれています。機密漏れの可能性を排除するために、このような出力へのアクセスを制限する必要があります。

object

[120 ページの表 7](#) に示されているいずれかのリソース・テーブル名です。

keyword1(value)

指定されたリソース・テーブルのフィールドの名前と、そのフィールドに適したデータを大文字で指定します。さまざまなコマンドに必要な入力は以下のとおりです。

CREATE

リソースを定義するために必要なすべての情報 (例えば、同等の WUI 「作成」ビューで必要とされるものと同じタイプの情報) を提供します。

CREATE ステートメントへの入力は、DFHCSDUP EXTRACT または BATCHREP DUMP 要求の出力から派生させることができます。詳しくは、[116 ページの『バッチ・リポジトリ更新機能への再入力のためのデータ・セットの作成』](#)および [126 ページの『例 6 - 新しいレコードを作成するための入力としてレコードをダンプ』](#)を参照してください。この方法で入力を作成しない場合は、必要なすべての属性を指定する必要があります。

注: 定義レコードによっては、特定のオペランドを指定してはならない場合があります。例えば、CPLEXDEF の場合、STATUS オペランドは指定しないでください。

UPDATE

更新する特定のレコードを特定します。ビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) の一部として作成された CICS リソース 定義の場合、これにはリソースのバージョン (DEFVER) が含まれていなければなりません。更新する属性を指定します。

REMOVE

削除する特定のレコードを特定します。ビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) の一部として作成された CICS リソース 定義の場合、これにはリソースのバージョン (DEFVER) が含まれていなければなりません。

LIST および DUMP

特定または汎用のレコード名を指定します。汎用名には、正符号 (+)、アスタリスク (*)、またはその両方を含めることができます。

keyword2

仕様と CICS システム・グループのリンク・レコード (LNKSxSCG) の作成または削除が、CICS システム・グループの現行メンバーにどのように影響するかを示します。CREATE コマンドと REMOVE コマンドのキーワードは、大文字で入力する必要があります。以下のとおりです。

CREATE

次のいずれかを指定します。

FORCE

CICS システム・グループのすべての現行メンバーに、指定された仕様との間の暗黙的なリンクが確立されます。リンクが既に存在している場合、新しく作成されたリンクで置き換えられます。

NULL

既存のリンクがない場合に限り、CICS システム・グループの現行メンバーに、指定された仕様との間の暗黙的なリンクが確立されます。

NONE

暗黙的なリンクは確立されません。

CREATE コマンドを使用する場合、keyword2 のデフォルト値は NONE です。

REMOVE

次のいずれかを指定します。

KEEP

すべての暗黙的なリンクを明示的なリンクに変換します。

NONE

どの暗黙的なリンクも明示的なリンクに変換しません。

REMOVE コマンドを使用する場合は、keyword2 のデフォルト値はありません。値を指定する必要があります。

バッチ・リポジトリ更新ジョブを実行依頼すると、各コマンドの構文の妥当性がチェックされます。複数のコマンドが発行されている場合、構文検査では以下のような結果になる可能性があります。

- LIST、DUMP、MAPLEFT または MAPRIGHT コマンドが無効な場合、そのコマンドは実行されませんが、後続のすべてのコマンドの処理は続行されます。
- 変更コマンド (CREATE、UPDATE、または REMOVE) が無効な場合、そのコマンドは実行されません。後続の変更コマンドはすべて、妥当性がチェックされます。ただし、後続の変更コマンドは実行されません。

CICS リソース定義の作成

CICS リソースを作成し、オプションでそれらをデータ・リポジトリ内のリソース・グループに追加するには、1 つ以上の制御ステートメントを使用します。

制御ステートメントの形式は次のとおりです。

```
CREATE object NAME(defname) [RESGROUP(resgroup)]
```

ここで、

object

[120 ページの表 7](#) に示すいずれかのリソース・テーブル名で、CICS リソース・タイプ (例えば CONNDEF) を表します。

defname

作成しているリソース定義の名前です。

resgroup

そこにリソース定義を追加する必要があるデータ・リポジトリ内の既存のリソース・グループの名前です。

CICSplex SM 定義のマップの生成

CICSplex SM 定義の作成と保守に加えて、データ・リポジトリ内の定義の視覚的なマップを生成することができます。

マップを生成するには、次の形式の 1 つ以上の制御ステートメントを使用します。

```
command object NAME(defname)
```

ここで、

command

バッチ・リポジトリ更新機能コマンドの名前 (大文字) です。次のいずれかを指定します。

MAPLEFT

開始点の左側に定義のマップを生成します。つまり、それらの定義が開始点を参照します。

MAPRIGHT

開始点の右側に定義のマップを生成します。つまり、それらの定義は開始点によって参照されます。

object

マップに表示される定義のタイプを識別するリソース・テーブル名です。

以下の定義のマップを生成できます。

トポロジー

- CSYSDEF
- CSYSGRP
- PERIODEF

ワークロード管理

- TRANGRP
- WLMDEF
- WLMGROUP
- WLMSPEC

リアルタイム分析

- ACTION
- APSPEC
- EVALDEF
- RTADEF
- RTAGROUP
- RTASPEC
- STATDEF

リソース・モニター

- MONDEF

- MONGROUP
- MONSPEC

ビジネス・アプリケーション・サービス

- xxxDEF (FILEDEF などのリソース定義)
- RESGROUP
- RESDESC
- RASGNDEF

NAME

マップされるリソースのキー・フィールドのフィールド名です。すべてのリソースについて、キー・フィールド名は NAME ですが、以下の例外があります。

- CSYSGRP のキー・フィールドは GROUP です。
- RESGROUP のキー・フィールドは RESGROUP です。
- RESDESC のキー・フィールドは RESDESC です。
- RASGNDEF のキー・フィールドは RESASSGN です。

defname

マップの開始点になる定義の固有名または総称名です。総称名を入力すると、パターンに一致する名前を持つ定義ごとにマップが生成されます。

リポジトリ更新コマンドの処理オプションの設定

バッチ・リポジトリ更新コマンドのデフォルトの振る舞いは、OPTION コマンドで変更できます。

OPTION コマンドの形式は次のとおりです。

```
OPTION type keyword [keyword ...]
```

ここで、

- *type* は、設定されているオプションを識別します。
- *keyword* は、オプション・タイプに設定する値 (複数の場合あり) を指定します。

現在サポートされているオプション・タイプは以下のとおりです。

DUPREC

CREATE コマンドが RECORD_EXISTS 条件をどのように処理するかを指定します。次に示すキーワードのいずれかを指定する必要があります。

REJECT (デフォルト)

既存のレコードは変更されません。BATCHREP 入力ストリームがフラッシュされ、それ以上のコマンドは処理されません。

ABORT

既存のレコードは変更されません。ジョブは即時に終了します。

SKIP

既存のレコードは変更されません。処理は次の BATCHREP コマンドで続行されます。

UPDATE

既存のレコードは、CREATE コマンドを UPDATE コマンドであるかのように再実行することによって更新されます。

注:

1. いくつかのリンク・タイプの CICSplex SM リソース・テーブルでは、UPDATE アクションがサポートされないものがあります。以下のリソース・タイプのいずれかを作成する BATCHREP 入力ストリームを再始動する必要がある場合は、OPTION DUPREC SKIP を指定する必要があります。そうしないと、コマンドの再試行は失敗します。影響を受けるリソース・テーブルは以下のとおりです。

CMDMPAPS - APSPEC から 1 次 CMAS へ
CMDMSAPS - APSPEC から 2 次 CMAS へ

CSGLCGCG - CICSGRP 内の CICSGRP

CSGLCGCS - CICSGRP 内の CICSYS

LNKSxSCG - xxxSPEC から CICSGRP (xxx は、MON、RTA または WLM)

LNKSxSCS - xxxSPEC から CICSYS (xxx は、MON、RTA または WLM)

RECORD_EXISTS 以外の STATUS が CREATE コマンドによって戻された場合、コマンドは再試行されず、入力ファイル内の残りのコマンドはすべてフラッシュされます。

複数の OPTION コマンドを BATCHREP 入力ストリームに入れることができます。OPTION コマンドは、同じオプション・タイプの別の OPTION コマンドが検出されるか、入力コマンド・ストリームがファイルの終わりに達するまで、すべてのコマンドに影響します。

バッチ・リポジトリ更新機能への再入力のためのデータ・セットの作成

DUMP コマンドから生成される CREATE ステートメントを保持するために、バッチ・リポジトリ更新機能から出力データ・セットを作成することができます。

このデータ・セットは、バッチ・リポジトリ更新機能への再入力用に正しい形式となっており、さらなる編集は必要ありません。つまり、見出し行は含まれず、データは正しい列に位置合わせされます。ただし、この出力データを編集して、コンテキスト、グループ名、バージョン番号などを変更しなければならない場合があります。

DUMP コマンドを使用する場合 (111 ページの『CICSplex SM 定義の作成および保守』を参照)、OUTPUT コマンドを使用して、結果の CREATE コマンドがすべて、通常のレポートだけでなく、出力データ・セットにも書き込まれるように要求することができます。OUTPUT コマンドがどの DUMP コマンドよりも前にくるようにするために、OUTPUT コマンドは、BATCHREP 入力データ・ストリーム内の最初のコマンドとなるようにしてください。複数の OUTPUT コマンドを指定することはできません。

注: 区分データ・セットを出力データ・セットとして使用する場合は、データ・セットに出力を処理するのに十分なスペースがあることを確認する必要があります。十分なディレクトリー・スペースがなくて区分データ・セットがいっぱいになると、複数の異常終了を引き起こし、CMAS が強制終了する可能性があります。CICS リカバリー中に複数の異常終了が発生することを避けるには、出力を順次データ・セットに行うようにします。その後、必要に応じて順次データ・セット出力を区分データ・セットにコピーすることができます。

OUTPUT コマンドの形式は次のとおりです。

```
OUTPUT DATASET DSNAME(data.set.name(member)) INQUOTES(NO|YES);
```

ここで、

DATASET

このキーワードを指定する必要があります。

DSNAME

データ・セット名を指定します。データ・セット名は指定する必要があり、そのデータ・セットが存在する必要があります。出力データ・セットは、入力データ・セットと同じにすることはできません。データ・セットは、固定長の 80 バイトのレコードで構成する必要があります。レコードはブロック化でき、適切な任意のブロック・サイズを指定できます。

data.set.name

このデータ・セット名は、長さ 44 文字以下でなければなりません。名前の各構成要素の長さは 8 文字以下でなければならず、構成要素はピリオドで区切られていなければなりません。データ・セット名は、完全修飾データ・セット名でなければなりません。データ・セット名の最初の構成要素は、デフォルトのログオン・ユーザー ID にはなりません。

member

メンバー名 (出力データ・セットが区分データ・セットの場合)。メンバー名の長さは 8 文字以下でなければなりません。出力データ・セットが区分化されていない場合は、メンバー名を省略しなければなりません。

INQUOTES(NO|YES)

出力データ・セットで、フィールド値を引用符で囲むかどうかを指定します。データ・リポジトリに対になっていない括弧を含むデータがある場合は、この制御ステートメントを使用しなければならない場合があります。このキーワードを省略すると、デフォルト値の NO が想定されます。

NO

出力データ・セットでは、パラメーターの値が引用符で囲まれません。この設定は、バッチ・リポジトリ更新機能への入力には完全に適していますが、パラメーター値に対していない括弧が含まれていると問題が発生する可能性があります。

INQUOTES(NO) を指定すると、BATCHREP の出力は任意のリリースの CICSplex SM バッチ・リポジトリ更新機能への入力として使用できます。

YES

出力データ・セットでは、パラメーターのすべての値が引用符で囲まれます。CICSplex SM バッチ・リポジトリ更新機能は、パラメーター値を、埋め込み括弧ではなく最後の引用符で終了します。

例えば、DESCRIPTION フィールドに次の値が含まれているものとします。

```
1) Describe Resource
```

デフォルトである INQUOTES(NO) を指定すると、DUMP ルーチンは出力データ・セットに以下のステートメントを生成します。

```
DESCRIPTION(1) Describe Resource)
```

CICSplex SM バッチ・リポジトリ更新機能はこれを、値 1 を含む DESCRIPTION フィールドと、そのあとに 2 つの認識できないキーワードが続いていると解釈します。

INQUOTES(YES) を指定すると、DUMP ルーチンはフィールド値の前後に引用符を置きます。出力データ・セットには以下のステートメントが含まれます。

```
DESCRIPTION('1) Describe Resource')
```

このステートメントは、CICSplex SM バッチ・リポジトリ更新機能によって正しく解釈されます。

WUI を使用したバッチ・リポジトリ更新 (BATCHREP) ジョブの実行依頼

WUI を使用してバッチ・リポジトリ更新ジョブを実行依頼するには、メインメニュー (EYUSTARTMENU) から「管理ビュー」>「バッチ・リポジトリ更新要求」をクリックします。これにより、「バッチ・リポジトリ更新要求」ビューが表示されます。このビューを使用して、現在実行されているバッチ・リポジトリ更新ジョブに関する情報を表示できます。

以下の手順を使用して、選択したバッチ・リポジトリ更新ジョブを実行依頼できます。

1. 「バッチ・リポジトリ更新要求」ビューを開きます。
2. 実行依頼するレコードを選択し、「実行」をクリックします。これにより、「実行」ビューが開きます。実行中のバッチ・リポジトリ更新ジョブがない場合、選択できるのはダミーの停止済みレコードのみになります。

注: 「チェック」ボタンをクリックすると「チェック」ビューが開きます。このビューを使用して、バッチ・リポジトリ更新ジョブのすべての入力ステートメントのコマンド形式を確認できます。

3. 以下のフィールドに入力して、「実行」ビューを完了します。

入力データ・セット名

バッチ・リポジトリ更新ジョブへの入力を含む順次データ・セットまたは区分データ・セット (PDS) の名前を指定します。

入力メンバー名

PDS を使用する時、バッチ・リポジトリ更新ジョブへの入力を含むメンバーの名前を指定します。

印刷クラス

(オプション。) 1 文字のクラス宛先を指定します。値を省略すると、クラス A が想定されます。

印刷ノード

システム・スプーラーがファイルを経路指定するために使用する、指定ノードの 8 文字の ID を指定します。

宛先ユーザー ID

プリンター向けのスプール・レコードのレポートを処理する最終ライター・プログラムまたはユーザーの 8 文字の ID を指定します。この ID は、レポートに記載され、その宛先でのレポートの選択に使用されます。

4. ジョブを実行依頼するには「はい」を選択します。

特定のデータ・リポジトリに更新を適用するには、更新するデータ・リポジトリに関連付けられている CMAS に確実に WUI サーバーが接続されているようにする必要があります。

関連情報

CICS Explorer 製品資料内の『Submitting a batched repository-update (BATCHREP) job』

バッチ・リポジトリ更新ユーティリティの使用

バッチ・リポジトリ更新ユーティリティは CMAS に接続し、その CMAS 内で実行されるバッチ・リポジトリ (BATCHREP) の更新を実行依頼します。

バッチ・リポジトリ更新を特定のデータ・リポジトリに対して行うには、更新したいデータ・リポジトリに関連付けられた CMAS に接続し、その CMAS 内で実行されるバッチ更新を実行依頼するよう、ユーティリティを実行します。

ユーティリティを実行するには、必要な JCL を準備し、更新したいデータ・リポジトリに関連付けられた CMAS の名前などの、ユーティリティ自体の入力パラメーターを定義します。

バッチ・リポジトリ更新ユーティリティを実行するための JCL の例を以下に示します。

```
//jobname JOB (acct),'name',CLASS=x,MSGCLASS=x
//BTCHUPD EXEC PGM=EYU9XDBC,REGION=2048K
//STEPLIB DD DSN=CICSTS56.CPSM.SEYUAUTH,DISP=SHR
// DD DSN=CICSTS56.CPSM.SEYULOAD,DISP=SHR
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//SYSABEND DD SYSOUT=*
//SYSIN DD *
CMASNAME(EYUCMS1A)
CHECK
INPUTDSN(EXAMPLE.INPUT.DATASET)
INPUTMEMBER(MEMBER1)
OUTPUTUSER(EXUSER)
PRINTNODE(LOCAL)
/*
```

バッチ・リポジトリ更新ユーティリティの出力の例を以下に示します。

CICSplex/SM Batched Repository Update Utility

Parameters specified:

```
CMASNAME(EYUCMS1A)
CHECK
INPUTDSN(EXAMPLE.INPUT.DATASET)
INPUTMEMBER(MEMBER1)
OUTPUTUSER(EXUSER)
PRINTNODE(LOCAL)
```

EYUXD0908I A batched repository update has been submitted to run in CMAS EYUCMS1A.

バッチ・リポジトリ更新ユーティリティの出力は、入力パラメーターをリストする短いレポートと、バッチ更新が実行依頼された CMAS を示すメッセージです。この出力を検討して、ユーティリティがバッチ更新を CMAS に正常に実行依頼したことを確認してください。

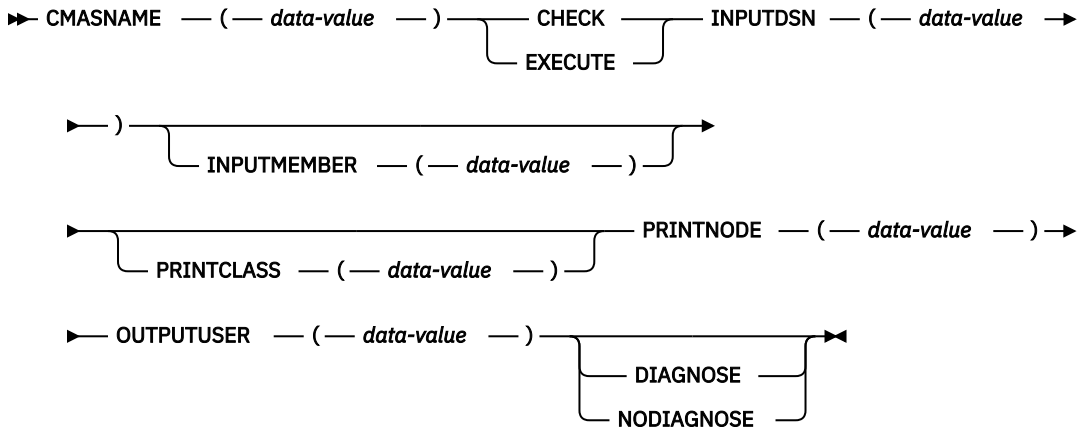
CMAS で実行されるバッチ更新は、標準の CICS スプール機能を使用して出力を作成します。バッチ更新が正常に実行されたことを確認するために、この 2 つ目の出力も検討する必要があります。

バッチ・リポジトリ更新ユーティリティのパラメーター

このセクションでは、バッチ・リポジトリ更新ユーティリティを使用するために指定する必要がある入力パラメーターについて説明します。これらのパラメーターは、SYSIN データ・セットで提供する必要があります。

以下の構文規則が適用されます。

- パラメーターは大文字で指定する必要があります。
- パラメーターの指定順序は任意です。
- 設定されたパラメーターは、設定された SYSIN ストリームで 1 回のみ指定する必要があります。
- 設定されるパラメーターは、すべて 1 行で表示される必要があります。
- スペースは無視されます。
- 先頭文字のアスタリスク (*) は、その行が無視されることを意味します。



このパラメーターは次のように指定できます。

CMASNAME

ユーティリティの接続先であり、バッチ・リポジトリ更新処理によって変更されるデータ・リポジトリを所有する CMAS の名前を、1 文字から 8 文字で指定します。このパラメーターは必須です。この CMAS で、バッチ・リポジトリ更新処理が行われ、この CMAS から CICS スプーリング機能によって出力が作成されます。

CHECK または EXECUTE

実行のタイプに指定する必要があります。CHECK は、入力ファイルの構文検査を指定し、EXECUTE は、実行する必要がある入力ファイル内のコマンドを指定します。これらのキーワードは相互に排他的です。

INPUTDSN

バッチ・リポジトリ更新処理への入力を含む順次データ・セットまたは PDS のデータ・セット名を示す、1 文字から 44 文字のストリングを指定します。CMAS は、INPUTDSN パラメーターによって指定されたデータ・セットにアクセスできる必要があります。このパラメーターは必須です。

INPUTMEMBER

入力ファイルを含む PDS を使用する際に、1 文字から 8 文字のメンバーの名前を指定します。このパラメーターはオプションです。

PRINTCLASS

1 文字の印刷クラス ID を指定します。このパラメーターはオプションです。デフォルトは A です。

PRINTNODE

ジョブ出力をルーティングするためにシステム・スプーラーによって使用される 1 文字から 8 文字の印刷ノード ID を指定します。このパラメーターは必須です。

OUTPUTUSER

スプール出力に関連付けられる 1 文字から 8 文字のユーザー ID を指定します。このパラメーターは必須です。

DIAGNOSE

IBM サービス担当員の指示の下でのみ使用します。

NODIAGNOSE

IBM サービス担当員の指示の下でのみ使用します。

BATCHREP でサポートされるリソース・テーブル

ほとんどの CICSplex SM リソース・テーブルは、バッチ・リポジトリ更新機能でサポートされています。

120 ページの表 7 に、バッチ・リポジトリ更新機能を使用して処理できる CICSplex SM リソース・テーブルをリストします。

表 7. リソース・テーブル名		
リソース・タイプ	テーブル名	影響を受ける定義
構成	CMTCMDEF	CMAS から CMAS への定義
構成	CMTPMDEF	CMAS から リモート MAS への定義
構成	CPLEXDEF	CICSplex の定義
トポロジ	CSGLCGCG	CICS システム・グループ と CICS システム・グループの関連
トポロジ	CSGLCGCS	CICS システム と CICS システム・グループの関連
トポロジ	CSYSDEF	CICS システム
トポロジ	CSYSGRP	CICS システム・グループ
トポロジ	PERIODEF	時間枠
トポロジ	SYSLINK	システム・リンク
ワークロード管理	DTRINGRP	トランザクションとトランザクション・グループの関連
ワークロード管理	LNKSWSCG	ワークロード仕様と CICS システム・グループの関連
ワークロード管理	LNKSWSCS	ワークロード仕様と CICS システムの関連
ワークロード管理	TRANGRP	トランザクション・グループ (Transaction groups)
ワークロード管理	WLMDEF	ワークロード定義 (Workload definitions)
ワークロード管理	WLMGROUP	ワークロード・グループ (Workload groups)
ワークロード管理	WLMINGRP	ワークロード定義とワークロード・グループとの間の関連
ワークロード管理	WLMINSPC	ワークロード・グループとワークロード仕様の関連
ワークロード管理	WLMSPEC	ワークロード仕様 (Workload specifications)
リアルタイム分析	ACTION	アクション定義
リアルタイム分析	APSPEC	分析点仕様
リアルタイム分析	CMDMPAPS	1 次 CMAS と分析点仕様の関連
リアルタイム分析	CMDMSAPS	2 次 CMAS と分析点仕様の関連
リアルタイム分析	EVALDEF	評価定義
リアルタイム分析	LNKSRSCG	分析仕様と CICS システム・グループの関連
リアルタイム分析	LNKSRSCS	分析仕様と CICS システムの関連
リアルタイム分析	RTADEF	分析定義
リアルタイム分析	RTAGROUP	分析グループ
リアルタイム分析	RTAINAPS	分析グループと分析点仕様の関連

表 7. リソース・テーブル名 (続き)		
リソース・タイプ	テーブル名	影響を受ける定義
リアルタイム分析	RTAINGRP	分析定義と分析グループの関連
リアルタイム分析	RTAINSPC	分析グループと分析仕様の関連
リアルタイム分析	RTASPEC	分析仕様
リアルタイム分析	STAINGRP	状況定義と分析グループとの間の関連
リアルタイム分析	STATDEF	状況定義
モニター	LNKSMSCG	モニター仕様と CICS システム・グループの関連
モニター	LNKSMSCS	モニター仕様と CICS システムの関連
モニター	MONDEF	モニター定義
モニター	MONGROUP	モニター・グループ
モニター	MONINGRP	モニター定義とモニター・グループとの間の関連
モニター	MONINSPC	モニター・グループとモニター仕様との間の関連
モニター	MONSPEC	モニター仕様
ビジネス・アプリケーション・サービス	APPLDEF	アプリケーション定義
ビジネス・アプリケーション・サービス	ATMINGRP	Atom 文書定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	BUNINGRP	バンドル定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	CONINGRP	MRO または ISC over SNA 接続定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	DOCINGRP	文書テンプレート定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	D2CINGRP	DB2® 接続定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	D2EINGRP	DB2 エントリー定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	D2TINGRP	DB2 トランザクション定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	EJCINGRP	CorbaServer 定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	EJDINGRP	DJAR 定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	ENQINGRP	ENQ/DEQ モデル定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	FILINGRP	ファイル定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	FNOINGRP	FEPI ノード定義とリソース・グループとの間の関連

表 7. リソース・テーブル名 (続き)		
リソース・タイプ	テーブル名	影響を受ける定義
ビジネス・アプリケーション・サービス	FPOINGRP	FEPI プール定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	FPRINGRP	FEPI プロパティ・セット定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	FSGINGRP	OS/2 ファイル・セグメント定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	FTRINGRP	FEPI ターゲット定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	IPCINGRP	IPIC 接続定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	JRMINGRP	ジャーナル・モデル定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	LIBINGRP	LIBRARY 定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	MAPINGRP	マップ・セット定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	MQCINGRP	IBM MQ 接続定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	PARINGRP	パートナー定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	PGMINGRP	プログラム定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス	PIPINGRP	パイプライン定義とリソース・グループとの間の関連
トポロジー	PLATDEF	プラットフォーム定義
トポロジー	PLATFORM	プラットフォーム
ビジネス・アプリケーション・サービス	PRCINGRP	プロセス・タイプ定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	PRNINGRP	区画セット定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	PROINGRP	プロファイル定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	RASGNDEF	リソース割り当て
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	RASINDSC	リソース割り当てとリソース記述の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	RESDESC	リソース記述
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	RESGROUP	リソース・グループ
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	RESINDSC	リソース・グループとリソース記述の関連

表 7. リソース・テーブル名 (続き)		
リソース・タイプ	テーブル名	影響を受ける定義
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	RQMINGRP	要求モデル定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	SESINGRP	セッション定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	TCLINGRP	トランザクション・クラス定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	TCPINGRP	TCP/IP サービス定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	TDQINGRP	一時データ・キュー定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	TRMINGRP	端末定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	TRNINGRP	トランザクション定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	TSMINGRP	一時記憶域モデル定義とリソース・グループとの間の関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	TYPINGRP	入力条件定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	URIINGRP	汎用リソース ID 定義とリソース・グループの関連
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	WEBINGRP	WEB サービス端末定義とリソース・グループとの間の関連

表 7. リソース・テーブル名 (続き)

リソース・タイプ	テーブル名	影響を受ける定義
ビジネス・アプリケーション・サービス (続き)	<ul style="list-style-type: none"> • ATOMDEF • BUNDDEF • CONNDEF • DB2CDEF • DB2EDEF • DB2TDEF • DOCDEF • EJCODEF • EJDJDEF • ENQMDEF • FENODDEF • FEPOODEF • FEPRODEF • FETRGDEF • FILEDEF • FSEGDEF • IPCONDEF • JRNMDEF • LSRDEF • LIBDEF • MAPDEF • MQCONDEF • PARTDEF • PIPEDEF • PROCDEF • PROFDEF • PROGDEF • PRTNDEF • RASGNDEF • RQMDEF • SESSDEF • TCPDEF • TDQDEF • TERMDEF • TRANDEF • TRNCLDEF • TSMDEF • TYPTMDEF • URIMPDEF • WEBSVDEF 	<ul style="list-style-type: none"> • Atom 文書定義 • バンドル定義 • 接続定義 • Db2 接続定義 • Db2 エントリー定義 • Db2 トランザクション定義 • 文書テンプレート 定義 • CorbaServer 定義 • DJAR 定義 • ENQ/DEQ モデル定義 • FEPI ノード定義 • FEPI プール定義 • FEPI プロパティ・セット定義 • FEPI ターゲット定義 • ファイル定義 • OS/2 ファイル・セグメント定義 • IPIC 接続定義 • ジャーナル・モデル定義 • LSR プール定義 • LIBRARY 定義 • マップ・セット定義 • IBM MQ 接続定義 • パートナー定義 • パイプライン定義 • プロセス・タイプ定義 • プロファイル定義 • プログラム定義 • 区画セット定義 • リソース割り当て定義 • 要求モデル定義 • セッション定義 • TCP/IP サービス定義 • 一時データ・キュー定義 • 端末定義 • トランザクション定義 • トランザクション・クラス定義 • 一時記憶域モデル定義 • 入力条件定義 • URI (Universal Resource Identifier) 定義 • WEB サービス定義

注：「グループ内の **CICS リソース定義**」(RESINGRP) ビューに表示される情報は、各リソース・タイプの xxxINGRP リソース・テーブルで個別に見つけることができます。

データ・リポジトリ内のレコードの管理例

以下の例は、データ・リポジトリ内の定義レコードを作成、削除、リスト、およびダンプする方法と、CICS システムを CICS システム・グループに追加する方法を示しています。

例 1 - レコードの作成

ワークロード仕様を作成するには、**ワークロード管理 (WLM) 仕様** (EYUSTARTWLMSPEC.CREATE) WUI ビューまたはバッチ・リポジトリ更新機能を使用できます。

[125 ページの図 9](#) は、バッチ・リポジトリ更新ジョブを準備する際に情報を指定する方法を示しています。

```
/* after setting context, create workload specification */
CONTEXT EYUPLX01;
CREATE WLMSPEC NAME(EYUWMS01) DESC(Sample description)
                AFFINITY(USERID)
                AFFLIFE(SIGNON)
                MATCH(USERID)
                AORSCOPE(EYUCSG01)
                EVENTNAME(PAGERATE)
                ABENDCRIT(0)
                ABENDTHRESH(0)
                ALGTYPE(QUEUE);
```

図 9. バッチ・リポジトリ更新機能を使用して WLM 仕様を作成する

例 2 - レコードの削除

これらの例は、データ・リポジトリからレコードを削除する方法を示しています。

EYUWMS01 というワークロード仕様を削除するには、次のように指定します。

```
CONTEXT EYUPLX01;
REMOVE WLMSPEC NAME(EYUWMS01);
```

EYUPROG1 という BAS PROGDEF を削除するには、次のように指定します。

```
CONTEXT EYUPLX01;
REMOVE PROGDEF NAME(EYUPROG1)
                DEFVER(1);
```

例 3 - リンク・レコードの作成

この例は、データ・リポジトリ内にリンク・レコードを作成する方法を示しています。

ワークロード仕様と CICS システム・グループの間に WLMSPC01 というリンクを作成するには、次のように指定します。

```
CREATE LNKSWSCG SPEC(WLMSPC01)
                GROUP(EYUCSG01)
                FORCE;
```

例 4 - レコードのリスト表示

この例は、データ・リポジトリ内の選択したレコードをリストする方法を示しています。

名前が「EYU」で始まるすべてのワークロード仕様レコードをリストするには、次のように指定します。

```
CONTEXT EYUPLX01;
LIST WLMSPEC NAME(EYU*);
```

[126 ページの図 10](#) は、データ・リポジトリからリストするレコードの出力形式を示しています。DUMP 制御ステートメントによって生成される出力は非常に似ていることに注意してください。大きな違いは、CREATE という単語がリソース・テーブル名の前にあることです。OUTPUT コマンドを使用すると、DUMP コマンドは、[126 ページの図 10](#) に示すレポートと、CICSplex SM バッチ・リポジトリ更新機能への再入力に適した形式で CREATE コマンドを含むデータ・セットの両方を生成します。[126 ページの『例 6 - 新しいレコードを作成するための入力としてレコードをダンプ』](#)を参照してください。

```

CICSplex SM - Repository Process Report

Input DSN:      CPSM.BATCH.SAMPLE      Input Member: TEST

CONTEXT EYUPLX01;
LIST WLMSPEC NAME(EYU*);
EYUXU0218I  CVMBBC Batch LIST request complete - Status(OK)
Last Change:  9/06/93 21:18:25.85895
      WLMSPEC NAME(EYUWMS02)
              DESC(Sample definition 1)
              AFFINITY(USERID)
              AFFLIFE(SIGNON)
              MATCH(USERID)
              AORSCOPE(EYUCSG01)
              EVENTNAME(PAGERATE)
              ABENDCRIT(0)
              ABENDTHRESH(0)
              ALGTYPE(GOAL)
              ;

Last Change:  8/14/93 15:27:05.34023
      WLMSPEC NAME(EYUWMS03)
              DESC(Sample definition 2)
              AFFINITY(GLOBAL)
              AFFLIFE(PERMANENT)
              MATCH(N/A)
              AORSCOPE(EYUCSG01)
              EVENTNAME( )
              ABENDCRIT(0)
              ABENDTHRESH(0)
              ALGTYPE(N/A)
              ;

```

図 10. データ・リポジトリ定義をリストする際に生成される出力例

注: 126 ページの図 10 の EYUWMS03 レコードでは、EVENTNAME は値のないキーワードの例です。MATCH と ALGTYPE は、値が「N/A」のキーワードの例です。

例 5 - レコードをバックアップとしてダンプ

この例は、選択したレコードをデータ・リポジトリにバックアップする方法を示しています。

すべてのワークロード管理レコードをデータ・リポジトリにバックアップするには、以下のように指定します。

```

CONTEXT EYUPLX01;
DUMP WLMSPEC NAME(*);
DUMP WLMGROUP NAME(*);
DUMP WLMDEF NAME(*);
DUMP TRANGRP NAME(*);
DUMP DTRINGRP TRANGRP(*);
DUMP WLMINGRP GROUP(*);
DUMP WLMINSPC NAME(*);

```

例 6 - 新しいレコードを作成するための入力としてレコードをダンプ

OUTPUT コマンドを実行すると、すべての CREATE レコードがデータ・セット EYUIR01.MYOUT1 に書き込まれます。

CICS リソース定義のすべてのバージョンを、新しいレコードを作成するための入力として再送信されるデータ・セットに正しい順序で直接ダンプするには、次のように指定します。

```

OUTPUT DATASET DSNAME(EYUIR01.MYOUT1) INQUOTES(NO);
CONTEXT EYUPLX01;
DUMP CSYSDEF NAME(*);
DUMP CSYSGRP GROUP(*);
DUMP RESGROUP RESGROUP(*);
DUMP RESDESC RESDESC(*);
DUMP RASGNDEF RESASSGN(*);
DUMP RASINDSC RESDESC(*)
              RESASSGN(*);
DUMP RESINDSC RESDESC(*)
              RESGROUP(*);
DUMP CONNDEF NAME(*);
DUMP SESSDEF NAME(*);

```



```

DUMP xxxxDEF    NAME(*);
      .
      .
DUMP CONINGRP  CONNGROUP(*)
      CONNNAME(*);
DUMP SESINGRP  SESSGROUP(*)
      SESSNAME(*);
DUMP xxxINGRP  xxxxGROUP(*)
      xxxxNAME(*);
      .
      .
DUMP SYSLINK   FROMCSYS(*)
      TOCSYS(*);

```

ここで、

- xxxxDEF は CICS リソース定義タイプです。例としては CONNDEF、FILEDEF、および MAPDEF があります。ストリング xxxx は 3 文字または 4 文字の文字ストリングを表し、xxxxDEF、xxxxNAME、および xxxGROUP で同じです。
- xxxNAME は、CICS リソース定義の名前であり、xxxINGRP リソース・テーブルで属性として指定されます。
- xxxGROUP は、リソース定義が属するリソース・グループの名前であり、xxxINGRP リソース・テーブルで属性として指定されます。
- xxxINGRP は、リソース・グループ内の CICS リソース定義のメンバーシップを説明する CICSplex SM ビジネス・アプリケーション・サービスの定義です。例は CONINGRP、FILINGRP、および MAPINGRP です。

注：xxxxDEF リソース・テーブルおよび xxxINGRP リソース・テーブルには、レコードの特定のバージョンを処理できるバージョン属性も含まれています。以下を指定することができます。

- xxxxDEF レコードの DEFVER(n)
- xxxINGRP レコードの xxxVER(n)

例 7 - CICS システムを CICS システム・グループに追加

この例は、CICS システムをシステム・グループに追加する方法を示しています。

モニター仕様に関連付けられた CICS システム・グループに CICS システムを追加し、その CICS システムとモニター仕様の間のリンクを作成するには、以下のように指定します。

```

CONTEXT EYUPLX01;
CREATE CSGLCGCS GROUP(EYUCSG01) CICSNAME(EYUMAS1A);
CREATE LNKSXSCS SPEC(MONSPC01) SYSTEM(EYUMAS1A);

```

バッチ・リポジトリ更新機能は、CICS システム と CICS システム・グループのリンク・レコード (CSGLCGCS) の作成に使用される場合、システム・グループが既に仕様に関連付けられていると、仕様と CICS システムのリンク・レコード (LNKSXSCS) を作成しません。CICS システムを仕様に関連付けるには、LNKSXSCS レコードを明示的に作成する必要があります。

CMAS 構成の管理

「CICSplex SM 操作」をクリックすると、CMAS 構成の管理に関する情報を入手することができます。

このメニューから、以下の CMAS 構成ビューを開くことができます。

- ローカル CMAS 認知の CMAS
- CMAS 管理の CICSplex
- CICSplex 管理の CMAS
- CMAS から CMAS へのリンク
- CMAS から MAS へのリンク

CMAS 構成定義とその関連ビュー

CMAS 構成定義は、CICSplex の保守ポイントとして識別される CMAS に関連付けられたデータ・リポジトリに保管されます。この CMAS は、CICSplex の管理に関与する他のすべての CMAS が構成定義についても認識していることを保証します。

128 ページの図 11 は、CMAS 構成と、その構成を作成および保守するために使用される WUI ビューの関係を示しています。

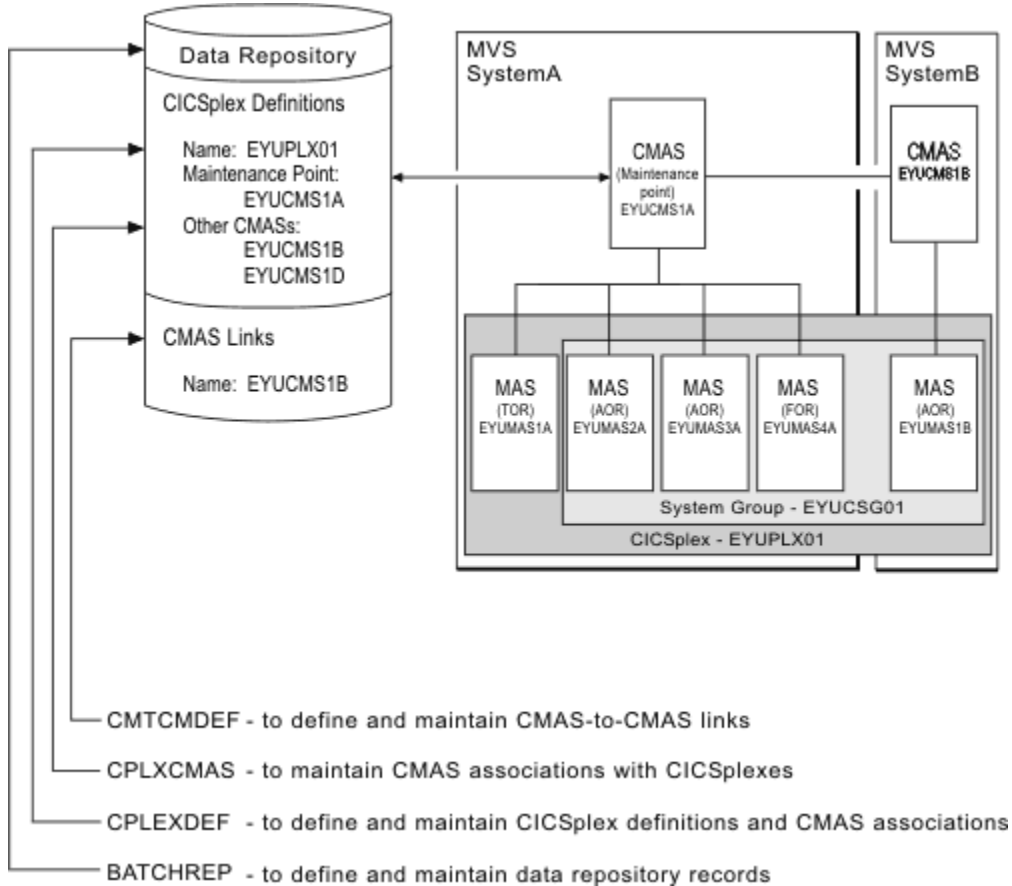


図 11. CMAS 構成の定義

関連する CMAS または CICS システムがアクティブになってから 構成定義を管理するために使用できる追加のビューについては、127 ページの『CMAS 構成の管理』に記載されています。

オンライン・ヘルプは、各ビュー、および各ビューのフィールドで使用できます。CMAS 構成ビューには、メインメニューから「管理」>「CMAS 構成管理」をクリックすることでアクセスできます。これらのビューにアクセスする方法について詳しくは、99 ページの『Web ユーザー・インターフェース 管理ビューへのアクセス』および各ビューの詳細な説明を参照してください。

要確認: 特に断りのない限り、構成定義を作成および保守するときに認識されるのは、コンテキスト設定のみです。コンテキストに CMAS を設定する方法については詳しくは、99 ページの『CMAS コンテキスト、コンテキスト、およびスコープの設定』を参照してください。

保守ポイント CMAS の処理

CMAS は、管理する各 CICSplex を構成する CICS システムの単一システム・イメージを提供します。

これを行うために、CMAS はデータ・リポジトリに保管されている CICSplex SM 定義を使用します。作成する各 CMAS ごとに 1 つのデータ・リポジトリがあります。

CICSplex が多数の CICS システムで構成されている場合、あるいは、システムが複数の MVS イメージに分散している場合は、複数の CMAS を CICSplex の管理に加えたい場合があります。このような場合、CMAS の 1 つが CICSplex の保守ポイントとして識別されます。保守ポイント CMAS は、CICSplex に関連する管

理定義が追加、更新、または変更されたときに、他の CMAS に通知する役割を担います。これにより、CICSplex の管理に関与する各 CMAS のデータ・リポジトリには、同じ情報が確実に格納されます。

管理タスクを実行しようとしたときに保守ポイント CMAS が使用できない場合は、関連する表形式ビューの最上部にその旨のエラーメッセージが表示されます。エラー・メッセージ番号をクリックすると、メッセージの全文が表示され、そこには説明情報と処理を継続する方法に関するヘルプが含まれます。

注： 保守ポイントが使用可能になった場合、保守ポイント CMAS が使用できなかった間に加えられた変更が無視されることに注意してください。

CMAS が CICSplex の保守ポイントでない限り、CMAS と CICSplex の関連を削除できます。



注意： CICSplex の保守ポイント CMAS は変更しないでください。1 つの z/OS イメージから別の z/OS イメージに保守ポイント CMAS を移動する必要がある場合は、既存の CMAS を送信して、その属性を変更せずに新しい z/OS イメージで実行します。

各 CMAS は以下の 4 つの属性によって識別されます。

- ジョブ名 (jobname)
- z/OS Communications Server アプリケーション ID (z/OS Communications Server applid)
- CICSplex SM 名 (CICSplex SM name)
- CICS SYSIDNT

CMAS の *jobname* と z/OS Communications Server *applid* は変更することができますが、CICSplex SM 名と CICS SYSIDNT は変更できません。CMAS 用に異なる CICSplex SM 名または CICS SYSIDNT を使用する必要がある場合は、必要な属性で新しい CMAS を作成する必要があります。

保守ポイント CMAS となる別の CMAS を作成する保守ポイント CMAS の CICSplex SM 名または CICS SYSIDNT (あるいはその両方)を変更する必要がある場合は、CICSplex およびそれに関連するすべての定義をデータ・リポジトリから削除し、それらを新しい CMAS に再定義する必要があります (以下の手順を参照)。

1. 「管理」>「**CMAS 構成管理**」>「**CICSplex 定義中の CMAS**」ビュー (CPLXCMAS オブジェクト) を表示します。「**CMAS コンテキスト**」フィールドを古い保守ポイント CMAS に設定し、「**CICSplex**」フィールドを CICSplex の名前に設定し、「**最新表示**」をクリックします。CICSplex の管理に関与するすべての CMAS のリストが表示されます。
2. CICSplex の管理に関与しているすべての CMAS を正常終了します。以下はその方法です。
 - メインメニューから、「**CICSplex SM 操作**」>「**ローカル CMAS 認知の CMAS**」をクリックします。
 - CMAS 名をクリックして、「**CMAS の詳細**」ビュー (CMAS オブジェクト) を表示します。
 - 「シャットダウン...(Shutdown...)」ボタンをクリックします。「**シャットダウン (Shutdown)**」ビューが表示されます。「はい」をクリックして、CMAS をシャットダウンすることを確認します。
 - CICSplex の管理に関与している各 CMAS について、この処理を繰り返します。

あるいは、CICSplex SM API と同等のもの、または COSD トランザクションを使用することもできます。次のステップのデータ・リポジトリの保全性を確保するために、CMAS を正常終了することが不可欠です。

3. CICSplex の管理に関与している各 CMAS のデータ・リポジトリをバックアップします。
4. 現在 CICSplex の管理に関与しているすべての CMAS を開始します。
5. コンテキストを古い保守ポイント CMAS に設定して、バッチ・リポジトリ更新機能の DUMP コマンドを使用して、CICSplex に関連するすべての CICSplex SM 定義をデータ・リポジトリから抽出します。

コマンドの順序については、[111 ページの『CICSplex SM 定義の作成および保守』](#)に記載されている DUMP コマンドの説明を参照してください。また、新しい保守ポイント CMAS を作成する際の入力として使用するための、考えられるコマンド出力の編集要件についても説明しています。さらに詳しいガイダンスが必要な場合は、[116 ページの『バッチ・リポジトリ更新機能への再入力のためのデータ・セットの作成』](#)も参照してください。

6. WUI サーバーが CICSplex 内の MAS として定義されている場合は、実行したままにします。CICSplex の他のすべての MAS が終了していることを確認します。これは、「**CICSplex 認知の MAS**」ビュー

(MAS オブジェクト) を介して確認でき、CICSplex をビューのコンテキストとスコープとして指定します。

7. CICSplex の管理に関与しているすべての CMAS がアクティブで、直接または間接に保守ポイント CMAS に接続されていることを確認します。これは、コンテキストに古い保守ポイント CMAS を設定して、「**CICSplex SM 操作**」>「**ローカル CMAS 認知の CMAS**」ビュー (CMASLIST オブジェクト) を介して確認できます。
8. コンテキストがまだ古い保守ポイント CMAS に設定されている場合は、「**管理**」>「**CMAS 構成管理**」>「**CICSplex 定義中の CMAS**」ビュー (CPLXCMAS オブジェクト) を使用して、すべての非保守ポイント CMAS を CICSplex から完全に削除します。
9. WUI サーバーが CICSplex 内の MAS として定義されていない場合は、「**管理**」>「**CMAS 構成管理**」>「**CICSplex の定義**」ビュー (CPLXDEF オブジェクト) を使用して、データ・リポジトリから CICSplex 定義を削除します。

WUI サーバーが CICSplex 内の MAS である場合は、WUI サーバーを終了します。次に、CICSplex SM API プログラムを使用して、CICSplex の CPLXDEF 定義に対して REMOVE アクションを発行します。

その CICSplex に関連付けられているトポロジー、ワークロード管理、リアルタイム分析、リソース・モニター、およびビジネス・アプリケーション・サービス定義もすべて、データ・リポジトリから削除されます。

10. CICSplex SM API または COSD トランザクションを使用して、ネットワーク内のすべての CMAS を、それらが CICSplex の管理に関与しているかどうかに関係なく終了します。
11. CICSplex の新しい保守ポイントとして定義される CMAS を開始します。
12. コンテキストを CICSplex の新しい保守ポイントとなる CMAS に設定して、EYU9XDBT ユーティリティーを使用し、新しい保守ポイント CMAS に CICSplex 定義を作成します。EYU9XDBT DEFINE CICSplex コマンドの使用例は、EYUJXBT1 サンプルに含まれています。そのサンプルでは、CICS の領域とグループを定義します。ユーザーに必要なのは CICSplex を定義することだけです。
13. DUMP コマンドの出力を使用して、バッチ・リポジトリ更新機能ジョブを実行依頼し、新しい CMAS データ・リポジトリ上に CICSplex のすべての CICSplex SM 定義を再作成します。バッチ・リポジトリ更新機能からの DUMP 出力を使用して新しい定義を作成する例については、[125 ページの『データ・リポジトリ内のレコードの管理例』](#)を参照してください。
14. 保守ポイント CMAS がまだアクティブであれば、ネットワーク内の他のすべての CMAS を開始します。
15. 保守ポイント CMAS に接続する必要がある CMAS ごとに、EYU9XDBT ユーティリティーを使用して CMTCMDEF 定義を作成します。
16. 移動する CICSplex 内、または別の CICSplex 内のいずれかで、新しい保守ポイント CMAS からアクセス可能な WUI サーバーを始動します。
17. CMAS コンテキストを新しい保守ポイント CMAS に設定して、WUI の「**管理**」>「**CMAS 構成管理**」>「**CICSplex の定義**」ビュー (CPLXDEF オブジェクト) を使用し、非保守ポイント CMAS を CICSplex に割り当てます。
18. 保守ポイント CMAS に接続するすべての MAS の EYUPARM を更新し、CMASYSID が指定されている場合には保守ポイントを指すようにします。
19. CICSplex に含まれている MAS を開始します。

CMAS から CMAS へのリンクの管理

ローカル CMAS と他の CMAS との間の直接 LU 6.2 および MRO 通信リンクを管理するには、「**管理ビュー**」>「**CMAS 構成管理ビュー**」>「**CMAS から CMAS へのリンク定義**」をクリックします。

以下のビューを使用すると、リンクを作成、更新、削除することができます。

CMAS から CMAS へのリンク定義の説明の更新

データ・リポジトリ内の「CMAS から CMAS へのリンク定義」の説明を更新するには、以下の手順に従ってください。

1. 「**CMAS から CMAS へのリンク定義**」ビューでリンク定義を選択し、「**更新**」アクション・ボタンをクリックします。

「**CMAS から CMAS へのリンク定義**」の作成パネルが表示され、そこには選択されたリンクの詳細が含まれています。ユーザーが変更できるのは「説明」フィールドのみです。

2. 説明を更新し、「はい」をクリックしてデータ・リポジトリ内のリンク定義を更新します。

CMAS から CMAS へのリンク定義の説明の削除

ローカル CMAS のデータ・リポジトリから CMAS リンク定義を削除するには、この手順に従ってください。

1. 「**CMAS から CMAS へのリンク定義**」ビューでリンク定義を選択し、「**削除**」をクリックします。
確認パネルが表示されます。
2. 「はい」をクリックしてデータ・リポジトリからリンク定義を削除するか、「いいえ」をクリックして戻ります。

CMAS の再始動の管理

CICSplex 環境で CMAS を再始動した場合、以前に CMAS が使用していたデータ・スペースがまだ存在するかどうかによって、再始動がコールド・スタートまたはウォーム・スタートになることがあります。コールド・スタートまたはウォーム・スタートが発生する状況、および両者の違いについて認識しておく必要があります。

CMAS の起動時に、前回 CMAS がアクティブだった時に使用したデータ・スペースが存在しない場合は、起動は CMAS コールド・スタート です。そのようなデータ・スペースが存在する場合は、CMAS ウォーム・スタート です。

注：CMAS の再始動をコールド・スタートにするかウォーム・スタートにするかを指定することはできません。CICS **START** システム初期設定パラメーターは、CICSplex 内の CMAS の再始動には影響しません。

CICSplex SM データ・スペースは CICSplex SM コンポーネントに関連付けられています。CICSplex SM データ・スペースには、以下の 2 つのタイプがあります。

専用データ・スペース

CMAS のみを使用するデータ・スペース

共用データ・スペース

CMAS に接続する MAS とバッチ API アドレス・スペースの両方と共用されるデータ・スペース

表 8. CICSplex SM データ・スペースのタイプおよび関連するコンポーネント. この表は、データ・スペース・タイプ別に、CICSplex SM コンポーネントおよび関連するデータ・スペースをリストしています。この表で、データ・スペース接頭部の x は、1 からコンポーネントに割り振られたデータ・スペースの数までの数値です。データ・キャッシュ・マネージャー・コンポーネントには 1 つのデータ・スペースしかありません。データ・スペース名は、すべてその末尾に、CMAS の CICS **SYSIDNT** パラメーターが続きます。

データ・スペースのタイプ	コンポーネント名	データ・スペース接頭部
専用	<ul style="list-style-type: none">• ビジネス・アプリケーション・サービス• 通信• モニター・サービス• リアルタイム分析	<ul style="list-style-type: none">• BASx• COMx• MONx• RTAx

表 8. CICSplex SM データ・スペースのタイプおよび関連するコンポーネント. この表は、データ・スペース・タイプ別に、CICSplex SM コンポーネントおよび関連するデータ・スペースをリストしています。この表で、データ・スペース接頭部の x は、1 からコンポーネントに割り振られたデータ・スペースの数までの数値です。データ・キャッシュ・マネージャー・コンポーネントには 1 つのデータ・スペースしかありません。データ・スペース名は、すべてその末尾に、CMAS の CICS **SYSIDNT** パラメーターが続きます。(続き)

データ・スペースのタイプ	コンポーネント名	データ・スペース接頭部
共用	<ul style="list-style-type: none"> データ・キャッシュ・マネージャー データ・リポジトリ 管理アプリケーション・システム キュー・マネージャー トポロジー・サービス ワークロード・マネージャー 	<ul style="list-style-type: none"> DMDS DATx MASx QUEx TOPx WLMx

CMAS ウォーム・スタートが発生する時

CMAS が終了すると専用データ・スペースは削除されますが、共用データ・スペースは、その共用データ・スペースに何も負荷がかかっていない場合にのみ削除されます。CMAS が再起動されるまでに共用データ・スペースがまだ存在していると、CMAS ウォーム・スタートが発生します。

各 MAS または バッチ API アドレス・スペースが CMAS に接続するとき、その MAS または バッチ API アドレス・スペースはその共用データ・スペースにアクセスし、共用データ・スペースに負荷をかけます。

MAS の場合、負荷は MAS が終了するまで、または MAS 内の MAS エージェントが終了するまで続きます。

バッチ API アドレス・スペースの場合は、バッチ API アドレス・スペースが終了するまで、またはアドレス・スペースによって作成されたすべてのスレッドが **EXEC CPSM DISCONNECT** コマンドによって切断されるか、あるいは **EXEC CPSM TERMINATE** コマンドによって終了するまで、負荷は続きます。

CMAS が終了したときに MAS または バッチ API アドレス・スペースの何らかの負荷が存在すると、共用データ・スペースは削除されません。CMAS が再始動されたときに負荷がまだ残っていると、その再始動はウォーム・スタートとなります。

CMAS コールド・スタートが発生する時

CMAS が終了するときに MAS および バッチ API アドレス・スペースの負荷が何も存在しない場合、CMAS の終了時に専用データ・スペースと共用データ・スペースの両方が削除されます。以降の CMAS の始動はすべて、アクティブなデータ・スペースが何もないため、コールド・スタートとなります。

CMAS に負荷があっても、それが CMAS が再始動する前に終了していれば、その再始動はコールド・スタートとなります。

コールド・スタートとウォーム・スタートの違い

コールド・スタートの場合、CMAS は専用データ・スペースと共用データ・スペースの両方を作成します。ウォーム・スタートの場合、CMAS は専用データ・スペースを作成し、DMDS、DATx、WLMx、および MASx の各共用データ・スペースを保持しますが、QUEx 共用データ・スペースと TOPx 共用データ・スペースについてはそれらを削除して再作成します。

一般に、CMAS の再始動がコールド・スタートかウォーム・スタートかは関係ありません。

CICSplex SM システム・パラメーター **CACHEDSNUM** は、CICSplex SM CMAS コールド・スタート時にのみ変更できます。

CMAS コールド・スタートの発生方法

CMAS コールド・スタートを実行する必要がある場合は、CMASを開始する前にCMASのデータ・スペースが存在しなくなっていることを確認する必要があります。そのため、CMAS、接続されたMAS領域、およびすべてのバッチAPIプログラムが終了したあと、LPARの環境サービス・システム・サービス(ESSS)アドレス・スペース用にMVS表示ジョブ・コマンドを発行します。このコマンドを使用すると、WLMデータ・スペースが削除されたことを確認できます。このコマンドの形式は、次のとおりです。

```
D J,EYUXvrm
```

vrmは、CMASのCICSplex SMリリース番号です。例えば、CICSplex SM V5R6M0の場合、コマンドはD J,EYUX560です。このコマンドは、そのLPAR上の指定されたCICSplex SMリリースのデータ・スペースを表示します。

CMASに存在する負荷を確認するには、CICSplex SM EYU9XENFユーティリティを実行します。このユーティリティは、ESSSに接続されているすべてのCMASを表示します。ただし、いくつかのCMASが既に終了している場合もあります。リストされたCMASごとに、このユーティリティは、CMASの共用データ・スペースにまだ接続されているMASおよびAPIアドレス・スペースも表示します。

CICSplex 定義の管理

ローカルCMASに関連付けられたCICSplexに関する情報を表示するには、「管理ビュー」→「**CMAS 構成管理ビュー**」→「**CICSplex 定義**」とクリックします。この表形式ビューに、ローカルCMASに対して定義されているCICSplexがリストされます。

CICSplex 定義からのCMASの割り当て解除

CICSplexの管理に関与するCMASを削除する場合、実行する処理は、削除するCMASと保守ポイントCMASとの間の通信の状態によって異なります。

割り当て解除アクションを使用する前に、削除するCMASに接続されている更新されたCICSplexにアクティブなMASがないことを確認してください。

- 削除するCMASが、現在も今後も、保守ポイントCMASからアクセス可能である場合は、以下の操作を行う必要があります。

- 削除するCMASに関連付けられているチェック・ボックスを選択し、「**割り当て解除**」をクリックする
- 「はい」をクリックして、選択したCMASをCICSplexから削除する

この操作により、選択したCMASが、保守ポイントCMASのデータ・リポジトリ内のCICSplexの管理から即時に削除されます。次に、選択されたCMASが現在アクセス可能であれば、この変更を反映するためにデータ・リポジトリが更新されます。アクセス可能でない場合は、選択されたCMASがアクセス可能になるまで、処理は保留状況に置かれます。

- CMASが、ローカルCMASから、現在も今後も、アクセス可能でない場合は、以下の操作を行います。
- 削除するCMASに関連付けられているチェック・ボックスを選択し、「**割り当て解除**」をクリックする
- 「**割り当て解除**」ビューから、「**強制 (FORCE)**」チェック・ボックスを選択する
- 「はい」をクリックして、選択したCMASをCICSplexから削除する

この操作により、選択したCMASが、保守ポイントCMASのデータ・リポジトリ内のCICSplexの管理から削除されます。選択したCMASにアクセスできないため、選択したCMASのデータ・リポジトリはこの変更を反映するように変更されません。

注：CICSplexと保守ポイントCMASの関連は削除できません。別のCMASをCICSplexの保守ポイントCMASにする必要があると判断した場合は、CICSplex全体とその定義をすべて削除し、新しい保守ポイントCMASで再作成する必要があります。

トポロジー定義の管理

「管理ビュー」>「トポロジー管理ビュー」をクリックしてアクセスする一連のビューを使用して、WUI でトポロジー定義を管理することができます。

覚え書: 特に断りのない限り、トポロジー定義を作成および保守している時に認識されるのはコンテキスト設定のみです。

このセクションの残りの部分では、WUI を使用したトポロジー・タスクの実行方法について説明します。

トポロジー定義

トポロジー定義は、CICSplex の管理に関与するすべての CMAS についてデータ・リポジトリに保管されます。

134 ページの図 12 は、CICSplex を確立するトポロジー定義と、それらの定義を作成および保守するために使用されるビューとの関係を示しています。データ・リポジトリについては、128 ページの『保守ポイント CMAS の処理』を参照してください。

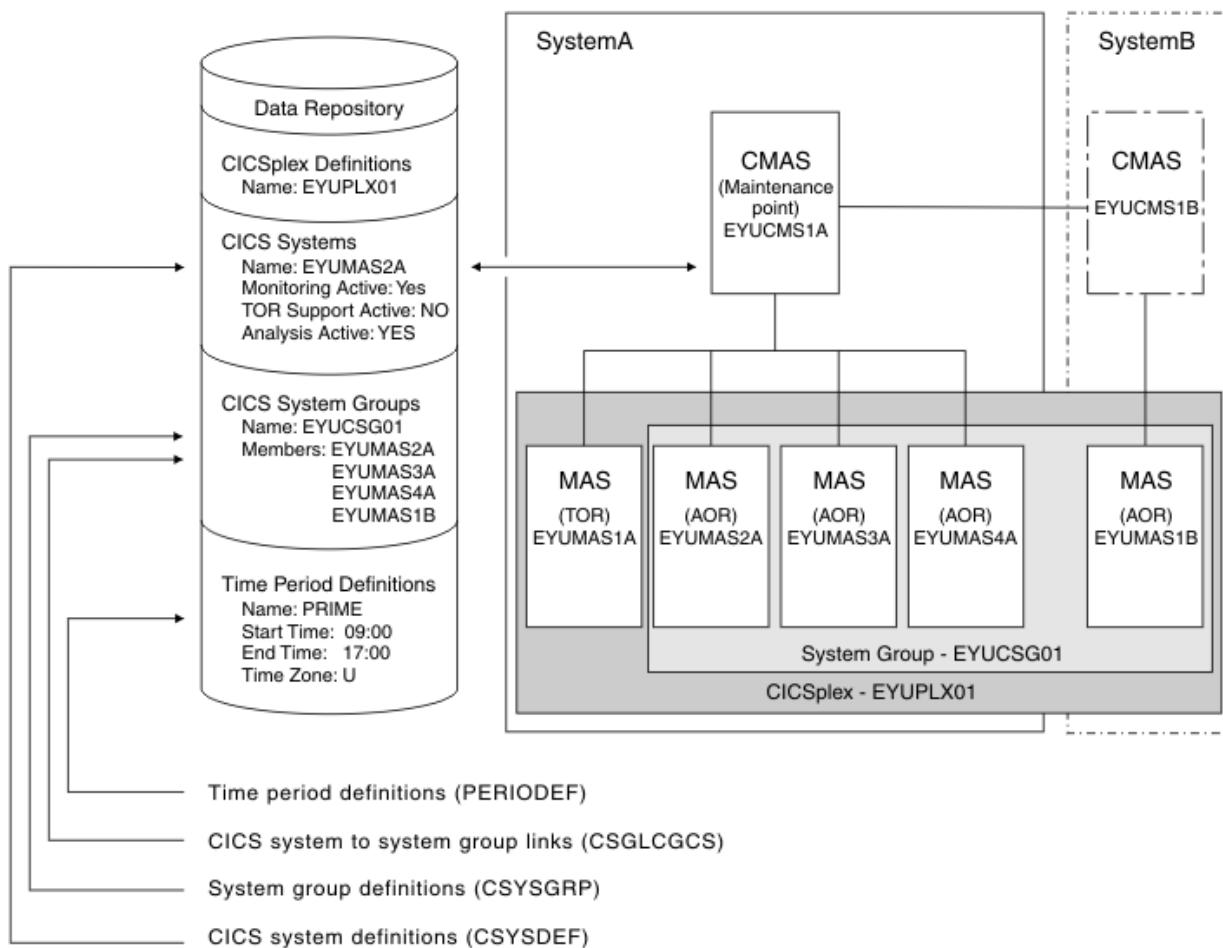


図 12. CICSplex コンポーネントとトポロジー・ビューとの関係

さらに、「**CICSplex SM 操作ビュー**」>「**CICSplex 認知の MAS**」(EYUSTARTMAS) ビューを使用して、アクティブな CICS システムを管理することができます (142 ページの『MAS トポロジー定義の処理』を参照)。

注: 定義を更新するために「管理ビュー」>「RTA システム使用可能性モニター」>「**CICS システム定義**」ビューおよび「管理ビュー」>「RTA システム使用可能性モニター」>「**時間枠定義**」ビューを使用すると、現在実行中のシステムとデータ・リポジトリ内の定義の両方に影響を及ぼします。

CICS システム・グループ定義の管理

CICS システム・グループは、CICSplex を構成する CICS システムのサブセットを識別します。各サブセットは、1 つ以上の CICS システム、CICS システム・グループ、またはその両方から成ります。これらを CICS システム・グループのメンバー といいます。

CICS システム定義の作業

CICSplex SM で管理するためには、CICS システムを、CICSplex SM に対して定義されている CICSplex に関連付ける必要があります。

時間枠定義の管理

時間枠定義は、特定の時分範囲を識別します。これらの定義は、特定のアクションがいつ開始し、いつ停止するかを示すために、リソース・モニタリングおよびリアルタイム分析で使用されます。

時間枠定義の作成

一部の CICSplex SM 機能は、特定時刻に自動的にアクティブにしたり非アクティブにしたりすることができます。

例えば、特定のモニター定義を 10:45 にインストールし、15.00 に削除するよう、CICSplex SM に指示することができます。この開始時刻と終了時刻を、時間枠定義を介して CICSplex SM に定義できます。CICSplex 構成を CICSplex SM に対して最初に定義する際に、標準の時間枠定義を作成しておくことをお勧めします。

この例では、基本シフト、昼食期間、および夜間の標準的時間枠定義の作成方法を示します。

1. PLXPROD1 に対して既に定義されているすべての時間枠定義を表示します。

- a. メインメニューから「管理」>「モニター管理」>「時間枠」をクリックして、「時間枠定義」表示ビューを開きます。
- b. コンテキストが PLXPROD1 ではない場合は、「コンテキスト」フィールドに PLXPROD1 を指定して「最新表示」をクリックします。コンテキストは、その後、変更されるまですべての後続のビューとメニューで修正されます。

2. 新規の時間枠定義を作成します。

- a. 「作成」をクリックして「時間枠定義」作成ビューを開きます。
- b. 以下の情報を入力します。

名前
PDFPRIME

説明
基本シフト

開始時間
08:30

終了時間
18:00

時間帯
R

時間帯調整係数
0

注：この定義は標準時間帯を対象として作成しているので、時間帯の調整を指定する必要はありません。

- c. 「はい」をクリックして確定します。「時間枠定義」表示形式ビューが再表示され、PDFPRIME のエントリーが示されます。

3. 2 つ目の時間枠定義を作成します。

- a. 「時間枠定義」ビューで PDFPRIME のエントリーを選択し、「作成」をクリックします。時間枠定義の作成パネルが表示され、PDFPRIME 時間枠定義の値が示されます。

- b. 「名前」フィールドには PDFLUNCH、「開始時刻」フィールドには 12:00、「終了時刻」フィールドには 14:30、「説明」フィールドには「昼食時間」と入力します。2つの時間帯フィールドは、PDFPRIME の場合と同様です。
- c. 「はい」をクリックして確定します。「時間枠定義」ビューが再表示されます。
4. ステップ 135 ページの『3』を繰り返して、PDFEVENG という名前で、開始時刻 17:30、終了時刻 23:59 の時間枠定義を作成します。
5. 時間枠定義を更新します。
終了時間が 17:30 になるように PDFPRIME 定義を変更したいとします。「時間枠定義」ビューで PDFPRIME のエントリーを選択し、「更新」をクリックします。「終了時刻」の値を 17:30 で上書きし、「はい」をクリックします。この変更は即時に有効になり、「時間枠定義」ビューが再表示され、更新された定義が示されます。

時間枠定義の作成

データ・リポジトリ内に時間枠定義を作成するには、以下の手順に従います。

手順

1. 「管理」>「トポロジー管理」>「時間枠」の順にクリックします。
「時間枠定義」表形式ビューが表示され、既に定義されている時間枠の要約が示されています。
2. 新しい定義を作成するときに、既存の定義からいくつか情報を使用したい場合は、「レコード (Record)」列でチェック・ボックスを選択して、既存の定義を選択します。
3. 「作成 (Create)」ボタンをクリックします。
「時間枠定義」の作成パネルが表示されます。
4. 該当するフィールドに、必要な情報を指定します。
各フィールドの説明については、[時間枠 - PERIODEF](#) を参照してください。
5. 「はい (Yes)」をクリックします。

タスクの結果

新しい時間枠定義がデータ・リポジトリに追加され、「時間枠定義」パネルが再表示されます。

時間帯コード

時間帯コードは 1 文字のグリニッジ・コードを表します。これは、24 個の国際標準時間帯に基づいています。各コードは、グリニッジ標準時 (GMT) との時間帯の関係を示します。

137 ページの表 9 は、時間枠定義で使用できる時間帯コードを示しています。

期間定義の時間帯設定

期間定義が時間帯 A のものである場合、その期間定義で制御されるすべてのイベントは、期間定義で指定された開始時刻と、エンティティ (CMAS または CICS システム) 内の時間帯、時間帯調整、および夏時間調整指標に基づいて、同じクロック時刻にアクティブになります。

同様に、期間定義で指定された終了時刻と、エンティティ (CMAS または CICS システム) 内の時間帯、時間帯調整、および夏時間調整指標に基づいて、イベントは同じクロック時刻に非アクティブになります。

期間定義が時間帯 A 以外の時間帯のものである場合、その期間定義で制御されるすべてのイベントは、イベントが発生している時間帯に関係なく、厳密に同じリアルタイムにアクティブになります。アクティブ化の時刻は、期間定義の開始時刻、時間帯、および時間帯調整に基づきます。同様に、その期間定義で制御されるイベントは、期間定義の終了時刻、時間帯、および時間帯調整に基づき、同じリアルタイムに非アクティブになります。アクティブ化と非アクティブ化の両方について、指定された時間帯は、夏時間調整が有効かどうかに関係なく、その時間帯の標準時刻を参照します。

時間帯属性とその使用について詳しくは、139 ページの『CICSplex SM の時間帯属性』を参照してください。

表 9. 時間帯コード

コード	GMT オフセ ット	説明	コード	GMT オフセ ット	説明
A	適用なし	現在の現地時間*	N	-12	(日付変更線の西)
B	+1	中央ヨーロッパ時間	O	-11	ベーリング標準時
C	+2	東ヨーロッパ	P	-10	ハワイ標準時
D	+3	アラビア	Q	-9	アラスカ標準時
E	+4	モーリシャス (アラブ首長 国連邦)	R	-8	太平洋標準時
F	+5	パキスタン	S	-7	アメリカ山岳標準時
G	+6	ベンガル湾	T	-6	中央標準時
H	+7	タイ	U	-5	東部標準時
I	+8	フィリピン	V	-4	大西洋標準時
J	+9	日本	W	-3	グリーンランド
K	+10	東部オーストラリア	X	-2	アゾレス諸島
L	+11	ニューカレドニア	Y	-1	西アフリカ
M	+12	ニュージーランド (日付変 更線の東)	Z	0	グリニッジ標準時 (GMT)

*注: 時間帯 A は、期間定義でのみ指定できます。

CICSplex SM の夏時間調整の変更処理

夏時間調整に従う場所のサイトでは、夏時間の開始時または終了時に、影響を受けるすべての CMAS、MAS、CICSplex SM WUI 領域の CICS 現地時間をどのように調整して z/OS MVS のシステム時刻と同期させるかを検討する必要があります。

このタスクについて

以下の点を考慮に入れてください。

夏時間調整のための z/OS のシステム時刻変更を受けて、CMAS はそのローカル・システム時刻をどのように調整するか？

CMAS 関連 CICS システム 初期設定パラメーター で説明されているように、CMAS の実行中に MVS TOD クロックのシステム 日付または時刻が変更されたら直ちに CMAS のローカル・システム時刻が z/OS のシステム時刻と同期するように、CMAS のシステム 初期設定パラメーター

AUTORESETTIME=IMMEDIATE を使用する必要があります。

AUTORESETTIME=IMMEDIATE (デフォルト) が設定されていると、CICS は次回のタスク接続時に CICS の時刻がシステムの時刻と異なっていれば、**PERFORM RESET** コマンドを発行して CICS の時刻をシステムの時刻と同期させます。

に記載されているように **AUTORESETTIME** には代わりの設定もありますが、それらを CMAS に使用することはお勧めしません。

夏時間調整のための z/OS のシステム時刻変更を受けて、CICSplex SM WUI 領域はそのローカル・システム時刻をどのように調整するか？

AUTORESETTIME=IMMEDIATE を使用する必要があることは、夏時間調整の影響を受ける CICSplex SM WUI 領域にも当てはまります。詳しくは、および [WUI の CICS システム 初期設定パラメーターの検討](#) を参照してください。

夏時間調整のための z/OS のシステム時刻変更を受けて、MAS はそのローカル・システム時刻をどのように調整するか？

AUTORESETTIME=IMMEDIATE がデフォルトです。ただし、夏時間調整の影響を受ける MAS では、**AUTORESETTIME** の設定のいずれかを使用することを選択できます。詳しくは、を参照してください。

CICSplex SM の夏時間調整の時間帯属性をどのように設定するか？

夏時間調整に従う場所のサイトでは、影響を受けるすべての CMAS および MAS の夏時間調整調整指標を年に 2 回変更する必要があります。これにより、CMAS がモニター・サービスおよびリアルタイム分析 (RTA) のコンポーネントに対して実行する時間ベースの 操作のための時間帯計算で使用される CMAS の時間帯の値が正しいことが保証されます。

夏時間調整が開始または終了するときは、影響を受ける CMAS の **DAYLIGHT** 属性に対応する値を指定して、時間の変化を反映させる必要があります。MAS の時間帯属性が **INHERIT** に設定されている場合は、MAS を変更する必要はありません。その理由は、制御 CMAS の時間帯の値の変更が自動的に MAS に適用されるからです。

しかし、MAS が制御 CMAS から 時間帯の値を継承しない場合は、MAS の「**夏時間調整が有効**」(**DAYLGHTSV**) 属性を更新する必要があります。

注：CPLEXDEF、CPLXCMAS、および EPLEXCHG リソース・テーブルの **TMEZONE**、**TMEZONEO**、および **DAYLGHTSV** 属性は、文書化目的のためだけのものです。これらの属性は、時間帯計算には使用されません。

手順

1. 夏時間の開始時と終了時に CMAS のローカル・システム時刻と WUI 領域のローカル・システム時刻が z/OS のシステム時刻と同期するようにします。
 - CMAS と WUI 領域で **AUTORESETTIME=IMMEDIATE** が有効である場合、ローカル・システム時刻は自動的に z/OS MVS のシステム時刻に対して調整されます。
 - CMAS と WUI 領域で代わりの **AUTORESETTIME** 設定が有効である場合は、MVS TOD クロックを変更したら直ちに手動の **CEMT PERFORM RESET** コマンドまたは **EXEC CICS PERFORM RESETTIME** コマンドが必ず発行されるようにするプロセスを整えておく必要があります。
2. CMAS の CMAS 運用リソース・テーブルに「**夏時間調整**」(**DAYLIGHT**) 属性を指定します。
更新を行うときに CMAS がアクティブであることを確認してください。

この属性を設定するには、WUI の「**CMAS の詳細**」(CMAS) ビューを使用するか、CMAS 運用リソース・テーブルで SET 操作を実行します。

表 10. 夏時間調整 (DAYLIGHT) の指定

CMAS の夏時間調整指標	夏時間調整の開始日	夏時間調整の終了日
夏時間調整 (DAYLIGHT)	YES	NO

この操作は、CMAS の現在の実行を更新します。更新は CMAS の CMASDEF 定義リソース・テーブルにも伝搬されるので、更新された **DAYLIGHT** 値はその後の CMAS の再起動時に有効になります。

3. CMAS から時間帯の値を継承しないすべての MAS に対して、MAS の CSYSDEF 定義リソース・テーブルに「**夏時間調整が有効**」(**DAYLGHTSV**) 属性を指定します。

この属性を設定するには、WUI の「**CICS システム定義**」(CSYSDEF) ビューを使用するか、CSYSDEF 定義リソース・テーブルで UPDATE 操作を実行します。

表 11. 夏時間調整が有効 (DAYLGHTSV) の指定

MAS の夏時間調整指標	夏時間調整の開始日	夏時間調整の終了日
夏時間調整が有効 (DAYLGHTSV)	YES	NO

この更新は、次に CICS 領域、または CICS 領域内の MAS エージェントが再始動されたときに有効になり、以降のすべての再始動で有効です。

注: CSYSDEF 定義リソース・テーブルを更新するときに MAS がアクティブな場合、更新は MAS の現在の実行には伝搬されません。

4. MAS がアクティブな場合、MAS の MAS 運用リソース・テーブルに「夏時間調整が有効」(DAYLGHTSV) 属性を指定することにより、CICS 領域または MAS エージェントを再始動することなく、アクティブな MAS に夏時間調整の更新を適用することができます。

アクティブな MAS を更新するには、WUI の「**CICSplex 認知の MAS**」(MAS) ビューを使用するか、MAS 運用リソース・テーブルで SET 操作を実行します。

この操作は、MAS の現在の実行を更新します。

次のタスク

CMAS および WUI サーバーが z/OS MVS のシステム時刻との同期に失敗した場合は、異常終了 AICG、または BATCHREP コマンドがタイムアウトを受け取るなどの症状になる可能性があります。この問題を解決するには、**CEMT PERFORM RESET** コマンドを使用して、影響を受ける CMAS および WUI 領域の内部 CICS クロックをリセットする必要があります。

CICSplex SM の時間帯属性

CICSplex SM は、タイミング・サービスを支援するために、3 つの属性を使用します。

これらの属性およびそれに選択可能な値は、次のとおりです。

時間帯

B から Z まで

時間帯オフセット (Time Zone Offset)

0 分から 59 分まで

夏時間調整が有効

YES または NO

これらの属性は、以下の点で CICSplex SM を支援するために使用します。

- CICSplex 内部の相対時間値を標準化する。
- CICSplex SM のモニター間隔を制御する。
- 時間に応じて開始されるモニター定義、分析定義、および状況定義をスケジュールする。
- システム使用可能性モニター (SAM) がアクティブになる時間をスケジュールする。

これらの属性は、以下の CICSplex SM 定義に指定されます。

CMAS

CICSplex SM EYU9XDUT ユーティリティーを使用。

CICSplex

「**CICSplex の定義 (CICSplex definitions)**」(CPLEXDEF) ビューを使用。

CICS システム

「**CICS システム定義 (CICS system definitions)**」(CSYSDEF) ビューを使用。

時間枠

「**時間枠**」(PERIODEF) ビューを使用。

属性定義

3 つの属性がタイミング・サービスを支援します。

これらの属性は次のように定義されます。

時間帯

CICSplex SM は、国際標準の時間帯を使用しています。これは世界中をそれぞれ 60 分の時間で区切られた 24 個のゾーンから構成されるものです。これらのゾーンの基準はグリニッジ子午線で、グリニッジ子午線の時間はグリニッジ標準時 (GMT) と呼ばれます。

グリニッジ標準時を含む区域は時間帯 Z と呼ばれます。この東隣の時間帯は GMT よりも 60 分 (1 時間) 早く、時間帯 B と呼ばれます。GMT が正午のとき、時間帯 B の時刻は 13:00 です。さらにその東隣の時間帯は GMT よりも 120 分 (2 時間) 早く、時間帯 C と呼ばれます。時間帯が東へ進むたびに時間は 1 時間ずつ早まり、時間帯 M では現地時間が GMT よりも 12 時間先行します。時間帯 M は国際日付変更線のところにあります。

その東側の時間帯は時間帯 N で、(時間帯 M と同様に) GMT とは 12 時間の差があります。ただし、ここは国際日付変更線をはさんで時間帯 M の反対側になるので、GMT より 12 時間遅くなります。同様にして、さらにその東隣の時間帯を時間帯 O といい、GMT より 11 時間遅れます。GMT が正午のとき、時間帯 O の時刻は 01:00 です。GMT よりも 1 時間遅い時間帯 Y までは、時間帯が東へ進むごとに、時刻を 1 時間ずつ差し引きます。

時間帯 A がないことに注意してください。

時間帯の調整

世界の中の一部の場所では、GMT との差が 60 分の倍数ではない時間を採用している場所があります。このような状態では、CICSplex SM は時間帯の調整を使用します。CICSplex SM にこのような場所の時間帯を定義するには、そこよりも 1 つ小さい 60 分の倍数の時間帯を使用して、60 分の倍数とその地域の時間の差を時間帯の調整として分単位で入力します。例えば、イングランドのロンドンの時刻が 13:00 (これは GMT、つまり時間帯 Z です) のとき、日本の東京 (時間帯 J) は 22:00 で、オーストラリアのアデレードでは 22:30 です。CICSplex SM にアデレードの場所を定義するには、その時間帯を時間帯 J と指定し、時間帯調整を (アデレードの時刻が、西隣の時間帯に 30 分加えたものであることを示すために) 30 と指定します。

夏時間調整

世界の中の一部の地域では、GMT からの時間的なオフセットを年に 2 回変更します。通常、最初の変更として、3 月か 4 月に、地方標準時 (LST) が 1 時間早められ、地方夏時間 (LDST) になります。時間帯 Z から M までの場所では、LDST は GMT から 1 時間遠ざかります。時間帯 N から Y までの場所では、LDST は GMT に 1 時間近づきます。通常 10 月か 11 月に、LDST を使用する場所は LST に戻ります。するとこれらの場所の時刻は、GMT との標準時差に戻ります。

CICSplex SM を運用する場合、LDST を使用する場所のサイトでは、すべての CMAS と MAS を年に 2 回変更する必要があります。このことは、LDST が有効になっているときは夏時間調整を YES と指定し、LST が有効になっているときは NO と指定することを意味します。夏時間調整指標が NO の場合、CICSplex SM は、その時間帯のエンティティが GMT から標準の時間数だけの時差があるとみなします。夏時間調整指標が YES の場合、CICSplex SM は、時間帯 Z から M ではそのエンティティが GMT より (標準時よりも) さらに 1 時間遠ざかり、時間帯 N から Y では GMT に 1 時間近づくとみなします。

CMAS の LDST を変更するには、CMAS 運用リソース・テーブルの **DAYLIGHT** 属性を設定します。この変更により、CMAS の現在の実行が更新され、CMAS の CMASDEF 定義リソース・テーブルに伝搬され、以降の CMAS の再始動時に LDST の変更が有効になります。

MAS が制御 CMAS から時間帯属性を継承する場合、すなわち、MAS の CSYSDEF 定義リソース・テーブルの **TMEZONE**、**TMEZONEO**、および **DAYLIGHTSV** 属性が **INHERIT** を指定する場合、MAS が接続されている CMAS の LDST が更新されると、MAS の LDST が自動的に更新されます。それ以外の場合は、ユーザーが MAS の LDST を更新する必要があります。

MAS の LDST を変更するには、CSYSDEF 定義リソース・テーブルの **DAYLIGHTSV** 属性を設定します。この変更は、次に CICS 領域、または CICS 領域内の MAS エージェントが再始動されたときに有効になり、以降のすべての再始動について有効です。CSYSDEF 定義リソース・テーブルの更新時に MAS がアクティブである場合、CSYSDEF の変更はそのアクティブな MAS では有効ではありません。再始動せずにアクティブな MAS の LDST を変更したい場合は、MAS 運用リソース・テーブルで **DAYLIGHTSV** 属性を設定する必要があります。

詳しくは、[137 ページの『CICSplex SM の夏時間調整の変更処理』](#)を参照してください。

注: LDST に合わせてシステム時刻を変更した後、すべての CMAS を変更と同期させる必要があります。CICS システム 初期設定 パラメーター **AUTORESETTIME** がデフォルト値の **IMMEDIATE** をとるか、あるいは、**IMMEDIATE** に設定されている場合、次のタスクが CMAS に接続されると同期が自動的に行われます。それ以外の場合は、CMAS で **PERFORM RESETTIME** コマンドを発行する必要があります。

AUTORESETTIME パラメーターの詳細については、を参照してください。

属性の使用

以下の定義を指定するときに、タイミング・サービスを支援する 3 つの属性を使用します。

CMAS

一貫性のあるタイミング・サービスが提供されるようにするために、CICSplex SM では、CMAS 内の属性設定がその CMAS の実行場所でも有効な時刻を正確に反映していることが必要になります。

CMAS のこれらの属性には、以下の 3 つの使用法があります。

- CICSplex 全体のタイム・サービスを調整するために、CICSplex SM ではすべての時間を GMT に基づいて設定します。CMAS が開始されると、CICSplex SM は、GMT 時間に設定するために標準ハードウェア・クロックをどのように変更する必要があるかを計算します。これは、MVS CVT データ・フィールド CVTTZ の設定に応じて、以下の 2 つの方法のいずれかで行われます。

- CVTTZ データ・フィールドがゼロ以外の場合、CICSplex SM はハードウェア・クロック値が GMT であると見なし、値を変更しません。
- CVTTZ データ・フィールドがゼロの場合、CICSplex SM は CMAS の時間帯、時間帯調整、および夏時間調整標識を使用し、ハードウェア・クロックを変更するために必要な値を計算します。

CVTTZ データ・フィールドの内容は、SYS1.PARMLIB(CLOCKxx) メンバーに基づいていることに注意してください。

- CLOCKxx メンバーが、シスプレックス・タイマーが使用されていることを示している場合は、CVTTZ データ・フィールドは、シスプレックス・タイマーの内容に基づいて設定されます。
- CLOCKxx メンバーが、シスプレックス・タイマーが使用されていないことを示している場合は、CVTTZ データ・フィールドは、CLOCKxx メンバーの TIMEZONE オペランドの内容に基づいて設定されます。
- 分析定義または状況定義が、CMAS によって制御される分析点仕様内にインストールされ、その定義に時間指定インストールがスケジュールされている場合 (定義が期間定義に関連付けられているため)、CMAS の時間帯、時間帯調整、および夏時間調整指標によって、定義がインストールされるタイミングが決定されます (ただし、期間定義によってインストール時間が現地時間であることが示されている場合)。
- CICS システムが CICSplex SM に対して定義されている場合、時間帯、時間帯調整、および夏時間調整標識は、明示的に設定することも、CICS システムが接続されている CMAS から継承することもできます。

CICSplex

CICSplex には多くの異なる時間帯が含まれている場合があるため、CICSplex 内の整合性を確保するために、CICSplex を表す 1 つの属性セットを選択する必要があります。選択された属性が、CICSplex の保守ポイント CMAS、またはその他の CMAS の属性と一致する必要はありません。

CICSplex の時間帯属性には次の 1 つの使用法があります。

- CICSplex がアクティブになり、モニターがアクティブ化されると、モニター間隔が CICSplex 定義内の設定に基づいて決定されます。このモニター間隔は、CICS システムから収集されたモニター・データをリセットするために使用されます。CICSplex 内の各 CMAS には、それに接続された CICS システムのモニター・データが保管されるため、CICSplex 内のすべてのモニター・データの整合性が保たれるように、CMAS の場所に関係なく、リセットはすべての CMAS でまったく同じリアルタイムで行われます。リセットの時間を計算するために、CICSplex のタイム・ゾーン属性が使用されます。

CICS システム

CMAS の属性要件とは異なり、CICS システムの時間帯属性は、CICS システムが実際に実行される場所とは異なる場所を反映するように設定できます。例えば、システムがある 1 つの時間帯で実行されるものの、別の時間帯のオペレーターによって主に使用される場合、システムが実行される時間帯に一致させるのではなく、オペレーターの時間帯に一致するように属性を設定することができます。CICSplex SM は、CICS システムの実際の属性または論理属性のいずれかをサポートします。

CICS システムのこれらの属性には、以下の 3 つの使用法があります。

- モニター定義が CICS システム内のモニター仕様内にインストールされ、そのモニター定義で時間指定インストールがスケジュールされている場合 (モニター定義が期間定義に関連付けられているため)、CICS システムの時間帯、時間帯調整、および夏時間調整指標を使用して、定義をインストール

するタイミングが決定されます (ただし、期間定義によってインストール時間が現地時間であることが示されている場合)。

- 分析定義または状況定義が、CICS システム内の分析仕様内にインストールされ、その分析定義に時間指定インストールがスケジュールされている場合 (定義が期間定義に関連付けられているため)、CICS システムの時間帯、時間帯調整、および夏時間調整指標を使用して、定義をインストールするタイミングが決定されます (ただし、期間定義によってインストール時間が現地時間であることが示されている場合)。
- CICS システムでシステム 使用可能性モニター (SAM) がアクティブな場合 (CICS システム 定義に 1 次 CMAS とアクティブ 期間の両方が含まれている場合) は、CICS システムの時間帯、時間帯調整、および夏時間調整指標を使用して、システムをアクティブにするタイミングが決定されます (ただし、期間定義によって時間枠が現地時間であることが示されている場合)。

期間定義

期間定義は、時間指定されたイベントをスケジュールするために CICSplex SM によって使用されます。期間定義は、開始時刻、終了時刻、および時間帯の属性として定義されます。期間定義は、時間帯と時間帯調整の 2 つの時間帯属性のみを使用します。

期間定義には以下の 3 つの使用法があります。

- システム 可用性モニター (SAM) 用。このモニターは、1 次 CMAS と期間定義の両方が CICS システム 定義に関連付けられている場合に発生します。

注: 「期間定義名」が「管理ビュー」 > 「システム 可用性モニター管理ビュー (System availability monitoring administration views)」 > 「CICS システム 定義」詳細ビュー (エンド・ユーザー・インターフェースの CICSSYS) に指定されていない場合、SAM はその CICS システムでアクティブ化されません。

- モニター定義の時間指定インストール用。このインストールは、モニター定義がモニター・グループに追加されたときにそのモニター定義に期間定義が関連付けられていて、そのモニター・グループが CICS システムにインストールされる場合に発生します。
- 分析定義および状況定義の時間指定されたインストール用。このインストールは、分析定義または状況定義が分析グループに追加されたときにこれらの定義に期間定義が関連付けられていて、その分析グループが CICS システムまたは分析点仕様にインストールされる場合に発生します。

期間定義では、以下に示すとおり、時間帯属性の他の使用法との違いが 2 つあります。

- 時間帯 A が期間定義で受け入れられます。時間帯 A の使用は、期間定義に関連した時間が、エンティティ (CMAS または CICS システム) の現地時間を反映することを示します。
- 期間定義が A の時間帯で定義されている場合、期間定義で指定されている時間帯調整は無視されます。

期間定義が時間帯 A のものである場合、その期間定義で制御されるすべてのイベントは、期間定義で指定された開始時刻と、エンティティ (CMAS または CICS システム) 内の時間帯、時間帯調整、および夏時間調整指標に基づいて、同じクロック時刻にアクティブになります。同様に、期間定義で指定された終了時刻と、エンティティ (CMAS または CICS システム) 内の時間帯、時間帯調整、および夏時間調整指標に基づいて、イベントは同じクロック時刻に非アクティブになります。

期間定義が時間帯 A 以外の時間帯のものである場合、その期間定義で制御されるすべてのイベントは、イベントが発生している時間帯に関係なく、厳密に同じリアルタイムにアクティブになります。アクティブ化の時刻は、期間定義の開始時刻、時間帯、および時間帯調整に基づきます。同様に、その期間定義で制御されるイベントは、期間定義の終了時刻、時間帯、および時間帯調整に基づき、同じリアルタイムに非アクティブになります。アクティブ化と非アクティブ化の両方について、指定された時間帯は、夏時間調整が有効かどうかに関係なく、その時間帯 (LST) の標準時刻を参照します。

MAS トポロジー定義の処理

このセクションでは、「CICSplex 認知の MAS」 (EYUSTARTMAS) ビューを使用してアクティブな CICS システムに関する情報を入手する方法について説明します。

アクティブな MAS の停止

アクティブな CICS システム内で MAS エージェント・コードを停止するには、以下の手順に従ってください。

1. 「**CICSplex SM 操作ビュー**」 > 「**CICSplex 認知の MAS**」の順にクリックします。

これにより、「**CICSplex 認知の MAS**」表形式ビューが開きます。このビューでは、コンテキストとして識別された CICSplex で認識されている CICS システムに関する情報が表示されます。

2. リストされている CICS システムを 1 つ以上選択します。
3. 「**停止**」をクリックし、確認画面で「**はい**」をクリックしてアクションを確認します。

注：CICS システムの「**ワークロード・マネージャー状況**」フィールドに「**はい (YES)**」が含まれている場合、MAS エージェント・コードを停止できない場合があります。CICS システムが要求側領域として機能している場合は、MAS エージェント・コードを停止することはできません。(どの CICS システムが要求側領域として機能しているかを判別するには、「**アクティブ・ワークロード (WLM)**」 > 「**アクティブ・ワークロードのターゲット配布係数 (Active workload target distribution factors)**」をクリックします。)

このタイプの CICS システムで MAS エージェント・コードを停止する場合は、最初に動的ルーティング・プログラムを EYU9XLOP 以外のものに変更する必要があります。(「**CICS 領域**」ビューを使用して、動的ルーティング・プログラムを変更することができます。)

アクティブな MAS の更新

アクティブな MAS を更新するには、以下の手順に従ってください。

CICS システム定義に対して行った変更はすべて、即時に有効となります。これらの変更内容は、CICS システムがアクティブである限り、あるいはユーザーが再度変更を行うまで、有効なままになります。

注：ワークロード管理、リアルタイム分析、あるいはリソース・モニタリングをパネルからオンにした場合、そのステータスは、コンポーネントが完全に初期化されるまでアクティブとは表示されません。

1. 「**CICSplex SM 操作ビュー**」 > 「**CICSplex 認知の MAS**」の順にクリックします。

これにより、「**CICSplex 認知の MAS**」(MAS) ビューが開きます。MAS ビューでは、コンテキストとして識別された CICSplex で認識されている CICS システムに関する情報が表示されます。

2. リストされているアクティブな CICS システムのいずれかの「**CICS システム名**」列をクリックして、「**CICSplex 認知の MAS**」詳細ビューを開きます。このビューでは、選択されたアクティブな CICS システムのモニター状況、RTA 状況および WLM 状況を更新することができます。また、時間帯属性とセキュリティ属性を変更することもできます。

時間帯、時間帯オフセット、および夏時間属性について詳しくは、[139 ページの『CICSplex SM の時間帯属性』](#)の CICSplex SM 時間帯属性の説明を参照してください。

3. アクティブな CICS システムに対して行った変更を適用するには、「**変更の適用**」をクリックします。変更内容は即時に有効となり、ユーザーがそれを再度変更するまで、あるいは、CICS システムが停止するまで有効なままになります。

CMAS での NetView への総称アラートの送信の有効化

このタスク例は、CMAS 定義の更新を必要とする、より大規模なリアルタイム分析タスクの一部です。この例では、そのタスクの CMAS に関連した部分だけを示します。

CICSplex SM で SNA 総称アラートを NetView に送信したい場合は、関連 CMAS で NetView プログラム間インターフェース (PPI) をアクティブにする必要があります。(これは、NetView インスタンスと同じ MVS イメージ上の CMAS です。) この例では、指定された CMSSYS1 という CMAS で NetView PPI をアクティブにする方法を示します。

1. 最初に、コンテキストが正しいことを確認します (この例では CMSSYS1)。正しくない場合は、現行ビューでコンテキスト・フィールドを CMSSYS1 に変更し、「**設定**」をクリックします。コンテキストは、その後、変更されるまでのすべての後続のビューとメニューで修正されます。
2. CMAS 定義を表示します。

- a. メインメニューから、「**CICSplex SM 操作ビュー (CICSplex SM operations views)**」→「**ローカル CMAS 認知の CMAS (CMASs known to local CMAS)**」をクリックして、「**ローカル CMAS 認知の CMAS (CMASs known to local CMAS)**」表形式ビューを開きます。
 - b. コンテキストが CMSSYS1 ではない場合は、「**コンテキスト**」フィールドに CMSSYS1 を指定して「**最新表示**」をクリックします。コンテキストは、その後、変更されるまですべての後続のビューとメニューで修正されます。
 - c. CMSSYS1 のエントリーを見つけ、「**アクセスのタイプ**」フィールドで「**ローカル**」をクリックして「**CMAS の詳細**」ビューを開きます。
3. CMAS 定義を更新します。
- 「**CMAS の詳細**」ビューで「**使用 Netview PPI**」フィールドを見つけ、エントリーを「**いいえ (No)**」から「**はい (Yes)**」に変更します。ビューの最下部までスクロールし、「**変更の適用**」をクリックします。ビューが再表示され、更新された値が示されます。これで NetView PPI インターフェースがアクティブになりました。

第8章 プラットフォームおよびアプリケーションの管理

CICS Explorer を使用して、プラットフォームおよびアプリケーションを管理および更新します。各プラットフォームからアプリケーションを表示、更新、および削除することができます。プラットフォームが不要になった場合に、そのプラットフォームを CICSplex から削除できます。また、CICS 領域を領域タイプに追加したり削除したりできます。

CICS Explorer の CICS クラウド・パースペクティブを使用して、インストールされているプラットフォームとアプリケーションを表示および管理します。以下を実行する方法については、[CICS Explorer 製品資料](#)内の『[Working with platforms](#)』を参照してください。

- 状況の確認:
 - インストールされているプラットフォーム、アプリケーション、および CICS バンドルの状況の確認
 - プラットフォームの一部である CICS 領域の状況の確認
- プラットフォームとアプリケーションの属性およびそれらのリソースの確認:
 - CICSplex に現在インストールされているプラットフォームおよびアプリケーションのリソース
 - 現在インストールされていないプラットフォームおよびアプリケーションのリソース
 - アプリケーション用にインストールされている専用リソース (それらがインストールされている領域別、またはそれらが定義されている CICS バンドル別)。
- プラットフォームの変更:
 - 領域タイプへの CICS 領域の追加
 - 領域タイプからの CICS 領域の削除
 - プラットフォームの使用可能化、使用不可化、または破棄
- アプリケーションの変更:
 - アプリケーション・プロジェクトまたはアプリケーション・バインディングの更新
 - 呼び出し元に対するアプリケーションの選択可能化または選択不可化
 - 特定のバージョンのアプリケーションの使用可能化、使用不可化、または破棄

プラットフォームの管理

CICS Explorer を使用して、インストール済みプラットフォームを管理します。例えば、領域タイプに CICS 領域をさらに追加したり、領域タイプから領域を削除したりできます。これにより、アクティブなプラットフォームのキャパシティを拡大したり縮小したりすることができます。また、既にプラットフォームの一部になっている CICS 領域をプラットフォーム内の複数の領域タイプ間で共用して、プラットフォームのアーキテクチャーを変更することもできます。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- [145 ページの『領域タイプへの CICS 領域の追加』](#)
- [146 ページの『領域タイプからの CICS 領域の削除』](#)
- [147 ページの『プラットフォームの選択不可化、使用不可化、および破棄』](#)

プラットフォーム・リソースの保護については、[プラットフォームおよびアプリケーションのセキュリティ](#)を参照してください。

領域タイプへの CICS 領域の追加

CICS Explorer では、プラットフォームに現在存在する領域を確認できます。[CICS Explorer 製品資料](#)内の『[領域タイプへの CICS 領域の追加](#)』の情報に従ってください。

以下の考慮事項に注意してください。

- 既存の CICS 領域をプラットフォームに初めて追加する場合、またはプラットフォーム内の異なる領域タイプに追加する場合は、その前に CICS 領域をシャットダウンしておく必要があります。
- プラットフォームのキャパシティーを増やすために、領域を追加したり作成したりすることができます。CICSplex 内の既存の CICS 領域を採用された領域タイプに追加すると、CICS 領域が領域タイプに追加され、そのシステム定義 (CSYSDEF) が、CICSplex SM 内の対応するシステム・グループ (CSYSGRP) に追加されます。この CICS 領域は採用された領域になり、プラットフォームの一部となります。

あるいは、作成した領域タイプに新しい CICS 領域を作成することもできます。新しい CICS 領域をセットアップするか、まだ CICSplex SM によって管理されていない既存の CICS 領域を使用することができます。新しい CICS 領域用に CICS システム定義 (CSYSDEF) が作成され、CICSplex SM 内の対応するシステム・グループ (CSYSGRP) に追加されます。新しい CICS 領域をセットアップする際は、作成したシステム定義に一致する APPLID、SYSID、その他の属性を使って領域を作成します。CICS 領域がプラットフォームの一部として作成されます。

ベスト・プラクティスとして、1つの領域タイプ内の各 CICS 領域が互いの複製になるようにするのが適切です。これを行う方法については、[CICS 領域のセットアップ](#)を参照してください。

- 採用された領域は採用された領域タイプにのみ追加することができ、作成された領域は作成された領域タイプにのみ追加することができます。この CICS 領域を共用領域として元の領域タイプに残しておき、両方のワークロードを補助することができます。あるいは、元の領域で必要ない場合には、CICS 領域を元の領域タイプから除去することもできます ([146 ページの『領域タイプからの CICS 領域の削除』](#)を参照してください)。

追加された CICS 領域をプラットフォームの一部として使用し始めるには、以下のようにします。

- 通常の方法を使って領域を開始します。必要であれば、COLM トランザクションを使用して CICS 領域を CICSplex SM に接続します。CICS 領域を始動すると、その領域タイプにデプロイされるアプリケーションの CICS バンドルが領域内にインストールされます。
- 「クラウド・エクスプローラー」ビューを最新表示して、領域の状況が ACTIVE であることを確認してください。
- 「クラウド・エクスプローラー」ビューを使って、該当するアプリケーション用の CICS バンドルが CICS 領域にインストールされていること、およびアプリケーションの状況が正常インストールを示していることを確認してください。既に領域タイプにあった CICS 領域でアプリケーションが使用可能または選択可能になっている場合、アプリケーションおよびインストール済み CICS バンドルの状況は、新たに追加される CICS 領域で ENABLED になっているはずですが、インストールが正常な場合、CICS は CICS 領域でアプリケーションを使用可能にしますが、すぐに選択することはできません。
- 「クラウド・エクスプローラー」ビューを使用して、アプリケーションを使用可能にします。これでアプリケーションは、そのアプリケーション・エントリ・ポイントを介して呼び出し元で選択できるようになりました。

領域タイプからの CICS 領域の削除

CICS Explorer では、プラットフォームに現在存在する領域を確認できます。[CICS Explorer 製品資料内の『領域タイプからの CICS 領域の削除』](#)の情報に従ってください。

以下の考慮事項に注意してください。

- プラットフォームから CICS 領域を削除する前に、CICS 領域をシャットダウンする必要があります。
- 1つの作成済み領域タイプだけに組み込まれていた作成された CICS 領域を削除する場合、その CICS 領域のシステム定義 (CSYSDEF) が削除されます。このため、その作成された CICS 領域はプラットフォームには含まれなくなり、必要な CSYSDEF が存在しないためそれを開始できません。
- 1つの採用された領域タイプだけに組み込まれていた採用された CICS 領域を削除する場合、その CICS 領域は CICSplex に存在し続けます。ただし、その領域は採用された領域ではなくなり、プラットフォームの一部でもなくなります。
- 別の領域タイプ (共用領域) にも組み込まれている作成または採用された CICS 領域を削除する場合、その CICS 領域はもう 1つの領域タイプ内で存在し続けます。採用された領域は、採用された領域のままになります。領域は、「**領域タイプから削除 (Remove from Region type)**」アクションを選択した領域タイプおよび関連付けられた CICSplex SM システム・グループ (CSYSGRP) だけから削除されます。削除された後 1つの領域タイプだけに組み込まれる場合、その領域は共用領域ではなくなります。

削除された CICS 領域を引き続き使用するには、次のようにします。

- CICS 領域がまだプラットフォームの一部である場合、通常の方法を使って領域を開始します。必要であれば、COLM トランザクションを使用して CICS 領域を CICSplex SM に接続します。「クラウド・エクスプローラー」ビューを最新表示して、領域の状況が ACTIVE であることを確認してください。CICS 領域を始動すると、領域タイプに該当する CICS バンドルが領域内にインストールされ、プラットフォーム内のワークロードから利用できるようになります。
- 領域が、プラットフォーム内の 1 つの採用された領域タイプだけに組み込まれていた採用された CICS 領域であった場合、プラットフォーム外部でその領域を使用し続けるには、通常の方法を使って領域を開始してください。
- プラットフォーム内の 1 つの作成された領域タイプだけに組み込まれていた作成された CICS 領域を削除した場合、プラットフォームの一部ではなくなった CICS 領域をどのように扱うかを選択してください。
 - 作成された CICS 領域を再使用しない場合は、その領域に関して作成されたデータ・セットなどのリソースを削除します。
 - その CICS 領域を CICSplex SM MAS として再び使用する場合には、そのための新しい CSYSDEF を作成して、それを開始して CICSplex SM に接続することができるようになります。これを行う手順については、[CICSplex SM の構成](#)を参照してください。
 - CICS 領域を再び使用するが、CICSplex SM では管理しない場合は、CICS 領域を MAS に含めるときとは逆の手順を実行して、それが別個に開始されるようにします。手順のリストについては、[CICSplex SM 管理対象アプリケーション・システム \(MAS\) の設定](#)を参照してください。

プラットフォームの選択不可化、使用不可化、および破棄

プラットフォームを使用不可にすると、一時的に選択不可になります。プラットフォームが必要なくなった場合、それを使用不可にして破棄します。プラットフォームを破棄すると、CICSplex SM は、そのプラットフォームがデプロイされている CICSplex から、インストールされているプラットフォーム・リソースを削除します。

CICS Explorer では、プラットフォームの状況を確認できます。[CICS Explorer 製品資料内の『プラットフォームの無効化と廃棄』](#)の情報に従ってください。

以下の考慮事項に注意してください。

- アプリケーションがプラットフォームにまだインストールされている 状態や、プラットフォーム内の CICS 領域がアクティブな状態でも、プラットフォームを使用不可にすることができます。
- プラットフォームを破棄するには、最初にそのプラットフォームを使用不可にする必要があります。
- プラットフォームを破棄するには、その前に、プラットフォーム内にインストールされているすべてのアプリケーションを使用不可にして破棄する必要があります。ただし、アプリケーション定義 (APPLDEF リソース) を削除する必要はありません。[アプリケーションの管理](#)を参照してください。
- さらに、プラットフォームを破棄する前に、作成された領域タイプに属するアクティブな CICS 領域、つまりプラットフォーム作成時に CICSplex SM トポロジーが定義された CICS 領域をシャットダウンする必要もあります。これらの CICS 領域のライフサイクルは、プラットフォームのライフサイクルに関連付けられており、プラットフォームが破棄されると、使用できなくなります。CICSplex SM トポロジーがプラットフォームとは無関係にセットアップされている、採用された領域タイプに属する CICS 領域は、シャットダウンする必要はありません。
- プラットフォームを使用不可または破棄すると、そのプラットフォームと一緒にデプロイされたすべての CICS バンドルも使用不可または破棄されます。プラットフォームと一緒にデプロイされた CICS バンドルは、プラットフォームを使用不可または破棄することなく個別に削除することができます。
- プラットフォームを破棄すると、領域タイプとして採用された CICS システム・グループ (CSYSGRP) は、プラットフォームがインストールされる前の状況に復元され、採用された CICS 領域は引き続き CICSplex に存在するようになります。ただし、作成された領域タイプに属する作成済み CICS 領域の場合、その CICS 領域のシステム定義 (CSYSDEF) は削除されます。そのため、作成された CICS 領域に必須の CSYSDEF が存在しなくなり、その領域は開始できなくなります。破棄されたプラットフォーム内のこれらの作成された CICS 領域について、その処理方法を以下から選択します。

- 作成された CICS 領域を再使用しない場合は、その領域に関して作成されたデータ・セットなどのリソースを削除します。
- その CICS 領域を CICSplex SM MAS として再び使用する場合には、そのための新しい CSYSDEF を作成して、それを開始して CICSplex SM に接続することができるようになります。これを行う手順については、[CICSplex SM の構成](#)を参照してください。
- CICS 領域を再び使用するが、CICSplex SM では管理しない場合は、CICS 領域を MAS に含めるときとは逆の手順を実行して、それが別個に開始されるようになります。手順のリストについては、[CICSplex SM 管理対象アプリケーション・システム \(MAS\) の設定](#)を参照してください。

アプリケーションの管理

CICS Explorer を使用して、インストール済みアプリケーションを管理します。

このセクションでは、以下の方法について説明します。

- [148 ページの『新規バージョンのアプリケーションを使用可能にする』](#)
- [149 ページの『アプリケーションの選択不可化、使用不可化、および破棄』](#)
- [150 ページの『アプリケーション・コンテキスト・データを使用したアプリケーションのモニター』](#)。

アプリケーション・リソースの保護については、[プラットフォームおよびアプリケーションのセキュリティ](#)を参照してください。

新規バージョンのアプリケーションを使用可能にする

アプリケーションのコンポーネントの CICS バンドルに変更を加えるときは、CICS バンドル、アプリケーション、およびアプリケーション・バインディングのバージョンを更新し、新しいバージョンをプラットフォームにデプロイします。

CICS Explorer を使用して、CICS バンドルを更新し、アプリケーション・バンドルおよびアプリケーション・バインディングを更新します。[CICS Explorer 製品資料内の『CICS バンドルの更新』](#)の情報に従ってください。

以下の考慮事項に注意してください。

- CICS 環境での更新をデプロイおよび管理するために、CICS バンドル、アプリケーション・バンドル、およびアプリケーション・バインディングにバージョン管理ポリシーを適用する必要があります。アプリケーション用の CICS バンドルの新しいバージョンをインストールするときには、アプリケーション・バンドルの既存のバージョンを使用することはできません。また、アプリケーション・バインディングの既存のバージョンをアプリケーション・バンドルの新しいバージョンとともに使用することはできません。アプリケーションの CICS バンドルを更新した場合は、必ずアプリケーション・バンドルとアプリケーション・バインディングのバージョンを更新する必要があります。詳しくは、[アプリケーションへのバージョンの割り当て](#)を参照してください。
- アプリケーションに関係するすべてのプロジェクト (ターゲット・プラットフォームのプラットフォーム・プロジェクトを含む) が CICS Explorer のローカル・ワークスペースに存在することを確認してください。CICS Explorer は、アプリケーション・プロジェクトおよびアプリケーション・バインディング・プロジェクトを妥当性検査するために、プラットフォーム・プロジェクトを必要とします。
- アプリケーションが専用リソースだけを使用する場合、アプリケーションの複数バージョンを同時に同じプラットフォームにインストールして、選択できるようにすることができます。マルチバージョン管理がサポートされていないリソースをアプリケーションが使用する場合、新しいバージョンをインストールする前に、アプリケーションの前のバージョンを表すインストール済み APPLCTN リソースを使用不可にして破棄する必要があります。あるいは、前のバージョンのアプリケーションでインストールされているリソースと競合しないよう、マルチバージョン管理がサポートされていないリソースの名前を変更することもできます。
- 新規バージョンをインストールするためにアプリケーションを使用不可にする場合、ユーザーがそれを選択できなくなる期間が発生します。それは、CICSplex のインストール済み APPLCTN リソースを使用不可にして破棄するために旧バージョンのアプリケーションを選択不可にしたときから、新規 APPLDEF リソース定義をインストールし、新規バージョンのアプリケーションを使用可能にし、それを選択可能にするときまでの期間です。安全に更新を実行できる時間を設けるか、更新を実行する間、そのアプリケーションのユーザーのために代替ソリューションを用意してください。

- 既存のアプリケーション・バインディングを更新してアプリケーションの新しいバージョンを指定するか、アプリケーションの新しいバージョン用の新規アプリケーション・バインディングを作成できます。また、アプリケーション用の CICS バンドルのデプロイメントをプラットフォーム内の領域タイプに変更することもできます。
- 新しいバージョンのアプリケーションを使用可能にすると、CICS は呼び出し元 (CICS トランザクションやその他のリンク・アプリケーションなど) に、アプリケーション・エントリ・ポイントとして宣言された CICS リソースを介してアプリケーション・バージョンにアクセスすることを許可します。デフォルトでは、CICS は、プラットフォームで選択可能な最新バージョンのアプリケーションを提供します。マルチバージョン管理がサポートされているアプリケーションで複数のバージョンを選択できる場合、呼び出し元では、選択可能な最新のアプリケーション・バージョンにアクセスすることもでき、**EXEC CICS INVOKE APPLICATION** コマンドを使用して任意の選択可能なアプリケーション・バージョンを指定することもできます。アプリケーションの特定のバージョンの呼び出しについては、[複数バージョンに対応するアプリケーションの呼び出し](#)を参照してください。

アプリケーションの選択不可化、使用不可化、および破棄

一時的な処置として、アプリケーションの特定のバージョンにはプラットフォーム・ユーザーからアクセスできないようにするには、そのアプリケーション・バージョンを選択不可にします。そのアプリケーション・バージョンへのユーザー・アクセスをすぐに再度付与する予定がないものの、インストールしたままにする場合、そのバージョンを使用不可にします。そのアプリケーション・バージョンがなくなった場合、それを破棄します。

CICS Explorer では、アプリケーションの状況を確認できます。[アプリケーションの選択不可化、使用不可化、および破棄の情報に従ってください](#)。

以下の考慮事項に注意してください。

- アプリケーションの特定のバージョンを選択不可にする、使用不可にする、または破棄する場合、そのアプリケーション・バージョン用にインストールされた CICS バンドルのインスタンスは、CICS 領域で同じように選択不可化、使用不可化、または破棄されます。同じ CICS バンドルを使用する他のアプリケーション・バージョンまたは他のアプリケーションは、影響を受けません。
- アプリケーション定義は CICSplex のデータ・リポジトリに残ります。
- 新規バージョンをインストールするためにアプリケーションを使用不可にする場合、ユーザーがそれを選択できなくなる期間が発生します。それは、CICSplex のインストール済み APPLCTN リソースを使用不可にして破棄するために旧バージョンのアプリケーションを選択不可にしたときから、新規 APPLDEF リソース定義をインストールし、新規バージョンのアプリケーションを使用可能にし、それを選択可能にするときまでの期間です。安全に更新を実行できる時間を設けるか、更新を実行する間、そのアプリケーションのユーザーのために代替ソリューションを用意してください。
- アプリケーションを選択不可化、使用不可化、または破棄した後に、そのアプリケーションの処理を以下から選択します。
 - アプリケーション・バージョンが不要になった場合、そのアプリケーションの該当バージョンを指し示すアプリケーション定義を削除できます。アプリケーションの新しいバージョンをインストールするとき、またはプラットフォームを破棄するときに、アプリケーション定義の以前のバージョンを削除する必要はありません。アプリケーション定義を削除するには、その前にそのアプリケーションの関連するバージョンを選択不可にし、使用不可にし、さらに破棄する必要があります。
 - アプリケーション・バージョンが不要になった場合、zFS のプラットフォーム・ディレクトリーからアプリケーション・プロジェクトのエクスポート済みバージョンを削除できます。CICS Explorer の z/OS パースペクティブを使用して、アプリケーション・バンドルの関連するバージョンが含まれているフォルダーをプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーから削除します。
 - 特定のアプリケーション・バージョンのコンポーネント用の CICS バンドルが不要になった場合、その CICS バンドル・プロジェクトのエクスポート済みバージョンをプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーから削除できます。まず、その CICS バンドルの特定のバージョンがその他のアプリケーション・バージョン、その他のアプリケーション、そのプラットフォームのいずれによっても使用されていないことを確認します。

アプリケーション・コンテキスト・データを使用したアプリケーションのモニター

CICS タスクが、アプリケーションのエントリー・ポイントの 1 つを介してアプリケーションに入ると、アプリケーション・コンテキストがそのタスクに関連付けられます。CICS モニター機能によって SMF に書き込まれ、プラットフォーム、アプリケーション、およびそのバージョンに関するデータ・フィールドが含まれているパフォーマンス・レコードで、このタスク・アプリケーション・コンテキストを使用できます。このアプリケーション・コンテキストを使用して、チャージバック会計、パフォーマンス・モニター、キャパシティー・プランニング、および問題判別に役立てることができます。

アプリケーション・コンテキストの状態、および現行アプリケーション・コンテキストの表示方法については、[アプリケーション・コンテキストを参照してください](#)。IBM Redbooks: IBM CICS を使用可能にするクラウド には、CICS サンプルの汎用保険アプリケーション (GENAPP) でアプリケーション・コンテキストを使用する例がいくつか示されています。CICS モニター機能について詳しくは、[CICS モニタリングの概要](#)を参照してください。

CICS モニター機能のパフォーマンス・レコードでアプリケーション・コンテキストを使用するには、以下が必要になります。

- 実行中の CICS TS 領域で有効化されたモニター。例えば、SIT パラメーターの **MN=ON** および **MNPERF=ON**、または CEMT SET MON ON PERF を設定するか、CICS Explorer の「モニター状況」フィールドと「パフォーマンス・モニター状況 (Performance Monitoring Status)」フィールドを設定します。
- CICS TS 領域でインストール、使用可能化、および選択可能化された 1 つ以上のアプリケーション。
- CICS モニター機能のパフォーマンス・レコードを処理できるソフトウェア製品 (例えば、[CICS Performance Analyzer](#))。

第 9 章 CMAS コンポーネントのトレース

CMAS コンポーネントのトレースは、IBM サービス担当員が使用するために実施されます。通常、CMAS トレース設定はアクティブではありません。トレースを活動化すると、パフォーマンスが低下する場合があります。

CMAS で行うトレースの量は、「**CMAS の詳細**」(EYUSTARTCMAS.TRACE) ビューを使用して制御します。このビューにアクセスして使用する方法については、[WUI による CMAS と MAS のトレースの制御](#)を参照してください。

第 10 章 MAS コンポーネントのトレース

MAS コンポーネントのトレースは、IBM サービス担当員が使用するために実施されます。通常、CMAS トレース設定はアクティブではありません。トレースを活動化すると、パフォーマンスが低下する場合があります。

MAS で行うトレースは、「**CICSplex 認知の MAS**」(EYUSTARTMAS.TRACE) ビューを使用して制御します。このビューを開くには、以下のようにします。

1. 「**CICSplex SM 操作**」 > 「**CICSplex 認知の MAS**」をクリックして、表形式ビューを開きます。
2. 「**CICS システム名**」列で CICS システムを選択し、「**CICSplex 認知の MAS**」詳細ビューをクリックして開きます。
3. この詳細ビューの下部にある「**トレース詳細 (トレース・フラグの設定を変更するのは、IBM システム・サポート・センターの担当者が要請した場合に限られます)**」をクリックします。

第 11 章 プラットフォーム、アプリケーション、およびポリシーのトラブルシューティング

CICS でのプラットフォーム、アプリケーション、またはポリシーの実装時に検出される可能性のある問題は、配置プロセス中または実行時に発生する可能性があります。

プラットフォーム・エラーの診断

CICS Explorer および CICSplex SM は、プラットフォームの構成および操作に関する診断情報を提供します。解決は、問題が明らかになったのが、プラットフォーム定義の作成時、プラットフォームのインストール時、実行時のいずれであったかによって異なります。

プラットフォームに関する診断情報の検索

プラットフォームのセットアップに関する処理の詳細については、[プラットフォームのセットアップ](#)を参照してください。

プラットフォームを作成またはインストールするときにエラーが発生する場合、インストールは失敗し、その時点までに変更されたすべてのリソースは元の状態に復元されます。エラーは CICS Explorer にレポートされ、それらのエラーをトラブルシューティングの開始点として使用できます。

CICS Explorer は、プラットフォームを作成またはインストールしているときに発生するエラーに対して、エラー・メッセージ CNX0592E を発行します。このメッセージは「エラー・ログ」ビューにも表示され、実行したアクションを説明する CNX06xxE メッセージの後に常に示されます。CNX0592E メッセージを受け取った場合は、メッセージの属性およびエラー情報を確認します。また、「エラー・ログ」ビューを確認して、失敗したコマンドと条件を判別します。

CICSplex SM はメンテナンス・ポイント CMAS に関して CICSplex SM 出力ログ (EYULOG) にエラー・メッセージを発行します。

プラットフォーム定義 (PLATDEF) については [PLATDEF Resource Table](#) で、PLATFORM リソースについては [PLATFORM Resource Table](#) で、プラットフォームのエラー・コードを検索します。

プラットフォームの作成時の問題

プラットフォーム定義 (PLATDEF) を作成しているときに問題が発生した場合、指定した値が有効であることを確認します。

1. プラットフォームの NAME 値が有効であることを確認します。英数字、国別文字、および特殊文字のみが有効です。
2. zFS のプラットフォーム・ディレクトリーに有効な UNIX システム・サービス・パスがあることを確認します。PLATDIR フィールドは CICSplex SM PATH 検証を使用して、プラットフォーム・ディレクトリーを検証します。CICS Explorer で、「参照」をクリックして有効なパスにナビゲートします。

詳しくは、[z/OS UNIX のプラットフォーム・ディレクトリーの構造およびプラットフォーム用の zFS の準備](#)を参照してください。

プラットフォームのインストール時の問題

プラットフォームのインストールが失敗した場合、プラットフォームのインストール中に発生した問題の詳細について、CICSplex SM の出力ログの保守ポイント CMAS を確認します。

1. プラットフォーム記述子 XML に問題がある場合、EYUTI で始まるメッセージが発行されます。例えば、重複する名前を持つ領域タイプまたは CICS 領域が XML ファイルに含まれたり、作成された CICS 領域用のいずれかの定義の中に無効値が存在したりする可能性があります。問題を修正する方法はメッセージの中で説明されます。プラットフォーム・バンドル内の XML ファイルを確認して修正した後、プラットフォーム・バンドルを再びエクスポートし、プラットフォームのインストールを再試行してください。

2. プラットフォーム・バンドルが見つからない場合、zFS セットアップを確認してください。

- このエラーは、プラットフォームが同じシスプレックスの異なるシステム (LPAR) にまたがって存在しているときに、zFS ファイル・システムのプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーがシスプレックス全体で共有されていない場合に、発生する可能性があります。CMAS を実行している同じ zFS への接続を使用して FTP を使用するか、プラットフォーム・ホーム・ディレクトリーのシスプレックス全体にわたる共有をセットアップする必要があります。
- このエラーは、プラットフォーム・バンドルをエクスポートし、プラットフォームをインストールしているシスプレックスとは別のシスプレックスのプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーを作成した場合にも、発生する可能性があります。プラットフォーム・ホーム・ディレクトリーが確実に、プラットフォームをインストールしているシスプレックスに存在するようにします。

詳しくは、[プラットフォーム用の zFS の準備](#)を参照してください。

3. CMAS の CICSplex SM データ・リポジトリがフルになっている可能性があり、その場合にはそのサイズを拡大する必要があります。データ・リポジトリを拡張するには、IDCAMS ユーティリティの REPRO 機能を使用します。この JCL の例は、CICSTS56.CPSM.SEYUSAMP ライブラリーの EYUJXDRP メンバーにあります。その JCL 内の RECORDS(xx,yy) ステートメントで、実際の環境に対して適切な 1 次 (xx) および 2 次 (yy) の値を指定します。初期値は 500 と 3000 です。

プラットフォームのインストールが成功したものの、プラットフォームの使用可能状況が INCOMPLETE または EMPTY として表示される場合、プラットフォームと一緒にインストールする必要のある CICS バンドルに問題があります。各管理パートに指定された個々の CICS バンドルを調べます。

- 管理パートの状況が INVALIDSCOPE である場合、CICS バンドルの定義を確認し、ターゲット CICS システム・グループが正しく指定されているかどうかを確認します。
- 管理パートの状況が EMPTY である場合、CICS バンドルがインストールされているはずの CICS 領域がアクティブであり、CMAS に接続されていることを確認します。CICS 領域が使用可能である場合、CICS バンドルの定義にエラーがないかを確認します。
- 影響を受ける CICS バンドルの領域タイプの CICS 領域に関する CICSMSG ログを確認し、CICS バンドルがインストールされなかった理由に関する詳細情報を示すメッセージ検索します。
- CICS バンドルが見つからない場合、プラットフォーム・バンドルに関する前述の説明に従い、zFS セットアップを確認してください。このエラーは、zFS ファイル・システム内のプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーがシスプレックス全体で共有されていない場合、またはプラットフォームのインストール場所のシスプレックスとは別のシスプレックス上にプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーがある場合にも、発生する可能性があります。

プラットフォームの有効化時の問題

プラットフォームの状況が PARTIAL または INACTIVE である場合、プラットフォーム内のそれぞれの CICS 領域の状況を調べます。状況 PARTIAL または INACTIVE は、プラットフォーム内に、アクティブな CICS 領域を含まない領域タイプが 1 つ以上あることを意味します。「クラウド・エクスプローラー」ビューで、プラットフォームの領域タイプを展開した後、各領域タイプの「領域」リストを展開すると、その CICS 領域のどれがアクティブで、どれが非アクティブかが示されます。非アクティブな CICS 領域をダブルクリックして操作します。

プラットフォームの使用可能状況が DISABLED または SOMEDISABLED である場合、プラットフォームの管理パートを使用可能にしてみてください。プラットフォーム全体を使用可能にするには、「クラウド・エクスプローラー」ビューでプラットフォームを右クリックし、「使用可能」をクリックします。プラットフォームがまだ使用可能にならない場合は、各管理パートで指定されている個々の CICS バンドルを調べます。

管理パートの状況が DISABLED または SOMEDISABLED である場合には、個々の CICS バンドルを、そのインストール場所である各 CICS 領域で使用可能にしてみてください。CICS バンドルを使用可能にするには、「操作」>「バンドル」をクリックして、「バンドル」ビューを開きます。あるいは、「クラウド・エクスプローラー」ビューの管理パートをダブルクリックするか、または管理パートを右クリックして「インストールされたバンドルの表示 (Show Installed Bundles)」を選択します。CICS バンドルを使用可能にする CICS 領域で、バンドルのレコードを選択し、右クリックして「使用可能」をクリックします。CICS バンドルが使用不可のままである場合、その定義を確認し、CICS 領域に存在しないリソースのインポートに依存していないかどうかを確認します。

プラットフォームの変更時の問題

既存の CICS 領域を領域タイプに追加しようとしたり、既存の CICS 領域を領域タイプから削除しようとしたらすると、エラー・メッセージを受け取る場合、CICS 領域がシャットダウンされていることを確認します。「クラウド・エクスプローラー」ビューでの CICS 領域の「停止」アクションでは、領域はシャットダウンされません。この操作は、領域を CICSplex SM から切断するだけです。新規領域タイプに必要なバンドルをインストールするために、CICS 領域をシャットダウンして再始動する必要があります。CICS 領域が既にシャットダウンされていて、引き続きエラー・メッセージを受け取る場合には、[PLATFORM Resource Table](#) でエラー・コードを調べて、アクションが失敗した原因を確認してください。

CICS バンドルをプラットフォームに追加しようとしてエラー・メッセージを受け取る場合、「クラウド・エクスプローラー」ビューでプラットフォームを選択し、追加しようとしている各 CICS バンドルの状況を確認します。バンドルをプラットフォームに追加するとき、またはバンドルをプラットフォームから削除するときにエラーが発生する場合、操作は失敗し、その時点までに変更されたすべてのリソースは元の状態に復元されます。

- 管理パートの状況が INVALIDSCOPE である場合、CICS バンドルの定義を確認し、ターゲット CICS システム・グループが正しく指定されているかどうかを確認します。
- 管理パートの状況が EMPTY である場合、CICS バンドルがインストールされているはずの CICS 領域がアクティブであり、CMAS に接続されていることを確認します。CICS 領域が使用可能である場合、CICS バンドルの定義にエラーがないかを確認します。
- エラー・コードがバンドルの障害または部分インストールに関連する場合、バンドルがインストールされなかった理由について詳しくは、影響を受けるバンドルの領域タイプの CICS 領域の CICSMSG ログを確認してください。
- CICS バンドルが見つからない場合、zFS セットアップを確認します。このエラーは、プラットフォームが同じシスプレックスの異なるシステム (LPAR) にまたがって存在しているときに、zFS ファイル・システムのプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーがシスプレックス全体で共有されていない場合に、発生する可能性があります。CMAS を実行している同じ zFS への接続を使用して FTP を使用するか、プラットフォーム・ホーム・ディレクトリーのシスプレックス全体にわたる共有をセットアップする必要があります。考えられる別の原因としては、プラットフォーム・ホーム・ディレクトリーが、プラットフォームのインストール場所のシスプレックスとは別のシスプレックス上にある場合があります。プラットフォームがインストールされたシスプレックス上に、プラットフォーム・ホーム・ディレクトリーが存在することを確認してください。

アプリケーション・エラーの診断

プラットフォームにデプロイされているアプリケーション・バージョンが予期された状況になっていない場合は、考えられる原因がいくつかあります。

アプリケーションに関する診断情報の検索

アプリケーションのセットアップに関係する処理の詳細については、[アプリケーションのセットアップ](#)を参照してください。

CICS Explorer では、CICS クラウド・パースペクティブの「クラウド・エクスプローラー」ビューを使用して、アプリケーション・バージョンの状況を確認します。[アプリケーションの状態](#)では、アプリケーション・バージョンと、その管理パートの状況の可能な値について説明しています。

アプリケーション・バージョンの状況が FAILED です

CICSplex SM 出力ログ (EYULOG) を調べて、アプリケーション・バージョンのインストール中または破棄中に発生した問題の詳細を確認してください。

CMAS の CICSplex SM データ・リポジトリがフルになっている可能性があり、その場合にはそのサイズを拡大する必要があります。データ・リポジトリを拡張するには、IDCAMS ユーティリティの REPRO 機能を使用します。この JCL の例は、CICSTS56.CPSM.SEYUSAMP ライブラリーの EYUJXDRP メンバーにあります。その JCL 内の RECORDS(xx,yy) ステートメントで、実際の環境に対して適切な 1 次 (xx) および 2 次 (yy) の値を指定します。

アプリケーションのバージョンの状況が DISABLED または SOMEDISABLED です

アプリケーション・バージョン全体を使用可能にしてみてください。「クラウド・エクスプローラー」ビューで、アプリケーション・バージョンを右クリックし、「使用可能」を選択します。CICSplex SM は、すべての CICS 領域で、アプリケーション・バージョンのすべての CICS バンドルを使用可能にするように試行します。アプリケーション・バージョンがまだ使用可能にならない場合、各管理パートで指定されている個々の CICS バンドルを調べます。アプリケーション階層を操作対象にしている「クラウド・エクスプローラー」ビューで、アプリケーションの下に表示されている各領域タイプを展開して、その領域タイプの「バンドル」リストを表示してください。各「バンドル」リストを展開すると、アプリケーションの管理パートが表示されます。

管理パートの状況が DISABLED または SOMEDISABLED です

個々の CICS バンドルを、そのインストール場所である各 CICS 領域で使用可能にしてみてください。管理パートをダブルクリックして、「CICS バンドル (CICS Bundles)」ビューを開きます。このビューはインストール済みの CICS バンドルを表示します。または、管理パートを右クリックして「インストールされたバンドルの表示 (Show Installed Bundles)」をクリックします。「CICS バンドル (CICS Bundles)」ビューで、バンドルを使用可能にする CICS 領域の CICS バンドルのレコードを選択し、右クリックして「使用可能」を選択します。

CICS バンドルが使用不可のままである場合、その定義を確認し、CICS 領域に存在しないリソースのインポートに依存していないかどうかを確認します。

要確認: アプリケーションの専用 LIBRARY リソースの定義を格納する CICS バンドルが使用不可になっている場合、CICS は、アプリケーションの他の専用 LIBRARY 連結からも、一括検索順序での公用 LIBRARY 連結からも、プログラム・モジュール・ロードを試行しません。代わりに、「見つかりません (not found)」という応答がタスクに返されます。このアクションにより、間違ったプログラムがロードされないようにします。また、ワークロード管理で CICS 領域を経由せずに作業をルーティングできるようにします。したがって、アプリケーションのプログラム・ロードを実行するために、LIBRARY リソースの定義を格納するすべての CICS バンドルを使用可能にする必要があります。

アプリケーションのバージョンの状況が INCOMPLETE または EMPTY です

各管理パートに指定された個々の CICS バンドルを調べます。アプリケーション階層を操作対象にしている「クラウド・エクスプローラー」ビューで、アプリケーションの下に表示されている各領域タイプを展開して、その領域タイプの「バンドル」リストを表示してください。各「バンドル」リストを展開すると、アプリケーションの管理パートが表示されます。管理パートをダブルクリックして、「CICS バンドル (CICS Bundles)」ビューを開きます。または、管理パートを右クリックして「インストールされたバンドルの表示 (Show Installed Bundles)」をクリックします。

- 管理パートの状況が INVALIDSCOPE である場合、CICS バンドルの定義を確認し、ターゲット CICS システム・グループが正しく指定されているかどうかを確認します。
- 管理パートの状況が EMPTY である場合、CICS バンドルがインストールされているはずの CICS 領域がアクティブであり、CMAS に接続されていることを確認します。CICS 領域がアクティブであるかどうかを確認するには、「クラウド・エクスプローラー」ビューのプラットフォーム階層に切り替えます。アプリケーションがインストールされたプラットフォームの場合、領域タイプを展開し、さらに各領域タイプの領域リストを展開して、CICS 領域とその状況を表示します。CICS 領域が使用可能である場合、CICS バンドルの定義にエラーがないかを確認します。
- 管理パートの状況が INCOMPLETE の場合、バンドルがインストールされなかった理由について詳しくは、影響を受けるバンドルの領域タイプの CICS 領域の CICSMSG ログを確認してください。CICS バンドルが見つからない場合、zFS セットアップを確認します。このエラーは次の場合に起こることがあります。
 - プラットフォームが同じシスプレックスの異なるシステム (LPAR) にまたがって存在し、かつ、zFS ファイル・システムのプラットフォーム・ホーム・ディレクトリーがシスプレックス全体で共用されていない場合。CMAS を実行している同じ zFS への接続を使用して FTP を使用するか、プラットフォーム・ホーム・ディレクトリーのシスプレックス全体にわたる共有をセットアップする必要があります。
 - プラットフォーム・ホーム・ディレクトリーが、プラットフォームのインストール場所のシスプレックスとは別のシスプレックス上にある場合。プラットフォームがインストールされたシスプレックス上に、プラットフォーム・ホーム・ディレクトリーが存在することを確認してください。

専用リソースに関する問題がある

個々の専用リソースを調べます。Cloud Explorer ビューで、インストールされているアプリケーション・バージョンの名前をダブルクリックしてオンライン・アプリケーション・エディターで開き、「専用リソース」タブを選択します。リソース・タイプの該当するタブを選択し、アプリケーション用にインストールされている専用リソースを表示します。予期される各専用リソースが該当するすべての CICS 領域に存在していることを確認します。また、その専用リソースの状況と詳細に異常がないかどうかを確認してください。

アプリケーションに専用 LIBRARY リソースがある場合、「ライブラリー DS 名」タブを選択し、z/OS でデータ・セットの各 LIBRARY 連結に対して生成された DD 名を表示します。それらのデータ・セットが正しく作成されたことを確認してください。

アプリケーション状況が AVAILABLE に変更されない

「選択可能にする」アクションを実行して呼び出し元でアプリケーション・バージョンを選択できるようにしたが、選択可能性状況が AVAILABLE と表示されない場合、そのアクションが必要であったのかどうかをまず確認します。アプリケーション・バージョンの選択可能性状況がまったく表示されない場合、CICS TS 5.1 に存在する CICS 領域ではそれが正常です。「選択可能にする」アクションはそれらの領域のアプリケーションには適用されず、ENABLED 状況になるとすぐに呼び出し元で選択できるようになります。

アプリケーション・バージョンの選択可能性状況が「入り口点はありません (No entry points)」と表示される場合 (状況 NONE)、アプリケーションにアプリケーション入り口点がないため、「選択可能にする」アクションは必要ありません。アプリケーション・エントリー・ポイントは、マルチバージョン環境でアプリケーション・バージョンへのユーザー・アクセスを制御するために使用されるため、アプリケーションの PROGRAM リソース、TRANSACTION リソース、または URIMAP リソース用のアプリケーション・エントリー・ポイントを宣言する必要があります。

「選択可能にする」アクションを実行して呼び出し元でアプリケーション・バージョンを選択できるようにし、さらにそのアクションは必要であったが、アプリケーション・バージョンの選択可能性状況が長い期間 UNAVAILABLE または SOMEAVAIL のままである場合、アプリケーション・バージョンの個々の管理パートを調査してください。アプリケーション階層を操作対象にしている「クラウド・エクスプローラー」ビューで、アプリケーションの下に表示されている各領域タイプを展開して、その領域タイプの「バンドル」リストを表示してください。各「バンドル」リストを展開すると、アプリケーションの管理パートが表示されます。

- 管理パートの選択可能性状況が「入り口点はありません (No entry points)」(状況 NONE) と表示される場合、CICS バンドルにはアプリケーション入り口点のステートメントが含まれていないため、それを調査する必要はありません。
- 管理パートの選択可能性状況が AVAILABLE と表示される場合、CICS バンドルで宣言されるアプリケーション入り口点を呼び出し元が正常に選択できるようになったため、それを調査する必要はありません。
- 管理パートの選択可能性状況が UNAVAILABLE または SOMEAVAIL と表示される場合、個々の CICS バンドルおよびバンドル・パートの状況を確認します。これらは CICS バンドル用にインストールされているリソースを表します。

以下の状況のいずれかが当てはまるかどうか確認してください。

- アプリケーション入り口点が CICS バンドルで宣言されており、そのオペレーション名がアプリケーション内のいずれかの場所で使用されているオペレーション名と重複している。この状態を回避するには、アプリケーション内でオペレーション名が固有になるようにしてください。オペレーション名は大/小文字が区別されます。そのため、大/小文字のみが異なるオペレーション名を使用することもできます (例えば「browse」と「Browse」など)。
- CICS バンドルでアプリケーション入り口点として宣言されている URIMAP リソースが存在しない、または別のアプリケーションのアプリケーション入り口点として既に予約されている。この状態を回避するには、ご使用の環境で URIMAP リソースを固有の名前で定義してください。
- CICS バンドルでアプリケーション入り口点として宣言されているプログラムは、特定のアプリケーション・バージョンでデプロイされている CICS バンドルの 1 つで定義されている専用プログラムである。しかし、その名前のプログラムは CICS 領域で既に公用プログラムとしてインストールされている。アプリケーション・エントリー・ポイントとして宣言されるプログラムには、使用環境内で固有の PROGRAM リソース名が必要です。この状態を回避するには、そのリソース定義およびアプリケーション入り口点の

宣言で専用プログラムの名前を変更して、その名前が固有になるようにしてください。アプリケーション入り口点として定義されている同じ専用 PROGRAM リソースの複数のバージョンを、同じアプリケーションの複数のバージョンでインストールすることができます。これは、アプリケーションの各バージョンにおける、専用から公用の状況への PROGRAM リソースのプロモーションを CICS が管理しているためです。

- アプリケーション入り口点として宣言されている旧バージョンのアプリケーションは、そのアプリケーション・バージョンでデプロイされている CICS バンドルの 1 つで定義されていないプログラムであり、既に公用プログラムとしてインストールされている。アプリケーション・バージョンを使用可能にしたときに、CICS によってインストール済み公用プログラムがアプリケーション入り口点として予約された。しかし、CICS は、アプリケーションの新しいバージョンのアプリケーション入り口点を自動的に管理することができなくなりました。アプリケーションの前にインストールされていた公用プログラムを専用プログラムにすることはできないからです。アプリケーションを新しいバージョンに更新するには、既存のバージョンを使用不可にして破棄する必要があります。この状態を回避するには、公用プログラムがアプリケーションのインストール・プロセスで自動インストールされるように調整するという方法があります。そうすれば、そのプログラムは専用プログラムにすることができるため、将来のアプリケーション・バージョンも同時にインストールできるようになります。別の方法として、アプリケーション・バージョンと一緒にデプロイされる CICS バンドルの 1 つの中でプログラムを定義し、専用プログラムにするために固有の名前を持つようにするという方法もあります。

アプリケーション・バージョンを使用不可にすることはできません

必要なアプリケーション・バージョンで「**選択不可にする**」アクションが実行済みであることを確認します。CICS TS 5.2 以降の CICS 領域では、アプリケーション・バージョンの選択可能性状況が **AVAILABLE** として表示される場合、「**選択不可にする**」アクションを実行して、アプリケーション・バージョンを呼び出し元が選択できないようにした後に使用不可にする必要があります。CICS TS 5.1 の CICS 領域がプラットフォームに含まれている場合、「**選択不可にする**」アクションはその領域のアプリケーションに適用されません。それらの選択可能性状況は表示されません。アプリケーションにアプリケーション入り口点が存在しない場合、それらのアプリケーションでは「**選択不可にする**」アクションは必要ありません。それらの選択可能性状況は、「入り口点はありません (No entry points)」と表示されます。

必要などころでアプリケーションが選択不可になっており、「**使用不可**」アクションを実行したものの、アプリケーション・バージョンが **DISABLING** 状態のままになっている場合、各管理パートで指定されている個々の CICS バンドルを調査します。

- アプリケーション階層を操作対象にしている「クラウド・エクスプローラー」ビューで、アプリケーションの下に表示されている各領域タイプを展開して、その領域タイプの「バンドル」リストを表示してください。各「バンドル」リストを展開すると、アプリケーションの管理パートが表示されます。まだ使用不可になっていない CICS バンドルを見つけます。まだ使用不可になっていない CICS 領域の CICS バンドルのレコードを選択し、右クリックして「**使用不可**」を選択します。
- CICS バンドルがまだ使用不可になっていない場合、「バンドル・パーツ」ビューにあるそのバンドル・パーツを表示して、CICS バンドル用にインストールされている個々のリソースの状況を識別し、確認します。CICS バンドルで **LIBRARY** リソースまたは **PROGRAM** リソースが定義されていれば、その状況を確認します。LIBRARY リソースに関連付けられている **BUNDLEPART** リソースは、動的プログラム LIBRARY 連結およびそこからロードされるすべてのプログラムの使用回数がゼロになるまで、**DISABLED** の状況を報告しません。PROGRAM リソースの場合、インストール元から CICS バンドルに対して使用不可操作が実行されるときに CICS はプログラムを使用不可にしますが、プログラムの使用回数がゼロに達するまで、関連付けられた **BUNDLEPART** リソースは使用可能のままになります。道理にかなった間隔を空けても使用回数がゼロにならない場合は、バンドル使用不可化プロセスを完了させるために CICS から作業をパージしなければならない場合があります。
- CICS バンドルで **JVMSEVER** リソースまたは **TCIPSERVICE** リソースが定義されていれば、その状況を確認します。デフォルトでは、これらのリソースは、それらを使用している現行タスクがすべて完了してからでないと無効にされません。
 - **JVMSEVER** リソースで **JVM** サーバーを即時に使用不可にし、そこで実行されているタスクをパージする場合、CICS 領域の動的生成リソースで **SET JVMSEVER PURGE**、**FORCEPURGE**、または **KILL** コマンドを使用します。このアクションは、CICS Explorer で実行できます。

- TCPIP SERVICE リソースでサービスを即時に使用不可にし、すべての接続を閉じる場合、CICS 領域の動的生成リソースで SET TCPIP SERVICE IMMCLOSE コマンドを使用します。このアクションは、CICS Explorer で実行できます。

CICS バンドルで「使用不可」アクションをまだ実行していない場合、これらの方法を使ってリソースを使用不可にすることはできません。

- CICS バンドルで FILE リソースが定義されていれば、その状況を確認します。また、メッセージ DFHFC6043 の CICS メッセージ・ログも確認します。CICS は CICS バンドルで定義されているファイルの使用不能化試行時にこのメッセージを発行しますが、ファイルがまだ使用されているか、保持されたロックがファイルにあります。
 - ファイルが DISABLED 状態にあり、CICS がメッセージ DFHFC6043 を発行した場合、リカバリー可能ファイルで、保持されたロックを確認し、解決します。リカバリー不能ファイルの場合、ファイルを使用しているタスクを確認し、タスクをパージするか、時間を与えて完了を待ちます。該当するプロセスが完了した後、CICS バンドルは DISABLED 状態に移行します。
 - ファイルが DISABLING 状態にある場合、以下のいずれかのコマンドを発行し、ファイルを使用しているタスクをパージし、ファイルを使用不可にします。
 - EXEC CICS SET FILE DISABLED FORCE
 - EXEC CICS SET FILE CLOSED FORCE
 - CEMT SET FILE FORCECLOSE

タスクがパージされた後、CICS バンドルは DISABLED 状態に移行します。FORCE オプションを使用してファイルを閉じると、ファイルの現行ユーザーのタスクは、CICS タスク FORCEPURGE メカニズムによって即時に停止します。このメカニズムでは、データ保全本性は保証されません。いくつかの極端なケース (例えば、バックアウト処理中にエラーが発生する場合など) では、CICS が異常終了することもあります。そのため、FORCE オプションを使用してファイルを閉じることは例外的な状況のときだけにしてください。

ポリシーに関するエラーの診断

以下の情報は、ポリシーに影響を与える可能性があるエラーの原因を特定するのに役立ちます。

このタスクについて

IBM CICS Explorer 内のクラウド・パースペクティブ、およびメインフレーム上の CICS ログは、どちらもポリシーに関する問題をデバッグする際に有用です。

ポリシーのしきい値を設定するときは、常に統計データを使用してください。コードの静的分析に依存しないでください。

手順

1. ポリシーのルールが起動しない場合、以下の条件を満たしているか確認します。
 - a) ルールを定義するポリシーが CICS 領域にデプロイされている。ポリシーをデプロイする有効な方法は、BUNDLE 定義を作成してインストールするか、バンドルをプラットフォームまたはアプリケーションにデプロイするか、のいずれかです。ポリシーがプラットフォームまたはアプリケーションにデプロイされている場合、IBM CICS Explorer のクラウド・パースペクティブを使用して、特定のスコープに定義されているすべてのルールを確認できます。
 - b) アプリケーションがインストールされて使用可能になっており、入り口点に関連付けられている。IBM CICS Explorer のクラウド・パースペクティブを使用して、プラットフォーム上にインストールされて使用可能になっているアプリケーションを確認できます。
 - c) アプリケーションに定義されている、すべてのポリシー・スコープのターゲット・オペレーション名。関連付けられているポリシー・スコープのオペレーションがインストールされていない場合、ポリシー内のルールは起動しません。入り口点の定義について詳しくは、[CICS Explorer 製品資料内の『Defining application entry points』](#)を参照してください。
 - d) ポリシーが正しいレベルにデプロイされている。例えば、プラットフォーム上にオペレーションのポリシー・スコープを指定してポリシーをデプロイした場合、ポリシーはアプリケーションのワークロ

ードには適用されません。ポリシーをアプリケーションに適用する場合は、アプリケーション・レベルにデプロイするか、あるいはポリシー・スコープを指定せずにプラットフォーム・レベルにデプロイする必要があります。この場合、ポリシーはすべてのアプリケーションに適用されます。

- e) アプリケーションが、ポリシー・ルール の測定対象になっているリソースを使用し、指定されたしきい値より上のレベルまで使用している。例えば、ルールが、使用されているストレージをモニターしている場合、アプリケーションはしきい値を超える十分なストレージを使用していることを確認します。
 - f) 定義されたルール・アクションが <event> の場合は、以下を確認します。
 - ・ イベント処理が開始されていることを確認します。イベント処理が停止しているためにポリシー・イベントが失われている場合、CICS ログ内の DFHMP3011 メッセージに示されます。
 - ・ アダプターまたはアダプター・セットがインストールされていることを確認します。CICS ログ内のメッセージ DFHMP3004、DFHMP3005、または DFHMP3006 に、欠落している可能性のある成果物が示されます。
 - g) ポリシー・ルール・タイプが CPU 時間の項目で指定される「時間」の場合、しきい値に達した後、タスクが再ディスパッチされたことを確認します。「時間」ポリシー・ルール・タイプに固有の処理について詳しくは、[ポリシー・ルール・タイプ](#)を参照してください。
2. ポリシー・ルールが予期せず起動する場合、以下のことを確認します。
- a) 現実的なポリシーしきい値を設定したことを確認します。しきい値は、モニター・ツール (CICS Performance Analyzer for z/OS など) から収集されたデータに基づいて設定します。適切なしきい値を特定するのに役立つサンプル・フォームについて詳しくは、[ポリシーおよび CICS Performance Analyzer](#)を参照してください。モニター・ツールを使用できない場合は、一部の CICS モニター・データを使用して、ポリシーのしきい値を判別できます。詳しくは、[タスク・ルール のしきい値を判別する CICS モニター・データ](#)を参照してください。
 - b) 「ストレージ」および「ストレージ要求」のポリシー・ルール・タイプの場合、しきい値カウントには、1つのユーザー・タスクによって実行されるすべての GETMAIN 要求 (アプリケーションによって出された明示的な EXEC CICS GETMAIN 要求と、暗黙的な GETMAIN 要求の両方) が含まれ、以下のものが含まれています。
 - ・ 他の **EXEC CICS** コマンド (例えば、**EXEC CICS READ FILE SET**) に応答して発生する要求。
 - ・ Language Environment® によって LE_TWA、LE_RUWA、および RUWAPOL の各ストレージ用に取得されたストレージ。
 - c) 「TD キュー要求」ポリシー・ルール・タイプの場合、多数の製品が **EXEC CICS WRITEQ TD** を使用して各種の一時データ・キューに書き込むため、要求数が予想より多くなる可能性があることに注意してください。「TD キュー要求」ポリシー・ルール・タイプについて詳しくは、[ポリシー・ルール・タイプ](#)を参照してください。
 - d) ポリシーのスコープが正しく設定されていることを確認します。ポリシー・ルールが予想より頻繁に起動していることが分かった場合、ポリシーのスコープが正しく設定されているか確認します。例えば、スコープがアプリケーション・レベルに設定されているポリシーの起動頻度が多すぎる場合は、1つ以上のポリシー・スコープを定義して、ポリシーをアプリケーションの特定のオペレーションに制限することを検討してください。ポリシー・スコープについて詳しくは、[ポリシー・スコープ](#)を参照してください。
 - e) 同一のしきい値とアクションを使用して定義された重複するルールが存在しないか確認します。存在する場合、しきい値を超えたときに複数のメッセージやイベントを受け取る可能性があります。ポリシーがプラットフォームまたはアプリケーションにデプロイされている場合、IBM CICS Explorer の CICS クラウド・パースペクティブを使用すると、特定のスコープに定義されているすべてのルールを確認できます。
3. プラットフォームまたはアプリケーションにデプロイされたポリシーがある場合、IBM CICS Explorer の CICS クラウド・パースペクティブで検索機能を使用して、特定のスコープに定義されているルールを検索できます。時には、ポリシーの検索で予想した結果が得られないことがあります。ポリシーの検索で予想した結果が得られない理由には、以下のものがあります。
- ・ 実行時に、複数のスコープのルールが適用されている可能性がある。ポリシー・ルールに対する照会からの出力が、複数のスコープが適用されるかどうかを示します。詳しくは、[ポリシー・スコープ](#)を参照してください。

- 重複するポリシーを使用している可能性がある。例えば、同じスコープにデプロイされた異なるバンドルで、同じポリシー名、ルール名、およびしきい値が使用されている可能性があります。
 - 予想されたルールがまったくデプロイされていないか、検索基準に含まれていない異なるスコープにデプロイされている。
4. ポリシー処理によってタスクが異常終了した後、共用ストレージのリークが発生することがあります。リークは、プログラムが異常終了したときに共用ストレージを解放しないことが原因が発生します。

注: 異常終了ポリシー・アクションが含まれたポリシーをデプロイする前に、ポリシーの結果として異常終了する可能性のあるタスクは、異常終了が発生した場合に、それらのタスクが割り振った共用ストレージをすべて確実に解放するようにしてください。リークは異常終了の結果であり、特にポリシー処理が原因ではありません。例えば、ランナウェイなど、他の理由でタスクが異常終了した場合も、同じリークが発生します。共用リソース (共用ストレージなど) を割り振るプログラムは、異常終了が発生した場合にこれらのリソースを確実に解放する必要があります。そうしないと、リソースのリークが発生します。

次のタスク

問題の原因を確定できない場合は、IBM サポートにお問い合わせください。[IBM サポートのための CICS トラブルシューティング・データ \(CICS MustGather\) の収集](#)のポリシー・セクションにリストされており、必要な情報を確実に提供してください。

付録 A CICSplex SM 操作ビュー

「CICSplex SM 操作」ビューでは、CICSplex SM を構成および保守することができます。

システム・グループ - CSYSGRP

「**CICSplex SM トポロジー定義**」(CSYSGRP) ビューには、CICS システム・グループに関する説明が表示されます。CICSplex のスコープの設定で使用されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「トポロジー管理ビュー」 > 「システム・グループ」

表 12. 提供された「システム・グループ定義」(CSYSGRP) ビュー・セットのビュー

ビュー	注
システム・グループ定義 EYUSTARTCSYSGRP.ADDTOGRP	1つ以上のシステム・グループ定義を CICS システム・グループに追加します。関連したプラットフォーム定義名の属性に値が含まれている場合は、CICS システム・グループ定義をグループに追加することはできません。
システム・グループ定義 EYUSTARTCSYSGRP.CREATE	システム・グループ定義を作成または更新してそれをデータ・リポジトリに追加します。
システム・グループ定義 EYUSTARTCSYSGRP.DETAILED	選択したシステム・グループ定義に関する詳細情報
システム・グループ定義 EYUSTARTCSYSGRP.REMOVE	データ・リポジトリからシステム・グループ定義を除去します。関連したプラットフォーム定義名または領域タイプ名の属性に値が含まれている場合は、CICS システム・グループ定義の削除はできません。
システム・グループ定義 EYUSTARTCSYSGRP.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべてのシステム・グループ定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 13. CSYSGRP ビューで使用可能なアクション

アクション	説明
ADDTGRP	1つ以上のシステム・グループ定義を CICS システム・グループに追加します。関連したプラットフォーム定義名の属性に値が含まれている場合は、CICS システム・グループ定義をグループに追加することはできません。
CREATE	システム・グループ定義を作成または更新してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリからシステム・グループ定義を除去します。関連したプラットフォーム定義名または領域タイプ名の属性に値が含まれている場合は、CICS システム・グループ定義の削除はできません。
UPDATE	データ・リポジトリ内の CICS システム・グループ定義の記述を更新します。関連したプラットフォーム定義名または領域タイプ名の属性に値が含まれている場合は、CICS システム・グループ定義のアップデートはできません。

フィールド

表 14. CSYSGRP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
定義が変更された最終時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
定義元	CREATEORIGIN	定義の作成元を指定します。値は次のとおりです。 • N_A - 定義は、ユーザーまたは API プログラムによって作成されました。 • PLATFORM - 定義は、プラットフォームのインストール中に作成されました。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	1 文字から 58 文字までのシステム・グループの説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
システム・グループ名	GROUP	システム・グループの名前。
関連したプラットフォーム定義	PLATDEF	システム・グループが関連付けられたプラットフォーム定義の名前。
領域タイプ	REGIONTYPE	このシステム・グループが定義する領域タイプの名前。

CICS システム定義 - CSYSDEF

「**CICS システム定義**」(CSYSDEF) ビューには、CICSplex の一部として管理下に置かれる CICS システムについて記述した CPSM トポロジー定義が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS システム・リンクおよび関連リソース (CICS system links and related resources)**」 > 「**CICS システム定義 (CICS system definitions)**」の順にクリックします。

表 15. 提供された「 CICS システム定義 (CICS system definitions) 」(CSYSDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CICS システム定義 EYUSTARTCSYSDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の CICS システム定義を CICS システム・グループに追加します。
CICS システム定義 EYUSTARTCSYSDEF.CREATE	CICS システム定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CICS システム定義 EYUSTARTCSYSDEF.DETAILED	選択した CICS システム定義に関する詳細情報
CICS システム定義 EYUSTARTCSYSDEF.REMOVE	データ・リポジトリから CICS システム定義を除去します。 • 注: CICS システム定義名が BAS 定義内の SCOPE として指定される場合、REMOVE は失敗して、レコードが使用中であると表示されます。

表 15. 提供された「CICS システム定義 (CICS system definitions)」 (CSYSDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべての CICS システム 定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 16. CSYSDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の CICS システム 定義を CICS システム・グループに追加します。
CREATE	CICS システム 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリから CICS システム 定義を除去します。 <ul style="list-style-type: none"> 注: CICS システム 定義名が BAS 定義内の SCOPE として指定される場合、REMOVE は失敗して、レコードが使用中であると表示されます。
UPDATE	データ・リポジトリ内の CICS システム 定義を更新します。

フィールド

表 17. CSYSDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
期間定義名	ACTVTIME	この CICS システムの実行時間を識別する期間定義の名前。
BAS インストール失敗時のアクション	AINSFAIL	BAS インストールに失敗した場合に行うアクションを示します。オプションは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> CONTINUE <ul style="list-style-type: none"> 他のリソースのインストールを続けます。 NORMAL <ul style="list-style-type: none"> CICS システムを正常にシャットダウンします。 PROMPT <ul style="list-style-type: none"> アクションを求めるプロンプトをオペレーター・コンソールに出します。CICS システムでのリソース・インストール・プロセスは、オペレーターが応答するまで中断されますが、他のすべての MAS 処理は続行されます。 TERMINATE <ul style="list-style-type: none"> リソースのインストール・プロセスを終了します。これ以上リソースはインストールされません。正常にインストールされたリソースはどれも除去されません。 IMMEDIATE <ul style="list-style-type: none"> CICS システムを直ちにシャットダウンします。 アプリケーション用またはプラットフォーム用に CICS バンドルによって生成されたリソースがインストールに失敗した場合、このアクションは実行されません。
アプリケーション ID	APPLID	CICS システムのアプリケーション ID は、相互通信ネットワーク内での認識に使われる名前、すなわちネット名です。

表 17. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
BAS リソース・インストール・オプション	AUTOINST	<p>リソース記述によりシステムに関連付けられたリソースを、MAS から CMAS への接続時に自動的にインストールするかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ALWAYS - CICS の始動後に、MAS が接続するたびにリソースをインストールします。 • COLDONLY - CICS INITIAL または COLD スタート後に MAS が接続する際に限り、リソースをインストールします。 • NEVER - この CICS システムにリソースを自動的にインストールすることはありません。 • WARMONLY - CICS ウォーム・スタートまたは緊急時再始動 (AUTO) 後に MAS が接続する際に限り、リソースをインストールします。 <p>このオプションは、アプリケーションまたはプラットフォーム用に CICS バンドルによって生成されたリソースには適用されません。</p>
RS サーバーの最下位層	BOTRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、最下位層のタスク・ロード範囲 (ゼロからこの値まで) を定義するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 • 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。0 からこの値までのタスク数の値が、タスク・ロード最下位層として認識されます。領域のタスク・ロードがこの範囲に入る場合は、ロードの変更ごとにカップリング・ファシリティにブロードキャストされます。ロードがこの値に達すると、RS サーバー更新頻度のタスク規則が活動化されます。 <p>デフォルト値は 1% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。この値に対する変更は、次回領域を開始するときに適用されます。</p>
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。 • DREPBATCH - CICSplex SM ユーティリティにより変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
CICS 領域モニターのサンプリング間隔	CICSSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
接続モニターのサンプリング間隔	CONNSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
CSYSDEF コンテキスト	CONTEXT	これは、照会のための CICSplex コンテキストを識別する出力専用フィールドです。UPDATERS 属性および READRS 属性のハイパーリンクを有効にする必要があります。
定義元	CREATEORIGIN	<p>定義の作成元を指定します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • N_A - 定義は、ユーザーまたは API プログラムによって作成されました。 • PLATFORM - 定義は、プラットフォームのインストール中に作成されました。

表 17. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
夏時間調整が有効	DAYLGHTSV	<p>夏時間調整を現在設定しているかどうかを示します。 以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - 夏時間調整時刻を設定する。 • NO - 夏時間調整時刻を設定しない。 • INHERIT - アクティブ時にこの CICS システムの接続先となる CMAS に割り当てられた値を継承します。 この CICS システムが非アクティブの場合、この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS から、値が継承されます。 INHERIT は時間帯 (TMEZONE) および時間帯オフセット (TMEZONEO) も INHERIT の場合のみ、指定できます。
DB2/DBCTL モニターのサンプリング間隔	DBXSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
説明	DESC	CICS システム 定義の説明 (1 から 58 文字まで)。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
始動時にアクティブなターゲット領域	DYNROUTE	<p>CICS の始動時に、この CICS システムがターゲット領域としてアクティブになり、ワークロードのターゲットとして作業を受け入れるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - CICS システムはアクティブ・ターゲットとなり、CICS 始動時にこれをターゲットとするワークロードの作業を受け入れます。 • NO - CICS システムはターゲット領域ではありません。つまり CICS システムが静止して、CICS 始動時にこれをターゲットとするワークロードの作業を受け入れなくなります。 <p>「アクティブなワークロードでのターゲット領域」 (EYUSTARTWLMWAOR) ビューを使用して、ワークロードのターゲット領域をアクティブ化または静止することができます。</p> <p>通常、ターゲット領域ではこのオプションが YES に設定されます。ルーティング領域がワークロード内のターゲット領域としても機能する場合、その領域では、このオプションが YES に設定されている場合があります。</p>
ファイル・モニターのサンプリング間隔	FILESAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
グローバル領域モニターのサンプリング間隔	GLBLSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
ホスト名	HOST	システムの 10 進 IPv4 アドレス (例えば 9.20.181.3)、またはそのコロン 16 進 IPv6 アドレス (例えば ABCD:EF01::2345:6789) に関する 116 文字から成るホスト名。 IPv4 互換 IPv6 アドレス (非推奨) または IPv4 にマップされる IPv6 アドレス (例えば ::FFFF:1.2.3.4) として IPv4 アドレスが入力される場合、標準の IPv4 小数点付き 10 進数アドレスに変換されます。 CICS Transaction Server for z/OS バージョン 3 リリース 2 およびそれ以前のリリースでは IPv6 アドレスを使用しないでください。 これは IPIC SYSLINK 接続に使用されます。
ジャーナル・モニターのサンプリング間隔	JRNLSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。

表 17. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
モニター状況	MONSTATUS	<p>この CICS システムの開始時にリソース・モニターがアクティブとなるかどうかを示します。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - リソース・モニターがアクティブになります。これを有効にするには、CICS システムをモニター仕様に関連付ける必要があります。 • NO - リソース・モニターはアクティブにはなりません。 • INHERIT - この CICS システムに関連するモニター仕様で指定された値を継承します。
保守ポイント CMAS ID	MPCMASID	これは、CICSplex の保守ポイント CMAS を識別する出力専用フィールドです。UPDATERS 属性および READRS 属性のハイパーリンクを有効にする必要があります。
CICS 最大タスク到達イベントに対するアクション	MXTACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。
CICS 最大タスク数到達イベントの重大度	MXTSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注:</p> <p>ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
CICS システム定義名	NAME	コンテキストで識別される CICSplex に関連付けられる CICS システムの名前 (1 から 8 文字まで)。
ネットワーク ID	NETWORKID	システムのネットワーク ID。NETWORKID は、APPLID オプションと組み合わせて使用され、IPIC を介して接続中のシステムで固有の名前が使われるようにします。これは IPIC SYSLINK 接続に使用されます。
無応答 MAS イベントに対するアクション	NRMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。
無応答 MAS イベントの重大度	NRMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません。 • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注:</p> <p>ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
ポート番号	PORT	IPIC SYSLINK がインバウンド要求を受け取る TCPIPService ポート番号をオーバーライドするために使用する値です。有効な値は 1 から 65535 までの範囲の 10 進数です。

表 17. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
1 次 CMAS 名	PRICMAS	この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS の名前。CICS システムが単一の CMAS によって管理されている CICSplex の一部である場合、その CMAS の名前を指定します。複数の CMAS が CICSplex の管理に関与するとき、CICS システムが通常接続する CMAS を示します。CMAS を指名しても、1 次 CMAS が使用できないときなどに CICS システムが別の CMAS に接続することは妨げられません。
プログラム・モニターのサンプル リング間隔	PROGSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
RS サーバー 読み取り間隔	READRS	<p>最適化モードで実行されているワークロードにおいて、この値は、ルーティング領域が CICS CFDT サーバーにターゲット領域の状況のリフレッシュを要求する最小間隔を指定します。この値は、この CICS システム定義の親である CICSplex 定義で指定されているデフォルトの間隔の値を指定変更するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 0 から 2000 または INHERIT で、ミリ秒の単位を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これは、この属性のデフォルト設定です。 値 0 は、ターゲット領域の状況を調べるたびに、ターゲット領域の状況更新をルーティング領域が要求することを意味します。 1 から 2000 までの値は、ターゲット領域の状況データをリフレッシュできるようになるまでに経過する必要がある最小時間間隔 (ミリ秒) を指定します。 <p>小さい値は、大きい値の場合よりも頻繁に RS サーバーのターゲットの状況がルーターによって更新されることを意味します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果カップリング・ファシリティーの使用率が増加することがあります。</p> <p>値 1000 は 1 秒の間隔を表します。デフォルト値は 200 ミリ秒です。</p> <p>ここで指定される値は、次回この CICS 領域を開始するときに適用されます。この CICS 領域の実行中のインスタンスに変更を適用する必要がある場合は、MAS ビューを使うことで作動中の変更が可能です。</p>
モニター停止後のデータ保管 時間 (分)	RETENTION	<p>収集されたデータがリソース・モニターの停止後に保持される分数。(リソース・モニターが停止するのは、CICS システムの停止時か、MAS ビュー・コマンドを使用して CICS システムのリソース・モニターを停止する場合です。) 可能な保存期間は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 - 1440 <ul style="list-style-type: none"> 収集されたデータは、指定された分数だけ保持されます。 0 <ul style="list-style-type: none"> 収集されたデータは保持されません。 INHERIT <ul style="list-style-type: none"> CICS システムは、関連するモニター仕様で指定された値を使用ようになります。

表 17. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リアルタイム 分析状況	RTASTATUS	<p>この CICS システムの開始時にリアルタイム 分析のシステム 使用可能性モニター (SAM) および MAS リソース・モニター (MRM) コンポーネントがアクティブになるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - システム 使用可能性モニターおよび MAS リソース・モニターはアクティブです。 • NO - アクティブな RTA モニターはありません。MAS の初期化が行われたばかりか、または分析がオンになるよう更新された場合は、RTA が完全に初期化されるまで NO が表示されます。 • SAM - システム 使用可能性モニターがアクティブです。 • MRM - MAS リソース・モニターがアクティブです。 • N/A - MAS はその CMAS に接続されていません (「MAS の状況」フィールドに INACTIVE と表示されます)。
システム 使用可能性モニター・イベントに対するアクション	SAMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。
システム 使用可能性モニター・イベントの重大度	SAMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
システム・ダンプ・イベントに対するアクション	SDMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。
システム・ダンプ・イベントの重大度	SDMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>

表 17. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
シミュレート・セキュリティ検査の免除	SECBYPASS	<p>この CICS システムに対して CICSplex SM 免除セキュリティがアクティブであるかどうかを示します。免除セキュリティにより、シミュレートされた CICS セキュリティ検査を迂回することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムで免除セキュリティがアクティブです。 • NO - この CICS システムでは免除セキュリティはアクティブではありません。 • INHERIT - この CICS システムに関連する CICSplex に割り当てられた「セキュリティ検査免除」値を継承します。
CICS コマンド・セキュリティ検査のシミュレート状況	SECCMDCHK	<p>CICSplex SM セキュリティ検査がこの CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートするかどうかを示します。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートします。 • NO - この CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートしません。 • INHERIT - この CICS システムに関連付けられた CICSplex に割り当てられた値を継承します。
CICS リソース・セキュリティ検査のシミュレート状況	SECRESCHK	<p>CICSplex SM セキュリティ検査がこの CICS システムに関する CICS リソース検査をシミュレートするかどうかを示します。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムに関する CICS リソース検査をシミュレートします。 • NO - この CICS システムに関する CICS リソース検査をシミュレートしません。 • INHERIT - この CICS システムに関連付けられた CICSplex に割り当てられた値を継承します。
ストレージ不足 (SOS) イベントに対するアクション	SOSACTION	<p>指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。</p>
ストレージ不足 (SOS) イベントの重大度	SOSSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
CICS 停止イベントに対するアクション	STLACTION	<p>指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。</p>

表 17. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
CICS 停止イベントの重大度	STLSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
システム ID	SYSID	CICS システムの 4 文字のシステム ID。 指定された値は CICS SYSIDNT SIT オペランドまたは指定変更と一致している必要があります。
トランザクション・ダンプ・イベントに対するアクション	TDMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。 分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。
トランザクション・ダンプ・イベントの重大度	TDMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
TDQ モニターのサンプリング間隔	TDQSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。 値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
端末モニターのサンプリング間隔	TERMSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。 値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
時間帯	TMEZONE	<p>この CICS システムが置かれている時間帯。 以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • B から Z の範囲の時間帯コード文字。 時間帯コードの詳細については、「CICSplex SM Administration」資料の『時間帯コード』表を参照してください。 • INHERIT - アクティブ時にこの CICS システムの接続先となる CMAS に割り当てられた時間帯を継承します。 この CICS システムが非アクティブの場合、時間帯は、この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS から継承されます。 INHERIT を指定できるのは、時間帯オフセット (TMEZONEO) が INHERIT で、しかも夏時間調整 (DAYLIGHTSV) が INHERIT である場合だけです。

表 17. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
時間帯オフセット	TMEZONEO	<p>計算対象の時刻に適用される調整値。この値は、標準時間帯を使用しない地域において時間参照を解決するために使用されます。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 から 59 までの間の値 - この時間帯の場合 (標準的な時間帯を使用しない地域の場合) に時刻に追加する分数を示します。 INHERIT - アクティブ時にこの CICS システムの接続先となる CMAS に割り当てられた時間帯オフセットを継承します。この CICS システムが非アクティブの場合、時間帯オフセットは、この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS から継承されます。INHERIT を指定できるのは、時間帯 (TMEZONE) が INHERIT で、しかも夏時間調整 (DAYLIGHTSV) が INHERIT である場合だけです。
RS サーバーの最上位層	TOPRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、領域の MAXTASK 値から減算されて、最上位層のタスク・ロード範囲を決定します。この値は、この CICS システム定義の親である CICSplex 定義で指定されているデフォルト値を指定変更するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。結果として得られたタスク数値は領域の MAXTASKS 設定値から減算されて、タスク・ロードの最上位層を設定します。領域内のタスク・ロードが MAXTASKS 制限に達した場合は、タスク・ロードがこの値を下回るまで、領域の MAXTASKS 状態はオフに切り替わらず、カップリング・ファシリティーにもブロードキャストされません。 <p>デフォルト値は 5% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティーのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。この値に対する変更は、次回領域を開始するときに適用されます。</p>
トランザクション・モニターのサンプリング間隔	TRANSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。</p>

表 17. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバー更新頻度	UPDATERS	<p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、ターゲット CICS 領域内のタスク・ロード値を変更するために CICS CFDT (RS) サーバーを呼び出す頻度を指定します。この値は、この CICS システム定義の親である CICSplex 定義で指定されているデフォルトの頻度の値を指定変更するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 0 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 値が 0 の場合、タスク・ロード数が増えられても RS サーバーに通知されないため、この CICSplex の範囲内の領域に対して最適化されたワークロード機能が無効になります。 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。その結果生じたタスク数の値は、RS サーバーへの更新呼び出しを行うための数値しきい値として使用されます。 <p>例えば MAXTASKS 設定が 120 でこの属性が 20 に設定されている場合、領域タスク・カウントが以下のように変わるときに、WLM ロード・カウントを更新するよう RS サーバーが呼び出されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> タスク 23 と 24 (20%) 47 タスクから 48 タスクに - (40%)、 71 タスクから 72 タスクに - (60%) 95 タスクから 96 タスクに - (80%)、 119 タスクから 120 タスクに - (100%) <p>RS サーバーは、領域のタスク・ロードがこれらの境界をまたいで増加または減少したときに更新されます。</p> <p>1 から 25 スケールのうちの小さい値が指定されると、タスク・ロード範囲全体を通して RS サーバーを更新する頻度が増します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果カップリング・ファシリティの使用率が増加することがあります。</p> <p>ここで指定される値は、次回この CICS 領域を開始するときに適用されます。この CICS 領域の実行中のインスタンスに変更を適用する必要がある場合は、MAS ビューを使うことで作動中の変更が可能です。</p>
WLM 最適化の使用可能化	WLMOPTEN	<p>この属性は、最適化された動的ルーティング機能の使用可能化を制御します。</p> <p>ENABLED に設定すると、CICSplex SM ワークロード管理エージェントの始動時に、領域が CICS 領域状況サーバーへの接続を試行します。その接続が成功すると、領域は、最適化されたワークロード・ルーティング要求の参加に適格となります。</p> <p>この属性を DISABLED に設定すると、始動時に領域が領域状況サーバーに接続されず、最適化された動的ワークロードのルーティング要求は抑止されます。</p> <p>この定義の設定値は、実行時に MAS ビューでオーバーライドされる場合があります。</p>
タスク・ロード・キュー・モード	WLMQMODE	<p>この属性は CICSplex SM ワークロード・マネージャーが使用します。この値によって、ターゲット CICS 領域のキューに入れられたタスク・ロードの評価方法を次のように指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> MAXTASK - アクティブ・タスクおよび MAXTASK のキューに入れられたタスクの両方が、領域のタスク・ロード評価に含まれること指定します。 ALL - アクティブ・タスク、MAXTASK 限界のキューに入ったタスク、および TRANCLASS 限界のためにキューに入ったタスクを領域のタスク・ロード評価に含めることを指定します。 <p>デフォルト値は ALL です。この値に対する変更は、次回領域を開始するときに適用されます。</p>

表 17. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
始動時にアクティブなルーティング領域	WLMSTATUS	<p>CICS システムの始動時に、この CICS システムが、その関連付けられたワークロードにルーティング領域として参加するかどうかを示します。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - CICS 始動時に CICS システムはルーティング領域として関連するワークロードに参加します。 • NO - CICS 始動時に CICS システムはルーティング領域として動作することを試みません。 <p>関連するワークロードを識別するには、「WLM 仕様と CICS システムとの間のリンク」(EYUSTARTLNKSWSCS) ビュー、「WLM 仕様と CICS システム・グループとの間のリンク」(EYUSTARTLNKSWSCG) ビュー、またはワークロード管理マップ機能を使用します。CICS システムがワークロードに関連付けられていない場合は、ルーティング領域としてアクティブ化されません。</p> <p>通常、ルーティング領域ではこのオプションが YES に設定されます。ターゲット領域が CICS 分散ルーティング・モデル (DSRTPGM) を使って要求を受け取る場合には、ターゲット領域でもこのオプションを YES に設定する必要があります。</p>
タスク・ロード・ヘルスしきい値	WLMTHRSH	<p>この属性は CICSplex SM ワークロード・マネージャーが使用します。現在の領域タスク・ロードの比率しきい値を指定します。これは現在のタスク数を最大タスク数で割ることで算出されます。ターゲット領域のロードがこのしきい値に達すると、WLM はその領域の正常性がやや損なわれたと見なします。これによって、この領域の評価時に、より高いリンク重みが WLM ルーティング・アルゴリズムに適用されます。ターゲット・スコープに、ルーターに対するローカル領域およびリモート領域が含まれる場合、WLM はリモート領域よりもローカル領域を優先します。この属性を適用すると、ローカル領域でこのロードしきい値に達したときに、WLM はローカルではなくリモートのターゲットを優先するようになります。スコープ内のすべてのターゲットがこのロードしきい値に達すると、WLM は再びローカルのターゲットを優先するようになります。</p> <p>値の範囲は 1 から 100 で、デフォルト値は 60 です。ここで指定される値は、次回この CICS 領域を開始するときに適用されます。</p> <p>注: この値は、リンク中立な動的ルーティング要求のルーティング要因に適用されると、ヌルになります。LNQUEUE アルゴリズムと LNGOAL アルゴリズムでは、リンク・ウェイト自体が無視されるからです。</p>

CICSplex 認知の MAS - MAS

「**CICSplex 認知の MAS**」(MAS) ビューは、CICSplex で認知されている MAS に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**CICSplex SM 操作ビュー**」 > 「**CICSplex 認知の MAS**」

表 18. 提供された「 CICSplex に既知の MAS 」(MAS) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CICSplex 認知の MAS EYUSTARTMAS.CPSMDUMP	MAS、管理 CMAS、ESSS (Environmental Services Subsystem) アドレス・スペース、および選択されたコンポーネントのデータ・スペースを含む CICSplex SM 診断ダンプを取ります。
CICSplex 認知の MAS EYUSTARTMAS.DETAIL1	選択した MAS に関するリアルタイム分析詳細情報
CICSplex 認知の MAS EYUSTARTMAS.DETAIL2	選択した MAS に関するモニター詳細情報

表 18. 提供された「CICSplex に既知の MAS」 (MAS) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
CICSplex 認知の MAS EYUSTARTMAS.DETAILED	選択した MAS に関する詳細一般情報
CICSplex 認知の MAS EYUSTARTMAS.FORCEDISCON	MAS の ESSS 接続を強制終了します。注: アクティブ・システムに対して ForceDiscon が出された場合、異常終了が発生する可能性があります。ForceDiscon は、CICS システムとしてシステムが強制終了されたが、ESSS への接続が続いている場合にのみ使用します。ForceDiscon は、その前に StopUncon が出され、ESSS からシステムが強制終了されなかった場合にのみ使用します。
CICSplex 認知の MAS EYUSTARTMAS.SET	選択された MAS の属性を変更します。
CICSplex 認知の MAS EYUSTARTMAS.STOP	CICS システム内の MAS エージェント・コードを停止します。注: MAS がワークロード管理用のルーティング領域として機能し、DTR プログラムが EYU9XLOP である場合、MAS エージェント・コードを停止することはできません。
CICSplex 認知の MAS EYUSTARTMAS.STOPUNCON	CICS システム内の MAS エージェント・コードを停止します。注: MAS がワークロード管理用のルーティング領域として機能し、DTR プログラムが EYU9XLOP である場合、StopUncon が MAS エージェント・コードを停止します。それより後にルートが試行された場合、MAS 内で EYUO 異常終了が発生します。
CICSplex 認知の MAS EYUSTARTMAS.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex に関連したすべての MAS に関する表形式の情報

アクション

表 19. MAS ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CPSMDUMP	MAS、管理 CMAS、ESSS (Environmental Services Subsystem) アドレス・スペース、および選択されたコンポーネントのデータ・スペースを含む CICSplex SM 診断ダンプを取ります。
FORCEDISCON	MAS の ESSS 接続を強制終了します。注: アクティブ・システムに対して ForceDiscon が出された場合、異常終了が発生する可能性があります。ForceDiscon は、CICS システムとしてシステムが強制終了されたが、ESSS への接続が続いている場合にのみ使用します。ForceDiscon は、その前に StopUncon が出され、ESSS からシステムが強制終了されなかった場合にのみ使用します。
SET	選択された MAS の属性を変更します。
STOP	CICS システム内の MAS エージェント・コードを停止します。注: MAS がワークロード管理用のルーティング領域として機能し、DTR プログラムが EYU9XLOP である場合、MAS エージェント・コードを停止することはできません。
STOPUNCON	CICS システム内の MAS エージェント・コードを停止します。注: MAS がワークロード管理用のルーティング領域として機能し、DTR プログラムが EYU9XLOP である場合、StopUncon が MAS エージェント・コードを停止します。それより後にルートが試行された場合、MAS 内で EYUO 異常終了が発生します。

フィールド

表 20. MAS ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
期間定義名	ACTVTIME	この CICS システムの実行時間を識別する期間定義の名前。
自動インストールの失敗アクション	AINSFAIL	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義アクションを派生させるには、 inherit を指定します。

表 20. MAS ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
自動インストール要求タイプ	AUTOINST	<p>リソース記述によりシステムに関連付けられたリソースを、MAS から CMAS への接続時に自動的にインストールするかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ALWAYS - CICS の始動後に、MAS が接続するたびにリソースをインストールします。 • COLDONLY - CICS INITIAL または COLD スタート後に MAS が接続する際に限り、リソースをインストールします。 • NEVER - この CICS システムにリソースを自動的にインストールすることはありません。 • WARMONLY - CICS ウォーム・スタートまたは緊急時再始動 (AUTO) 後に MAS が接続する際に限り、リソースをインストールします。
ビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) のトレース・フラグ	BASTRACE	<p>ビジネス・アプリケーション・サービスのトレース・フラグの設定。</p> <p>トレース・フラグの設定を変更するのは、IBM システム・サポート・センターの担当者が要請した場合に限られます。</p>
RS サーバーの最下位層	BOTRSUPD	<p>この属性は CICSplex SM シスプレックスの最適化されたワークロードに適用されます。MAS が以前のリリースのものであるために sysplex 最適化ワークロードがサポートされない場合、この値には 0 が入ります。この値を他の値に変更することはできません。</p> <p>最適化されたワークロードをサポートする MAS のリリースであれば、次のヘルプ説明が適用されます。</p> <p>シスプレックスの最適化ワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから 実際のタスク数に変換されます。その数は、最下位層のタスク・ロード範囲 (ゼロからこの値まで) を定義するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 • 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。0 からこの値までのタスク数の値が、タスク・ロード最下位層として認識されます。領域のタスク・ロードがこの範囲に入る場合は、ロードの変更ごとにカップリング・ファシリティーにブロードキャストされます。ロードがこの値に達すると、RS サーバー更新頻度のタスク規則が活性化されます。 <p>デフォルト値は 1% です。この値をここで変更して、現行の CICS 領域に割り当てられた値を動的に変更することができます。変更をこの CICS 領域の再始動後に適用する場合、「CICS システム定義」パネルでもこの値を変更する必要があります。</p> <p>この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティーのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。</p>
キャッシュ・サービスのトレース・フラグ	CHETRACE	<p>キャッシュ・サービスのトレース・フラグの設定。</p> <p>トレース・フラグの設定を変更するのは、IBM システム・サポート・センターの担当者が要請した場合に限られます。</p>
CICS システム名	CICSNAME	<p>現在 CICSplex SM に認識されている CICS システムの名前。CICS システムが自分を CICSplex SM に認識させると、それは MAS と見なされます。</p>
CICS 領域モニターのサンプリング間隔	CICSSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。</p>

表 20. MAS ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
MAS の状況	CICSSTATE	<p>ACTIVE または INACTIVE の MAS の状況。CICSplex SM が管理できるのは、アクティブな MAS のみです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ACTIVE <ul style="list-style-type: none"> – CICS システムはアクティブで、CICSplex SM に接続されています。 • INACTIVE <ul style="list-style-type: none"> – CICS システムが非アクティブか、CICSplex SM に接続されていないか、あるいは MAS を管理する CMAS への通信がアクティブではありません。 <p>MAS は次の 2 つの理由のいずれかにより、非アクティブである可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 停止アクションを使用して、MAS エージェントを停止した。 • CICS システム自体が非アクティブだが、依然として認識されている。 <p>その他の有効なオプションには LOSTCONN、LOSTCMAS、および LOSTMAS があります。 注:</p> <p>このフィールドがブランクの場合は、MAS は一時的に非アクティブ状態とアクティブ状態の間にあります。</p>
CMAS 名	CMASNAME	指定された MAS の管理に参加している CMAS の名前。
コミュニケーションのトレース・フラグ	COMTRACE	<p>通信トレース・フラグの設定。</p> <p>トレース・フラグの設定を変更するのは、IBM システム・サポート・センターの担当者が要請した場合に限られます。</p>
接続モニターのサンプリング間隔	CONNSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。
MAS の CPSM バージョン	CPSMVER	現行 MAS の CICSplex SM バージョン。
データ・リポジトリ・サービスのトレース・フラグ	DATTRACE	<p>データ・リポジトリ・サービスのトレース・フラグの設定。</p> <p>トレース・フラグの設定を変更するのは、IBM システム・サポート・センターの担当者が要請した場合に限られます。</p>
夏時間調整が有効	DAYLIGHTSV	<p>夏時間調整を現在設定しているかどうかを示します。 以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - 夏時間を設定しています。 • NO - 夏時間を設定していません。 • INHERIT - この CICS システムの接続先の CMAS か、または CICS システムが非アクティブの場合は 1 次 CMAS に割り当てられた夏時間標識に割り当てられている値を使用します。 • N_A - 適用外。
DB2/DBCTRL モニターのサンプリング間隔	DBXSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。
CICS システム記述	DESC	CICS システムの説明。
ファイル・モニターのサンプリング間隔	FILESAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。
グローバル領域モニターのサンプリング間隔	GLBLSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。
ホスト名	HOST	システムの 116 文字のホスト名 (例えば www.example.com)、またはその小数点付き 10 進数 IP アドレス (例えば 9.20.181.3)。これは IPIC SYSLINK 接続に使用されます。
ジャーナル・モニターのサンプリング間隔	JRNLSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。

表 20. MAS ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
カーネル・リンケージのトレース・フラグ	KNLTRACE	カーネル・リンケージのトレース・フラグの設定。 トレース・フラグの設定を変更するのは、 IBM システム・サポート・センター の担当者が要請した場合に限られます。
MAS サービスのトレース・フラグ	MASTRACE	MAS サービスのトレース・フラグの設定。 トレース・フラグの設定を変更するのは、 IBM システム・サポート・センター の担当者が要請した場合に限られます。
MAS のタイプ	MASTYPE	MAS と指定された CMAS の間に存在する関係のタイプ。 <ul style="list-style-type: none"> • LOCAL - MAS は CMAS と同じ MVS イメージ上にあり、CICSplex SM ESSS 機能を使用して CMAS と通信します。 • REMOTE - MAS はスタンドアロン CICS 領域です (SMSS)。 • N_A - MAS は現在アクティブではありません。タイプを判別できません。
モニター状況	MONSTATUS	この MAS 中でリソース・モニターがアクティブかどうかを示します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • YES <ul style="list-style-type: none"> – この MAS 中でリソース・モニターがアクティブです。 • NO <ul style="list-style-type: none"> – この MAS 中でリソース・モニターが非アクティブです。MAS の初期化が行われたばかりか、またはモニターがオンになるよう更新された場合は、モニターが完全に初期化されるまでこの値が表示されます。 • N_A <ul style="list-style-type: none"> – MAS はその CMAS に接続されていません (「MAS の状況」フィールドに INACTIVE と表示されます)。 • FORCE <ul style="list-style-type: none"> – リソース・モニターを、それがリアルタイム分析で使用されている場合でも停止します。すべてのリソース・モニターが停止されます。評価定義によってモニター・テーブル・リソースが指定されている場合、その評価定義は非アクティブになります。 注: モニターを完全に初期化するには、MAS とモニターの指定を関連付ける必要があります。
メッセージ・サービスのトレース・フラグ	MSGTRACE	メッセージ・サービスのトレース・フラグの設定。 トレース・フラグの設定を変更するのは、 IBM システム・サポート・センター の担当者が要請した場合に限られます。
CICS 最大タスク到達イベントに対するアクション	MXTACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義アクションを派生させるには、 inherit を指定します。
CICS 最大タスク数到達イベントの重大度	MXTSEV	名前指定された条件に関連した重大度レベル。重大度コードは VLS、LS、LW、HW、HS、または VHS です。この条件をモニターから除外するには、N_A を指定してください。
ネットワーク ID	NETWORKID	システムのネットワーク ID。NETWORKID は、APPLID オプションと組み合わせて使用され、IPIC を介して接続中のシステムで固有の名前が使われるようにします。これは IPIC SYSLINK 接続に使用されます。
無応答 MAS イベントに対するアクション	NRMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義アクションを派生させるには、 inherit を指定します。
無応答 MAS イベントの重大度	NRMSEV	名前指定された条件に関連した重大度レベル。重大度コードは VLS、LS、LW、HW、HS、または VHS です。この条件をモニターから除外するには、N_A を指定してください。
ポート番号	PORT	この IPIC 接続上のアウトバウンド要求で 사용되는ポート番号を指定する 1 から 65535 までの範囲の 10 進数。つまり、リモート・システムが listen する対象であるポートの番号。これは IPIC SYSLINK 接続に使用されます。

表 20. MAS ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
1 次 CMAS 名	PRICMAS	この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS の名前。
プログラム・モニターのサンプル リング間隔	PROGSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。
キュー・サービスのトレース・ フラグ	QUETRACE	キュー・サービスのトレース・フラグの設定。 トレース・フラグの設定を変更するのは、 IBM システム・サポート・センターの担当者が要請した場合に限られます。
RS サーバー読み取り間隔	READRS	<p>この属性は CICSplex SM シスプレックスの最適化されたワークロードに適用されます。MAS が以前のリリースのものであるために Sysplex 最適化ワークロードがサポートされない場合、この値には 0 が入ります。この値を他の値に変更することはできません。</p> <p>最適化されたワークロードをサポートする MAS のリリースであれば、次のヘルプ説明が適用されます。</p> <p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、ルーティング領域が CICS CFDT サーバーから要求する領域状況の最新表示の最小間隔を指定します。これは、この CICS 領域で使用される現行値です。</p> <p>値の範囲は 0 から 2000 で、ミリ秒単位で示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 0 を使用すると、対象領域の状況を確認するたびにその状況を更新するように、ルーティング領域から要求されます。 • 1 から 2000 までの値は、この領域の状況データを最新表示する前に経過する必要がある最小時間 (ミリ秒) を指定します。 <p>小さい値は、大きい値の場合よりも頻繁に RS サーバーのターゲットの状況がルーターによって更新されることを意味します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果 カップリング・ファシリティの 使用率が増加することがあります。</p> <p>値 1000 は 1 秒の間隔を表します。デフォルト値は 200 ミリ秒です。</p> <p>この値をここで変更して、現行の CICS 領域に割り当てられた値を動的に変更することができます。変更をこの CICS 領域の再始動後に適用する場合、「CICS システム定義」パネルでもこの値を変更する必要があります。</p>
データ保存期間のモニター	RETENTION	<p>収集されたデータがリソース・モニターの停止後に保持される分数。(リソース・モニターが停止するのは、CICS システムの停止時か、MAS ビュー・コマンドを使用して CICS システムのリソース・モニターを停止する場合です。) 可能な保存期間は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 - 1440 <ul style="list-style-type: none"> – 収集されたデータは、指定された分数だけ保持されます。 • 0 <ul style="list-style-type: none"> – 収集されたデータは保持されません。

表 20. MAS ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
リアルタイム分析状況	RTASTATUS	<p>この MAS 中でリアルタイム分析(RTA)がアクティブかどうかを示します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES <ul style="list-style-type: none"> – システム使用可能性モニターおよび MAS リソース・モニターはアクティブです。 • NO <ul style="list-style-type: none"> – RTA モニターはアクティブにはなりません。MAS の初期化が行われたばかりか、または分析がオンになるよう更新された場合は、RTA が完全に初期化されるまで NO が表示されます。 • SAM <ul style="list-style-type: none"> – システム使用可能性モニターがアクティブです。 • MRM <ul style="list-style-type: none"> – MAS リソース・モニターがアクティブです。 • N_A <ul style="list-style-type: none"> – MAS はその CMAS に接続されていません (「MAS の状況」フィールドに INACTIVE と表示されます)。 <p>注: リアルタイム分析を完全に初期化するには、MAS とリアルタイム分析の指定を関連付ける必要があります。</p>
リアルタイム分析 (RTA) のトレース・フラグ	RTATRACE	<p>リアルタイム分析のトレース・フラグの設定。</p> <p>トレース・フラグの設定を変更するのは、IBM システム・サポート・センターの担当者が要請した場合に限られます。</p>
システム使用可能性モニター・イベントに対するアクション	SAMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義アクションを派生させるには、 inherit を指定します。
システム使用可能性モニター・イベントの重大度	SAMSEV	名前指定された条件に関連した重大度レベル。重大度コードは VLS、LS、LW、HW、HS、または VHS です。この条件をモニターから除外するには、N_A を指定してください。
システム・ダンプ・イベントに対するアクション	SDMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義アクションを派生させるには、 inherit を指定します。
システム・ダンプ・イベントの重大度	SDMSEV	名前指定された条件に関連した重大度レベル。重大度コードは VLS、LS、LW、HW、HS、または VHS です。この条件をモニターから除外するには、N_A を指定してください。
シミュレート・セキュリティの免除チェック	SECBYPASS	<p>この CICS システムに関するすべてのシミュレートされた CICS セキュリティー検査を迂回するかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムに関するすべてのシミュレートされた CICS セキュリティー検査を迂回します。 • NO - この CICS システムに関するシミュレートされた CICS セキュリティー検査を迂回しません。 • INHERIT (アスタリスク) - この CICS システムに関連した CICSplex に割り当てられている値を使用します。 • N_A - 適用外。
シミュレート・セキュリティのコマンド・チェック	SECCMDCHK	<p>CICSplex SM セキュリティー検査がこの CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートするかどうかを示します。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムに関する CICS セキュリティー検査をシミュレートします。 • NO - この CICS システムに関する CICS セキュリティー検査をシミュレートしません。 • INHERIT - この CICS システムに関連した CICSplex に割り当てられている値を使用します。 • N_A - 適用外。

表 20. MAS ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
シミュレート・セキュリティのリソース・チェック	SECRESCHK	<p>CICSplex SM セキュリティ検査がこの CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートするかどうかを示します。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムに関する CICS セキュリティ検査をシミュレートします。 • NO - この CICS システムに関する CICS セキュリティ検査をシミュレートしません。 • INHERIT (アスタリスク) - この CICS システムに関連した CICSplex に割り当てられている値を使用します。
ストレージ不足 (SOS) イベントに対するアクション	SOSACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義アクションを派生させるには、 inherit を指定します。
ストレージ不足 (SOS) イベントの重大度	SOSSEV	名前指定された条件に関連した重大度レベル。重大度コードは VLS、LS、LW、HW、HS、または VHS です。この条件をモニターから除外するには、N_A を指定してください。
共通サービスのトレース・フラグ	SRVTRACE	<p>外部サービスのトレース・フラグの設定。</p> <p>トレース・フラグの設定を変更するのは、IBM システム・サポート・センターの担当者が要請した場合に限られます。</p>
CICS 停止イベントに対するアクション	STLACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義アクションを派生させるには、 inherit を指定します。
CICS 停止イベントの重大度	STLSEV	名前指定された条件に関連した重大度レベル。重大度コードは VLS、LS、LW、HW、HS、または VHS です。この条件をモニターから除外するには、N_A を指定してください。
トランザクション・ダンプ・イベントに対するアクション	TDMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義アクションを派生させるには、 inherit を指定します。
トランザクション・ダンプ・イベントの重大度	TDMSEV	名前指定された条件に関連した重大度レベル。重大度コードは VLS、LS、LW、HW、HS、または VHS です。この条件をモニターから除外するには、N_A を指定してください。
TDQ モニターのサンプリング間隔	TDQSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われなかったという意味です。
端末モニターのサンプリング間隔	TERMSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われなかったという意味です。
時間帯	TMEZONE	<p>この CICS システムが置かれている時間帯。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • B から Z までの範囲のコード。 • INHERIT - この CICS システムの接続先の CMAS か、または CICS システムが非アクティブの場合は 1 次 CMAS に割り当てられた時間帯オフセットを継承します。 <p>注: いずれか 1 つの時刻フィールドに * (アスタリスク) を指定する場合は、3 つの時刻フィールドすべてにアスタリスクを指定しなければなりません。</p>
時間帯オフセット	TMEZONEO	<p>計算対象の時刻に適用される調整値。この値は、標準時間帯を使用しない地域において時間参照を解決するために使用されます。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 から 59 までの間の値 - この時間帯の場合 (標準的な時間帯を使用しない地域の場合) に時刻に追加する分数を示します。 • INHERIT - この CICS システムの接続先の CMAS か、または CICS システムが非アクティブの場合は 1 次 CMAS に割り当てられた時間帯オフセットを継承します。

表 20. MAS ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバーの最上位層	TOPRSUPD	<p>この属性は CICSplex SM シスプレックスの最適化されたワークロードに適用されます。MAS が以前のリリースのものであるために sysplex 最適化ワークロードがサポートされない場合、この値には 0 が入ります。この値を他の値に変更することはできません。</p> <p>最適化されたワークロードをサポートする MAS のリリースであれば、次のヘルプ説明が適用されます。</p> <p>シスプレックスの最適化ワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから 実際のタスク数に変換されます。その数は、領域の MAXTASK 値から減算されて、最上位層のタスク・ロード範囲を決定します。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。結果として得られたタスク数値は領域の MAXTASKS 設定値から減算されて、タスク・ロードの最上位層を設定します。領域内のタスク・ロードが MAXTASKS 制限に達した場合は、タスク・ロードがこの値を下回るまで、領域の MAXTASKS 状態はオフに切り替わらず、カップリング・ファシリティーにもブロードキャストされません。 <p>デフォルト値は 5% です。この値をここで変更して、現行の CICS 領域に割り当てられた値を動的に変更することができます。変更をこの CICS 領域の再始動後に適用する場合、「CICS システム定義」パネルでもこの値を変更する必要があります。</p> <p>この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティーのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。</p>
トポロジーのトレース・フラグ	TOPTRACE	<p>トポロジーのトレース・フラグの設定。</p> <p>トレース・フラグの設定を変更するのは、IBM システム・サポート・センターの担当者が要請した場合に限られます。</p>
トランザクション・モニターのサンプリング間隔	TRANSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われなかったという意味です。</p>
トレース・サービスのトレース・フラグ	TRATRACE	<p>トレース・サービスのトレース・フラグの設定。</p> <p>トレース・フラグの設定を変更するのは、IBM システム・サポート・センターの担当者が要請した場合に限られます。</p>

表 20. MAS ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバー更新頻度	UPDATERS	<p>この属性は CICSplex SM シスプレックスの最適化されたワークロードに適用されます。MAS が以前のリリースのものであるために sysplex 最適化ワークロードがサポートされない場合、この値には 0 が入ります。この値を他の値に変更することはできません。</p> <p>最適化されたワークロードをサポートする MAS のリリースであれば、次のヘルプ説明が適用されます。</p> <p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、ターゲット CICS 領域内の タスク・ロード値を変更するために CICS CFDT (RS) サーバーを呼び出す 頻度を示します。これは、この CICS 領域で使用される現行値です。</p> <p>値の範囲は 0 から 25 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値が 0 の場合、タスク・ロード数が増えられても、RS サーバーには通知されないため、この CICS 領域に対して最適化されたワークロード機能が無効になります。 • 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。その結果生じたタスク数の値は、RS サーバーへの更新呼び出しを行うための数値しきい値として使用されます。 <p>例えば、MAXTASKS 設定が 120 でこの属性が 20 に設定されている場合、領域タスク・カウントが以下のように変わるときに、WLM ロード・カウントを更新するよう RS サーバーが呼び出されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • タスク 23 と 24 (20%) • タスク 47 と 48 (40%) • タスク 71 と 72 (60%) • タスク 95 と 96 (80%) • タスク 119 と 120 (100%) <p>RS サーバーは、領域のタスク・ロードがこれらの境界をまたいで増加または減少したときに更新されます。</p> <p>1 から 25 スケールのうちの小さい値を指定すると、タスク・ロード範囲全体を通して RS サーバーを更新する頻度が増します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果カップリング・ファシリティの使用率が増加することがあります。</p> <p>この値をここで変更して、現行の CICS 領域に割り当てられた値を動的に変更することができます。変更をこの CICS 領域の再始動後に適用する場合、「CICS システム定義」パネルでもこの値を変更する必要があります。</p>
WLM 最適化の使用可能化	WLMOPTEN	<p>この属性は、最適化されたワークロード・ルーティングが使用可能かどうかを示します。</p> <p>ENABLED に設定すると、この領域で最適化されたワークロード管理を使用できます。</p> <p>この属性を DISABLED に設定すると、最適化されたワークロード管理は抑止されます。</p> <p>値を変更して、現行の CICS 領域に割り当てられた値を動的に変更することができます。CICS の再起動後に、この変更内容をこの CICS 領域に適用する場合は、CICS システム定義パネルでもこの値を変更する必要があります。</p>

表 20. MAS ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
タスク・ロード・キュー・モード	WLMQMODE	<p>この属性は CICSplex SM ワークロード・マネージャーで使用され、ターゲット領域に適用されます。この値によって、ターゲット CICS 領域のキューに入れられたタスク・ロードの評価方法を次のように指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MAXTASK - アクティブ・タスクおよび MAXTASK のキューに入れられたタスクの両方が、領域のタスク・ロード評価に含まれること指定します。 • ALL - アクティブ・タスク、MAXTASK 限界のキューに入ったタスク、および TRANCLASS 限界のためにキューに入ったタスクを領域のタスク・ロード評価に含めることを指定します。 <p>デフォルト値は ALL です。</p> <p>この値に N_A が指定されていると、現在の MAS の CICS リリースがこの機能を十分にサポートしていないため、他の値に変更することはできません。</p> <p>この値をここで変更して、現行の CICS 領域に割り当てられた値を動的に変更することができます。変更をこの CICS 領域の再始動後に適用する場合、「CICS システム定義」パネルでもこの値を変更する必要があります。</p>
ワークロード・マネージャー状況	WLMSTATUS	<p>この MAS 中でワークロード・マネージャー (WLM) がアクティブかどうかを示します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES <ul style="list-style-type: none"> – この MAS 中でワークロード・マネージャー (WLM) がアクティブです。 • NO <ul style="list-style-type: none"> – この MAS 中でワークロード・マネージャー (WLM) が非アクティブです。MAS の初期化が行われたばかりか、またはワークロード管理がオンになるよう更新された場合は、WLM が完全に初期化されるまでこの値が表示されます。 • N_A <ul style="list-style-type: none"> – MAS はその CMAS に接続されていません (「MAS の状況」フィールドに INACTIVE と表示されます)。 <p>注: ワークロード・マネージャーを完全に初期化するには、MAS とワークロード・マネージャーの指定を関連付ける必要があります。</p>
タスク・ロード・ヘルスしい値	WLMTHRSH	<p>この属性は CICSplex SM ワークロード・マネージャーが使用します。現在の領域タスク・ロードの比率しい値を指定します。これは現在のタスク数を最大タスク数で割ることで算出されます。ターゲット領域のロードがこのしい値に達すると、WLM はその領域の正常性がやや損なわれたと見なします。これによって、この領域の評価時に、より高いリンク重みが WLM ルーティング・アルゴリズムに適用されます。</p> <p>ターゲット 有効範囲に、ルーターに対するローカル領域およびリモート領域が含まれる場合、WLM はリモート領域よりもローカル領域を優先します。この属性を適用すると、ローカル領域でこのロードしい値に達したときに、WLM はローカルではなくリモートのターゲットを優先するようになります。スコープ内のすべてのターゲットがこのロードしい値に達すると、WLM は再びローカルのターゲットを優先するようになります。</p> <p>値の範囲は 1 から 100 で、デフォルト値は 60 です。この値に 0 が指定される場合、現行の MAS は以前の CICS リリースのものであるためにこの機能をサポートすることができません。この値を他の値に変更することはできません。</p> <p>注: この値は、リンク中立な動的ルーティング要求のルーティング要因に適用されると、ヌルになります。LNQUEUE アルゴリズムと LINGOAL アルゴリズムでは、リンク・ウェイト自体が無視されるからです。</p> <p>この値をここで変更して、現行の CICS 領域に割り当てられた値を動的に変更することができます。変更をこの CICS 領域の再始動後に適用する場合、「CICS システム定義」パネルでもこの値を変更する必要があります。</p>
ワークロード管理のトレース・フラグ	WLMTRACE	<p>ワークロード管理のトレース・フラグの設定。</p> <p>トレース・フラグの設定を変更するのは、IBM システム・サポート・センターの担当者が要請した場合に限られます。</p>

CMAS 別の MAS 状況 - MASSTAT

「CMAS 別の MAS 状況」(MASSTAT) ビューは、CICSplex における各 CMAS 内の CICS システムの結合状況に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「CICSplex SM 操作ビュー」 > 「CMAS 別の MAS 状況」

表 21. 提供された「CMAS 別の MAS 状況」(MASSTAT) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CMAS 別の MAS 状況 EYUSTARTMASSTAT.DETAILED	CICSplex 内の各 CMAS における MAS 状況に関する詳細情報
CMAS 別の MAS 状況 EYUSTARTMASSTAT.TABULAR	CICSplex 内の各 CMAS における MAS 状況に関するテーブル形式の情報

アクション

なし。

フィールド

表 22. MASSTAT ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
CICS システム名	CICSNAME	現在 CICSplex SM に認識されている CICS システムの名前。CICS システムが自分を CICSplex SM に認識させると、それは MAS と見なされます。
MAS の状況	CICSSTATE	MAS の状況は ACTIVE か INACTIVE のいずれかです。CICSplex SM が管理できるのは、アクティブな MAS のみです。CICSplex の管理に含まれる CMAS がすべて適切に接続されて同期されている場合、報告される個々の CICS システムの状況は、すべての CMAS で同一になる必要があります。 MAS は次の 2 つの理由のいずれかにより、非アクティブである可能性があります。 <ul style="list-style-type: none">停止アクションを使用して、MAS エージェントを停止した。CICS システム自体が非アクティブだが、依然として認識されている。 注: このフィールドがブランクの場合は、MAS は一時的に非アクティブ状態とアクティブ状態の間にあります。
CMAS 名	CMASNAME	MAS の接続先のローカル CMAS の名前。
CICS システム記述	DESC	CICS システムの説明。
MAS のタイプ	MASTYPE	MAS と指定された CMAS の間に存在する関係のタイプ。 <ul style="list-style-type: none">LOCAL - MAS は CMAS と同じ MVS イメージ上にあり、CICSplex SM ESSS 機能を使用して CMAS と通信します。REMOTE - MAS はスタンドアロン CICS 領域です (SMSS)。N/A - MAS は現在アクティブではありません。タイプを判別できません。
報告 CMAS 名	RPTCMAS	行に関する情報の報告元の CMAS の名前。

ローカル CMAS 認知の CMAS - CMASLIST

「ローカル CMAS 認知の CMAS」(CMASLIST) ビューは、ローカル CMAS に認識されている CMAS に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「CICSplex SM 操作ビュー」 > 「ローカル CMAS 認知の CMAS」

表 23. 提供された「ローカル CMAS 認知の CMAS」(CMASLIST) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
ローカル CMAS 認知の CMAS EYUSTARTCMASLIST.CPSMDUMP	選択された CMAS、ESSS (Environmental Services Subsystem) アドレス・スペース、選択されたコンポーネントのデータ・スペース、および任意でもう 1 つ追加のアドレス・スペースを含む CICSplex SM 診断ダンプを取ります。
ローカル CMAS 認知の CMAS EYUSTARTCMASLIST.DETAILED	選択した CMAS に関する詳細一般情報
ローカル CMAS 認知の CMAS EYUSTARTCMASLIST.PURGE	他の CMAS から継承されたセキュリティ・プロファイルのストレージ内コピーを消去します。
ローカル CMAS 認知の CMAS EYUSTARTCMASLIST.RESET	タイムアウト処理が生じる前に CMAS がキャッシュからセキュリティ情報を破棄するよう強制します。CMAS がキャッシュからユーザーのセキュリティ情報を破棄する場合のみ、ユーザー ID に加えられた変更が表示可能になります。
ローカル CMAS 認知の CMAS EYUSTARTCMASLIST.RESETTIME	選択した CMAS の内部 CICS クロックをリセットします。
ローカル CMAS 認知の CMAS EYUSTARTCMASLIST.SECREBUILD	CMAS に関するストレージ内の外部セキュリティ・マネージャー (ESM) プロファイルを再作成します
ローカル CMAS 認知の CMAS EYUSTARTCMASLIST.SHUTDOWN	CMAS の通常シャットダウンを実行します。
ローカル CMAS 認知の CMAS EYUSTARTCMASLIST.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex に関連したすべての CMAS に関するテーブル形式の情報

アクション

表 24. CMASLIST ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CPSMDUMP	選択された CMAS、ESSS (Environmental Services Subsystem) アドレス・スペース、選択されたコンポーネントのデータ・スペース、および任意でもう 1 つ追加のアドレス・スペースを含む CICSplex SM 診断ダンプを取ります。
PURGE	他の CMAS から継承されたセキュリティ・プロファイルのストレージ内コピーを消去します。
RESET	タイムアウト処理が生じる前に CMAS がキャッシュからセキュリティ情報を破棄するよう強制します。CMAS がキャッシュからユーザーのセキュリティ情報を破棄する場合のみ、ユーザー ID に加えられた変更が表示可能になります。
RESETTIME	選択した CMAS の内部 CICS クロックをリセットします。
SECREBUILD	CMAS に関するストレージ内の外部セキュリティ・マネージャー (ESM) プロファイルを再作成します
SHUTDOWN	CMAS の通常シャットダウンを実行します。

フィールド

表 25. CMASLIST ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アクセスのタイプ	ACCESSTYPE	この CMAS が持つローカル CMAS へのアクセスのタイプ。次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • ADJACENT <ul style="list-style-type: none"> – TCMAS にはローカル CMAS との直接 CMAS 間リンクがあります。 • INDIRECT <ul style="list-style-type: none"> – CMAS は 1 つ以上の中間転送 CMAS を介してローカル CMAS に接続しています。 • LOCAL <ul style="list-style-type: none"> – この CMAS はローカル CMAS で、現行コンテキストです。 • N_A <ul style="list-style-type: none"> – この CMAS とローカル CMAS の間に現在接続はありません。
CMAS	CMASNAME	CMAS の名前。
CMAS の CPSM バージョン	CPSMVER	有効な CICSplex SM リリースの 4 文字の数値 (例えば、CICS Transaction Server for z/OS バージョン 3 リリース 2 の場合は 0320)
MVS ジョブ ID	JOBID	この CICS システムの MVS ジョブ ID。
MVS ジョブ名	JOBNAME	この CICS システムの MVS ジョブ名。
CMAS の状況	STATUS	ローカル CMAS に認識されている CMAS の現在の状況。状況は次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • ACTIVE <ul style="list-style-type: none"> – CMAS はアクティブで、作業の実行に使用できます • CREATING <ul style="list-style-type: none"> – CMAS とのコンタクトが確立されている途中です。CMAS はまだ作業に使用できません。 • INACTIVE <ul style="list-style-type: none"> – CMAS は作業に使用できません。通常どおりシャットダウンした場合か、ローカル CMAS とのコンタクトが作成されたことがない場合は、CMAS は非アクティブと見なされます。 • LOSTCON <ul style="list-style-type: none"> – CMAS とのコンタクトは失われています。CMAS の真の状態は不明です。CMAS が異常終了した場合か CMAS 間リンクが失敗した場合、コンタクトが失われることがあります。 • N_A <ul style="list-style-type: none"> – 適用外。
CICS システム ID	SYSID	CICS システムの 4 文字のシステム ID。
最初の転送 CMAS	TRANSITCMAS	アクセス・タイプ INDIRECT の CMAS の場合、ローカル CMAS が通信に使用する転送 CMAS の名前。
転送 CMAS 数	TRANSITCNT	アクセス・タイプ INDIRECT の CMAS の場合、通信時にターゲット CMAS に達する前に通過しなければならない転送 CMAS の数。

CMAS 管理の CICSplex - CMASPLEX

「CMAS 管理の CICSplex」(CMASPLEX) ビューは、ローカル CMAS によって管理される CICSplex に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「CICSplex SM 操作ビュー」 > 「CMAS 管理の CICSplex」

表 26. 提供された「CMAS 管理の CICSplex」 (CMASPLEX) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CMAS 管理の CICSplex EYUSTARTCMASPLEX.DETAILED	ローカル CMAS によって管理されている選択した CICSplex に関する詳細情報
CMAS 管理の CICSplex EYUSTARTCMASPLEX.FORCEREMPLEX	<p>MPSTATE が NOTCONNECTED の場合は、CICSplex 定義から CONTEXT CMAS を除去します。将来 MP との接続が確立され、MP が有効な場合、MP は CICSplex を CONTEXT CMAS に再インストールすることに留意してください。</p> <p>MPSTATE が INVALID のときに CICSplex 定義から CONTEXT CMAS を除去する場合は、CMASPLEX REMPLEX アクションを使用します。</p> <p>MPSTATE が VALID のときに CICSplex 定義から CONTEXT CMAS を除去する場合は、CONTEXT を MP CMAS に設定し、「CPLEXDEF」または「CPLXCMAS」ビューにナビゲートします。CICSplex の管理から CMAS を除去する場合は、UNASSIGN アクションを実行します。</p>
CMAS 管理の CICSplex EYUSTARTCMASPLEX.REMPLEX	<p>MPSTATE が INVALID の場合は、CICSplex 定義から CONTEXT CMAS を除去します。</p> <p>MPSTATE が NOTCONNECTED のときに CICSplex 定義から CONTEXT CMAS を除去する場合は、CMASPLEX FORCEREMPLEX アクションを使用します。</p> <p>MPSTATE が VALID のときに CICSplex 定義から CONTEXT CMAS を除去する場合は、CONTEXT を MP CMAS に設定し、「CPLEXDEF」または「CPLXCMAS」ビューにナビゲートします。CICSplex の管理から CMAS を除去する場合は、UNASSIGN アクションを実行します。</p>
CMAS 管理の CICSplex EYUSTARTCMASPLEX.TABULAR	ローカル CMAS によって管理されている CICSplex に関するテーブル形式の情報

アクション

表 27. CMASPLEX ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
FORCEREMPLEX	<p>MPSTATE が NOTCONNECTED の場合は、CICSplex 定義から CONTEXT CMAS を除去します。将来 MP との接続が確立され、MP が有効な場合、MP は CICSplex を CONTEXT CMAS に再インストールすることに留意してください。</p> <p>MPSTATE が INVALID のときに CICSplex 定義から CONTEXT CMAS を除去する場合は、CMASPLEX REMPLEX アクションを使用します。</p> <p>MPSTATE が VALID のときに CICSplex 定義から CONTEXT CMAS を除去する場合は、CONTEXT を MP CMAS に設定し、「CPLEXDEF」または「CPLXCMAS」ビューにナビゲートします。CICSplex の管理から CMAS を除去する場合は、UNASSIGN アクションを実行します。</p>
REMPLEX	<p>MPSTATE が INVALID の場合は、CICSplex 定義から CONTEXT CMAS を除去します。</p> <p>MPSTATE が NOTCONNECTED のときに CICSplex 定義から CONTEXT CMAS を除去する場合は、CMASPLEX FORCEREMPLEX アクションを使用します。</p> <p>MPSTATE が VALID のときに CICSplex 定義から CONTEXT CMAS を除去する場合は、CONTEXT を MP CMAS に設定し、「CPLEXDEF」または「CPLXCMAS」ビューにナビゲートします。CICSplex の管理から CMAS を除去する場合は、UNASSIGN アクションを実行します。</p>

フィールド

表 28. CMASPLEX ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
RS サーバーの最下位層	BOTRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、最下位層のタスク・ロード範囲 (ゼロからこの値まで) を定義するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 までとなります。領域のタスク・ロードがこの範囲内に入る場合は、タスク・ロードの変更ごとに、タスク・ロードがカップリング・ファシリティにブロードキャストされます。ロードがこの値に達すると、RS サーバー更新頻度のタスク規則が活動化されます。</p> <p>デフォルト値は 1% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティのスレーブットに与える影響を考慮した上で行ってください。</p> <p>ここに示す CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>
夏時間調整が有効	DAYLIGHTSV	指定した時間帯で夏時間調整が現在認識されているかどうかを示します。
保守ポイント CMAS	MPCMAS	保守ポイント CMAS の名前。
MP CMAS の状態	MPSTATE	<p>保守ポイント CMAS の状況。この値は、以下のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VALID <ul style="list-style-type: none"> – 保守ポイント CMAS は CONTEXT CMAS に接続されており、保守ポイント CMAS であることを確認しました。 • INVALID <ul style="list-style-type: none"> – 保守ポイント CMAS は CONTEXT CMAS に接続されており、保守ポイント CMAS ではないことを確認しました。 • NOTCONNECTED <ul style="list-style-type: none"> – 保守ポイント CMAS は CONTEXT CMAS に接続されていないため、指定された MP CMAS が実際に MP CMAS かどうかを判別できません。
CMAS はメンテナンス・ポイント	MPSTATUS	ローカル CMAS が指定の CICSplex の保守ポイントかどうかを示します。
パフォーマンス測定間隔	PERFINTVL	CICSplex SM がパフォーマンス関連のデータを収集する頻度を判別するサンプル・インターバル。
CICSplex	PLEXNAME	ローカル CMAS が管理に関与する CICSplex の名前。
RS サーバー 読み取り間隔	READRS	<p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、CICS CFDT サーバーからのターゲット領域の状況をリフレッシュする最小間隔を指定します。これらのリフレッシュ要求は、動的ルーティング要求のターゲット領域を評価しているルーティング領域によって発行されます。</p> <p>値の範囲は 0 から 2000 で、ミリ秒単位で示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 0 は、ターゲット領域の状況を調べるたびに、ターゲット領域の状況更新をルーティング領域が要求することを意味します。 • 対象領域の状況を最新表示するまでの最小時間間隔を指定する場合は、1 から 2000 までの値を使用します。 <p>間隔値が小さい場合、より大きい値の場合よりも頻繁に、CFDT サーバーをポーリングして状況を更新します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果カップリング・ファシリティの使用率が増加することがあります。</p> <p>値 1000 は 1 秒の間隔を表します。デフォルト値は 200 ミリ秒です。</p> <p>ここに指定する CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>

表 28. CMASPLEX ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
RS サーバーのプール名	RSPOOLID	<p>sysplex 最適化ワークロードでは、領域状況データはカップリング・ファシリティ・データ・テーブル内で保守されます。このテーブルは、この属性で識別される CFDT プールに含まれます。最適化されたワークロードをアクティブ化する場合、ここで指定したプール名のデータを管理するサーバーの領域状況がアクティブである必要があります。</p> <p>ご使用の CICSplex ID がシスプレックス内で固有でない場合は、RS サーバーのプール名を固有であるようにしてください。ご使用の Sysplex が固有の CICSplex ID で構成されている場合、すべて同じ RS サーバーのプール名が指定されます。</p> <p>デフォルト名は DFHRSTAT です。CICSplex データ・テーブルを収容するため、既存の CFDT プールを使用することができます。行う場合は、最適化ワークロードのスループットが、指定されたプール名へのユーザー・アプリケーション活動によって妨げられることがあることに注意してください。さらに、プールに対するアプリケーションのスループットがシスプレックスの最適化されたワークロードによって妨げられる可能性もあります。最適化ワークロード機能に対して個別の RS サーバーとプール名を定義することをお勧めします。</p>
時間帯	TMEZONE	<p>この CICS システムが置かれている時間帯。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • B から Z までの範囲のコード。 • INHERIT - この CICS システムの接続先の CMAS か、または CICS システムが非アクティブの場合は 1 次 CMAS に割り当てられた時間帯オフセットを継承します。
時間帯オフセット	TMEZONEO	<p>計算対象の時刻に適用される調整値。この値は、標準時間帯を使用しない地域において時間参照を解決するために使用されます。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 から 59 までの間の値 - この時間帯の場合 (標準的な時間帯を使用しない地域の場合) に時刻に追加する分数を示します。 • INHERIT - この CICS システムの接続先の CMAS か、または CICS システムが非アクティブの場合は 1 次 CMAS に割り当てられた時間帯オフセットを継承します。
RS サーバーの最上位層	TOPRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、領域の MAXTASK 値から減算されて、最上位層のタスク・ロード範囲を決定します。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 までとなります。値が演算比率として領域の MAXTASKS 設定に適用されます。結果として得られたタスク数値は領域の MAXTASKS 設定値から減算されて、タスク・ロードの最上位層を設定します。領域内のタスク・ロードが MAXTASKS 制限に達した場合は、タスク・ロードがこの値を下回るまで、領域の MAXTASKS 状態はオフに切り替わらず、カップリング・ファシリティにもブロードキャストされません。</p> <p>デフォルト値は 5% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。</p> <p>ここに示す CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>

表 28. CMASPLEX ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバー更新頻度	UPDATERS	<p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、ターゲット CICS 領域内のタスク・ロード値を変更するために CICS CFDT (RS) サーバーを呼び出す頻度を示します。この値は、現在の CICSplex 定義におけるすべての CICS 領域のデフォルト頻度値になります。</p> <p>値の範囲は 0 から 25 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値が 0 の場合、タスク・ロード数に変更されても、RS サーバーには通知されないため、この CICSplex の有効範囲内の領域に対して最適化されたワークロード機能が無効になります。 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。その結果生じたタスク数の値は、RS サーバーへの更新呼び出しを行うための数値しきい値として使用されます。 <p>例えば MAXTASKS 設定が 120 でこの属性が 20 に設定されている場合、領域タスク・カウントが以下のように変わるときに、WLM ロード・カウントを更新するよう RS サーバーが呼び出されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 23 および 24 タスク - (20%) 47 タスクから 48 タスクに - (40%)、 タスク 71 と 72 (60%) タスク 95 と 96 (80%) タスク 119 と 120 (100%) <p>RS サーバーは、領域のタスク・ロードがこれらの境界をまたいで増加または減少したときに更新されます。</p> <p>報告された値が 1 から 25 スケールのうちの小さい値の場合、そのタスク・ロード範囲全体を通して RS サーバーを更新する頻度が増します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果 カップリング・ファシリティの 使用率が増加することがあります。</p> <p>ここに示す CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>

CICSplex 管理の CMAS - CICSplex

「**CICSplex 管理の CMAS**」(CICSplex) ビューは、CICSplex に関連したすべての CMAS に関する情報を、ローカル CMAS が CICSplex の保守ポイントかどうかにかかわらず表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**CICSplex SM 操作ビュー (CICSplex SM operations views)**」 > 「**CICSplex を管理する CMAS (CMASs managing CICSplex)**」

表 29. 提供された「 CICSplex 管理の CMAS 」(CICSplex) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CICSplex 管理の CMAS EYUSTARTCICSplex.DETAILED	選択した CMAS に関する詳細一般情報
CICSplex 管理の CMAS EYUSTARTCICSplex.TABULAR	CICSplex を管理するすべての CMAS に関するテーブル形式の情報

アクション

なし。

フィールド

表 30. CICSplex ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
この CMAS からローカル CMAS へのアクセス・タイプ	ACCESSTYPE	<p>この CMAS が持つローカル CMAS へのアクセスのタイプ。次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ADJACENT - CMAS にはローカル CMAS との直接 CMAS 間リンクがあります。 • INDIRECT - CMAS は 1 つ以上の中間転送 CMAS を介してローカル CMAS に接続しています。 • LOCAL - この CMAS はローカル CMAS で、現行コンテキストです。 • N_A - この CMAS とローカル CMAS の間に現在接続はありません。
RS サーバーの最下位層	BOTRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、最下位層のタスク・ロード範囲 (ゼロからこの値まで) を定義するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 までとなります。領域のタスク・ロードがこの範囲内に入る場合は、タスク・ロードの変更ごとに、タスク・ロードがカップリング・ファシリティにブロードキャストされます。ロードがこの値に達すると、RS サーバー更新頻度のタスク規則が活動化されます。</p> <p>デフォルト値は 1% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。</p> <p>ここに示す CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>
CMAS	CMASNAME	CICSplex に関連付けられている CMAS の名前。
CMAS メインテナンス・ポイント状況	MPSTATUS	この CMAS が指定された CICSplex の保守ポイントかどうかを示します。
CICSplex	PLEXNAME	CICSplex の名前。
RS サーバー読み取り間隔	READRS	<p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、CICS CFDT サーバーからのターゲット領域の状況をリフレッシュする最小間隔を指定します。これらのリフレッシュ要求は、動的ルーティング要求のターゲット領域を評価しているルーティング領域によって発行されます。</p> <p>値の範囲は 0 から 2000 で、ミリ秒単位で示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 0 は、ターゲット領域の状況を調べるたびに、ターゲット領域の状況更新をルーティング領域が要求することを意味します。 • 対象領域の状況を最新表示するまでの最小時間間隔を指定する場合は、1 から 2000 までの値を使用します。 <p>間隔値が小さい場合、より大きい値の場合よりも頻繁に、CFDT サーバーをポーリングして状況を更新します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果 カップリング・ファシリティの使用率が増加することがあります。</p> <p>値 1000 は 1 秒の間隔を表します。デフォルト値は 200 ミリ秒です。</p> <p>ここに指定する CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>

表 30. CICSplex ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバーのプール名	RSPOOLID	<p>sysplex 最適化ワークロードでは、領域状況データはカップリング・ファシリティ・データ・テーブル内で保守されます。このテーブルは、この属性で識別される CFDT プールに含まれます。最適化されたワークロードをアクティブ化する場合、ここで指定したプール名のデータを管理するサーバーの領域状況がアクティブである必要があります。</p> <p>ご使用の CICSplex ID がシスプレックス内で固有でない場合は、RS サーバーのプール名を固有であるようにしてください。ご使用の Sysplex が固有の CICSplex ID で構成されている場合、すべて同じ RS サーバーのプール名が指定されます。</p> <p>デフォルト名は DFHRSTAT です。CICSplex データ・テーブルを収容するため、既存の CFDT プールを使用することができます。行う場合は、最適化ワークロードのスループットが、指定されたプール名へのユーザー・アプリケーション活動によって妨げられることがあることに注意してください。さらに、プールに対するアプリケーションのスループットがシスプレックスの最適化されたワークロードによって妨げられる可能性もあります。最適化ワークロード機能に対して個別の RS サーバーとプール名を定義することをお勧めします。</p>
CMAS の状況	STATUS	<p>ローカル CMAS に認識されている CMAS の現在の状況。この状況は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ACTIVE - CMAS はアクティブで CICSplex の管理に使用できます。 • CREATING - CMAS とのコンタクトが確立されている途中です。CMAS はまだ作業に使用できません。 • INACTIVE - CMAS は CICSplex の管理に使用できません。通常どおりシャットダウンした場合、CMAS は非アクティブと見なされます。 • LOSTCON - CMAS とのコンタクトは失われています。CMAS の真の状態は不明です。CMAS が異常終了した場合か CMAS 間リンクが失敗した場合、コンタクトが失われることがあります。 • N/A - CMAS はアクティブになったことがないか、ローカル CMAS とコンタクトしたことがありません。
CMAS システム ID	SYSID	CICS システムの 4 文字のシステム ID。
RS サーバーの最上位層	TOPRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、領域の MAXTASKS 値から減算されて、最上位層のタスク・ロード範囲を決定します。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 までとなります。値が演算比率として領域の MAXTASKS 設定に適用されます。結果として得られたタスク数値は領域の MAXTASKS 設定値から減算されて、タスク・ロードの最上位層を設定します。領域内のタスク・ロードが MAXTASKS 制限に達した場合は、タスク・ロードがこの値を下回るまで、領域の MAXTASKS 状態はオフに切り替わらず、カップリング・ファシリティにもブロードキャストされません。</p> <p>デフォルト値は 5% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。</p> <p>ここに示す CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>
最初の転送 CMAS	TRANSITCMAS	アクセス・タイプ INDIRECT の CMAS の場合、ローカル CMAS が通信に使用する転送 CMAS の名前。
間接アクセスのための転送 CMAS 数	TRANSITCNT	アクセス・タイプ INDIRECT の CMAS の場合、通信時にターゲット CMAS に達する前に通過しなければならない転送 CMAS の数。

表 30. CICSplex ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバー更新頻度	UPDATERS	<p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、ターゲット CICS 領域内のタスク・ロード値を変更するために CICS CFDT (RS) サーバーを呼び出す頻度を示します。この値は、現在の CICSplex 定義におけるすべての CICS 領域のデフォルト頻度値になります。</p> <p>値の範囲は 0 から 25 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値が 0 の場合、タスク・ロード数が増えられても、RS サーバーには通知されないため、この CICSplex の有効範囲内の領域に対して最適化されたワークロード機能が無効になります。 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。その結果生じたタスク数の値は、RS サーバーへの更新呼び出しを行うための数値しきい値として使用されます。 <p>例えば、MAXTASKS 設定が 120 でこの属性が 20 に設定されている場合、領域タスク・カウントが以下のように変わるときに、WLM ロード・カウントを更新するよう RS サーバーが呼び出されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> タスク 23 と 24 (20%) 47 タスクから 48 タスクに - (40%)、 タスク 71 と 72 (60%) 95 タスクから 96 タスクに - (80%)、 タスク 119 と 120 (100%) <p>RS サーバーは、領域のタスク・ロードがこれらの境界をまたいで増加または減少したときに更新されます。</p> <p>報告された値が 1 から 25 スケールのうちの小さい値の場合、そのタスク・ロード範囲全体を通して RS サーバーを更新する頻度が増します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果 カップリング・ファシリティの使用率が増加することがあります。</p> <p>ここに示す CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>

CMAS から CMAS へのリンク - CMTCMLNK

「**CMAS から CMAS へのリンク**」(CMTCMLNK) ビューは、ローカル CMAS と 1 つ以上の他の CMAS の間に存在するリンクに関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**CICSplex SM 操作ビュー**」 > 「**CMAS から CMAS へのリンク**」

表 31. 提供された「 CMAS から CMAS へのリンク 」(CMTCMLNK) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CMAS から CMAS へのリンク EYUSTARTCMTCMLNK.ACQUIRE	サービス中に設定し LU62 CMAS リンクの取得を試みました。
CMAS から CMAS へのリンク EYUSTARTCMTCMLNK.DETAILED	選択したリンクに関する詳細一般情報
CMAS から CMAS へのリンク EYUSTARTCMTCMLNK.DISCARD	CMAS リンクを破棄します

表 31. 提供された「CMAS から CMAS へのリンク」(CMTCMLNK) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
CMAS から CMAS へのリンク EYUSTARTCMTCMLNK.TABULAR	現行コンテキスト内の CMAS から CMAS へのすべてのリンクに関するテーブル形式の情報

アクション

表 32. CMTCMLNK ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ACQUIRE	サービス中に設定し LU62 CMAS リンクの取得を試みました。
DISCARD	CMAS リンクを破棄します

フィールド

表 33. CMTCMLNK ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アプリケーション ID	APPLID	ターゲット CMAS の VTAM アプリケーション ID。
(圧縮状態で) 受信したバイト数	CBYTRCVD	圧縮形式で CMAS リンクを介して受信された総バイト数。
(圧縮状態で) 送信したバイト数	CBYTSENT	圧縮後に CMAS リンクを介して実際に伝送された総バイト数。
CICS の接続状況	CICSCONN	LU6.2 リンクの場合、CICS 接続状況は次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> ACQUIRED - 接続は獲得されています。つまり、パートナー LU と連絡が取れ、初期 CNOS 交換が完了しました。 AVAILABLE - 接続は獲得されていますが、現在バインド済みセッションはありません。 FREEING - 接続を解放中です。 OBTAINING - 接続を獲得中です。 RELEASED - 接続は解放済みです。
CICS のサービス状況	CICSSERV	CICS サービスの状況。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> INSERVICE - 接続はサービス中です。システムはデータを送受信できます。 OUTSERVICE - 接続はサービス中ではありません。システムはデータを送受信できません。 GOINGOUT - 接続に関する OUTSERVICE 要求が発行されましたが、現在の作業がすべて完了するまで処理できません。
接続状況	CPSMCONN	CICSplex SM に認識されている CMAS 間リンクの論理状態: <ul style="list-style-type: none"> CONACT - 論理接続はアクティブで使用可能です。 RESET - 論理接続はリセット状態です。現在使用中ではありません。 PENDING - 論理接続はアクティブにするための処理中です。
CICSplex SM サービス要求を 実行する累積時間	EXECCLK	応答が予期されるアウトバウンド・メッセージが、別の CMAS での実行に要した合計時間。伝送完了時から、他の CMAS から応答が受信される時点までが、実行時間としてマークされます。
受信合計要求数	MALSRCVD	ターゲット CMAS から受信されたローカル CMAS に関するメッセージ数。別の CMAS に渡されるメッセージはカウントされません。各メッセージはサービスの要求または応答を表します。
送信合計要求数	MALSSENT	ローカル CMAS からターゲット CMAS へ送信されたメッセージ数。各メッセージはサービスの要求または応答を表します。

表 33. CMTMMLNK ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
受信メッセージ・パケット数	MSGSRCVD	ターゲット CMAS から受信されたローカル CMAS に関するメッセージ・パケット数。別の CMAS に渡されるメッセージ・パケットはカウントされません。各メッセージは 1 つ以上のメッセージ・パケットから構成できます。
送信メッセージ・パケット数	MSGSENT	ローカル CMAS からターゲット CMAS へ送信されたメッセージ・パケット数。各メッセージは 1 つ以上のメッセージ・パケットから構成できます。
ターゲット CMAS	NAME	ローカル CMAS のリンク先の CMAS の名前。
リンク・プロトコル	PROTOCOL	この CMAS 間リンクで使用されているプロトコルのタイプ (LU62 または MRO)。
CICSplex SM サービス要求を受信する累積時間	RCVCLK	インバウンド・メッセージの受信に要した合計時間。
CICSplex SM サービス要求をスケジュールする累積時間	SCHEDCLK	CICSplex SM サービス要求のスケジュールの待機に要した合計時間。
ターゲット・システム ID	SYSID	ターゲット CMAS の CICS システム ID。
受信通過バッファ数	TBUFRCD	ターゲット CMAS から受信された通過メッセージ・パケット数。別の宛先に向かってローカル CMAS を移動している最中のメッセージ・パケットが通過中と見なされます。通過メッセージ・パケットの実際のソースとターゲットはローカル CMAS に認識されません。
送信通過バッファ数	TBUFSNT	ターゲット CMAS に送信された通過メッセージ・パケット数。別の宛先に向かってローカル CMAS を移動している最中のメッセージ・パケットが通過中と見なされます。通過メッセージ・パケットの実際のソースとターゲットはローカル CMAS に認識されません。
CICSplex SM サービス要求を送信する累積時間	TRANSCLK	アウトバウンド・メッセージの伝送に要した合計時間。
(圧縮解除状態で) 受信したバイト数	UBYTRCD	圧縮解除されたメッセージ・パケットとしてローカル CMAS で受信された総バイト数。
(圧縮解除状態で) 送信したバイト数	UBYTSNT	伝送前に、圧縮するメッセージ・パケットとしてローカル CMAS で送信された総バイト数。

CMAS から MAS へのリンク - CMTMMLNK

「**CMAS から MAS へのリンク**」(CMTMMLNK) ビューは、ローカル CMAS とそのリンク先のローカル MAS の間に存在する物理接続に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**CICSplex SM 操作ビュー**」 > 「**CMAS から MAS へのリンク**」

表 34. 提供された「 CMAS から MAS へのリンク 」(CMTMMLNK) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CMAS から MAS へのリンク EYUSTARTCMTMMLNK.DETAILED	選択したリンクに関する詳細一般情報
CMAS から MAS へのリンク EYUSTARTCMTMMLNK.DISCARD	CMAS から MAS へのリンクを破棄します
CMAS から MAS へのリンク EYUSTARTCMTMMLNK.TABULAR	現行コンテキスト内の CMAS から MAS へのすべてのリンクに関するテーブル形式の情報

アクション

表 35. CMTPLNK ビューで使用可能なアクション

アクション	説明
DISCARD	CMAS から MAS へのリンクを破棄します

フィールド

表 36. CMTPLNK ビューのフィールド

フィールド	属性名	説明
VTAM アプリケーション ID	APPLID	ターゲット MAS の VTAM アプリケーション ID。
(圧縮状態で) 受信したバイト数	CBYTRCVD	リモート MAS リンクの場合、圧縮形式でリンクを介して受信された総バイト数。
(圧縮状態で) 送信したバイト数	CBYTSENT	リモート MAS リンクの場合、圧縮後にリンクを介して実際に伝送された総バイト数。
CICS の接続状況	CICSCONN	<p>LU6.2 リンクの場合、CICS 接続状況は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ACQUIRED - 接続は獲得されています。つまり、パートナー LU と連絡が取れ、初期 CNOS 交換が完了しました。 • AVAILABLE - 接続は獲得されていますが、現在バインド済みセッションはありません。 • FREEING - 接続を解放中です。 • OBTAINING - 接続を獲得中です。 • RELEASED - 接続は解放済みです。 <p>注: このフィールドはローカル MAS リンクには適用されないで、値 N/A が表示されます。</p>
CICS のサービス状況	CICSSERV	<p>リモート MAS リンクの場合、CICS サービス状況は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • INSERVICE - 接続はサービス中です。システムはデータを送受信できます。 • OUTSERVICE - 接続はサービス中ではありません。システムはデータを送受信できません。 • GOINGOUT - 接続に関する OUTSERVICE 要求が発行されましたが、現在の作業がすべて完了するまで処理できません。 <p>注: このフィールドはローカル MAS リンクには適用されないで、値 N/A が表示されます。</p>
CICSplex SM の接続状況	CPSMCONN	<p>CICSplex SM に認識されている CMAS から MAS へのリンクの論理状態:</p> <ul style="list-style-type: none"> • CONACT - 論理接続はアクティブで使用可能です。 • RESET - 論理接続はリセット状態です。現在使用中ではありません。 • PENDING - 論理接続はアクティブにするための処理中です。
CICSplex SM サービス要求の実行時間の合計	EXECCLK	応答が予期されるアウトバウンド・メッセージの MAS での実行に要した合計時間。伝送完了時から、MAS から応答が受信される時点までが、実行時間としてマークされます。
受信サービス要求と応答の数	MALSRCVD	ターゲット MAS から受信されたローカル CMAS に関するメッセージ数。別の CMAS に渡されるメッセージはカウントされません。各メッセージはサービスの要求または応答を表します。
送信サービス要求と応答の数	MALSSENT	ローカル CMAS からターゲット MAS へ送信されたメッセージ数。各メッセージはサービスの要求または応答を表します。
受信メッセージ・パケット数	MSGSRCVD	ターゲット MAS から受信されたローカル CMAS に関するメッセージ・パケット数。別の CMAS に渡されるメッセージ・パケットはカウントされません。リモート MAS の場合、各メッセージは 1 つ以上のメッセージ・パケットで構成できます。ローカル MAS リンクの場合、各メッセージは単一のメッセージ・パケットから成ります。

表 36. CMTPLNK ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
送信メッセージ・パケット数	MSGSENT	ローカル CMAS からターゲット MAS へ送信されたメッセージ・パケット数。リモート MAS の場合、各メッセージは 1 つ以上のメッセージ・パケットで構成できます。ローカル MAS リンクの場合、各メッセージは単一のメッセージ・パケットから成ります。
MAS 名	NAME	ローカル MAS のリンク先の CMAS の名前。
MAS が所属する CICSplex 名	PLEXNAME	CONACT 状態のリンクの場合、MAS が所属する CICSplex の名前。
リンク・プロトコル	PROTOCOL	この CMAS から MAS へのリンクで使用されているプロトコルのタイプ: <ul style="list-style-type: none"> • LU6.2 - リモート MAS のみ • MRO - リモート MAS のみ • CICSplex SM ESSS 機能 - ローカル MAS のみ
CICSplex SM サービス要求の受信時間の合計	RCVCLK	リモート MAS リンクの場合、インバウンド・メッセージの伝送に要した合計時間。
CICSplex SM サービス要求の待ち時間の合計	SCHEDCLK	CICSplex SM サービス要求のスケジュールの待機に要した合計時間。
MAS システム ID	SYSID	ターゲット MAS の 4 文字の CICS システム ID。
受信通過バッファ数	TBUFRCD	ターゲット MAS から受信された通過メッセージ・パケット数。別の宛先に向かってローカル CMAS を移動している最中のメッセージ・パケットが通過中と見なされます。通過メッセージ・パケットの実際のソースとターゲットはローカル CMAS に認識されません。
送信通過バッファ数	TBUFSNT	ターゲット MAS に送信された通過メッセージ・パケット数。別の宛先に向かってローカル CMAS を移動している最中のメッセージ・パケットが通過中と見なされます。通過メッセージ・パケットの実際のソースとターゲットはローカル CMAS に認識されません。
CICSplex SM サービス要求の伝送時間の合計	TRANSCLK	リモート MAS リンクの場合、アウトバウンド・メッセージの伝送に要した合計時間。
(圧縮解除状態で) 受信したバイト数	UBYTRCD	リモート MAS リンクの場合、圧縮解除されたメッセージ・パケットとしてローカル CMAS で受信された総バイト数。
(圧縮解除状態で) 送信したバイト数	UBYTSNT	リモート MAS リンクの場合、伝送前に、圧縮されるメッセージ・パケットとしてローカル CMAS で送信された総バイト数。

付録 B バッチ・リポジトリ更新要求 - BATCHREP

「バッチ・リポジトリ更新要求」(BATCHREP) ビューは、現行コンテキスト中のバッチ・リポジトリ更新ジョブに関する情報を表示します。バッチ・リポジトリ更新機能を使用すると、ローカル CMAS のデータ・リポジトリから定義レコードの作成、更新、および除去を実行できます。

提供されるビュー

提供される BATCHREP ビューはありません。

アクション

表 37. BATCHREP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CHECK	バッチ・リポジトリ更新機能入力ファイルで指定されているコマンドに、構文エラーがないか確認します。
EXECUTE	コンテキストとして識別される CMAS 中で実行されるように、バッチ・リポジトリ更新を実行依頼します。

フィールド

表 38. BATCHREP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
入力データ・セット	INPUTDSN	バッチ・リポジトリ更新ジョブへの入力を含む順次または区分データ・セット (PDS) の名前。
入力メンバー	INPUTMEMBER	入力データ・セットが PDS の場合、バッチ・リポジトリ更新ジョブへの入力を含むメンバーの名前。
宛先ユーザー ID	OUTPUTUSER	プリンター向けのスプール・レコードのレポートを処理する最終ライター・プログラムまたはユーザーを識別します。この ID は、バッチ・リポジトリ・レポートに記載され、その宛先でのレポートの選択に使用されます。
出力クラス	PRINTCLASS	ジョブ出力に使用される印刷クラスを識別します。このフィールドがブランクの場合、印刷クラス A が想定されます。
宛先ノード	PRINTNODE	システム・スプーラーでファイルの転送に使用する印刷ノードを指定します。
処理状態	PROCESS	バッチ・リポジトリ更新ジョブが実行中かどうかを示します。
バッチ実行タイプ	RUNTYPE	以下の実行タイプを示します。 <ul style="list-style-type: none">• CHECK<ul style="list-style-type: none">– バッチ・リポジトリ更新機能入力ファイルで指定されているコマンドを確認します。• EXECUTE<ul style="list-style-type: none">– バッチ・リポジトリ更新の実行を依頼します。

付録 C CMAS 構成管理ビュー

「CMAS 構成管理」ビューでは、CMAS を構成して保守することができます。

CICSplex の定義 - CPLEXDEF

「**CICSplex の定義**」(CPLEXDEF) ビューは、ローカル CMAS に関連した CICSplex に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CMAS 構成管理ビュー**」 > 「**CICSplex の定義**」

表 39. 提供された 「**CICSplex の定義 (CICSplex definitions)**」 (CPLEXDEF) ビュー・セットのビュー

ビュー	注
CICSplex の定義 (CICSplex definitions) EYUSTARTCPLEXDEF.ASSIGN	データ・リポジトリ中の CICSplex 定義に CMAS を追加します。
CICSplex の定義 (CICSplex definitions) EYUSTARTCPLEXDEF.CREATE	CICSplex 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CICSplex の定義 (CICSplex definitions) EYUSTARTCPLEXDEF.DETAILED	選択した CICSplex 定義に関する詳細情報
CICSplex の定義 (CICSplex definitions) EYUSTARTCPLEXDEF.REMOVE	データ・リポジトリから CICSplex 定義を除去します。
CICSplex の定義 (CICSplex definitions) EYUSTARTCPLEXDEF.TABULAR	コンテキストとして識別された CMAS に関連付けられたすべての CICSplex の定義に関する表形式の情報。
CICSplex の定義 (CICSplex definitions) EYUSTARTCPLEXDEF.UNASSIGN	FORCE オプションを指定するか、または指定せずに、選択された CMAS を CICSplex 定義から除去します。

アクション

表 40. CPLEXDEF ビューで使用可能なアクション

アクション	説明
ASSIGN	データ・リポジトリ中の CICSplex 定義に CMAS を追加します。
CREATE	CICSplex 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリから CICSplex 定義を除去します。
UNASSIGN	FORCE オプションを指定するか、または指定せずに、選択された CMAS を CICSplex 定義から除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ中の CICSplex 定義を更新します。

フィールド

表 41. CPLEXDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
RS サーバーの最下位層	BOTRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、最下位層のタスク・ロード範囲 (ゼロからこの値まで) を定義するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 までとなります。領域のタスク・ロードがこの範囲内に入る場合は、タスク・ロードの変更ごとに、タスク・ロードがカップリング・ファシリティにブロードキャストされます。ロードがこの値に達すると、RS サーバー更新頻度のタスク規則が活動化されます。</p> <p>デフォルト値は 1% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティのスレーブットに与える影響を考慮した上で行ってください。</p> <p>ここに示す CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。 DREPBATCH - CICSplex SM ユーティリティにより変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
CICSplex 名	CICSPLEX	1 文字から 8 文字までの CICSplex の名前。名前には英字、数字、国別文字を含めることができます。ただし、先頭文字は英字でなければなりません。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
夏時間調整	DAYLGHTSV	指定した時間帯で夏時間調整が現在認識されているかどうかを示します。このフィールドの値は、文書化のために保管されますが、タイム・ゾーンの計算では使用されません。
説明	DESC	<p>CICSplex の説明。</p> <p>入力値: 1 から 58 文字の説明</p>
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
モニター間隔 (分)	INTVL	<p>モニター・データを保持するカウンタがゼロにリセットされるまでに要する、15 から 1440 までの範囲の分数。デフォルトは 480 です。</p> <p>使用される値は 1440 を割り切れる値でなければなりません。例えば、60、120、240 などです。入力される値が有効な範囲にあるものの、1440 を割り切れる値ではない場合、数値は次に有効な値に切り上げられます。</p>

表 41. CPLEXDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバー 読み取り間隔	READRS	<p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、CICS CFDT サーバーからのターゲット領域の状況をリフレッシュする最小間隔を指定します。これらのリフレッシュ要求は、動的ルーティング要求のターゲット領域を評価しているルーティング領域によって発行されます。</p> <p>値の範囲は 0 から 2000 で、ミリ秒単位で示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 0 は、ターゲット領域の状況を調べるたびに、ターゲット領域の状況更新をルーティング領域が要求することを意味します。 対象領域の状況を最新表示するまでの最小時間間隔を指定する場合は、1 から 2000 までの値を使用します。 <p>間隔値が小さい場合、より大きい値の場合よりも頻繁に、CFDT サーバーをポーリングして状況を更新します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果 カップリング・ファシリティーの使用率が増加することがあります。</p> <p>値 1000 は 1 秒の間隔を表します。デフォルト値は 200 ミリ秒です。</p> <p>ここに指定する CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>
リソース状況ファシリティー 集団	RODMPOP	CICSplex がリソース状況ファシリティーに識別され、このファシリティーによってモニターされるかどうかを示します。
RS サーバーのプール名	RSPOOLID	<p>sysplex 最適化ワークロードでは、領域状況データはカップリング・ファシリティー・データ・テーブル内で保守されます。このテーブルは、この属性で識別される CFDT プールに含まれます。最適化されたワークロードをアクティブ化する場合は、ここで指定したプール名のデータを管理するサーバーの領域状況がアクティブである必要があります。</p> <p>ご使用の CICSplex ID がシスプレックス内で固有でない場合は、RS サーバーのプール名を固有であるようにしてください。ご使用の Sysplex が固有の CICSplex ID で構成されている場合、すべて同じ RS サーバーのプール名が指定されます。</p> <p>デフォルト名は DFHRSTAT です。CICSplex データ・テーブルを収容するため、既存の CFDT プールを使用することができます。行う場合は、最適化ワークロードのスループットが、指定されたプール名へのユーザー・アプリケーション活動によって妨げられることがあることに注意してください。さらに、プールに対するアプリケーションのスループットがシスプレックスの最適化されたワークロードによって妨げられる可能性もあります。最適化ワークロード機能に対して個別の RS サーバーとプール名を定義することをお勧めします。</p> <p>注: この値の変更時に CICSplex でアクティブなすべてのルーターおよびターゲットの最適化された状態が、再始動するまで強制的に変更されます。RSPOOLID が間違っていて変更された場合、元の値に戻す変更を行うと、すべてのルーターおよびターゲットの最適化状態が再開されます。</p>
セキュリティ検査免除	SECBYPASS	<p>CICSplex SM が、CICS コマンドおよびリソース検査からの免除について、特定のユーザー ID を検査するかどうかを示します。</p> <p>入力値: YES NO</p>
CICS コマンド・セキュリティ検査のシミュレート	SECCMDCHK	<p>CICSplex SM セキュリティを使用して、CICSplex に関連付けられている CICS システムの CICS コマンド検査をシミュレートするかどうかを示します。</p> <p>入力値: YES NO</p>
CICS リソース・セキュリティ検査のシミュレート	SECRESCHK	<p>CICSplex SM セキュリティを使用して、CICSplex に関連付けられている CICS システムの CICS リソース検査をシミュレートするかどうかを示します。</p> <p>入力値: YES NO</p>

表 41. CPLEXDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
CICSplex の状態	STATE	<p>CICSplex の状態で、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アクティブ <ul style="list-style-type: none"> – CICSplex はアクティブです。 • 保留 <ul style="list-style-type: none"> – メンバーの CMAS すべてに対するバインディングが除去されると、CICSplex が除去されます。 • RECREATED <ul style="list-style-type: none"> – CICSplex は再作成中です。
CICSplex の削除を試みる状況	STATUS	状況 (非推奨)。
時間帯	TMEZONE	この CICSplex に関連付けられている時間帯を示すコード。
時間帯オフセット	TMEZONEO	指定した時間帯に追加する分数 (0 から 59 まで)。この調整は、標準ゾーンを使用しない地域の時刻参照を解決するのに使用されます。
RS サーバーの最上位層	TOPRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、領域の MAXTASK 値から減算されて、最上位層のタスク・ロード範囲を決定します。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 までとなります。値が演算比率として領域の MAXTASKS 設定に適用されます。結果として得られたタスク数値は、領域の MAXTASKS 設定値から減算されて、タスク・ロードの最上位層を設定します。領域内のタスク・ロードが MAXTASKS 制限に達した場合は、タスク・ロードがこの値を下回るまで、領域の MAXTASKS 状態はオフに切り替わらず、カップリング・ファシリティーにもブロードキャストされません。</p> <p>デフォルト値は 5% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティーのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。</p> <p>ここに示す CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>

表 41. CPLEXDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバー 更新頻度	UPDATERS	<p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、ターゲット CICS 領域のタスク・ロード値を変更するために CICS CFDT (RS) サーバーを呼び出す頻度を指定します。この値は、現在の CICSplex 定義におけるすべての CICS 領域のデフォルト頻度値になります。</p> <p>値の範囲は 0 から 25 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値が 0 の場合、タスク・ロード数に変更されても、RS サーバーには通知されないため、この CICSplex の有効範囲内の領域に対して最適化されたワークロード機能が無効になります。 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。その結果生じたタスク数の値は、RS サーバーへの更新呼び出しを行うための数値しきい値として使用されます。 <p>例えば、MAXTASKS 設定が 120 でこの属性が 20 に設定されている場合、領域タスク・カウントが以下のように変わるときに、WLM ロード・カウントを更新するよう RS サーバーが呼び出されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> タスク 23 と 24 (20%) 47 タスクから 48 タスクに - (40%)、 タスク 71 と 72 (60%) 95 タスクから 96 タスクに - (80%)、 タスク 119 と 120 (100%) <p>RS サーバーは、領域のタスク・ロードがこれらの境界をまたいで増加または減少したときに更新されます。</p> <p>1 から 25 スケールのうちの小さい値を指定すると、タスク・ロード範囲全体を通して RS サーバーを更新する頻度が増します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果カップリング・ファシリティの使用率が増加することがあります。</p> <p>ここに指定する CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>

CICSplex 定義中の CMAS - CPLXCMAS

「**CICSplex 定義中の CMAS**」(CPLXCMAS) ビューは、CICSplex に関連した CMAS に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー (Administration views)**」 > 「**CMAS 構成管理ビュー (CMAS configuration administration views)**」 > 「**CICSplex 定義中の CMAS (CMAS in CICSplex definitions)**」

表 42. 提供された 「CICSplex 定義中の CMAS」 (CPLXCMAS) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CICSplex 定義中の CMAS (CMAS in CICSplex definitions) EYUSTARTCPLXCMAS.DETAILED	選択した CMAS 定義に関する詳細情報
CICSplex 定義中の CMAS (CMAS in CICSplex definitions) EYUSTARTCPLXCMAS.TABULAR	コンテキストと識別される CMAS に関連した CICSplex 定義内のすべての CMAS に関するテーブル形式の情報
CICSplex 定義中の CMAS (CMAS in CICSplex definitions) EYUSTARTCPLXCMAS.UNASSIGN	FORCE オプションを指定するか、または指定せずに、選択された CMAS を CICSplex 定義から除去します。

アクション

表 43. CPLXCMAS ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
UNASSIGN	FORCE オプションを指定するか、または指定せずに、選択された CMAS を CICSplex 定義から除去します。

フィールド

表 44. CPLXCMAS ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
RS サーバーの最下位層	BOTRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、最下位層のタスク・ロード範囲 (ゼロからこの値まで) を定義するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 までとなります。領域のタスク・ロードがこの範囲内に入る場合は、タスク・ロードの変更ごとに、タスク・ロードがカップリング・ファシリティにブロードキャストされます。ロードがこの値に達すると、RS サーバー更新頻度のタスク規則が活動化されます。</p> <p>デフォルト値は 1% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。</p> <p>ここに示す CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。 DREPBATCH - CICSplex SM ユーティリティにより変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
CICSplex	CICSplex	1 文字から 8 文字までの CICSplex の名前。名前には英字、数字、国別文字を含めることができます。ただし、先頭文字は英字でなければなりません。
CMAS	CMASNAME	CICSplex に関連付けられている CMAS の名前。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
夏時間調整が有効	DAYLIGHTSV	指定した時間帯で夏時間調整が現在認識されているかどうかを示します。
パフォーマンス・データ間隔	INTERVAL	統計カウンターをリセットするまで、この CICSplex のモニター・データを累積する分数 (15 から 1440 まで)。
保守ポイント CMAS	MPNAME	保守ポイント CMAS の名前。
CMAS 保守ポイント状況	MPSTATUS	CMAS が CICSplex の保守ポイント CMAS かどうかを示します。

表 44. CPLXCMAS ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバー 読み取り間隔	READRS	<p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、CICS CFDT サーバーからのターゲット領域の状況をリフレッシュする最小間隔を指定します。これらのリフレッシュ要求は、動的ルーティング要求のターゲット領域を評価しているルーティング領域によって発行されます。</p> <p>値の範囲は 0 から 2000 で、ミリ秒単位で示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 0 は、ターゲット領域の状況を調べるたびに、ターゲット領域の状況更新をルーティング領域が要求することを意味します。 対象領域の状況を最新表示するまでの最小時間間隔を指定する場合は、1 から 2000 までの値を使用します。 <p>間隔値が小さい場合、より大きい値の場合よりも頻繁に、CFDT サーバーをポーリングして状況を更新します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果カップリング・ファシリティーの使用率が増加することがあります。</p> <p>値 1000 は 1 秒の間隔を表します。デフォルト値は 200 ミリ秒です。</p> <p>ここに指定する CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>
リソース状況ファシリティー 集団標識	RODMPOP	CICSplex がリソース状況ファシリティーに識別され、このファシリティーによってモニターされるかどうかを示します。
RS サーバーのプール名	RSPOOLID	<p>sysplex 最適化ワークロードでは、領域状況データはカップリング・ファシリティー・データ・テーブル内で保守されます。このテーブルは、この属性で識別される CFDT プールに含まれます。最適化されたワークロードをアクティブ化する場合は、ここで指定したプール名のデータを管理するサーバーの領域状況がアクティブである必要があります。</p> <p>ご使用の CICSplex ID がシスプレックス内で固有でない場合は、RS サーバーのプール名を固有であるようにしてください。ご使用の Sysplex が固有の CICSplex ID で構成されている場合、すべて同じ RS サーバーのプール名が指定されます。</p> <p>デフォルト名は DFHRSTAT です。CICSplex データ・テーブルを収容するため、既存の CFDT プールを使用することができます。行う場合は、最適化ワークロードのスループットが、指定されたプール名へのユーザー・アプリケーション活動によって妨げられることがあることに注意してください。さらに、プールに対するアプリケーションのスループットがシスプレックスの最適化されたワークロードによって妨げられる可能性もあります。最適化ワークロード機能に対して個別の RS サーバーとプール名を定義することをお勧めします。</p>
セキュリティの迂回	SECBYPASS	<p>この CICS システムに関するすべてのシミュレートされた CICS セキュリティー検査を迂回するかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> YES - この CICS システムに関するすべてのシミュレートされた CICS セキュリティー検査を迂回します。 NO - この CICS システムに関するシミュレートされた CICS セキュリティー検査を迂回しません。 INHERIT - この CICS システムに関連した CICSplex に割り当てられている値を使用します。
セキュリティのコマンド・チェック	SECCMDCHK	<p>CICSplex SM セキュリティーを使用して、CICSplex に関連付けられている CICS システムの CICS コマンド検査をシミュレートするかどうかを示します。</p> <p>入力値: YES NO</p>
セキュリティのリソース・チェック	SECRESCHK	<p>CICSplex SM セキュリティーを使用して、CICSplex に関連付けられている CICS システムの CICS リソース検査をシミュレートするかどうかを示します。</p> <p>入力値: YES NO</p>

表 44. CPLXCMAS ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
状態	STATE	<p>CICSplex に対する CMAS 関連の現在の状態。次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NORMAL - CMAS は CICSplex の管理にアクティブに参加しています。 • CREATING - CMAS を CICSplex の管理に追加する要求が行われましたが、まだ CMAS はコンタクトされていません。 • REMOVING - CMAS を CICSplex の管理から除去する要求が行われましたが、まだ CMAS はコンタクトされていません。
状況	STATUS	<p>CICSplex の状況。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CREPEND - 作成処理中。 • ACTIVE - CICSplex はアクティブ。 • UPDPEND - 更新処理中。 • DELPEND - 除去処理中 • UNDELETE - REM/CRE 周期
CMAS システム ID	SYSID	CMAS の 4 文字のシステム ID。
時間帯	TMEZONE	この CICSplex に関連付けられている時間帯を示すコード。
時間帯オフセット	TMEZONEO	指定した時間帯に追加する分数 (0 から 59 まで)。この調整は、標準ゾーンを使用しない地域の時刻参照を解決するのに使用されます。
RS サーバーの最上位層	TOPRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、領域の MAXTASK 値から減算されて、最上位層のタスク・ロード範囲を決定します。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 までとなります。値が演算比率として領域の MAXTASKS 設定に適用されます。結果として得られたタスク数値は、領域の MAXTASKS 設定値から減算されて、タスク・ロードの最上位層を設定します。領域内のタスク・ロードが MAXTASKS 制限に達した場合は、タスク・ロードがこの値を下回るまで、領域の MAXTASKS 状態はオフに切り替わらず、カップリング・ファシリティにもブロードキャストされません。</p> <p>デフォルト値は 5% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。</p> <p>ここに示す CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>

表 44. CPLXCMAS ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバー更新頻度	UPDATERS	<p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、ターゲット CICS 領域内のタスク・ロード値を変更するために CICS CFDT (RS) サーバーを呼び出す頻度を示します。この値は、現在の CICSplex 定義におけるすべての CICS 領域のデフォルト頻度値になります。</p> <p>値の範囲は 0 から 25 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値が 0 の場合、タスク・ロード数が増えられても、RS サーバーには通知されないため、この CICSplex の有効範囲内の領域に対して最適化されたワークロード機能が無効になります。 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。その結果生じたタスク数の値は、RS サーバーへの更新呼び出しを行うための数値しきい値として使用されます。 <p>例えば、MAXTASKS 設定が 120 でこの属性が 20 に設定されている場合、領域タスク・カウントが以下のように変わるときに、WLM ロード・カウントを更新するよう RS サーバーが呼び出されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> タスク 23 と 24 (20%) 47 タスクから 48 タスクに - (40%)、 タスク 71 と 72 (60%) 95 タスクから 96 タスクに - (80%)、 タスク 119 と 120 (100%) <p>RS サーバーは、領域のタスク・ロードがこれらの境界をまたいで増加または減少したときに更新されます。</p> <p>報告された値が 1 から 25 スケールのうちの小さい値の場合、そのタスク・ロード範囲全体を通して RS サーバーを更新する頻度が増します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果 カップリング・ファシリティの使用率が増加することがあります。</p> <p>ここに示す CICSplex レベルの値は、個々の CICS 領域ベースで値を微調整できるように、CICS 定義レベルでオーバーライドされる場合があります。</p>

CMAS から CMAS へのリンク定義 - CMTCMDEF

「**CMAS から CMAS へのリンク定義**」(CMTCMDEF) ビューは、ローカル CMAS と他の CMAS の間の直接 LU 6.2 および MRO 通信リンクに関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー (Administration views)**」 > 「**CMAS 構成管理ビュー (CMAS configuration administration views)**」 > 「**CMAS から CMAS へのリンク定義 (CMAS to CMAS link definitions)**」

表 45. 提供された 「CMAS から CMAS へのリンク定義 (CMAS to CMAS link definitions)」 (CMTCMDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CMAS から CMAS へのリンク定義 (CMAS to CMAS link definitions) EYUSTARTCMTCMDEF.CREATE	新しい CMAS 間リンク定義を作成します。
CMAS から CMAS へのリンク定義 (CMAS to CMAS link definitions) EYUSTARTCMTCMDEF.DETAILED	選択されたターゲット CMAS へのリンクに関する詳細情報。
CMAS から CMAS へのリンク定義 (CMAS to CMAS link definitions) EYUSTARTCMTCMDEF.REMOVE	データ・リポジトリから CMAS 間リンク定義を除去します。

表 45. 提供された「CMAS から CMAS へのリンク定義 (CMAS to CMAS link definitions)」 (CMTCMDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
CMAS から CMAS へのリンク定義 (CMAS to CMAS link definitions) EYSTARTCMTCMDEF.TABULAR	コンテキストとして識別された CMAS に関連付けられたすべての CMAS から CMAS へのリンク定義に関する表形式の情報。
CMAS から CMAS へのリンク定義 (CMAS to CMAS link definitions) EYSTARTCMTCMDEF.UPDATE	データ・リポジトリ中の CMAS 間リンク定義を更新します。

アクション

表 46. CMTCMDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	新しい CMAS 間リンク定義を作成します。
REMOVE	データ・リポジトリから CMAS 間リンク定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ中の CMAS 間リンク定義を更新します。

フィールド

表 47. CMTCMDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	CMAS 間リンクの説明。 入力値: 1 から 58 文字の説明
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
LU 6.2 モード	MODENAME	LU6.2 リンクの場合、リンクに関連した VTAM モード・テーブルのエントリー。
リンク・プロトコル	PROTOCOL	この CMAS 間リンクで使用されているプロトコルのタイプ (LU62 または MRO)。

表 47. CMTCMDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
受信バッファ・サイズ	RECVBUF	<p>リンクの受信バッファのサイズ (256 から 30720 までの範囲)。リンクが通過できるすべての NCP 中の MAXDATA の最小値より 36 バイト小さいサイズを指定する必要があります。この 36 バイトにより、VTAM 必須ヘッダー分の余裕が設けられます。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> 送信および受信バッファに指定される値が VTAM に対して大きすぎる場合、試行された接続が VTAM エラーにより失敗します。実際、2 つの CMAS が接続したすぐ後に、接続はタイムアウトになります。接続を再確立できますが、引き続きタイムアウトになります。これが起きるときには、指定されたバッファ・サイズがここでリストされているガイドラインの範囲内かどうかを確認します。 <p>バッファ・サイズが推奨される大きさではない場合、「CMAS から CMAS へのリンク定義」ビューを使用して両サイドで定義を再作成し、適切なバッファ・サイズを指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> MRO の場合、接続上の SENDSIZE 値および RECEIVESIZE 値は、CICS によってほとんど無視されます。特に接続の使用が CICS DTP (CMAS から CMAS への通信で使用されるモデル) に限られているときに無視されます。そのため、何に設定されているかは特に関係ありません。MRO リンクにとって、より重要なのは IOAREALEN です。ただし、CMAS から CMAS へのリンク定義を使って、CMAS に後でインストールされる SESSIONS 定義で使用される IOAREALEN を変更することはできません。CICSplex SM は MRO SESSIONS 定義の IOAREALEN を 8192 に設定します。これは CMAS から CMAS への通信が使用するバッファの最大サイズです。
MRO 受信接頭部	RECVPFX	<p>端末管理テーブルの端末入力 (TCTTE) 名の先頭 2 文字として使用される、2 文字の接頭部。この接頭部により、既存の接続名が端末名と一致する TCTTE 名が生成されないことに注意してください。(MRO 接続の場合のみ必須。)</p>
使用される接続時間セキュリティのタイプ	SECATTACH	<p>リンク上で着信トランザクション用に関連付けられるユーザー ID のソース:</p> <ul style="list-style-type: none"> LOCAL <ul style="list-style-type: none"> 着信トランザクションに関連付けられるユーザー ID は、「セキュリティ名」フィールドに関連した値です。 IDENTIFY <ul style="list-style-type: none"> 着信トランザクションに関連付けられるユーザー ID は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ターゲット・システムから受信したシステム検証ユーザー ID か、何も受信しない場合は CICS デフォルト・ユーザー。 「セキュリティ名 (Security Name)」フィールドに関連したユーザー ID。
セキュリティ目的のためのリモート・システムのユーザー ID	SECNAME	<p>LU 6.2 リンクの場合、着信トランザクションに関連付けられるユーザー ID。値を指定しないと、CICS デフォルト・ユーザー ID が使用されます。</p> <p>MRO リンクの場合、この値は無視され、ターゲット・システムに関連した CICS 領域ユーザー ID が「セキュリティ名」の値として使用されます。</p>

表 47. CMTCMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
送信バッファ・サイズ	SENDBUF	<p>リンクの送信バッファのサイズ (256 から 30720 までの範囲)。リンクが通過できるすべての NCP 中の MAXDATA の最小値より 36 バイト小さいサイズを指定する必要があります。この 36 バイトにより、VTAM 必須ヘッダー分の余裕が設けられます。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> 送信および受信バッファに指定される値が VTAM に対して大きすぎる場合、試行された接続が VTAM エラーにより失敗します。実際、2 つの CMAS が接続したすぐ後に、接続はタイムアウトになります。接続を再確立できますが、引き続きタイムアウトになります。これが起きるときには、指定されたバッファ・サイズがここでリストされているガイドラインの範囲内かどうかを確認します。 <p>バッファ・サイズが推奨される大きさではない場合、「CMAS から CMAS へのリンク定義」ビューを使用して両サイドで定義を再作成し、適切なバッファ・サイズを指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> MRO の場合、接続上の SENDSIZE 値および RECEIVESIZE 値は、CICS によってほとんど無視されます。特に接続の使用が CICS DTP (CMAS から CMAS への通信で使用されるモデル) に限られているときに無視されます。そのため、何に設定されているかは特に関係ありません。MRO リンクにとって、より重要なのは IOAREALEN です。ただし、CMAS から CMAS へのリンク定義を使って、CMAS に後でインストールされる SESSIONS 定義で使用される IOAREALEN を変更することはできません。CICSplex SM は MRO SESSIONS 定義の IOAREALEN を 8192 に設定します。これは CMAS から CMAS への通信が使用するバッファの最大サイズです。
MRO 送信接頭部	SENDPFX	TCTTE 名の先頭 2 文字として使用される、2 文字の接頭部。この接頭部により、既存の接続名か端末名と一致する TCTTE 名が生成されないことに注意してください。(MRO 接続の場合のみ必須。)
ターゲット・システム ID	SYSID	ターゲット CMAS の CICS システム ID。
ターゲット VTAM のアプリケーション ID	TARGETAPPL	ターゲット CMAS の VTAM アプリケーション ID。
ターゲット CMAS	TARGETNAME	ローカル CMAS のリンク先の CMAS の名前。

CMAS からリモート MAS へのリンク定義 - CMTPMDEF

このリリースの CICS ではリモート MAS はサポートされていません。現在では CMTPMDEF ビューは廃止されています。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CMAS 構成管理ビュー」 > 「CMAS からリモート MAS へのリンク定義」

表 48. 提供された 「CMAS からリモート MAS へのリンク定義」 (CMTPMDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CMAS からリモート MAS へのリンク定義 EYUSTARTCMTPMDEF.DETAILED	選択した CMAS からリモート MAS へのリンク定義に関する詳細情報
CMAS からリモート MAS へのリンク定義 EYUSTARTCMTPMDEF.TABULAR	CMAS からリモート MAS へのすべてのリンク定義に関するテーブル形式の情報

アクション

なし。

フィールド

表 49. CMTPMDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
定義が変更された最終時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最終変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。

付録 D モニター管理ビュー

「モニター管理」ビューでは、モニター要件の定義と保守を行うことができます。モニター機能では、CICSplex 内の指定のリソース・インスタンスのパフォーマンス 関連データの、ユーザー定義の間隔での収集がサポートされます。

仕様 - MONSPEC

「モニター仕様」(MONSPEC) ビューには、CICSplex SM によりモニターされる CICS リソース・タイプに関する情報が表示されます。モニター仕様では、モニター対象リソースのタイプと、これらのリソースに対する情報収集の頻度を指定します。モニター仕様と CICS システムを関連付けた後は、CICS システムを始動するたびに、その仕様が自動的にインストールされます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「モニター管理ビュー」 > 「仕様」

表 50. 提供された「モニター仕様」(MONSPEC) ビュー・セットのビュー

ビュー	注
モニター仕様 EYUSTARTMONSPEC.ADDSYSDEF	モニター仕様を CICS システムに関連付けます。
モニター仕様 EYUSTARTMONSPEC.ADDSYSGRP	モニター仕様を CICS システム・グループに関連付けます。
モニター仕様 EYUSTARTMONSPEC.CREATE	モニター仕様を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
モニター仕様 EYUSTARTMONSPEC.DETAILED	選択したモニター仕様に関する詳細情報
モニター仕様 EYUSTARTMONSPEC.REMOVE	データ・リポジトリからモニター仕様を除去します。
モニター仕様 EYUSTARTMONSPEC.TABULAR	現行コンテキスト内のすべてのモニター仕様に関するテーブル形式の情報

アクション

表 51. MONSPEC ビューで使用可能なアクション

アクション	説明
ADDSYSDEF	モニター仕様を CICS システムに関連付けます。
ADDSYSGRP	モニター仕様を CICS システム・グループに関連付けます。
CREATE	モニター仕様を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリからモニター仕様を除去します。
UPDATE	選択したモニター仕様を更新します。

フィールド

表 52. MONSPEC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
モニター活動化状況	ACTSTATUS	<p>関連した CICS システムの初期化時にモニターをアクティブにするかどうかを示します。</p> <p>フィールドが有効になるのは、CICS システムの関連定義 (CSYSDEF) 内で「モニター状況」が INHERIT に設定されている場合のみです。動的にインストールされたモニター定義や、アクティブ・モニターに対して加えられた動的変更に対しては、このフィールドは適用されません。</p>
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
CICS 領域モニターのサンプリング間隔	CICSSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。</p> <p>注: フィールドが有効になるのは、CICS システムの関連定義 (CSYSDEF) 内で CICSSAMP が INHERIT に設定されている場合のみです。</p>
接続モニターのサンプリング間隔	CONNSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。</p> <p>注: フィールドが有効になるのは、CICS システムの関連定義 (CSYSDEF) 内で CONNSAMP が INHERIT に設定されている場合のみです。</p>
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
DB2 および DBCTL モニターのサンプリング間隔	DBXSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。</p> <p>注: フィールドが有効になるのは、CICS システムの関連定義 (CSYSDEF) 内で DBXSAMP が INHERIT に設定されている場合のみです。</p>
説明	DESC	モニター仕様の説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
ファイル・モニターのサンプリング間隔	FILESAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。</p> <p>注: フィールドが有効になるのは、CICS システムの関連定義 (CSYSDEF) 内で FILESAMP が INHERIT に設定されている場合のみです。</p>
グローバル領域モニターのサンプリング間隔	GLBLSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。</p> <p>注: フィールドが有効になるのは、CICS システムの関連定義 (CSYSDEF) 内で GLBLSAMP が INHERIT に設定されている場合のみです。</p>
ジャーナル・モニターのサンプリング間隔	JRNLSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。</p> <p>注: フィールドが有効になるのは、CICS システムの関連定義 (CSYSDEF) 内で JRNLSAMP が INHERIT に設定されている場合のみです。</p>
仕様	NAME	モニター仕様の名前。

表 52. MONSPEC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
プログラム・モニターのサンプリング間隔	PROGSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。 注: フィールドが有効になるのは、CICS システムの関連定義 (CSYSDEF) 内で PROGSAMP が INHERIT に設定されている場合のみです。
データ保存期間	RETENTION	収集されたデータがリソース・モニターの停止後に保持される分数。(リソース・モニターが停止するのは、CICS システムの停止時か、MAS ビュー・コマンドを使用して CICS システムのリソース・モニターを停止する場合です。)可能な保存期間は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 - 1440 <ul style="list-style-type: none"> – 収集されたデータは、指定された分数だけ保持されます。 • 0 <ul style="list-style-type: none"> – 収集されたデータは保持されません。 • INHERIT <ul style="list-style-type: none"> – CICS システムは、関連するモニター仕様で指定された値を使用ようになります。 注: この値は、CSYSDEF および MAS ビューで設定された RETENTION 値によって指定変更されることがあります。
リソース状況ファシリティの CMAS 名	RODMCMAS	このモニター仕様に関連付けられたすべてのリソース状況ファシリティ要求を処理する CMAS を指定します。
TDQ モニターのサンプリング間隔	TDQSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。 注: フィールドが有効になるのは、CICS システムの関連定義 (CSYSDEF) 内で TDQSAMP が INHERIT に設定されている場合のみです。
端末モニターのサンプリング間隔	TERMSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。 注: フィールドが有効になるのは、CICS システムの関連定義 (CSYSDEF) 内で TERMSAMP が INHERIT に設定されている場合のみです。
トランザクション・モニターのサンプリング間隔	TRANSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数(1 から 86400 の範囲)。値 0 は、リソース・モニターが行われないという意味です。 注: フィールドが有効になるのは、CICS システムの関連定義 (CSYSDEF) 内で TRANSAMP が INHERIT に設定されている場合のみです。

グループ - MONGROUP

「モニター・グループ定義」(MONGROUP) ビューには、モニター・グループに関する情報が表示されます。モニター・グループとは単一のエンティティとして扱われるモニター定義の集合のことをいいます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「モニター管理ビュー」 > 「グループ」

表 53. 提供された「モニター・グループ定義」(MONGROUP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
モニター・グループ定義 EYUSTARTMONGROUP.ADDTOSPC	モニター・グループとモニター仕様間の関連付けを追加します。

表 53. 提供された「モニター・グループ定義」 (MONGROUP) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
モニター・グループ定義 EYUSTARTMONGROUP.CREATE	モニター・グループを作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
モニター・グループ定義 EYUSTARTMONGROUP.DETAILED	選択したモニター・グループに関する詳細情報
モニター・グループ定義 EYUSTARTMONGROUP.INSTALL	モニター・グループに関連付けられたモニター定義を CICS システムまたは CICS システム・グループにインストールします。
モニター・グループ定義 EYUSTARTMONGROUP.REMOVE	データ・リポジトリからモニター・グループを除去します。
モニター・グループ定義 EYUSTARTMONGROUP.TABULAR	現行コンテキスト内のすべてのモニター・グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 54. MONGROUP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOSPC	モニター・グループとモニター仕様間の関連付けを追加します。
CREATE	モニター・グループを作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	モニター・グループに関連付けられたモニター定義を CICS システムまたは CICS システム・グループにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからモニター・グループを除去します。
UPDATE	選択したモニター・グループを更新します。

フィールド

表 55. MONGROUP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更された時の現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	モニター・グループの説明 (1 から 58 文字まで)。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
名前	NAME	モニター・グループの名前。

定義 - MONDEF

「モニター定義」 (MONDEF) ビューには、モニターに含まれるリソース・タイプまたはそこから除外されるリソース・タイプで、モニター仕様で指定されるものに関する情報が表示されます。モニター定義は、どのリソースがリソース状況ファシリティに報告されるかも指定します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー (Administration views)」 > 「モニター管理ビュー (Monitor administration views)」 > 「Definitions (定義)」

表 56. 提供された「モニター定義」(MONDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
モニター定義 EYUSTARTMONDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のモニター定義をモニター・グループに追加します。
モニター定義 EYUSTARTMONDEF.CREATE	モニター定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
モニター定義 EYUSTARTMONDEF.DETAILED	選択したモニター定義に関する詳細情報
モニター定義 EYUSTARTMONDEF.INSTALL	モニター定義を CICS システムまたは CICS システム・グループにインストールします。
モニター定義 EYUSTARTMONDEF.REMOVE	データ・リポジトリからモニター定義を除去します。
モニター定義 EYUSTARTMONDEF.TABULAR	現行コンテキスト内のすべてのモニター定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 57. MONDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上のモニター定義をモニター・グループに追加します。
CREATE	モニター定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	モニター定義を CICS システムまたは CICS システム・グループにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからモニター定義を除去します。
UPDATE	選択したモニター定義を更新します。

フィールド

表 58. MONDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	モニター定義の説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
CPSM モニター・オプションに含む	INCLUDE	リソース名およびタイプ・フィールドで識別されるリソースが CICSplex SM モニターに含められるか除外されるかを示します。

表 58. MONDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
名前	NAME	モニター定義の名前。
リソース・クラスのモニター	RESCCLASS	モニター・リソース・クラス。オプションとしては、MCONN、MFILE、MJRNL、MPROG、MTDQS、MTERM、MTRAN があります。
モニターされているリソースの名前または総称名	RESNAME	モニター定義が適用されるリソース (複数の場合あり) の名前。アスタリスク (*) または正符号 (+) を含む名前は総称名で、複数のリソースを表す場合があります。
リソース状況ファシリティグループ	RODMPOP	リソース名およびタイプ・フィールドで識別されるリソースが、リソース状況ファシリティで識別され、モニターされるかどうかを示します。

時間枠 - PERIODEF

「**時間枠定義**」(PERIODEF) ビューは、リソース・モニターやリアルタイム分析で、特定のアクションの開始時と停止時の指定に使用される時間枠に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**RTA 分析点モニター**」 > 「**時間枠**」

表 59. 提供された「 時間枠定義 」(PERIODEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.CREATE	新規の時間枠定義を作成します。
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.DETAILED	選択した時間枠定義に関する詳細情報
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.REMOVE	データ・リポジトリから時間枠定義を除去します。
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.TABULAR	現行コンテキスト内のすべての時間枠定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 60. PERIODEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	新規の時間枠定義を作成します。
REMOVE	データ・リポジトリから時間枠定義を除去します。
UPDATE	既存の時間枠定義を作成します。

フィールド

表 61. PERIODEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。

表 61. PERIODEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	期間定義の説明。 入力値: 1 から 58 文字の説明
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
終了時間	END	期間が終わる時分単位の時刻。 入力値: 00:00 から 23:59 まで
名前	NAME	期間定義の名前。CICSplex 中で固有です。
開始時間	START	期間が始まる時分単位の時刻。 入力値: 00:00 から 24:00 まで
時間帯	ZONE	この期間定義が適用される時間帯を識別する、A から Z までの 1 文字のコード。 これらのコードは、それぞれ 24 の標準の 国際的な時間帯の 24 時間制 ID を表します。これらの コードが表す時間帯は、グリニッジ標準時(GMT) を表す Z を先頭にして、アルファベットの 逆順に GMT から西へ移動します。 注: 時間帯コード A を使用する期間定義は、この定義を使用する CMAS または CICS システムの現行時間帯に従って適用されます。
時間帯調整係数	ZONEADJ	標準的な時間帯を使用しない地域の場合に、時間帯に追加する分数。 期間定義の時間帯が A の場合、この値は無視されます。 入力値: 0 から 59 まで

仕様とシステムとの間のリンク - LNKSMSCS

「モニター仕様と CICS システムとの間のリンク」(LNKSMSCS) ビューには、モニター仕様と関連付けられる CICS システムに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「モニター管理ビュー」 > 「仕様とシステムとの間のリンク」

表 62. 提供された「モニター仕様と CICS システムとの間のリンク」(LNKSMSCS) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
モニター仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSMSCS.CHGSPEC	モニター仕様と CICS システムの間のリンクを更新します。
モニター仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSMSCS.CREATE	モニター仕様と CICS システムの間にリンクを作成します。
モニター仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSMSCS.DETAILED	選択したリンクに関する詳細情報
モニター仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSMSCS.REMOVE	CICS システムとモニター仕様との間のリンクを除去します。

表 62. 提供された「モニター仕様と CICS システムとの間のリンク」(LNKSMSCS) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
モニター仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSMSCS.TABULAR	現行コンテキスト内のモニター仕様および CICS システム間のすべてのリンクに関するテーブル形式の情報

アクション

表 63. LNKSMSCS ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CHGSPEC	モニター仕様と CICS システムの間のリンクを更新します。
CREATE	モニター仕様と CICS システムの間にリンクを作成します。
REMOVE	CICS システムとモニター仕様との間のリンクを除去します。

フィールド

表 64. LNKSMSCS ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
MONSPEC が継承するシステム・グループ	GROUP	モニター仕様の継承元となった CICS システム・グループの名前。
作成モード	LINK	CICS システムがどのようにモニター仕様と関連しているかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> EXPLICIT <ul style="list-style-type: none"> CICS システムが仕様に直接関連しています。 INHERIT <ul style="list-style-type: none"> CICS システムがメンバーになっている CICS システム・グループから仕様を継承しました。
モニター仕様	SPEC	モニター仕様の名前。
CICS システム	SYSTEM	リンクされている CICS システムの名前。

仕様とシステムとの間のリンク - LNKSMSCG

「モニター仕様とシステム・グループとの間のリンク」(LNKSMSCG) ビューには、モニター仕様と関連付けられる CICS システム・グループに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「モニター管理ビュー」 > 「仕様とシステム・グループとの間のリンク」

表 65. 提供された「モニター仕様とシステム・グループとの間のリンク」(LNKSMSCG) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
モニター仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSMSCG.CHGSPEC	モニター仕様と CICS システム・グループの間のリンクを更新します。
モニター仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSMSCG.CREATE	モニター仕様と CICS システム・グループの間にリンクを作成します。
モニター仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSMSCG.DETAILED	選択したリンクに関する詳細情報
モニター仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSMSCG.REMOVE	CICS システム・グループとモニター仕様との間のリンクを除去します。
モニター仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSMSCG.TABULAR	現行コンテキスト内のすべてのモニター仕様および関連 CICS システム・グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 66. LNKSMSCG ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CHGSPEC	モニター仕様と CICS システム・グループの間のリンクを更新します。
CREATE	モニター仕様と CICS システム・グループの間にリンクを作成します。
REMOVE	CICS システム・グループとモニター仕様との間のリンクを除去します。

フィールド

表 67. LNKSMSCG ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
システム・グループ	GROUP	リンクされている CICS システム・グループの名前。
モニター仕様	SPEC	モニター仕様の名前。

モニター仕様内のモニター・グループ - MONINSPC

「モニター仕様内のモニター・グループ」(MONINSPC) ビューには、モニター仕様の名前と、それに関連付けられるモニター・グループの名前が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「モニター管理ビュー」 > 「モニター仕様内のモニター・グループ」

表 68. 提供された「モニター仕様内のモニター・グループ」(MONINSPC) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
モニター仕様内のモニター・グループ EYUSTARTMONINSPC.CREATE	モニター・グループとモニター仕様との間の関連を作成します。
モニター仕様内のモニター・グループ EYUSTARTMONINSPC.DETAILED	選択したモニター仕様に関する詳細情報
モニター仕様内のモニター・グループ EYUSTARTMONINSPC.REMOVE	モニター・グループとモニター仕様との間のリンクを除去します。
モニター仕様内のモニター・グループ EYUSTARTMONINSPC.TABULAR	現行コンテキスト内のすべてのモニター仕様と関連モニター・グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 69. MONINSPC ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	モニター・グループとモニター仕様との間の関連を作成します。
REMOVE	モニター・グループとモニター仕様との間のリンクを除去します。

フィールド

表 70. MONINSPC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
モニター・グループ	GROUP	モニター仕様に関連付けられるモニター・グループの名前。
モニター仕様	SPEC	モニター仕様の名前。

グループ内の定義 - MONINGRP

MONINGRP ビューには、モニター・グループ (MONGROUP) 内でのモニター定義 (MONDEF) のメンバーシップに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「モニター管理ビュー」 > 「グループ内の定義」

表 71. 提供された「グループ内のモニター定義」(MONINGRP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
グループ内のモニター定義 EYUSTARTMONINGRP.CREATE	モニター・グループおよびモニター定義と関連付けられている期間の定義を変更します。

表 71. 提供された「グループ内のモニター定義」(MONINGRP) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
グループ内のモニター定義 EYUSTARTMONINGRP.DETAILED	選択したモニター定義に関する詳細情報
グループ内のモニター定義 EYUSTARTMONINGRP.REMOVE	モニター定義とモニター・グループとの間の関連をデータ・リポジトリから除去します。
グループ内のモニター定義 EYUSTARTMONINGRP.TABULAR	現行コンテキスト内のすべてのモニター定義および関連モニター・グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 72. MONINGRP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	モニター・グループおよびモニター定義と関連付けられている期間の定義を変更します。
REMOVE	モニター定義とモニター・グループとの間の関連をデータ・リポジトリから除去します。
UPDATE	リンクされているモニター・グループおよびモニター定義と関連付けられている期間の定義を変更します。

フィールド

表 73. MONINGRP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
期間定義	ACTIVETIME	このグループ内のモニター定義がアクティブになる期間。既存の期間定義のリストを確認するには、「時間定義」(EYUSTARTPERIODEF) TABULAR ビューを使用します。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
モニター定義	DEFNAME	モニター・グループに関連付けられたモニター定義の名前。
モニター・グループ	GROUP	モニター・グループの名前。

付録 E トポロジー管理ビュー

「トポロジー管理」ビューでは、CICS システム定義、CICS システム・グループ定義、および時間枠定義の作成と保守を行うことができます。

CICS システム定義 - CSYSDEF

「**CICS システム定義**」(CSYSDEF) ビューには、CICSplex の一部として管理下に置かれる CICS システムについて記述した CPSM トポロジー定義が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS システム・リンクおよび関連リソース (CICS system links and related resources)**」 > 「**CICS システム定義 (CICS system definitions)**」の順にクリックします。

表 74. 提供された「**CICS システム定義 (CICS system definitions)**」(CSYSDEF) ビュー・セットのビュー

ビュー	注
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の CICS システム定義を CICS システム・グループに追加します。
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.CREATE	CICS システム 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.DETAILED	選択した CICS システム定義に関する詳細情報
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.REMOVE	データ・リポジトリから CICS システム定義を除去します。 • 注: CICS システム定義名が BAS 定義内の SCOPE として指定される場合、REMOVE は失敗して、レコードが使用中であると表示されます。
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべての CICS システム 定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 75. CSYSDEF ビューで使用可能なアクション

アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の CICS システム定義を CICS システム・グループに追加します。
CREATE	CICS システム定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリから CICS システム定義を除去します。 • 注: CICS システム定義名が BAS 定義内の SCOPE として指定される場合、REMOVE は失敗して、レコードが使用中であると表示されます。
UPDATE	データ・リポジトリ内の CICS システム定義を更新します。

フィールド

表 76. CSYSDEF ビューのフィールド

フィールド	属性名	説明
期間定義名	ACTVTIME	この CICS システムの実行時間を識別する期間定義の名前。

表 76. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
BAS インストール失敗時のアクション	AINSFAIL	<p>BAS インストールに失敗した場合に行うアクションを示します。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CONTINUE <ul style="list-style-type: none"> – 他のリソースのインストールを続けます。 • NORMAL <ul style="list-style-type: none"> – CICS システムを正常にシャットダウンします。 • PROMPT <ul style="list-style-type: none"> – アクションを求めるプロンプトをオペレーター・コンソールに出します。CICS システムでのリソース・インストール・プロセスは、オペレーターが応答するまで中断されますが、他のすべての MAS 処理は続行されます。 • TERMINATE <ul style="list-style-type: none"> – リソースのインストール・プロセスを終了します。これ以上リソースはインストールされません。正常にインストールされたリソースはどれも除去されません。 • IMMEDIATE <ul style="list-style-type: none"> – CICS システムを直ちにシャットダウンします。 <p>アプリケーション用またはプラットフォーム用に CICS バンドルによって生成されたリソースがインストールに失敗した場合、このアクションは実行されません。</p>
アプリケーション ID	APPLID	CICS システムのアプリケーション ID は、相互通信ネットワーク内での認識に使われる名前、すなわちネット名です。
BAS リソース・インストール・オプション	AUTOINST	<p>リソース記述によりシステムに関連付けられたリソースを、MAS から CMAS への接続時に自動的にインストールするかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ALWAYS - CICS の始動後に、MAS が接続するたびにリソースをインストールします。 • COLDONLY - CICS INITIAL または COLD スタート後に MAS が接続する際に限り、リソースをインストールします。 • NEVER - この CICS システムにリソースを自動的にインストールすることはありません。 • WARMONLY - CICS ウォーム・スタートまたは緊急時再始動 (AUTO) 後に MAS が接続する際に限り、リソースをインストールします。 <p>このオプションは、アプリケーションまたはプラットフォーム用に CICS バンドルによって生成されたリソースには適用されません。</p>
RS サーバーの最下位層	BOTRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、最下位層のタスク・ロード範囲 (ゼロからこの値まで) を定義するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 • 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。0 からこの値までのタスク数の値が、タスク・ロード最下位層として認識されます。領域のタスク・ロードがこの範囲に入場合は、ロードの変更ごとにカップリング・ファシリティにブロードキャストされます。ロードがこの値に達すると、RS サーバー更新頻度のタスク規則が活動化されます。 <p>デフォルト値は 1% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。この値に対する変更は、次回領域を開始するときに適用されます。</p>

表 76. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。 DREPBATCH - CICSplex SM ユーティリティにより変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
CICS 領域モニターのサンプリング間隔	CICSSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
接続モニターのサンプリング間隔	CONNSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
CSYSDEF コンテキスト	CONTEXT	これは、照会のための CICSplex コンテキストを識別する出力専用フィールドです。UPDATERS 属性および READRS 属性のハイパーリンクを有効にする必要があります。
定義元	CREATEORIGIN	定義の作成元を指定します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> N_A - 定義は、ユーザーまたは API プログラムによって作成されました。 PLATFORM - 定義は、プラットフォームのインストール中に作成されました。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
夏時間調整が有効	DAYLIGHTSV	夏時間調整を現在設定しているかどうかを示します。以下のように指定します。 <ul style="list-style-type: none"> YES - 夏時間調整時刻を設定する。 NO - 夏時間調整時刻を設定しない。 INHERIT - アクティブ時にこの CICS システムの接続先となる CMAS に割り当てられた値を継承します。この CICS システムが非アクティブの場合、この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS から、値が継承されます。INHERIT は時間帯 (TMEZONE) および時間帯オフセット (TMEZONEO) も INHERIT の場合のみ、指定できます。
DB2/DBCTL モニターのサンプリング間隔	DBXSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
説明	DESC	CICS システム 定義の説明 (1 から 58 文字まで)。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。

表 76. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
始動時にアクティブなターゲット領域	DYNROUTE	<p>CICS の始動時に、この CICS システムがターゲット領域としてアクティブになり、ワークロードのターゲットとして作業を受け入れるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - CICS システムはアクティブ・ターゲットとなり、CICS 始動時にこれをターゲットとするワークロードの作業を受け入れます。 • NO - CICS システムはターゲット領域ではありません。つまり CICS システムが静止して、CICS 始動時にこれをターゲットとするワークロードの作業を受け入れなくなります。 <p>「アクティブなワークロードでのターゲット領域」 (EYUSTARTWLMWAOR) ビューを使用して、ワークロードのターゲット領域をアクティブ化または静止することができます。</p> <p>通常、ターゲット領域ではこのオプションが YES に設定されます。ルーティング領域がワークロード内のターゲット領域としても機能する場合、その領域では、このオプションが YES に設定されている場合があります。</p>
ファイル・モニターのサンプリング間隔	FILESAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。</p>
グローバル領域モニターのサンプリング間隔	GLBLSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。</p>
ホスト名	HOST	<p>システムの 10 進 IPv4 アドレス (例えば 9.20.181.3)、またはそのコロン 16 進 IPv6 アドレス (例えば ABCD:EF01::2345:6789) に関する 116 文字から成るホスト名。IPv4 互換 IPv6 アドレス (非推奨) または IPv4 にマップされる IPv6 アドレス (例えば ::FFFF:1.2.3.4) として IPv4 アドレスが入力される場合、標準の IPv4 小数点付き 10 進数アドレスに変換されます。CICS Transaction Server for z/OS バージョン 3 リリース 2 およびそれ以前のリリースでは IPv6 アドレスを使用しないでください。これは IPIC SYSLINK 接続に使用されます。</p>
ジャーナル・モニターのサンプリング間隔	JRNLSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。</p>
モニター状況	MONSTATUS	<p>この CICS システムの開始時にリソース・モニターがアクティブとなるかどうかを示します。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - リソース・モニターがアクティブになります。これを有効にするには、CICS システムをモニター仕様に関連付ける必要があります。 • NO - リソース・モニターはアクティブにはなりません。 • INHERIT - この CICS システムに関連するモニター仕様で指定された値を継承します。
保守ポイント CMAS ID	MPCMASID	<p>これは、CICSplex の保守ポイント CMAS を識別する出力専用フィールドです。UPDATERS 属性および READRS 属性のハイパーリンクを有効にする必要があります。</p>
CICS 最大タスク到達イベントに対するアクション	MXTACTION	<p>指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。</p>

表 76. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
CICS 最大タスク数到達イベントの重大度	MXTSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
CICS システム 定義名	NAME	コンテキストで識別される CICSplex に関連付けられる CICS システムの名前 (1 から 8 文字まで)。
ネットワーク ID	NETWORKID	システムのネットワーク ID。 NETWORKID は、APPLID オプションと組み合わせて使用され、IPIC を介して接続中のシステムで固有の名前が使われるようにします。 これは IPIC SYSLINK 接続に使用されます。
無応答 MAS イベントに対するアクション	NRMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。 分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。
無応答 MAS イベントの重大度	NRMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません。 • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
ポート番号	PORT	IPIC SYSLINK がインバウンド要求を受け取る TCPIPService ポート番号をオーバーライドするために使用する値です。有効な値は 1 から 65535 までの範囲の 10 進数です。
1 次 CMAS 名	PRICMAS	この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS の名前。 CICS システムが単一の CMAS によって管理されている CICSplex の一部である場合、その CMAS の名前を 指定します。複数の CMAS が CICSplex の管理に関与するとき、CICS システムが通常接続する CMAS を示します。 CMAS を指名しても、1 次 CMAS が使用できないときなどに CICS システムが別の CMAS に接続することは妨げられません。
プログラム・モニターのサンプリング間隔	PROGSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。

表 76. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバー 読み取り間隔	READRS	<p>最適化モードで実行されているワークロードにおいて、この値は、ルーティング領域が CICS CFDT サーバーにターゲット領域の状況のリフレッシュを要求する最小間隔を指定します。この値は、この CICS システム定義の親である CICSplex 定義で指定されているデフォルトの間隔の値を指定変更するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 0 から 2000 または INHERIT で、ミリ秒の単位を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これは、この属性のデフォルト設定です。 値 0 は、ターゲット領域の状況を調べるたびに、ターゲット領域の状況更新をルーティング領域が要求することを意味します。 1 から 2000 までの値は、ターゲット領域の状況データをリフレッシュできるようになるまでに経過する必要がある最小時間間隔 (ミリ秒) を指定します。 <p>小さい値は、大きい値の場合よりも頻繁に RS サーバーのターゲットの状況がルーターによって更新されることを意味します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果カップリング・ファシリティの使用率が増加することがあります。</p> <p>値 1000 は 1 秒の間隔を表します。デフォルト値は 200 ミリ秒です。</p> <p>ここで指定される値は、次回この CICS 領域を開始するときに適用されます。この CICS 領域の実行中のインスタンスに変更を適用する必要がある場合は、MAS ビューを使うことで作動中の変更が可能です。</p>
モニター停止後のデータ保管時間 (分)	RETENTION	<p>収集されたデータがリソース・モニターの停止後に保持される分数。(リソース・モニターが停止するのは、CICS システムの停止時か、MAS ビュー・コマンドを使用して CICS システムのリソース・モニターを停止する場合です。) 可能な保存期間は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 - 1440 <ul style="list-style-type: none"> 収集されたデータは、指定された分数だけ保持されます。 0 <ul style="list-style-type: none"> 収集されたデータは保持されません。 INHERIT <ul style="list-style-type: none"> CICS システムは、関連するモニター仕様で指定された値を使用ようになります。
リアルタイム分析状況	RTASTATUS	<p>この CICS システムの開始時にリアルタイム分析のシステム使用可能性モニター (SAM) および MAS リソース・モニター (MRM) コンポーネントがアクティブになるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> YES - システム使用可能性モニターおよび MAS リソース・モニターはアクティブです。 NO - アクティブな RTA モニターはありません。MAS の初期化が行われたばかりか、または分析がオンになるよう更新された場合は、RTA が完全に初期化されるまで NO が表示されます。 SAM - システム使用可能性モニターがアクティブです。 MRM - MAS リソース・モニターがアクティブです。 N/A - MAS はその CMAS に接続されていません (「MAS の状況」フィールドに INACTIVE と表示されます)。
システム使用可能性モニター・イベントに対するアクション	SAMACTION	<p>指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。</p>

表 76. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
システム使用可能性モニター・イベントの重大度	SAMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
システム・ダンプ・イベントに対するアクション	SDMACTION	<p>指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。 分析仕様からアクション定義を継承させるには、*を指定します。</p>
システム・ダンプ・イベントの重大度	SDMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
シミュレート・セキュリティ検査の免除	SECBYPASS	<p>この CICS システムに対して CICSplex SM 免除セキュリティがアクティブであるかどうかを示します。 免除セキュリティにより、シミュレートされた CICS セキュリティ検査を迂回することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムで免除セキュリティがアクティブです。 • NO - この CICS システムでは免除セキュリティはアクティブではありません。 • INHERIT - この CICS システムに関連する CICSplex に割り当てられた「セキュリティ検査免除」値を継承します。
CICS コマンド・セキュリティ検査のシミュレート状況	SECCMDCHK	<p>CICSplex SM セキュリティ検査がこの CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートするかどうかを示します。 以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートします。 • NO - この CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートしません。 • INHERIT - この CICS システムに関連付けられた CICSplex に割り当てられた値を継承します。

表 76. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
CICS リソース・セキュリティ検査のシミュレート状況	SECRESCHK	<p>CICSplex SM セキュリティー検査がこの CICS システムに関する CICS リソース検査をシミュレートするかどうかを示します。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムに関する CICS リソース検査をシミュレートします。 • NO - この CICS システムに関する CICS リソース検査をシミュレートしません。 • INHERIT - この CICS システムに関連付けられた CICSplex に割り当てられた値を継承します。
ストレージ不足 (SOS) イベントに対するアクション	SOSACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。
ストレージ不足 (SOS) イベントの重大度	SOSSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
CICS 停止イベントに対するアクション	STLACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。
CICS 停止イベントの重大度	STLSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
システム ID	SYSID	CICS システムの 4 文字のシステム ID。指定された値は CICS SYSIDNT SIT オペランドまたは指定変更と一致する必要があります。
トランザクション・ダンプ・イベントに対するアクション	TDMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。

表 76. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
トランザクション・ダンプ・イベントの重大度	TDMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
TDQ モニターのサンプリング間隔	TDQSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
端末モニターのサンプリング間隔	TERMSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
時間帯	TMEZONE	<p>この CICS システムが置かれている時間帯。 以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • B から Z の範囲の時間帯コード文字。時間帯コードの詳細については、「CICSplex SM Administration」資料の『時間帯コード』表を参照してください。 • INHERIT - アクティブ時にこの CICS システムの接続先となる CMAS に割り当てられた時間帯を継承します。 この CICS システムが非アクティブの場合、時間帯は、この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS から継承されます。 INHERIT を指定できるのは、時間帯オフセット (TMEZONEO) が INHERIT で、しかも夏時間調整 (DAYLGHTSV) が INHERIT である場合だけです。
時間帯オフセット	TMEZONEO	<p>計算対象の時刻に適用される調整値。 この値は、標準時間帯を使用しない地域において時間参照を解決するために使用されます。 以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 から 59 までの間の値 - この時間帯の場合 (標準的な時間帯を使用しない地域の場合) に時刻に追加する分数を示します。 • INHERIT - アクティブ時にこの CICS システムの接続先となる CMAS に割り当てられた時間帯オフセットを継承します。 この CICS システムが非アクティブの場合、時間帯オフセットは、この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS から継承されます。 INHERIT を指定できるのは、時間帯 (TMEZONE) が INHERIT で、しかも夏時間調整 (DAYLGHTSV) が INHERIT である場合だけです。

表 76. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバーの最上位層	TOPRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、領域の MAXTASK 値から減算されて、最上位層のタスク・ロード範囲を決定します。この値は、この CICS システム定義の親である CICSplex 定義で指定されているデフォルト値を指定変更するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。結果として得られたタスク数値は領域の MAXTASKS 設定値から減算されて、タスク・ロードの最上位層を設定します。領域内のタスク・ロードが MAXTASKS 制限に達した場合は、タスク・ロードがこの値を下回るまで、領域の MAXTASKS 状態はオフに切り替わらず、カップリング・ファシリティーにもブロードキャストされません。 <p>デフォルト値は 5% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティーのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。この値に対する変更は、次回領域を開始するときに適用されます。</p>
トランザクション・モニターのサンプリング間隔	TRANSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があってからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。</p>
RS サーバー 更新頻度	UPDATERS	<p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、ターゲット CICS 領域内のタスク・ロード値を変更するために CICS CFDT (RS) サーバーを呼び出す頻度を指定します。この値は、この CICS システム定義の親である CICSplex 定義で指定されているデフォルトの頻度の値を指定変更するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 0 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 値が 0 の場合、タスク・ロード数が増えられても RS サーバーに通知されないため、この CICSplex の範囲内の領域に対して最適化されたワークロード機能が無効になります。 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。その結果生じたタスク数の値は、RS サーバーへの更新呼び出しを行うための数値しきい値として使用されます。 <p>例えば MAXTASKS 設定が 120 でこの属性が 20 に設定されている場合、領域タスク・カウントが以下のように変わるときに、WLM ロード・カウントを更新するよう RS サーバーが呼び出されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> タスク 23 と 24 (20%) 47 タスクから 48 タスクに - (40%)、 71 タスクから 72 タスクに - (60%) 95 タスクから 96 タスクに - (80%)、 119 タスクから 120 タスクに - (100%) <p>RS サーバーは、領域のタスク・ロードがこれらの境界をまたいで増加または減少したときに更新されます。</p> <p>1 から 25 スケールのうちの小さい値が指定されると、タスク・ロード範囲全体を通して RS サーバーを更新する頻度が増します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果カップリング・ファシリティーの使用率が増加することがあります。</p> <p>ここで指定される値は、次回この CICS 領域を開始するときに適用されます。この CICS 領域の実行中のインスタンスに変更を適用する必要がある場合は、MAS ビューを使うことで作動中の変更が可能です。</p>

表 76. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
WLM 最適化の使用可能化	WLMOPTEN	<p>この属性は、最適化された動的ルーティング機能の使用可能化を制御します。</p> <p>ENABLED に設定すると、CICSplex SM ワークロード 管理エージェントの始動時に、領域が CICS 領域状況 サーバーへの接続を試行します。その接続が成功すると、領域は、最適化されたワークロード・ルーティング要求の参加に適格となります。</p> <p>この属性を DISABLED に設定すると、始動時に領域が領域状況サーバーに接続されず、最適化された動的ワークロードのルーティング要求は抑止されます。</p> <p>この定義の設定値は、実行時に MAS ビューでオーバーライドされる場合があります。</p>
タスク・ロード・キュー・モード	WLMQMODE	<p>この属性は CICSplex SM ワークロード・マネージャーが使用します。この値によって、ターゲット CICS 領域のキューに入れられたタスク・ロードの評価方法を次のように指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MAXTASK - アクティブ・タスクおよび MAXTASK のキューに入れられたタスクの両方が、領域のタスク・ロード評価に含まれること指定します。 • ALL - アクティブ・タスク、MAXTASK 限界のキューに入ったタスク、および TRANCLASS 限界のためにキューに入ったタスクを領域のタスク・ロード評価に含めることを指定します。 <p>デフォルト値は ALL です。この値に対する変更は、次回領域を開始するときに適用されます。</p>
始動時にアクティブなルーティング領域	WLMSTATUS	<p>CICS システムの始動時に、この CICS システムが、その関連付けられたワークロードにルーティング領域として参加するかどうかを示します。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - CICS 始動時に CICS システムはルーティング領域として関連するワークロードに参加します。 • NO - CICS 始動時に CICS システムはルーティング領域として動作することを試みません。 <p>関連するワークロードを識別するには、「WLM 仕様と CICS システムとの間のリンク」(EYUSTARTLNKSWSCS) ビュー、「WLM 仕様と CICS システム・グループとの間のリンク」(EYUSTARTLNKSWSCG) ビュー、またはワークロード管理マップ機能を使用します。CICS システムがワークロードに関連付けられていない場合は、ルーティング領域としてアクティブ化されません。</p> <p>通常、ルーティング領域ではこのオプションが YES に設定されます。ターゲット領域が CICS 分散ルーティング・モデル (DSRTPGM) を使って要求を受け取る場合には、ターゲット領域でもこのオプションを YES に設定する必要があります。</p>
タスク・ロード・ヘルスしい値	WLMTHRSH	<p>この属性は CICSplex SM ワークロード・マネージャーが使用します。現在の領域タスク・ロードの比率しい値を指定します。これは現在のタスク数を最大タスク数で割ることで算出されます。ターゲット領域のロードがこのしい値に達すると、WLM はその領域の正常性がやや損なわれたと見なします。これによって、この領域の評価時に、より高いリンク重みが WLM ルーティング・アルゴリズムに適用されます。ターゲット・スコープに、ルーターに対するローカル領域およびリモート領域が含まれる場合、WLM はリモート領域よりもローカル領域を優先します。この属性を適用すると、ローカル領域でこのロードしい値に達したときに、WLM はローカルではなくリモートのターゲットを優先するようになります。スコープ内のすべてのターゲットがこのロードしい値に達すると、WLM は再びローカルのターゲットを優先するようになります。</p> <p>値の範囲は 1 から 100 で、デフォルト値は 60 です。ここで指定される値は、次回この CICS 領域を開始するときに適用されます。</p> <p>注: この値は、リンク中立な動的ルーティング要求のルーティング要因に適用されると、ヌルになります。LNQUEUE アルゴリズムと LNGOAL アルゴリズムでは、リンク・ウェイト自体が無視されるからです。</p>

システム・グループ - CSYSGRP

「CICSplex SM トポロジー定義」(CSYSGRP) ビューには、CICS システム・グループに関する説明が表示されます。CICSplex のスコープの設定で使用されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「トポロジー管理ビュー」 > 「システム・グループ」

表 77. 提供された「システム・グループ定義」(CSYSGRP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
システム・グループ定義 EYUSTARTCSYSGRP.ADDTOGRP	1 つ以上のシステム・グループ定義を CICS システム・グループに追加します。関連したプラットフォーム定義名の属性に値が含まれている場合は、CICS システム・グループ定義をグループに追加することはできません。
システム・グループ定義 EYUSTARTCSYSGRP.CREATE	システム・グループ定義を作成または更新してそれをデータ・リポジトリに追加します。
システム・グループ定義 EYUSTARTCSYSGRP.DETAILED	選択したシステム・グループ定義に関する詳細情報
システム・グループ定義 EYUSTARTCSYSGRP.REMOVE	データ・リポジトリからシステム・グループ定義を除去します。関連したプラットフォーム定義名または領域タイプ名の属性に値が含まれている場合は、CICS システム・グループ定義の削除はできません。
システム・グループ定義 EYUSTARTCSYSGRP.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべてのシステム・グループ定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 78. CSYSGRP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOPGRP	1 つ以上のシステム・グループ定義を CICS システム・グループに追加します。関連したプラットフォーム定義名の属性に値が含まれている場合は、CICS システム・グループ定義をグループに追加することはできません。
CREATE	システム・グループ定義を作成または更新してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリからシステム・グループ定義を除去します。関連したプラットフォーム定義名または領域タイプ名の属性に値が含まれている場合は、CICS システム・グループ定義の削除はできません。
UPDATE	データ・リポジトリ内の CICS システム・グループ定義の記述を更新します。関連したプラットフォーム定義名または領域タイプ名の属性に値が含まれている場合は、CICS システム・グループ定義のアップデートはできません。

フィールド

表 79. CSYSGRP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。

表 79. CSYSGRP ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
定義が変更された最終時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
定義元	CREATEORIGIN	定義の作成元を指定します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • N_A - 定義は、ユーザーまたは API プログラムによって作成されました。 • PLATFORM - 定義は、プラットフォームのインストール中に作成されました。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	1 文字から 58 文字までのシステム・グループの説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
システム・グループ名	GROUP	システム・グループの名前。
関連したプラットフォーム定義	PLATDEF	システム・グループが関連付けられたプラットフォーム定義の名前。
領域タイプ	REGIONTYPE	このシステム・グループが定義する領域タイプの名前。

システム・グループとグループとの間のリンク - CSGLCGCG

「システム・グループとシステム・グループとの間のリンク」(CSGLCGCG) ビューには、CICS システム・グループ同士の間には存在するリンクに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「トポロジー管理ビュー」 > 「システム・グループとグループとの間のリンク」

表 80. 提供された「CICS システム・グループとシステム・グループとの間のリンク」(CSGLCGCG) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CICS システム・グループとシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTCSGLCGCG.CREATE	2 つのシステム・グループの間に新規リンクを作成し、一方がもう一方に包含されるようにします。
CICS システム・グループとシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTCSGLCGCG.DETAILED	選択した CICS システム・グループとシステム・グループの間のリンクに関する詳細情報
CICS システム・グループとシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTCSGLCGCG.REMOVE	システム・グループ同士の間リンクを除去します。
CICS システム・グループとシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTCSGLCGCG.TABULAR	現行コンテキスト内の CICS システム・グループとシステム・グループの間のすべてのリンクに関するテーブル形式の情報

アクション

表 81. CSGLCGCG ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	2 つのシステム・グループの間に新規リンクを作成し、一方がもう一方に包含されるようにします。
REMOVE	システム・グループ同士の間リンクを除去します。

フィールド

表 82. CSGLCGCG ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
他のグループに包含されるグループ	GROUP	別のシステム・グループに包含されている CICS システム・グループの名前。
含有グループ名	TOGROUP	他の 1 つ以上のシステム・グループを包含している CICS システム・グループの名前。

システムとグループとの間のリンク - CSGLCGCS

「**CICS** システムとシステム・グループとの間のリンク」(CSGLCGCS) ビューには、CICS システムと CICS システム・グループとの間に存在するリンクに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「トポロジー管理ビュー」 > 「システムとグループとの間のリンク」

表 83. 提供された「CICS システムとシステム・グループとの間のリンク」(CSGLCGCS) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CICS システムとシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTCSGLCGCS.CREATE	CICS システムと CICS システム・グループの間に新しいリンクを作成します。
CICS システムとシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTCSGLCGCS.DETAILED	現行コンテキスト内の CICS システムとシステム・グループ間のすべてのリンクに関する詳細情報
CICS システムとシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTCSGLCGCS.REMOVE	システムとシステム・グループとの間のリンクを除去します。
CICS システムとシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTCSGLCGCS.TABULAR	現行コンテキスト内の CICS システムとシステム・グループ間のすべてのリンクに関するテーブル形式の情報

アクション

表 84. CSGLCGCS ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	CICS システムと CICS システム・グループの間に新しいリンクを作成します。
REMOVE	システムとシステム・グループとの間のリンクを除去します。

フィールド

表 85. CSGLCGCS ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
CICS システム	CICSNAME	CICS システム・グループに関連付けられた CICS システムの名前。
定義元	CREATEORIGIN	定義の作成元を指定します。値は次のとおりです。 • N_A - 定義は、ユーザーまたは API プログラムによって作成されました。 • PLATFORM - 定義は、プラットフォームのインストール中に作成されました。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
CICS システム・グループ	GROUP	1 つ以上の CICS システムを包含している CICS システム・グループの名前。

時間枠 - PERIODEF

「**時間枠定義**」(PERIODEF) ビューは、リソース・モニターやリアルタイム分析で、特定のアクションの開始時と停止時の指定に使用される時間枠に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、
「**管理ビュー**」 > 「**RTA 分析点モニター**」 > 「**時間枠**」

表 86. 提供された「 時間枠定義 」(PERIODEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
時間枠定義 EYSTARTPERIODEF.CREATE	新規の時間枠定義を作成します。
時間枠定義 EYSTARTPERIODEF.DETAILED	選択した時間枠定義に関する詳細情報
時間枠定義 EYSTARTPERIODEF.REMOVE	データ・リポジトリから時間枠定義を除去します。
時間枠定義 EYSTARTPERIODEF.TABULAR	現行コンテキスト内のすべての時間枠定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 87. PERIODEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	新規の時間枠定義を作成します。
REMOVE	データ・リポジトリから時間枠定義を除去します。

表 87. PERIODEF ビューで使用可能なアクション (続き)	
アクション	説明
UPDATE	既存の時間枠定義を作成します。

フィールド

表 88. PERIODEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	期間定義の説明。 入力値: 1 から 58 文字の説明
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
終了時間	END	期間が終わる時分単位の時刻。 入力値: 00:00 から 23:59 まで
名前	NAME	期間定義の名前。CICSplex 中で固有です。
開始時間	START	期間が始まる時分単位の時刻。 入力値: 00:00 から 24:00 まで
時間帯	ZONE	この期間定義が適用される時間帯を識別する、A から Z までの 1 文字のコード。 これらのコードは、それぞれ 24 の標準の国際的な時間帯の 24 時間制 ID を表します。これらのコードが表す時間帯は、グリニッジ標準時(GMT)を表す Z を先頭にして、アルファベットの逆順に GMT から西へ移動します。 注: 時間帯コード A を使用する期間定義は、この定義を使用する CMAS または CICS システムの現行時間帯に従って適用されます。
時間帯調整係数	ZONEADJ	標準的な時間帯を使用しない地域の場合に、時間帯に追加する分数。 期間定義の時間帯が A の場合、この値は無視されます。 入力値: 0 から 59 まで

付録 F ワークロード・マネージャー管理ビュー

「ワークロード・マネージャー管理」ビューでは、ワークロード管理要件を CICSplex SM に対して定義することができます。CICSplex SM のワークロード管理機能は、動的ルーティングをサポートします。

仕様 - WLMSPEC

「WLM 仕様」(WLMSPEC) ビューには、CICSplex SM のワークロード管理で使用するデフォルトの制御属性が表示されます。ルーティング領域と関連付けると、仕様の名前がその領域のワークロード名になります。WLMSPEC は、CICS システムと関連付けられたすべての明示的なワークロード定義のアンカーにもなります。WLM 仕様は任意の数のルーティング領域と関連付けることができますが、CICS 領域に関連付けることができる WLMSPEC は 1 つだけです。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー (Administration views)」 > 「ワークロード・マネージャー管理ビュー (Workload manager administration views)」 > 「仕様 (Specifications)」

表 89. 提供された「WLM 仕様」(WLMSPEC) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
WLM 仕様 EYUSTARTWLMSPEC.ADDSYSDEF	WLM 仕様と CICS システムの間の関連を追加します。
WLM 仕様 EYUSTARTWLMSPEC.ADDSYSGRP	WLM 仕様と CICS グループの間の関連を追加します。
WLM 仕様 EYUSTARTWLMSPEC.CREATE	WLM 仕様を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
WLM 仕様 EYUSTARTWLMSPEC.DETAILED	選択した WLM 仕様に関する詳細情報
WLM 仕様 EYUSTARTWLMSPEC.REMOVE	データ・リポジトリから WLM 仕様を除去します。
WLM 仕様 EYUSTARTWLMSPEC.TABULAR	現行コンテキスト内のすべての WLM 仕様に関するテーブル形式の情報

アクション

表 90. WLMSPEC ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDSYSDEF	WLM 仕様と CICS システムの間の関連を追加します。
ADDSYSGRP	WLM 仕様と CICS グループの間の関連を追加します。
CREATE	WLM 仕様を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリから WLM 仕様を除去します。
UPDATE	選択した WLM 仕様を更新します。

フィールド

表 91. WLMSPEC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
異常終了する確率の許容レベル	ABENDCRIT	ターゲット領域が正常でないと見なされる原因となる、デフォルトのトランザクション・グループに関連したトランザクションの異常終了の確率。
許容できる異常終了ロードしきい値	ABENDTHRESH	ターゲット領域の負荷レベルが倍になる原因となる、デフォルトのトランザクション・グループに関連したトランザクションの異常終了の確率。
自動親和性作成オプション	AFFAUTO	<p>CICSplex SM が、トランザクション・グループに関連付けられていないトランザクションの親和性の関係を自動的に作成するかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - 親和性は「親和性の関係」および「親和性存続時間」フィールドの値を使用して作成されます。 • NO - 親和性は自動的に作成されません (ただし、動的ルーティング・プログラム EYU9WRAM のカスタマイズ版で作成することが可能です)。 • N_A - 「親和性の関係」および「親和性存続時間」フィールドには値がないため、親和性は作成されません。
デフォルト親和性関係	AFFINITY	<p>どのインストール済みトランザクション・グループにも関連付けられていないトランザクションで使用されるデフォルトの親和性の関係。親和性の関係値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • GLOBAL - すべての端末のすべてのユーザー。 • LUNAME - 端末の論理装置名。 • USERID - ユーザー ID。 • BAPPL - CICS BTS ビジネス・アプリケーション。 • Locked - LOCKED の親和性は、動的にリンクされたプログラム間でのみ生じます。LOCKED の親和性は、呼び出されたプログラムが、呼び出し元に戻った後にも状態データを保持する場合に作成されます。このタイプの親和性を持つプログラムは、作業単位が終了するまで、同じターゲット領域に送られます。LOCKED は、作業単位の親和性存続時間が関連付けられている動的プログラム・リンク (DPL) 要求に対してのみ使用できます。 • N_a - 親和性関係は定義されていません。 <p>このフィールドがブランクである場合、親和性の関係は定義されていません。</p> <p>このフィールドと「親和性存続時間」フィールドは密接に関連しています。この値を更新する場合には、適切な存続時間値が指定されていることも確認してください。親和性の関係と存続時間の有効な組み合わせのリストについては、CICS TS Information Center の『Relations and Lifetimes』を参照してください。</p>

表 91. WLMSPEC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
デフォルト親和性存続時間	AFFLIFE	<p>デフォルトの親和性の関係で使用されるデフォルトの親和性存続時間。この値は、どのインストール済みトランザクション・グループにも関連付けられていないトランザクションで使用されます。親和性存続時間の値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DELIMIT - 疑似会話モードが END になるまで。 • LOGON - 端末セッションの期間内。 • PCONV - 疑似会話の期間内。 • PERMANENT - ワークロードがアクティブである間。 • SIGNON - ユーザー・セッションがアクティブである間。 • SYSTEM - トランザクションの経路指定先の AOR がアクティブである間。 • ACTIVITY - CICS BTS の活動がアクティブである間。 • PROCESS - CICS BTS プロセスがアクティブである間。 • UOW - 作業単位がアクティブである間。 • N_a - 親和性存続時間が定義されていません。 <p>このフィールドがブランクである場合、親和性存続時間は定義されていません。</p> <p>このフィールドと「親和性の関係」フィールドは密接に関連しています。この値を更新する場合には、適切な親和性の関係の値が指定されていることも確認してください。親和性の関係と存続時間の有効な組み合わせのリストについては、CICS TS Information Center の『Relations and Lifetimes』を参照してください。</p>
アルゴリズムのタイプ	ALGTYPE	<p>トランザクションが経路指定される最適なターゲット領域を「ターゲット・スコープ」で選択する場合に使用されるアルゴリズム。有効なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • QUEUE - 以下の組み合わせが最適なターゲット領域にトランザクションを送信します。 <ul style="list-style-type: none"> - 正常性 (MaxTask、ストレージ不足、ダンプ、停止) - タスク・キューの項目数 (または負荷) - ルーティング領域からのリンク速度 - 異常終了の可能性 (計算されている場合) - RTA イベントの影響 (定義されている場合) • LNQUEUE - 以下の組み合わせが最適なターゲット領域にトランザクションを送信します。 <ul style="list-style-type: none"> - 正常性 (MaxTask、ストレージ不足、ダンプ、停止) - タスク・キューの項目数 (または負荷) - 異常終了の可能性 (計算されている場合) - RTA イベントの影響 (定義されている場合) <p>注 - LNQUEUE アルゴリズムのルーティングの重みの計算では、ルーターからターゲットまでのリンク速度は、係数として使用されません。</p> • GOAL - 以下のターゲット領域にトランザクションを送信します。 <ul style="list-style-type: none"> - このトランザクションや他のトランザクションに対して MVS ワークロード管理クラスで設定されている応答時間の目標値にトランザクションが達する可能性が最も高い領域 <ul style="list-style-type: none"> - ターゲットを特定できない場合は、ターゲット領域の残りのセットに QUEUE アルゴリズムを適用します。 • LNGOAL - 以下のターゲット領域にトランザクションを送信します。 <ul style="list-style-type: none"> - このトランザクションや他のトランザクションに対して MVS ワークロード管理クラスで設定されている応答時間の目標値にトランザクションが達する可能性が最も高い領域 <ul style="list-style-type: none"> - ターゲットを特定できない場合は、ターゲット領域の残りのセットに LNQUEUE アルゴリズムを適用します。

表 91. WLMSPEC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
デフォルト・ターゲット・グループ	AORSCOPE	インストール済みトランザクション・グループに関連付けられていないすべてのトランザクションのターゲットとなる CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	ワークロード仕様の説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
RTA イベント	EVENTNAME	このワークロード仕様のデフォルトのトランザクション・グループを使用するトランザクションに影響を与える可能性がある分析定義 (RTADEF) または状況定義 (STATDEF) の名前。リアルタイム分析イベントがこの定義で生成される場合、WLM はこの情報を使用してこれらのトランザクションに最適なルーティングを選択します。 このフィールドがブランクである場合、分析定義と状況定義のいずれもデフォルトのトランザクション・グループに関連付けられません。
主検索基準	MATCH	インストール済みトランザクション・グループに関連付けられていないトランザクションの 1 次検索条件として、ユーザー名 (USERID) と論理装置名 (LUNAME) のどちらを使用するかを指定します。
名前	NAME	ワークロード仕様の名前 (これはワークロードの名前でもあります)。

グループ - WLMGROUP

「**WLM グループ**」(WLMGROUP) ビューには、関連したワークロード定義に関する情報が表示されます。これらの定義は、一連の WLMDEF 定義および WLM 仕様 (WLMSPEC) を結び付ける関連付けアンカーとして機能します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**ワークロード・マネージャー管理ビュー**」 > 「**グループ**」

表 92. 提供された「 WLM グループ 」(WLMGROUP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
WLM グループ EYUSTARTWLMGROUP.ADDTOSPC	WLM グループと WLM 仕様の間に関連を追加します。
WLM グループ EYUSTARTWLMGROUP.CREATE	WLM グループ定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
WLM グループ EYUSTARTWLMGROUP.DETAILED	選択した WLM グループに関する詳細情報
WLM グループ EYUSTARTWLMGROUP.INSTALL	ワークロード・グループに関連付けられたワークロード定義をワークロードにインストールします。

表 92. 提供された「WLM グループ」(WLMGROUP) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
WLM グループ EYUSTARTWLMGROUP.REMOVE	データ・リポジトリから WLM グループ定義を除去します。
WLM グループ EYUSTARTWLMGROUP.TABULAR	現行コンテキスト内のすべての WLM グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 93. WLMGROUP ビューに使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOSPC	WLM グループと WLM 仕様の間の関連を追加します。
CREATE	WLM グループ定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	ワークロード・グループに関連付けられたワークロード定義をワークロードにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから WLM グループ定義を除去します。
UPDATE	選択した WLM グループ定義を更新します。

フィールド

表 94. WLMGROUP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	WLM グループ定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	1 文字から 58 文字までのワークロード・グループの説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
ワークロード管理グループ	NAME	ワークロード・グループの名前。

定義 - WLMDEF

「WLM 定義」(WLMDEF) ビューには、WLM 定義に関する情報が表示されます。これらの定義では、一連の動的トランザクションに対する分離および親和性の要件が記述されています。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「ワークロード・マネージャー管理ビュー」 > 「定義」

表 95. 提供された「WLM 定義」(WLMDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
WLM 定義 EYUSTARTWLMDEF.ADDTOGRP	WLM 定義と WLM グループの間の関連を追加します。
WLM 定義 EYUSTARTWLMDEF.CREATE	WLM 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
WLM 定義 EYUSTARTWLMDEF.DETAILED	選択した WLM 定義に関する詳細情報
WLM 定義 EYUSTARTWLMDEF.INSTALL	ワークロード定義をワークロードにインストールします。
WLM 定義 EYUSTARTWLMDEF.REMOVE	データ・リポジトリから WLM 定義を除去します。
WLM 定義 EYUSTARTWLMDEF.TABULAR	現行コンテキスト内のすべての WLM 定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 96. WLMDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTORGP	WLM 定義と WLM グループの間の関連を追加します。
CREATE	WLM 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	ワークロード定義をワークロードにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから WLM 定義を除去します。
UPDATE	選択した WLM 定義を更新します。

フィールド

表 97. WLMDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
ターゲット・システム・セットの スコープ名	AORSCOPE	ワークロード定義に関連付けられたトランザクションが誘導される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントの リリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	1 文字から 58 文字までのワークロード定義の説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
端末 LU 名	LUNAME	トランザクションとワークロード定義の突き合わせに使用する具体的な論理装置名または汎用的な論理装置名。
ワークロード管理定義	NAME	ワークロード定義の名前。

表 97. WLMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
BTS プロセス・タイプ	PROCESSTYPE	トランザクションとワークロード定義の突き合わせに使用される特定または総称プロセス・タイプ。 特定のプロセス・タイプが定義されている場合、「端末 LU 名」と「ユーザー ID」は両方とも「*」に設定する必要があります。「トランザクション・グループ」にはブランクまたは特定の名前を指定できます。ワークロードは、「トランザクション・グループ」と「プロセス・タイプ」、または「トランザクション・グループ」、「端末 LU 名」、および「ユーザー ID」でのみ区切ることができます。
トランザクション・グループ	TRANGRP	ワークロード定義に関連付けられたトランザクション・グループの名前。 このフィールドがブランクである場合には、トランザクション・グループが定義されなかったことを意味します。ワークロード定義では、ワークロード仕様に関連付けられているデフォルトのトランザクション・グループが使用されます。 入力値: 1 から 8 文字のトランザクション・グループ名
ユーザー ID	USERID	トランザクションとワークロード定義の突き合わせに使用する具体的なユーザー ID または汎用的なユーザー ID。

トランザクション・グループ定義 - TRANGRP

「トランザクション・グループ定義」(TRANGRP) ビューには、論理的に類似したトランザクションのグループに関する情報が表示されます。類似性は、親和性の要件、共通共用処理の要件、またはその他のユーザー定義の特性に基づいて判断される場合があります。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー (Administration views)」 > 「ワークロード・マネージャー管理ビュー (Workload manager administration views)」 > 「トランザクション・グループ定義 (Transaction group definitions)」

表 98. 提供された「トランザクション・グループ定義」(TRANGRP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
トランザクション・グループ定義 EYUSTARTTRANGRP.ADDTRAN	トランザクションをトランザクション・グループに追加します。
トランザクション・グループ定義 EYUSTARTTRANGRP.CREATE	トランザクション・グループを作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
トランザクション・グループ定義 EYUSTARTTRANGRP.DETAILED	選択したトランザクション・グループに関する詳細情報
トランザクション・グループ定義 EYUSTARTTRANGRP.REMOVE	データ・リポジトリからトランザクション・グループを除去します。
トランザクション・グループ定義 EYUSTARTTRANGRP.TABULAR	現行コンテキスト内のすべてのトランザクション・グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 99. TRANGRP ビューに使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTRAN	トランザクションをトランザクション・グループに追加します。
CREATE	トランザクション・グループを作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。

表 99. TRANGRP ビューに使用可能なアクション (続き)	
アクション	説明
REMOVE	データ・リポジトリからトランザクション・グループを除去します。
UPDATE	選択したトランザクション・グループを更新します。

フィールド

表 100. TRANGRP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
異常終了する確率の許容レベル	ABENDCRIT	ターゲット領域が正常でないと見なされる原因となる、デフォルトのトランザクション・グループに関連したトランザクションの異常終了の確率。
ターゲット領域の許容負荷レベル	ABENDTHRESH	ターゲット領域の負荷レベルが倍になる原因となる、デフォルトのトランザクション・グループに関連したトランザクションの異常終了の確率。
自動親和性作成	AFFAUTO	<p>CICSplex SM が、トランザクション・グループに関連付けられたトランザクションの親和性の関係を自動的に作成するかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - 親和性は「親和性の関係」および「親和性存続時間」フィールドの値を使用して作成されます。 • NO - 親和性は自動的に作成されません (ただし、動的ルーティング・プログラム EYU9WRAM のカスタマイズ版で作成することが可能です)。 • N/A - 「親和性の関係」フィールドおよび「親和性存続時間」フィールドには値がないため、親和性は作成されません。
親和性の関係	AFFINITY	<p>このトランザクション・グループでトランザクションを処理する時に使用される親和性の関係。 親和性の関係値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • GLOBAL - すべての端末のすべてのユーザー。 • LUNAME - 端末の論理装置名。 • USERID - ユーザー ID。 • BAPPL - CICS BTS ビジネス・アプリケーション。 • Locked - LOCKED の親和性は、動的にリンクされたプログラム間でのみ生じます。 LOCKED の親和性は、呼び出されたプログラムが、呼び出し元に戻った後にも状態データを保持する場合に作成されます。 このタイプの親和性を持つプログラムは、作業単位が終了するまで、同じターゲット領域に送られます。 LOCKED は、作業単位の親和性存続時間が関連付けられている動的プログラム・リンク (DPL) 要求に対してのみ使用できます。 • N_a - 親和性関係は定義されていません。 <p>このフィールドがブランクである場合、親和性の関係は定義されていません。</p> <p>このフィールドと「親和性存続時間」フィールドは密接に関連しています。 この値を更新する場合には、適切な存続時間値が指定されていることも確認してください。</p>

表 100. TRANGRP ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
親和性存続時間	AFFLIFE	<p>このトランザクション・グループでトランザクションを処理する時に使用される親和性存続時間。親和性存続時間の値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DELIMIT - 疑似会話モードが END になるまで。 • LOGON - 端末セッションの期間内。 • PCONV - 疑似会話の期間内。 • PERMANENT - ワークロードがアクティブである間。 • SIGNON - ユーザー・セッションがアクティブである間。 • SYSTEM - トランザクションの経路指定先の AOR がアクティブである間。 • ACTIVITY - CICS BTS の活動がアクティブである間。 • PROCESS - CICS BTS プロセスがアクティブである間。 • UOW - 作業単位がアクティブである間。 • N_a - 親和性存続時間が定義されていません。 <p>このフィールドがブランクである場合、親和性存続時間は定義されていません。</p> <p>このフィールドと「親和性の関係」フィールドは密接に関連しています。この値を更新する場合には、適切な親和性の関係値も指定されていることを確認してください。</p>

表 100. TRANGRP ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
アルゴリズムのタイプ	ALGTYPE	<p>現在のトランザクション・グループにあるトランザクションの送信先として最適なターゲット領域を「ターゲット・スコープ」で選択するときを使用されるアルゴリズム。有効なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • QUEUE - 以下の組み合わせが最適なターゲット領域にトランザクションを送信します。 <ul style="list-style-type: none"> - 正常性 (MaxTask、ストレージ不足、ダンプ、停止) - タスク・キューの項目数 (または負荷) - ルーティング領域からのリンク速度 - 異常終了の可能性 (計算されている場合) - RTA イベントの影響 (定義されている場合) • LNQUEUE - (リンク中立キュー) 以下の組み合わせが最適なターゲット領域にトランザクションを送信します。 <ul style="list-style-type: none"> - 正常性 (MaxTask、ストレージ不足、ダンプ、停止) - タスク・キューの項目数 (または負荷) - 異常終了の可能性 (計算されている場合) - RTA イベントの影響 (定義されている場合) <p>注 - LNQUEUE アルゴリズムのルーティングの重みの計算では、ルーターからターゲットまでのリンク速度は、係数として使用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • GOAL - 以下のターゲット領域にトランザクションを送信します。 <ul style="list-style-type: none"> - このトランザクションや他のトランザクションに対して z/OS ワークロード管理クラスで設定されている応答時間の目標値にトランザクションが達する可能性が最も高い領域 <ul style="list-style-type: none"> - ターゲットを特定できない場合は、ターゲット領域の残りのセットに QUEUE アルゴリズムを適用します。 • LNGOAL - (リンク中立目標) 以下のターゲット領域にトランザクションを送信します。 <ul style="list-style-type: none"> - このトランザクションや他のトランザクションに対して z/OS ワークロード管理クラスで設定されている応答時間の目標値にトランザクションが達する可能性が最も高い領域 <ul style="list-style-type: none"> - ターゲットを特定できない場合は、ターゲット領域の残りのセットに LNQUEUE アルゴリズムを適用します。 <p>注 LNGOAL アルゴリズムのルーティングの重みの計算では、ルーターからターゲットまでのリンク速度は、係数として使用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • INHERIT - このトランザクション・グループに関連する WLM 仕様 (WLMSPEC) で指定されているタイプのアルゴリズムを使用します。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	トランザクション・グループの説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。

表 100. TRANGRP ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RTA イベント	EVENTNAME	このトランザクション・グループに関連付けられたトランザクションに影響を与える可能性がある分析定義 (RTADEF) または状況定義 (STATDEF) の名前。リアルタイム分析イベントがこの定義で生成される場合、WLM はこの情報を使用してこれらのトランザクションに最適なルーティングを選択します。 このフィールドがブランクである場合、分析定義と状況定義のいずれもトランザクション・グループに関連付けられません。
主検索基準	MATCH	トランザクション・グループに関連付けられたトランザクションの 1 次検索条件として、ユーザー名 (USERID) と論理装置名 (LUNAME) のどちらを使用するかを指定します。
名前	NAME	トランザクション・グループの名前。
トランザクション・グループの状況	STATE	トランザクション・グループに関連付けられたトランザクションの AOR を選択する方法を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ACTIVE - 関連付けられたワークロード定義で識別される AOR スコープから AOR を選択します。 DORMANT - CICS に定義した時、トランザクションに関連付けられた AOR を使用します。

仕様とシステムとの間のリンク - LNKSWSGS

「WLM 仕様と CICS システムとの間のリンク」(LNKSWSGS) ビューには、CICS システムと WLM 仕様とのリンクに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「ワークロード・マネージャー管理ビュー」 > 「仕様とシステムとの間のリンク」

表 101. 提供された「WLM 仕様と CICS システムとの間のリンク」(LNKSWSGS) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
WLM 仕様と CICS システムとの間のリンク (WLM specifications to CICS system links) EYUSTARTLNKSWSGS.CHGSPEC	WLM 仕様と CICS システムの間のリンクを更新します。
WLM 仕様と CICS システムとの間のリンク (WLM specifications to CICS system links) EYUSTARTLNKSWSGS.CREATE	WLM 仕様と CICS システムの間にリンクを作成します。
WLM 仕様と CICS システムとの間のリンク (WLM specifications to CICS system links) EYUSTARTLNKSWSGS.DETAILED	特定の WLM 仕様から CICS システム・グループへのリンクに関する詳細情報
WLM 仕様と CICS システムとの間のリンク (WLM specifications to CICS system links) EYUSTARTLNKSWSGS.REMOVE	WLM 仕様と CICS システムの間のリンクを除去します。
WLM 仕様と CICS システムとの間のリンク (WLM specifications to CICS system links) EYUSTARTLNKSWSGS.TABULAR	現行コンテキスト内のすべての WLM 仕様およびリンクされた CICS システムに関するテーブル形式の情報

アクション

表 102. LNKSWSCS ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CHGSPEC	WLM 仕様と CICS システムの間のリンクを更新します。
CREATE	WLM 仕様と CICS システムの間にリンクを作成します。
REMOVE	WLM 仕様と CICS システムの間のリンクを除去します。

フィールド

表 103. LNKSWSCS ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
システム・グループ WLM 仕様は、次から継承されました	GROUP	WLM 仕様の継承元の CICS システム・グループの名前。
作成モード	LINK	CICS システムがどのように WLM 仕様と関連しているかを示します。 • EXPLICIT – CICS システムが仕様に直接関連しています。 • INHERIT – CICS システムがメンバーになっている CICS システム・グループから仕様を継承しました。
WLM 仕様	SPEC	WLM 仕様の名前。
CICS システム	SYSTEM	リンクされている CICS システムの名前。

仕様とシステムとの間のリンク - LNKSWSCG

「WLM 仕様と CICS システム・グループとの間のリンク」(LNKSWSCG) ビューには、CICS システム・グループと WLM 仕様との間のリンクに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「ワークロード・マネージャー管理ビュー」 > 「仕様とシステム・グループとの間のリンク」

表 104. 提供された「WLM 仕様とシステム・グループとの間のリンク」(LNKSWSCG) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
WLM 仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSWSCG.CHGSPEC	WLM 仕様と CICS システム・グループの間のリンクを更新します。
WLM 仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSWSCG.CREATE	WLM 仕様と CICS システム・グループの間にリンクを作成します。

表 104. 提供された「WLM 仕様とシステム・グループとの間のリンク」(LNKSWSCG) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
WLM 仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSWSCG.DETAILED	特定の WLM 仕様および CICS システム・グループ・リンクに関する詳細情報
WLM 仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSWSCG.REMOVE	WLM 仕様と CICS システム・グループの間のリンクを除去します。
WLM 仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSWSCG.TABULAR	現行コンテキスト内のすべての WLM 仕様およびリンクされた CICS システム・グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 105. LNKSWSCG ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CHGSPEC	WLM 仕様と CICS システム・グループの間のリンクを更新します。
CREATE	WLM 仕様と CICS システム・グループの間にリンクを作成します。
REMOVE	WLM 仕様と CICS システム・グループの間のリンクを除去します。

フィールド

表 106. LNKSWSCG ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 ・ DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
システム・グループ	GROUP	リンクされている CICS システム・グループの名前。
WLM 仕様	SPEC	WLM 仕様の名前。

仕様内の WLM グループ - WLMINSPC

「WLM 仕様内の WLM グループ」(WLMINSPC) ビューには、ワークロード仕様と、それに関連付けられるワークロード・グループに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「ワークロード・マネージャー管理ビュー」 > 「仕様内の WLM グループ」

表 107. 提供された「WLM 仕様内の WLM グループ」(WLMINSPC) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
WLM 仕様内の WLM グループ EYUSTARTWLMINSPC.CREATE	ワークロード・グループとワークロード仕様との間の関連を作成します。

表 107. 提供された「WLM 仕様内の WLM グループ」(WLMINSPC) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
WLM 仕様内の WLM グループ EYUSTARTWLMINSPC.DETAILED	選択した関連付けに関する詳細情報
WLM 仕様内の WLM グループ EYUSTARTWLMINSPC.REMOVE	WLM グループと WLM 仕様との間のリンクを除去します。
WLM 仕様内の WLM グループ EYUSTARTWLMINSPC.TABULAR	現行コンテキスト内のすべての WLM 仕様およびリンクされた WLM グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 108. WLMINSPC ビューに使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	ワークロード・グループとワークロード仕様との間の関連を作成します。
REMOVE	WLM グループと WLM 仕様との間のリンクを除去します。

フィールド

表 109. WLMINSPC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
ワークロード管理 (WLM) グループ	GROUP	ワークロード仕様に関連付けられるワークロード・グループの名前。
ワークロード管理仕様	NAME	ワークロード仕様の名前。

WLM グループ内の定義 - WLMINGRP

WLMINGRP ビューには、ワークロード・グループ (WLMGROUP) 内でのワークロード定義 (WLMDEF) のメンバーシップに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「ワークロード・マネージャー管理ビュー」 > 「WLM グループ内の定義」

表 110. 提供された「WLM グループ内の WLM 定義」(WLMINGRP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
WLM グループ内の WLM 定義 EYUSTARTWLMINGRP.CREATE	ワークロード定義とワークロード・グループとの間の関連を作成します。

表 110. 提供された「WLM グループ内の WLM 定義」(WLMINGRP) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
WLM グループ内の WLM 定義 EYUSTARTWLMINGRP.DETAILED	選択した関連付けに関する詳細情報
WLM グループ内の WLM 定義 EYUSTARTWLMINGRP.REMOVE	ワークロード定義とワークロード・グループとの間の関連をデータ・リポジトリから除去します。
WLM グループ内の WLM 定義 EYUSTARTWLMINGRP.TABULAR	現行コンテキスト内のすべての WLM 定義およびリンクされた WLM グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 111. WLMINGRP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	ワークロード定義とワークロード・グループとの間の関連を作成します。
REMOVE	ワークロード定義とワークロード・グループとの間の関連をデータ・リポジトリから除去します。

フィールド

表 112. WLMINGRP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
ワークロード管理 (WLM) 定義の名前	DEF	ワークロード・グループに関連付けられるワークロード定義の名前。
ワークロード管理 (WLM) グループ	GROUP	ワークロード・グループの名前。

トランザクション・グループ内のトランザクション - DTRINGRP

DTRINGRP ビューには、ワークロードで使用される動的トランザクションに関する情報が表示されます。ワークロード分離または親和性関係のあるトランザクションのみを定義する必要があります。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「ワークロード・マネージャー管理ビュー」 > 「トランザクション・グループ内のトランザクション」

表 113. 提供された「トランザクション・グループ内のトランザクション」(DTRINGRP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
トランザクション・グループ内のトランザクション EYUSTARTDTRINGRP.DETAILED	トランザクション・グループ内で選択したトランザクションに関する詳細情報
トランザクション・グループ内のトランザクション EYUSTARTDTRINGRP.REMOVE	動的トランザクション定義とリソース・グループとの間の関連をデータ・リポジトリから除去します。
トランザクション・グループ内のトランザクション EYUSTARTDTRINGRP.TABULAR	現行コンテキスト内のすべてのトランザクション・グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 114. DTRINGRP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	動的トランザクション定義とリソース・グループとの間の関連を作成します。
REMOVE	動的トランザクション定義とリソース・グループとの間の関連をデータ・リポジトリから除去します。

フィールド

表 115. DTRINGRP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最終変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
疑似会話型モード	PCONV	トランザクションが疑似会話の中の最初 (START) または最後 (END) のトランザクションであるかどうかを示します。
トランザクション・グループ	TRANGRP	トランザクション・グループの名前。
トランザクション	TRANID	トランザクション・グループに関連付けられたトランザクションの ID。

付録 G RTA システム 使用可能性モニター

「RTA システム 使用可能性モニター」ビューを使用して、リアルタイム分析システム 使用可能性モニター・リソースの作成と保守を行うことができます。RTA SAM 機能は、予定の使用可能時間中 CICS システムをモニターします。CICS システムがモニターされている間に、事前定義の一連の条件のいずれかが起きた場合、その条件の開始時点とその解決時点に外部通知が CICSplex SM から送信されます。

CICS システム定義 - CSYSDEF

「**CICS システム定義**」(CSYSDEF) ビューには、CICSplex の一部として管理下に置かれる CICS システムについて記述した CPSM トポロジー定義が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS システム・リンクおよび関連リソース (CICS system links and related resources)**」 > 「**CICS システム定義 (CICS system definitions)**」の順にクリックします。

表 116. 提供された「**CICS システム定義 (CICS system definitions)**」(CSYSDEF) ビュー・セットのビュー

ビュー	注
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の CICS システム定義を CICS システム・グループに追加します。
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.CREATE	CICS システム 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.DETAILED	選択した CICS システム定義に関する詳細情報
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.REMOVE	データ・リポジトリから CICS システム定義を除去します。 ・ 注: CICS システム定義名が BAS 定義内の SCOPE として指定される場合、REMOVE は失敗して、レコードが使用中であると表示されます。
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべての CICS システム定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 117. CSYSDEF ビューで使用可能なアクション

アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の CICS システム定義を CICS システム・グループに追加します。
CREATE	CICS システム定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリから CICS システム定義を除去します。 ・ 注: CICS システム定義名が BAS 定義内の SCOPE として指定される場合、REMOVE は失敗して、レコードが使用中であると表示されます。
UPDATE	データ・リポジトリ内の CICS システム定義を更新します。

フィールド

表 118. CSYSDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
期間定義名	ACTVTIME	この CICS システムの実行時間を識別する期間定義の名前。
BAS インストール失敗時のアクション	AINSFAIL	<p>BAS インストールに失敗した場合に行うアクションを示します。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CONTINUE <ul style="list-style-type: none"> – 他のリソースのインストールを続けます。 • NORMAL <ul style="list-style-type: none"> – CICS システムを正常にシャットダウンします。 • PROMPT <ul style="list-style-type: none"> – アクションを求めるプロンプトをオペレーター・コンソールに出します。CICS システムでのリソース・インストール・プロセスは、オペレーターが応答するまで中断されますが、他のすべての MAS 処理は続行されます。 • TERMINATE <ul style="list-style-type: none"> – リソースのインストール・プロセスを終了します。これ以上リソースはインストールされません。正常にインストールされたリソースはどれも除去されません。 • IMMEDIATE <ul style="list-style-type: none"> – CICS システムを直ちにシャットダウンします。 <p>アプリケーション用またはプラットフォーム用に CICS バンドルによって生成されたリソースがインストールに失敗した場合、このアクションは実行されません。</p>
アプリケーション ID	APPLID	CICS システムのアプリケーション ID は、相互通信ネットワーク内での認識に使われる名前、すなわちネット名です。
BAS リソース・インストール・オプション	AUTOINST	<p>リソース記述によりシステムに関連付けられたリソースを、MAS から CMAS への接続時に自動的にインストールするかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ALWAYS - CICS の始動後に、MAS が接続するたびにリソースをインストールします。 • COLDONLY - CICS INITIAL または COLD スタート後に MAS が接続する際に限り、リソースをインストールします。 • NEVER - この CICS システムにリソースを自動的にインストールすることはありません。 • WARMONLY - CICS ウォーム・スタートまたは緊急時再始動 (AUTO) 後に MAS が接続する際に限り、リソースをインストールします。 <p>このオプションは、アプリケーションまたはプラットフォーム用に CICS バンドルによって生成されたリソースには適用されません。</p>
RS サーバーの最下位層	BOTRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、最下位層のタスク・ロード範囲 (ゼロからこの値まで) を定義するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 • 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。0 からこの値までのタスク数の値が、タスク・ロード最下位層として認識されます。領域のタスク・ロードがこの範囲に入る場合は、ロードの変更ごとにカップリング・ファシリティにブロードキャストされます。ロードがこの値に達すると、RS サーバー更新頻度のタスク規則が活動化されます。 <p>デフォルト値は 1% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。この値に対する変更は、次回領域を開始するときに適用されます。</p>

表 118. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。 DREPBATCH - CICSplex SM ユーティリティにより変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
CICS 領域モニターのサンプリング間隔	CICSSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
接続モニターのサンプリング間隔	CONNSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
CSYSDEF コンテキスト	CONTEXT	これは、照会のための CICSplex コンテキストを識別する出力専用フィールドです。UPDATERS 属性および READRS 属性のハイパーリンクを有効にする必要があります。
定義元	CREATEORIGIN	定義の作成元を指定します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> N_A - 定義は、ユーザーまたは API プログラムによって作成されました。 PLATFORM - 定義は、プラットフォームのインストール中に作成されました。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
夏時間調整が有効	DAYLIGHTSV	夏時間調整を現在設定しているかどうかを示します。以下のように指定します。 <ul style="list-style-type: none"> YES - 夏時間調整時刻を設定する。 NO - 夏時間調整時刻を設定しない。 INHERIT - アクティブ時にこの CICS システムの接続先となる CMAS に割り当てられた値を継承します。この CICS システムが非アクティブの場合、この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS から、値が継承されます。INHERIT は時間帯 (TMEZONE) および時間帯オフセット (TMEZONEO) も INHERIT の場合のみ、指定できます。
DB2/DBCTL モニターのサンプリング間隔	DBXSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
説明	DESC	CICS システム 定義の説明 (1 から 58 文字まで)。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。

表 118. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
始動時にアクティブなターゲット領域	DYNROUTE	<p>CICS の始動時に、この CICS システムがターゲット領域としてアクティブになり、ワークロードのターゲットとして作業を受け入れるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - CICS システムはアクティブ・ターゲットとなり、CICS 始動時にこれをターゲットとするワークロードの作業を受け入れます。 • NO - CICS システムはターゲット領域ではありません。つまり CICS システムが静止して、CICS 始動時にこれをターゲットとするワークロードの作業を受け入れなくなります。 <p>「アクティブなワークロードでのターゲット領域」 (EYUSTARTWLMWAOR) ビューを使用して、ワークロードのターゲット領域をアクティブ化または静止することができます。</p> <p>通常、ターゲット領域ではこのオプションが YES に設定されます。ルーティング領域がワークロード内のターゲット領域としても機能する場合、その領域では、このオプションが YES に設定されている場合があります。</p>
ファイル・モニターのサンプリング間隔	FILESAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。</p>
グローバル領域モニターのサンプリング間隔	GLBLSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。</p>
ホスト名	HOST	<p>システムの 10 進 IPv4 アドレス (例えば 9.20.181.3)、またはそのコロン 16 進 IPv6 アドレス (例えば ABCD:EF01::2345:6789) に関する 116 文字から成るホスト名。IPv4 互換 IPv6 アドレス (非推奨) または IPv4 にマップされる IPv6 アドレス (例えば ::FFFF:1.2.3.4) として IPv4 アドレスが入力される場合、標準の IPv4 小数点付き 10 進数アドレスに変換されます。CICS Transaction Server for z/OS バージョン 3 リリース 2 およびそれ以前のリリースでは IPv6 アドレスを使用しないでください。これは IPIC SYSLINK 接続に使用されます。</p>
ジャーナル・モニターのサンプリング間隔	JRNLSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。</p>
モニター状況	MONSTATUS	<p>この CICS システムの開始時にリソース・モニターがアクティブとなるかどうかを示します。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - リソース・モニターがアクティブになります。これを有効にするには、CICS システムをモニター仕様に関連付ける必要があります。 • NO - リソース・モニターはアクティブにはなりません。 • INHERIT - この CICS システムに関連するモニター仕様で指定された値を継承します。
保守ポイント CMAS ID	MPCMASID	<p>これは、CICSplex の保守ポイント CMAS を識別する出力専用フィールドです。UPDATERS 属性および READRS 属性のハイパーリンクを有効にする必要があります。</p>
CICS 最大タスク到達イベントに対するアクション	MXTACTION	<p>指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。</p>

表 118. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
CICS 最大タスク数到達イベントの重大度	MXTSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
CICS システム 定義名	NAME	コンテキストで識別される CICSplex に関連付けられる CICS システムの名前 (1 から 8 文字まで)。
ネットワーク ID	NETWORKID	システムのネットワーク ID。 NETWORKID は、APPLID オプションと組み合わせて使用され、IPIC を介して接続中のシステムで固有の名前が使われるようにします。 これは IPIC SYSLINK 接続に使用されます。
無応答 MAS イベントに対するアクション	NRMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。 分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。
無応答 MAS イベントの重大度	NRMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません。 • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
ポート番号	PORT	IPIC SYSLINK がインバウンド要求を受け取る TCPIPService ポート番号をオーバーライドするために使用する値です。有効な値は 1 から 65535 までの範囲の 10 進数です。
1 次 CMAS 名	PRICMAS	この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS の名前。 CICS システムが単一の CMAS によって管理されている CICSplex の一部である場合、その CMAS の名前を 指定します。複数の CMAS が CICSplex の管理に関与するとき、CICS システムが通常接続する CMAS を示します。 CMAS を指名しても、1 次 CMAS が使用できないときなどに CICS システムが別の CMAS に接続することは妨げられません。
プログラム・モニターのサンプリング間隔	PROGSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。

表 118. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
RS サーバー 読み取り間隔	READRS	<p>最適化モードで実行されているワークロードにおいて、この値は、ルーティング領域が CICS CFDT サーバーにターゲット領域の状況のリフレッシュを要求する最小間隔を指定します。この値は、この CICS システム定義の親である CICSplex 定義で指定されているデフォルトの間隔の値を指定変更するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 0 から 2000 または INHERIT で、ミリ秒の単位を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これは、この属性のデフォルト設定です。 値 0 は、ターゲット領域の状況を調べるたびに、ターゲット領域の状況更新をルーティング領域が要求することを意味します。 1 から 2000 までの値は、ターゲット領域の状況データをリフレッシュできるようになるまでに経過する必要がある最小時間間隔 (ミリ秒) を指定します。 <p>小さい値は、大きい値の場合よりも頻繁に RS サーバーのターゲットの状況がルーターによって更新されることを意味します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果カップリング・ファシリティの使用率が増加することがあります。</p> <p>値 1000 は 1 秒の間隔を表します。デフォルト値は 200 ミリ秒です。</p> <p>ここで指定される値は、次回この CICS 領域を開始するときに適用されます。この CICS 領域の実行中のインスタンスに変更を適用する必要がある場合は、MAS ビューを使うことで作動中の変更が可能です。</p>
モニター停止後のデータ保管時間 (分)	RETENTION	<p>収集されたデータがリソース・モニターの停止後に保持される分数。(リソース・モニターが停止するのは、CICS システムの停止時か、MAS ビュー・コマンドを使用して CICS システムのリソース・モニターを停止する場合です。) 可能な保存期間は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 - 1440 <ul style="list-style-type: none"> 収集されたデータは、指定された分数だけ保持されます。 0 <ul style="list-style-type: none"> 収集されたデータは保持されません。 INHERIT <ul style="list-style-type: none"> CICS システムは、関連するモニター仕様で指定された値を使用ようになります。
リアルタイム分析状況	RTASTATUS	<p>この CICS システムの開始時にリアルタイム分析のシステム使用可能性モニター (SAM) および MAS リソース・モニター (MRM) コンポーネントがアクティブになるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> YES - システム使用可能性モニターおよび MAS リソース・モニターはアクティブです。 NO - アクティブな RTA モニターはありません。MAS の初期化が行われたばかりか、または分析がオンになるよう更新された場合は、RTA が完全に初期化されるまで NO が表示されます。 SAM - システム使用可能性モニターがアクティブです。 MRM - MAS リソース・モニターがアクティブです。 N/A - MAS はその CMAS に接続されていません (「MAS の状況」フィールドに INACTIVE と表示されます)。
システム使用可能性モニター・イベントに対するアクション	SAMACTION	<p>指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。</p>

表 118. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
システム使用可能性モニター・イベントの重大度	SAMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
システム・ダンプ・イベントに対するアクション	SDMACTION	<p>指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。 分析仕様からアクション定義を継承させるには、*を指定します。</p>
システム・ダンプ・イベントの重大度	SDMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
シミュレート・セキュリティ検査の免除	SECBYPASS	<p>この CICS システムに対して CICSplex SM 免除セキュリティがアクティブであるかどうかを示します。 免除セキュリティにより、シミュレートされた CICS セキュリティ検査を迂回することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムで免除セキュリティがアクティブです。 • NO - この CICS システムでは免除セキュリティはアクティブではありません。 • INHERIT - この CICS システムに関連する CICSplex に割り当てられた「セキュリティ検査免除」値を継承します。
CICS コマンド・セキュリティ検査のシミュレート状況	SECCMDCHK	<p>CICSplex SM セキュリティ検査がこの CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートするかどうかを示します。 以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートします。 • NO - この CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートしません。 • INHERIT - この CICS システムに関連付けられた CICSplex に割り当てられた値を継承します。

表 118. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
CICS リソース・セキュリティ検査のシミュレート状況	SECRESCHK	<p>CICSplex SM セキュリティー検査がこの CICS システムに関する CICS リソース検査をシミュレートするかどうかを示します。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムに関する CICS リソース検査をシミュレートします。 • NO - この CICS システムに関する CICS リソース検査をシミュレートしません。 • INHERIT - この CICS システムに関連付けられた CICSplex に割り当てられた値を継承します。
ストレージ不足 (SOS) イベントに対するアクション	SOSACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、*を指定します。
ストレージ不足 (SOS) イベントの重大度	SOSSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
CICS 停止イベントに対するアクション	STLACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、*を指定します。
CICS 停止イベントの重大度	STLSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
システム ID	SYSID	CICS システムの 4 文字のシステム ID。指定された値は CICS SYSIDNT SIT オペランドまたは指定変更と一致する必要があります。
トランザクション・ダンプ・イベントに対するアクション	TDMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、*を指定します。

表 118. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
トランザクション・ダンプ・イベントの重大度	TDMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
TDQ モニターのサンプリング間隔	TDQSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
端末モニターのサンプリング間隔	TERMSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
時間帯	TMEZONE	<p>この CICS システムが置かれている時間帯。 以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • B から Z の範囲の時間帯コード文字。時間帯コードの詳細については、「CICSplex SM Administration」資料の『時間帯コード』表を参照してください。 • INHERIT - アクティブ時にこの CICS システムの接続先となる CMAS に割り当てられた時間帯を継承します。 この CICS システムが非アクティブの場合、時間帯は、この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS から継承されます。 INHERIT を指定できるのは、時間帯オフセット (TMEZONEO) が INHERIT で、しかも夏時間調整 (DAYLGHTSV) が INHERIT である場合だけです。
時間帯オフセット	TMEZONEO	<p>計算対象の時刻に適用される調整値。 この値は、標準時間帯を使用しない地域において時間参照を解決するために使用されます。 以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 から 59 までの間の値 - この時間帯の場合 (標準的な時間帯を使用しない地域の場合) に時刻に追加する分数を示します。 • INHERIT - アクティブ時にこの CICS システムの接続先となる CMAS に割り当てられた時間帯オフセットを継承します。 この CICS システムが非アクティブの場合、時間帯オフセットは、この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS から継承されます。 INHERIT を指定できるのは、時間帯 (TMEZONE) が INHERIT で、しかも夏時間調整 (DAYLGHTSV) が INHERIT である場合だけです。

表 118. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバーの最上位層	TOPRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、領域の MAXTASK 値から減算されて、最上位層のタスク・ロード範囲を決定します。この値は、この CICS システム定義の親である CICSplex 定義で指定されているデフォルト値を指定変更するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。結果として得られたタスク数値は領域の MAXTASKS 設定値から減算されて、タスク・ロードの最上位層を設定します。領域内のタスク・ロードが MAXTASKS 制限に達した場合は、タスク・ロードがこの値を下回るまで、領域の MAXTASKS 状態はオフに切り替わらず、カップリング・ファシリティーにもブロードキャストされません。 <p>デフォルト値は 5% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティーのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。この値に対する変更は、次回領域を開始するときに適用されます。</p>
トランザクション・モニターのサンプリング間隔	TRANSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があってからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。</p>
RS サーバー 更新頻度	UPDATERS	<p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、ターゲット CICS 領域内のタスク・ロード値を変更するために CICS CFDT (RS) サーバーを呼び出す頻度を指定します。この値は、この CICS システム定義の親である CICSplex 定義で指定されているデフォルトの頻度の値を指定変更するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 0 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 値が 0 の場合、タスク・ロード数が増えられても RS サーバーに通知されないため、この CICSplex の範囲内の領域に対して最適化されたワークロード機能が無効になります。 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。その結果生じたタスク数の値は、RS サーバーへの更新呼び出しを行うための数値しきい値として使用されます。 <p>例えば MAXTASKS 設定が 120 でこの属性が 20 に設定されている場合、領域タスク・カウントが以下のように変わるときに、WLM ロード・カウントを更新するよう RS サーバーが呼び出されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> タスク 23 と 24 (20%) 47 タスクから 48 タスクに - (40%)、 71 タスクから 72 タスクに - (60%) 95 タスクから 96 タスクに - (80%)、 119 タスクから 120 タスクに - (100%) <p>RS サーバーは、領域のタスク・ロードがこれらの境界をまたいで増加または減少したときに更新されます。</p> <p>1 から 25 スケールのうちの小さい値が指定されると、タスク・ロード範囲全体を通して RS サーバーを更新する頻度が増します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果カップリング・ファシリティーの使用率が増加することがあります。</p> <p>ここで指定される値は、次回この CICS 領域を開始するときに適用されます。この CICS 領域の実行中のインスタンスに変更を適用する必要がある場合は、MAS ビューを使うことで作動中の変更が可能です。</p>

表 118. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
WLM 最適化の使用可能化	WLMOPTEN	<p>この属性は、最適化された動的ルーティング機能の使用可能化を制御します。</p> <p>ENABLED に設定すると、CICSplex SM ワークロード 管理エージェントの始動時に、領域が CICS 領域状況 サーバーへの接続を試行します。その接続が成功すると、領域は、最適化されたワークロード・ルーティング要求の参加に適格となります。</p> <p>この属性を DISABLED に設定すると、始動時に領域が領域状況サーバーに接続されず、最適化された動的ワークロードのルーティング要求は抑止されます。</p> <p>この定義の設定値は、実行時に MAS ビューでオーバーライドされる場合があります。</p>
タスク・ロード・キュー・モード	WLMQMODE	<p>この属性は CICSplex SM ワークロード・マネージャーが使用します。この値によって、ターゲット CICS 領域のキューに入れられたタスク・ロードの評価方法を次のように指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MAXTASK - アクティブ・タスクおよび MAXTASK のキューに入れられたタスクの両方が、領域のタスク・ロード評価に含まれること指定します。 • ALL - アクティブ・タスク、MAXTASK 限界のキューに入ったタスク、および TRANCLASS 限界のためにキューに入ったタスクを領域のタスク・ロード評価に含めることを指定します。 <p>デフォルト値は ALL です。この値に対する変更は、次回領域を開始するときに適用されます。</p>
始動時にアクティブなルーティング領域	WLMSTATUS	<p>CICS システムの始動時に、この CICS システムが、その関連付けられたワークロードにルーティング領域として参加するかどうかを示します。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - CICS 始動時に CICS システムはルーティング領域として関連するワークロードに参加します。 • NO - CICS 始動時に CICS システムはルーティング領域として動作することを試みません。 <p>関連するワークロードを識別するには、「WLM 仕様と CICS システムとの間のリンク」(EYUSTARTLNKSWSCS) ビュー、「WLM 仕様と CICS システム・グループとの間のリンク」(EYUSTARTLNKSWSCG) ビュー、またはワークロード管理マップ機能を使用します。CICS システムがワークロードに関連付けられていない場合は、ルーティング領域としてアクティブ化されません。</p> <p>通常、ルーティング領域ではこのオプションが YES に設定されます。ターゲット領域が CICS 分散ルーティング・モデル (DSRTPGM) を使って要求を受け取る場合には、ターゲット領域でもこのオプションを YES に設定する必要があります。</p>
タスク・ロード・ヘルスしい値	WLMTHRSH	<p>この属性は CICSplex SM ワークロード・マネージャーが使用します。現在の領域タスク・ロードの比率しい値を指定します。これは現在のタスク数を最大タスク数で割ることで算出されます。ターゲット領域のロードがこのしい値に達すると、WLM はその領域の正常性がやや損なわれたと見なします。これによって、この領域の評価時に、より高いリンク重みが WLM ルーティング・アルゴリズムに適用されます。ターゲット・スコープに、ルーターに対するローカル領域およびリモート領域が含まれる場合、WLM はリモート領域よりもローカル領域を優先します。この属性を適用すると、ローカル領域でこのロードしい値に達したときに、WLM はローカルではなくリモートのターゲットを優先するようになります。スコープ内のすべてのターゲットがこのロードしい値に達すると、WLM は再びローカルのターゲットを優先するようになります。</p> <p>値の範囲は 1 から 100 で、デフォルト値は 60 です。ここで指定される値は、次回この CICS 領域を開始するときに適用されます。</p> <p>注: この値は、リンク中立な動的ルーティング要求のルーティング要因に適用されると、ヌルになります。LNQUEUE アルゴリズムと LNGOAL アルゴリズムでは、リンク・ウェイト自体が無視されるからです。</p>

仕様 - RTASPEC

「RTA 仕様」(RTASPEC) ビューには、CICS システムに関連付けられているすべての分析定義と状況定義のアンカーになるデフォルトの制御属性が表示されます (それらの属性は、システム 可用性モニターで使用されます)。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、
「管理ビュー」 > 「RTA MAS リソース・モニター」 > 「仕様」

表 119. 提供された「RTA 仕様」RTASPEC) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
RTA 仕様 EYUSTRTRTASPEC.ADDSYSDEF	CICS システムを RTASPEC に関連付けます。
RTA 仕様 EYUSTRTRTASPEC.ADDSYSGRP	CICS システム・グループを RTASPEC に関連付けます。
RTA 仕様 EYUSTRTRTASPEC.CREATE	新規 RTA 仕様を作成します。
RTA 仕様 EYUSTRTRTASPEC.DETAILED	選択した RTA 仕様に関する詳細情報
RTA 仕様 EYUSTRTRTASPEC.REMOVE	選択した RTA 仕様を除去します。
RTA 仕様 EYUSTRTRTASPEC.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex の RTA 仕様に関するテーブル形式の情報

アクション

表 120. RTASPEC ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDSYSDEF	CICS システムを RTASPEC に関連付けます。
ADDSYSGRP	CICS システム・グループを RTASPEC に関連付けます。
CREATE	新規 RTA 仕様を作成します。
REMOVE	選択した RTA 仕様を除去します。
UPDATE	選択した RTA 仕様を更新します。

フィールド

表 121. RTASPEC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。

表 121. RTASPEC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	RTA 仕様の説明 (1 から 58 文字まで)。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
CICS 最大タスク到達イベント に対するアクション	MXTACTION	事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名前。このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。
CICS 最大タスク数到達イベント の重大度	MXTSEV	<p>指定された条件に関連付けられる重大度レベル。重大度コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 <p>NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。</p> <p>注:</p> <p>ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
RTA 仕様名	NAME	分析仕様の名前。
無応答 MAS イベントに対する アクション	NRMACTION	事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名前。このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。
無応答 MAS イベントの重大度	NRMSEV	<p>指定された条件に関連付けられる重大度レベル。重大度コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 <p>NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。</p> <p>注:</p> <p>ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>

表 121. RTASPEC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
システム使用可能性モニター・イベントに対するアクション	SAMACTION	事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名前。このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。
システム使用可能性モニター・イベントの重大度	SAMSEV	<p>指定された条件に関連付けられる重大度レベル。重大度コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 <p>NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。</p> <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
システム・ダンプ・イベントに対するアクション	SDMACTION	事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名前。このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。
システム・ダンプ・イベントの重大度	SDMSEV	<p>指定された条件に関連付けられる重大度レベル。重大度コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 <p>NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。</p> <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
ストレージ不足 (SOS) イベントに対するアクション	SOSACTION	事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名前。このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。

表 121. RTASPEC ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
ストレージ不足 (SOS) イベントの重大度	SOSSEV	<p>指定された条件に関連付けられる重大度レベル。重大度コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 <p>NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。</p> <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
CICS 停止イベントに対するアクション	STLACTION	<p>事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名称。このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。</p>
CICS 停止イベントの重大度	STLSEV	<p>指定された条件に関連付けられる重大度レベル。重大度コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 <p>NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。</p> <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
トランザクション・ダンプ・イベントに対するアクション	TDMACTION	<p>事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名称。このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。</p>

表 121. RTASPEC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
トランザクション・ダンプ・イベントの重大度	TDMSEV	<p>指定された条件に関連付けられる重大度レベル。 重大度コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 <p>NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。</p> <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>

アクション - ACTION

「アクション定義」(ACTION)ビューには、分析定義で指定されている 1 つ以上の条件が真になる場合に発生する外部通知のタイプが表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA 分析点モニター」 > 「アクション」

表 122. 提供された「アクション定義」(ACTION) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
アクション定義 EYUSTARTACTION.CREATE	<p>アクション定義を作成してデータ・リポジトリに追加します。</p> <p>「作成」アクションを使用する際に、新しいビュー内の一部のフィールドに CICSplex SM 提供値が入れられることがあります。これらの値は変更できます。既存の定義を選択してから「作成」をクリックすると、新しい EYUSTARTACTION.CREATE ビュー内のフィールドに (既存の評価定義から) モデル化された値が入れられます。</p>
アクション定義 EYUSTARTACTION.DETAILED	選択したアクション定義に関する詳細情報
アクション定義 EYUSTARTACTION.REMOVE	データ・リポジトリからアクション定義を除去します。
アクション定義 EYUSTARTACTION.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべてのアクション定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 123. ACTION ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	アクション定義を作成してデータ・リポジトリに追加します。 「作成」アクションを使用する際に、新しいビュー内の一部のフィールドに CICSplex SM 提供値が入れられることがあります。これらの値は変更できます。既存の定義を選択してから「作成」をクリックすると、新しい EYUSTARTACTION.CREATE ビュー内のフィールドに (既存の評価定義から) モデル化された値が入れます。
REMOVE	データ・リポジトリからアクション定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ中の選択されたアクション定義を更新します。 この場合、選択された定義からの値を含む EYUSTARTACTION.CREATE ビューがオープンされます。このビュー内のフィールドは、「アクション名」を除いて内容を変更できます。

フィールド

表 124. ACTION ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アラートのクリア時のメッセージ・テキスト	ALERTMSGEND	アラートが発生する条件の終了時に SNA 総称アラートに追加する、1 文字から 30 文字のメッセージ。
アラート発生時のメッセージ・テキスト	ALERTMSGSTRT	アラートが発生する条件の開始時に SNA 総称アラートに追加する、1 文字から 30 文字のメッセージ。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 ・ DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最終変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	(オプション) 1 文字から 30 文字の定義の説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
イベント発生時に送信するメッセージ	EVENTMSG	通知条件が生じる場合にイベントについて記述する、1 文字から 30 文字の説明。 システム使用可能性モニター条件でアクション定義が使用される場合、* (アスタリスク)を指定して、この条件にデフォルトのイベント・テキストを使用できます。
イベント切断時に送信した外部メッセージ	EXTMSGEND	通知指定条件の終了時に作成される CICSplex SM メッセージに追加する、1 文字から 30 文字の説明。
イベント発生時に送信した外部メッセージ	EXTMSGSTRT	通知指定条件の発生時に作成される外部メッセージに追加する、1 文字から 30 文字の説明。
SNA 総称アラートの生成	GENALERT	このアクションの一部として SNA 総称アラートが NetView に送信されるかどうかを示します。
イベントの生成	GENEVENT	通知条件の発生時に CICSplex SM イベント・メッセージが生成されるかどうかを示します。YES を指定する場合、次の情報のうち該当するものを指定してください。 ・ 条件に関するサイト特定のオプション・データ ・ アクションの優先順位 ・ イベント発生時に送信するメッセージ
外部メッセージの生成	GENEXTMSG	通知条件の発生時に外部メッセージが生成されるかどうかを示します。

表 124. ACTION ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
アクション	NAME	1 文字から 8 文字までのアクション定義の名前。名前には英字、数字、国別文字を含めることができます。ただし、先頭文字は英字でなければなりません。
NetView が接続した CMAS	NETVIEW	NetView システムのリンク先の CMAS の名前。
アクションの優先順位	PRIORITY	1 から 255 までの間(両端を含む)の値。この値と、条件に関連した重大度コードを使用して、EVENT ビューに表示されるイベントのソート順が判別されます。優先度が高いほど、リスト内のイベントの表示順序は先になります。
MVS 自動リスタート	RESTARTMAS	MVS 自動リスタート・マネージャー (ARM) を使用して、イベントの影響を受けた CICS システムを即時に取り消して再始動するかどうかを示します。デフォルトは NO です。ARM 再始動を正常に実行するには、CICS システムが次のようになっている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • CICSplex SM にローカル MAS として認識されている • ARM がアクティブになっている MVS イメージ中で実行されている • 初期化の際に ARM に正常に登録されている • 現行の ARM ポリシーに従う再始動に適格である
ユーザー・データ域	VIEW	(オプション) 条件に関するサイト別の追加データの入力や、条件の解決での活用を目的とした 8 文字までのストリング。

時間枠 - PERIODEF

「**時間枠定義**」(PERIODEF) ビューは、リソース・モニターやリアルタイム分析で、特定のアクションの開始時と停止時の指定に使用される時間枠に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**RTA 分析点モニター**」 > 「**時間枠**」

表 125. 提供された「 時間枠定義 」(PERIODEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.CREATE	新規の時間枠定義を作成します。
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.DETAILED	選択した時間枠定義に関する詳細情報
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.REMOVE	データ・リポジトリから時間枠定義を除去します。
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.TABULAR	現行コンテキスト内のすべての時間枠定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 126. PERIODEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	新規の時間枠定義を作成します。
REMOVE	データ・リポジトリから時間枠定義を除去します。
UPDATE	既存の時間枠定義を作成します。

フィールド

表 127. PERIODEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	期間定義の説明。 入力値: 1 から 58 文字の説明
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
終了時間	END	期間が終わる時分単位の時刻。 入力値: 00:00 から 23:59 まで
名前	NAME	期間定義の名前。CICSplex 中で固有です。
開始時間	START	期間が始まる時分単位の時刻。 入力値: 00:00 から 24:00 まで
時間帯	ZONE	この期間定義が適用される時間帯を識別する、A から Z までの 1 文字のコード。 これらのコードは、それぞれ 24 の標準の国際的な時間帯の 24 時間制 ID を表します。これらのコードが表す時間帯は、グリニッジ標準時(GMT)を表す Z を先頭にして、アルファベットの逆順に GMT から西へ移動します。 注: 時間帯コード A を使用する期間定義は、この定義を使用する CMAS または CICS システムの現行時間帯に従って適用されます。
時間帯調整係数	ZONEADJ	標準的な時間帯を使用しない地域の場合に、時間帯に追加する分数。 期間定義の時間帯が A の場合、この値は無視されます。 入力値: 0 から 59 まで

仕様とシステムとの間のリンク - LNKSRSRCS

「RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク」(LNKSRSRCS) ビューには、CICS システムと関連付けられる RTA 仕様に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA MAS リソース・モニター」 > 「仕様とシステムとの間のリンク」

表 128. 提供された「RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク」(LNKSRSRCS) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSRCS.CHGSPEC	RTA 仕様と CICS システムの間のリンクを更新します。
RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSRCS.CREATE	RTA 仕様と CICS システムの間にリンクを作成します。

表 128. 提供された「RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク」(LNKSRSCS) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSCS.DETAILED	選択した CICS システムおよび分析仕様の間の関連性に関する詳細情報
RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSCS.REMOVE	RTA 仕様と CICS システムの間の関連を除去します。
RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSCS.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex の、分析仕様に関連した CICS システムに関するテーブル形式の情報

アクション

表 129. LNKSRSCS ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CHGSPEC	RTA 仕様と CICS システムの間のリンクを更新します。
CREATE	RTA 仕様と CICS システムの間にリンクを作成します。
REMOVE	RTA 仕様と CICS システムの間の関連を除去します。

フィールド

表 130. LNKSRSCS ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
システム・グループ RTA 仕様は、次から継承されました	GROUP	RTA 仕様が派生した CICS システム・グループの名前。
作成モード	LINK	CICS システムがどのように分析仕様と関連しているかを示します。 • EXPLICIT – CICS システムが仕様に直接関連しています。 • INHERIT – CICS システムがメンバーになっている CICS システム・グループから仕様を継承しました。
RTA 仕様	SPEC	RTA 仕様の名前。
CICS システム	SYSTEM	分析仕様に関連する CICS システムの名前。

仕様とシステム・グループとの間のリンク - LNKSRSCG

「RTA 仕様と CICS システム・グループとの間のリンク」(LNKSRSCG) ビューには、CICS システム・グループに関連付けられている RTA 仕様に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

表 131. 提供された「仕様とシステム・グループとの間のリンク」(LNKSRSCG) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSCG.CHGSPEC	RTA 仕様と CICS システム・グループの間のリンクを更新します。
仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSCG.CREATE	RTA 仕様と CICS システム・グループの間にリンクを作成します。
仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSCG.DETAILED	選択した CICS システム・グループおよび分析仕様の間の関連性に関する詳細情報
仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSCG.REMOVE	RTA 仕様と CICS システム・グループの間の関連を除去します。
仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSCG.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex の、分析仕様に関連した CICS システム・グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 132. LNKSRSCG ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CHGSPEC	RTA 仕様と CICS システム・グループの間のリンクを更新します。
CREATE	RTA 仕様と CICS システム・グループの間にリンクを作成します。
REMOVE	RTA 仕様と CICS システム・グループの間の関連を除去します。

フィールド

表 133. LNKSRSCG ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
システム・グループ	GROUP	分析仕様に関連する CICS システム・グループの名前。
RTA 仕様	SPEC	RTA 仕様の名前。

付録 H CICS システム・リンクおよび関連リソース

すべてのシステム・リンク - SYSLINK

「**CICS システム・リンク定義**」(SYSLINK) ビューには、CICSplex 内の CICS システム 同士の間のリンクに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS システム・リンクおよび関連リソース**」 > 「すべてのシステム・リンク」

表 134. 提供された「**CICS システム・リンク定義**」(SYSLINK) ビュー・セットのビュー

ビュー	注
CICS システム・リンク定義 EYUSTARTSYSLINK.CREATE	CICS システム・リンク定義を作成して、これをデータ・リポジトリに追加します。
CICS システム・リンク定義 EYUSTARTSYSLINK.DETAILED	選択した CICS システム・リンク定義に関する詳細情報
CICS システム・リンク定義 EYUSTARTSYSLINK.INSTALL	アクティブな CICS システムにシステム・リンクをインストールします。
CICS システム・リンク定義 EYUSTARTSYSLINK.REMOVE	データ・リポジトリから CICS システム・リンク定義を除去します。
CICS システム・リンク定義 EYUSTARTSYSLINK.TABULAR	CICS システム・リンク定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 135. SYSLINK ビューで使用可能なアクション

アクション	説明
CREATE	CICS システム・リンク定義を作成して、これをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	アクティブな CICS システムにシステム・リンクをインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから CICS システム・リンク定義を除去します。

フィールド

表 136. SYSLINK ビューのフィールド

フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。

表 136. SYSLINK ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
1 次接続定義名	CONNDEF	リンクを記述する 1 次接続定義の名前。 このリソース・タイプは、LINKTYPE フィールドの値によって決まります。以下で説明します。 <ul style="list-style-type: none"> 接続リソース・タイプ (LINKTYPE) が有効であり、SNA と等しい場合に、ISC/MRO 接続定義が使用されます。 接続リソース・タイプ (LINKTYPE) が有効であり、IPIC と等しい場合に、IPIC 接続定義が使用されます。
1 次接続定義バージョン	CONNDEFVER	1 次接続定義のバージョン (1 から 15)。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
1 次 CICS システム名	FROMCSYS	他の CICS システムにリンクされる CICS システムの名前。
接続リソース・タイプ	LINKTYPE	このリンク定義に使用されるプロトコル。 <ul style="list-style-type: none"> SNA - MRO/ISC 接続。 IPIC - IPIC 接続。
2 次接続定義名	SESSDEF	リンクを記述する 2 次接続定義の名前。 このリソース・タイプは、LINKTYPE フィールドの値によって決まります。以下で説明します。 <ul style="list-style-type: none"> 接続リソース・タイプ (LINKTYPE) が有効であり、SNA と等しい場合に、セッション定義が使用されます。 接続リソース・タイプ (LINKTYPE) が有効であり、IPIC と等しい場合に、TCP/IP サービス定義が使用されます。
2 次接続定義バージョン	SESSDEFVER	2 次接続定義のバージョン (1 から 15)。
2 次 CICS システム名	TOCSYS	1 次 CICS システムにリンクされる CICS システムの名前。

ISC/MRO 接続定義 - CONNDEF

「**接続定義**」(CONNDEF) ビューには、CICS システムがシステム 間連絡 (ISC) または複数領域操作 (MRO) を使用して通信するリモート・システムが表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**ISC/MRO 接続定義**」

表 137. 提供された「ISC/MRO 接続定義」(CONNDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
ISC/MRO 接続定義 EYUSTARTCONNDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の接続定義をリソース・グループに追加します。
ISC/MRO 接続定義 EYUSTARTCONNDEF.CREATE	接続定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
ISC/MRO 接続定義 EYUSTARTCONNDEF.DETAILED	選択した接続定義に関する詳細情報
ISC/MRO 接続定義 EYUSTARTCONNDEF.INSTALL	接続定義をアクティブなシステムにインストールします。
ISC/MRO 接続定義 EYUSTARTCONNDEF.REMOVE	データ・リポジトリから接続定義を除去します。

表 137. 提供された「ISC/MRO 接続定義」(CONNDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
ISC/MRO 接続定義 EYUSTARTCONNDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての MRO 接続定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 138. CONNDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の接続定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	接続定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
INSTALL	接続定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから接続定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の接続定義を更新します。

フィールド

表 139. CONNDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アクセス方式	ACCESSMETHOD	この接続で使用されるアクセス方式: <ul style="list-style-type: none"> • APPC - 拡張プログラム間通信機能。 • EXCI - 接続は、外部 CICS インターフェースを使用するプログラムにより使用されます。 • INDIRECT - ローカル CICS システムとこの接続定義により定義されたシステムとの間の通信は、「中間システム名」フィールドで指定されたシステムを介して行われます。 • IRC - 接続に領域間通信プログラム DFHIRP を使用します。これは MRO 用のアクセス方式です。 • NETBIOS - 接続に NETBIOS LAN プロトコルを使用します。 • VTAM - VTAM システム間連絡。 • XM - MVS 仮想記憶間サービス。
接続時セキュリティ・レベル	ATTACHSEC	接続に必要な接続時ユーザー・セキュリティのレベル: <ul style="list-style-type: none"> • IDENTIFY - 着信接続要求は、ユーザー ID を指定する必要があります。接続するシステムに安全保護マネージャーがある場合（それが別の CICS システムである場合など）、IDENTIFY を入力します。 • LOCAL - ユーザーの権限はリンク自体の権限として認識され、リソースの保護はリンクのセキュリティだけに依存します。CONNECTION 定義の PROTOCOL 属性が LU6.1 である場合は、LOCAL を指定してください。 • MIXIDPE - 着信接続要求では IDENTIFY と PERSISTENT のいずれかまたは両方のセキュリティ・タイプを使用できます。実際に使用されるセキュリティ・タイプは、着信接続要求によって異なります。 • PERSISTENT - 着信接続要求の最初の接続要求でユーザー ID およびユーザー・パスワードを指定する必要があります。 • VERIFY - 着信接続要求でユーザー ID およびユーザー・パスワードを指定する必要があります。

表 139. CONNDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
VTAM の自動接続セッション	AUTOCONNECT	<p>CICS が初期化されるとき、または VTAM との通信が開始されるたびにこの接続でのセッションがバインドされるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ALLCONN - 関連するセッションはバインドされます。関連するモード名は一般には ALLCONN としても指定されます。 AUTOCONN - 関連するセッションはバインドされます。 NONAUTOCONN - 関連するセッションはバインドされません。
バインド・パスワード	BINDPASSWORD	(APPC のみ) 最大 16 個の 16 進数文字 (0 から 9、A から F) によるパスワード。
バインド時セキュリティ	BINDSECURITY	<p>外部セキュリティ・マネージャー (ESM) がバインド時のセキュリティに使用されているかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO - 外部バインド時安全保護は不要です。 YES - セキュリティがアクティブで XAPPC システム 初期化パラメーターが YES に設定されている場合、ESM が呼び出されます。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラム マプル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSEBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
接続優先順位	CONNPRIORITY	(OS/2 用 CICS のみ) 接続優先度を 0 から 255 の範囲で指定します。(デフォルトは 86 です。)
接続の様態	CONNTYPE	<p>外部 CICS インターフェース (EXCI) 接続における接続の性質:</p> <ul style="list-style-type: none"> GENERIC - この接続は非 CICS クライアント・プログラムから CICS 領域への通信用で、かつ、汎用です。汎用接続とは、複数の EXCI ユーザーが共用する複数のセッションが含まれる MRO リンクのことをいいます。汎用接続では NETNAME 属性を指定できません。 SPECIFIC - 接続は非 CICS クライアント・プログラムから CICS 領域への通信用で、固有です。固有接続とは、クライアント・プログラムで単一のユーザーに占有される 1 つ以上のセッションが含まれる MRO リンクのことをいいます。固有接続では、NETNAME が必須です。 APPC - APPC を使用する別の CICS システムへの接続。 NOTAPPLIC - 接続では EXCI を使用しません。
作成時刻	CREATETIME	接続が作成された現地時間。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
データ・ストリーム・タイプ	DATASTREAM	<p>データ・ストリームのタイプ:</p> <ul style="list-style-type: none"> LMS - データ・ストリームのタイプを指定します。 SCS - データ・ストリームは、LUTYPE6.1 アーキテクチャーで定義された SCS データ・ストリームです。 STRFIELD - データ・ストリームは、LUTYPE6.1 アーキテクチャーで定義された構造化フィールド・データ・ストリームです。 USER - ユーザー定義のデータ・ストリーム。 3270 - データ・ストリームは、タイプ 6.1 論理装置 (LUTYPE6.1) アーキテクチャーで定義された 3270 データ・ストリームです。

表 139. CONNDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	接続定義の説明。
中間システム名	INDSYS	このシステムとリモート・システムとの通信を中継するために使用される中間システムの名前。名前の長さは最大 4 文字です。「アクセス方式」フィールドに「INDIRECT」を指定した場合にのみ、中間システムの名前を指定できます。
接続状況	INSERVICE	<p>APPC または MRO のいずれかのプロトコルを使用する接続では、接続状況は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ACQUIRED - 接続は獲得されています。つまり、パートナー LU と連絡が取れ、初期 CNOS 交換が完了しました。 • AVAILABLE - 接続は獲得されていますが、現在バインド済みセッションはありません。 • FREEING - 接続を解放中です。 • NOTAPPLIC - この接続は、CICS 間 MRO または APPC 接続ではありません。 • OBTAINING - 接続を獲得中です。 • RELEASED - 接続は解放済みです。
TCP/IP ローカル・ホスト名	LOCLHOSTNAME	(OS/2 用 CICS のみ) TCP/IP 接続では、ローカル・システムの 1 から 40 文字のホスト名 (または同等の IP アドレス) を指定します。アスタリスク (*) を指定した場合は、使用するアダプターを TCP/IP が選択します。
ローカル論理装置の別名	LUALIAS	APPC 接続では、VTAM 論理装置 (LU) の別名。
最大キュー時間	MAXQTIME	<p>キューに入れられた割り振り要求が、反応がないように見える接続に空きセッションができるのを待機する最大待ち時間。最大キュー時間は、キュー限度が「キュー限度」フィールドで指定されている場合にのみ使用され、その後、キューの長さがキュー限度値に達した場合にのみ制限時間が適用されます。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - 割り振り要求をキューに入れられたままにしておくことができる時間に制限はありません。 • nnnn - 反応がないように見える接続において割り振り要求をキューに入れることができる時間のおおよその上限。数値は 0 から 9999 の範囲の秒数を表します。 <p>キュー限度を指定しない場合は、このフィールドをブランクのままにします。</p>
通信モード名	MODENAME	定義がアクティブなシステムにインストールされるときにセッションを識別するために使用する名前。
名前	NAME	接続定義の名前。
NETBIOS 論理 LAN アダプター	NETBIOSADAPT	(OS/2 用 CICS のみ) NetBIOS 接続では、リモート・システムで使用される論理 LAN アダプターを指定します。有効な値は 0、1、または B (両方の場合) です。
ネットワーク名	NETNAME	接続を所有するシステムへの相互通信リンク。名前の最大長は 8 文字です。
パートナー・コード・ページ	PARTCODEPAGE	(OS/2 用 CICS のみ) リモート・システムのコード・ページを 1 から 5 桁で指定します。(デフォルトは 37 です。)
パートナー論理装置の別名	PARTLUALIAS	(OS/2 用 CICS のみ) APPC 接続では、コミュニケーション・マネージャーがパートナー論理装置を参照するために使用する名前を 1 から 8 文字で指定します。

表 139. CONNDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
Protocol	PROTOCOL	VTAM のアクセス方式による接続の場合、LUTYPE6.1 (LU61) または拡張プログラム間通信 (APPC) のどちらの SNA プロトコルが使用中か示します。値 EXCI は、この接続が外部 CICS インターフェースを使用することを意味します。値 NOTAPPLIC は、この接続が VTAM 接続でないことを意味します。
持続セッションのリカバリー処理	PSRECOVERY	<p>持続セッション・サポートを使用して実行している CICS 領域では、LU6.2 セッションが持続セッション遅延間隔内のシステム再始動でリカバリーされるかどうか、およびそのリカバリー方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NONE - すべてのセッションは CNOS リカバリーを行わずにサービス休止としてアンバインドされます。 • SYSDEFAULT - 障害のある CICS システムが持続セッション遅延間隔内に再始動した場合、次のアクションが行われます。 <ul style="list-style-type: none"> – ユーザー・モードグループが SESSIONS RECOVPTION 値にリカバリーされます。 – SNASVCMG モードグループが 回復します。 – 接続は ACQUIRED 状態に戻され、最後に折衝された CNOS 状態が返されます。 • N_A - 値はこの定義に適用されず、妥当性検査は行われません。
キュー限度	QUEUELIMIT	<p>空きセッションを待機する間に CICS がキューに入れる割り振り要求の最大数。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - 空きセッションを待機する間に CICS がキューに入れられることが可能な割り振り要求の数に設定される限度はありません。 • nnnn - 空きセッション待機中の接続において、CICS がキューに入れることのできる割り振り要求の 0 から 9999 までの範囲の最大数。
レコード形式	RECORDFORMAT	<p>SNA チェーンのタイプ。</p> <ul style="list-style-type: none"> • U - 単一の非ブロック化データ・ストリーム。 • VB - SNA チェーンは、LUTYPE6.1 アーキテクチャーで定義されているように VLVB 標準に従って形式設定されます。
リモート・システムの接続名	REMOTENAME	接続を所有するシステムまたは領域において、トランザクション・ルーティングの APPC 接続を識別するための名前。名前の長さは最大 4 文字です。
所有 TOR のネット名	REMOTESYSNET	接続を所有するシステムのネットワーク名 (APPLID)。名前の長さは最大 4 文字です。
リモート接続名	REMOTESYSTEM	接続を所有するシステムへの相互通信リンク。名前の長さは最大 4 文字です。
NETBIOS リモート・システム・アプリケーション ID	REMSYSAPPLID	(OS/2 用 CICS のみ) NetBIOS 接続では、リモート CICS システムの名前を 1 から 8 文字で指定します。この名前は、リモート・システムの SIT のローカル・システム・アプリケーション ID と一致している必要があります。
TCP/IP リモート・ホスト名	REMTHOSTNAME	(OS/2 用 CICS のみ) TCP/IP 接続では、リモート・システムの 1 から 40 文字のホスト名 (または同等の IP アドレス) を指定します。
TCP/IP リモート・ホスト・ポート	REMTHOSTPORT	<p>(OS/2 用 CICS のみ) TCP/IP 接続では、リモート・システムの TCP ポートを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 - 1 から 65535 の範囲のポート番号。(デフォルトは 1435 です。) • * (アスタリスク) - TCP/IP の SERVICES ファイルにある値が使用されます。
リモート・システムのセキュリティ名	SECURITYNAME	APPC および LU6.1 リンクの場合のみ、これはリモート・システムのセキュリティ名です。セキュリティ名 (またはセッション定義の USERID) は、ご使用のシステムの有効な RACF ユーザー ID でなければなりません。
最大セッション・バッファ・サイズ	SESSBUFFSIZE	接続用セッション・バッファの最大サイズ (256 から 30720 の範囲)。
並行アクティブ・セッション数	SESSCOUNT	現在使用中のセッション数。

表 139. CONNDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
単一セッション APPC リンク上の APPC 端末	SINGLESESS	定義が CICS への単一セッション APPC リンク上の APPC 端末を対象としたものであるかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> NO - 定義は CICS への単一セッション APPC リンクを対象としたものではありません。 YES - 定義は CICS への単一セッション APPC リンク上の APPC 端末を対象としたものです。 N_A - 値はこの定義に適用されず、CICSplex SM による妥当性検査は行われません。
デフォルト・ユーザー ID を使用	USEDFLTUSER	ATTACHSEC 属性で暗黙的に指定されたセキュリティー情報がインパウンド FMH5 に含まれない場合を取るアクション: <ul style="list-style-type: none"> NO - 接続要求が拒否され、プロトコル違反メッセージが発行されます。 YES - CICS システム用に DFLUSER SIT パラメーターで指定されたデフォルトのユーザー ID を使用します。 N_A - 値はこの定義に適用されず、CICSplex SM による妥当性検査は行われません。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
交換ログ名 (XLN) アクション	XLNACTION	交換ログ名 (XLN) プロセスの状況。

セッション定義 - SESSDEF

「セッション定義」(SESSDEF) のビューは、システム間連絡 (ISC) または複数領域操作 (MRO) を使用して通信するシステム間の論理リンクに関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「セッション定義」

表 140. 提供された 「セッション定義」 (SESSDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
セッション定義 EYUSTARTSESSDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のセッション定義をリソース・グループに追加します。
セッション定義 EYUSTARTSESSDEF.CREATE	セッション定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
セッション定義 EYUSTARTSESSDEF.DETAILED	選択したセッション定義に関する詳細情報
セッション定義 EYUSTARTSESSDEF.REMOVE	データ・リポジトリからセッション定義を除去します。
セッション定義 EYUSTARTSESSDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのセッション定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 141. SESSDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上のセッション定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	セッション定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
REMOVE	データ・リポジトリからセッション定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のセッション定義を更新します。

フィールド

表 142. SESSDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
自動接続オプション	AUTOCONNECT	<p>接続の確立方法を指定します。</p> <p>接続定義で Autoconnect が YES または ALL に設定された APPC VTAM 接続のシステムでは、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - CICS は接続が確立されるときにセッションのバインドを試行しません。 • YES または ALL - CICS の初期化中に、または CEMT SET VTAM OPEN コマンドによって VTAM との通信が開始されるときに、コンテンション勝者セッションが確立されます (つまり、BIND が実行されます)。 <p>CONNECTION 定義で Autoconnect が NO に設定された APPC VTAM 接続のシステムでは、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ALL - CEMT SET CONNECTION(name) ACQUIRED の発行によって接続が獲得されたとき、またはリモート・システムが自ら通信を開始するときに、コンテンション勝者だけではなくすべてのセッションが確立されます。 • NO - CICS は接続が確立されるときにセッションのバインドを試行しません。 • YES - CEMT SET CONNECTION(sysid) ACQUIRED の発行によって接続が獲得されるとき、またはリモート・システムが自ら通信を開始するときに、コンテンション勝者セッションが確立されます。 <p>LU6.1 セッションの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - 接続は初期化の際にも CEDA インストールの際にも確立されません。 • YES - 接続は初期化の際、または CEDA インストールの際に確立されます。
チェーン・アセンブリが必要	BUILDCHAIN	<p>CICS が入力データをアプリケーション・プログラムに渡す前にチェーン・アセンブリを実行するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - この論理装置からアプリケーション・プログラムが受信した端末入出力域(TIOA)には、1 つの要求単位(RU)が含まれています。 • YES - アプリケーション・プログラムがこの論理装置から受け取る TIOA には、完全なチェーンが含まれます。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。

表 142. SESSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
接続定義名	CONNECTION	このセッション定義で使用する接続定義の名前。 名前の長さは最大 4 文字です。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	セッション定義の説明。
切断要求を尊重	DISCREQ	切断要求を受け入れるかどうかを指定します。 DISCREQ は LUTYPE6.1 ISC セッションに適用されますが、CICS が VTAM 装置を処理しない MRO セッションへは適用されません。
サービス中セッション	INSERVICE	CICS/MVS 2.1.2 または CICS/ESA 3.3 を実行しているシステム上の LU 6.1 ISC セッションでは、YES または NO を指定して、そのセッションを通信に使用できるかどうかを指示します。 定義が LU 6.1 ISC セッション用ではない場合、または CICS/MVS 2.1.2 または CICS/ESA 3.3 システム上では使用されない場合には、N/A を指定します。
端末入出力域 (TIOA) の最小サイズ	IOAREALEN	MRO リンクに送信されたメッセージの処理に使用される、端末入出力域の最小サイズ (バイト数)。
端末入出力域 (TIOA) の代替サイズ	IOAREALEN2	MRO リンクに送信されたメッセージの処理に使用される、端末入出力域の長さ (バイト数)。代替 TIOA 値が指定されていない場合、または最小 TIOA 値 (IOAREALEN) よりも小さい場合には、デフォルトで最小 TIOA の値になります。
コンテンション勝者セッションの最大数	MAXCTWIN	コンテンション勝者としてサポートされるセッションの最大数。この値の範囲は、0 から 999 です。デフォルトは 0 です。このオペランドは単一セッション接続では意味がないことに注意してください。この値は、グループ内のセッションの最大数 (MAXINGRP) よりも小さくなければなりません。
グループ内最大セッション数	MAXINGRP	このグループ内のセッションの最大数。この値の範囲は、1 から 999 です。デフォルトは 1 です。この値は、コンテンション勝者セッションの最大数 (MAXTWIN) よりも大きくなければなりません。
モード名	MODENAME	APPC 接続で使用するセッションのグループを指定する名前。 名前の長さは、8 文字までとすることができ、VTAM に定義された VTAM LOGMODE 項目の名前でなければなりません (APPC のみ)。
名前	NAME	セッション定義の名前。
ネットワーク・エラー・プログラム・トランザクション・クラス	NEPCLASS	ノード・エラー・プログラム・モジュールのトランザクション・クラス: <ul style="list-style-type: none"> 0 - これを指定すると、デフォルトのノード・エラー・プログラム・モジュールへのリンクになります。 値 - ノード・エラー・プログラム・モジュールのトランザクション・クラス。この値は 1 から 255 の範囲です。 これらのフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。
IMS 命名システムをセッションの識別に使用	NETNAMEQ	リモート IMS システムがこの特定のセッションを識別する名前。 これは、CICS-IMS セッションに使用されます。
オペレーター ID	OPERID	セッションに関連付ける 3 文字のオペレーター ID。
オペレーター優先順位	OPERPRIORITY	セッションに接続されたトランザクションごとにタスク処理の優先度を判別するために使用されるオペレーター優先度。範囲は 0 から 255 までです。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。

表 142. SESSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
オペレーター・リソース・セキュリティ・キー	OPERRSL	事前設定されたセッションのリソース・セキュリティ・キー。1 から 24 の範囲で 1 つ以上の 10 進値を指定します。リソース・セキュリティ・キーを識別しない場合には、0 を指定します。
オペレーター・トランザクション・セキュリティ・キー	OPERSEC	1 から 64 の範囲で 1 つ以上の 10 進値を指定することにより事前設定された装置のトランザクション・セキュリティ・キー。
パートナー・コード・ページ	PARTCODEPAGE	パートナーのコード。範囲は 0 から 65534 です。
相互通信リンク・プロトコル	PROTOCOL	相互通信リンク (ISC または MRO) に使用されるプロトコルのタイプ: <ul style="list-style-type: none"> • APPC (LUTYPE6.2) - 拡張プログラム間通信機能 (APPC) プロトコル。これは CICS-CICS ISC に対して指定します。 • EXCI - 外部 CICS インターフェース。これは、外部 CICS インターフェースを使用する非 CICS クライアント・プログラムによってセッションが使用されることを示すために指定します。EXCI を指定する場合、SENDcount はブランクのままにしなければなりません。 • LU61 - LUTYPE6.1 プロトコル。 • NOTAPPLIC - セッションは、相互通信リンクを表しません。
受信カウント	RECEIVECOUNT	MRO と VTAM LU6.1 セッション、および EXCI クライアントのあるセッションでは、送信する前に通常受信するセッション数を指定します。
受信接頭部	RECEIVEPFX	CICS が受信セッション名 (セッションの端末管理テーブル端末入力 (TCTTE) の名前) の先頭の 1 文字または 2 文字として使用する、1 文字または 2 文字の接頭部。
受信バッファー・サイズ	RECEIVESIZE	セッションが受信可能な最大 VTAM 要求単位 (RU) サイズ。値は、LU61 セッションでは 1 から 30720 の間に、または APPC セッションでは 256 から 30720 の間に設定する必要があります。デフォルトは 4096 です。
XRF リカバリー通知オプション	RECOVNOTIFY	XRF と共に実行している CICS 領域内のセッションに対するリカバリーのタイプを指定します。
リカバリー処理オプション	RECOVOPTION	VTAM 持続セッションと共に実行している CICS 領域内のセッションに対するリカバリーのタイプを指定します。
解放要求を尊重	RELREQ	CICS が他の VTAM アプリケーション・プログラムによる要求に応じて論理装置を解放するようにするかどうかを指定します。
送信カウント	SENDcount	MRO および VTAM LU6.1 セッション、および EXCI クライアントのあるセッションでは、送信セッションつまり受信する前に通常送信するセッションの数を指定します。
送信接頭部	SENDPFX	CICS が送信セッション名 (セッションの端末管理テーブル端末入力 (TCTTE) の名前) の先頭の 1 文字または 2 文字として使用する、1 文字または 2 文字の接頭部。選択する接頭部によって、セッションまたは端末名の重複が生じないようにする必要があります。
送信バッファー・サイズ	SENDsize	これらのセッションが送信可能な最大 VTAM 要求単位 (RU) サイズ。LU 6.1 の場合は 1 から 30720 までの範囲、APPC セッションの場合は 256 から 30720 までの範囲です。
セッション名	SESSNAME	CICS 相互通信並列セッションで、セッション修飾子の対のローカル側の一方として使用されるシンボリック ID。名前の長さは最大 4 文字です。
セッション優先順位	SESSPRIORITY	端末優先度 - この 10 進値 (0 から 255) は、全体的なトランザクション処理の優先度を確立するために使用されます。(トランザクション処理の優先度は、端末優先度、トランザクション優先度、およびオペレーター優先度の合計と等しくなります。この値は 255 を超えることはできません。) このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。
デバイスから開始されるトランザクション	TRANSACTION	この装置から開始されるトランザクションの、1 文字から 4 文字の ID。
ユーザー域サイズ	USERAREALEN	このセッションのユーザー域の長さ (バイト数)。範囲は 0 から 255 です。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。

表 142. SESSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・サインオン ID	USERID	サインオン (SEC=YES または MIGRATE) で使用され、セキュリティ・エラー・メッセージ、セキュリティ違反メッセージ、および監査証跡で参照されるユーザー ID。名前の最大長は 8 文字です。

IPIC 接続定義 - IPCONDEF

「**IPIC 接続定義**」(IPCONDEF) ビューには、CICS システムが IP 相互通信接続 (「**IPIC 接続**」ともいう) を使用して通信するリモート・システムに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**IPIC 接続定義**」

表 143. 提供された「 IPIC 接続定義 」(IPCONDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
IPIC 接続定義 EYUSTARTIPCONDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の IPIC 接続定義をリソース・グループに追加します。
IPIC 接続定義 EYUSTARTIPCONDEF.CREATE	IPIC 接続定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
IPIC 接続定義 EYUSTARTIPCONDEF.DETAILED	選択した IPIC 接続定義に関する詳細情報
IPIC 接続定義 EYUSTARTIPCONDEF.INSTALL	IPIC 接続定義をアクティブなシステムにインストールします。
IPIC 接続定義 EYUSTARTIPCONDEF.REMOVE	データ・リポジトリから IPIC 接続定義を除去します。
IPIC 接続定義 EYUSTARTIPCONDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての IPIC 接続定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 144. IPCONDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上の IPIC 接続定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	IPIC 接続定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。

表 144. IPCONDEF ビューで使用可能なアクション (続き)	
アクション	説明
INSTALL	IPIC 接続定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから IPIC 接続定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の IPIC 接続定義を更新します。

フィールド

表 145. IPCONDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
リモート・アプリケーション ID	APPLID	ネットワークでリモート・システムの識別に使われる 8 文字の名前。これは、リモート・システムのアプリケーション ID (<i>applid</i>) であり、そのシステム初期設定テーブルの APPLID オプションで指定されます。XRF システムの場合は汎用アプリケーション ID です。
IPIC 接続の自動接続セッション	AUTOCONNECT	<p>IPCONN 定義のインストール時にセッションを確立するかどうかを指定します (これが起きる可能性があるのは、CICS の初期化中で、引き続いて INSTALL を発行する時か、または TCP/IP との通信を開始するために SET TCP/IP OPEN を発行する時です)。リモート・システムが利用不可のためにそのような時点で接続を確立できない場合に、そのリモート・システムが間もなく利用可能になって自身が通信を開始しないのであれば、その後 SET IPCONN(name) INSERVICE ACQUIRED コマンドを使用して、リンクを獲得することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO <ul style="list-style-type: none"> – IPIC 接続のインストール時に CICS はセッションの確立を試みません。 • YES <ul style="list-style-type: none"> – IPIC 接続のインストール時に CICS はセッションの確立を試みます。
Certificate	CERTIFICATE	TCP/IP サービスの SSL ハンドシェイク中にサーバー証明書として使用される X.509 証明書のラベル。この属性が省略されている場合、CICS 領域ユーザー ID の鍵リングで定義されているデフォルトの証明書が使用されます。証明書ラベルの長さは最大で 32 バイトです。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
SSL 暗号スイート・コード	CIPHERS	<p>2 桁の暗号スイート・コードを最大 28 個含むリストとして解釈される、最大 56 桁の 16 進数字のストリングを指定します。リソースを定義すると、CICS は、デフォルトの許容コード・リストに従ってその属性を自動的に初期化します。暗号コードを再配列したり、初期リストから削除したりできます。ただし、指定した暗号化レベルのデフォルト・リストに含まれていない暗号コードを追加することはできません。値をコードのデフォルト・リストにリセットするには、暗号化スイート・コードをすべて削除してください。フィールドにデフォルト・リストが自動的に再設定されます。CICS Transaction Server 5.1 以降、このフィールドでは、暗号リストが含まれる zFS にある XML ファイルの名前を代わりに指定できます。XML ファイル名は最大 28 文字で指定できます。</p>
作成時刻	CREATETIME	IPIC 接続定義が作成された現地の日時。

表 145. IPCONDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	IPIC 接続定義の説明。
高可用性	HA	<p>IPIC 接続の高可用性の状況。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO <ul style="list-style-type: none"> – 接続の可用性は高くありません。現行のサーバー領域における接続に失敗した場合、CICS サーバー・クラスターの他の領域では接続を獲得できません。 • YES <ul style="list-style-type: none"> – 接続に高可用性があります。現行のサーバー領域における接続に失敗した場合、CICS サーバー・クラスターの他の領域で自動的に接続を獲得します。
リモート・ホスト名	HOST	<p>リモート・システムの 116 文字のホスト名 (たとえば www.example.com)、その小数点付き 10 進数 IPv4 アドレス (たとえば 9.20.181.3)、またはコロンで区切られた 16 進数 IPv6 アドレス (たとえば ABCD:EF01::2345:6789)。IPv4 互換 IPv6 アドレス (非推奨) または IPv4 にマップされる IPv6 アドレス (例えば ::FFFF:1.2.3.4) として IPv4 アドレスが入力される場合、標準の IPv4 小数点付き 10 進数アドレスに変換されます。CICS Transaction Server for z/OS バージョン 3 リリース 2 およびそれ以前のリリースでは IPv6 アドレスを使用しないでください。</p> <p>ホスト名は大/小文字で入力できますが、1 文字のホスト名を IP アドレスの代わりに文字をホスト名に指定した場合、そのホスト名は小文字に変換されます。IPV6 アドレスを指定した場合、大文字に変換されます。</p>
ID 伝搬	IDPROP	<p>配布 ID が送信者によって接続先のシステムに転送されるかどうかを指定します。接続がシスプレックスの外に拡張され、主に配布 ID がエンタープライズ間で配布されるのを避けるために使用される場合にのみ、IDPROP 属性は効果があります。同じシスプレックスに含まれているシステム同士の接続の場合は、IDPROP(OPTIONAL) を指定した場合と同じ動作になり、他の設定は無視されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NOTALLOWED: 送信するトランザクションに関連するユーザー ID が、この接続を使用した要求に対して送信されます。NOTALLOWED がデフォルト値です。 • オプション: 配布 ID があれば送信されます。送信トランザクションに関連したユーザー ID も送信されます。 • REQUIRED: この接続を使用した要求には配布 ID が必要です。REQUIRED を指定する場合は、受信側のシステムが配布 ID をサポートしている必要があります。送信トランザクションに関連したユーザー ID は送信されません。IDPROP(REQUIRED) を指定する場合は、IPIC 接続を使用するタスクに、関連する配布 ID がなければなりません。配布 ID がない場合は、セキュリティー・エラーが発生して要求が失敗します。
接続状況	INSERVICE	<p>インストール時の IPIC 接続の状況。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO <ul style="list-style-type: none"> – 接続は、メッセージの受信も出力の送信 もできません。 • YES <ul style="list-style-type: none"> – 接続は使用できます。

表 145. IPCONDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リンク・セキュリティ	LINKAUTH	<p>セキュリティが初期化された (SEC=YES) CICS システムで、リンク・セキュリティ用のユーザー ID をどのように確立するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> CERTUSER - パートナー・システムとの TCP/IP 通信は SSL 用に構成され、SSL ハンドシェイクの間にパートナー・システムから証明書を受信する必要があります。たとえば、パートナー CICS システム内の TCPIP SERVICE は、SSL(YES) または SSL(CLIENTAUTH) で定義されていなければなりません。さらに、受信された証明書は外部セキュリティ・マネージャーに定義され、ユーザー ID と関連付けられている必要があります。このユーザー ID がリンク・セキュリティを確立するために使用されます。 SECUSER - SECURITYNAME に指定されたユーザー ID が、リンク・セキュリティを確立するために使用されます。これはデフォルト値です。
最大キュー時間	MAXQTIME	<p>割り振り要求をキューに入れることのできる最大時間 (秒)。値の範囲は 0 - 9999 です。IPCONN 定義で MAXQTIME(NO) が指定された場合は標準スル値の -1 となります。</p>
最小ミラー存続期間	MIRRORLIFE	<p>この領域で受信される、機能シッパされた要求に関するミラー・タスクの最小存続期間を示します。このパラメーターは、リソース所有領域の IPCONN で指定された場合にのみ有効であり、機能シッパ・インターバル制御機能の場合やリンク要求の場合は無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> REQUEST: ミラー・タスクは可能な限り早く終了します。 TASK: リモート要求を出すアプリケーションは、そのアプリケーションのタスクが終了するまで、ミラー・タスクを引き続き使用できます。 UOW: リモート要求を出すアプリケーションは、次の同期点が出されるまで、ミラー・トランザクションを引き続き使用できます。
名前	NAME	<p>リモート・システムまたは領域の 8 文字の ID。つまり、IPCONN 定義の名前。許容文字は A から Z、0 から 9、- です。</p>
リモート・ネットワーク ID	NETWORKID	<p>リモート・システムのネットワーク ID。NETWORKID が指定されなかった場合、CICS はこの CICS (つまり、IPCONN 定義のインストール先の CICS) の VTAM NETID を使用します。ただし、VTAM=NO システムの場合は、UOWNETQL システム初期化パラメーターの値を使用します。</p> <p>NETWORKID は APPLID オプションと組み合わせて使用されます。それは、接続システムで必ず固有名を使って命名が行われるようにするためです。</p>
ポート番号	PORT	<p>この IPIC 接続上のアウトバウンド要求で使用するポート番号を指定する 1 から 65535 までの範囲の 10 進数か、または NO。つまり、リモート・システムが listen する対象であるポートの番号。ただし、インバウンド専用の IPIC 接続の場合は NO。</p>
キュー限度	QUEUELIMIT	<p>空きセッションを待機する間に CICS がキューに入れる割り振り要求の最大数。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO <ul style="list-style-type: none"> CICS が空きセッションの待機中にキューに入れる割り振り要求の許容数に限度はありません。 number <ul style="list-style-type: none"> CICS が空きセッションの待機中に接続上でキューに入れられる 0 から 9999 までの範囲の割り振り要求の最大数。キューに入っている割り振り要求の数がこの限度に達すると、それより後の割り振り要求は、キューが限度を下回るまで SYSIDERR を戻して失敗します。
受信カウント	RECEIVECOUNT	<p>RECEIVE セッション、すなわち着信要求を受信するセッションの 1 から 999 までの範囲の数。使用される受信セッションの実際数は、リモート・システムで定義されている送信セッション数によっても異なります。接続が確立すると、これらの値は交換されて低い方の値が使用されます。この IPIC 接続用に定義された RECEIVE セッション数。</p>

表 145. IPCONDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リモート・システムにおけるセキュリティ名	SECURITYNAME	リンク・セキュリティに使用するリモート・システムのセキュリティ名を指定します。セキュリティが初期化され (SEC=YES)、LINKAUTH(SECUSER) が使用されている CICS システムでは、リモート・システムの権限を設定するためにセキュリティ名が使用されます。セキュリティ名は、この領域で有効な RACF ユーザー ID でなければなりません。この領域の保護リソースへのアクセスは、RACF ユーザー・プロファイルとそのグループ・メンバーシップに基づいています。デフォルト値は、デフォルトのユーザー ID になります。
送信カウント	SENDCOUNT	SEND セッション、すなわち発信要求を送信するセッションの 0 から 999 までの範囲の数。実際に使用される送信セッションの数は、リモート・システムで定義されている受信セッションの数にも依存します。接続が確立すると、これらの値は交換されて低い方の値が使用されます。0 が指定された場合、この IPCONN は着信作業のみを処理することができます。接続されたシステムに要求を送信することはできません。それぞれが SENDCOUNT(0) を持つ 2 つの IPCONN の間で接続の確立を試みると、失敗します。
Secure sockets layer (SSL) タイプ	SSL	TCP/IP サービスで暗号化と認証のために Secure Sockets Layer (SSL) を使用するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • NO - SSL を使用しません。 • YES - SSL セッションを使用します。CICS はサーバー証明書をクライアントに送信します。
TCP/IP サービス	TCPIPSERVICE	この IPCONN のインバウンド処理の属性を定義する PROTOCOL(IPIC) TCPIPSERVICE 定義の 8 文字の名前。
接続時ユーザー・セキュリティ・レベル	USERAUTH	接続に必要な接続時ユーザー・セキュリティのレベル: <ul style="list-style-type: none"> • DEFAULTUSER - CICS はパートナー・システムからのユーザー ID およびパスワードを受け付けません。すべての要求はデフォルトのユーザー ID の下で実行されます。 • LOCAL - CICS はパートナー・システムからのユーザー ID およびパスワードを受け付けません。すべての要求は、リンク・セキュリティ用に決定されたユーザー ID の下で実行されます。 • VERIFY - 着信接続要求でユーザー ID およびユーザー・パスワードを指定する必要があります。 • IDENTIFY - 着信接続要求は、ユーザー ID を指定する必要があります。これにより、CICS TS バージョン 4 リリース 1 システムでは、必要に応じて配布 ID を送信者が接続先システムに転送できるようになります。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

表 145. IPCONDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
交換ログ名 (XLN) アクション	XLNACTION	<p>リモートのパートナー・システムから新規のログ名を受信したときにとるアクション。(新規のログ名を受信した場合、パートナーがリカバリー情報を削除したことを示します。)</p> <ul style="list-style-type: none"> • FORCE <ul style="list-style-type: none"> – 新規のログ名を使った新規作業の開始前に、TRANSACTION 定義の未確定属性で定義されているとおりの、未確定作業単位 (UOW) に関する事前定義の決定事項が実装されます。CICS はまた、パートナー・システム上で未確定であった UOW の解決に備えて保持されていたすべての情報も削除します。注: このオプションを使用すると、データ安全性が損なわれることがあります。 • KEEP <ul style="list-style-type: none"> – リカバリー情報は保存され、未確定作業単位に対する事前定義のアクションはとられません。 <p>パートナーを対象とした未解決のリカバリー可能作業 (すなわち、未確定の UOW や、旧ログ名のもとでパートナー・システム上で未確定であった UOW に関連した情報) がすべて完了しない限り、同期レベル 2 プロトコルを必要とする新規の作業を接続で実行できなくなります。このインターフェース内で明示的なユーザー命令を使用するか、または利用可能ないずれかの他のプログラミング・インターフェースを使用してはじめて、そのような作業完了を達成できます。</p>

TCP/IP サービス定義 - TCPDEF

TCP/IP サービス定義 (TCPDEF) ビューには、内部ソケット・サポートを使用する TCP/IP サービス定義に関する情報が表示されます。定義可能なサービスは IIOP および CICS Web インターフェースです。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**TCP/IP サービス定義**」

表 146. 提供された「TCP/IP サービス定義」 (TCPDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
TCP/IP サービス定義 EYUSTARTTCPDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の TCP/IP サービス定義をリソース・グループに追加します。
TCP/IP サービス定義 EYUSTARTTCPDEF.CREATE	TCP/IP サービス定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
TCP/IP サービス定義 EYUSTARTTCPDEF.DETAILED	選択した TCP/IP サービス定義に関する詳細情報。
TCP/IP サービス定義 EYUSTARTTCPDEF.INSTALL	TCP/IP サービス定義をアクティブなシステムにインストールします。
TCP/IP サービス定義 EYUSTARTTCPDEF.REMOVE	データ・リポジトリから TCP/IP サービス定義を除去します。
TCP/IP サービス定義 EYUSTARTTCPDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての TCP/IP サービス定義に関する表形式の情報。

アクション

表 147. TCPDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の TCP/IP サービス定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	TCP/IP サービス定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	TCP/IP サービス定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから TCP/IP サービス定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある TCP/IP サービス定義を更新します。

フィールド

表 148. TCPDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
付加時セキュリティ	ATTACHSEC	<p>CICS クライアントへの TCP/IP 接続に必要な接続時セキュリティのレベル:</p> <ul style="list-style-type: none"> LOCAL - CICS はクライアントからのユーザー ID またはパスワードを必要としません。 VERIFY - 着信接続要求でユーザー ID およびユーザー・パスワードを指定する必要があります。接続中のシステムが不明であるか、あるいは信頼できない場合は、VERIFY を指定します。 NOTAPPLIC - ECI 以外の PROTOCOL の値が指定されています。 <p>NOTAPPLIC 以外の値が適用されるのは、PROTOCOL(ECI) が指定されている場合のみです。</p>

表 148. TCPDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
認証レベル	AUTHENTICATE	<p>HTTP および IIOP プロトコルのインバウンド TCP/IP 接続で使用される認証および識別の方式。各プロトコルは、異なる認証方式のセットをサポートします。ECI プロトコルの場合、この属性は無効です。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - クライアントは認証情報または識別情報を送信する必要はありません。ただし、クライアントが、セキュリティ・マネージャーに既に登録済みの、ユーザー ID に関連した有効な証明書を送信した場合、そのユーザー ID はクライアントを識別します。 • BASIC - HTTP 基本認証を使用してクライアントからユーザー ID およびパスワードを入手します。提供されるユーザー ID とパスワードが無効な場合、有効な情報が提供されるまで、またはユーザーが接続を取り消すまで、このプロセスが反復されます。ユーザーが正常に認証されると、指定されたユーザー ID によってクライアントが識別されます。 • CERTIFICATE - SSL クライアント証明書による認証を使用して、クライアントを認証および識別します。クライアントは、セキュリティ・マネージャーに既に登録済みの、ユーザー ID に関連した有効な証明書を送信する必要があります。有効な証明書を受信していないか、証明書がユーザー ID に関連付けられていない場合は、接続は拒否されます。ユーザーが正常に認証されると、証明書に関連付けられているユーザー ID によってクライアントが認証されます。CERTIFICATE を指定した場合、CLIENTAUTH または ATTLISAWARE として SSL を指定する必要もあります。 • AUTOREGISTER - SSL クライアント証明書認証を使用して、クライアントを認証します。セキュリティ・マネージャーに既に登録済みでユーザー ID に関連付けられている有効な証明書をクライアントが送信する場合、そのユーザー ID によってクライアントが識別されます。クライアントが送信する有効な証明書が、セキュリティ・マネージャーに登録されていない場合、HTTP 基本認証を使用して、クライアントからユーザー ID とパスワードが取得されます。パスワードが有効な場合、CICS はその証明書をセキュリティ・マネージャーに登録し、ユーザー ID と関連付けます。ユーザー ID によってクライアントが識別されます。AUTOREGISTER を指定した場合、CLIENTAUTH または ATTLISAWARE として SSL を指定する必要もあります。 • AUTOMATIC - AUTOREGISTER と BASIC の機能を結合します。セキュリティ・マネージャーに既に登録済みでユーザー ID に関連付けられている証明書をクライアントが送信する場合、そのユーザー ID によってクライアントが識別されます。クライアントが送信する証明書が、セキュリティ・マネージャーに登録されていない場合、HTTP 基本認証を使用して、クライアントからユーザー ID とパスワードが取得されます。パスワードが有効な場合、CICS はその証明書をセキュリティ・マネージャーに登録し、ユーザー ID と関連付けます。ユーザー ID によってクライアントが識別されます。クライアントが証明書を送信しなかった場合、HTTP 基本認証を使用して、ユーザーからユーザー ID およびパスワードを入手します。ユーザーが正常に認証されると、指定されたユーザー ID によってクライアントが識別されます。 • ASSERTED - 宣言 ID 認証が使用されます。 • NOTAPPLIC - 認証は使用されません。
キュー・バックログ限度	BACKLOG	<p>TCP/IP が着信クライアント要求を拒否し始める前に TCP/IP でキューに入れられる、このサービス用の TCP/IP 接続の数。ブランクの場合、デフォルト値が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CICS Transaction Server for z/OS バージョン 5 リリース 1 以降では、デフォルトは 0 であり、CICS はバックログを制限しません。代わりに、TCP/IP SOMAXCONN 属性によって指定された値が使用されます。 • CICS Transaction Server for z/OS バージョン 4 リリース 2 以前では、デフォルトは 1 であり、バックログが 0 に設定されている場合、CICS は接続を受け取りません。 • 値の範囲は 0 から 32767 です。
Certificate	CERTIFICATE	<p>TCP/IP サービスの SSL ハンドシェイク中にサーバー証明書として使用される X.509 証明書のラベル。この属性が省略されている場合、CICS 領域ユーザー ID の鍵リングで定義されているデフォルトの証明書が使用されます。証明書ラベルの長さは最大で 32 バイトです。</p>

表 148. TCPDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
SSL 暗号スイート・コード	CIPHERS	2 桁の暗号スイート・コードを最大 28 個含むリストとして解釈される、最大 56 桁の 16 進数字のストリングを指定します。リソースを定義すると、CICS は、デフォルトの許容コード・リストに従ってその属性を自動的に初期化します。暗号コードを再配列したり、初期リストから削除したりできます。ただし、指定した暗号化レベルのデフォルト・リストに含まれていない暗号コードを追加することはできません。値をコードのデフォルト・リストにリセットするには、暗号化スイート・コードをすべて削除してください。フィールドにデフォルト・リストが自動的に再設定されます。CICS Transaction Server 5.1 以降、このフィールドでは、暗号リストが含まれる zFS にある XML ファイルの名前を代わりに指定できます。XML ファイル名は最大 28 文字で指定できます。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	TCP/IP サービス定義の説明。
ドメイン・ネーム・サービス (DNS) グループ	DNSGROUP	これは CICS TS バージョン 5 リリース 2 以降では廃止されています。DNS グループ名。
重要なドメイン・ネーム・サービス (DNS) グループ・メンバー	GRPCRITICAL	これは CICS TS バージョン 5 リリース 2 以降では廃止されています。(オプション) DNS グループの重要なメンバーとしてサービスにマークを付けます。これは、このサービスを閉じたり、サービスが失敗すると、WLM に対してこのグループ名の登録を取り消すための呼び出しが行われることを意味します。デフォルトは NO です。これにより、同じグループにある 2 つ以上のサービスは個別に失敗し、CICS はグループに登録されたままになります。グループにある最後のサービスが閉じられた場合にのみ、まだ明示的に行われていなければ、WLM に対して登録取り消しの呼び出しが行われます。同じグループ名を持つ複数のサービスに、異なる GRP Critical 設定を指定できます。GRP Critical を NO に指定すると、登録取り消しが行われず、サービスが閉じたり失敗したりする可能性があります。GRP Critical が YES であるサービスが閉じたり失敗すると、グループは WLM から登録を取り消されます。

表 148. TCPDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
着信接続のリスニング・アドレス	HOST	<p>この TCPIP SERVICE が着信接続を listen する 116 文字までのアドレス。このフィールドには、以下の値が入る可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ANY - TCPIP SERVICE は、ホスト・システムの TCP/IP に認識されている任意のアドレスで listen します。ANY を指定することによって TCPIP SERVICE 定義を CICS サーバー間で共有することが可能になります。さらに、複数の CICS 領域でポートをバインドする場合は、ポートを定義するすべてのスタックで SHAREPORT オプションを指定する必要があります。 • DEFAULT - このオプションは、マルチ・スタックの CINET 環境でデフォルトに定義されている TCP/IP スタックにアフィニティを割り当てます。 • 文字によるホスト名 - (例、server.example.com)。ホスト名に対応する最初の IP アドレスはドメイン・ネーム・サーバーで検索されます。名前は小文字に変換されます。 • IPv4 アドレス - (例、10.20.30.40)。アドレスが、IPv4 互換フォーマットあるいは IPv4 マップ IPv6 フォーマットで指定されると、それは IPv4 のドット 10 進アドレス・フォーマットに変換されます。 • IPv6 アドレス - (例、1234:5678::90AB:CDEF)。これは、コロン 16 進アドレス・フォーマットで入力され、大文字に変換されます。 <p>また、以下の事項に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IPADDRESS フィールドより HOST フィールドを優先して使用するようにして、この 2 つのフィールドのいずれか 1 つのみに入力をし、他方はブランクにするかまたは同じ値にしておいてください。 • HOST フィールドは、ホスト名または IPv6 アドレスの指定に使用します。 • この定義を、CICS Transaction Server for z/OS、バージョン 3 リリース 2 以前のリリースで使用する場合、入力できるのは ANY、DEFAULT、または IPv4 アドレスのみです。この場合、HOST フィールドの内容が IPADDRESS フィールドにコピーされます。 • HOST フィールドが空で、IPADDRESS フィールドに有効な値が入力されている場合、IPADDRESS フィールドの内容が HOST フィールドにコピーされます。 • HOST と IPADDRESS の両方ともが空の場合、値は ANY に設定されます。
IPv4 アドレス	IPADDRESS	<p>TCP/IP サービスの IPv4 小数点付き 10 進数アドレス、ANY、INADDR_ANY、または DEFAULT。このパラメーターは、CICS Transaction Server for z/OS、バージョン 3 リリース 2 以前のリリースとの互換性のために維持されています。これより後のリリースでは、HOST パラメーターを使用してください。</p>
受信または送信されるデータの最大長	MAXDATALEN	<p>HTTP プロトコルまたは USER プロトコルにおいて、CICS が HTTP サーバーとして受け取ることが可能なデータの最大長。デフォルト値は 32K です。最小値は 3K で、最大値は 524288K です。CICS Web サポートのセキュリティを高めるには、HTTP プロトコルの TCPIP SERVICE 定義ごとにこのオプションを指定します。これは、大量のデータ伝送を含む、サービス妨害攻撃から保護するのに役立ちます。</p>
持続接続の最大数	MAXPERSIST	<p>CICS が受け入れる持続接続の最大数。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - CICS が受け入れる持続接続の数に制限はありません。 • nnnn - CICS が受け入れる、0 から 65535 までの範囲の持続接続の最大数。
名前	NAME	TCP/IP サービス定義の名前。
HTTP OPTIONS のハンドラー・プログラム	OPTIONSPGM	<p>HTTP OPTIONS 要求を処理するために呼び出されるハンドラー・プログラムの名前。CICS Transaction Server for z/OS バージョン 5 リリース 6 以降のシステムでのみ有効です。OPTIONS ハンドラー名の長さは 8 文字までです。</p>

表 148. TCPDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ポート番号	PORTNUMBER	CICS が着信クライアント要求用に listen するポートの 10 進数 (1 から 65535)。0 から 1023 まではウェルノウン・ポートです。予約済みポート番号は、通常割り当てられるサービスだけに使用することを勧めます。
プライバシー	PRIVACY	<p>これは CICS TS バージョン 3 リリース 1 以降では廃止されています。このサービスへのインバウンド IIOP 接続に必要な SSL 暗号化のレベル。この属性は PROTOCOL が IIOP の場合にのみ適用されます。SSL ハンドシェイク中に、クライアントとサーバーは、サポートする暗号スイートを公示し、両方がサポートするスイートの中から、最も安全な暗号化のレベルを提供するスイートを選択します。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • REQUIRED - 暗号化を使用する必要があります。SSL ハンドシェイク中に、CICS は、暗号化を提供するサポートされた暗号スイートのみを公示します。 • SUPPORTED - クライアントとサーバーの両方がサポートする場合に暗号化を使用します。SSL ハンドシェイク中に、CICS は、サポートされる暗号スイートをすべて公示します。 • NOTSUPPORTED - 暗号化を一切使用しません。SSL ハンドシェイク中に、CICS は、暗号化を提供しないサポートされた暗号スイートのみを公示します。 • NOTAPPLIC - SSL を使用しない場合、暗号化は適用外です。
Protocol	PROTOCOL	<p>TCP/IP ポートで使用するアプリケーション・レベルのプロトコル。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ECI <ul style="list-style-type: none"> – ECI over TCP/IP プロトコル。 • HTTP <ul style="list-style-type: none"> – HTTP。HTTP プロトコルは、CICS Web サポートによって処理されます。 • IIOP <ul style="list-style-type: none"> – これは CICS TS バージョン 5 リリース 1 以降では廃止されています。Internet Inter-ORB Protocol。エンタープライズ Bean および CORBA ステートレス・オブジェクトのインバウンド要求を受け入れる TCPIPService によって使用されます。 • IPIC <ul style="list-style-type: none"> – IP インター・コネクティビティ・プロトコル。IPIC を指定した場合、AUTHENTICATION を NOTAPPLIC として指定する必要もあります。 • NOTAPPLIC <ul style="list-style-type: none"> – CICS は、デフォルト (HTTP) を使用します。この場合、ユーザーによって置換可能なプログラムを指定する必要があります。
基本認証レルム名	REALM	CICS が基本認証を要求したときに提供されるレルム。この属性は、CICS Transaction Server for z/OS バージョン 3 リリース 2 以降のシステムでのみ有効です。レルムを指定しなかった場合に CICS が使用するデフォルトは、CICS アプリケーション aaaaaaaaaa です。aaaaaaaaa は CICS 領域のアプリケーション ID です。レルムは最大 56 文字の長さにでき、埋め込みブランクを含めることが可能です。二重引用符の開始と終了の記号は、CICS が WWW 認証ヘッダーをアセンブルするときに提供するので、ここでは指定しないでください。
ソケット・クローズに対するタイムアウト (HHMMSS)	SOCKETCLOSE	<p>ソケットでの着信データの受け取りを発行してからそのソケットを閉じるまで CICS を待機させるかどうか、およびその場合の待機時間を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - データを受け取るまで、あるいはクライアントによって閉じられるまで、ソケットは開いたままです。ソケットが開いている間は、それを他のタスクで使用することはできません。また、ソケットに関連した CICS タスクは無期限に中断状態になります。 • 0 から 240000 まで - CICS がソケットを閉じるまでの期間 (HHMMSS 形式)。000000 を指定した場合、最初の RECEIVE 以外の RECEIVE に対して利用可能なデータがないときは、ソケットは即時にクローズされます。

表 148. TCPDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
特定の TCIPService	SPECIFTCPS	TCIPService で使用する特定の TCIPService の名前。この属性は、CICS Transaction Server for z/OS バージョン 5 リリース 2 以降のシステムでのみ有効です。TCIPService の名前の長さは最大 8 文字です。指定された場合、この TCIPService は一般的な TCIPService になります。
Secure sockets layer (SSL) タイプ	SSL	TCP/IP サービスで暗号化と認証のために Secure Sockets Layer (SSL) を使用するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • NO - SSL を使用しません。 • YES - SSL セッションを使用します。CICS はサーバー証明書をクライアントに送信します。 • CLIENTAUTH - SSL セッションを使用します。CICS はサーバー証明書をクライアントに送信し、クライアントはクライアント証明書を CICS に送信する必要があります。 • ATTLISAWARE - CICS は、SSL セッションが AT-TLS で作成されることを想定して処理します。CICS は、クライアント接続に照会して AT-TLS 状態を抽出します。この状態情報にクライアントの証明書が含まれる場合があります。
TCP/IP サービス状況	STATUS	インストール後のサービスの初期状況。インストール後に CICS がこのサービス用に listen を開始する場合は、これを OPEN に設定します。インストール後に、CICS がこのサービス用に listen しない場合は、CLOSE に設定します。
CICS トランザクション ID	TRANSACTION	このサービスに対して受け取る新しい要求を処理するよう付加された、CICS トランザクションの 4 文字の ID。
TS キュー接頭部	TSQPREFIX	このパラメーターは、CICS Transaction Server for z/OS バージョン 3 リリース 2 以降では必要なくなったか、あるいは使用されなくなりました。
ユーザー置き換え可能モジュール名	URM	このサービスによって呼び出される、ユーザーが置換可能なプログラムの名前。指定する名前は、PROTOCOL 属性の値に依存します。 <ul style="list-style-type: none"> • HTTP プロトコルでは、分析プログラムの名前を指定します。 • IIOP プロトコルの場合、IIOP セキュリティーのユーザーによって置換可能なプログラムの名前を指定します。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

CICS システム定義 - CSYSDEF

「**CICS システム定義**」(CSYSDEF) ビューには、CICSplex の一部として管理下に置かれる CICS システムについて記述した CPSM トポロジー定義が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS システム・リンクおよび関連リソース (CICS system links and related resources)**」 > 「**CICS システム定義 (CICS system definitions)**」の順にクリックします。

表 149. 提供された「CICS システム定義 (CICS system definitions)」 (CSYSDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の CICS システム定義を CICS システム・グループに追加します。
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.CREATE	CICS システム定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.DETAILED	選択した CICS システム定義に関する詳細情報
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.REMOVE	データ・リポジトリから CICS システム定義を除去します。 <ul style="list-style-type: none"> 注: CICS システム定義名が BAS 定義内の SCOPE として指定される場合、REMOVE は失敗して、レコードが使用中であると表示されます。
CICS システム 定義 EYUSTARTCSYSDEF.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべての CICS システム定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 150. CSYSDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の CICS システム定義を CICS システム・グループに追加します。
CREATE	CICS システム定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリから CICS システム定義を除去します。 <ul style="list-style-type: none"> 注: CICS システム定義名が BAS 定義内の SCOPE として指定される場合、REMOVE は失敗して、レコードが使用中であると表示されます。
UPDATE	データ・リポジトリ内の CICS システム定義を更新します。

フィールド

表 151. CSYSDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
期間定義名	ACTVTIME	この CICS システムの実行時間を識別する期間定義の名前。

表 151. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
BAS インストール失敗時のアクション	AINSFAIL	<p>BAS インストールに失敗した場合に行うアクションを示します。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CONTINUE <ul style="list-style-type: none"> – 他のリソースのインストールを続けます。 • NORMAL <ul style="list-style-type: none"> – CICS システムを正常にシャットダウンします。 • PROMPT <ul style="list-style-type: none"> – アクションを求めるプロンプトをオペレーター・コンソールに出します。CICS システムでのリソース・インストール・プロセスは、オペレーターが応答するまで中断されますが、他のすべての MAS 処理は続行されます。 • TERMINATE <ul style="list-style-type: none"> – リソースのインストール・プロセスを終了します。これ以上リソースはインストールされません。正常にインストールされたリソースはどれも除去されません。 • IMMEDIATE <ul style="list-style-type: none"> – CICS システムを直ちにシャットダウンします。 <p>アプリケーション用またはプラットフォーム用に CICS バンドルによって生成されたリソースがインストールに失敗した場合、このアクションは実行されません。</p>
アプリケーション ID	APPLID	CICS システムのアプリケーション ID は、相互通信ネットワーク内での認識に使われる名前、すなわちネット名です。
BAS リソース・インストール・オプション	AUTOINST	<p>リソース記述によりシステムに関連付けられたリソースを、MAS から CMAS への接続時に自動的にインストールするかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ALWAYS - CICS の始動後に、MAS が接続するたびにリソースをインストールします。 • COLDONLY - CICS INITIAL または COLD スタート後に MAS が接続する際に限り、リソースをインストールします。 • NEVER - この CICS システムにリソースを自動的にインストールすることはありません。 • WARMONLY - CICS ウォーム・スタートまたは緊急時再始動 (AUTO) 後に MAS が接続する際に限り、リソースをインストールします。 <p>このオプションは、アプリケーションまたはプラットフォーム用に CICS バンドルによって生成されたリソースには適用されません。</p>
RS サーバーの最下位層	BOTRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、最下位層のタスク・ロード範囲 (ゼロからこの値まで) を定義するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当ててることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 • 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。0 からこの値までのタスク数の値が、タスク・ロード最下位層として認識されます。領域のタスク・ロードがこの範囲に入る場合は、ロードの変更ごとにカップリング・ファシリティにブロードキャストされます。ロードがこの値に達すると、RS サーバー更新頻度のタスク規則が活動化されます。 <p>デフォルト値は 1% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。この値に対する変更は、次回領域を開始するときに適用されます。</p>

表 151. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。 DREPBATCH - CICSplex SM ユーティリティにより変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
CICS 領域モニターのサンプリング間隔	CICSSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
接続モニターのサンプリング間隔	CONNSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
CSYSDEF コンテキスト	CONTEXT	これは、照会のための CICSplex コンテキストを識別する出力専用フィールドです。UPDATERS 属性および READRS 属性のハイパーリンクを有効にする必要があります。
定義元	CREATEORIGIN	定義の作成元を指定します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> N_A - 定義は、ユーザーまたは API プログラムによって作成されました。 PLATFORM - 定義は、プラットフォームのインストール中に作成されました。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
夏時間調整が有効	DAYLIGHTSV	夏時間調整を現在設定しているかどうかを示します。以下のように指定します。 <ul style="list-style-type: none"> YES - 夏時間調整時刻を設定する。 NO - 夏時間調整時刻を設定しない。 INHERIT - アクティブ時にこの CICS システムの接続先となる CMAS に割り当てられた値を継承します。この CICS システムが非アクティブの場合、この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS から、値が継承されます。INHERIT は時間帯 (TMEZONE) および時間帯オフセット (TMEZONEO) も INHERIT の場合のみ、指定できます。
DB2/DBCTL モニターのサンプリング間隔	DBXSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
説明	DESC	CICS システム 定義の説明 (1 から 58 文字まで)。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。

表 151. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
始動時にアクティブなターゲット領域	DYNROUTE	<p>CICS の始動時に、この CICS システムがターゲット領域としてアクティブになり、ワークロードのターゲットとして作業を受け入れるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - CICS システムはアクティブ・ターゲットとなり、CICS 始動時にこれをターゲットとするワークロードの作業を受け入れます。 • NO - CICS システムはターゲット領域ではありません。つまり CICS システムが静止して、CICS 始動時にこれをターゲットとするワークロードの作業を受け入れなくなります。 <p>「アクティブなワークロードでのターゲット領域」 (EYUSTARTWLMWAOR) ビューを使用して、ワークロードのターゲット領域をアクティブ化または静止することができます。</p> <p>通常、ターゲット領域ではこのオプションが YES に設定されます。ルーティング領域がワークロード内のターゲット領域としても機能する場合、その領域では、このオプションが YES に設定されている場合があります。</p>
ファイル・モニターのサンプリング間隔	FILESAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。</p>
グローバル領域モニターのサンプリング間隔	GLBLSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。</p>
ホスト名	HOST	<p>システムの 10 進 IPv4 アドレス (例えば 9.20.181.3)、またはそのコロン 16 進 IPv6 アドレス (例えば ABCD:EF01::2345:6789) に関する 116 文字から成るホスト名。IPv4 互換 IPv6 アドレス (非推奨) または IPv4 にマップされる IPv6 アドレス (例えば ::FFFF:1.2.3.4) として IPv4 アドレスが入力される場合、標準の IPv4 小数点付き 10 進数アドレスに変換されます。CICS Transaction Server for z/OS バージョン 3 リリース 2 およびそれ以前のリリースでは IPv6 アドレスを使用しないでください。これは IPIC SYSLINK 接続に使用されます。</p>
ジャーナル・モニターのサンプリング間隔	JRNLSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。</p>
モニター状況	MONSTATUS	<p>この CICS システムの開始時にリソース・モニターがアクティブとなるかどうかを示します。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - リソース・モニターがアクティブになります。これを有効にするには、CICS システムをモニター仕様に関連付ける必要があります。 • NO - リソース・モニターはアクティブにはなりません。 • INHERIT - この CICS システムに関連するモニター仕様で指定された値を継承します。
保守ポイント CMAS ID	MPCMASID	<p>これは、CICSplex の保守ポイント CMAS を識別する出力専用フィールドです。UPDATERS 属性および READRS 属性のハイパーリンクを有効にする必要があります。</p>
CICS 最大タスク到達イベントに対するアクション	MXTACTION	<p>指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。</p>

表 151. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
CICS 最大タスク数到達イベントの重大度	MXTSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
CICS システム 定義名	NAME	コンテキストで識別される CICSplex に関連付けられる CICS システムの名前 (1 から 8 文字まで)。
ネットワーク ID	NETWORKID	システムのネットワーク ID。 NETWORKID は、APPLID オプションと組み合わせて使用され、IPIC を介して接続中のシステムで固有の名前が使われるようにします。 これは IPIC SYSLINK 接続に使用されます。
無応答 MAS イベントに対するアクション	NRMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。 分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。
無応答 MAS イベントの重大度	NRMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません。 • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
ポート番号	PORT	IPIC SYSLINK がインバウンド要求を受け取る TCPIP SERVICE ポート番号をオーバーライドするために使用する値です。有効な値は 1 から 65535 までの範囲の 10 進数です。
1 次 CMAS 名	PRICMAS	この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS の名前。 CICS システムが単一の CMAS によって管理されている CICSplex の一部である場合、その CMAS の名前を 指定します。複数の CMAS が CICSplex の管理に関与するとき、CICS システムが通常接続する CMAS を示します。 CMAS を指名しても、1 次 CMAS が使用できないときなどに CICS システムが別の CMAS に接続することは妨げられません。
プログラム・モニターのサンプリング間隔	PROGSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。

表 151. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバー 読み取り間隔	READRS	<p>最適化モードで実行されているワークロードにおいて、この値は、ルーティング領域が CICS CFDT サーバーにターゲット領域の状況のリフレッシュを要求する最小間隔を指定します。この値は、この CICS システム定義の親である CICSplex 定義で指定されているデフォルトの間隔の値を指定変更するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 0 から 2000 または INHERIT で、ミリ秒の単位を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これは、この属性のデフォルト設定です。 値 0 は、ターゲット領域の状況を調べるたびに、ターゲット領域の状況更新をルーティング領域が要求することを意味します。 1 から 2000 までの値は、ターゲット領域の状況データをリフレッシュできるようになるまでに経過する必要がある最小時間間隔 (ミリ秒) を指定します。 <p>小さい値は、大きい値の場合よりも頻繁に RS サーバーのターゲットの状況がルーターによって更新されることを意味します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果カップリング・ファシリティの使用率が増加することがあります。</p> <p>値 1000 は 1 秒の間隔を表します。デフォルト値は 200 ミリ秒です。</p> <p>ここで指定される値は、次回この CICS 領域を開始するときに適用されます。この CICS 領域の実行中のインスタンスに変更を適用する必要がある場合は、MAS ビューを使うことで作動中の変更が可能です。</p>
モニター停止後のデータ保管時間 (分)	RETENTION	<p>収集されたデータがリソース・モニターの停止後に保持される分数。(リソース・モニターが停止するのは、CICS システムの停止時か、MAS ビュー・コマンドを使用して CICS システムのリソース・モニターを停止する場合です。) 可能な保存期間は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 - 1440 <ul style="list-style-type: none"> 収集されたデータは、指定された分数だけ保持されます。 0 <ul style="list-style-type: none"> 収集されたデータは保持されません。 INHERIT <ul style="list-style-type: none"> CICS システムは、関連するモニター仕様で指定された値を使用ようになります。
リアルタイム分析状況	RTASTATUS	<p>この CICS システムの開始時にリアルタイム分析のシステム使用可能性モニター (SAM) および MAS リソース・モニター (MRM) コンポーネントがアクティブになるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> YES - システム使用可能性モニターおよび MAS リソース・モニターはアクティブです。 NO - アクティブな RTA モニターはありません。MAS の初期化が行われたばかりか、または分析がオンになるよう更新された場合は、RTA が完全に初期化されるまで NO が表示されます。 SAM - システム使用可能性モニターがアクティブです。 MRM - MAS リソース・モニターがアクティブです。 N/A - MAS はその CMAS に接続されていません (「MAS の状況」フィールドに INACTIVE と表示されます)。
システム使用可能性モニター・イベントに対するアクション	SAMACTION	<p>指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。</p>

表 151. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
システム使用可能性モニター・イベントの重大度	SAMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
システム・ダンプ・イベントに対するアクション	SDMACTION	<p>指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。 分析仕様からアクション定義を継承させるには、*を指定します。</p>
システム・ダンプ・イベントの重大度	SDMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
シミュレート・セキュリティ検査の免除	SECBYPASS	<p>この CICS システムに対して CICSplex SM 免除セキュリティがアクティブであるかどうかを示します。 免除セキュリティにより、シミュレートされた CICS セキュリティ検査を迂回することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムで免除セキュリティがアクティブです。 • NO - この CICS システムでは免除セキュリティはアクティブではありません。 • INHERIT - この CICS システムに関連する CICSplex に割り当てられた「セキュリティ検査免除」値を継承します。
CICS コマンド・セキュリティ検査のシミュレート状況	SECCMDCHK	<p>CICSplex SM セキュリティ検査がこの CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートするかどうかを示します。 以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートします。 • NO - この CICS システムに関する CICS コマンド検査をシミュレートしません。 • INHERIT - この CICS システムに関連付けられた CICSplex に割り当てられた値を継承します。

表 151. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
CICS リソース・セキュリティ検査のシミュレート状況	SECRESCHK	<p>CICSplex SM セキュリティー検査がこの CICS システムに関する CICS リソース検査をシミュレートするかどうかを示します。以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - この CICS システムに関する CICS リソース検査をシミュレートします。 • NO - この CICS システムに関する CICS リソース検査をシミュレートしません。 • INHERIT - この CICS システムに関連付けられた CICSplex に割り当てられた値を継承します。
ストレージ不足 (SOS) イベントに対するアクション	SOSACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。
ストレージ不足 (SOS) イベントの重大度	SOSSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
CICS 停止イベントに対するアクション	STLACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。
CICS 停止イベントの重大度	STLSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
システム ID	SYSID	CICS システムの 4 文字のシステム ID。指定された値は CICS SYSIDNT SIT オペランドまたは指定変更と一致する必要があります。
トランザクション・ダンプ・イベントに対するアクション	TDMACTION	指定された条件に関する通知を生成する時に使用するアクション定義の名前。分析仕様からアクション定義を継承させるには、* を指定します。

表 151. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
トランザクション・ダンプ・イベントの重大度	TDMSEV	<p>名前指定された条件に関連した重大度レベル。 オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS - 非常に低位の重大度 • LS - 低位の重大度 • LW - 低位の警告 • HW - 高位の警告 • HS - 高位の重大度 • VHS - 非常に高位の重大度 • NO - 条件はモニターされません • INHERIT - 分析仕様から重大度を導出します • N_A - この条件に関するデフォルト重大度レベルを使用します <p>注:</p> <p>ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
TDQ モニターのサンプリング間隔	TDQSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
端末モニターのサンプリング間隔	TERMSAMP	指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があつてからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。
時間帯	TMEZONE	<p>この CICS システムが置かれている時間帯。 以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • B から Z の範囲の時間帯コード文字。時間帯コードの詳細については、「CICSplex SM Administration」資料の『時間帯コード』表を参照してください。 • INHERIT - アクティブ時にこの CICS システムの接続先となる CMAS に割り当てられた時間帯を継承します。 この CICS システムが非アクティブの場合、時間帯は、この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS から継承されます。 INHERIT を指定できるのは、時間帯オフセット (TMEZONEO) が INHERIT で、しかも夏時間調整 (DAYLGHTSV) が INHERIT である場合だけです。
時間帯オフセット	TMEZONEO	<p>計算対象の時刻に適用される調整値。 この値は、標準時間帯を使用しない地域において時間参照を解決するために使用されます。 以下のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 から 59 までの間の値 - この時間帯の場合 (標準的な時間帯を使用しない地域の場合) に時刻に追加する分数を示します。 • INHERIT - アクティブ時にこの CICS システムの接続先となる CMAS に割り当てられた時間帯オフセットを継承します。 この CICS システムが非アクティブの場合、時間帯オフセットは、この CICS システムの可用性をモニターするタスクを割り当てられている CMAS から継承されます。 INHERIT を指定できるのは、時間帯 (TMEZONE) が INHERIT で、しかも夏時間調整 (DAYLGHTSV) が INHERIT である場合だけです。

表 151. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
RS サーバーの最上位層	TOPRSUPD	<p>シスプレックスの最適化されたワークロードでは、この値はタスク・ロード・パーセンテージから実際のタスク数に変換されます。その数は、領域の MAXTASK 値から減算されて、最上位層のタスク・ロード範囲を決定します。この値は、この CICS システム定義の親である CICSplex 定義で指定されているデフォルト値を指定変更するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 1 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。結果として得られたタスク数値は領域の MAXTASKS 設定値から減算されて、タスク・ロードの最上位層を設定します。領域内のタスク・ロードが MAXTASKS 制限に達した場合は、タスク・ロードがこの値を下回るまで、領域の MAXTASKS 状態はオフに切り替わらず、カップリング・ファシリティーにもブロードキャストされません。 <p>デフォルト値は 5% です。この値を変更する場合は、変更がワークロードおよびカップリング・ファシリティーのスループットに与える影響を考慮した上で行ってください。この値に対する変更は、次回領域を開始するときに適用されます。</p>
トランザクション・モニターのサンプリング間隔	TRANSAMP	<p>指定されたモニター・タイプのサンプル・データを収集する要求があってからその次の要求が来るまで CICSplex SM が待機する秒数 (0 から 86400 の範囲)。値 INHERIT は CICS システムがそれに関連付けられたモニター仕様で指定された値を使用することを意味します。</p>
RS サーバー 更新頻度	UPDATERS	<p>最適化モードで実行されるワークロードにおいて、この値は、ターゲット CICS 領域内のタスク・ロード値を変更するために CICS CFDT (RS) サーバーを呼び出す頻度を指定します。この値は、この CICS システム定義の親である CICSplex 定義で指定されているデフォルトの頻度の値を指定変更するために使用されます。</p> <p>値の範囲は 0 から 25 まで、または INHERIT です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 値 INHERIT は、この CICS 領域の親 CICSplex 定義 (CPLEXDEF) オブジェクトのこの属性に指定されている値を割り当てることを意味します。これはこの属性のデフォルト設定です。 値が 0 の場合、タスク・ロード数が増えられても RS サーバーに通知されないため、この CICSplex の範囲内の領域に対して最適化されたワークロード機能が無効になります。 1 から 25 の値は、領域の MAXTASKS 設定に対する演算比率として適用されます。その結果生じたタスク数の値は、RS サーバーへの更新呼び出しを行うための数値しきい値として使用されます。 <p>例えば MAXTASKS 設定が 120 でこの属性が 20 に設定されている場合、領域タスク・カウントが以下のように変わるときに、WLM ロード・カウントを更新するよう RS サーバーが呼び出されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> タスク 23 と 24 (20%) 47 タスクから 48 タスクに - (40%)、 71 タスクから 72 タスクに - (60%) 95 タスクから 96 タスクに - (80%)、 119 タスクから 120 タスクに - (100%) <p>RS サーバーは、領域のタスク・ロードがこれらの境界をまたいで増加または減少したときに更新されます。</p> <p>1 から 25 スケールのうちの小さい値が指定されると、タスク・ロード範囲全体を通して RS サーバーを更新する頻度が増します。ワークロードが QUEUE モードにある場合は、この値を設定することで、ワークロードの対象有効範囲内の CICS 領域全体にタスク・ロードがより均等に分散されます (他の正常性および関連する要因がすべて同等であると仮定した場合)。しかし、RS サーバーの使用率がそれに対応して増加し、その結果カップリング・ファシリティーの使用率が増加することがあります。</p> <p>ここで指定される値は、次回この CICS 領域を開始するときに適用されます。この CICS 領域の実行中のインスタンスに変更を適用する必要がある場合は、MAS ビューを使うことで作動中の変更が可能です。</p>

表 151. CSYSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
WLM 最適化の使用可能化	WLMOPTEN	<p>この属性は、最適化された動的ルーティング機能の使用可能化を制御します。</p> <p>ENABLED に設定すると、CICSplex SM ワークロード 管理エージェントの始動時に、領域が CICS 領域状況 サーバーへの接続を試行します。その接続が成功すると、領域は、最適化されたワークロード・ルーティング要求の参加に適格となります。</p> <p>この属性を DISABLED に設定すると、始動時に領域が領域状況サーバーに接続されず、最適化された動的ワークロードのルーティング要求は抑止されます。</p> <p>この定義の設定値は、実行時に MAS ビューでオーバーライドされる場合があります。</p>
タスク・ロード・キュー・モード	WLMQMODE	<p>この属性は CICSplex SM ワークロード・マネージャーが使用します。この値によって、ターゲット CICS 領域のキューに入れられたタスク・ロードの評価方法を次のように指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MAXTASK - アクティブ・タスクおよび MAXTASK のキューに入れられたタスクの両方が、領域のタスク・ロード評価に含まれること指定します。 • ALL - アクティブ・タスク、MAXTASK 限界のキューに入ったタスク、および TRANCLASS 限界のためにキューに入ったタスクを領域のタスク・ロード評価に含めることを指定します。 <p>デフォルト値は ALL です。この値に対する変更は、次回領域を開始するときに適用されます。</p>
始動時にアクティブなルーティング領域	WLMSTATUS	<p>CICS システムの始動時に、この CICS システムが、その関連付けられたワークロードにルーティング領域として参加するかどうかを示します。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - CICS 始動時に CICS システムはルーティング領域として関連するワークロードに参加します。 • NO - CICS 始動時に CICS システムはルーティング領域として動作することを試みません。 <p>関連するワークロードを識別するには、「WLM 仕様と CICS システムとの間のリンク」(EYUSTARTLNKSWSCS) ビュー、「WLM 仕様と CICS システム・グループとの間のリンク」(EYUSTARTLNKSWSCG) ビュー、またはワークロード管理マップ機能を使用します。CICS システムがワークロードに関連付けられていない場合は、ルーティング領域としてアクティブ化されません。</p> <p>通常、ルーティング領域ではこのオプションが YES に設定されます。ターゲット領域が CICS 分散ルーティング・モデル (DSRTPGM) を使って要求を受け取る場合には、ターゲット領域でもこのオプションを YES に設定する必要があります。</p>
タスク・ロード・ヘルスしい値	WLMTHRSH	<p>この属性は CICSplex SM ワークロード・マネージャーが使用します。現在の領域タスク・ロードの比率しい値を指定します。これは現在のタスク数を最大タスク数で割ることで算出されます。ターゲット領域のロードがこのしい値に達すると、WLM はその領域の正常性がやや損なわれたと見なします。これによって、この領域の評価時に、より高いリンク重みが WLM ルーティング・アルゴリズムに適用されます。ターゲット・スコープに、ルーターに対するローカル領域およびリモート領域が含まれる場合、WLM はリモート領域よりもローカル領域を優先します。この属性を適用すると、ローカル領域でこのロードしい値に達したときに、WLM はローカルではなくリモートのターゲットを優先するようになります。スコープ内のすべてのターゲットがこのロードしい値に達すると、WLM は再びローカルのターゲットを優先するようになります。</p> <p>値の範囲は 1 から 100 で、デフォルト値は 60 です。ここで指定される値は、次回この CICS 領域を開始するときに適用されます。</p> <p>注: この値は、リンク中立な動的ルーティング要求のルーティング要因に適用されると、ヌルになります。LNQUEUE アルゴリズムと LNGOAL アルゴリズムでは、リンク・ウェイト自体が無視されるからです。</p>

付録 I RTA MAS リソース・モニター

「RTA MAS リソース・モニター」(MRM) ビューを使用して、リアルタイム分析 MAS リソース・モニター定義の作成と保守を行うことができます。MRM 機能を使用して、特定または一般的な CICS リソースの状況をモニターし、その状態が指定規範から逸脱した場合には通知を受けるようにすることができます。MRM を使用すれば、関心の対象となるリソース状況と、それによって生成される外部通知のタイプを選択することができます。

仕様 - RTASPEC

「RTA 仕様」(RTASPEC) ビューには、CICS システムに関連付けられているすべての分析定義と状況定義のアンカーになるデフォルトの制御属性が表示されます(それらの属性は、システム可用性モニターで使用されます)。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」>「RTA MAS リソース・モニター」>「仕様」

表 152. 提供された「RTA 仕様」RTASPEC) ビュー・セットのビュー

ビュー	注
RTA 仕様 EYUSTRTRTASPEC.ADDSYSDEF	CICS システムを RTASPEC に関連付けます。
RTA 仕様 EYUSTRTRTASPEC.ADDSYSGRP	CICS システム・グループを RTASPEC に関連付けます。
RTA 仕様 EYUSTRTRTASPEC.CREATE	新規 RTA 仕様を作成します。
RTA 仕様 EYUSTRTRTASPEC.DETAILED	選択した RTA 仕様に関する詳細情報
RTA 仕様 EYUSTRTRTASPEC.REMOVE	選択した RTA 仕様を除去します。
RTA 仕様 EYUSTRTRTASPEC.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex の RTA 仕様に関するテーブル形式の情報

アクション

表 153. RTASPEC ビューで使用可能なアクション

アクション	説明
ADDSYSDEF	CICS システムを RTASPEC に関連付けます。
ADDSYSGRP	CICS システム・グループを RTASPEC に関連付けます。
CREATE	新規 RTA 仕様を作成します。
REMOVE	選択した RTA 仕様を除去します。
UPDATE	選択した RTA 仕様を更新します。

フィールド

表 154. RTASPEC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	RTA 仕様の説明 (1 から 58 文字まで)。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
CICS 最大タスク到達イベントに対するアクション	MXTACTION	事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名前。このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。
CICS 最大タスク数到達イベントの重大度	MXTSEV	指定された条件に関連付けられる重大度レベル。重大度コードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。 注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。
RTA 仕様名	NAME	分析仕様の名前。
無応答 MAS イベントに対するアクション	NRMACTION	事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名前。このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。

表 154. RTASPEC ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
無応答 MAS イベントの重大度	NRMSEV	<p>指定された条件に関連付けられる重大度レベル。 重大度コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 <p>NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。</p> <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
システム使用可能性モニター・イベントに対するアクション	SAMACTION	<p>事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名称。 このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。</p>
システム使用可能性モニター・イベントの重大度	SAMSEV	<p>指定された条件に関連付けられる重大度レベル。 重大度コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 <p>NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。</p> <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
システム・ダンプ・イベントに対するアクション	SDMACTION	<p>事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名称。 このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。</p>

表 154. RTASPEC ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
システム・ダンプ・イベントの 重大度	SDMSEV	<p>指定された条件に関連付けられる重大度レベル。 重大度コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 <p>NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。</p> <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
ストレージ不足 (SOS) イベント に対するアクション	SOSACTION	<p>事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名前。 このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。</p>
ストレージ不足 (SOS) イベント の重大度	SOSSEV	<p>指定された条件に関連付けられる重大度レベル。 重大度コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 <p>NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。</p> <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
CICS 停止イベントに対するア クション	STLACTION	<p>事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名前。 このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。</p>

表 154. RTASPEC ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
CICS 停止イベントの重大度	STLSEV	<p>指定された条件に関連付けられる重大度レベル。 重大度コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 <p>NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。</p> <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>
トランザクション・ダンプ・イベントに対するアクション	TDMACTION	<p>事前定義されたシステム使用可能性モニター条件が発生した時に使用するアクション定義の名前。 このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルトのアクション定義が使用されます。</p>
トランザクション・ダンプ・イベントの重大度	TDMSEV	<p>指定された条件に関連付けられる重大度レベル。 重大度コードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度 <p>NO および N_A も、条件に対するイベントの発生を防ぐ有効なオプションです。</p> <p>注: ワークロード・マネージャー(WLM)の正常性は、SAM とは無関係に評価され、SAM の設定によって影響を受けることはありません。</p>

グループ - RTAGROUP

「RTA グループ」(RTAGROUP) ビューには、関連した分析定義および状況定義の間の関連に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA 分析点モニター」 > 「グループ」

表 155. 提供された「RTA グループ」(RTAGROUP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.ADDTOAPS	RTA グループと RTA 分析点仕様の間の関連を追加します。
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.ADDTOSPC	RTA グループと分析仕様の間の関連を追加します。
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.APINSTALL	分析点仕様に RTA グループをインストールします。
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.CREATE	RTA グループを作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.DETAILED	選択した RTA グループに関する詳細情報
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.INSTALL	分析仕様に RTA グループをインストールします。
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.REMOVE	データ・リポジトリから RTA グループを除去します。
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべての RTA グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 156. RTAGROUP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOAPS	RTA グループと RTA 分析点仕様の間の関連を追加します。
ADDTOSPC	RTA グループと分析仕様の間の関連を追加します。
APINSTALL	分析点仕様に RTA グループをインストールします。
CREATE	RTA グループを作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	分析仕様に RTA グループをインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから RTA グループを除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の RTA グループを更新します。 これにより EYUSTRTAGROUP.CREATE ビューが開きます。「説明」フィールドを変更できます。

フィールド

表 157. RTAGROUP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。

表 157. RTAGROUP ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
定義が変更された最終時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	1 文字から 58 文字までの分析グループの説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
RTA グループ	NAME	分析グループの名前。

定義 - RTADEF

「**RTA 定義**」(RTADEF) ビューには、定期的に実行される評価に関する情報、および通知する必要がある条件が発生した場合に取るアクションに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**RTA 分析点モニター**」 > 「**定義**」

表 158. 提供された「 RTA 定義 」(RTADEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
RTA 定義 EYUSTRTRTADEF.ADDTOGRP	RTA 定義を RTA グループに追加します。
RTA 定義 EYUSTRTRTADEF.APINSTALL	分析点に分析定義をインストールします。
RTA 定義 EYUSTRTRTADEF.CREATE	分析定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。 「 作成 」をクリックすると、表示される EYUSTRTRTADEF.CREATE ビューの一部のフィールドに CICSplex SM で提供された値が入りますが、これらの値は変更できます。RTA 定義を選択してから「 作成 」をクリックすると、表示されるビュー内のフィールドに (既存の RTA 定義から) モデル化された値が入られます。
RTA 定義 EYUSTRTRTADEF.DETAILED	選択した RTA 定義に関する詳細情報
RTA 定義 EYUSTRTRTADEF.INSTALL	分析仕様に分析定義をインストールします。
RTA 定義 EYUSTRTRTADEF.REMOVE	データ・リポジトリから RTA 定義を除去します。
RTA 定義 EYUSTRTRTADEF.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべての RTA 定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 159. RTADEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	RTA 定義を RTA グループに追加します。
APINSTALL	分析点に分析定義をインストールします。

表 159. RTADEF ビューで使用可能なアクション (続き)	
アクション	説明
CREATE	分析定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。 「作成」をクリックすると、表示される EYUSTRTRTADEF.CREATE ビューの一部のフィールドに CICSplex SM で提供された値が入りますが、これらの値は変更できます。RTA 定義を選択してから「作成」をクリックすると、表示されるビュー内のフィールドに (既存の RTA 定義から) モデル化された値が入られます。
INSTALL	分析仕様に分析定義をインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから RTA 定義を除去します。
UPDATE	EYUSTRTRTADEF.CREATE ビューを使用してデータ・リポジトリ内の RTA 定義を更新します。

フィールド

表 160. RTADEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アクション定義名	ACTION	この定義に関連付けられるアクション定義の名前。アクション定義は、分析される 1 つ以上の条件が真である場合に取られる処置を示します。 この分析定義が CICS システムにインストールされているときにアクション定義を特定できず、指定された 1 つ以上の条件が真になった場合には、CICSplex SM イベント通知のみが行われます。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	(オプション。) 定義の説明を 1 から 58 文字までで指定します。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
評価式	EVALEXPRTEXT	分析の対象となる評価式。この式は単一の定義名または複数の定義名から成ることができます。 • DEFNAME1 • DEFNAME2 • DEFNAME1 DEFNAME 2 • DEFNAME1 & DEFNAME 2 • (DEFNAME1 DEFNAME 2) (DEFNAME3 & DEFNAME 4) ここで、 は OR であり、& は AND です。最大長は 500 文字です。

表 160. RTADEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
実行評価変更ストリング	EXEC_OPS	<p>分析される 1 つ以上の条件が真である場合にリソース変更が実行されるかどうかを示します。次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • はい <ul style="list-style-type: none"> – 評価定義により記述された条件が真である場合に CICSplex SM は変更の実行を試行します。CICSplex SM は要求された変更の実行を 1 回だけ試行します。何らかの理由で変更が成功しなかった場合 (例えば、リソースが使用中または使用不可であったり、変更が要求された時に CICS または CICSplex SM エラーが発生した場合など)、再試行されません。条件が CICSplex SM イベントを生成し、変更を行えない場合、イベントは「リアルタイム分析未解決イベント」ビューに表示されたままになります。 • いいえ <ul style="list-style-type: none"> – 変更は実行されません。 • 常時 <ul style="list-style-type: none"> – 評価定義により記述された条件が真である場合に CICSplex SM は変更の実行を試行します。ALWAYS オプションが設定されている場合、Exit Intervals オプションは無視されます。
HS 発生までの真の評価回数	HSEENTRY	この HS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が真にならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
HS 解決までの偽の評価回数	HSEXIT	この HS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が偽にならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
HW 発生までの真の評価回数	HWENTRY	この HW 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が真にならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
HW 解決までの偽の評価回数	HWEXIT	この HW 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が偽にならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
LS 発生までの真の評価回数	LSEENTRY	この LS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が真にならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
LS 解決までの偽の評価回数	LSEXIT	この LS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が偽にならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
LW 発生までの真の評価回数	LWENTRY	この LW 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が真にならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
LW 解決までの偽の評価回数	LWEXIT	この LW 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が偽にならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
名前	NAME	分析定義の名前 (1 から 8 文字)。名前には英字、数字、国別文字を含めることができます。ただし、先頭文字は英字でなければなりません。
分析間隔	RATE	評価される特定の条件のサンプル間の間隔 (秒数)。「評価式」フィールドで指定された定義名は条件を識別します。この値は 1 から 86400 まででなければなりません。
VHS 発生までの真の評価回数	VHSEENTRY	この VHS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が真にならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
VHS 解決までの偽の評価回数	VHSEXIT	この VHS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が偽にならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
VLS 発生までの真の評価回数	VLSEENTRY	この VLS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が真にならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。

表 160. RTADEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
VLS 解決までの偽の評価回数	VLSEXIT	この VLS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が偽にならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。

評価 - EVALDEF

「**評価定義**」(EVALDEF) ビューは、サンプリングされて評価される、CICS システム中のリソースに関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**RTA 分析点モニター**」 > 「**評価**」

表 161. 提供された「 評価定義 」(EVALDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
評価定義 EYUSTARTEVALDEF.CREATE	評価定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
評価定義 EYUSTARTEVALDEF.DETAILED	選択した評価定義に関する詳細情報
評価定義 EYUSTARTEVALDEF.REMOVE	データ・リポジトリから評価定義を除去します。
評価定義 EYUSTARTEVALDEF.TABULAR	コンテキストと示される CICSplex のすべての評価定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 162. EVALDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	評価定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリから評価定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の選択された評価定義を更新します。

フィールド

表 163. EVALDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アプリケーション名	APPLICATION	(オプション) 専用リソースの評価の場合は、この値によって、評価照会に適用するアプリケーション・コンテキストのアプリケーション・コンポーネントを指定します。このパラメーターの値を指定する場合は、PLATFORM、APPLMAJORVER、APPLMINORVER、APPLMICROVER の値も指定する必要があります。
アプリケーション・メジャー・バージョン	APPLMAJORVER	(オプション) 専用リソースの評価の場合は、この値によって、評価照会に適用するアプリケーション・コンテキストのアプリケーション・メジャー・バージョン・コンポーネントを指定します。このパラメーターの値を指定する場合は、PLATFORM、APPLICATION、APPLMINORVER、APPLMICROVER の値も指定する必要があります。

表 163. EVALDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
アプリケーション・マイクロ・バージョン	APPLMICROVER	(オプション) 専用リソースの評価の場合は、この値によって、評価照会に適用するアプリケーション・コンテキストのアプリケーション・マイクロ・バージョン・コンポーネントを指定します。このパラメーターの値を指定する場合は、PLATFORM、APPLICATION、APPLMAJORVER、APPLMINORVER の値も指定する必要があります。
アプリケーション・マイナー・バージョン	APPLMINORVER	(オプション) 専用リソースの評価の場合は、この値によって、評価照会に適用するアプリケーション・コンテキストのアプリケーション・マイナー・バージョン・コンポーネントを指定します。このパラメーターの値を指定する場合は、PLATFORM、APPLICATION、APPLMAJORVER、APPLMICROVER の値も指定する必要があります。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	1 文字から 58 文字の評価定義の説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
評価されるフィールド	EVALCOL	評価される CICSplex SM リソース・テーブル中の列の名前。 評価される列を指定した後で、実行される評価のタイプを判別しなければなりません。評価値とその関連演算子と重大度、または評価しきい値のいずれかを指定できます。しかし、これらの 2 つのタイプの評価は相互に排他的であることに注意してください。
評価データ値	EVALDATA	(評価タイプ: VALUE) 「評価されるフィールド」(EVALCOL) の内容が評価基準を満たしているかどうかを判別するために使用される値またはキーワード。
評価の論理演算子	EVALOPER	(評価タイプ: VALUE) 「評価されるフィールド」(EVALCOL) の内容が評価基準を満たしているかどうかを判別するために使用される論理演算子。有効な演算子は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> EQ <ul style="list-style-type: none"> 等しい NE <ul style="list-style-type: none"> 等しくない LT <ul style="list-style-type: none"> より小さい GT <ul style="list-style-type: none"> より大きい LE <ul style="list-style-type: none"> より小か等しい GE <ul style="list-style-type: none"> より大か等しい

表 163. EVALDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
評価タイプ	EVALTYPE	<p>実行される評価のタイプ。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VALUE <ul style="list-style-type: none"> - 評価対象フィールドが指定の値を満たすかどうか。関連付けられた値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - 評価論理演算子 (EVALOPER) - 評価データ値 (EVALDATA) - 結果が基準と合う時に割り当てる重大度 (SEVERITY) • THRESHOLD <ul style="list-style-type: none"> - 評価対象フィールドが満たさなければならないしきい値の範囲。関連付けられた値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - VLS 範囲の上限 (VLSDATA) - LS 範囲の上限 (LSDATA) - LW 範囲の上限 (LWDATA) - HW 範囲の下限 (HWDATA) - HS 範囲の下限 (HSDATA) - VHS 範囲の下限 (VHSDATA)
フィルター・ストリング	FILTER	<p>(オプション) 指定されたリソース・テーブルの中の、「評価フィールド」で記述されている条件の修飾に使用される属性を識別します。</p> <p>フィルター式は、「attribute operator value」という形式の 1 つ以上の属性式から構成できます。有効な演算子は、<、<=、=、>=、>、および != です。属性式を結合する場合には AND または OR 演算子を、式をグループ化するには小括弧を、式を否定するには NOT を使用します。</p> <p>値に埋め込みブランクまたは特殊文字 (ピリオド、コンマ、または等号を含む) が含まれている場合は、その値全体を単一引用符で囲まなければなりません。値の中に単一引用符が含まれている場合には、それを 2 つの単一引用符に変換してください。</p> <p>フィルター式は、ピリオドで終了させなければなりません。</p>
GET パラメーター	GETPARMS	<p>(オプション) この評価定義の実行時に使用するパラメーターを識別します。これらは、この評価定義に関連しているリソース・テーブルの有効なユーザー指定可能 GET パラメーターである必要があります。複数のパラメーターを、スペースで区切ることで指定できます。合計のストリングの長さは 1 から 42 文字にでき、必ずピリオドで終了させます。</p>
HS 範囲の下限	HSDATA	<p>(評価タイプ: THRESHOLD) 評価基準を満たした場合に、「高位の重大度 (HS)」の重大度を割り当てられる値範囲の下位しきい値バウンダリー。</p> <p>上位バウンダリーは、非常に高位の重大度 (VHSDATA) の値により設定されます。</p> <p>高位の警告値は、両方向しきい値に対して設定することで、VLSDATA、LSDATA、LWDATA、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA しきい値を指定して高位条件および低位条件の両方を評価するか、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA の低位条件のみを評価する単一方向しきい値に対して設定することができます。</p>
HW 範囲の下限	HWDATA	<p>(評価タイプ: THRESHOLD) 評価基準を満たした場合に、「高位の警告 (HW)」の重大度を割り当てられる値範囲の下位しきい値バウンダリー。</p> <p>上位バウンダリーは、高位の重大度 (HSDATA) の値により設定されます。</p> <p>高位の警告値は、両方向しきい値に対して設定することで、VLSDATA、LSDATA、LWDATA、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA しきい値を指定して高位条件および低位条件の両方を評価するか、VLSDATA、LSDATA、および LWDATA の低位条件のみを評価する単一方向しきい値に対して設定することができます。</p>

表 163. EVALDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
評価リソースのインスタンス ID	INSTANCE	<p>評価したいリソースのオカレンスに関する特定のリソース名またはパターンを入力します。パターンには文字 + (正符号)、* (アスタリスク)、またはその両方を含めることができます。</p> <p>このフィールドは、リソースの基本キーにのみ適用されます。複数のキーを持つリソースの場合には、FILTER と組み合わせて使用することで精度が上がります。</p>
LS 範囲の上限	LSDATA	<p>(評価タイプ: THRESHOLD) 評価基準を満たした場合に、「低位の重大度 (LS)」の重大度を割り当てられる値範囲の上位しきい値バウンダリー。</p> <p>下位バウンダリーは、非常に低位の重大度(VLSDATA) の値により設定されます。</p> <p>低位の重大度値は、両方向しきい値に対して設定することで、VLSDATA、LSDATA、LWDATA、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA しきい値を指定して高位条件および低位条件の両方を評価するか、VLSDATA、LSDATA、および LWDATA の低位条件のみを評価する単一方向しきい値に対して設定することができます。</p>
LW 範囲の上限	LWDATA	<p>(評価タイプ: THRESHOLD) 評価基準を満たした場合に、「低位の警告(LW)」の重大度を割り当てられる値範囲の上位しきい値バウンダリー。</p> <p>下位バウンダリーは、低位の重大度(LSDATA) の値により設定されます。</p> <p>低位の警告値は、両方向しきい値に対して設定することで、VLSDATA、LSDATA、LWDATA、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA しきい値を指定して高位条件および低位条件の両方を評価するか、VLSDATA、LSDATA、および LWDATA の低位条件のみを評価する単一方向しきい値に対して設定することができます。</p>
名前	NAME	1 文字から 8 文字までの評価定義の名前。名前には英字、数字、国別文字を含めることができます。ただし、先頭文字は英字でなければなりません。
変更ストリング	OPRSTRING	<p>(オプション) この評価定義で記述されている条件が真になる場合に変更される、指定されたリソース・テーブル中の属性を識別します。</p> <p>変更ストリングは、SET コマンドを使用して、変更可能リソース属性の現行値を変更しようとしています。どの属性を変更するかを定義するストリングは、コンマで区切られ、ピリオドで終了する 1 つ以上の属性式で構成することができます。</p> <p>変更は、RTA 定義 (RTADEF) の評価変更ストリングの実行 (EXEC_OPS) 属性で要求された場合にのみ、試行されます。</p>
プラットフォーム名	PLATFORM	<p>(オプション) 専用リソースの評価の場合は、この値によって、評価照会に適用するアプリケーション・コンテキストのプラットフォーム・コンポーネントを指定します。このパラメーターの値を指定する場合は、APPLICATION、APPLMAJORVER、APPLMINORVER、APPLMICROVER の値も指定する必要があります。</p>
修飾子データ値	QUALDATA	<p>評価列の内容が評価基準を満たすかどうかの判別に使用する英数字の値かキーワード。この値は、評価されているリソース・テーブル列の有効な属性値でなければなりません。属性が CVDA データ型の場合、値は有効な出力値でなければなりません。</p>

表 163. EVALDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
修飾子の論理演算子	QUALOPER	<p>評価列の内容が評価基準を満たすかどうかの判別に使用する論理演算子。有効な演算子は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • LT <ul style="list-style-type: none"> – より小さい • LE <ul style="list-style-type: none"> – より小さいか等しい • EQ <ul style="list-style-type: none"> – 等しい • GE <ul style="list-style-type: none"> – より大きい等しい • GT <ul style="list-style-type: none"> – より大きい • NE <ul style="list-style-type: none"> – 等しくない
サンプリング間隔	SAMPLE	<p>次にサンプル・データを収集するまで CICSplex SM が待機する長さを秒単位で示します。この値は 1 から 86400 まででなければなりません。</p> <p>「リソース・テーブル名」フィールドがモニター・リソース・テーブルを指定している場合、このリソース・カテゴリーのモニターがアクティブであれば、このサンプリング間隔の値は無視されます。代わりに、該当するモニター仕様で指定されているサンプリング間隔が使用されます。無視されないようにするには、モニター・テーブルではなく同等の運用リソース・テーブルを「テーブル名」フィールドに指定してください。</p>
分離タスク・インディケーター	SEPTASK	<p>YES か NO の値によって、評価プロセスを別個のシステム・タスクとして実行するかどうかを指定します。</p> <p>デフォルト値 NO を使用すると、MAS 長期実行タスク (LRT) の下で評価プロセスを実行できます。評価のタイプおよび関係するリソースの数によっては、LRT の下で実行すると、同じ優先度 (255) のユーザー・タスクが実行されないことがあります。</p> <p>YES を指定すると、別個のタスク (COIR) が追加されて、この評価定義が処理されます。このタスクの優先度は、COIRTASKPRI システム・パラメーターの値に従って設定されます。COIRTASKPRI が 0 に設定されている場合は、どの評価定義の分離タスクも開始されません。</p> <p>MAS が CICS TS バージョン 5.4 以降の場合、それらのタスクはシステム・タスクになります。</p>

表 163. EVALDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
結果セット内の結果の評価方式	SETACTION	<p>次のように、リソースのオカレンスに関する情報の評価方式を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ALL <ul style="list-style-type: none"> – この情報を評価基準と比較します。現行サンプル中のリソースのオカレンスがすべて真であると結果に示される場合は、真の条件を設定します。 しきい値を評価する場合は、このアクションはサポートされません。 • ANY <ul style="list-style-type: none"> – この情報を評価基準と比較します。現行サンプル中のリソース・オカレンスのいずれかが真であると結果に示される場合は、真の条件を設定します。 しきい値を評価する場合は、このアクションはサポートされません。 • AVG <ul style="list-style-type: none"> – この情報を処理し、結果の平均値を評価基準と比較します。現行サンプルの結果が真の場合、条件を真に設定します。 このアクションは数値データ専用です。このアクションを指定する場合、「変更ストリング式」フィールドで変更操作を要求できません。 • CNT <ul style="list-style-type: none"> – リソースのオカレンスを評価基準と比較します。現行サンプルの結果が真の場合、条件を真に設定します。 このアクションを指定する場合、「変更ストリング式」フィールドで変更操作を要求できません。 CNT と評価列を両方とも指定することはできません。 • MAX <ul style="list-style-type: none"> – この情報を処理し、結果の最大値を評価基準と比較します。現行サンプルの結果が真の場合、条件を真に設定します。 • MIN <ul style="list-style-type: none"> – この情報を処理し、結果の最小値を評価基準と比較します。現行サンプルの結果が真の場合、条件を真に設定します。 • SUM <ul style="list-style-type: none"> – この情報を合計し、合計を評価基準と比較します。現行サンプルの結果が真の場合、条件を真に設定します。 このアクションは数値データ専用です。このアクションを指定する場合、「変更ストリング式」フィールドで変更操作を要求できません。
結果が基準と合う時に割り当てる重大度	SEVERITY	<p>(評価タイプ: VALUE) リソースのオカレンスが評価基準と合う場合に割り当てられる重大度レベル。重大度レベルは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度

表 163. EVALDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リソース・テーブル	TABLE	評価したいリソース・カテゴリを示す CICSplex SM リソース・テーブルの名前。 テーブル名を指定する際は、評価定義および関連した分析定義のインストール場所を考慮してください。さまざまな CICSplex SM 管理対象 CICS システムに定義をインストールできますが、CICS システムによってはサポートされていないリソース・テーブルもあります。したがって、定義をインストールする際に、CICSplex SM はターゲット・システムがリソース・テーブルをサポートしているかどうかを判別します。
VHS 範囲の下限	VHSDATA	(評価タイプ: THRESHOLD) 評価基準を満たした場合に、「非常に高位の重大度(VHS)」の重大度を割り当てられる値範囲の下位しきい値バウンダリー。非常に高位の重大度値は、両方向しきい値に対して設定することで、VLSDATA、LSDATA、LWDATA、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA しきい値を指定して高位条件および低位条件の両方を評価するか、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA の高位 RTA 条件のみを評価する単一方向しきい値に対して設定することができます。
エクストラ情報を提供できるビュー	VIEW	通知指定状態の発生時に「ビュー」フィールドに表示される CICSplex SM ビューの名前。このフィールドは、「 テーブル名 」フィールドに指定されているリソース・テーブルに関連したビューを示す必要があります。
VLS 範囲の上限	VLSDATA	(評価タイプ: THRESHOLD) 評価基準を満たした場合に、「非常に低位の重大度(VLS)」の重大度を割り当てられる値範囲の上位しきい値バウンダリー。非常に低位の重大度値は、両方向しきい値に対して設定することで、VLSDATA、LSDATA、LWDATA、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA しきい値を指定して高位条件および低位条件の両方を評価するか、VLSDATA、LSDATA、および LWDATA の低位条件のみを評価する単一方向しきい値に対して設定することができます。

状況プローブ - STATDEF

「**状況プローブ定義**」(STATDEF)表示画面には、特定の間隔で CICSplex SM によって呼び出されるユーザー・プログラムが示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**RTA MAS リソース・モニター**」 > 「**状況プローブ**」

表 164. 提供された「 状況プローブ定義 」(STATDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
状況プローブ定義 EYUSTARTSTATDEF.ADDTOGRP	状況プローブ定義を RTA グループに追加します。
状況プローブ定義 EYUSTARTSTATDEF.CREATE	状況プローブ定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
状況プローブ定義 EYUSTARTSTATDEF.DETAILED	選択したユーザー状況プローブに関する詳細情報
状況プローブ定義 EYUSTARTSTATDEF.INSTALL	状況プローブ定義を CICS システムまたは CICS システム・グループにインストールします。
状況プローブ定義 EYUSTARTSTATDEF.REMOVE	データ・リポジトリから状況プローブ定義を除去します。
状況プローブ定義 EYUSTARTSTATDEF.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のユーザー状況プローブ定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 165. STATDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	状況プローブ定義を RTA グループに追加します。
CREATE	状況プローブ定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	状況プローブ定義を CICS システムまたは CICS システム・グループにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから状況プローブ定義を除去します。
UPDATE	選択した状況プローブ定義を更新します。

フィールド

表 166. STATDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アクション定義名	ACTION	状況プローブ定義が真の状態になった場合に使用するアクション定義の名前。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	状況定義の (オプションの) 説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
状況プログラムに対する呼び出しの間隔 (秒)	FREQ	状況プログラムの呼び出しとその次の呼び出しの間隔 (秒数)。この値は 1 から 86400 まででなければなりません。
イベントまでの HS 真の評価数	HSEENTRY	この重大度レベルにおいてこの定義が真であると見なされる前に真の状態になる必要がある連続呼び出し頻度の間隔の数。
解決までの HS 偽の評価数	HSEXIT	この重大度レベルにおいてこの定義が真であると見なされる前に偽の状態になる必要がある連続呼び出し頻度の間隔の数。
イベントまでの HW 真の評価数	HWENTRY	この重大度レベルにおいてこの定義が真であると見なされる前に真の状態になる必要がある連続呼び出し頻度の間隔の数。
解決までの HW 偽の評価数	HWEXIT	この重大度レベルにおいてこの定義が真であると見なされる前に偽の状態になる必要がある連続呼び出し頻度の間隔の数。
イベントまでの LS 真の評価数	LSEENTRY	この重大度レベルにおいてこの定義が真であると見なされる前に真の状態になる必要がある連続呼び出し頻度の間隔の数。
解決までの LS 偽の評価数	LSEXIT	この重大度レベルにおいてこの定義が真であると見なされる前に偽の状態になる必要がある連続呼び出し頻度の間隔の数。
イベントまでの LW 真の評価数	LWENTRY	この重大度レベルにおいてこの定義が真であると見なされる前に真の状態になる必要がある連続呼び出し頻度の間隔の数。
解決までの LW 偽の評価数	LWEXIT	この重大度レベルにおいてこの定義が真であると見なされる前に偽の状態になる必要がある連続呼び出し頻度の間隔の数。
名前	NAME	状況定義の名前。

表 166. STATDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
状況プログラム名	STATPGM	<p>(オプション) CICSplex SM により呼び出されるユーザー作成の状況プログラムの名前。</p> <p>このプログラムが複数の条件に関する状況情報を返す場合には、それぞれの条件ごとに 1 つの状況定義を作成できます。このとき、次のように指定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各定義でユーザー・プログラムを指定する。この場合、プログラムを指定する状況定義ごとに別個のタスクが開始されます。 最初の定義だけがユーザー・プログラムを指定する。この場合、プログラムを指定する定義に対して 1 つのタスクが開始されます。
タスクのトランザクション ID	TRANID	<p>(オプション) 状況プローブがターゲット CICS システムで実行される場合 (オプション) のトランザクション ID。</p> <p>この属性を指定しないと、状況プローブが実行される場合のトランザクションは、状況プローブが実行される MAS の CICS リリースに応じて異なります。リリースが CICS 700 以下の場合は、トランザクション ID は COIE になります。リリースが CICS 700 より大きい場合は、トランザクション ID は CORT になります。</p>
タスクのユーザー ID	USERID	<p>(オプション。) MAS (オプション) で実行されている CICS の状況プローブ・タスクに関連付けられるユーザーの ID (このユーザーは外部セキュリティー・マネージャーに定義されます)。</p> <p>この属性を指定しないと、状況プローブに関連付けられるユーザー ID は、状況プローブが実行される MAS の CICS リリースに応じて異なります。リリースが CICS 700 以下の場合は、ユーザー ID は PLTPUSR ID (指定されている場合) か領域ユーザー ID のいずれかになります。リリースが CICS 700 より大きい場合は、ユーザー ID は領域ユーザー ID になります。</p>
イベントまでの VHS 真の評価数	VHSEENTRY	この重大度レベルにおいてこの定義が真であると見なされる前に真の状態になる必要がある連続呼び出し頻度の間隔の数。
解決までの VHS 偽の評価数	VHSEXIT	この重大度レベルにおいてこの定義が真であると見なされる前に偽の状態になる必要がある連続呼び出し頻度の間隔の数。
イベントまでの VLS 真の評価数	VLSEENTRY	この重大度レベルにおいてこの定義が真であると見なされる前に真の状態になる必要がある連続呼び出し頻度の間隔の数。
解決までの VLS 偽の評価数	VLSEXIT	この重大度レベルにおいてこの定義が真であると見なされる前に偽の状態になる必要がある連続呼び出し頻度の間隔の数。

アクション - ACTION

「アクション定義」(ACTION)ビューには、分析定義で指定されている 1 つ以上の条件が真になる場合に発生する外部通知のタイプが表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA 分析点モニター」 > 「アクション」

表 167. 提供された「アクション定義」(ACTION) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
アクション定義 EYUSTARTACTION.CREATE	<p>アクション定義を作成してデータ・リポジトリに追加します。</p> <p>「作成」アクションを使用する際に、新しいビュー内の一部のフィールドに CICSplex SM 提供値が入れられることがあります。これらの値は変更できます。既存の定義を選択してから「作成」をクリックすると、新しい EYUSTARTACTION.CREATE ビュー内のフィールドに (既存の評価定義から) モデル化された値が入れられます。</p>

表 167. 提供された「アクション定義」(ACTION) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
アクション定義 EYUSTARTACTION.DETAILED	選択したアクション定義に関する詳細情報
アクション定義 EYUSTARTACTION.REMOVE	データ・リポジトリからアクション定義を除去します。
アクション定義 EYUSTARTACTION.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべてのアクション定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 168. ACTION ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	アクション定義を作成してデータ・リポジトリに追加します。 「作成」アクションを使用する際に、新しいビュー内の一部のフィールドに CICSplex SM 提供値が入れられることがあります。これらの値は変更できます。既存の定義を選択してから「作成」をクリックすると、新しい EYUSTARTACTION.CREATE ビュー内のフィールドに (既存の評価定義から) モデル化された値が入れられます。
REMOVE	データ・リポジトリからアクション定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ中の選択されたアクション定義を更新します。 この場合、選択された定義からの値を含む EYUSTARTACTION.CREATE ビューがオープンされます。このビュー内のフィールドは、「アクション名」を除いて内容を変更できます。

フィールド

表 169. ACTION ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アラートのクリア時のメッセージ・テキスト	ALERTMSGEND	アラートが発生する条件の終了時に SNA 総称アラートに追加する、1 文字から 30 文字のメッセージ。
アラート発生時のメッセージ・テキスト	ALERTMSGSTRT	アラートが発生する条件の開始時に SNA 総称アラートに追加する、1 文字から 30 文字のメッセージ。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最終変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	(オプション) 1 文字から 30 文字の定義の説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
イベント発生時に送信するメッセージ	EVENTMSG	通知条件が生じる場合にイベントについて記述する、1 文字から 30 文字の説明。 システム使用可能性モニター条件でアクション定義が使用される場合、* (アスタリスク)を指定して、この条件にデフォルトのイベント・テキストを使用できます。
イベント切断時に送信した外部メッセージ	EXTMSGEND	通知指定条件の終了時に作成される CICSplex SM メッセージに追加する、1 文字から 30 文字の説明。

表 169. ACTION ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
イベント発生時に送信した外部メッセージ	EXTMSGSTRT	通知指定条件の発生時に作成される外部メッセージに追加する、1 文字から 30 文字の説明。
SNA 総称アラートの生成	GENALERT	このアクションの一部として SNA 総称アラートが NetView に送信されるかどうかを示します。
イベントの生成	GENEVENT	通知条件の発生時に CICSplex SM イベント・メッセージが生成されるかどうかを示します。YES を指定する場合、次の情報のうち該当するものを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> 条件に関するサイト特定のオプション・データ アクションの優先順位 イベント発生時に送信するメッセージ
外部メッセージの生成	GENEXTMSG	通知条件の発生時に外部メッセージが生成されるかどうかを示します。
アクション	NAME	1 文字から 8 文字までのアクション定義の名前。名前には英字、数字、国別文字を含めることができます。ただし、先頭文字は英字でなければなりません。
NetView が接続した CMAS	NETVIEW	NetView システムのリンク先の CMAS の名前。
アクションの優先順位	PRIORITY	1 から 255 までの間(両端を含む)の値。この値と、条件に関連した重大度コードを使用して、EVENT ビューに表示されるイベントのソート順が判別されます。優先度が高いほど、リスト内のイベントの表示順序は先になります。
MVS 自動リスタート	RESTARTMAS	MVS 自動リスタート・マネージャー (ARM) を使用して、イベントの影響を受けた CICS システムを即時に取り消して再始動するかどうかを示します。デフォルトは NO です。ARM 再始動を正常に実行するには、CICS システムが次のようになっている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> CICSplex SM にローカル MAS として認識されている ARM がアクティブになっている MVS イメージ中で実行されている 初期化の際に ARM に正常に登録されている 現行の ARM ポリシーに従う再始動に適格である
ユーザー・データ域	VIEW	(オプション) 条件に関するサイト別の追加データの入力や、条件の解決での活用を目的とした 8 文字までのストリング。

時間枠 - PERIODEF

「**時間枠定義**」(PERIODEF) ビューは、リソース・モニターやリアルタイム分析で、特定のアクションの開始時と停止時の指定に使用される時間枠に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**RTA 分析点モニター**」 > 「**時間枠**」

表 170. 提供された「 時間枠定義 」(PERIODEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.CREATE	新規の時間枠定義を作成します。
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.DETAILED	選択した時間枠定義に関する詳細情報
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.REMOVE	データ・リポジトリから時間枠定義を除去します。

表 170. 提供された「時間枠定義」(PERIODEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.TABULAR	現行コンテキスト内のすべての時間枠定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 171. PERIODEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	新規の時間枠定義を作成します。
REMOVE	データ・リポジトリから時間枠定義を除去します。
UPDATE	既存の時間枠定義を作成します。

フィールド

表 172. PERIODEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	期間定義の説明。 入力値: 1 から 58 文字の説明
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
終了時間	END	期間が終わる時分単位の時刻。 入力値: 00:00 から 23:59 まで
名前	NAME	期間定義の名前。CICSplex 中で固有です。
開始時間	START	期間が始まる時分単位の時刻。 入力値: 00:00 から 24:00 まで
時間帯	ZONE	この期間定義が適用される時間帯を識別する、A から Z までの 1 文字のコード。 これらのコードは、それぞれ 24 の標準の 国際的な時間帯の 24 時間制 ID を表します。これらのコードが表す時間帯は、グリニッジ標準時(GMT)を表す Z を先頭にして、アルファベットの 逆順に GMT から西へ移動します。 注: 時間帯コード A を使用する期間定義は、この定義を使用する CMAS または CICS システムの現行時間帯に従って適用されます。
時間帯調整係数	ZONEADJ	標準的な時間帯を使用しない地域の場合に、時間帯に追加する分数。 期間定義の時間帯が A の場合、この値は無視されます。 入力値: 0 から 59 まで

仕様とシステムとの間のリンク - LNKSRSRCS

「RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク」(LNKSRSRCS) ビューには、CICS システムと関連付けられる RTA 仕様に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA MAS リソース・モニター」 > 「仕様とシステムとの間のリンク」

表 173. 提供された「RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク」(LNKSRSRCS) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSRCS.CHGSPEC	RTA 仕様と CICS システムの間のリンクを更新します。
RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSRCS.CREATE	RTA 仕様と CICS システムの間にリンクを作成します。
RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSRCS.DETAILED	選択した CICS システムおよび分析仕様の間の関連性に関する詳細情報
RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSRCS.REMOVE	RTA 仕様と CICS システムの間の関連を除去します。
RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSRCS.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex の、分析仕様に関連した CICS システムに関するテーブル形式の情報

アクション

表 174. LNKSRSRCS ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CHGSPEC	RTA 仕様と CICS システムの間のリンクを更新します。
CREATE	RTA 仕様と CICS システムの間にリンクを作成します。
REMOVE	RTA 仕様と CICS システムの間の関連を除去します。

フィールド

表 175. LNKSRSRCS ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
システム・グループ RTA 仕様は、次から継承されました	GROUP	RTA 仕様が派生した CICS システム・グループの名前。

表 175. LNKSRSRCS ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
作成モード	LINK	CICS システムがどのように分析仕様と関連しているかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • EXPLICIT <ul style="list-style-type: none"> – CICS システムが仕様に直接関連しています。 • INHERIT <ul style="list-style-type: none"> – CICS システムがメンバーになっている CICS システム・グループから仕様を継承しました。
RTA 仕様	SPEC	RTA 仕様の名前。
CICS システム	SYSTEM	分析仕様に関連する CICS システムの名前。

仕様とシステム・グループとの間のリンク - LNKSRSRSCG

「RTA 仕様と CICS システム・グループとの間のリンク」(LNKSRSRSCG) ビューには、CICS システム・グループに関連付けられている RTA 仕様に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA MAS リソース・モニター」 > 「仕様とシステム・グループとの間のリンク」

表 176. 提供された「仕様とシステム・グループとの間のリンク」(LNKSRSRSCG) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSRSCG.CHGSPEC	RTA 仕様と CICS システム・グループの間のリンクを更新します。
仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSRSCG.CREATE	RTA 仕様と CICS システム・グループの間にリンクを作成します。
仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSRSCG.DETAILED	選択した CICS システム・グループおよび分析仕様の間の関連性に関する詳細情報
仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSRSCG.REMOVE	RTA 仕様と CICS システム・グループの間の関連を除去します。
仕様とシステム・グループとの間のリンク EYUSTARTLNKSRSRSCG.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex の、分析仕様に関連した CICS システム・グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 177. LNKSRSRSCG ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CHGSPEC	RTA 仕様と CICS システム・グループの間のリンクを更新します。
CREATE	RTA 仕様と CICS システム・グループの間にリンクを作成します。
REMOVE	RTA 仕様と CICS システム・グループの間の関連を除去します。

フィールド

表 178. LNKSRSCG ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
システム・グループ	GROUP	分析仕様に関連する CICS システム・グループの名前。
RTA 仕様	SPEC	RTA 仕様の名前。

仕様内のグループ - RTAINSPC

「**RTA 仕様内の RTA グループ**」(RTAINSPC) ビューには、RTA 仕様に関連付けられる RTA グループに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**RTA MAS リソース・モニター**」 > 「仕様内のグループ」

表 179. 提供された「 RTA 仕様内の RTA グループ 」(RTAINSPC) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
RTA 仕様内の RTA グループ EYUSTRTRTAINSPC.CREATE	RTA グループと RTA 仕様の間に関連を作成します。
RTA 仕様内の RTA グループ EYUSTRTRTAINSPC.DETAILED	選択した RTA グループに関する詳細情報
RTA 仕様内の RTA グループ EYUSTRTRTAINSPC.REMOVE	RTA グループと RTA 仕様の間の関連を除去します。
RTA 仕様内の RTA グループ EYUSTRTRTAINSPC.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex の RTA 仕様に関連した RTA グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 180. RTAINSPC ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	RTA グループと RTA 仕様の間に関連を作成します。
REMOVE	RTA グループと RTA 仕様の間の関連を除去します。

フィールド

表 181. RTAINSPC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
RTA グループ	GROUP	分析仕様に関連付けられる分析グループの名前。
RTA 仕様名	NAME	分析仕様の名前。

グループ内の定義 - RTAINGRP

「**RTA グループ内の RTA 定義**」(RTAINGRP) ビューには、RTA グループに関連付けられている RTA 定義に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**RTA 分析点モニター**」 > 「**グループ内の定義**」

表 182. 提供された「 RTA グループ内の RTA 定義 」(RTAINGRP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
RTA グループ内の RTA 定義 EYUSTRTRTAINGRP.CREATE	RTA 定義と RTA グループの間の関連に変更を加えます。
RTA グループ内の RTA 定義 EYUSTRTRTAINGRP.DETAILED	選択した RTA 定義に関する詳細情報
RTA グループ内の RTA 定義 EYUSTRTRTAINGRP.REMOVE	RTA 定義と RTA グループの間の関連を除去します。
RTA グループ内の RTA 定義 EYUSTRTRTAINGRP.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex の RTA グループ内の RTA 定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 183. RTAINGRP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	RTA 定義と RTA グループの間の関連に変更を加えます。
REMOVE	RTA 定義と RTA グループの間の関連を除去します。
UPDATE	RTA 定義と RTA グループの間の関連の期間定義を変更します。

フィールド

表 184. RTAINGRP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
期間定義	ACTIVETIME	分析または状況定義がアクティブになる時間の範囲を示す期間定義の固有名または総称名。指定する名前が既存の期間定義でない場合、後でその期間定義を作成できます。このフィールドをブランクにしておく、CICS システムが実行している限り、あるいは分析定義を廃棄するまで、分析定義はアクティブのままになります。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
RTA 定義	DEFNAME	分析グループに関連付けられている分析定義の名前。
RTA グループ	GROUP	分析グループの名前。

RTA グループ内の状況定義 - STAINGRP

STAINGRP ビューには、RTA グループ (RESGROUP) 内での状況定義 (STATDEF) のメンバーシップに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA 分析点モニター」 > 「RTA グループ内の状況定義」

表 185. 提供された「RTA グループ内の状況定義」(STAINGRP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
RTA グループ内の状況定義 EYUSTARTSTAINGRP.CREATE	状況定義と RTA グループとの間の関連を作成します。
RTA グループ内の状況定義 EYUSTARTSTAINGRP.DETAILED	選択した状況定義に関する詳細情報
RTA グループ内の状況定義 EYUSTARTSTAINGRP.REMOVE	状況定義と RTA グループとの間の関連をデータ・リポジトリから除去します。
RTA グループ内の状況定義 EYUSTARTSTAINGRP.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex の RTA グループ内の状況定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 186. STAINGRP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	状況定義と RTA グループとの間の関連を作成します。
REMOVE	状況定義と RTA グループとの間の関連をデータ・リポジトリから除去します。
UPDATE	状況定義と RTA グループとの関連付けでの期間定義を変更します。

フィールド

表 187. STAINGRP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
期間定義	ACTIVETIME	このグループ内の状況定義がアクティブになる期間。既存の期間定義のリストを検討するには、「期間」(PERIODEF) ビューを使用します。 入力値: 新規または既存の期間定義名。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
状況定義	DEFNAME	RTA グループに関連付けられた状況定義の名前。
RTA グループ	GROUP	RTA グループの名前。

付録 J RTA 分析点モニター

「RTA 分析点モニター」(APM) ビューを使用して、RTA 分析点モニター定義の作成と保守を行うことができます。APM 機能は MRM 機能と同じです。ただし、複数の CICS システム (CICS システム・グループまたは CICSplex 全体) でのリソースのモニター時には、同じ問題が起きた CICS システムがいくつあっても、複数ではなく単数の外部通知が行われることを除きます。APM が特に便利なのは、複製された AOR を使用する環境の場合です。そこでは、各領域は同じであるため、一般問題について警告するための通知は 1 つで足りるからです。APM では、CICS 以外のリソースのモニターでの状況プローブの使用はサポートされません。ただし、それ以外のどの面でも、潜在的な問題の早期検出や、問題の発生時の自動応答といった点で APM は MRM と同じ動きをします。

分析点仕様 - APSPEC

「RTA 分析点仕様」(APSPEC) ビューには、RTA 分析点仕様に関する情報が表示されます。これは、すべての分析定義 (状況定義を除く) のアンカーとなるもので、1 つ以上の CICS システムでモニターされているリソースを評価することができます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA 分析点モニター」 > 「分析点仕様」

表 188. 提供された「RTA 分析点仕様」(APSPEC) ビュー・セットのビュー

ビュー	注
RTA 分析点仕様 EYUSTARTAPSPEC.ADDPCMAS	分析点仕様の 1 次 CMAS を追加します。
RTA 分析点仕様 EYUSTARTAPSPEC.ADDSCMAS	分析点仕様の 2 次 CMAS を追加します。
RTA 分析点仕様 EYUSTARTAPSPEC.CREATE	分析点仕様を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
RTA 分析点仕様 EYUSTARTAPSPEC.DETAILED	選択した分析点仕様に関する詳細情報
RTA 分析点仕様 EYUSTARTAPSPEC.REMOVE	データ・リポジトリから分析点仕様を除去します。
RTA 分析点仕様 EYUSTARTAPSPEC.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべての分析点仕様に関するテーブル形式の情報

アクション

表 189. APSPEC ビューで使用可能なアクション

アクション	説明
ADDPCMAS	分析点仕様の 1 次 CMAS を追加します。
ADDSCMAS	分析点仕様の 2 次 CMAS を追加します。
CREATE	分析点仕様を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリから分析点仕様を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の分析点仕様を更新します。

フィールド

表 190. APSPEC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	分析点仕様の説明 (1 から 30 文字まで)。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
RTA 分析点仕様	NAME	分析点仕様の名前。

グループ - RTAGROUP

「RTA グループ」(RTAGROUP) ビューには、関連した分析定義および状況定義の間の関連に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA 分析点モニター」 > 「グループ」

表 191. 提供された「RTA グループ」(RTAGROUP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.ADDTOAPS	RTA グループと RTA 分析点仕様の間の関連を追加します。
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.ADDTOSPC	RTA グループと分析仕様の間の関連を追加します。
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.APINSTALL	分析点仕様に RTA グループをインストールします。
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.CREATE	RTA グループを作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.DETAILED	選択した RTA グループに関する詳細情報
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.INSTALL	分析仕様に RTA グループをインストールします。
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.REMOVE	データ・リポジトリから RTA グループを除去します。
RTA グループ EYUSTRTRTAGROUP.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべての RTA グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 192. RTAGROUP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOAPS	RTA グループと RTA 分析点仕様の間の関連を追加します。
ADDTOSPC	RTA グループと分析仕様の間の関連を追加します。
APINSTALL	分析点仕様に RTA グループをインストールします。
CREATE	RTA グループを作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	分析仕様に RTA グループをインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから RTA グループを除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の RTA グループを更新します。 これにより EYUSTARTAGROUP.CREATE ビューが開きます。「説明」フィールドを変更できます。

フィールド

表 193. RTAGROUP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
定義が変更された最終時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	1 文字から 58 文字までの分析グループの説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
RTA グループ	NAME	分析グループの名前。

定義 - RTADEF

「**RTA 定義**」(RTADEF) ビューには、定期的に行われる評価に関する情報、および通知する必要がある条件が発生した場合に取るアクションに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**RTA 分析点モニター**」 > 「定義」

表 194. 提供された「 RTA 定義 」(RTADEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
RTA 定義 EYUSTARTRTADEF.ADDTOGRP	RTA 定義を RTA グループに追加します。
RTA 定義 EYUSTARTRTADEF.APINSTALL	分析点に分析定義をインストールします。

表 194. 提供された「RTA 定義」(RTADEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
RTA 定義 EYUSTRTRTADEF.CREATE	分析定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。 「作成」をクリックすると、表示される EYUSTRTRTADEF.CREATE ビューの一部のフィールドに CICSplex SM で提供された値が入りますが、これらの値は変更できます。RTA 定義を選択してから「作成」をクリックすると、表示されるビュー内のフィールドに (既存の RTA 定義から) モデル化された値が入られます。
RTA 定義 EYUSTRTRTADEF.DETAILED	選択した RTA 定義に関する詳細情報
RTA 定義 EYUSTRTRTADEF.INSTALL	分析仕様に分析定義をインストールします。
RTA 定義 EYUSTRTRTADEF.REMOVE	データ・リポジトリから RTA 定義を除去します。
RTA 定義 EYUSTRTRTADEF.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべての RTA 定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 195. RTADEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	RTA 定義を RTA グループに追加します。
APINSTALL	分析点に分析定義をインストールします。
CREATE	分析定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。 「作成」をクリックすると、表示される EYUSTRTRTADEF.CREATE ビューの一部のフィールドに CICSplex SM で提供された値が入りますが、これらの値は変更できます。RTA 定義を選択してから「作成」をクリックすると、表示されるビュー内のフィールドに (既存の RTA 定義から) モデル化された値が入られます。
INSTALL	分析仕様に分析定義をインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから RTA 定義を除去します。
UPDATE	EYUSTRTRTADEF.CREATE ビューを使用してデータ・リポジトリ内の RTA 定義を更新します。

フィールド

表 196. RTADEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アクション定義名	ACTION	この定義に関連付けられるアクション定義の名前。アクション定義は、分析される 1 つ以上の条件が真である場合に取られる処置を示します。 この分析定義が CICS システムにインストールされているときにアクション定義を特定できず、指定された 1 つ以上の条件が真になった場合には、CICSplex SM イベント通知のみが行われます。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。

表 196. RTADEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	(オプション。) 定義の説明を 1 から 58 文字までで指定します。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
評価式	EVALEXPRTEXT	<p>分析の対象となる評価式。 この式は単一の定義名または複数の定義名から成ることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DEFNAME1 • DEFNAME2 • DEFNAME1 DEFNAME 2 • DEFNAME1 & DEFNAME 2 • (DEFNAME1 DEFNAME 2) (DEFNAME3 & DEFNAME 4) <p>ここで、 は OR であり、& は AND です。最大長は 500 文字です。</p>
実行評価変更ストリング	EXEC_OPS	<p>分析される 1 つ以上の条件が真である場合にリソース変更が実行されるかどうかを示します。次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • はい <ul style="list-style-type: none"> – 評価定義により記述された条件が真である場合に CICSplex SM は変更の実行を試行します。CICSplex SM は要求された変更の実行を 1 回だけ試行します。何らかの理由で変更が成功しなかった場合 (例えば、リソースが使用中または使用不可であったり、変更が要求された時に CICS または CICSplex SM エラーが発生した場合など)、再試行されません。条件が CICSplex SM イベントを生成し、変更を行えない場合、イベントは「リアルタイム分析未解決イベント」ビューに表示されたままになります。 • いいえ <ul style="list-style-type: none"> – 変更は実行されません。 • 常時 <ul style="list-style-type: none"> – 評価定義により記述された条件が真である場合に CICSplex SM は変更の実行を試行します。 ALWAYS オプションが設定されている場合、Exit Intervals オプションは無視されます。
HS 発生までの真の評価回数	HSEENTRY	この HS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が真にならなければならない期間の長さを示す連続した評価時間数。 この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
HS 解決までの偽の評価回数	HSEXIT	この HS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が偽にならなければならない期間の長さを示す連続した評価時間数。 この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
HW 発生までの真の評価回数	HWENTRY	この HW 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が真にならなければならない期間の長さを示す連続した評価時間数。 この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
HW 解決までの偽の評価回数	HWEXIT	この HW 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が偽にならなければならない期間の長さを示す連続した評価時間数。 この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
LS 発生までの真の評価回数	LSEENTRY	この LS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が真にならなければならない期間の長さを示す連続した評価時間数。 この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
LS 解決までの偽の評価回数	LSEXIT	この LS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が偽にならなければならない期間の長さを示す連続した評価時間数。 この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
LW 発生までの真の評価回数	LWENTRY	この LW 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が真にならなければならない期間の長さを示す連続した評価時間数。 この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
LW 解決までの偽の評価回数	LWEXIT	この LW 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が偽にならなければならない期間の長さを示す連続した評価時間数。 この値は 1 から 9999 まででなければなりません。

表 196. RTADEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
名前	NAME	分析定義の名前 (1 から 8 文字)。名前には英字、数字、国別文字を含めることができます。ただし、先頭文字は英字でなければなりません。
分析間隔	RATE	評価される特定の条件のサンプル間隔 (秒数)。「 評価式 」フィールドで指定された定義名は条件を識別します。この値は 1 から 86400 まででなければなりません。
VHS 発生までの真の評価回数	VHSENTRY	この VHS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が真にならなければならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
VHS 解決までの偽の評価回数	VHSEXIT	この VHS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が偽にならなければならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
VLS 発生までの真の評価回数	VLSENTRY	この VLS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が真にならなければならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。
VLS 解決までの偽の評価回数	VLSEXIT	この VLS 重大度レベルにおいてアクションが取られる場合、その前に指定された 1 つ以上の条件が偽にならなければならない期間の長さを示す連続した評価時間数。この値は 1 から 9999 まででなければなりません。

評価 - EVALDEF

「**評価定義**」(EVALDEF) ビューは、サンプリングされて評価される、CICS システム中のリソースに関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**RTA 分析点モニター**」 > 「**評価**」

表 197. 提供された「 評価定義 」(EVALDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
評価定義 EYUSTARTEVALDEF.CREATE	評価定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
評価定義 EYUSTARTEVALDEF.DETAILED	選択した評価定義に関する詳細情報
評価定義 EYUSTARTEVALDEF.REMOVE	データ・リポジトリから評価定義を除去します。
評価定義 EYUSTARTEVALDEF.TABULAR	コンテキストと示される CICSplex のすべての評価定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 198. EVALDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	評価定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリから評価定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の選択された評価定義を更新します。

フィールド

表 199. EVALDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アプリケーション名	APPLICATION	(オプション) 専用リソースの評価の場合は、この値によって、評価照会に適用するアプリケーション・コンテキストのアプリケーション・コンポーネントを指定します。このパラメーターの値を指定する場合は、PLATFORM、APPLMAJORVER、APPLMINORVER、APPLMICROVER の値も指定する必要があります。
アプリケーション・メジャー・バージョン	APPLMAJORVER	(オプション) 専用リソースの評価の場合は、この値によって、評価照会に適用するアプリケーション・コンテキストのアプリケーション・メジャー・バージョン・コンポーネントを指定します。このパラメーターの値を指定する場合は、PLATFORM、APPLICATION、APPLMINORVER、APPLMICROVER の値も指定する必要があります。
アプリケーション・マイクロ・バージョン	APPLMICROVER	(オプション) 専用リソースの評価の場合は、この値によって、評価照会に適用するアプリケーション・コンテキストのアプリケーション・マイクロ・バージョン・コンポーネントを指定します。このパラメーターの値を指定する場合は、PLATFORM、APPLICATION、APPLMAJORVER、APPLMINORVER の値も指定する必要があります。
アプリケーション・マイナー・バージョン	APPLMINORVER	(オプション) 専用リソースの評価の場合は、この値によって、評価照会に適用するアプリケーション・コンテキストのアプリケーション・マイナー・バージョン・コンポーネントを指定します。このパラメーターの値を指定する場合は、PLATFORM、APPLICATION、APPLMAJORVER、APPLMICROVER の値も指定する必要があります。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	1 文字から 58 文字の評価定義の説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
評価されるフィールド	EVALCOL	評価される CICSplex SM リソース・テーブル中の列の名前。 評価される列を指定した後で、実行される評価のタイプを判別しなければなりません。評価値とその関連演算子と重大度、または評価しきい値のいずれかを指定できます。しかし、これらの 2 つのタイプの評価は相互に排他的であることに注意してください。
評価データ値	EVALDATA	(評価タイプ: VALUE) 「評価されるフィールド」 (EVALCOL) の内容が評価基準を満たしているかどうかを判別するために使用される値またはキーワード。

表 199. EVALDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
評価の論理演算子	EVALOPER	<p>(評価タイプ: VALUE) 「評価されるフィールド」 (EVALCOL) の内容が評価基準を満たしているかどうかを判別するために使用される論理演算子。有効な演算子は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • EQ <ul style="list-style-type: none"> - 等しい • NE <ul style="list-style-type: none"> - 等しくない • LT <ul style="list-style-type: none"> - より小さい • GT <ul style="list-style-type: none"> - より大きい • LE <ul style="list-style-type: none"> - より小か等しい • GE <ul style="list-style-type: none"> - より大か等しい
評価タイプ	EVALTYPE	<p>実行される評価のタイプ。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VALUE <ul style="list-style-type: none"> - 評価対象フィールドが指定の値を満たすかどうか。関連付けられた値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - 評価論理演算子 (EVALOPER) - 評価データ値 (EVALDATA) - 結果が基準と合う時に割り当てる重大度 (SEVERITY) • THRESHOLD <ul style="list-style-type: none"> - 評価対象フィールドが満たさなければならないしきい値の範囲。関連付けられた値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> - VLS 範囲の上限 (VLSDATA) - LS 範囲の上限 (LSDATA) - LW 範囲の上限 (LWDATA) - HW 範囲の下限 (HWDATA) - HS 範囲の下限 (HSDATA) - VHS 範囲の下限 (VHSDATA)
フィルター・ストリング	FILTER	<p>(オプション) 指定されたリソース・テーブルの中の、「評価フィールド」で記述されている条件の修飾に使用される属性を識別します。</p> <p>フィルター式は、「attribute operator value」という形式の 1 つ以上の属性式から構成できます。有効な演算子は、<、<=、=、>=、>、および != です。属性式を結合する場合には AND または OR 演算子を、式をグループ化するには小括弧を、式を否定するには NOT を使用します。</p> <p>値に埋め込みブランクまたは特殊文字 (ピリオド、コンマ、または等号を含む) が含まれている場合は、その値全体を単一引用符で囲まなければなりません。値の中に単一引用符が含まれている場合には、それを 2 つの単一引用符に変換してください。</p> <p>フィルター式は、ピリオドで終了させなければなりません。</p>
GET パラメーター	GETPARMS	<p>(オプション) この評価定義の実行時に使用するパラメーターを識別します。これらは、この評価定義に関連しているリソース・テーブルの有効なユーザー指定可能 GET パラメーターである必要があります。複数のパラメーターを、スペースで区切ることで指定できます。合計のストリングの長さは 1 から 42 文字にでき、必ずピリオドで終了させます。</p>

表 199. EVALDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
HS 範囲の下限	HSDATA	<p>(評価タイプ: THRESHOLD) 評価基準を満たした場合に、「高位の重大度 (HS)」の重大度を割り当てられる値範囲の下位しきい値バウンダリー。</p> <p>上位バウンダリーは、非常に高位の重大度(VHSDATA) の値により設定されます。</p> <p>高位の警告値は、両方向しきい値に対して設定することで、VLSDATA、LSDATA、LWDATA、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA しきい値を指定して高位条件および低位条件の両方を評価するか、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA の低位条件のみを評価する単一方向しきい値に対して設定することができます。</p>
HW 範囲の下限	HWDATA	<p>(評価タイプ: THRESHOLD) 評価基準を満たした場合に、「高位の警告 (HW)」の重大度を割り当てられる値範囲の下位しきい値バウンダリー。</p> <p>上位バウンダリーは、高位の重大度(HSDATA) の値により設定されます。</p> <p>高位の警告値は、両方向しきい値に対して設定することで、VLSDATA、LSDATA、LWDATA、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA しきい値を指定して高位条件および低位条件の両方を評価するか、VLSDATA、LSDATA、および LWDATA の低位条件のみを評価する単一方向しきい値に対して設定することができます。</p>
評価リソースのインスタンス ID	INSTANCE	<p>評価したいリソースのオカレンスに関する特定のリソース名またはパターンを入力します。 パターンには文字 + (正符号)、* (アスタリスク)、またはその両方を含めることができます。</p> <p>このフィールドは、リソースの基本キーにのみ適用されます。複数のキーを持つリソースの場合には、FILTER と組み合わせて使用することで精度が上がります。</p>
LS 範囲の上限	LSDATA	<p>(評価タイプ: THRESHOLD) 評価基準を満たした場合に、「低位の重大度 (LS)」の重大度を割り当てられる値範囲の上位しきい値バウンダリー。</p> <p>下位バウンダリーは、非常に低位の重大度(VLSDATA) の値により設定されます。</p> <p>低位の重大度値は、両方向しきい値に対して設定することで、VLSDATA、LSDATA、LWDATA、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA しきい値を指定して高位条件および低位条件の両方を評価するか、VLSDATA、LSDATA、および LWDATA の低位条件のみを評価する単一方向しきい値に対して設定することができます。</p>
LW 範囲の上限	LWDATA	<p>(評価タイプ: THRESHOLD) 評価基準を満たした場合に、「低位の警告(LW)」の重大度を割り当てられる値範囲の上位しきい値バウンダリー。</p> <p>下位バウンダリーは、低位の重大度(LSDATA) の値により設定されます。</p> <p>低位の警告値は、両方向しきい値に対して設定することで、VLSDATA、LSDATA、LWDATA、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA しきい値を指定して高位条件および低位条件の両方を評価するか、VLSDATA、LSDATA、および LWDATA の低位条件のみを評価する単一方向しきい値に対して設定することができます。</p>
名前	NAME	<p>1 文字から 8 文字までの評価定義の名前。 名前には英字、数字、国別文字を含めることができます。 ただし、先頭文字は英字でなければなりません。</p>
変更ストリング	OPRSTRING	<p>(オプション) この評価定義で記述されている条件が真になる場合に変更される、指定されたリソース・テーブル中の属性を識別します。</p> <p>変更ストリングは、SET コマンドを使用して、変更可能リソース属性の現行値を変更しようとしています。どの属性を変更するかを定義するストリングは、コンマで区切られ、ピリオドで終了する 1 つ以上の属性式で構成することができます。</p> <p>変更は、RTA 定義 (RTADEF) の評価変更ストリングの実行 (EXEC_OPS) 属性で要求された場合にのみ、試行されます。</p>
プラットフォーム名	PLATFORM	<p>(オプション) 専用リソースの評価の場合は、この値によって、評価照会に適用するアプリケーション・コンテキストのプラットフォーム・コンポーネントを指定します。このパラメーターの値を指定する場合は、APPLICATION、APPLMAJORVER、APPLMINORVER、APPLMICROVER の値も指定する必要があります。</p>

表 199. EVALDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
修飾子データ値	QUALDATA	評価列の内容が評価基準を満たすかどうかの判別に使用する英数字の値かキーワード。この値は、評価されているリソース・テーブル列の有効な属性値でなければなりません。属性が CVDA データ型の場合、値は有効な出力値でなければなりません。
修飾子の論理演算子	QUALOPER	<p>評価列の内容が評価基準を満たすかどうかの判別に使用する論理演算子。有効な演算子は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • LT <ul style="list-style-type: none"> – より小さい • LE <ul style="list-style-type: none"> – より小さいか等しい • EQ <ul style="list-style-type: none"> – 等しい • GE <ul style="list-style-type: none"> – より大きい等しい • GT <ul style="list-style-type: none"> – より大きい • NE <ul style="list-style-type: none"> – 等しくない
サンプリング間隔	SAMPLE	<p>次にサンプル・データを収集するまで CICSplex SM が待機する長さを秒単位で示します。この値は 1 から 86400 まででなければなりません。</p> <p>「リソース・テーブル名」フィールドがモニター・リソース・テーブルを指定している場合、このリソース・カテゴリーのモニターがアクティブであれば、このサンプリング間隔の値は無視されます。代わりに、該当するモニター仕様で指定されているサンプリング間隔が使用されます。無視されないようにするには、モニター・テーブルではなく同等の運用リソース・テーブルを「テーブル名」フィールドに指定してください。</p>
分離タスク・インディケーター	SEPTASK	<p>YES か NO の値によって、評価プロセスを別個のシステム・タスクとして実行するかどうかを指定します。</p> <p>デフォルト値 NO を使用すると、MAS 長期実行タスク (LRT) の下で評価プロセスを実行できます。評価のタイプおよび関係するリソースの数によっては、LRT の下で実行すると、同じ優先度 (255) のユーザー・タスクが実行されないことがあります。</p> <p>YES を指定すると、別個のタスク (COIR) が追加されて、この評価定義が処理されます。このタスクの優先度は、COIRTASKPRI システム・パラメーターの値に従って設定されます。COIRTASKPRI が 0 に設定されている場合は、どの評価定義の分離タスクも開始されません。</p> <p>MAS が CICS TS バージョン 5.4 以降の場合、それらのタスクはシステム・タスクになります。</p>

表 199. EVALDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
結果セット内の結果の評価方式	SETACTION	<p>次のように、リソースのオカレンスに関する情報の評価方式を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ALL <ul style="list-style-type: none"> – この情報を評価基準と比較します。現行サンプル中のリソースのオカレンスがすべて真であると結果に示される場合は、真の条件を設定します。 しきい値を評価する場合は、このアクションはサポートされません。 • ANY <ul style="list-style-type: none"> – この情報を評価基準と比較します。現行サンプル中のリソース・オカレンスのいずれかが真であると結果に示される場合は、真の条件を設定します。 しきい値を評価する場合は、このアクションはサポートされません。 • AVG <ul style="list-style-type: none"> – この情報を処理し、結果の平均値を評価基準と比較します。現行サンプルの結果が真の場合、条件を真に設定します。 このアクションは数値データ専用です。このアクションを指定する場合、「変更ストリング式」フィールドで変更操作を要求できません。 • CNT <ul style="list-style-type: none"> – リソースのオカレンスを評価基準と比較します。現行サンプルの結果が真の場合、条件を真に設定します。 このアクションを指定する場合、「変更ストリング式」フィールドで変更操作を要求できません。 CNT と評価列を両方とも指定することはできません。 • MAX <ul style="list-style-type: none"> – この情報を処理し、結果の最大値を評価基準と比較します。現行サンプルの結果が真の場合、条件を真に設定します。 • MIN <ul style="list-style-type: none"> – この情報を処理し、結果の最小値を評価基準と比較します。現行サンプルの結果が真の場合、条件を真に設定します。 • SUM <ul style="list-style-type: none"> – この情報を合計し、合計を評価基準と比較します。現行サンプルの結果が真の場合、条件を真に設定します。 このアクションは数値データ専用です。このアクションを指定する場合、「変更ストリング式」フィールドで変更操作を要求できません。
結果が基準と合う時に割り当てる重大度	SEVERITY	<p>(評価タイプ: VALUE) リソースのオカレンスが評価基準と合う場合に割り当てられる重大度レベル。重大度レベルは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VLS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に低位の重大度 • LS <ul style="list-style-type: none"> – 低位の重大度 • LW <ul style="list-style-type: none"> – 低位の警告 • HW <ul style="list-style-type: none"> – 高位の警告 • HS <ul style="list-style-type: none"> – 高位の重大度 • VHS <ul style="list-style-type: none"> – 非常に高位の重大度

表 199. EVALDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リソース・テーブル	TABLE	評価したいリソース・カテゴリを示す CICSplex SM リソース・テーブルの名前。 テーブル名を指定する際は、評価定義および関連した分析定義のインストール場所を考慮してください。さまざまな CICSplex SM 管理対象 CICS システムに定義をインストールできますが、CICS システムによってはサポートされていないリソース・テーブルもあります。したがって、定義をインストールする際に、CICSplex SM はターゲット・システムがリソース・テーブルをサポートしているかどうかを判別します。
VHS 範囲の下限	VHSDATA	(評価タイプ: THRESHOLD) 評価基準を満たした場合に、「非常に高位の重大度(VHS)」の重大度を割り当てられる値範囲の下位しきい値バウンダリー。非常に高位の重大度値は、両方向しきい値に対して設定することで、VLSDATA、LSDATA、LWDATA、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA しきい値を指定して高位条件および低位条件の両方を評価するか、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA の高位 RTA 条件のみを評価する単一方向しきい値に対して設定することができます。
エクストラ情報を提供できるビュー	VIEW	通知指定状態の発生時に「ビュー」フィールドに表示される CICSplex SM ビューの名前。このフィールドは、「 テーブル名 」フィールドに指定されているリソース・テーブルに関連したビューを示す必要があります。
VLS 範囲の上限	VLSDATA	(評価タイプ: THRESHOLD) 評価基準を満たした場合に、「非常に低位の重大度(VLS)」の重大度を割り当てられる値範囲の上位しきい値バウンダリー。非常に低位の重大度値は、両方向しきい値に対して設定することで、VLSDATA、LSDATA、LWDATA、HWDATA、HSDATA、および VHSDATA しきい値を指定して高位条件および低位条件の両方を評価するか、VLSDATA、LSDATA、および LWDATA の低位条件のみを評価する単一方向しきい値に対して設定することができます。

アクション - ACTION

「**アクション定義**」(ACTION)ビューには、分析定義で指定されている 1 つ以上の条件が真になる場合に発生する外部通知のタイプが表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**RTA 分析点モニター**」 > 「**アクション**」

表 200. 提供された「 アクション定義 」(ACTION) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
アクション定義 EYUSTARTACTION.CREATE	アクション定義を作成してデータ・リポジトリに追加します。 「作成」アクションを使用する際に、新しいビュー内の一部のフィールドに CICSplex SM 提供値が入れられることがあります。これらの値は変更できます。既存の定義を選択してから「 作成 」をクリックすると、新しい EYUSTARTACTION.CREATE ビュー内のフィールドに (既存の評価定義から) モデル化された値が入れられます。
アクション定義 EYUSTARTACTION.DETAILED	選択したアクション定義に関する詳細情報
アクション定義 EYUSTARTACTION.REMOVE	データ・リポジトリからアクション定義を除去します。
アクション定義 EYUSTARTACTION.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex のすべてのアクション定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 201. ACTION ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	アクション定義を作成してデータ・リポジトリに追加します。 「作成」アクションを使用する際に、新しいビュー内の一部のフィールドに CICSplex SM 提供値が入れられることがあります。これらの値は変更できます。既存の定義を選択してから「作成」をクリックすると、新しい EYUSTARTACTION.CREATE ビュー内のフィールドに (既存の評価定義から) モデル化された値が入れます。
REMOVE	データ・リポジトリからアクション定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ中の選択されたアクション定義を更新します。 この場合、選択された定義からの値を含む EYUSTARTACTION.CREATE ビューがオープンされます。このビュー内のフィールドは、「アクション名」を除いて内容を変更できます。

フィールド

表 202. ACTION ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アラートのクリア時のメッセージ・テキスト	ALERTMSGEND	アラートが発生する条件の終了時に SNA 総称アラートに追加する、1 文字から 30 文字のメッセージ。
アラート発生時のメッセージ・テキスト	ALERTMSGSTRT	アラートが発生する条件の開始時に SNA 総称アラートに追加する、1 文字から 30 文字のメッセージ。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 ・ DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最終変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	(オプション) 1 文字から 30 文字の定義の説明。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
イベント発生時に送信するメッセージ	EVENTMSG	通知条件が生じる場合にイベントについて記述する、1 文字から 30 文字の説明。 システム使用可能性モニター条件でアクション定義が使用される場合、* (アスタリスク)を指定して、この条件にデフォルトのイベント・テキストを使用できます。
イベント切断時に送信した外部メッセージ	EXTMSGEND	通知指定条件の終了時に作成される CICSplex SM メッセージに追加する、1 文字から 30 文字の説明。
イベント発生時に送信した外部メッセージ	EXTMSGSTRT	通知指定条件の発生時に作成される外部メッセージに追加する、1 文字から 30 文字の説明。
SNA 総称アラートの生成	GENALERT	このアクションの一部として SNA 総称アラートが NetView に送信されるかどうかを示します。
イベントの生成	GENEVENT	通知条件の発生時に CICSplex SM イベント・メッセージが生成されるかどうかを示します。YES を指定する場合、次の情報のうち該当するものを指定してください。 ・ 条件に関するサイト特定のオプション・データ ・ アクションの優先順位 ・ イベント発生時に送信するメッセージ
外部メッセージの生成	GENEXTMSG	通知条件の発生時に外部メッセージが生成されるかどうかを示します。

表 202. ACTION ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
アクション	NAME	1 文字から 8 文字までのアクション定義の名前。名前には英字、数字、国別文字を含めることができます。ただし、先頭文字は英字でなければなりません。
NetView が接続した CMAS	NETVIEW	NetView システムのリンク先の CMAS の名前。
アクションの優先順位	PRIORITY	1 から 255 までの間(両端を含む)の値。この値と、条件に関連した重大度コードを使用して、EVENT ビューに表示されるイベントのソート順が判別されます。優先度が高いほど、リスト内のイベントの表示順序は先になります。
MVS 自動リスタート	RESTARTMAS	MVS 自動リスタート・マネージャー (ARM) を使用して、イベントの影響を受けた CICS システムを即時に取り消して再始動するかどうかを示します。デフォルトは NO です。ARM 再始動を正常に実行するには、CICS システムが次のようになっている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • CICSplex SM にローカル MAS として認識されている • ARM がアクティブになっている MVS イメージ中で実行されている • 初期化の際に ARM に正常に登録されている • 現行の ARM ポリシーに従う再始動に適格である
ユーザー・データ域	VIEW	(オプション) 条件に関するサイト別の追加データの入力や、条件の解決での活用を目的とした 8 文字までのストリング。

時間枠 - PERIODEF

「**時間枠定義**」(PERIODEF) ビューは、リソース・モニターやリアルタイム分析で、特定のアクションの開始時と停止時の指定に使用される時間枠に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**RTA 分析点モニター**」 > 「**時間枠**」

表 203. 提供された「 時間枠定義 」(PERIODEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.CREATE	新規の時間枠定義を作成します。
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.DETAILED	選択した時間枠定義に関する詳細情報
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.REMOVE	データ・リポジトリから時間枠定義を除去します。
時間枠定義 EYUSTARTPERIODEF.TABULAR	現行コンテキスト内のすべての時間枠定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 204. PERIODEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	新規の時間枠定義を作成します。
REMOVE	データ・リポジトリから時間枠定義を除去します。
UPDATE	既存の時間枠定義を作成します。

フィールド

表 205. PERIODEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
説明	DESC	期間定義の説明。 入力値: 1 から 58 文字の説明
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
終了時間	END	期間が終わる時分単位の時刻。 入力値: 00:00 から 23:59 まで
名前	NAME	期間定義の名前。CICSplex 中で固有です。
開始時間	START	期間が始まる時分単位の時刻。 入力値: 00:00 から 24:00 まで
時間帯	ZONE	この期間定義が適用される時間帯を識別する、A から Z までの 1 文字のコード。 これらのコードは、それぞれ 24 の標準の国際的な時間帯の 24 時間制 ID を表します。これらのコードが表す時間帯は、グリニッジ標準時(GMT)を表す Z を先頭にして、アルファベットの逆順に GMT から西へ移動します。 注: 時間帯コード A を使用する期間定義は、この定義を使用する CMAS または CICS システムの現行時間帯に従って適用されます。
時間帯調整係数	ZONEADJ	標準的な時間帯を使用しない地域の場合に、時間帯に追加する分数。 期間定義の時間帯が A の場合、この値は無視されます。 入力値: 0 から 59 まで

1 次 CMAS 分析点仕様 - CMDMPAPS

「1 次 CMAS 分析点仕様」(CMDMPAPS) ビューは、リアルタイム分析の初期化時に使用されます。分析点仕様と 1 次 CMAS の間の関連に基づいて、リアルタイム分析がアクティブ化される CMAS 内にインストールする必要がある仕様が判別されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA 分析点モニター」 > 「1 次 CMAS 分析点仕様」

表 206. 提供された「1 次 CMAS 分析点仕様」(CMDMPAPS) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
1 次 CMAS 分析点仕様 EYUSTARTCMDMPAPS.CREATE	分析点仕様と CMAS の間の関連を作成します。

表 206. 提供された「1 次 CMAS 分析点仕様」(CMDMPAPS) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
1 次 CMAS 分析点仕様 EYUSTARTCMDMPAPS.DETAILED	分析点仕様のスコープ内で選択した 1 次 CMAS に関する詳細情報
1 次 CMAS 分析点仕様 EYUSTARTCMDMPAPS.REMOVE	分析点仕様と CMAS の間の関連を除去します。
1 次 CMAS 分析点仕様 EYUSTARTCMDMPAPS.TABULAR	分析点仕様のスコープ内の 1 次 CMAS に関するテーブル形式の情報

アクション

表 207. CMDMPAPS ビューに使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	分析点仕様と CMAS の間の関連を作成します。
REMOVE	分析点仕様と CMAS の間の関連を除去します。

フィールド

表 208. CMDMPAPS ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
1 次 CMAS	CMASNAME	1 次 CMAS の名前。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
分析点仕様	SPEC	分析点仕様の名前。

2 次 CMAS 分析点仕様 - CMDMSAPS

「2 次 CMAS 分析点仕様」(CMDMSAPS) ビューは、リアルタイム分析の初期化時に使用されます。分析点仕様と CMAS の間の関連に基づいて、リアルタイム分析がアクティブ化される CMAS 内にインストールする必要がある仕様が判別されます。分析点仕様に関連付けられている分析定義の制御が 2 次 CMAS に渡されるのは、1 次 CMAS が使用不可な場合だけです。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA 分析点モニター」 > 「2 次 CMAS 分析点仕様」

表 209. 提供された「2 次 CMAS 分析点仕様」(CMDMSAPS) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
2 次 CMAS 分析点仕様 EYUSTARTCMDMSAPS.CREATE	分析点仕様と CMAS の間の関連を作成します。

表 209. 提供された「2 次 CMAS 分析点仕様」(CMDMSAPS) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
2 次 CMAS 分析点仕様 EYUSTARTCMDMSAPS.DETAILED	分析点仕様のスコープ内で選択した 2 次 CMAS に関する詳細情報
2 次 CMAS 分析点仕様 EYUSTARTCMDMSAPS.REMOVE	分析点仕様と 2 次 CMAS の間の関連を除去します。
2 次 CMAS 分析点仕様 EYUSTARTCMDMSAPS.TABULAR	分析点仕様のスコープ内の 2 次 CMAS に関するテーブル形式の情報

アクション

表 210. CMDMSAPS ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	分析点仕様と CMAS の間の関連を作成します。
REMOVE	分析点仕様と 2 次 CMAS の間の関連を除去します。

フィールド

表 211. CMDMSAPS ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
2 次 CMAS	CMASNAME	2 次 CMAS の名前。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
分析点仕様	SPEC	分析点仕様の名前。

分析点仕様内のグループ - RTAINAPS

「分析点仕様内の RTA グループ」(RTAINAPS) ビューには、分析点仕様と関連付けられる RTA グループに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA 分析点モニター」 > 「分析点仕様内のグループ」

表 212. 提供された「分析点仕様内の RTA グループ」(RTAINAPS) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
分析点仕様内の RTA グループ EYUSTARTRTAINAPS.CREATE	RTA グループと分析点仕様の間に関連を作成します。
分析点仕様内の RTA グループ EYUSTARTRTAINAPS.DETAILED	選択した RTA グループおよび分析点仕様の間に関連性に関する詳細情報

表 212. 提供された「分析点仕様内の RTA グループ」(RTAINAPS) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
分析点仕様内の RTA グループ EYUSTRTRTAINAPS.REMOVE	RTA グループと分析点仕様との関連を除去します。
分析点仕様内の RTA グループ EYUSTRTRTAINAPS.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex の分析点仕様に関連した RTA グループに関するテーブル形式の情報

アクション

表 213. RTAINAPS ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	RTA グループと分析点仕様との関連を作成します。
REMOVE	RTA グループと分析点仕様との関連を除去します。

フィールド

表 214. RTAINAPS ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
RTA グループ	GROUP	分析点仕様に関連付けられる分析グループの名前。
分析点仕様	NAME	分析点仕様の名前。
グループ内の RTA 定義スコープ	SCOPE	分析グループに関連付けられる CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。このスコープは、分析点仕様によって評価されることになる CICS システムまたはシステム・グループを表します。

グループ内の定義 - RTAINGRP

「RTA グループ内の RTA 定義」(RTAINGRP) ビューには、RTA グループに関連付けられている RTA 定義に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA 分析点モニター」 > 「グループ内の定義」

表 215. 提供された「RTA グループ内の RTA 定義」(RTAINGRP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
RTA グループ内の RTA 定義 EYUSTRTRTAINGRP.CREATE	RTA 定義と RTA グループの間の関連に変更を加えます。
RTA グループ内の RTA 定義 EYUSTRTRTAINGRP.DETAILED	選択した RTA 定義に関する詳細情報

表 215. 提供された「RTA グループ内の RTA 定義」(RTAINGRP) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
RTA グループ内の RTA 定義 EYUSTARTRTAINGRP.REMOVE	RTA 定義と RTA グループの間の関連を除去します。
RTA グループ内の RTA 定義 EYUSTARTRTAINGRP.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex の RTA グループ内の RTA 定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 216. RTAINGRP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	RTA 定義と RTA グループの間の関連に変更を加えます。
REMOVE	RTA 定義と RTA グループの間の関連を除去します。
UPDATE	RTA 定義と RTA グループの間の関連の期間定義を変更します。

フィールド

表 217. RTAINGRP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
期間定義	ACTIVETIME	分析または状況定義がアクティブになる時間の範囲を示す期間定義の固有名または総称名。指定する名前が既存の期間定義でない場合、後でその期間定義を作成できます。このフィールドをブランクにしておく、CICS システムが実行している限り、あるいは分析定義を廃棄するまで、分析定義はアクティブのままになります。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
RTA 定義	DEFNAME	分析グループに関連付けられている分析定義の名前。
RTA グループ	GROUP	分析グループの名前。

RTA グループ内の状況定義 - STAINGRP

STAINGRP ビューには、RTA グループ (RESGROUP) 内での状況定義 (STATDEF) のメンバーシップに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「RTA 分析点モニター」 > 「RTA グループ内の状況定義」

表 218. 提供された「RTA グループ内の状況定義」(STAINGRP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
RTA グループ内の状況定義 EYUSTARTSTAINGRP.CREATE	状況定義と RTA グループとの間の関連を作成します。
RTA グループ内の状況定義 EYUSTARTSTAINGRP.DETAILED	選択した状況定義に関する詳細情報
RTA グループ内の状況定義 EYUSTARTSTAINGRP.REMOVE	状況定義と RTA グループとの間の関連をデータ・リポジトリから除去します。
RTA グループ内の状況定義 EYUSTARTSTAINGRP.TABULAR	コンテキストと識別される CICSplex の RTA グループ内の状況定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 219. STAINGRP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	状況定義と RTA グループとの間の関連を作成します。
REMOVE	状況定義と RTA グループとの間の関連をデータ・リポジトリから除去します。
UPDATE	状況定義と RTA グループとの関連付けでの期間定義を変更します。

フィールド

表 220. STAINGRP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
期間定義	ACTIVETIME	このグループ内の状況定義がアクティブになる期間。既存の期間定義のリストを検討するには、「期間」(PERIODEF) ビューを使用します。 入力値: 新規または既存の期間定義名。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
状況定義	DEFNAME	RTA グループに関連付けられた状況定義の名前。
RTA グループ	GROUP	RTA グループの名前。

付録 K ベーシック CICS リソース管理ビュー

「ベーシック CICS リソース管理」ビューには、現行コンテキストおよびスコープ内のベーシック CICS リソース管理に関する情報が表示されます。

リソース・グループ - RESGROUP

「リソース・グループ定義」(RESGROUP) ビューには、関連したリソース定義に関する情報が表示されます。リソース・グループ内のリソース定義は、同じリソース・タイプを対象とすることもできますし、異なるリソース・タイプを対象とすることもできます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」 > 「リソース・グループ」

表 221. 提供された「リソース・グループ定義」(RESGROUP) ビュー・セットのビュー

ビュー	注
リソース・グループ定義 EYUSTARTRESGROUP.ADDTODSC	1 つ以上のリソース・グループ定義をリソース記述に追加します。
リソース・グループ定義 EYUSTARTRESGROUP.CREATE	リソース・グループ定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。CICS 定義の管理の一環として、この定義をリソース・グループ (RESGROUP) 内の論理リソース・セットに結合します。リソース・グループの作成時には、既存のリソース・グループをモデルとして使用することを指定できます。
リソース・グループ定義 EYUSTARTRESGROUP.DETAILED	選択したリソース・グループ定義に関する詳細情報
リソース・グループ定義 EYUSTARTRESGROUP.INSTALL	リソース・グループ定義をアクティブなシステムにインストールします。
リソース・グループ定義 EYUSTARTRESGROUP.REMOVE	データ・リポジトリからリソース・グループ定義を除去します。
リソース・グループ定義 EYUSTARTRESGROUP.TABULAR	現行コンテキストのすべてのリソース・グループ定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 222. RESGROUP ビューで使用可能なアクション

アクション	説明
ADDTODSC	1 つ以上のリソース・グループ定義をリソース記述に追加します。
CREATE	リソース・グループ定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。CICS 定義の管理の一環として、この定義をリソース・グループ (RESGROUP) 内の論理リソース・セットに結合します。リソース・グループの作成時には、既存のリソース・グループをモデルとして使用することを指定できます。
INSTALL	リソース・グループ定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからリソース・グループ定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のリソース・グループ定義を更新します。

フィールド

表 223. RESGROUP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	リソース・グループの説明。
名前	RESGROUP	リソース・グループの名前。

リソース記述 - RESDESC

「リソース記述定義」(RESDESC) ビューには、リソースのインストールをサポートするか CICSplex SM 要求のスコープとして指定されている CICS システムにインストールできる、論理的に関連したリソース定義のセットに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」 > 「リソース記述」

表 224. 提供された「リソース記述定義」(RESDESC) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
リソース記述定義 EYUSTARTRESDESC.CREATE	リソース記述定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
リソース記述定義 EYUSTARTRESDESC.DETAILED	選択したリソース記述定義に関する詳細情報
リソース記述定義 EYUSTARTRESDESC.INSTALL	リソース記述に関連付けられたリソースをアクティブ CICS システムにインストールします。
リソース記述定義 EYUSTARTRESDESC.REMOVE	データ・リポジトリからリソース記述定義を除去します。
リソース記述定義 EYUSTARTRESDESC.REPLACE	現在インストールされているリソース記述定義を置換します。
リソース記述定義 EYUSTARTRESDESC.TABULAR	現行コンテキストのすべてのリソース記述定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 225. RESDESC ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	リソース記述定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	リソース記述に関連付けられたリソースをアクティブ CICS システムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからリソース記述定義を除去します。
REPLACE	現在インストールされているリソース記述定義を置換します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のリソース記述定義を更新します。

フィールド

表 226. RESDESC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
Atom サービス定義に対するリソース・グループ	ATMDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
Atom サービス定義に対する関連スコープ	ATMDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
Atom サービス定義に対するターゲット・スコープ	ATMDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
自動インストール要求タイプ	AUTOINST	ターゲット MAS が CICSplex に接続する時に、この記述とそれに関連付けられたリソース割り当て、およびリソース・グループにより参照されるリソース定義のセットが自動的にインストールされるかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • YES - 参照されたリソース定義セットは自動的にインストールされます。 • NO - 参照されたリソース定義セットは自動的にインストールされません。
バンドル定義に対するリソース・グループ	BUNDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
バンドル定義に対する関連スコープ	BUNDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
バンドル定義に対するターゲット・スコープ	BUNDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。

表 226. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
接続定義に対するリソース・グループ	CONDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
接続定義に対する関連スコープ	CONDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
接続定義に対するターゲット・スコープ	CONDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
DB2 接続定義に対するリソース・グループ	D2CDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
DB2 接続定義に対する関連スコープ	D2CDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
DB2 接続定義に対するターゲット・スコープ	D2CDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
DB2 エントリー定義に対するリソース・グループ	D2EDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
DB2 エントリー定義に対する関連スコープ	D2EDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
DB2 エントリー定義に対するターゲット・スコープ	D2EDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
DB2 トランザクション定義に対するリソース・グループ	D2TDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。

表 226. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
DB2 トランザクション定義に対する関連スコープ	D2TDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
DB2 トランザクション定義に対するターゲット・スコープ	D2TDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	リソース記述の説明。
文書テンプレート定義に対するリソース・グループ	DOCDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
文書テンプレート定義に対する関連スコープ	DOCDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
文書テンプレート定義に対するターゲット・スコープ	DOCDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
CorbaServer 定義のリソース・グループ	EJCDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
CorbaServer 定義の関連スコープ	EJCDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
CorbaServer 定義のターゲット・スコープ	EJCDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
CICS-配置 jar ファイル定義のリソース・グループ	EJDDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
CICS-配置 jar ファイル定義の関連スコープ	EJDDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
CICS-配置 jar ファイル定義のターゲット・スコープ	EJDDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。

表 226. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
エンキュー・モデル定義に対するリソース・グループ	ENQDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
エンキュー・モデル定義に対する関連スコープ	ENQDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
エンキュー・モデル定義に対するターゲット・スコープ	ENQDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
ファイル定義に対するリソース・グループ	FLEDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
ファイル定義に対する関連スコープ	FLEDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
ファイル定義に対するターゲット・スコープ	FLEDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
FEPI ノード定義に対するリソース・グループ	FNODEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
FEPI ノード定義に対する関連スコープ	FNODEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
FEPI ノード定義に対するターゲット・スコープ	FNODEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
FEPI プール定義に対するリソース・グループ	FPODEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
FEPI プール定義に対する関連スコープ	FPODEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
FEPI プール定義に対するターゲット・スコープ	FPODEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。

表 226. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
FEPI プロパティ・セット定義に対するリソース・グループ	FPRDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
FEPI プロパティ・セット定義に対する関連スコープ	FPRDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
FEPI プロパティ・セット定義に対するターゲット・スコープ	FPRDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
ファイル・キー・セグメント定義に対するリソース・グループ	FSGDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
ファイル・キー・セグメント定義に対する関連スコープ	FSGDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
ファイル・キー・セグメント定義に対するターゲット・スコープ	FSGDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
FEPI ターゲット定義に対するリソース・グループ	FTRDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
FEPI ターゲット定義に対する関連スコープ	FTRDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
FEPI ターゲット定義に対するターゲット・スコープ	FTRDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
IPIC 接続定義に対するリソース・グループ	IPCDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
IPIC 接続定義に対する関連スコープ	IPCDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
IPIC 接続定義に対するターゲット・スコープ	IPCDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。

表 226. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
JVM サーバー定義に対するリソース・グループ	JMSDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
JVM サーバー定義に対する関連スコープ	JMSDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
JVM サーバー 定義に対するターゲット・スコープ	JMSDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
ジャーナル定義に対するリソース・グループ	JRLDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
ジャーナル定義に対する関連スコープ	JRLDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
ジャーナル定義に対するターゲット・スコープ	JRLDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
ジャーナル・モデル定義に対するリソース・グループ	JRMDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
ジャーナル・モデル定義に対する関連スコープ	JRMDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
ジャーナル・モデル定義に対するターゲット・スコープ	JRMDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
LIBRARY 定義に対するリソース・グループ	LIBDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
LIBRARY 定義に対する関連スコープ	LIBDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
LIBRARY 定義に対するターゲット・スコープ	LIBDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。

表 226. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
論理的スコープ名	LSCOPE	リソース記述が作成された時にそれに割り当てられた論理的スコープ名。この名前は、CICSplex SM のエンド・ユーザー・インターフェース 要求および API 要求のスコープとして使用できます。 このフィールドがブランクである場合、論理的スコープ名は割り当てられていません。
LSR プール定義に対するリソース・グループ	LSRDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
LSR プール定義に対する関連スコープ	LSRDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
LSR プール定義に対するターゲット・スコープ	LSRDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
論理的スコープ登録	LSREGSTR	リソース記述が論理的スコープとして登録されるかどうかを示します。 CICSplex SM に対して CICS リソースを定義した後、CICSplex 内での物理ロケーションではなく、指定のビジネス・アプリケーションに所属するかどうかの観点で、リソースをモニターして制御することができます。論理的に関連付けられたリソースどうしを、いつでもそれらのリソースが実際に常駐するかどうかに関係なく、セットとして識別し、セットとして参照することができます。定義セットは再利用可能であり、リソースの他の論理的な関連付けと任意の数だけ関連付けることができます。これらのリソースは、システム構成ではなく業務要件を反映したものです。 スコープをアプリケーションに設定した場合、操作またはモニター・ビューにはすべて、選択基準を満たすリソースのみが表示されます。それによって、それらのリソースの管理方法を仔細に制御できるようになります。 <ul style="list-style-type: none"> • YES - この記述で示されるリソースは論理的スコープと見なされます。「スコープ名」の値を CICSplex SM 要求のスコープとして使用できます。 • NO - この記述で示されるリソースは論理的スコープと見なされません。
マップ・セット定義に対するリソース・グループ	MAPDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
マップ・セット定義に対する関連スコープ	MAPDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
マップ・セット定義に対するターゲット・スコープ	MAPDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
MQ 接続定義に対するリソース・グループ	MQCDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。

表 226. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
MQ 接続定義に対する関連スコープ	MQCDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定されたタイプのリソース定義について、リソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
MQ 接続定義に対するターゲット・スコープ	MQCDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
MQ モニター定義のリソース・グループ	MQMDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
MQ モニター定義の関連スコープ	MQMDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
MQ モニター定義のターゲット・スコープ	MQMDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
パートナー定義に対するリソース・グループ	PARDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
パートナー定義に対する関連スコープ	PARDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
パートナー定義に対するターゲット・スコープ	PARDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
パイプライン定義に対するリソース・グループ	PIPDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
パイプライン定義に対する関連スコープ	PIPDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
パイプライン定義に対するターゲット・スコープ	PIPDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
プロセス・タイプ定義に対するリソース・グループ	PRCDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。

表 226. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
プロセス・タイプ定義に対する 関連スコープ	PRCDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
プロセス・タイプ定義に対する ターゲット・スコープ	PRCDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
プログラム定義に対するリ ソース・グループ	PRGDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
プログラム定義に対する関連 スコープ	PRGDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
プログラム定義に対するター ゲット・スコープ	PRGDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
プロファイル定義に対するリ ソース・グループ	PRODEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
プロファイル定義に対する関 連スコープ	PRODEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
プロファイル定義に対するター ゲット・スコープ	PRODEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
区画セット定義のためのリソ ース・グループ	PRTDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
区画セット定義のための関連 スコープ	PRTDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
区画セット定義のためのター ゲット・スコープ	PRTDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
リソース記述名	RESDESC	リソース記述定義の名前。

表 226. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リソース・グループ・スコープ名	RGSCOPE	記述内のリソース (RESINDSC) リソースを使用してリソース記述 (RESDESC) と直接関連付けられているリソース・グループ (RESGROUP) 内の CICS リソース定義のインストール先となる CICS システム (CSYSDEF) または CICS システム・グループ (CSYSGRP) を識別するのに使用する 1 文字から 8 文字までの名前。スコープ名は CICSplex 内で 固有である必要があります。
要求モデル定義に対するリソース・グループ	RQMDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
要求モデル定義に対する関連スコープ	RQMDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
要求モデル定義に対するターゲット・スコープ	RQMDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
セッション定義に対するリソース・グループ	SESDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
セッション定義に対する関連スコープ	SESDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
セッション定義に対するターゲット・スコープ	SESDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
トランザクション・クラス定義に対するリソース・グループ	TCLDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
トランザクション・クラス定義に対する関連スコープ	TCLDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
トランザクション・クラス定義に対するターゲット・スコープ	TCLDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
TCP/IP サービス定義に対するリソース・グループ	TCPDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。

表 226. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
TCP/IP サービス定義に対する関連スコープ	TCPDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
TCP/IP サービス定義に対するターゲット・スコープ	TCPDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
TD キュー定義に対するリソース・グループ	TDQDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
TD キュー定義に対する関連スコープ	TDQDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
TD キュー定義に対するターゲット・スコープ	TDQDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
端末定義に対するリソース・グループ	TRMDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
端末定義に対する関連スコープ	TRMDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
端末定義に対するターゲット・スコープ	TRMDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
トランザクション定義に対するリソース・グループ	TRNDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
トランザクション定義に対する関連スコープ	TRNDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
トランザクション定義に対するターゲット・スコープ	TRNDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
TS モデル定義に対するリソース・グループ	TSMDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。

表 226. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
TS モデル定義に対する関連スコープ	TSMDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
TS モデル定義に対するターゲット・スコープ	TSMDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
入力条件定義に対するリソース・グループ	TYPDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
入力条件定義に対する関連スコープ	TYPDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
入力条件定義に対するターゲット・スコープ	TYPDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
URIMAP 定義に対するリソース・グループ	URIDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
URIMAP 定義に対する関連スコープ	URIDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
URIMAP 定義に対するターゲット・スコープ	URIDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
WebService 定義に対するリソース・グループ	WEBDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
WebService 定義に対する関連スコープ	WEBDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
WebService 定義に対するターゲット・スコープ	WEBDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。

リソース・グループ内の CICS リソース定義 - RESINGRP

「リソース・グループ内のリソース定義」(RESINGRP) ビューには、リソース・グループおよびそれに関連付けられているリソース定義に関する情報が表示されます。RESINGRP の関連は、リソース定義がリソース・グループ (RESGROUP) に追加される時に自動的に作成されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」 > 「リソース・グループ内の CICS リソース定義」

表 227. 提供された「リソース・グループ内の CICS リソース定義」(RESINGRP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
リソース・グループ内の CICS リソース定義 EYUSTARTRESINGRP.DETAILED	選択したリソースに関する詳細情報
リソース・グループ内の CICS リソース定義 EYUSTARTRESINGRP.REMOVE	リソース・グループとリソース定義との間の関連付けを除去します。
リソース・グループ内の CICS リソース定義 EYUSTARTRESINGRP.TABULAR	リソース・グループとそれに関連したリソース定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 228. RESINGRP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
REMOVE	リソース・グループとリソース定義との間の関連付けを除去します。

フィールド

表 229. RESINGRP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェン	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェン
最終変更をしたエージェン	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェン
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
リソース定義の説明	DEFDESC	リソース定義の説明
リソース定義	DEFNAME	リソース定義の名前。
リソース定義タイプ	DEFTYPE	リソース・グループが関連付けられているリソース定義のタイプを識別します。
リソース定義 ID	DEFTYPEX	リソース・グループが関連付けられているリソース定義の ID を識別します。
リソース定義のバージョン	DEFVER	リソース定義のバージョン番号 (1 から 15)。
グループ・タイプ内のリソース	INGPTYPE	リソース・グループ内のリソースのタイプ。
グループ ID 内のリソース	INGTYPX	リソース・グループ内のリソースの ID。

表 229. RESINGRP ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リソース・グループ	RESGROUP	リソース・グループの名前。

リソース記述内のリソース・グループ - RESINDSC

「リソース記述内のリソース・グループ」(RESINDSC) ビューには、リソース記述 (RESDESC) 内のリソース・グループ (RESGROUP) のメンバーシップに関する情報が表示されます。RESINDSC の関連は、リソース・グループがリソース記述に追加される時、つまりリソース記述とリソース割り当て (RASGNDEF) の間に何の関連もない時に、自動的に作成されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」>「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」>「リソース記述内のリソース・グループ」

表 230. 提供された「記述内のリソース・グループ」(RESINDSC) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
記述内のリソース・グループ EYUSTARTRESINDSC.CREATE	リソース・グループとリソース記述との間の関連を作成します。
記述内のリソース・グループ EYUSTARTRESINDSC.DETAILED	リソース・グループとそれに関連したリソース記述に関する詳細情報
記述内のリソース・グループ EYUSTARTRESINDSC.REMOVE	リソース・グループとリソース記述との間の関連を除去します。
記述内のリソース・グループ EYUSTARTRESINDSC.TABULAR	リソース・グループとそれに関連したリソース記述に関するテーブル形式の情報

アクション

表 231. RESINDSC ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	リソース・グループとリソース記述との間の関連を作成します。
REMOVE	リソース・グループとリソース記述との間の関連を除去します。
UPDATE	リソース記述定義内のリソース・グループの記述を更新します。

フィールド

表 232. RESINDSC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。

表 232. RESINDSC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	リソース記述とグループとの間の関連の説明。
リソース記述名	RESDISC	リソース記述の名前。
リソース・グループ名	RESGROUP	指定されたリソース記述に関連付けられるリソース・グループの名前。

リソース記述 - RDSCPROC

「リソース記述で選択されたリソース」(RDSCPROC) ビューは、指定されたリソース記述の処理時に選択されるリソースに関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」 > 「リソース記述」

表 233. 提供された「リソース記述で選択されたリソース」(RDSCPROC) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
リソース記述で選択されたリソース EYUSTRTRDSCPROC.DETAILED	リソース記述で選択されている指定されたリソースに関する詳細情報
リソース記述で選択されたリソース EYUSTRTRDSCPROC.TABULAR	リソース記述で選択されているリソースに関するテーブル形式の情報

アクション

表 234. RDSCPROC ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
GET	処理されるリソース記述の名前。

フィールド

表 235. RDSCPROC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
リモート定義の別名	ALIAS	リモート資源の場合、リモート・システムで認識される資源の名前。
リソース定義のバージョン	DEFVER	リソース定義のバージョン番号 (1 から 15)。

表 235. RDSCPROC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リソース使用修飾子	MODE	<p>記述処理中に使用されるリソース属性のサブセットを判別するのに、CICSplex SM で必要な特定のリソース・タイプに関する追加情報。</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラム (PROGDEF) - 「使用」値が LOCAL の場合、値を AUTO にすると、プログラムは CICS システムに自動的にインストールされます。 トランザクション (TRANDEF) - 「使用」値が REMOTE の場合、リモート参照のタイプを示します。 <ul style="list-style-type: none"> DYNAM - トランザクションは DTR プログラムで処理される必要があります。 STAT - 各トランザクションを TRANDEF で示されたリモート CICS システムに送信する必要があります。 一時データ・キュー (TDQDEF) - 「使用」値が REMOTE の場合、「関連スコープ」で割り当てられる一時データ・キューのタイプを示します。 <ul style="list-style-type: none"> INTRA - 区画内 TDQ。 EXTRA - 区画外 TDQ。 IND - 間接 TDQ。 <p>値 N/A は、資源タイプに MODE データが必要ないことを示します。</p>
リソース定義タイプ	RDEFTYPE	割り当てられるリソースのタイプ。
参照定義名	REFDEF	割り当てられているリソースで参照されるリソースの名前。例えば、接続 (CONNDEF) や参照 セッション (SESSDEF) など。
参照した定義型	REFTYPE	参照されるリソース定義のリソース・タイプ。
参照定義のバージョン	REFVER	1 から 15 までの、参照される資源定義のバージョン番号。
リソース割り当て名	RESASSGN	資源定義と、指定された記述とを関連付ける 資源割り当ての名前。
リソース定義名	RESDEF	指定されたリソース記述の処理時に割り当てられるリソースの名前。
リソース記述名	RESDESC	処理されるリソース記述の名前。
リソース・グループ名	RESGROUP	割り当てられるリソースの定義を含むリソース・グループの名前。
関連スコープ名	RSCOPE	ターゲット・スコープに対して REMOTE と指定されるリソースが LOCAL として割り当てられる CICS システムかシステム・グループの名前。
ターゲット・スコープ名	TSCOPE	リソースが割り当てられる CICS システムかシステム・グループの名前。
リソース使用タイプ	USAGE	<p>リソースの使用方法を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> LOCAL - リソースはターゲット CICS システムにあります。 REMOTE - リソース定義は「関連スコープ」フィールドで指定されている別の CICS システム中にあるリソースを参照します。 ASIS - リソースは、リソース記述に直接関連したリソース・グループの一部であり、リソース割り当てには関連していません。

CICS システム - SYSRES

「**CICS システム・リソース**」(SYSRES) ビューは、指定された CICS システムに割り当てられるリソースに関する情報を表示します。現在 CICS システムに関連しているリソース記述に基づいてリソースが選択されます。リソース割り当てがリソース記述に関連している場合のみ、その割り当てで名前指定されているリソースが SYSRES ビューに組み込まれます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」>「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」>「**CICS システム**」

表 236. 提供された「CICS システムに割り当てたリソース」(SYSRES) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CICS システムに割り当てたリソース EYUSTARTSYSRES.DETAILED	指定した CICS システムに割り当てられているリソースに関する詳細情報
CICS システムに割り当てたリソース EYUSTARTSYSRES.TABULAR	CICS システムに割り当てられているリソースに関するテーブル形式の情報

アクション

表 237. SYSRES ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
GET	(必須) モデルとして使用されるシステム・リンク定義を持った既存の CICS システムの名前を指定します。

フィールド

表 238. SYSRES ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
リモート定義の別名	ALIAS	リモート資源の場合、 リモート・システムで認識される資源の名前。
CICS システム名	CICSSYS	指定されたリソースの割り当て先の CICS システムの名前。
リソース定義のバージョン	DEFVER	リソース定義のバージョン番号 (1 から 15)。
リソース使用修飾子	MODE	<p>割り当ての処理に使用される資源属性の サブセットを判別するために CICSplex SM が 特定の資源タイプで必要とする追加情報。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラム (PROGDEF) - 「使用」 値が LOCAL の場合、 値を AUTO にすると、 プログラムは CICS システムに自動的にインストールされます。 ・ トランザクション (TRANDEF) - 「使用」 値が REMOTE の場合、 リモート参照のタイプを示します。 <ul style="list-style-type: none"> - DYNAM - トランザクションは DTR プログラムで処理される必要があります。 - STAT - 各トランザクションを TRANDEF で示されたリモート CICS システムに 送信する必要があります。 ・ 一時データ・キュー (TDQDEF) - 「使用」 値が REMOTE の場合、「関連スコープ」 で割り当てられる一時データ・キューのタイプを示します。 <ul style="list-style-type: none"> - INTRA - 区画内 TDQ。 - EXTRA - 区画外 TDQ。 - IND - 間接 TDQ。 <p>値 N/A は、資源タイプに MODE データが必要ないことを示します。</p>
リソース定義タイプ	RDEFTYPE	<p>割り当てられるリソースのタイプ。</p> <p>注: 論理スコープのピクチャーを完成させるために、ここにセッション定義 (SESSDEF) が含まれていますが、それらが実際に CICS システムにインストールされることはありません。</p>
参照定義名	REFDEF	割り当てられているリソースで参照されるリソースの名前。 例えば、接続 (CONNDEF)や参照 セッション(SESSDEF)など。
参照した定義型	REFTYPE	参照されるリソース定義のリソース・タイプ。
参照定義のバージョン	REFVER	1 から 15 までの、参照される資源定義の バージョン番号。
リソース割り当て名	RESASSGN	資源定義と、指定された記述とを関連付ける 資源割り当ての名前。
リソース定義名	RESDEF	指定された CICS システムに割り当てられるリソースの名前。
リソース記述名	RESDESC	CICS システムに関連したリソース記述の名前。
リソース・グループ名	RESGROUP	割り当てられるリソースの定義を含むリソース・グループの名前。

表 238. SYSRES ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リソース使用タイプ	USAGE	<p>CICS システムでの 資源の使用法を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • LOCAL - リソースはターゲット CICS システムにあります。 • REMOTE - リソース定義は、別の CICS システムにあるリソースを参照します。 • ASIS - リソースは、リソース記述に直接関連したリソース・グループの一部であり、リソース割り当てには関連していません。

付録 L CICS リソース定義

「CICS リソース定義」ビューでは、CICS リソース定義を定義して保守することができます。

ATOMSERVICE 定義 - ATOMDEF

「**Atomservice 定義**」(ATOMDEF) ビューには、Atom サービスの BAS リソース定義に関する情報が表示されます。Atomservice リソース定義は Atom サービス、フィード、コレクション、またはカテゴリ文書を定義し、フィードにデータを提供するのに使用される Atom 構成ファイル、CICS リソースまたはアプリケーション・プログラム、および Atom のバインディング・ファイルを識別します。着信クライアント要求を処理し、適切な Atomservice リソース定義を指定するための、URIMAP リソース定義も必要です。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**Atomservice 定義**」

表 239. 提供された「**ATOMSERVICE 定義**」(ATOMDEF) ビュー・セットのビュー

ビュー	注
Atomservice 定義 EYUSTARTATOMDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の ATOMSERV 定義をリソース・グループに追加します。
Atomservice 定義 EYUSTARTATOMDEF.CREATE	ATOMSERV 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
Atomservice 定義 EYUSTARTATOMDEF.DETAILED	選択した Atom サービス定義に関する詳細情報。
Atomservice 定義 EYUSTARTATOMDEF.INSTALL	ATOMSERV 定義をアクティブなシステムにインストールします。
Atomservice 定義 EYUSTARTATOMDEF.REMOVE	データ・リポジトリから ATOMSERV 定義を除去します。
Atomservice 定義 EYUSTARTATOMDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての Atom サービス定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 240. ATOMDEF ビューに使用可能なアクション

アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上の ATOMSERV 定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	ATOMSERV 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	ATOMSERV 定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから ATOMSERV 定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある ATOMSERV 定義を更新します。

フィールド

表 241. ATOMDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
Atomtype	ATOMTYPE	<p>戻される Atom 文書のタイプ。フィード、サービス、コレクション、またはカテゴリとすることができます。エントリー文書は、常にフィードまたはコレクション文書内に指定されます。値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FEED <ul style="list-style-type: none"> – ATOMSERV 照会要求でフィード・データが返されます。 • SERVICE <ul style="list-style-type: none"> – ATOMSERV 照会要求でサービス・データが返されます。 • COLLECTION <ul style="list-style-type: none"> – ATOMSERV 照会要求でコレクション・データが返されます。 • CATEGORY <ul style="list-style-type: none"> – ATOMSERV 照会要求でカテゴリ・データが返されます。
バインド・ファイル名	BINDFILE	CICS リソース内のレコード・レイアウトを示す WSBIND データを含む UNIX ファイルの名前。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは SM API コマンドにより最後に変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
構成ファイル名	CONFIGFILE	戻される Atom 文書のタイプを指定する XML 構成データを含む UNIX ファイルの名前。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	Atom サービス定義の説明。
名前	NAME	ATOMSERV リソースの 8 文字の名前。
リソース名	RESOURCENAME	Atom フィードまたはコレクションにデータを提供する CICS リソースの名前。RESOURCETYPE が TSQUEUE の場合、大/小文字混合の名前が許容されます。RESOURCETYPE が FILE または PROGRAM の場合は、CICSplex SM によって小文字が大文字に変更されます。

表 241. ATOMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リソース・タイプ	RESOURCE TYPE	Atom フィールドまたはコレクションのデータを保持する CICS リソースのタイプを示します。値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • FILE <ul style="list-style-type: none"> – 指定リソースはファイルです。 • PROGRAM <ul style="list-style-type: none"> – 指定リソースはプログラムです。 • TSQUEUE <ul style="list-style-type: none"> – 指定リソースは TSQ です。 • NOTAPPLIC <ul style="list-style-type: none"> – これはこのリソースには適用されません。
使用可能状況	STATUS	ATOMSERV が使用可能かどうかを示します。値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • DISABLED <ul style="list-style-type: none"> – ATOMSERV は無効です。 • ENABLED <ul style="list-style-type: none"> – ATOMSERV は有効です。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

バンドル定義 - BUNDDEF

「**BUNDLE 定義**」(BUNDDEF) ビューには、アプリケーションのデプロイメント単位であるバンドルに関する情報が表示されます。バンドルは z/OS UNIX にデプロイされ、成果物のディレクトリー構造を構成します。バンドルのマニフェスト・ファイルは、インポート、エクスポート、および定義を定義します。BUNDLE リソースは、z/OS UNIX におけるバンドルのデプロイ場所とその状況を定義します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「バンドル定義」

表 242. 提供された 「バンドル定義」 (BUNDDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
バンドル定義 EYUSTARTBUNDDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のバンドル定義をリソース・グループに追加します。
バンドル定義 EYUSTARTBUNDDEF.CREATE	BUNDLE 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
バンドル定義 EYUSTARTBUNDDEF.DETAILED	選択したバンドル定義に関する詳細情報
バンドル定義 EYUSTARTBUNDDEF.INSTALL	BUNDLE 定義をアクティブなシステムにインストールします。 FORCE INSTALL によって上書きされた BUNDLE は、使用不可にする必要があります。

表 242. 提供された「バンドル定義」(BUNDDDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
バンドル定義 EYUSTARTBUNDDDEF.REMOVE	データ・リポジトリから BUNDLE 定義を除去します。
バンドル定義 EYUSTARTBUNDDDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのバンドル定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 243. BUNDDDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上のバンドル定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	BUNDLE 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	BUNDLE 定義をアクティブなシステムにインストールします。FORCE INSTALL によって上書きされた BUNDLE は、使用不可にする必要があります。
REMOVE	データ・リポジトリから BUNDLE 定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある BUNDLE 定義を更新します。

フィールド

表 244. BUNDDDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
BASESCOPE	BASESCOPE	バンドルの内容が作成されるルート名前空間を定義する、1 文字から 255 文字までの汎用リソース ID (URI) を指定します。さまざまなバンドルを論理的にまとめてグループ化する場合、スコープ値を使用します。
zFS 上の BUNDLE ディレクトリー名	BUNDLEDIR	zFS 上の BUNDLE ディレクトリーの完全修飾名 (1 文字から 255 文字まで) を指定します。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラムブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSEBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

表 244. BUNDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
説明	DESCRIPTION	バンドル定義の説明。
名前	NAME	BUNDLE リソースの 8 文字の名前。
使用可能状況	STATUS	以下のように、インストール時の BUNDLE の初期状況を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • ENABLED: この BUNDLE の Web サービス要求は正常に処理されます。 • DISABLED: この BUNDLE の Web サービス要求は処理できません。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

CICS 配置 JAR ファイル定義 - EJDJDEF

「**CICS-配置 JAR ファイル定義**」(EJDJDEF) ビューには、配置 JAR ファイル定義の物理的および操作面の特性に関する情報が表示されます。

CICS-配置 JAR ファイル定義は、CICS TS for z/OS バージョン 5.1 以降を実行している CICS 領域にインストールすることはできません。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**CICS-配置 JAR ファイル定義**」

表 245. 提供された「 CICS-配置 JAR ファイル定義 」(EJDJDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CICS-配置 JAR ファイル定義 EYUSTARTEJDJDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の CICS-配置 JAR ファイル定義をリソース・グループに追加します。
CICS-配置 JAR ファイル定義 EYUSTARTEJDJDEF.CREATE	CICS-配置 JAR ファイル定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CICS-配置 JAR ファイル定義 EYUSTARTEJDJDEF.DETAILED	選択した CICS 配置 JAR ファイル定義に関する詳細情報
CICS-配置 JAR ファイル定義 EYUSTARTEJDJDEF.INSTALL	CICS-配置 JAR ファイル定義をアクティブなシステムにインストールします。
CICS-配置 JAR ファイル定義 EYUSTARTEJDJDEF.REMOVE	データ・リポジトリから CICS-配置 JAR ファイル定義を除去します。
CICS-配置 JAR ファイル定義 EYUSTARTEJDJDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての CICS 配置 JAR ファイル定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 246. EJDJDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上の CICS-配置 JAR ファイル定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	CICS-配置 JAR ファイル定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	CICS-配置 JAR ファイル定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから CICS-配置 JAR ファイル定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある CICS-配置 JAR ファイル定義を更新します。

フィールド

表 247. EJDJDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェン	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェン
最終変更をしたエージェン	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェン
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
CorbaServer 名	CORBASERVER	この DJAR がインストールされている CorbaServer の 1 文字から 4 文字までの名前。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	配置 JAR 定義の説明。
zSeries ファイル・システム (zFS) のパス	HFSFILE	1 から 255 文字の、zFS の配置 JAR ファイルの完全修飾ファイル名。許容文字は、A から Z、a から z、0 から 9 です。 および - _ / も使用可能です。 名前では大文字と小文字を区別し、スペースは使用できません。 名前は / で終わることができず、/ 文字の連続した インスタンスを含むことができません。
名前	NAME	配置 JAR 定義の名前。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

表 247. EJCODEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

CorbaServer 定義 - EJCODEF

「**CorbaServer 定義**」(EJCODEF) ビューには、CorbaServer 定義の物理的および操作面の特性に関する情報が表示されます。

CorbaServer 定義は、CICS TS for z/OS バージョン 5.1 以降を実行している CICS 領域にインストールすることはできません。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**CorbaServer 定義**」

表 248. 提供された「 CorbaServer 定義 」(EJCODEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CorbaServer 定義 EYUSTARTEJCODEF.ADDTOGRP	1 つ以上の CorbaServer 定義をリソース・グループに追加します。
CorbaServer 定義 EYUSTARTEJCODEF.CREATE	CorbaServer 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CorbaServer 定義 EYUSTARTEJCODEF.DETAILED	選択した CorbaServer 定義に関する詳細情報
CorbaServer 定義 EYUSTARTEJCODEF.INSTALL	CorbaServer 定義をアクティブなシステムにインストールします。
CorbaServer 定義 EYUSTARTEJCODEF.REMOVE	データ・リポジトリから CorbaServer 定義を除去します。
CorbaServer 定義 EYUSTARTEJCODEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての CorbaServer 定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 249. EJCODEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上の CorbaServer 定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	CorbaServer 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	CorbaServer 定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから CorbaServer 定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある CorbaServer 定義を更新します。

フィールド

表 250. EJCODEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
宣言 ID プロトコル用の TCP/IP サービス	ASSERTED	宣言 ID 認証を使用して、インバウンド IIOP で使用されるポートの特性を定義する TCIPSERVICE の 8 文字の名前。
Java naming directory (JNDI) への Bean の自動公表	AUTOPUBLISH	<p>DJAR 定義がこの CorbaServer に正常にインストールされたときに、配置 JAR ファイルの内容をネーム・スペースに自動的に公表するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - デプロイ済み JAR ファイルの内容はネーム・スペースに自動的に公表されません。 • YES - デプロイ済み JAR ファイルの内容はネーム・スペースに自動的に公表されます。 <p>AUTOPUBLISH の設定を変更すると、SET CORBASERVER コマンドが実行された後にインストールされた DJAR 定義にのみ影響します。これは、以前にインストールされた DJAR 定義には影響しません。</p>
Secure sockets layer (SSL) クライアント証明書	CERTIFICATE	<p>アウトバウンド IIOP 接続用の SSL ハンドシェークにおいて、クライアント証明書として使用される鍵リング内の証明書のラベルが入っている 32 文字の領域。ラベルがブランクである場合、鍵リングのデフォルトとして指定された証明書が使用されます。この証明書内の識別名は、Distinguished Name URM (DFHEJDNX) に入力データを提供するのに使用されます。</p> <p>注: このフィールドに 32 文字を超える値を入力すると、最初の 32 文字のみが使用されます。</p>
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
SSL 暗号スイート・コード	CIPHERS	2 桁の暗号スイート・コードを最大 28 個含むリストとして解釈される、最大 56 桁の 16 進数字のストリングを指定します。リソースを定義すると、CICS は、デフォルトの許容コード・リストに従ってその属性を自動的に初期化します。暗号コードを再配列したり、初期リストから削除したりできます。ただし、指定した暗号化レベルのデフォルト・リストに含まれていない暗号コードを追加することはできません。値をコードのデフォルト・リストにリセットするには、暗号化スイート・コードをすべて削除してください。フィールドにデフォルト・リストが自動的に再設定されます。
クライアント証明プロトコル用 TCP/IP サービス	CLIENTCERT	SSL クライアント証明書による認証を使用して、インバウンド IIOP で使用されるポートの特性を定義する TCIPSERVICE の 8 文字の名前。この属性はオプションです。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	CorbaServer 定義の説明。

表 250. EJCODEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
CICS-配置 JAR ファイル・ピックアップ・ディレクトリー	DJARDIR	1 から 255 文字の、zFS の配置 JAR ファイル・ディレクトリー (ピックアップ・ディレクトリーとしても知られる) の完全修飾名。これが指定される場合、DJARDIR は CICS 領域が少なくとも読み取り権限を持つ有効な zFS ディレクトリーを参照している必要があります。
TCP/IP ホスト・アドレス	HOST	この論理 EJB/CORBA サーバーの 255 文字のホスト名 (例えば、www.example.com)、ドット 10 進 IPv4 アドレス (例えば、9.20.181.3)、またはコロン区切りの 16 進数 IPv6 アドレス (例えば、ABCD:EF01::2345:6789)。IPv4 互換 IPv6 アドレス (非推奨) または IPv4 にマップされる IPv6 アドレス (例えば ::FFFF:1.2.3.4) として IPv4 アドレスが入力される場合、標準の IPv4 小数点付き 10 進数アドレスに変換されます。CICS Transaction Server for z/OS バージョン 3 リリース 2 およびそれ以前のリリースでは IPv6 アドレスを使用しないでください。このホスト名は、この論理サーバー内のオブジェクト用にエクスポートされた相互運用オブジェクト参照 (IOR) に含まれています。クライアントは、CICS リスナー領域のアクセスにこのホスト名を使用 する必要があります。
Java naming directory (JNDI) 接頭部	JNDIPREFIX	最大 255 文字の JNDI 接頭部。エンタープライズ Bean が Java Naming and Directory Interface (JNDI) に公表された場合に使用されます。クライアントが JNDI を使用して Bean の ホーム・インターフェースへの参照を取得するとき、JNDIPREFIX 属性がクライアントに指定された 接頭部と一致している必要があります。
名前	NAME	CorbaServer 定義の名前。
アウトバウンド・プライバシー	OUTPRIVACY	これは CICS TS バージョン 3 リリース 1 以降廃止されています。アウトバウンド SSL 接続をオープンしたときに暗号スイートを使用するかどうかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> NOTSUPPORTED - 暗号化は使用されません。SSL ハンドシェイク中に、CICS は、暗号化を提供しないサポートされた暗号スイートのみを公示します。 REQUIRED - 暗号化が使用されます。SSL ハンドシェイク中に、CICS は、暗号化を提供するサポートされた暗号スイートのみを公示します。 SUPPORTED - クライアントとサーバーの両方がサポートする場合に暗号化を使用します。SSL ハンドシェイク中に、CICS は、サポートされる暗号スイートをすべて公示します。
TCP/IP ポート番号	PORT	この属性は廃止されており、サポートされていません。
Session Bean タイムアウト (DDHHMM)	SESSBEANTIME	セッション Bean が CICS によって破棄されるまでの非活動期間 (日、時間、および分): <ul style="list-style-type: none"> 00,00,00 - セッション Bean はタイムアウトになりません。 00,00,10 - セッション Bean は非アクティブになってから 10 分後に破棄できます。これはデフォルト値です。 dd, hh, mm - セッション Bean は指定された非アクティブ期間が経過した後に破棄できます。指定できる最大値は、99 日、23 時間、および 59 分です。
zSeries ファイル・システム (zFS) シェルフ・ディレクトリー	SHELF	1 から 255 文字の、zFS のディレクトリー (シェルフ、主に配置 JAR ファイル用) の完全修飾名。CORBASERVER 定義がインストールされている CICS 領域には、シェルフ・ディレクトリーに対する読み取りと書き込みの完全許可、およびサブディレクトリーを作成する機能がなければなりません。
Secure sockets layer (SSL) 使用率	SSL	この属性は廃止されており、サポートされていません。
Secure sockets layer (SSL) ポート番号	SSLPORT	この属性は廃止されており、サポートされていません。
SSL AUTHENTICATE=NO プロトコル用の TCP/IP サービス	SSLUNAUTH	SSL を使用して (クライアント認証は使用しない)、インバウンド IIOP で使用されるポートの特性を定義する TCPIPSERVICE の 8 文字の名前。この属性はオプションです。
状況	STATUS	CorbaServer を使用可能な状態と使用不可の状態のどちらの状態でインストールするかを指定します。デフォルトでは使用可能です。

表 250. EJCODEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
非認証プロトコル用 TCP/IP サービス	UNAUTH	認証を行わないインバウンド IIOP で使用するポートの特性を定義する TCPIPSERVICE の 8 文字の名前。CORBASERVER の定義時に、この CORBASERVER に対するすべてのインバウンド要求を認証する必要がある場合でも、UNAUTH 属性に値を指定する必要があります。これは、この論理サーバーからエクスポートされる IOR を構成するために、TCPIPSERVICE の PORTNUMBER 属性が必要なためです。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

DB2 接続定義 - DB2CDEF

「**DB2 接続定義**」(DB2CDEF) ビューは、DB2 接続機能を介する CICS 領域と DB2 サブシステムとの間の接続定義の全体的な特性に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**DB2 接続定義**」

表 251. 提供された「 DB2 接続定義 」(DB2CDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
DB2 接続定義 EYUSTARTDB2CDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の接続定義をリソース・グループに追加します。
DB2 接続定義 EYUSTARTDB2CDEF.CREATE	接続定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
DB2 接続定義 EYUSTARTDB2CDEF.DETAILED	選択した接続定義に関する詳細情報
DB2 接続定義 EYUSTARTDB2CDEF.INSTALL	接続定義をアクティブなシステムにインストールします。
DB2 接続定義 EYUSTARTDB2CDEF.REMOVE	データ・リポジトリから接続定義を除去します。
DB2 接続定義 EYUSTARTDB2CDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての DB2 接続定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 252. DB2CDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上の接続定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	接続定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。

表 252. DB2CDEF ビューで使用可能なアクション (続き)	
アクション	説明
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	接続定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから接続定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の接続定義を更新します。

フィールド

表 253. DB2CDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
会計レコード・オプション	ACCOUNTREC	<p>これは、CICS DB2 接続機構が DB2 アカウンティング・レコードを作業単位(UOW)ごと、transid ごと、またはトランザクションごとに生成するか、あるいはプール・スレッドを使用するトランザクションでは生成しないかを規定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> NONE - アカウント・レコードはカットされません。 TXID - CICS 接続機能では、スレッドを使用している transid が変更されたときにのみアカウンティング・レコードをカットします。 TASK - CICS 接続機能では、タスクごとに最低 1 つのアカウンティング・レコードをカットします。 UOW - CICS 接続機能では、スレッドが同期点で解放された場合に、UOW ごとにアカウンティング・レコードをカットします。
プール・スレッド許可 ID	AUTHID	プール・スレッドを使用する際のセキュリティ 検査に使用されるユーザー ID。プール・スレッド許可 ID が指定された場合、プール・スレッド許可タイプは適用されません。
プール・スレッド許可タイプ	AUTHTYPE	<p>プール・スレッドを使用する際のセキュリティ 検査に使用されるユーザー ID のタイプ。プール・スレッド許可タイプが指定される場合、許可 ID はブランクに設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> GROUP - 8 文字の USERID と接続されたグループ名が許可 ID として使用されます。 SIGN - db2conn の SIGNID パラメーターが許可 ID として使用されます。 TERM - 端末識別名が許可 ID として使用されます。 TX - トランザクション ID が許可 ID として使用されます。 OPID - ユーザー・オペレーター ID が許可 ID として使用されます。 USERID - CICS トランザクションに関連付けられている 8 文字のユーザー ID が許可 ID として使用されます。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラム マプル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSEBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
コマンド・スレッド許可 ID	COMAUTHID	コマンド・スレッドを使用する際のセキュリティ 検査に使用されるユーザー ID。COMAUTHID が指定された場合、COMAUTHTYPE は適用外に設定されます。

表 253. DB2CDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
コマンド・スレッド許可タイプ	COMAUTHTYPE	<p>コマンド・スレッドを使用する際のセキュリティ検査に使用されるユーザー ID のタイプを示します。COMAUTHTYPE が指定される場合、COMAUTHID はブランクに設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> CGROUP - 8 文字のユーザー ID と接続されたグループ名が許可 ID として使用されます。 CSIGN - DB2 接続の SIGNID パラメーターが許可 ID として使用されます。 CTERM - 端末識別名が許可 ID として使用されます。 CTX - トランザクション ID が許可 ID として使用されます。 COPID - ユーザー・オペレーター ID が許可 ID として使用されます。 CUSERID - CICS トランザクションに関連付けられている 8 文字のユーザー ID が許可 ID として使用されます。
最大コマンド・スレッド数	COMTHREADLIM	現在 CICS DB2 接続機能でアクティブにできるコマンド・スレッドの最大数。この数を超えた要求はオーバーフローしてプールに入ります。有効な範囲は 0 から 2000 までです。
接続エラー処理オプション	CONNECTERROR	<p>接続機能が「待機モード」にあるため、CICS が DB2 に接続されないという情報を、SQL 要求を発行したアプリケーションに報告する方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ABEND - アプリケーションは AEY9 という異常終了コードで異常終了します。 SQLCODE - アプリケーションは -923 sqlcode を受け取ります。STANDBYMODE が NOCONNECT に設定されている場合は、SQLCODE を指定できません。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
DB2 データ共用グループ ID	DB2GROUPID	DB2 サブシステムのデータ共用グループのグループ ID (最大 4 文字) を指定します。グループ接続機能は、CICS をこのデータ共用グループの任意のアクティブ・メンバーに接続します。グループ ID は、DB2 に定義されたグループ接続名と一致している必要があります。DB2 V10 の場合は、グループ ID と、データ共用グループのサブセットを識別するサブグループ添付名が一致してもかまいません。DB2GROUPID 属性がブランクのままである場合、グループ接続は使用されません。DB2GROUP ID と DB2ID の両方を指定することはできません。
DB2 サブシステム ID	DB2ID	<p>CICS DB2 接続機能の接続先となる DB2 サブシステムの名前を指定します。デフォルトでは、このフィールドはブランクです。グループ接続を使用する場合、DB2CONN 定義に DB2ID ではなく DB2GROUPID を指定します。インストール済み DB2CONN 定義に設定された DB2ID は、DSNC STRT コマンドで指定された DB2 サブシステム ID、または SET DB2CONN コマンドに指定された DB2ID で指定変更することができます。インストール済み DB2CONN 定義の DB2ID をブランクのままにし、DB2GROUPID もブランクにする場合は、INITPARM システム初期設定パラメーターに DB2 サブシステム ID を指定できます。これらのどの方法でも DB2 サブシステム ID を指定せず、DB2GROUPID も指定しない場合、接続が試行されると、デフォルトのブランクの DB2ID が DSN に置き換えられます。</p>
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	DB2 接続定義の説明。

表 253. DB2CDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
デッドロック解決のロールバック・オプション	DROLLBACK	<p>デッドロックを解決するための犠牲としてトランザクションが選択された場合に、CICS DB2 接続機能が SYNCPOINT ROLLBACK を開始するかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - 制御をアプリケーションに戻す前に、接続機能によって同期点ロールバックが発行されます。SQL 戻りコードの -911 がプログラムに戻されます。エンタープライズ Bean を OTS トランザクションの一部として実行する トランザクションがプールを使用する場合は、YES を指定しないでください。OTS トランザクション では、CICS の同期点ロールバックは許可されません。エンタープライズ Bean を OTS トランザクションの一部として実行するトランザクション用に、DROLLBACK (NO)を指定する DB2ENTRY を定義することを考えてください。 • NO - 接続機能によってトランザクションのロールバックは開始されません。SQL 戻りコードの -913 がアプリケーションに戻されます。
非送信請求エラー・メッセージ TDQ 名 1	MSGQUEUE1	CICS DB2 接続機能からの非送信請求メッセージの送信先となる、最初の一時データ宛先。この最初の宛先は、ブランクにすることはできません。
非送信請求エラー・メッセージ TDQ 名 2	MSGQUEUE2	CICS DB2 接続機能からの非送信請求メッセージの送信先となる、2 番目の一時データ宛先。
非送信請求エラー・メッセージ TDQ 名 3	MSGQUEUE3	CICS DB2 接続機能からの非送信請求メッセージの送信先となる、3 番目の一時データ宛先。
名前	NAME	DB2 接続定義の名前。
非端末トランザクションのスレッド解放オプション	NONTERMREL	<p>非端末トランザクションが、中間同期点での再使用のためにスレッドを解放するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - 非端末トランザクションは、中間同期点での再使用のためにスレッドを解放しません。 • YES - 非端末トランザクションによって、中間の同期点での再利用のためにスレッドが解放されます。
プールに使用される計画名	PLAN	すべてのプール・スレッドに対して使用される計画の名前。PLAN を指定する場合、PLANEXITNAME は指定できません。PLAN も PLANEXITNAME も指定されない場合は、CICS によりインストール時に PLANEXITNAME が 'DSNCUEXT' に設定されます。
プール・スレッドに使用される動的計画出口ルーチン名	PLANEXITNAME	プール・スレッドに使用される動的計画出口の名前。プールのためのアクティブなトランザクションがある間に PLAN および PLANEXITNAME を変更する場合、次にトランザクションがスレッドを解放するときに、計画/出口が新しい規則を使用して判別されます。PLANEXITNAME を指定する場合、PLAN は指定できません。PLAN も PLANEXITNAME も指定されない場合は、CICS によりインストール時に PLANEXITNAME が 'DSNCUEXT' に設定されます。
TCB 優先順位	PRIORITY	<p>プール・スレッドのサブタスクの、CICS メインタスクに対する相対的な優先度。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HIGH - TCB は CICS (QR TCB) よりも高い優先度を得ます。 • EQUAL - TCB は CICS (QR TCB) と同じ優先度を持ちます。 • LOW - TCB は CICS (QR TCB) よりも低い優先度を持ちます。
保護スレッド・パージ周期 (分)	PURGECYCLEM	<p>保護スレッド・パージ周期の分数による長さ。PURGECYCLEM の範囲は、0 から 59 までです。</p> <p>保護されているスレッドは、解放されてもすぐには終了しません。その間に再利用されていなければ、それは 2 つの完全なサイクル 周期の後のみに終了します。そのため、パージ周期が解放後 30 秒に設定された場合、保護スレッドは解放後 30 から 60 秒でパージされます。保護されていないスレッドは、その DB2ENTRY 上にスレッドを待っているトランザクションが他にない場合、解放時（同期点またはタスクの終了時）に終了します。</p>

表 253. DB2CDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
保護スレッド・パージ周期 (秒)	PURGECYCLES	<p>保護スレッド・パージ周期の秒数による長さ。範囲は 0 から 59 です。PURGECYCLES がゼロの場合、PURGECYCLES の最小値は 5 秒になります。</p> <p>保護されているスレッドは、解放されてもすぐには終了しません。その間に再利用されていなければ、それは 2 つの完全なサイクル周期の後にのみ終了します。そのため、パージ周期が解放後 30 秒に設定された場合、保護スレッドは解放後 30 から 60 秒でパージされます。保護されていないスレッドは、その DB2ENTRY 上にスレッドを待っているトランザクションが他にない場合、解放時（同期点またはタスクの終了時）に終了します。</p>
再同期メンバー	RESYNCMEMBER	<p>これはグループ接続を使用する場合にのみ適用され、CICS が最後に接続された DB2 データ共用グループ・メンバーに関する未解決の作業単位が保持されている場合に、CICS が採用するストラテジーを指定します。(未確定で中断された作業単位は、この時点では CICS 自体で解決できないため、このプロセスに含まれません。それらの UOW の再同期は、CICS がそのリモート・コーディネーターと再同期したときに生じます。)</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - CICS は同じ DB2 データ共用グループ・メンバーと接続します。 • NO - CICS は同じ DB2 データ共用グループ・メンバーとの接続を 1 回試行します。その試行が失敗した場合、CICS は DB2 データ共用グループのいずれかのメンバーと接続して、未解決の作業単位に関する警告を発行します。INQUIRE DB2CONN RESYNCMEMBER コマンドを実行した場合、グループ接続を使用していないと、「Not Applicable」値が返されます。
スレッドの再利用制限	REUSELIMIT	<p>プール・スレッドと DB2ENTRY スレッド (保護と無保護の両方) に適用されます。処理が待機中の場合であってもスレッドが強制終了する前に、スレッドを再利用できる最大回数を指定します。0 から 10,000 までの範囲の値を指定できます。デフォルトは 1000 です。値が 0 であるということは、スレッドを再利用できる回数に制限がないことを指定します。</p>
CICS-DB2 接続で使用されている許可 ID	SIGNID	<p>プール、AUTHTYPE(SIGN) を指定する DB2ENTRY スレッド、および COMAUTHTYPE(CSIGN) を指定するコマンド・スレッドのために DB2 にサインオンする際、CICS DB2 接続機能で使用する許可 ID。デフォルトはブランクで、これは DB2CONN のインストール時に CICS システムの APPLID によって置き換えられます。注: SIGNID 属性にユーザー ID を指定した場合、CICS はインストールを実行しているユーザー ID に対して代理ユーザー検査を実行します。同様に、CICS の COLD スタートまたは初期始動時のグループ・リストのインストール中に、CICS 領域ユーザー ID に対して、代理ユーザー検査が行われます。</p>
待機モード	STANDBYMODE	<p>CICS から DB2 への接続の開始を試行するとき DB2 がアクティブでない場合に CICS DB2 接続機構が実行する処置。CVDA 値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NOCONNECT - CICS DB2 接続機構は終了します。 • CONNECT - CICS DB2 接続機構は「待機モード」になり、DB2 を待機します。 • RECONNECT - CICS DB2 接続機構は「待機モード」になり、DB2 を待機します。DB2 に接続されると、その後 DB2 が失敗した場合に CICS DB2 接続機構は再び待機モードに戻り、その後 DB2 が再びアクティブになるときに再接続します。
接続統計 TDQ 名	STATSQUEUE	<p>これは CICS DB2 接続がシャットダウンするときに統計の送信先となる一時データ・キューの名前を示します。</p>
DB2 への接続の最大数	TCBLIMIT	<p>DB2 要求の処理に使用可能な TCB の最大数。デフォルトは 12 です。最小数は 4 で、最大数は 2000 です。接続先が DB2 バージョン 5 以前の場合、CICS DB2 接続機構は TCBLIMIT で指定された限度までサブタスクの形の TCB を作成します。これらのサブタスクのそれぞれが DB2 に認識され、各サブタスクが DB2 との接続を作成します。DB2 バージョン 6 またはそれ以降のバージョンに接続した場合、CICS はオープン TCB を作成します。DB2CONN 定義の TCBLIMIT 属性は、DB2 にアクセスするためにいくつかのオープン TCB を使用できるか、つまりそれらのいくつかが DB2 に識別されて DB2 への接続を作成できるかを規定します。</p>

表 253. DB2CDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
スレッド・エラー後のアクション	THREADERROR	<p>スレッドの作成エラーの後に発生する処理を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ABEND - 最初の SQL エラーが検出されると、CICS はエラーのタイプに応じて、異常終了コード AD2S、AD2T、または AD2U のトランザクション・ダンプをとります。最初のエラーについては、トランザクションは異常終了しません。2 度目またはその後の SQL エラーでは、トランザクションは異常終了コード AD2S、AD2T、または AD2U を出して異常終了します。別の SQL 要求の発行が許可される前に、トランザクションを終了して、再度初期化する必要があります。 • N906 - トランザクションに関連付けられた DSNCSQL RMI は、使用不可になりません。別の SQL 要求が発行された場合、トランザクションが SYNCPOINT ROLLBACK を発行しなければ、トランザクションは -906 SQLCODE を受け取ります。ROLLBACK オプションを指定しない SYNCPOINT では、ASP3 または ASP7 の異常終了が発生します。 • N906D - トランザクション・ダンプが取られ、トランザクションに関連付けられた DSNCSQL RMI は使用不可になりません。別の SQL が発行された場合、トランザクションが SYNCPOINT ROLLBACK を発行しなければ、トランザクションは -906 SQLCODE を受け取ります。ROLLBACK オプションを指定しない SYNCPOINT では、ASP3 または ASP7 の異常終了が発生します。トランザクション・ダンプは、AD2S、AD2T、または AD2U の異常終了を記録します。
最大プール・スレッド数	THREADLIMIT	<p>要求が待機になるか拒否される(THREADWAIT 属性による)まで、CICS DB2 接続機能がアクティブであることを許可するプール・スレッドの現在の最大数。また、デフォルトの threadlimit (3) は指定可能な最小数です。最大値は、TCBLIMIT に指定された 値を超えてはいけません。</p>
スレッド待機オプション	THREADWAIT	<p>アクティブなプール・スレッドの数がスレッド限界に達した場合に、トランザクションがプール・スレッドを待つまたは異常終了するかを指定します。THREADWAIT=NO がコーディングされているときにプール・スレッドの数を超えた場合、CICS DB2 接続機能が固有の異常終了コード AD3T、メッセージ DFHDB2011 を出します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - すべてのスレッドが使用中の場合、いずれかが使用可能になるまでトランザクションは待機する必要があります。一般にはスレッドが使用可能になるまで CICS が待機を許可する限り、トランザクションは待機することができます。 • NO - すべてのスレッドが使用中の場合、トランザクションは AD3T という異常終了コードで終了します。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	<p>BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。</p>
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	<p>BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。</p>
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	<p>BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。</p>

DB2 項目定義 - DB2EDEF

「**DB2 エントリー定義**」(DB2EDEF) ビューは、CICS DB2 接続機能によって使用されるエントリー・スレッド定義の属性についての情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**DB2 エントリー定義**」

表 254. 提供された「DB2 エントリー定義」(DB2EDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
DB2 エントリー定義 EYUSTARTDB2EDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のエントリー定義をリソース・グループに追加します。
DB2 エントリー定義 EYUSTARTDB2EDEF.CREATE	エントリー定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
DB2 エントリー定義 EYUSTARTDB2EDEF.DETAILED	選択したエントリー定義に関する詳細情報
DB2 エントリー定義 EYUSTARTDB2EDEF.INSTALL	エントリー定義をアクティブなシステムにインストールします。
DB2 エントリー定義 EYUSTARTDB2EDEF.REMOVE	データ・リポジトリからエントリー定義を除去します。
DB2 エントリー定義 EYUSTARTDB2EDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての DB2 エントリー定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 255. DB2EDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上のエントリー定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	エントリー定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	エントリー定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからエントリー定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のエントリー定義を更新します。

フィールド

表 256. DB2EDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
会計レコード・オプション	ACCOUNTREC	<p>これは、CICS DB2 接続機構が DB2 アカウンティング・レコードを作業単位(UOW)ごと、transid ごと、またはトランザクションごとに生成するか、あるいはプール・スレッドを使用するトランザクションでは生成しないかを規定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> NONE - アカウント・レコードはカットされません。 TXID - CICS 接続機能では、スレッドを使用している transid が変更されたときにのみアカウンティング・レコードをカットします。 TASK - CICS 接続機能では、タスクごとに最低 1 つのアカウンティング・レコードをカットします。 UOW - CICS 接続機能では、スレッドが同期点で解放された場合に、UOW ごとにアカウンティング・レコードをカットします。
スレッド許可 ID	AUTHID	プール・スレッドを使用する際のセキュリティ 検査に使用されるユーザー ID。スレッド許可 ID が指定された場合、許可タイプは適用されません。

表 256. DB2EDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
許可タイプ	AUHTYPE	<p>これは、プール・スレッドを使用する際のセキュリティ検査に使用されるユーザー ID のタイプを示します。許可タイプが指定された場合、スレッド許可 ID はブランクに設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> GROUP - 8 文字の ID と接続されたグループ名がスレッド許可 ID として使用されます。 SIGN - DB2 接続の SIGNID パラメーターがスレッド許可 ID として使用されます。 TERM - 端末識別名がスレッド許可 ID として使用されます。 TX - トランザクション ID がスレッド許可 ID として使用されます。 OPID - ユーザー・オペレーター ID がスレッド許可 ID として使用されます。 ID - CICS トランザクションに関連付けられている 8 文字のユーザー ID がスレッド許可 ID として使用されます。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSEBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	DB2 エントリー定義の説明。
デッドロック・ロールバック・オプション	DROLLBACK	<p>デッドロックを解決するための犠牲としてトランザクションが選択された場合に、CICS DB2 接続が同期点ロールバックを開始するかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> YES - 接続機能によって、制御をアプリケーションに戻す前に同期点ロールバックが発行されます。現在の UOW がロールバックされたことを示す SQL コードの -911 がアプリケーションに戻されます。 NO - 接続機能は、トランザクションのロールバックを開始しません。デッドロックまたはタイムアウトによって生じた実行不成功を示す SQL コードの -913 がアプリケーションに戻されます。
名前	NAME	DB2 エントリー定義の名前。
計画名	PLAN	すべてのプール・スレッドに対して使用される計画の名前。計画名を指定すると、動的計画出口名フィールドはブランクに設定されます。PLAN も PLANEXITNAME も指定されない場合は、CICS によりインストール時に PLANEXITNAME が 'DSNCUEXT' に設定されます。
動的計画出口ルーチン名	PLANEXITNAME	プール・スレッドに使用される動的計画出口の名前。動的計画出口名を指定すると、計画名フィールドはブランクに設定されます。PLAN も PLANEXITNAME も指定されない場合は、CICS によりインストール時に PLANEXITNAME が 'DSNCUEXT' に設定されます。

表 256. DB2EDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
TCB 優先順位	PRIORITY	CICS メインタスクに対する db2 エントリー TCB の相対的な優先度。 <ul style="list-style-type: none"> • HIGH - TCB は CICS (QR TCB) よりも高い優先度を得ます。 • EQUAL - TCB は CICS (QR TCB) と同じ優先度を持ちます。 • LOW - TCB は CICS (QR TCB) よりも低い優先度を持ちます。
最大保護スレッド数	PROTECTNUM	この DB2 エントリーに許可される保護スレッドの現在の最大数。
アクティブ・スレッドの最大数	THREADLIMIT	要求が待機になるか拒否される(THREADWAIT 属性による)まで、CICS DB2 接続機能がアクティブであることを許可するプール・スレッドの現在の最大数。また、デフォルトの threadlimit (3) は指定可能な最小数です。最大値は、TCBLIMIT に指定された 値を超えてはいけません。
スレッド待機オプション	THREADWAIT	アクティブなプール・スレッドの数が threadlimit の数に達した場合に、トランザクションがプール・スレッドを待つか異常終了するかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • YES - すべてのスレッドが使用中の場合、いずれかが使用可能になるまでトランザクションは待機します。 • NO - すべてのスレッドが使用中の場合、トランザクションは AD2P という異常終了コードで終了します。 • POOL - すべてのスレッドが使用中の場合、トランザクションはプール・スレッドを使用するように転換されます。プールも使用中で、DB2 接続の threadwait パラメーターに NOTWAIT が指定されている場合、トランザクションは異常終了コード AD3T で終了します。
トランザクション ID	TRANSID	エントリーに関連付けられたトランザクション ID。ここには 1 つのトランザクションだけを指定できます。ただし、1 つ以上のワイルドカード文字を使用して、トランザクションのグループを表すことができます。この DB2 項目を参照する DB2 トランザクションを定義することにより、この項目に追加のトランザクションを定義することができます。このフィールドは DB2 エントリーのオプションです。代わりに、DB2 トランザクションを使用して、すべてのトランザクションを DB2 項目に関連付けることができます。DB2 項目にトランザクションを 1 つだけ関連付ける場合は、DB2 項目で指定する方が容易です。注: ここにトランザクション ID を指定すると、DB2 エントリー定義のインストール時に「ゴーストの」DB2 トランザクション・オブジェクトが作成され、そのオブジェクトが SYSRES ビューおよび RDSCPROC ビューに表示されることがあります。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

DB2 トランザクションの定義 - DB2TDEF

「**DB2 トランザクション定義**」(DB2TDEF) ビューは、DB2 接続機能を介して DB2 サブシステムにアクセスする CICS トランザクションに必要なリソースについての情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**DB2 トランザクション定義**」

表 257. 提供された「DB2 トランザクション定義」(DB2TDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
DB2 トランザクション定義 EYUSTARTDB2TDEF.ADDTOGRP	1つ以上のトランザクション定義をリソース・グループに追加します。
DB2 トランザクション定義 EYUSTARTDB2TDEF.CREATE	トランザクション定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
DB2 トランザクション定義 EYUSTARTDB2TDEF.DETAILED	選択したトランザクション定義に関する詳細情報
DB2 トランザクション定義 EYUSTARTDB2TDEF.INSTALL	トランザクション定義をアクティブなシステムにインストールします。
DB2 トランザクション定義 EYUSTARTDB2TDEF.REMOVE	データ・リポジトリからトランザクション定義を除去します。
DB2 トランザクション定義 EYUSTARTDB2TDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての DB2 トランザクション定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 258. DB2TDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1つ以上のトランザクション定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	トランザクション定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	トランザクション定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからトランザクション定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のトランザクション定義を更新します。

フィールド

表 259. DB2TDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェン	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェン
最終変更をしたエージェン	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェン
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。

表 259. DB2TDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	DB2 トランザクション定義の説明。
関連した DB2 エントリーの名前	ENTRY	関連付けられた DB2 エントリー定義の名前。
名前	NAME	DB2 トランザクション定義の名前。
DB2 エントリーと関連するトランザクション ID	TRANSID	エントリーに関連付けられたトランザクション ID。ここには 1 つのトランザクションだけを指定できます。ただし、1 つ以上のワイルドカード文字を使用して、トランザクションのグループを表すことができます。この DB2 項目を参照する DB2 トランザクションを定義することにより、この項目に追加のトランザクションを定義することができます。このフィールドは DB2 エントリーのオプションです。1 つのトランザクションだけが DB2 エントリーに関連付けられる場合、そのトランザクションを DB2 エントリーで指定する方が容易です。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

文書テンプレートの定義 - DOCDEF

「文書テンプレート定義」(DOCDEF) ビューには、管理対象の CICS システムで使用する文書テンプレート定義に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「文書テンプレート定義」

表 260. 提供された「文書テンプレート定義」(DOCDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
文書テンプレート定義 EYUSTARTDOCDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の文書テンプレート定義をリソース・グループに追加します。
文書テンプレート定義 EYUSTARTDOCDEF.CREATE	文書テンプレート定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
文書テンプレート定義 EYUSTARTDOCDEF.DETAILED	選択した文書テンプレート定義に関する詳細情報
文書テンプレート定義 EYUSTARTDOCDEF.INSTALL	文書テンプレート定義をアクティブなシステムにインストールします。
文書テンプレート定義 EYUSTARTDOCDEF.REMOVE	データ・リポジトリから文書テンプレート定義を除去します。

表 260. 提供された「文書テンプレート定義」(DOCDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
文書テンプレート定義 EYUSTARTDOCDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての文書テンプレート定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 261. DOCDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の文書テンプレート定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	文書テンプレート定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	文書テンプレート定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから文書テンプレート定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある文書テンプレート定義を更新します。

フィールド

表 262. DOCDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
復帰改行 (CRLF) 追加オプション	APPENDCRLF	CICS が、PDS、FILE、TDQUEUE、または TS QUEUE からテンプレートの各論理レコードを読み取る際に、レコードから末尾ブランクを削除したり、復帰改行をレコードに追加したりするかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> YES - 復帰と改行のペアを追加し、末尾ブランクを除去する必要があります。 NO - 復帰と改行のペアを追加せず、末尾ブランクを除去する必要がありません。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラムマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
区分データ・セットの DD 名	DDNAME	PDS の DD 名。名前の最大長は 8 文字です。MEMBERNAME 属性の値を指定したが、DDNAME の値を指定しない場合、DFHHTML のデフォルト値が使用されます。この属性を指定した場合、EXITPGM、FILE、PROGRAM、TDQUEUE、TSQUEUE または HFSFILE を指定することはできません。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

表 262. DOCDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	文書テンプレート定義の説明。
文書コンテンツ・タイプ	DOCTYPE	テンプレート内容の書式を以下のいずれかに指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • BINARY - テンプレートをテンプレート・ライブラリーから読み込むときに、テンプレート内容の構文解析は行われません。 • EBCDIC - テンプレートをテンプレート・ライブラリーから読み込むときに、その内容の構文を EBCDIC テキストとして解析します。
出口ルーチン・プログラム名	EXITPGM	文書テンプレート用の出口プログラムの名前。名前の最大長は 8 文字です。この属性を指定した場合、DDNAME、FILE、MEMBERNAME、PROGRAM、TDQUEUE、TSQUEUE または HFSFILE を指定することはできません。
ファイル名 (File name)	FILE	テンプレートが CICS ファイルにある場合、そのファイルの名前。この名前は 8 文字の長さにできます。この属性を指定した場合、DDNAME、EXITPGM、MEMBERNAME、PROGRAM、TDQUEUE、TSQUEUE または HFSFILE を指定することはできません。
zSeries ファイル・システムのテンプレート・ファイル	HFSFILE	テンプレートが z/OS UNIX System Services ファイルにある場合は、ここに z/OS UNIX ファイルの完全修飾 (絶対) 名または相対名を指定します。この名前には、すべてのディレクトリーを含む、スラッシュで始まる絶対名を指定することができます。例えば、/u/facts/images/bluefish.jpg のようになります。あるいは、CICS 領域のユーザー ID の HOME ディレクトリーに対する相対名 (例えば、facts/images/bluefish.jpg) として指定することができます。最大で 255 文字を入力できます。この属性を指定した場合、DDNAME、EXITPGM、FILE、MEMBERNAME、PROGRAM、TDQUEUE または TSQUEUE を指定することはできません。
区分データ・セットのメンバー	MEMBERNAME	テンプレートが MVS 区分データ・セット (PDS) にある場合、テンプレートが入っているメンバーの名前を指定します。名前の最大長は 8 文字です。この属性を指定した場合、EXITPGM、FILE、PROGRAM、TDQUEUE、TSQUEUE または HFSFILE を指定することはできません。
名前	NAME	文書テンプレート定義の名前。
プログラム名	PROGRAM	テンプレートが CICS プログラムにある場合、そのプログラムの名前を指定します。名前の最大長は 8 文字です。この属性を指定した場合、DDNAME、EXITPGM、FILE、MEMBERNAME、TDQUEUE、TSQUEUE または HFSFILE を指定することはできません。
一時データ・キュー名	TDQUEUE	テンプレートが一時データ・キューにある場合、そのキューの名前を指定します。名前の長さは最大 4 文字です。この属性を指定した場合、DDNAME、EXITPGM、FILE、MEMBERNAME、PROGRAM、TSQUEUE または HFSFILE を指定することはできません。
文書テンプレート名	TEMPLATENAME	テンプレートを使用するアプリケーション・プログラムがテンプレートを識別する名前。名前は最大 48 文字です。値が指定されないと、デフォルトで文書テンプレート定義の名前 (1 から 8 文字) になります。
一時記憶域キュー名	TSQUEUE	テンプレートが一時記憶域キューにある場合、そのキューの名前を指定します。名前の長さは 16 文字以内です。この属性を指定した場合、DDNAME、EXITPGM、FILE、MEMBERNAME、PROGRAM、TDQUEUE または HFSFILE を指定することはできません。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

FEPI ノード定義 - FENODDEF

「FEPI ノード定義」(FENODDEF) ビューには、FEPI ノード定義の物理的および操作面の特性に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「FEPI ノード定義」

表 263. 提供された「FEPI ノード定義」(FENODDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
FEPI ノード定義 EYUSTARTFENODDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の FEPI ノード定義をリソース・グループに追加します。
FEPI ノード定義 EYUSTARTFENODDEF.CREATE	FEPI ノード定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
FEPI ノード定義 EYUSTARTFENODDEF.DETAILED	選択した FEPI ノード定義に関する詳細情報
FEPI ノード定義 EYUSTARTFENODDEF.INSTALL	FEPI ノード定義をアクティブなシステムにインストールします。
FEPI ノード定義 EYUSTARTFENODDEF.REMOVE	データ・リポジトリから FEPI ノード定義を除去します。
FEPI ノード定義 EYUSTARTFENODDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての FEPI ノード定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 264. FENODDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の FEPI ノード定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	FEPI ノード定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	FEPI ノード定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから FEPI ノード定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある FEPI ノード定義を更新します。

フィールド

表 265. FENODDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
獲得状況	ACQSTATUS	インストール中のノードの初期獲得状態。 リストされているノードの初期状態はすべて同じになります。 <ul style="list-style-type: none">ACQUIRED - ノードの VTAM ACB がオープンし、'set logon start' が実行されます。RELEASED - ノードの VTAM ACB はオープンしません。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none">DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。

表 265. FENODDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
バージョン	DEFVER	FEPI ノード・リスト定義のバージョン番号 (1 から 15)。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	FEPI ノード・リスト定義の説明。
名前	NAME	FEPI ノード定義の 1 文字から 8 文字までの名前。
ノード・リスト	NODELIST	8 文字のノード名の連続配列 (つまり、フロントエンドの VTAM アプリケーション・マイナー・ノード名)。名前に、ヌル文字 (X'00')、先行ブランク、または組み込みブランクを含めることはできません。最大 64 のノード名を指定できます。
パスワード・リスト	PASSWORDS	8 文字のパスワードの連続配列。これらは、NODELIST 内のノード名と 1 対 1 対応します。パスワードとは、VTAM がアプリケーションのマイナー・ノードにアクセスする際に必要となるパスワードのことです。パスワードを使用しない場合には、必要ありません。8 つのヌル文字 (X'00') の値を使用すると、パスワードなしの状態になります。
ノード・サービス状況	SERVSTATUS	インストール中のノードの初期サービス状態。リストされているノードの初期状態はすべて同じになります。 <ul style="list-style-type: none"> INSERVICE - ノードはサービス中であり、会話で使用することができます。 OUTSERVICE - ノードはサービス中ではなく、会話では使用できません。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。

FEPI プール定義 - FEPOODEF

「**FEPI プール定義**」(FEPOODEF) ビューには、FEPI プール定義の物理的および操作面の特性に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**FEPI プール定義**」

表 266. 提供された「 FEPI プール定義 」(FEPOODEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
FEPI プール定義 EYUSTARTFEPOODEF.ADDTOGRP	1 つ以上の FEPI プール定義をリソース・グループに追加します。
FEPI プール定義 EYUSTARTFEPOODEF.CREATE	FEPI プール定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。

表 266. 提供された「FEPI プール定義」(FEPOODEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
FEPI プール定義 EYUSTARTFEPOODEF.DETAILED	選択した FEPI プール定義に関する詳細情報
FEPI プール定義 EYUSTARTFEPOODEF.INSTALL	FEPI プール定義をアクティブなシステムにインストールします。
FEPI プール定義 EYUSTARTFEPOODEF.REMOVE	データ・リポジトリから FEPI プール定義を除去します。
FEPI プール定義 EYUSTARTFEPOODEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての FEPI プール定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 267. FEPOODEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の FEPI プール定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	FEPI プール定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	FEPI プール定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから FEPI プール定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある FEPI プール定義を更新します。

フィールド

表 268. FEPOODEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
プール獲得状況	ACQSTATUS	作成中の接続の初期獲得状態。新しい接続の初期状態はすべて同じになります。 <ul style="list-style-type: none"> ACQUIRED - 接続はセッションを確立します。 RELEASED - 接続はセッションを確立しません。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
バージョン	DEFVER	FEPI プール定義のバージョン番号 (1 から 15)。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	FEPI プール定義の説明。
名前	NAME	FEPI プール定義の名前。
ノード・リスト	NODELIST	プール内に新しい接続を作成するのに使用するノード名。最大で 128 個のノード名を指定できます。リスト内の各ノード名の長さは、8 文字でなければなりません。8 文字に満たないノード名には、8 文字になるまでブランクが埋め込まれます。これらの名前は、対応する FENODDEF を作成することによって定義されます。
プロパティ・セット名	PROPERTYSET	FEPI プールのプロパティのセットの 1 文字から 8 文字までの名前。

表 268. FEPOODEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
プール・サービス状況	SERVSTATUS	インストール中のプールおよび作成中の接続の初期サービス状態。新しい接続の初期状態はすべて同じになります。 <ul style="list-style-type: none"> INSERVICE - プールおよび接続はサービス中であり、会話で使用することができます。 OUTSERVICE - プールおよび接続はサービス中ではなく、会話では使用できません。
ターゲット領域リスト	TARGETLIST	プール内に新しいターゲットを作成するのに使用するターゲット名。最大で 32 個のターゲット名を指定できます。リスト内の各ターゲット名の長さは、8 文字でなければなりません。8 文字に満たないターゲット名には、8 文字になるまでブランクが埋め込まれます。これらの名前は、対応する FETRGDEF を作成することによって定義されます。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。

FEPI プロパティ・セット定義 - FEPRODEF

「**FEPI プロパティ・セット定義**」(FEPRODEF) ビューには、FEPI プロパティ・セット定義の物理的および操作面の特性に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**FEPI プロパティ・セット定義**」

表 269. 提供された「 FEPI プロパティ・セット定義 」(FEPRODEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
FEPI プロパティ・セット定義 EYSTARTFEPRODEF.ADDTOGRP	1 つ以上の FEPI プロパティ・セット定義をリソース・グループに追加します。
FEPI プロパティ・セット定義 EYSTARTFEPRODEF.CREATE	FEPI プロパティ・セット定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
FEPI プロパティ・セット定義 EYSTARTFEPRODEF.DETAILED	選択した FEPI プロパティ・セット定義に関する詳細情報
FEPI プロパティ・セット定義 EYSTARTFEPRODEF.INSTALL	FEPI プロパティ・セット定義をアクティブなシステムにインストールします。
FEPI プロパティ・セット定義 EYSTARTFEPRODEF.REMOVE	データ・リポジトリから FEPI プロパティ・セット定義を除去します。
FEPI プロパティ・セット定義 EYSTARTFEPRODEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての FEPI プロパティ・セット定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 270. FEPRODEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の FEPI プロパティ・セット定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	FEPI プロパティ・セット定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	FEPI プロパティ・セット定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから FEPI プロパティ・セット定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある FEPI プロパティ・セット定義を更新します。

フィールド

表 271. FEPRODEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
セッション開始トランザクション	BEGINSESSION	(オプション。)セッションが確立されたら即時にセッション開始処理を実行するトランザクションの名前を指定します。このオプションを省略すると、ユーザー提供のセッション開始処理は行われません。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
コンテンション解消結果	CONTENTION	EXEC CICS FEPI SEND コマンドが発行され、開始ブラケットを含むインバウンド・データが存在する場合のアクションを示します。オプションは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> LOSE - EXEC CICS FEPI SEND コマンドは失敗します。EXEC CICS FEPI RECEIVE コマンドを発行してインバウンド・データを取得する必要があります。 WIN - EXEC CICS FEPI SEND コマンドは成功します。インバウンド・データは否定応答で拒否されます。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
バージョン	DEFVER	FEPI プロパティ・セット定義のバージョン番号 (1 から 15)。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	FEPI プロパティ・セット定義の説明。
デバイス・タイプ	DEVICE	シミュレートされる LU モードおよび装置タイプ。オプションは次のとおりです。T3278M2、T3278M3、T3278M4、T3278M5、T3279M2、T3279M3、T3279M4、T3279M5、TPS55M2、TPS55M3、TPS55M4、LUP。
セッション終了トランザクション	ENDSESSION	(オプション。)会話が終了したか、あるいはセッションを終了するときに、セッション終了処理を実行するトランザクションの名前。このオプションを省略すると、ユーザー提供のセッション終了処理は行われません。
例外を保持している TDQ キュー	EXCEPTIONQ	プール固有の例外イベントが書き込まれる一時データ・キューの名前。このオプションを省略すると、ユーザー提供の例外イベント・キュー処理は行われません。
ジャーナル名	FJOURNALNAME	(オプション。)データが記録されるジャーナルの名前。値が省略されると、ジャーナル処理は行われません。
ジャーナル番号	FJOURNALNUM	(オプション。)範囲が 1 (デフォルト) から 99 までの、データがログに記録されるジャーナルの数。値が 0 (ゼロ) あるいは省略されると、ジャーナル処理は行われません。

表 271. FEPRODEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
データ形式	FORMAT	<p>SLU2 モードの場合、以下のデータ・モードが使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FORMATTED - フォーマットされた操作。文字属性は、アウトバウンド・データではサポートされず、インバウンド・データでは無視されます。 • DATASTREAM - データ・ストリーム操作。
初期インバウンド・データ・オプション	INITIALDATA	<p>セッションの開始時に初期インバウンド・データが予期されるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NOTINBOUND - インバウンド・データは予期されません。 • INBOUND - インバウンド・データが予期されます。
戻りデータの最大長	MAXLENGTH	<p>1 つの会話で FEPI RECEIVE、CONVERSE、または EXTRACT FIELD コマンドから戻せるデータ、または、FEPI SEND または CONVERSE コマンドから送信できるデータの最大長。この値は、FEPI がより効率的にストレージを使用するのに役立ちます。このため、必要な分だけこの値を設定してください。これは、128 から 1048576 の範囲内でなければなりません。この値を省略した場合、デフォルト値 4096 が使用されます。</p>
ジャーナル状況	MSGJRNL	<p>バックエンド・システムとの間で必要なデータのジャーナル処理を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NOMSGJRNL - ジャーナル処理なし。 • INPUT - インバウンド・データのジャーナル処理。 • OUTPUT - アウトバウンド・データのジャーナル処理。 • INOUT - インバウンドおよびアウトバウンド・データのジャーナル処理。
名前	NAME	FEPI プロパティ・セット定義の名前。
設定 / テスト順序番号 (STSN) トランザクション	STSN	<p>(オプション。) 「設定 / テスト順序番号」を処理するのに開始されるトランザクションの名前 (SLU P モードの場合のみ)。この値を省略すると、ユーザー提供の STSN 処理は行われません。FEPI は STSN を自動的に処理します。</p>
非送信請求データ・トランザクション	UNSOLDATA	<p>(オプション。) 非送信請求データを処理するトランザクションの名前。トランザクション名を指定しないと、ユーザー提供の非送信請求データの処理は行われません。非送信請求データ応答と非送信請求データ・トランザクション・フィールドは相互に排他的です。</p>
非送信請求データ応答	UNSOLDATAACK	<p>(オプション。) 肯定応答 FEPI は、非送信請求データ処理が行われない場合に提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NEGATIVE - 否定応答 X'0813'。BID は受け入れられません。 • POSITIVE - 肯定応答。BID は受け入れられ、後続のデータは受け入れられた後に破棄されます。このオプションを省略すると、非送信請求データは、非送信請求データ・トランザクション・フィールドで指定されたトランザクションによって処理されます。非送信請求データ応答と非送信請求データ・トランザクション・フィールドは相互に排他的です。 • NOTAPPLIC - これら 2 つのフィールドは相互に排他的であるため、非送信請求データ・トランザクション・フィールドが非ブランクである場合は、この値を選択しなければなりません。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。

FEPI ターゲット定義 - FETRGDEF

「FEPI ターゲット定義」(FETRGDEF) ビューには、FEPI ターゲット定義の物理的および操作面の特性に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「FEPI ターゲット定義」

表 272. 提供された「FEPI ターゲット定義」(FETRGDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
FEPI ターゲット定義 EYUSTARTFETRGDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の FEPI ターゲット定義をリソース・グループに追加します。
FEPI ターゲット定義 EYUSTARTFETRGDEF.CREATE	FEPI ターゲット定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
FEPI ターゲット定義 EYUSTARTFETRGDEF.DETAILED	選択した FEPI ターゲット定義に関する詳細情報
FEPI ターゲット定義 EYUSTARTFETRGDEF.INSTALL	FEPI ターゲット定義をアクティブなシステムにインストールします。
FEPI ターゲット定義 EYUSTARTFETRGDEF.REMOVE	データ・リポジトリから FEPI ターゲット定義を除去します。
FEPI ターゲット定義 EYUSTARTFETRGDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての FEPI ターゲット定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 273. FETRGDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上の FEPI ターゲット定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	FEPI ターゲット定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	FEPI ターゲット定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから FEPI ターゲット定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある FEPI ターゲット定義を更新します。

フィールド

表 274. FETRGDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
バックエンド・システムの VTAM アプリケーション ID	APPLLIST	FEPI アプリケーションが通信するバックエンド CICS または IMS システムの VTAM アプリケーション名。これらは、ターゲット・リストにある名前と 1 対 1 で対応していなければなりません。最大で 64 の VTAM アプリケーションを指定できます。リスト内のそれぞれの名前の長さは、8 文字でなければなりません。8 文字に満たない名前には、8 文字になるまでブランクが埋め込まれます。それぞれの名前は、リスト内で固有のものでなければならず、ヌル文字 (X'00') や先行ブランクを含めることはできません。

表 274. FETRGDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
バージョン	DEFVER	FEPI ターゲット・リスト定義のバージョン番号 (1 から 15)。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	FEPI ターゲット・リスト定義の説明。
名前	NAME	FEPI ターゲット・リスト定義の名前。
サービス状況	SERVSTATUS	インストール中のプールおよび作成中の接続の初期サービス状態。新しい接続の初期状態はすべて同じになります。オプションは以下のとおりです。 • INSERVICE - プールおよび接続はサービス中であり、会話で使用することができます。 • OUTSERVICE - プールおよび接続はサービス中ではなく、会話では使用できません。
ターゲット・リスト	TARGETLIST	インストールされるターゲット名。ターゲット名は、バックエンド・システムの論理 FEPI フロントエンド名です。最大で 64 個のターゲット名を指定できます。リスト内のそれぞれの名前の長さは、8 文字でなければなりません。8 文字に満たない名前には、8 文字になるまでブランクが埋め込まれます。それぞれの名前は、リスト内で固有のものでなければならず、ヌル文字 (X'00') や先行ブランクを含めることはできません。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。

ファイル定義 - FILEDEF

「ファイル定義」(FILEDEF) ビューには、ファイル定義の物理的および操作上の特性に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「ファイル定義」

表 275. 提供された「ファイル定義」(FILEDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
ファイル定義 EYUSTARTFILEDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のファイル定義をリソース・グループに追加します。
ファイル定義 EYUSTARTFILEDEF.CREATE	ファイル定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。

表 275. 提供された「ファイル定義」(FILEDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
ファイル定義 EYUSTARTFILEDEF.DETAILED	選択したファイル定義に関する詳細情報
ファイル定義 EYUSTARTFILEDEF.INSTALL	ファイル定義をアクティブなシステムにインストールします。
ファイル定義 EYUSTARTFILEDEF.REMOVE	データ・リポジトリからファイル定義を除去します。
ファイル定義 EYUSTARTFILEDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのファイル定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 276. FILEDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上のファイル定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	ファイル定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	ファイル定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからファイル定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のファイル定義を更新します。

フィールド

表 277. FILEDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
ファイル・アクセス方式	ACCESSMETH	このファイルのアクセス方式を指定します(OS/2 用 CICS のみ)。値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • ESDS • KSDS • RRDS • KEYED • BDAM • VSAM • NOTAPPLIC
追加オプション	ADD	レコードをファイルに追加できるかどうかを指定します。
CICS VSAM ファイル・バックアップ・タイプ	BACKUPTYPE	CICS VSAM ファイルは、更新のために開いている時にバックアップに適格であるとして定義できます。可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • DYNAMIC - これを ALL の RECOVERY 属性と共に指定すると、ファイルは更新用に開いている間バックアップの対象となります。 • STATIC - ファイルは更新のために開いているときはバックアップに適格ではありません。
基本データ・セット名	BASENAME	ファイルと関連付けられたオブジェクトがパスである場合、VSAM パスと関連付けられた基本クラスターの 44 文字の名前。オブジェクトがパス以外である場合には、このオプションは DSNAME オプションと同じ値を戻します。(CICS for OS/2 のみ)
ブラウズ・オプション	BROWSE	レコードをファイルから順次取得できるかどうかを指定します。

表 277. FILEDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
VSAM カタログ名	CATNAME	VSAM カタログの名前。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
Control interval size (制御間隔サイズ)	CNTLINTRVAL	制御インターバルのサイズとして識別された最後の値(バイト単位)。(CICS for OS/2 のみ)
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
データ・バッファ数	DATABUFFERS	データに使用されるバッファの数。2 (デフォルト) から 32767 の範囲の値を使用します。指定可能な最小値は、STRINGS 属性で定義されたストリング数より 1 だけ大きい値です。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
削除オプション	DELETE	レコードをファイルから削除できるかどうかを指定します。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	ファイル定義の説明。
ファイル属性指定	DISPOSITION	このファイルの属性指定: <ul style="list-style-type: none"> • OLD - JCL の DISP=OLD パラメーターと同等です。 • SHARE - JCL の DISP=SHR パラメーターに相当。
Data set name (データ・セット名)	DSNAME	このファイルで使用するデータ・セット名(オペレーティング・システムで認知されているもの)。DSNAME は、MVS データ・セット名の規則に準拠した 1 から 44 文字のものを使用できます。
VSAM データ・セット名共用	DSNSHARING	VSAM ファイルで VSAM データ・セット名共用を使用するかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • ALLREQS - ファイルを開く時にデータ・セット名の共用が ACB に設定されるので、すべてのファイル要求で使用されます。 • MODIFYREQS - ファイルに DELETE、ADD、または UPDATE の操作が設定されている場合にのみ、ファイルを開く時にデータ・セット名共用が ACB に設定されます。
外部ファイル・マネージャーを使用	EXTFILEMGR	外部ファイル・マネージャーを使用するかどうかを指定します。(CICS for OS/2 のみ)
アクセス方式	FILEACCESS	このファイルのアクセス方式 (OS/2 用の CICS のみ)。値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • O • R • U

表 277. FILEDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ファイル使用可能状況	FILEENABLED	<p>トランザクションでファイルにアクセスできるかどうかを指定します (OS/2 用の CICS のみ)。値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> Y - Enabled - ファイルはトランザクションで使用可能です。ファイルが閉じた場合、最初の要求時に開きます。 U - Unenabled - 現在ファイルを使用しているトランザクションを除き、ファイルはトランザクションで使用できません。ファイルを使用しているユーザーがいる場合には、「BEING CLOSED」も表示されます。この状況は、SET FILE CLOSE が要求されるときに暗黙的に発生する点を除き、DISABLED と同じです。ファイルは、SET FILE OPEN コマンドで暗黙的に使用可能になります。 N - Disabled - 現在ファイルを使用しているトランザクションを除き、ファイルはトランザクションで使用できません。
ファイル・オープン状況	FILEOPEN	<p>ファイルのオープン状況 (OS/2 用 CICS のみ)。値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> Y - ファイルは開いています。 N - ファイルは閉じています。
Data set type (データ・セット・タイプ)	FILETYPE	<p>データ・セット・タイプ (OS/2 用の CICS のみ)。値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> A E - 標準 ESDS K - KSDS R - RRDS
ファイル・セグメント定義名	FSEGDEFNAME	<p>ファイル・キー・セグメント定義の名前 (1 から 8 文字)(OS/2 用の CICS のみ)</p>
ファイル・セグメント定義バージョン	FSEGDEFVER	<p>(オプション。) 1 から 15 の範囲の整数。CICSplex SM が 1 から 15 の範囲で選択可能な最初のバージョン ID を割り当てるようにするには、0 を指定するかブランクのままにします。(CICS for OS/2 のみ)</p>
順方向リカバリーに使用されるジャーナル番号	FWDRECOVLOG	<p>順方向リカバリーに使用される MVS システム・ロガー・ログ・ストリームに対応するジャーナル。この属性は、カップリング・ファシリティ・データ・テーブルでは無視されます。このテーブルに関連付けられたソース・データ・セットの ICF カタログで定義されたりリカバリー属性がある場合には、これらも無視されます。CFDT は順方向リカバリーすることができません。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO - このファイルには順方向リカバリー・ロギングは必要ありません。 ジャーナル - CICS が順方向リカバリー・ログに使用するジャーナルを識別する数。CICS ジャーナル名の形式は DFHJnn です。ここで、nn は 1 から 99 の範囲の数値です。順方向リカバリーの変更後イメージは、ジャーナル名 DFHJnn に対応する MVS ログ・ストリームに書き込まれます。
索引バッファ数	INDEXBUFFERS	<p>索引に使用されるバッファの数。1 から 32767 の範囲の値を使用します。指定可能な最小値は、STRINGS 属性で定義されたストリング数です。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。</p>
ジャーナルに記録された追加操作	JNLADD	<p>ジャーナルに記録する、JOURNAL 属性により指定される追加操作。可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> AFTER - VSAM 入出力操作の後にファイル制御書き込み操作を記録します。 ALL - VSAM 入出力操作の完了前と完了後の両方で、ファイル制御書き込み操作をジャーナルに記録します。 BEFORE - VSAM 入出力操作の前にファイル制御書き込み操作をジャーナルに記録します。 NONE - 追加操作をジャーナルに記録しません。

表 277. FILEDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ジャーナルに記録された読み取り操作	JNLREAD	<p>ジャーナルに記録する、JOURNAL 属性により指定される読み取り操作。可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ALL - すべての読み取り操作を記録します。 • NONE - 読み取り操作をジャーナルに記録しません。 • READONLY - READ ONLY 操作 (READ UPDATE 操作でないもの) のみをジャーナルに記録します。 • UPDATEONLY - READ UPDATE 操作 (READ ONLY 操作でないもの) のみをジャーナルに記録します。
入力の同期自動ジャーナル処理	JNLSYNCREAD	JOURNAL で指定されたジャーナルに READ 操作を書き込む自動ジャーナル処理レコードを、同期と非同期のどちらで書き込むかを指定します。
出力の同期自動ジャーナル処理	JNLSYNCWRITE	JOURNAL で指定されたジャーナルに WRITE 操作を書き込む自動ジャーナル処理レコードを、同期と非同期のどちらで書き込むかを指定します。
ジャーナルに記録された再書き込み / 削除操作	JNLUPDATE	REWRITE および DELETE 操作を、JOURNAL 属性により指定されるジャーナルに記録するかどうかを指定します。
ジャーナル番号	JOURNAL	<p>このファイルで自動ジャーナル処理を行うかどうかを指定します。ジャーナル処理されたデータは VSAM レコードの形式になり、ユーザー制御のジャーナル処理で使用されます。ジャーナル処理されるデータは、JNLADD、JNLREAD、JNLSYNCREAD、JNLSYNCWRITE、および JNLUPDATE 属性で識別されます。可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - このファイルに対して自動ジャーナリングは行われません。 • 数値 - CICS が自動ジャーナル処理に使用するジャーナルを識別する数。CICS ジャーナル名は DFHJnn の形式になります。nn は 1 から 99 の範囲です。
キーの長さ	KEYLENGTH	リモート・ファイル、および LOAD(NO) が指定されているカップリング・ファシリティ・データ・テーブルの両方にあるレコードの論理キーの長さ (バイト数)。ここで KEYLENGTH を定義しない場合、このファイルを参照するアプリケーション・プログラムのファイル制御コマンドで KEYLENGTH オプションを指定する必要があります。KEYLENGTH がここで定義されておらず、アプリケーション・プログラムで指定されない場合、キーが 4 文字より長ければデフォルト値は 4 です。
キー番号	KEYNUMBER	レコードの場所を指定するために使用される索引の番号(ハーフワード・バイナリー値)。 (CICS for OS/2 のみ)
ロード・タイプ	LOADTYPE	<p>カップリング・ファシリティ・データ・テーブルのロード・タイプ。値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Load - カップリング・ファシリティ・データ・テーブルは、ソース・データ・セットからプリロードされています (またはされます)。 • Noload - カップリング・ファシリティ・データ・テーブルは、ソース・データ・セットからプリロードされていません。
自動ロギング	LOG	このファイルで自動ロギングを行うかどうかを指定します。
LSR プール番号	LSRPOOLID	<p>ローカル共用リソース・プールの ID。NSRGROUP 属性の値が指定されていない場合には LSR プールの数のデフォルト値は 1 ですが、それが指定されている場合は LSR プール番号のデフォルト値は NONE です。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NONE - このファイルに関連付けられたデータ・セットは VSAM 非共用リソース (NSR) を使用することを指定します。 • 数値 - この値 (1 から 255 までの範囲) は、このファイルに関連付けられた VSAM データ・セットで使用される VSAM 共有リソース・プールの数を示します。このデータ・セットは、VSAM ローカル共用リソース (LSR) を使用するように定義されます。バッファ、ストリング、およびその他のリソースを、この LSR プール番号に対応する LSRPOOL リソース定義に明示的に定義することをお勧めします。
データ・テーブルの最大レコード数	MAXNUMRECS	CICS および USER テーブルでは、データ・テーブルの項目の最大数 (1 から 99999999 の範囲)。NOLIMIT が指定されている場合、項目の数に制限はありません。NOLIMIT がデフォルト値です。

表 277. FILEDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最大レコード長	MAXRECORDLEN	ファイル内のレコードの最大の長さ (バイト単位)。 入力値: 1 から 32767 まで
最小レコード長	MINRECORDLEN	ファイル内のレコードの最小の長さ (バイト単位)。 入力値: 1 から 4090 まで (CICS for OS/2 のみ)
名前	NAME	ファイル定義の名前。
非共用リソース (NSR) グループ名	NSRGROUP	VSAM 非共用リソース (NSR) を使用するデータ・セットを参照するファイルでは、同じ VSAM 基本データ・セットを参照するファイル定義をグループ化するための 1 文字から 8 文字までのシンボル名。
ファイル・オープン時刻	OPENTIME	ファイルがいつオープンするかを指定します。可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> FIRSTREF - 発信端末コマンド、アプリケーション・プログラムでの EXEC CICS SET FILE OPEN コマンド、または暗黙的なオープンによりファイルを開く要求が出されるまで、ファイルは閉じたままになります。 STARTUP - ファイルは、自動的に開始される CICS トランザクション (CSFU) による CICS の初期化の直後に開きます。ただし、ファイルの状況が UNENABLED の場合には、ファイルは閉じたままになります。
ユーザーのアクセス・パスワード	PASSWORD	ファイルへのユーザー・アクセス権限を検証するために使用される 1 文字から 8 文字までのパスワード。この属性は CICS Transaction Server 5.3 以降では廃止されています。
カップリング・ファシリティ・データ・テーブル (CFDT) のプール名	POOLNAME	カップリング・ファシリティ・データ・テーブルがあるカップリング・ファシリティ・データ・テーブル・プールの名前。
読み取りオプション	READ	このファイルのレコードを読み取れるかどうかを指定します。
読み取り安全性のデフォルト・レベル	READINTEG	RLSACCESS(YES) で定義されたファイルに必要な読み取り安全性のレベル: <ul style="list-style-type: none"> CONSISTENT - レコードは整合した読み取り安全性で読み取られます。CONSISTENT は、RLSACCESS(YES) の指定も行った場合のみ有効です。非 RLS ファイルに対して CONSISTENT を指定した場合には、リソース定義はエラーとなり拒否されます。 REPEATABLE - レコードは反復可能な読み取り安全性がある状態で読み取られます。 UNCOMMITTED - レコードは読み取り安全性がない状態で読み取られます。UNCOMMITTED は、READINTEG 属性をサポートしない CICS のリリースにより提供される安全性のレベルと同じです。
レコード形式	RECORDFORMAT	ファイル上のレコードのフォーマットは以下のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> Fixed - レコードは固定長です。 Variable - レコードは可変長です。
レコード・サイズ	RECORDSIZE	リモート・ファイルにあるレコードの最大長 (バイト単位)。指定できるサイズは 1 から 32767 の範囲です。
リカバリー処理タイプ	RECOVERY	ファイルに必要なリカバリーのタイプ: <ul style="list-style-type: none"> ALL - 変更前イメージはシステム・ログに記録され、変更後イメージは FWDRECOVLOG 属性で指定されたジャーナルに記録されます。 BACKOUTONLY - イメージがシステム・ログに記録される前。 NONE - このファイルではリカバリー・ロギングは行われません。
リモート・ファイル名	REMOTENAME	(オプション) ファイルがリモート・システムにある場合、このファイルが常駐するシステムまたは領域でそれを識別するための名前を指定します。名前の最大長は 8 文字です。

表 277. FILEDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リモート・システム名	REMOTESYSTEM	(オプション。) ファイルがリモート・システムにある場合、ファイルが常駐する関連した (リモート) システムにターゲット (ローカル) システムをリンクさせる接続の名前を指定します。この属性を指定しない場合、関連したシステムの CICS システム ID からそれを直接取得します。ターゲット・システムを関連したシステムにリンクさせる接続は、関連したシステムの CICS システム ID と同じ名前を持つていなければなりません。
相対キー位置	RKP	レコード内のキー・フィールドの開始位置で、レコードの開始からの相対位置です。可変長レコードでは、このオペランドには、各論理レコードの先頭にある 4 バイトの LLbb フィールド用のスペースを含める必要があります。これは、各論理レコード内にキーが含まれるデータ・セットに常に合うように、またはブラウズする場合にコード化する必要があります。
レコード・レベル共用 (RLS) ファイルのアクセス・モード	RLSACCESS	CICS が RLS モードでファイルをオープンするかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • NO - ファイルは RLS モードで開かれません。 • YES - ファイルを RLS モードで開きます。
リソース・セキュリティ値	RSL	この属性は廃止されましたが、以前のリリースの CICS との互換性を保つためにサポートされています。
VSAM 共用アクセス	SHR4ACCESS	(CICS/VSE のみ) VSAM 共用アクセス。
初期状況	STATUS	START=COLD または START=INITIAL での CICS の初期化後のファイルの初期状況。オプションは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • DISABLED - コマンド・レベルのアプリケーション・プログラムからこのファイルに対して何らかの要求をすると、DISABLED 状態がそのプログラムに渡されます。 • ENABLED - このファイルに対する通常の処理が許可されます。 • UNENABLED - アプリケーション・プログラムからの暗黙的なオープンでこのファイルが開かないようにします。ファイルへのアクセスを試行すると、NOTOPEN 状態になります。対照的に、ファイルのオープンの明示的要求 (例えば CEMT や EXEC CICS SET FILE OPEN コマンド) を行くと、ファイルのオープンの試行をする前に状況が ENABLED に変更されます。
ファイルに対する最大の同時要求数	STRINGS	このファイルに対して処理できる同時要求の数(1 から 255 の範囲)。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。
データ・テーブル・タイプ	TABLE	ファイルでデータ・テーブルを示すかどうかを表します。値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • NO - ファイルでデータ・テーブルを示しません。 • CICS - ファイルで CICS 保守のデータ・テーブルを示します。 • USER - ファイルでユーザー保守のデータ・テーブルを示します。 • CF - ファイルでカップリング・ファシリティのデータ・テーブルを示します。
テーブル名	TABlename	ファイル・リソース定義でカップリング・ファシリティ・データ・テーブルに指定された 8 文字のテーブル名、またはテーブル名がファイル・リソース定義で省略されている場合は、ファイル名。ファイルがカップリング・ファシリティ・データ・テーブルを参照しない場合は、ブランクになります。
更新オプション	UPDATE	このファイルのレコードを更新できるかどうかを指定します。
更新モデル	UPDATEMODEL	カップリング・ファシリティ・データ・テーブルに使用する更新モデルのタイプ: <ul style="list-style-type: none"> • LOCKING - ロック・モデルを使用して CFDT が更新されることを指定します。 • CONTENTION - 競合モデルを使用して CFDT が更新されるように指定します。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

表 277. FILEDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

ファイル・セグメント定義 - FSEGDEF

このリリースの CICS ではリモート MAS はサポートされていません。FSEGDEF のビューは廃止されました。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**ファイル・セグメント定義**」

表 278. 提供された「ファイル・セグメント定義」(FSEGDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
ファイル・セグメント定義 EYUSTARTFSEGDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のファイル・セグメント定義をリソース・グループに追加します。
ファイル・セグメント定義 EYUSTARTFSEGDEF.CREATE	ファイル・セグメント定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
ファイル・セグメント定義 EYUSTARTFSEGDEF.DETAILED	選択したファイル・セグメント定義に関する詳細情報
ファイル・セグメント定義 EYUSTARTFSEGDEF.REMOVE	データ・リポジトリからファイル・セグメント定義を除去します。
ファイル・セグメント定義 EYUSTARTFSEGDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのファイル・セグメント定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 279. FSEGDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上のファイル・セグメント定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	ファイル・セグメント定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリからファイル・セグメント定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のファイル・セグメント定義を更新します。

フィールド

表 280. FSEGDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
キー・セグメント 01 は EBCDIC ソート順序を使用する	ALTKEY01	このキー・セグメントを、EBCDIC 照合シーケンスを (ASCII の代わりとして) 使用して、ソートする必要があるかどうかを示します。
キー・セグメント 02 は EBCDIC ソート順序を使用する	ALTKEY02	このキー・セグメントを、EBCDIC 照合シーケンスを (ASCII の代わりとして) 使用して、ソートする必要があるかどうかを示します。

表 280. *FSEGDEF* ビューのフィールド (続き)[illegible]

表 280. FSEGDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
キー・セグメント 04 はバイナリー	BINKEY04	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 05 はバイナリー	BINKEY05	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 06 はバイナリー	BINKEY06	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 07 はバイナリー	BINKEY07	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 08 はバイナリー	BINKEY08	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 09 はバイナリー	BINKEY09	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 10 はバイナリー	BINKEY10	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 11 はバイナリー	BINKEY11	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 12 はバイナリー	BINKEY12	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 13 はバイナリー	BINKEY13	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 14 はバイナリー	BINKEY14	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 15 はバイナリー	BINKEY15	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 16 はバイナリー	BINKEY16	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 17 はバイナリー	BINKEY17	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 18 はバイナリー	BINKEY18	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 19 はバイナリー	BINKEY19	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 20 はバイナリー	BINKEY20	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 21 はバイナリー	BINKEY21	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 22 はバイナリー	BINKEY22	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 23 はバイナリー	BINKEY23	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
キー・セグメント 24 はバイナリー	BINKEY24	セグメントがバイナリー・キー・セグメントかどうかを示します。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。

表 280. FSEGDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
定義作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
定義バージョン	DEFVER	ファイル・キー・セグメント定義のバージョン番号、1 から 15 まで。
定義の記述	DESCRIPTION	ファイル・キー・セグメント定義の説明。
キー・セグメント 01 は複写キーを許可する	DUPKEY01	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 02 は複写キーを許可する	DUPKEY02	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 03 は複写キーを許可する	DUPKEY03	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 04 は複写キーを許可する	DUPKEY04	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 05 は複写キーを許可する	DUPKEY05	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 06 は複写キーを許可する	DUPKEY06	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 07 は複写キーを許可する	DUPKEY07	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 08 は複写キーを許可する	DUPKEY08	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 09 は複写キーを許可する	DUPKEY09	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 10 は複写キーを許可する	DUPKEY10	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 11 は複写キーを許可する	DUPKEY11	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 12 は複写キーを許可する	DUPKEY12	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 13 は複写キーを許可する	DUPKEY13	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 14 は複写キーを許可する	DUPKEY14	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 15 は複写キーを許可する	DUPKEY15	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 16 は複写キーを許可する	DUPKEY16	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 17 は複写キーを許可する	DUPKEY17	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 18 は複写キーを許可する	DUPKEY18	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 19 は複写キーを許可する	DUPKEY19	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 20 は複写キーを許可する	DUPKEY20	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 21 は複写キーを許可する	DUPKEY21	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 22 は複写キーを許可する	DUPKEY22	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 23 は複写キーを許可する	DUPKEY23	重複キーが許可されるかどうかを示します。

表 280. FSEGDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
キー・セグメント 24 は複写キーを許可する	DUPKEY24	重複キーが許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 01 の長さ	LENKEY01	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 02 の長さ	LENKEY02	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 03 の長さ	LENKEY03	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 04 の長さ	LENKEY04	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 05 の長さ	LENKEY05	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 06 の長さ	LENKEY06	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 07 の長さ	LENKEY07	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 08 の長さ	LENKEY08	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 09 の長さ	LENKEY09	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 10 の長さ	LENKEY10	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 11 の長さ	LENKEY11	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 12 の長さ	LENKEY12	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 13 の長さ	LENKEY13	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 14 の長さ	LENKEY14	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 15 の長さ	LENKEY15	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 16 の長さ	LENKEY16	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 17 の長さ	LENKEY17	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 18 の長さ	LENKEY18	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 19 の長さ	LENKEY19	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 20 の長さ	LENKEY20	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 21 の長さ	LENKEY21	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 22 の長さ	LENKEY22	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 23 の長さ	LENKEY23	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 24 の長さ	LENKEY24	キー・セグメントのバイト数による長さ。範囲は 0 から 999 です。
キー・セグメント 01 は変更可能	MODKEY01	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 02 は変更可能	MODKEY02	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 03 は変更可能	MODKEY03	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 04 は変更可能	MODKEY04	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 05 は変更可能	MODKEY05	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 06 は変更可能	MODKEY06	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 07 は変更可能	MODKEY07	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 08 は変更可能	MODKEY08	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 09 は変更可能	MODKEY09	キーが修正可能かどうかを示します。

表 280. FSEGDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
キー・セグメント 10 は変更可能	MODKEY10	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 11 は変更可能	MODKEY11	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 12 は変更可能	MODKEY12	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 13 は変更可能	MODKEY13	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 14 は変更可能	MODKEY14	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 15 は変更可能	MODKEY15	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 16 は変更可能	MODKEY16	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 17 は変更可能	MODKEY17	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 18 は変更可能	MODKEY18	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 19 は変更可能	MODKEY19	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 20 は変更可能	MODKEY20	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 21 は変更可能	MODKEY21	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 22 は変更可能	MODKEY22	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 23 は変更可能	MODKEY23	キーが修正可能かどうかを示します。
キー・セグメント 24 は変更可能	MODKEY24	キーが修正可能かどうかを示します。
ファイル・キー・セグメント定義名	NAME	ファイル・キー・セグメント定義の名前。
キー・セグメント 01 はヌル文字を許可する	NULKEY01	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 02 はヌル文字を許可する	NULKEY02	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 03 はヌル文字を許可する	NULKEY03	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 04 はヌル文字を許可する	NULKEY04	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 05 はヌル文字を許可する	NULKEY05	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 06 はヌル文字を許可する	NULKEY06	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 07 はヌル文字を許可する	NULKEY07	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 08 はヌル文字を許可する	NULKEY08	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 09 はヌル文字を許可する	NULKEY09	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。

表 280. FSEGDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
キー・セグメント 10 はヌル文字を許可する	NULKEY10	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 11 はヌル文字を許可する	NULKEY11	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 12 はヌル文字を許可する	NULKEY12	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 13 はヌル文字を許可する	NULKEY13	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 14 はヌル文字を許可する	NULKEY14	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 15 はヌル文字を許可する	NULKEY15	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 16 はヌル文字を許可する	NULKEY16	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 17 はヌル文字を許可する	NULKEY17	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 18 はヌル文字を許可する	NULKEY18	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 19 はヌル文字を許可する	NULKEY19	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 20 はヌル文字を許可する	NULKEY20	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 21 はヌル文字を許可する	NULKEY21	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 22 はヌル文字を許可する	NULKEY22	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 23 はヌル文字を許可する	NULKEY23	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 24 はヌル文字を許可する	NULKEY24	ヌル文字がキー内に許可されるかどうかを示します。
キー・セグメント 01 はヌル・キー番号	NUMNLK01	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 02 はヌル・キー番号	NUMNLK02	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 03 はヌル・キー番号	NUMNLK03	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 04 はヌル・キー番号	NUMNLK04	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 05 はヌル・キー番号	NUMNLK05	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 06 はヌル・キー番号	NUMNLK06	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 07 はヌル・キー番号	NUMNLK07	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 08 はヌル・キー番号	NUMNLK08	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 09 はヌル・キー番号	NUMNLK09	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 10 はヌル・キー番号	NUMNLK10	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。

表 280. FSEGDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
キー・セグメント 11 はヌル・キー番号	NUMNLK11	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 12 はヌル・キー番号	NUMNLK12	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 13 はヌル・キー番号	NUMNLK13	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 14 はヌル・キー番号	NUMNLK14	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 15 はヌル・キー番号	NUMNLK15	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 16 はヌル・キー番号	NUMNLK16	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 17 はヌル・キー番号	NUMNLK17	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 18 はヌル・キー番号	NUMNLK18	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 19 はヌル・キー番号	NUMNLK19	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 20 はヌル・キー番号	NUMNLK20	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 21 はヌル・キー番号	NUMNLK21	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 22 はヌル・キー番号	NUMNLK22	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 23 はヌル・キー番号	NUMNLK23	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 24 はヌル・キー番号	NUMNLK24	ヌル・キーの番号。範囲は 0 から 255 です。
キー・セグメント 01 の位置	POSKEY01	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 02 の位置	POSKEY02	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 03 の位置	POSKEY03	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 04 の位置	POSKEY04	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 05 の位置	POSKEY05	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 06 の位置	POSKEY06	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 07 の位置	POSKEY07	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 08 の位置	POSKEY08	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 09 の位置	POSKEY09	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 10 の位置	POSKEY10	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 11 の位置	POSKEY11	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。

表 280. FSEGDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
キー・セグメント 12 の位置	POSKEY12	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 13 の位置	POSKEY13	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 14 の位置	POSKEY14	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 15 の位置	POSKEY15	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 16 の位置	POSKEY16	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 17 の位置	POSKEY17	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 18 の位置	POSKEY18	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 19 の位置	POSKEY19	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 20 の位置	POSKEY20	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 21 の位置	POSKEY21	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 22 の位置	POSKEY22	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 23 の位置	POSKEY23	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 24 の位置	POSKEY24	レコード内のキー・セグメントの開始文字位置。最初のバイトは、文字 0 です。
キー・セグメント 01 は次セグメントの一部となる	SAMKEY01	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 02 は次セグメントの一部となる	SAMKEY02	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 03 は次セグメントの一部となる	SAMKEY03	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 04 は次セグメントの一部となる	SAMKEY04	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 05 は次セグメントの一部となる	SAMKEY05	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 06 は次セグメントの一部となる	SAMKEY06	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 07 は次セグメントの一部となる	SAMKEY07	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 08 は次セグメントの一部となる	SAMKEY08	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 09 は次セグメントの一部となる	SAMKEY09	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 10 は次セグメントの一部となる	SAMKEY10	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 11 は次セグメントの一部となる	SAMKEY11	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 12 は次セグメントの一部となる	SAMKEY12	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。

表 280. FSEGDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
キー・セグメント 13 は次セグメントの一部となる	SAMKEY13	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 14 は次セグメントの一部となる	SAMKEY14	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 15 は次セグメントの一部となる	SAMKEY15	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 16 は次セグメントの一部となる	SAMKEY16	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 17 は次セグメントの一部となる	SAMKEY17	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 18 は次セグメントの一部となる	SAMKEY18	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 19 は次セグメントの一部となる	SAMKEY19	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 20 は次セグメントの一部となる	SAMKEY20	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 21 は次セグメントの一部となる	SAMKEY21	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 22 は次セグメントの一部となる	SAMKEY22	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 23 は次セグメントの一部となる	SAMKEY23	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
キー・セグメント 24 は次セグメントの一部となる	SAMKEY24	セグメントが次のセグメントと同じキーの一部かどうかを示します。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	リソース定義に関連するサイト固有の追加データを指定できる、最大 8 文字のオプションのストリング。

エンキュー・モデル定義 - ENQMDEF

「エンキュー・モデル定義」(ENQMDEF) ビューは、ENQ モデルが CICS システム内で実行する方法に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「エンキュー・モデル定義」

表 281. 提供された「エンキュー・モデル定義」(ENQMDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
エンキュー・モデル定義 EYUSTARTENQMDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のエンキュー・モデル定義をリソース・グループに追加します。
エンキュー・モデル定義 EYUSTARTENQMDEF.CREATE	グローバル ENQ 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。

表 281. 提供された「エンキュー・モデル定義」 (ENQMDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
エンキュー・モデル定義 EYUSTARTENQMDEF.DETAILED	選択したグローバル ENQ 定義に関する詳細情報
エンキュー・モデル定義 EYUSTARTENQMDEF.INSTALL	エンキュー・モデル定義をアクティブなシステムにインストールします。
エンキュー・モデル定義 EYUSTARTENQMDEF.REMOVE	データ・リポジトリからエンキュー・モデル定義を除去します。
エンキュー・モデル定義 EYUSTARTENQMDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのグローバル ENQ 定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 282. ENQMDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上のエンキュー・モデル定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	グローバル ENQ 定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	エンキュー・モデル定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからエンキュー・モデル定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のグローバル ENQ 定義を更新します。

フィールド

表 283. ENQMDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSEBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	エンキュー・モデル定義の説明。

表 283. ENQMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ENQ リソース名	ENQNAME	1 から 255 文字のリソース名。
ENQ スコープ名	ENQSCOPE	CICS 領域によって発行されたシスプレックス全体にわたる ENQUEUE 要求を修飾する 4 文字の名前。ブランクのままにされた場合、ENQ が LOCAL であることを示します。
名前	NAME	エンキュー・モデル定義の名前。
ENQ 状況	STATUS	ENQMODEL の現在の状態を示す CVDA 値。 <ul style="list-style-type: none"> • ENABLED - マッチング ENQ 要求は、通常の方法で処理されています。 • DISABLED - マッチング ENQ 要求は拒否され、発行中のタスクはコード ANQE で異常終了しています。マッチング INSTALL CREATE または DISCARD 要求は、処理されています。 • WAITING - マッチング ENQ 要求は拒否され、発行中のタスクはコード ANQE で異常終了しています。処理を待っている INSTALL CREATE または DISCARD 要求があります。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

IPIC 接続定義 - IPCONDEF

「**IPIC 接続定義**」(IPCONDEF) ビューには、CICS システムが IP 相互通信接続（「**IPIC 接続**」ともいう）を使用して通信するリモート・システムに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**IPIC 接続定義**」

表 284. 提供された「 IPIC 接続定義 」(IPCONDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
IPIC 接続定義 EYUSTARTIPCONDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の IPIC 接続定義をリソース・グループに追加します。
IPIC 接続定義 EYUSTARTIPCONDEF.CREATE	IPIC 接続定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
IPIC 接続定義 EYUSTARTIPCONDEF.DETAILED	選択した IPIC 接続定義に関する詳細情報
IPIC 接続定義 EYUSTARTIPCONDEF.INSTALL	IPIC 接続定義をアクティブなシステムにインストールします。
IPIC 接続定義 EYUSTARTIPCONDEF.REMOVE	データ・リポジトリから IPIC 接続定義を除去します。
IPIC 接続定義 EYUSTARTIPCONDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての IPIC 接続定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 285. IPCONDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の IPIC 接続定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	IPIC 接続定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	IPIC 接続定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから IPIC 接続定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の IPIC 接続定義を更新します。

フィールド

表 286. IPCONDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
リモート・アプリケーション ID	APPLID	ネットワークでリモート・システムの識別に使われる 8 文字の名前。これは、リモート・システムのアプリケーション ID (<i>applid</i>) であり、そのシステム初期設定テーブルの APPLID オプションで指定されます。XRF システムの場合は汎用アプリケーション ID です。
IPIC 接続の自動接続セッション	AUTOCONNECT	IPCONN 定義のインストール時にセッションを確立するかどうかを指定します (これが起きる可能性があるのは、CICS の初期化中で、引き続いて INSTALL を発行する時か、または TCP/IP との通信を開始するために SET TCP/IP OPEN を発行する時です)。リモート・システムが利用不可のためにそのような時点で接続を確立できない場合に、そのリモート・システムが間もなく利用可能になって自身が通信を開始しないのであれば、その後 SET IPCONN(name) INSERVICE ACQUIRED コマンドを使用して、リンクを獲得することができます。 <ul style="list-style-type: none"> • NO <ul style="list-style-type: none"> – IPIC 接続のインストール時に CICS はセッションの確立を試みません。 • YES <ul style="list-style-type: none"> – IPIC 接続のインストール時に CICS はセッションの確立を試みます。
Certificate	CERTIFICATE	TCP/IP サービスの SSL ハンドシェイク中にサーバー証明書として使用される X.509 証明書のラベル。この属性が省略されている場合、CICS 領域ユーザー ID の鍵リングで定義されているデフォルトの証明書が使用されます。証明書ラベルの長さは最大で 32 バイトです。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。

表 286. IPCONDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
SSL 暗号スイート・コード	CIPHERS	2 桁の暗号スイート・コードを最大 28 個含むリストとして解釈される、最大 56 桁の 16 進数字のストリングを指定します。リソースを定義すると、CICS は、デフォルトの許容コード・リストに従ってその属性を自動的に初期化します。暗号コードを再配列したり、初期リストから削除したりできます。ただし、指定した暗号化レベルのデフォルト・リストに含まれていない暗号コードを追加することはできません。値をコードのデフォルト・リストにリセットするには、暗号化スイート・コードをすべて削除してください。フィールドにデフォルト・リストが自動的に再設定されます。CICS Transaction Server 5.1 以降、このフィールドでは、暗号リストが含まれる zFS にある XML ファイルの名前を代わりに指定できます。XML ファイル名は最大 28 文字で指定できます。
作成時刻	CREATETIME	IPIC 接続定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	IPIC 接続定義の説明。
高可用性	HA	IPIC 接続の高可用性の状況。 <ul style="list-style-type: none"> • NO <ul style="list-style-type: none"> – 接続の可用性は高くありません。現行のサーバー領域における接続に失敗した場合、CICS サーバー・クラスターの他の領域では接続を獲得できません。 • YES <ul style="list-style-type: none"> – 接続に高可用性があります。現行のサーバー領域における接続に失敗した場合、CICS サーバー・クラスターの他の領域で自動的に接続を獲得します。
リモート・ホスト名	HOST	リモート・システムの 116 文字のホスト名 (たとえば www.example.com)、その小数点付き 10 進数 IPv4 アドレス (たとえば 9.20.181.3)、またはコロンで区切られた 16 進数 IPv6 アドレス (たとえば ABCD:EF01::2345:6789)。IPv4 互換 IPv6 アドレス (非推奨) または IPv4 にマップされる IPv6 アドレス (例えば ::FFFF:1.2.3.4) として IPv4 アドレスが入力される場合、標準の IPv4 小数点付き 10 進数アドレスに変換されます。CICS Transaction Server for z/OS バージョン 3 リリース 2 およびそれ以前のリリースでは IPv6 アドレスを使用しないでください。 ホスト名は大/小文字で入力できますが、1 文字のホスト名を IP アドレスの代わりに文字をホスト名に指定した場合、そのホスト名は小文字に変換されます。IPv6 アドレスを指定した場合、大文字に変換されます。
ID 伝搬	IDPROP	配布 ID が送信者によって接続先のシステムに転送されるかどうかを指定します。接続がシスプレックスの外に拡張され、主に配布 ID がエンタープライズ間で配布されるのを避けるために使用される場合にのみ、IDPROP 属性は効果があります。同じシスプレックスに含まれているシステム同士の接続の場合は、IDPROP(OPTIONAL) を指定した場合と同じ動作になり、他の設定は無視されます。 <ul style="list-style-type: none"> • NOTALLOWED: 送信するトランザクションに関連するユーザー ID が、この接続を使用した要求に対して送信されます。NOTALLOWED がデフォルト値です。 • オプション: 配布 ID があれば送信されます。送信トランザクションに関連したユーザー ID も送信されます。 • REQUIRED: この接続を使用した要求には配布 ID が必要です。REQUIRED を指定する場合は、受信側のシステムが配布 ID をサポートしている必要があります。送信トランザクションに関連したユーザー ID は送信されません。IDPROP(REQUIRED) を指定する場合は、IPIC 接続を使用するタスクに、関連する配布 ID がなければなりません。配布 ID がない場合は、セキュリティー・エラーが発生して要求が失敗します。

表 286. IPCONDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
接続状況	INSERVICE	<p>インストール時の IPIC 接続の状況。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO <ul style="list-style-type: none"> – 接続は、メッセージの受信も出力の送信 もできません。 • YES <ul style="list-style-type: none"> – 接続は使用できます。
リンク・セキュリティ	LINKAUTH	<p>セキュリティが初期化された (SEC=YES) CICS システムで、リンク・セキュリティ用のユーザー ID をどのように確立するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CERTUSER - パートナー・システムとの TCP/IP 通信は SSL 用に構成され、SSL ハンドシェイクの間にパートナー・システムから証明書を受信する必要があります。たとえば、パートナー CICS システム内の TCPIP SERVICE は、SSL(YES) または SSL(CLIENTAUTH) で定義されていなければなりません。さらに、受信された証明書は外部セキュリティ・マネージャーに定義され、ユーザー ID と関連付けられている必要があります。このユーザー ID がリンク・セキュリティを確立するために使用されます。 • SECUSER - SECURITYNAME に指定されたユーザー ID が、リンク・セキュリティを確立するために使用されます。これはデフォルト値です。
最大キュー時間	MAXQTIME	<p>割り振り要求をキューに入れることのできる最大時間 (秒)。値の範囲は 0 - 9999 です。IPCONN 定義で MAXQTIME(NO) が指定された場合は標準スル値の -1 となります。</p>
最小ミラー存続期間	MIRRORLIFE	<p>この領域で受信される、機能シッパされた要求に関するミラー・タスクの最小存続期間を示します。このパラメーターは、リソース所有領域の IPCONN で指定された場合にのみ有効であり、機能シッパ・インターバル制御機能の場合やリンク要求の場合は無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • REQUEST: ミラー・タスクは可能な限り早く終了します。 • TASK: リモート要求を出すアプリケーションは、そのアプリケーションのタスクが終了するまで、ミラー・タスクを引き続き使用できます。 • UOW: リモート要求を出すアプリケーションは、次の同期点が出されるまで、ミラー・トランザクションを引き続き使用できます。
名前	NAME	<p>リモート・システムまたは領域の 8 文字の ID。つまり、IPCONN 定義の名前。許容文字は A から Z、0 から 9、- です。</p>
リモート・ネットワーク ID	NETWORKID	<p>リモート・システムのネットワーク ID。NETWORKID が指定されなかった場合、CICS はこの CICS (つまり、IPCONN 定義のインストール先の CICS) の VTAM NETID を使用します。ただし、VTAM=NO システムの場合は、UOWNETQL システム 初期化パラメーターの値を使用します。</p> <p>NETWORKID は APPLID オプションと組み合わせて使用されます。それは、接続システムで必ず固有名を使って命名が行われるようにするためです。</p>
ポート番号	PORT	<p>この IPIC 接続上のアウトバウンド要求で使用するポート番号を指定する 1 から 65535 までの範囲の 10 進数か、または NO。つまり、リモート・システムが listen する対象であるポートの番号。ただし、インバウンド専用の IPIC 接続の場合は NO。</p>
キュー限度	QUEUELIMIT	<p>空きセッションを待機する間に CICS がキューに入れる割り振り要求の最大数。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO <ul style="list-style-type: none"> – CICS が空きセッションの待機中にキューに入れる割り振り要求の許容数に限度はありません。 • <i>number</i> <ul style="list-style-type: none"> – CICS が空きセッションの待機中に接続上でキューに入れられる 0 から 9999 までの範囲の割り振り要求の最大数。キューに入っている割り振り要求の数がこの限度に達すると、それより後の割り振り要求は、キューが限度を下回るまで SYSIDERR を戻して失敗します。

表 286. IPCONDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
受信カウント	RECEIVECOUNT	RECEIVE セッション、すなわち着信要求を受信するセッションの 1 から 999 までの範囲の数。使用される受信セッションの実際数は、リモート・システムで定義されている送信セッション数によっても異なります。接続が確立すると、これらの値は交換されて低い方の値が使用されます。この IPIC 接続用に定義された RECEIVE セッション数。
リモート・システムにおけるセキュリティ名	SECURITYNAME	リンク・セキュリティに使用するリモート・システムのセキュリティ名を指定します。セキュリティが初期化され (SEC=YES)、LINKAUTH(SECUSER) が使用されている CICS システムでは、リモート・システムの権限を設定するためにセキュリティ名が使用されます。セキュリティ名は、この領域で有効な RACF ユーザー ID でなければなりません。この領域の保護リソースへのアクセスは、RACF ユーザー・プロフィールとそのグループ・メンバーシップに基づいています。デフォルト値は、デフォルトのユーザー ID になります。
送信カウント	SENDCOUNT	SEND セッション、すなわち発信要求を送信するセッションの 0 から 999 までの範囲の数。実際に使用される送信セッションの数は、リモート・システムで定義されている受信セッションの数にも依存します。接続が確立すると、これらの値は交換されて低い方の値が使用されます。0 が指定された場合、この IPCONN は着信作業のみを処理することができます。接続されたシステムに要求を送信することはできません。それぞれが SENDCOUNT(0) を持つ 2 つの IPCONN の間で接続の確立を試みると、失敗します。
Secure sockets layer (SSL) タイプ	SSL	TCP/IP サービスで暗号化と認証のために Secure Sockets Layer (SSL) を使用するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • NO - SSL を使用しません。 • YES - SSL セッションを使用します。CICS はサーバー証明書をクライアントに送信します。
TCP/IP サービス	TCPIPSERVICE	この IPCONN のインバウンド処理の属性を定義する PROTOCOL(IPIC) TCPIPSERVICE 定義の 8 文字の名前。
接続時ユーザー・セキュリティ・レベル	USERAUTH	接続に必要な接続時ユーザー・セキュリティのレベル: <ul style="list-style-type: none"> • DEFAULTUSER - CICS はパートナー・システムからのユーザー ID およびパスワードを受け付けません。すべての要求はデフォルトのユーザー ID の下で実行されます。 • LOCAL - CICS はパートナー・システムからのユーザー ID およびパスワードを受け付けません。すべての要求は、リンク・セキュリティ用に決定されたユーザー ID の下で実行されます。 • VERIFY - 着信接続要求でユーザー ID およびユーザー・パスワードを指定する必要があります。 • IDENTIFY - 着信接続要求は、ユーザー ID を指定する必要があります。これにより、CICS TS バージョン 4 リリース 1 システムでは、必要に応じて配布 ID を送信者が接続先システムに転送できるようになります。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

表 286. IPCONDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
交換ログ名 (XLN) アクション	XLNACTION	<p>リモートのパートナー・システムから新規のログ名を受信したときにとるアクション。(新規のログ名を受信した場合、パートナーがリカバリー情報を削除したことを示します。)</p> <ul style="list-style-type: none"> • FORCE <ul style="list-style-type: none"> – 新規のログ名を使った新規作業の開始前に、TRANSACTION 定義の未確定属性で定義されているとおりの、未確定作業単位 (UOW) に関する事前定義の決定事項が実装されます。CICS はまた、パートナー・システム上で未確定であった UOW の解決に備えて保持されていたすべての情報も削除します。注: このオプションを使用すると、データ安全性が損なわれることがあります。 • KEEP <ul style="list-style-type: none"> – リカバリー情報は保存され、未確定作業単位に対する事前定義のアクションはとられません。 <p>パートナーを対象とした未解決のリカバリー可能作業 (すなわち、未確定の UOW や、旧ログ名のもとでパートナー・システム上で未確定であった UOW に関連した情報) がすべて完了しない限り、同期レベル 2 プロトコルを必要とする新規の作業を接続で実行できなくなります。このインターフェース内で明示的なユーザー命令を使用するか、または利用可能ないずれかの他のプログラミング・インターフェースを使用してはじめて、そのような作業完了を達成できます。</p>

ISC/MRO 接続定義 - CONNDEF

「**接続定義**」(CONNDEF) ビューには、CICS システムがシステム 間連絡 (ISC) または複数領域操作 (MRO) を使用して通信するリモート・システムが表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**ISC/MRO 接続定義**」

表 287. 提供された「ISC/MRO 接続定義」(CONNDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
ISC/MRO 接続定義 EYUSTARTCONNDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の接続定義をリソース・グループに追加します。
ISC/MRO 接続定義 EYUSTARTCONNDEF.CREATE	接続定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
ISC/MRO 接続定義 EYUSTARTCONNDEF.DETAILED	選択した接続定義に関する詳細情報
ISC/MRO 接続定義 EYUSTARTCONNDEF.INSTALL	接続定義をアクティブなシステムにインストールします。
ISC/MRO 接続定義 EYUSTARTCONNDEF.REMOVE	データ・リポジトリから接続定義を除去します。
ISC/MRO 接続定義 EYUSTARTCONNDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての MRO 接続定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 288. CONNDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の接続定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	接続定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
INSTALL	接続定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから接続定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の接続定義を更新します。

フィールド

表 289. CONNDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アクセス方式	ACCESSMETHOD	この接続で使用されるアクセス方式: <ul style="list-style-type: none"> • APPC - 拡張プログラム間通信機能。 • EXCI - 接続は、外部 CICS インターフェースを使用するプログラムにより使用されます。 • INDIRECT - ローカル CICS システムとこの接続定義により定義されたシステムとの間の通信は、「中間システム名」フィールドで指定されたシステムを介して行われます。 • IRC - 接続に領域間通信プログラム DFHIRP を使用します。これは MRO 用のアクセス方式です。 • NETBIOS - 接続に NETBIOS LAN プロトコルを使用します。 • VTAM - VTAM システム間連絡。 • XM - MVS 仮想記憶間サービス。
接続時セキュリティ・レベル	ATTACHSEC	接続に必要な接続時ユーザー・セキュリティのレベル: <ul style="list-style-type: none"> • IDENTIFY - 着信接続要求は、ユーザー ID を指定する必要があります。接続するシステムに安全保護マネージャーがある場合（それが別の CICS システムである場合など）、IDENTIFY を入力します。 • LOCAL - ユーザーの権限はリンク自体の権限として認識され、リソースの保護はリンクのセキュリティだけに依存します。CONNECTION 定義の PROTOCOL 属性が LU6.1 である場合は、LOCAL を指定してください。 • MIXIDPE - 着信接続要求では IDENTIFY と PERSISTENT のいずれかまたは両方のセキュリティ・タイプを使用できます。実際に使用されるセキュリティ・タイプは、着信接続要求によって異なります。 • PERSISTENT - 着信接続要求の最初の接続要求でユーザー ID およびユーザー・パスワードを指定する必要があります。 • VERIFY - 着信接続要求でユーザー ID およびユーザー・パスワードを指定する必要があります。
VTAM の自動接続セッション	AUTOCONNECT	CICS が初期化されるとき、または VTAM との通信が開始されるたびにこの接続でのセッションがバインドされるかどうかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> • ALLCONN - 関連するセッションはバインドされます。関連するモード名は一般には ALLCONN としても指定されます。 • AUTOCONN - 関連するセッションはバインドされます。 • NONAUTOCONN - 関連するセッションはバインドされません。
バインド・パスワード	BINDPASSWORD	(APPC のみ) 最大 16 個の 16 進数文字 (0 から 9、A から F) によるパスワード。

表 289. CONNDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
バインド時セキュリティ	BINDSECURITY	<p>外部セキュリティ・マネージャー (ESM) がバインド時のセキュリティに使用されているかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - 外部バインド時安全保護は不要です。 • YES - セキュリティがアクティブで XAPPC システム 初期化パラメーターが YES に設定されている場合、ESM が呼び出されます。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
接続優先順位	CONNPRIORITY	(OS/2 用 CICS のみ) 接続優先度を 0 から 255 の範囲で指定します。(デフォルトは 86 です。)
接続の様態	CONNTYPE	<p>外部 CICS インターフェース (EXCI) 接続における接続の性質:</p> <ul style="list-style-type: none"> • GENERIC - この接続は非 CICS クライアント・プログラムから CICS 領域への通信用で、かつ、汎用です。汎用接続とは、複数の EXCI ユーザーが共用する複数のセッションが含まれる MRO リンクののことをいいます。汎用接続では NETNAME 属性を指定できません。 • SPECIFIC - 接続は非 CICS クライアント・プログラムから CICS 領域への通信用で、固有です。固有接続とは、クライアント・プログラムで単一のユーザーに占有される 1 つ以上のセッションが含まれる MRO リンクののことをいいます。固有接続では、NETNAME が必須です。 • APPC - APPC を使用する別の CICS システムへの接続。 • NOTAPPLIC - 接続では EXCI を使用しません。
作成時刻	CREATETIME	接続が作成された現地時間。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
データ・ストリーム・タイプ	DATASTREAM	<p>データ・ストリームのタイプ:</p> <ul style="list-style-type: none"> • LMS - データ・ストリームのタイプを指定します。 • SCS - データ・ストリームは、LUTYPE6.1 アーキテクチャーで定義された SCS データ・ストリームです。 • STRFIELD - データ・ストリームは、LUTYPE6.1 アーキテクチャーで定義された構造化フィールド・データ・ストリームです。 • USER - ユーザー定義のデータ・ストリーム。 • 3270 - データ・ストリームは、タイプ 6.1 論理装置 (LUTYPE6.1) アーキテクチャーで定義された 3270 データ・ストリームです。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	接続定義の説明。
中間システム名	INDSYS	このシステムとリモート・システムとの通信を中継するために使用される中間システムの名前。名前の長さは最大 4 文字です。「アクセス方式」フィールドに「INDIRECT」を指定した場合にのみ、中間システムの名前を指定できます。

表 289. CONNDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
接続状況	INSERVICE	<p>APPC または MRO のいずれかのプロトコルを使用する接続では、接続状況は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ACQUIRED - 接続は獲得されています。つまり、パートナー LU と連絡が取れ、初期 CNOS 交換が完了しました。 • AVAILABLE - 接続は獲得されていますが、現在バインド済みセッションはありません。 • FREEING - 接続を解放中です。 • NOTAPPLIC - この接続は、CICS 間 MRO または APPC 接続ではありません。 • OBTAINING - 接続を獲得中です。 • RELEASED - 接続は解放済みです。
TCP/IP ローカル・ホスト名	LOCLHOSTNAME	(OS/2 用 CICS のみ) TCP/IP 接続では、ローカル・システムの 1 から 40 文字のホスト名 (または同等の IP アドレス) を指定します。アスタリスク (*) を指定した場合は、使用するアダプターを TCP/IP が選択します。
ローカル論理装置の別名	LUALIAS	APPC 接続では、VTAM 論理装置 (LU) の別名。
最大キュー時間	MAXQTIME	<p>キューに入れられた割り振り要求が、反応がないように見える接続に空きセッションができるのを待機する最大待ち時間。最大キュー時間は、キュー限度が「キュー限度」フィールドで指定されている場合にのみ使用され、その後、キューの長さがキュー限度値に達した場合にのみ制限時間が適用されます。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - 割り振り要求をキューに入れられたままにしておくことができる時間に制限はありません。 • nnnn - 反応がないように見える接続において割り振り要求をキューに入れることができる時間のおおよその上限。数値は 0 から 9999 の範囲の秒数を表します。 <p>キュー限度を指定しない場合は、このフィールドをブランクのままにします。</p>
通信モード名	MODENAME	定義がアクティブなシステムにインストールされるときにセッションを識別するために使用する名前。
名前	NAME	接続定義の名前。
NETBIOS 論理 LAN アダプター	NETBIOSADAPT	(OS/2 用 CICS のみ) NetBIOS 接続では、リモート・システムで使用される論理 LAN アダプターを指定します。有効な値は 0、1、または B (両方の場合) です。
ネットワーク名	NETNAME	接続を所有するシステムへの相互通信リンク。名前の最大長は 8 文字です。
パートナー・コード・ページ	PARTCODEPAGE	(OS/2 用 CICS のみ) リモート・システムのコード・ページを 1 から 5 桁で指定します。(デフォルトは 37 です。)
パートナー論理装置の別名	PARTLUALIAS	(OS/2 用 CICS のみ) APPC 接続では、コミュニケーション・マネージャーがパートナー論理装置を参照するために使用する名前を 1 から 8 文字で指定します。
Protocol	PROTOCOL	VTAM のアクセス方式による接続の場合、LUTYPE6.1 (LU61) または拡張プログラム間通信 (APPC) のどちらの SNA プロトコルが使用中か示します。値 EXCI は、この接続が外部 CICS インターフェースを使用することを意味します。値 NOTAPPLIC は、この接続が VTAM 接続でないことを意味します。

表 289. CONNDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
持続セッションのリカバリー処理	PSRECOVERY	<p>持続セッション・サポートを使用して実行している CICS 領域では、LU6.2 セッションが持続セッション遅延間隔内のシステム再始動でリカバリーされるかどうか、およびそのリカバリー方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NONE - すべてのセッションは CNOS リカバリーを行わずにサービス休止としてアンバインドされます。 • SYSDEFAULT - 障害のある CICS システムが持続セッション遅延間隔内に再始動した場合、次のアクションが行われます。 <ul style="list-style-type: none"> – ユーザー・モードグループが SESSIONS RECOVPTION 値にリカバリーされます。 – SNASVCMG モードグループが 回復します。 – 接続は ACQUIRED 状態に戻され、最後に折衝された CNOS 状態が返されます。 • N_A - 値はこの定義に適用されず、妥当性検査は行われません。
キュー限度	QUEUELIMIT	<p>空きセッションを待機する間に CICS がキューに入れる割り振り要求の最大数。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - 空きセッションを待機する間に CICS がキューに入れられることが可能な割り振り要求の数に設定される限度はありません。 • nnnn - 空きセッション待機中の接続において、CICS がキューに入れることのできる割り振り要求の 0 から 9999 までの範囲の最大数。
レコード形式	RECORDFORMAT	<p>SNA チェーンのタイプ。</p> <ul style="list-style-type: none"> • U - 単一の非ブロック化データ・ストリーム。 • VB - SNA チェーンは、LUTYPE6.1 アーキテクチャーで定義されているように VLVB 標準に従って形式設定されます。
リモート・システムの接続名	REMOTENAME	<p>接続を所有するシステムまたは領域において、トランザクション・ルーティングの APPC 接続を識別するための名前。名前の長さは最大 4 文字です。</p>
所有 TOR のネット名	REMOTESYSNET	<p>接続を所有するシステムのネットワーク名 (APPLID)。名前の長さは最大 4 文字です。</p>
リモート接続名	REMOTESYSTEM	<p>接続を所有するシステムへの相互通信リンク。名前の長さは最大 4 文字です。</p>
NETBIOS リモート・システム・アプリケーション ID	REMSYSAPPLID	<p>(OS/2 用 CICS のみ) NetBIOS 接続では、リモート CICS システムの名前を 1 から 8 文字で指定します。この名前は、リモート・システムの SIT のローカル・システム・アプリケーション ID と一致している必要があります。</p>
TCP/IP リモート・ホスト名	REMTHOSTNAME	<p>(OS/2 用 CICS のみ) TCP/IP 接続では、リモート・システムの 1 から 40 文字のホスト名 (または同等の IP アドレス) を指定します。</p>
TCP/IP リモート・ホスト・ポート	REMHOSTPORT	<p>(OS/2 用 CICS のみ) TCP/IP 接続では、リモート・システムの TCP ポートを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 値 - 1 から 65535 の範囲のポート番号。(デフォルトは 1435 です。) • * (アスタリスク) - TCP/IP の SERVICES ファイルにある値が使用されます。
リモート・システムのセキュリティ名	SECURITYNAME	<p>APPC および LU6.1 リンクの場合のみ、これはリモート・システムのセキュリティ名です。セキュリティ名 (またはセッション定義の USERID) は、ご使用のシステムの有効な RACF ユーザー ID でなければなりません。</p>
最大セッション・バッファ・サイズ	SESSBUFFSIZE	<p>接続用セッション・バッファの最大サイズ (256 から 30720 の範囲)。</p>
並行アクティブ・セッション数	SESSCOUNT	<p>現在使用中のセッション数。</p>

表 289. CONNDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
単一セッション APPC リンク上の APPC 端末	SINGLESESS	定義が CICS への単一セッション APPC リンク上の APPC 端末を対象としたものであるかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> NO - 定義は CICS への単一セッション APPC リンクを対象としたものではありません。 YES - 定義は CICS への単一セッション APPC リンク上の APPC 端末を対象としたものです。 N_A - 値はこの定義に適用されず、CICSplex SM による妥当性検査は行われません。
デフォルト・ユーザー ID を使用	USEDFLTUSER	ATTACHSEC 属性で暗黙的に指定されたセキュリティ情報がインパウンド FMH5 に含まれない場合を取るアクション: <ul style="list-style-type: none"> NO - 接続要求が拒否され、プロトコル違反メッセージが発行されます。 YES - CICS システム用に DFLUSER SIT パラメーターで指定されたデフォルトのユーザー ID を使用します。 N_A - 値はこの定義に適用されず、CICSplex SM による妥当性検査は行われません。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
交換ログ名 (XLN) アクション	XLNACTION	交換ログ名 (XLN) プロセスの状況。

ジャーナル・モデルの定義 - JRNMDEF

「ジャーナル・モデル定義」(JRNMDEF) ビューには、CICS ジャーナル名と、MVS システム・ログ・ストリームまたは SMF ログとの間の関連に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS** リソース定義」 > 「ジャーナル・モデル定義」

表 290. 提供された「ジャーナル・モデル定義」(JRNMDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
ジャーナル・モデル定義 EYUSTARTJRNMDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のジャーナル・モデル定義をリソース・グループに追加します。
ジャーナル・モデル定義 EYUSTARTJRNMDEF.CREATE	ジャーナル・モデル定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
ジャーナル・モデル定義 EYUSTARTJRNMDEF.DETAILED	選択したジャーナル・モデル定義に関する詳細情報
ジャーナル・モデル定義 EYUSTARTJRNMDEF.INSTALL	ジャーナル・モデル定義をアクティブなシステムにインストールします。
ジャーナル・モデル定義 EYUSTARTJRNMDEF.REMOVE	データ・リポジトリからジャーナル・モデル定義を除去します。

表 290. 提供された「ジャーナル・モデル定義」 (JRNMDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
ジャーナル・モデル定義 EYUSTARTJRNMDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのジャーナル・モデル定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 291. JRNMDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上のジャーナル・モデル定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	ジャーナル・モデル定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	ジャーナル・モデル定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからジャーナル・モデル定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のジャーナル・モデル定義を更新します。

フィールド

表 292. JRNMDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	ジャーナル・モデル定義の説明。
ジャーナル名	JOURNALNAME	このジャーナル・モデルを使用できるジャーナルの名前 (8 文字)。
名前	NAME	ジャーナル・モデル定義の名前。

表 292. JRN MDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
MVS ログ・ストリーム名	STREAMNAME	<p>明示的 MVS システム・ロガー・ログ・ストリーム名、またはログ・ストリーム名を構成するために使用されるテンプレートのいずれかを指定します。STREAMNAME は、MVS の STREAMNAME と共に 定義されたジャーナル・モデルのみに適用 できます。 ログ・ストリーム名は、以下の ように MVS データ・セット名に対して 定義したように、非修飾名または修飾名のいずれかを 使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 非修飾名 - 1 から 8 文字の英数字、国別文字、またはハイフン。名前の先頭文字は英字または国別文字でなければなりません。 修飾名 - 最大 26 文字の範囲で複数の名前をピリオドで結合させた名前。修飾名は、特定の文字 (許可されたセット内のもの) および &#x26;USERID.、&#x26;APPLID.、&#x26;JNAME.、&#x26;SYSID. の 4 つのシンボル名から最大 3 つを組み合わせたもので構成されます。置換後の名前は、ピリオドを含め 26 文字を超えてはなりません。
ログ・ストリーム・タイプ	STREAMTYPE	<p>ジャーナル・レコードが書き込まれる場所を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> DUMMY - ログ・レコードは書き込まれません。 MVS - レコードは MVS システム・ロガー・ログ・ストリームに書き込まれます。ログ・ストリームの名前は STREAMNAME 属性で 指定されます。 SMF - ジャーナル・レコードは、MVS システム・ロガー・ログ・ストリームではなく、SMF 形式で MVS SMF ログに書き込まれます。SMF は、CICS システム・ログまたは順方向リカバリー・ログで 許可されません。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

JVM サーバー定義 - JVMSVDEF

「**JVM サーバー定義**」(JVMSVDEF) ビューには、JVM サーバーのランタイム環境に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**JVM サーバー定義**」

表 293. 提供された「 JVM サーバー定義 」(JVMSVDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
JVM サーバー定義 EYUSTARTJVMSVDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の JVM サーバー定義をリソース・グループに追加します。
JVM サーバー定義 EYUSTARTJVMSVDEF.CREATE	JVM サーバー定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
JVM サーバー定義 EYUSTARTJVMSVDEF.DETAILED	選択した JVM サーバー定義に関する詳細情報。

表 293. 提供された「JVM サーバー定義」 (JVMSVDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
JVM サーバー定義 EYUSTARTJVMSVDEF.INSTALL	JVM サーバー定義をアクティブなシステムにインストールします。 FORCE INSTALL によって上書きされた JVM サーバーは、使用不可にする必要があります。
JVM サーバー定義 EYUSTARTJVMSVDEF.REMOVE	データ・リポジトリから JVM サーバー定義を除去します。
JVM サーバー定義 EYUSTARTJVMSVDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての JVM サーバー定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 294. JVMSVDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の JVM サーバー定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	JVM サーバー定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	JVM サーバー定義をアクティブなシステムにインストールします。FORCE INSTALL によって上書きされた JVM サーバーは、使用不可にする必要があります。
REMOVE	データ・リポジトリから JVM サーバー定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある JVM サーバー定義を更新します。

フィールド

表 295. JVMSVDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	JVM サーバー定義の説明。

表 295. JVMSVDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
JVM プロファイル名	JVMPROFILE	JVM サーバーの JVM プロファイルの名前 (1 文字から 8 文字) を指定します。JVM プロファイルとは、システム初期設定パラメーター JVMPROFILEDIR によって指定される z/OS UNIX ディレクトリー内のファイルです。代わりに、ファイルを z/OS UNIX ファイル・システム内の別の場所に配置して、UNIX ソフト・リンクにより JVMPROFILEDIR ディレクトリーから参照することもできます。このプロファイルには、JVM サーバーを稼働するための JVM オプションが含まれています。
LE ランタイム・オプション・プログラム	LERUNOPTS	言語環境エンクレープのランタイム・オプションを定義するプログラムの名前 (1 文字から 8 文字) を指定します。プログラムは、hlq.SDFHLOAD ライブラリーにある必要があります。プログラムの名前を大文字で指定してください。デフォルト・プログラムは DFHAXRO です。
名前	NAME	JVM サーバー・リソースの 8 文字の名前。
使用可能状況	STATUS	インストール時の JVM サーバー・リソースの初期状況を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ENABLED: JVM サーバーのランタイム環境は使用可能です。 DISABLED: JVM サーバーのランタイム環境は使用不可です。
Maximum number of threads (最大スレッド数)	THREADLIMIT	JVM サーバーの言語環境エンクレープで許可されるスレッドの最大数を指定します。各スレッドは、T8 TCB の下で実行します。スレッドの限界は 1 から 256 までの範囲で指定できます。 他のすべての有効な JVM サーバー・リソースを考慮した上で、CICS 領域で許可されているスレッド最大値 1024 を超えるスレッド限界を指定した場合、CICS はスレッドの限界値として残りのスレッドを最大 1024 までリソースに割り振ります。CICS が JVM サーバー・スレッドの最大数に既に達している場合、リソースは使用不可の状態インストールされます。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

LIBRARY 定義 - LIBDEF

「**LIBRARY 定義**」(LIBDEF) ビューには、動的プログラム・ライブラリー定義に関する情報が表示されます。これには、各 LIBRARY が離散的アプリケーションと、そのアプリケーションによって必要とされる、少数のデータ・セットに保持されているプログラム成果物を表す目的があります。アプリケーションが 16 個を超えるデータ・セットを必要とする場合、追加の LIBRARY リソースを定義できますが、その際に順序が重要であればそのデータ・セットが求められている順序で検索されるようにするランキング値を指定します。使用可能化状況は、LIBRARY リソースの集合が必要な方法で検索順序に導入されるようにするために使用できます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**LIBRARY 定義**」

表 296. 提供された「 LIBRARY 定義 」(LIBDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
LIBRARY 定義 EYUSTARTLIBDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の LIBRARY 定義をリソース・グループに追加します。

表 296. 提供された「 LIBRARY 定義 」(LIBDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
LIBRARY 定義 EYUSTARTLIBDEF.CREATE	LIBRARY 定義を作成し、データ・リポジトリに追加します。
LIBRARY 定義 EYUSTARTLIBDEF.DETAILED	選択された LIBRARY 定義についての詳細情報。
LIBRARY 定義 EYUSTARTLIBDEF.INSTALL	LIBRARY 定義をアクティブなシステムにインストールします。
LIBRARY 定義 EYUSTARTLIBDEF.REMOVE	データ・リポジトリから LIBRARY 定義を除去します。
LIBRARY 定義 EYUSTARTLIBDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての LIBRARY 定義に関する表形式の情報。

アクション

表 297. LIBDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の LIBRARY 定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	LIBRARY 定義を作成し、データ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	LIBRARY 定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから LIBRARY 定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある LIBRARY 定義を更新します。

フィールド

表 298. LIBDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSEBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。

表 298. LIBDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
クリティカル状況	CRITICAL	<p>LIBRARY が CICS の始動にとってクリティカルとみなすかどうかを指定します。値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES <ul style="list-style-type: none"> LIBRARY は CICS の始動にとって重要です。CICS の始動時に何らかの理由で LIBRARY を正常にインストールできない場合、「GO or CANCEL」メッセージが出されます。これによりオペレーターは、クリティカル 値を無効にして CICS に始動を許可するかどうかを決定できます。CICS が続行を許可される場合、ストレージ不足条件などによってインストールが不可能になっているのであれば、LIBRARY は「使用不可」状態でインストールされます。応答が始動を続行することである場合、LIBRARY は NONCRITICAL として再カタログされません。そのため、LIBRARY を今後 CRITICAL とみなさないことにする場合、クリティカル 状況を明示的に NONCRITICAL に設定する必要があります。 • NO <ul style="list-style-type: none"> LIBRARY は CICS の始動にとって重要ではありません。CICS の始動時に LIBRARY を正常にインストールできない場合、LIBRARY はインストール済みだが使用不可の状態のままになり、警告メッセージが発行されます。しかし、CICS の始動は続行します。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	LIBRARY 定義の説明。
データ・セット名 01	DSNAME01	連結内の最初のデータ・セット(指定されている場合)。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要はありません。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
データ・セット名 02	DSNAME02	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要はありません。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
データ・セット名 03	DSNAME03	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要はありません。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
データ・セット名 04	DSNAME04	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要はありません。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。

表 298. LIBDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
データ・セット名 05	DSNAME05	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要はありません。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
データ・セット名 06	DSNAME06	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要はありません。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
データ・セット名 07	DSNAME07	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要はありません。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
データ・セット名 08	DSNAME08	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要はありません。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
データ・セット名 09	DSNAME09	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要はありません。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
データ・セット名 10	DSNAME10	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要はありません。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
データ・セット名 11	DSNAME11	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要はありません。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。

表 298. LIBDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
データ・セット名 12	DSNAME12	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要があります。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
データ・セット名 13	DSNAME13	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要があります。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
データ・セット名 14	DSNAME14	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要があります。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
データ・セット名 15	DSNAME15	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要があります。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
データ・セット名 16	DSNAME16	連結内の次のデータ・セット(指定されている場合)か、前の DSNAMEnn が指定されていない場合は最初のデータ・セット。これは有効な 44 文字の完全修飾データ・セット名でなければなりません。また、SHR のファイル属性指定状況が想定されます。少なくとも 1 つの DSNAMEnn を指定しなければなりません。これには最初の位置 (DSNAME01) を指定する必要があります。また、追加データ・セット名を定義に挿入するのが容易になるように、データ・セット名を DSNAME01 から DSNAME16 属性の範囲で分散させることができます。
名前	NAME	LIBRARY リソースの 8 文字の名前。

表 298. LIBDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
Ranking (ランキング)	RANKING	<p>この LIBRARY が有効となっている場合、全体的な検索順序のどの位置に配置されるのかを決定する数。値が小さい場合、ロードするプログラムを探すために、ランキング番号が大きい他の LIBRARY リソースの前にこの LIBRARY が検索されることを示します。ランキングは、重複値を許可するという点では異なるものの、LIBRARY 連結内のデータ・セットの連結番号にいくらか類似していると見なすことができます。RANKING は 1 から 99 の間の値をとり、デフォルトは 50 です。値 10 は DFHRPL (静的 LIBRARY) のために予約されており、指定できません。</p> <p>1 つ以上のデータ・セットでこの LIBRARY に離散的なアプリケーションが含まれる場合、他の LIBRARY リソースと比べたこの LIBRARY のランキングは通常は重要ではなく、デフォルトのランキング値を受け入れることができます。ただし、この LIBRARY に、別の LIBRARY にも現れるプログラム成果物を置き換えるために必要なプログラム成果物が含まれる場合は例外となります。その場合、プログラム成果物がこの LIBRARY からロードされるように、この LIBRARY のランキングを他の LIBRARY のランキングより小さい値にする必要があります。</p> <p>DFHRPL 連結には、事前定義されたランキングである 10 が割り当てられます。この値は変更できません。これにより、動的に定義された LIBRARY リソースに 10 より小さいランキング値を指定すれば、その LIBRARY リソースを全体的な検索順序で DFHRPL 連結より前に配置することができます。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> LIBRARY リソースを検索順序で DFHRPL より前に配置するランキングにすることは、一時的な状態であるとは見なす必要があります。 事前定義された DFHRPL ランキングの 10 は、検索順序で LIBRARY リソースの配置が DFHRPL より前にならないようにすることを意図していますが、LIBRARY リソース自体の間のランキングが重要でない場合には、DFHRPL の前に配置できる LIBRARY リソースの総数は制限されません。ランキングが 10 より小さい場合、可能であれば、この LIBRARY が検索順序で DFHRPL より前に現れることをユーザーに通知するメッセージをトリガーします。 ランキングが 10 より小さい場合、プログラムが最初にロードされるか、NEWCOPY または PHASEIN 要求が発行されて、プログラムが DFHRPL より優先されて動的 LIBRARY からロードされるまで、そのランキングは有効になりません。ただし、プログラムが DFHRPL 連結内にある場合に限り、連結内には、10 より小さいランキングを使用する理由はありません。
使用可能状況	STATUS	<p>LIBRARY が全体的な LIBRARY 検索順序に含まれるかどうかを示します。値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> DISABLED <ul style="list-style-type: none"> この LIBRARY は、LIBRARY 検索順序に含まれていません。この LIBRARY 連結内のデータ・セットで、ロードするプログラム成果物を検索しません。 ENABLED <ul style="list-style-type: none"> この LIBRARY は、LIBRARY 検索順序に含まれます。この LIBRARY 連結内のデータ・セットで、ロードするプログラム成果物を検索します。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

LSR プール定義 - LSRDEF

「**LSR プール定義**」(LSRDEF) ビューには、VSAM が特定のファイルで使用するローカル共有リソース・プール定義のサイズおよび特性に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**LSR プール定義**」

表 299. 提供された「 LSR プール定義 」(LSRDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
LSR プール定義 EYUSTARTLSRDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の LSR プール定義をリソース・グループに追加します。
LSR プール定義 EYUSTARTLSRDEF.CREATE	LSR プール定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
LSR プール定義 EYUSTARTLSRDEF.DETAILED	選択した LSR プール定義に関する詳細情報
LSR プール定義 EYUSTARTLSRDEF.INSTALL	LSR プール定義をアクティブなシステムにインストールします。
LSR プール定義 EYUSTARTLSRDEF.REMOVE	データ・リポジトリから LSR プール定義を除去します。
LSR プール定義 EYUSTARTLSRDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての LSR プール定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 300. LSRDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上の LSR プール定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	LSR プール定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	LSR プール定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから LSR プール定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の LSR プール定義を更新します。

フィールド

表 301. LSRDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
12 KB データ・バッファ数	DATA12K	このサイズに必要なデータ・バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
16 KB データ・バッファ数	DATA16K	このサイズに必要なデータ・バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
1 KB データ・バッファ数	DATA1K	このサイズに必要なデータ・バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
20 KB データ・バッファ数	DATA20K	このサイズに必要なデータ・バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
24 KB データ・バッファ数	DATA24K	このサイズに必要なデータ・バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
28 KB データ・バッファ数	DATA28K	このサイズに必要なデータ・バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
2 KB データ・バッファ数	DATA2K	このサイズに必要なデータ・バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
32 KB データ・バッファ数	DATA32K	このサイズに必要なデータ・バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
4 KB データ・バッファ数	DATA4K	このサイズに必要なデータ・バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
512 バイト・データ・バッファ数	DATA512	このサイズに必要なデータ・バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
8 KB データ・バッファ数	DATA8K	このサイズに必要なデータ・バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	LSR プール定義の説明。
12 KB ハイパースペース・データ・バッファ数	HSDATA12K	このサイズに必要なハイパースペース・データ・バッファの数 (0 から 16777215 の範囲)。これらのフィールドをブランクのままにした場合、デフォルト値はありません。特定のサイズのハイパースペース・データ・バッファの値を指定した場合、同じサイズのデータ・バッファの値を指定する必要もあります。

表 301. LSRDEF ビューのフィールド (続き)

[illegible]

表 301. LSRDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
32 KB ハイパースペース 索引バッファ数	HSINDEX32K	このサイズに必要なハイパースペース 索引バッファの数 (0 から 16777215 の範囲)。これらのフィールドをブランクのままにした場合、デフォルト値はありません。特定のサイズのハイパースペース 索引バッファの値を指定した場合、同じサイズの索引バッファの値を指定する必要もあります。
4 KB ハイパースペース 索引バッファ数	HSINDEX4K	このサイズに必要なハイパースペース 索引バッファの数 (0 から 16777215 の範囲)。これらのフィールドをブランクのままにした場合、デフォルト値はありません。特定のサイズのハイパースペース 索引バッファの値を指定した場合、同じサイズの索引バッファの値を指定する必要もあります。
8 KB ハイパースペース 索引バッファ数	HSINDEX8K	このサイズに必要なハイパースペース 索引バッファの数 (0 から 16777215 の範囲)。これらのフィールドをブランクのままにした場合、デフォルト値はありません。特定のサイズのハイパースペース 索引バッファの値を指定した場合、同じサイズの索引バッファの値を指定する必要もあります。
12 KB 索引バッファ数	INDEX12K	このサイズに必要な索引バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
16 KB 索引バッファ数	INDEX16K	このサイズに必要な索引バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
1 KB 索引バッファ数	INDEX1K	このサイズに必要な索引バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
20 KB 索引バッファ数	INDEX20K	このサイズに必要な索引バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
24 KB 索引バッファ数	INDEX24K	このサイズに必要な索引バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
28 KB 索引バッファ数	INDEX28K	このサイズに必要な索引バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
2 KB 索引バッファ数	INDEX2K	このサイズに必要な索引バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
32 KB 索引バッファ数	INDEX32K	このサイズに必要な索引バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
4 KB 索引バッファ数	INDEX4K	このサイズに必要な索引バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
512 バイト索引バッファ数	INDEX512	このサイズに必要な索引バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
8 KB 索引バッファ数	INDEX8K	このサイズに必要な索引バッファの数 (3 から 32767 の範囲)。このフィールドをブランクにすると、デフォルトの値がなくなります。
LSR プール番号	LSRPOOLID	定義されるローカル共用リソース・プールの ID。この値は 1 から 255 の範囲でなければなりません。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。
Maximum key length (キーの最大長)	MAXKEYLENGTH	リソースを共用する任意のファイルのキーの最大長。この値は 0 から 255 の範囲でなければなりません。この値は CICS リソース計算の一部を指定変更します。この値を指定しない場合、CICS によって最大キー長が決定されます。
名前	NAME	LSR プール定義の名前。
リソースの共用限界	SHARELIMIT	割り振られる VSAM リソースの最大量の百分率。この数値は 1 から 100 までの値にできます。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。
プール内の最大ファイル・ストリング数	STRINGS	プール内にあるファイルのすべてのストリングの制限 (1 から 255 までの範囲)。このフィールドをブランクのままにした場合、デフォルト値はありません。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

表 301. LSRDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

マップ・セットの定義 - MAPDEF

「マップ・セット定義」(MAPDEF) ビューには、関連した画面レイアウトのグループ、またはマップ定義の特性に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「マップ・セット定義」

表 302. 提供された「マップ・セット定義」(MAPDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
マップ・セット定義 EYUSTARTMAPDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のマップ・セット定義をリソース・グループに追加します。
マップ・セット定義 EYUSTARTMAPDEF.CREATE	マップ・セット定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
マップ・セット定義 EYUSTARTMAPDEF.DETAILED	選択したマップ・セット定義に関する詳細情報
マップ・セット定義 EYUSTARTMAPDEF.INSTALL	マップ・セット定義をアクティブなシステムにインストールします。
マップ・セット定義 EYUSTARTMAPDEF.REMOVE	データ・リポジトリからマップ・セット定義を除去します。
マップ・セット定義 EYUSTARTMAPDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのマップ・セット定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 303. MAPDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上のマップ・セット定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	マップ・セット定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	マップ・セット定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからマップ・セット定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のマップ・セット定義を更新します。

フィールド

表 304. MAPDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	マップ・セット定義の説明。
名前	NAME	マップ・セット定義の名前。
常駐状況	RESIDENT	マップ・セットの常駐状況。 <ul style="list-style-type: none"> NO - マップ・セットは永続的には常駐しません。 YES - マップ・セットは最初の参照時にロードされ、その後仮想記憶域に永続的に常駐しますが、オペレーティング・システムによるページングが可能となります。
リソース・セキュリティ値	RSL	廃止。
マップ・セット状況	STATUS	マップ・セットの状況: <ul style="list-style-type: none"> DISABLED - マップ・セットは使用できません。 ENABLED - マップ・セットを使用できます。
マップ・セット・ストレージ解放	USAGE	マップ・セットのストレージをいつ解放するかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> NORMAL - マップ・セットの使用回数がゼロに達すると、マップ・セットは、通常の動的ストレージ圧縮プロセスの一部としてストレージから除去される対象として適格になります。 TRANSIENT - このマップ・セットの使用回数がゼロになった時、このマップ・セットのストレージは解放されます。この値は、まれにしか参照されないマップ・セットの場合に指定します。
「リンク・バック域 (LPA) のマップ・セットを使用」オプション	USELPACOPY	マップ・セットをリンク・バック域 (LPA) から使用するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> NO - マップ・セットは LPA から使用されません。これは CICS 区画にロードされます。 YES - システム初期化パラメーターとして LPA=YES が指定されている場合、マップ・セットを LPA から使用できます。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

表 304. MAPDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

WebSphere MQ 接続定義 - MQCONDEF

「**WebSphere MQ 接続定義**」(MQCONDEF) ビューには、CICS と WebSphere MQ の間の接続に関する情報が表示されます。MQCONN リソース定義は、CICS と WebSphere MQ の間の 接続の属性を定義します。CICS 領域が持つことのできる MQCONN リソース定義は 1 つだけです。デフォルト開始キューの名前を指定する MQCONN リソース定義をインストールすると、CICS は暗黙的な MQINI リソース定義もインストールします。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**WebSphere MQ 接続定義**」

表 305. 提供された「 WebSphere MQ 接続定義 」(MQCONDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
WebSphere MQ 接続定義 EYUSTARTMQCONDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の WebSphere MQ 接続定義をリソース・グループに追加します。
WebSphere MQ 接続定義 EYUSTARTMQCONDEF.CREATE	WebSphere MQ 接続定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
WebSphere MQ 接続定義 EYUSTARTMQCONDEF.DETAILED	選択した WebSphere MQ 接続定義に関する詳細情報
WebSphere MQ 接続定義 EYUSTARTMQCONDEF.INSTALL	アクティブなシステムに WebSphere MQ 接続定義をインストールします。
WebSphere MQ 接続定義 EYUSTARTMQCONDEF.REMOVE	データ・リポジトリから WebSphere MQ 接続定義を除去します。
WebSphere MQ 接続定義 EYUSTARTMQCONDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての WebSphere 接続定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 306. MQCONDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上の WebSphere MQ 接続定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	WebSphere MQ 接続定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	アクティブなシステムに WebSphere MQ 接続定義をインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから WebSphere MQ 接続定義を除去します。

表 306. MQCONDEF ビューで使用可能なアクション (続き)	
アクション	説明
UPDATE	データ・リポジトリ内の WebSphere MQ 接続定義を更新します。

フィールド

表 307. MQCONDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	MQCONN 定義の説明。
MQ 開始キュー名	INITQNAME	この CICS-MQ 接続に対するデフォルトの開始キューの 1 から 48 文字の名前。
MQ キュー・マネージャーまたは QSG 名	MQNAME	単一の WebSphere MQ キュー・マネージャーまたは WebSphere MQ キュー・マネージャーのキュー共有グループのいずれかの名前を 1 文字から 4 文字の範囲で指定します。
名前	NAME	WebSphere MQ 接続リソースの 8 文字の名前。

表 307. MQCONDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
再同期メンバー	RESYNCMEMBER	<p>この属性が適用できるのは、MQNAME 属性を使用して WebSphere MQ キュー共有グループを指定した場合のみです。CICS がキュー共有グループから最後に接続されたキュー・マネージャーで未解決の作業単位が保留中になっている場合に、CICS が採用するストラテジーを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES <ul style="list-style-type: none"> – CICS は同じキュー・マネージャーに接続し、必要であれば、キュー・マネージャーがアクティブになって未確定の作業単位を解決できるようになるまで待機します。これはデフォルトです。 • NO <ul style="list-style-type: none"> – CICS は同じキュー・マネージャーへの接続を 1 回試みます。その試行が失敗した場合、CICS はキュー共有グループのいずれかのメンバーと接続して、未解決の作業単位に関する警告メッセージ DFHMQ2064 を発行します。 • GROUPRESYNC <ul style="list-style-type: none"> – CICS はキュー共有グループの任意のメンバーに接続します。キュー・マネージャーは、WebSphere MQ によって選択されます。そのキュー・マネージャーは、キュー共有グループ内のすべての適格なキュー・マネージャーに代わって未確定の作業単位を解決するように CICS に要請します。この機能のことをグループ・リカバリー単位 (グループ UR) といいます。このオプションを使用できるのは、CICS のグループ UR がサポートされている WebSphere MQ リリースを実行していて、各キュー・マネージャーでグループ UR が有効になっている場合に限られます。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

WebSphere MQ モニター定義 - MQMONDEF

「**WebSphere MQ モニター定義**」(MQMONDEF) ビューには、WebSphere MQ モニターに関する情報が表示されます。MQMonitor リソース定義によって、MQMonitor の属性が定義されます。1 つの CICS 領域に、複数の WebSphere MQ モニターをインストールできます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**WebSphere MQ モニター定義**」

表 308. 提供された「 WebSphere MQ モニター定義 」(MQMONDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
WebSphere MQ モニター定義 EYUSTARTMQMONDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の WebSphere モニター接続定義をリソース・グループに追加します。
WebSphere MQ モニター定義 EYUSTARTMQMONDEF.CREATE	WebSphere MQ モニター定義を作成してそれをデータ・リポジットに追加します。
WebSphere MQ モニター定義 EYUSTARTMQMONDEF.DETAILED	選択した WebSphere MQ モニター定義に関する詳細情報

表 308. 提供された「WebSphere MQ モニター定義」 (MQMONDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
WebSphere MQ モニター定義 EYUSTARTMQMONDEF.INSTALL	アクティブなシステムに WebSphere MQ モニター定義をインストールします。
WebSphere MQ モニター定義 EYUSTARTMQMONDEF.REMOVE	データ・リポジトリから WebSphere MQ モニター定義を除去します。
WebSphere MQ モニター定義 EYUSTARTMQMONDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての WebSphere モニター定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 309. MQMONDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の WebSphere モニター接続定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	WebSphere MQ モニター定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	アクティブなシステムに WebSphere MQ モニター定義をインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから WebSphere MQ モニター定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の WebSphere MQ モニター定義を更新します。

フィールド

表 310. MQMONDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
自動始動状況	AUTOSTART	MQ キュー・マネージャーとの接続の確立時にキュー・モニター・トランザクションが自動的に開始するかどうか。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	この定義の BAS バージョン番号 (1 から 15)。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	MQMON 定義の説明。
モニター・データ	MONDATA	MQ キューをモニターするトランザクションに渡すデータ。
モニター・ユーザー ID	MONUSERID	MQ キューをモニターするタスクで使用するユーザー ID。

表 310. MQMONDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
名前	NAME	WebSphere MQ モニター・リソースの名前 (8 文字)。
MQ キュー名	QNAME	この WebSphere MQ モニターの Websphere MQ キューの名前 (1 文字から 48 文字)。
使用可能状況	STATUS	MQ モニターの有効/無効状況。
モニター・トランザクション	TRANSACTION	MQ キューをモニターするタスクで使用するトランザクション。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	リソース定義に関連したサイト固有の追加データを指定するオプションのストリング (8 文字以下)。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	リソース定義に関連したサイト固有の追加データを指定するオプションのストリング (8 文字以下)。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	リソース定義に関連したサイト固有の追加データを指定するオプションのストリング (8 文字以下)。
ターゲット・ユーザー ID (Target userid)	USERID	アプリケーションでユーザー ID が指定されていない場合に、MQ モニター・タスクが開始するタスクで使用するユーザー ID。

パーティション・セットの定義 - PRTNDEF

「区画セット定義」(PRTNDEF) ビューには、表示区画構成定義の特性に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「区画セット定義」

表 311. 提供された「区画セット定義」(PRTNDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
区画セット定義 EYUSTARTPRTNDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の区画セット定義をリソース・グループに追加します。
区画セット定義 EYUSTARTPRTNDEF.CREATE	区画セット定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
区画セット定義 EYUSTARTPRTNDEF.DETAILED	選択した区画セット定義に関する詳細情報
区画セット定義 EYUSTARTPRTNDEF.INSTALL	区画セット定義をアクティブなシステムにインストールします。
区画セット定義 EYUSTARTPRTNDEF.REMOVE	データ・リポジトリから区画セット定義を除去します。
区画セット定義 EYUSTARTPRTNDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての区画セット定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 312. PRTNDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上の区画セット定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	区画セット定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。

表 312. PRTNDEF ビューで使用可能なアクション (続き)	
アクション	説明
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	区画セット定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから区画セット定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の区画セット定義を更新します。

フィールド

表 313. PRTNDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSEBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	区画セット定義の説明。
名前	NAME	区画セット定義の名前。
常駐状況	RESIDENT	区画セットの常駐状況。 <ul style="list-style-type: none"> NO - 区画セットは永続的には常駐しません。 YES - 区画セットは最初の参照時にロードされ、その後仮想記憶域に永続的に常駐しますが、オペレーティング・システムによるページングが可能となります。
リソース・セキュリティ値	RSL	CICS/MVS 2.1.2 を実行しているシステムでは、プログラムに関連付けるリソース・セキュリティ値を次のように指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 0: RSL 検査が指定されたトランザクションは、プログラムへのアクセスが許可されません。 値: 1 - 24 の範囲のリソース・セキュリティ値。 PUBLIC: どのトランザクションでもプログラムにアクセスできます。 CICS/MVS 2.1.2 以外のバージョンの CICS を実行しているシステムでは、このフィールドは 0 となります。
区画セット状況	STATUS	区画セットの状況。 <ul style="list-style-type: none"> DISABLED - 区画セットは使用できません。 ENABLED - 区画セットを使用できます。

表 313. PRTNDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
区画セット・ストレージ解放	USAGE	<p>区画セットのストレージをいつ解放するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NORMAL - 区画セットの使用回数がゼロに達すると、区画セットは、通常の動的プログラム圧縮プロセスの一部としてストレージから除去される対象として適格になります。 • TRANSIENT - この区画セットの使用回数がゼロになった時、この区画セットのストレージは解放されます。この値は、まれにしか参照されない区画セットの場合に指定します。
リンク・バック域 (LPA) にある区画セットのコピーを使用	USELPACOPY	<p>区画セットをリンク・バック域 (LPA) から使用するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - 区画セットは LPA から使用できません。これは CICS 区画にロードされます。 • YES - システム初期化パラメーターとして LPA=YES が指定されている場合、区画セットを LPA から使用できます。LPA から区画セットを使用するには、それがそこにインストール済みで、区画セットが PRVMOD 開始オプションで指定されていないことが必要です。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

パートナー定義 - PARTDEF

「パートナー定義」(PARTDEF) ビューには、パートナー定義の物理的および操作上の特性に関する情報が表示されます。パートナー定義を使用すると、CICS アプリケーション・プログラムが APPC プロトコルを介してリモート論理装置で実行されるパートナー・アプリケーション・プログラムと通信できるようになります。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「パートナー定義」

表 314. 提供された 「パートナー定義」 (PARTDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
パートナー定義 EYUSTARTPARTDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のパートナー定義をリソース・グループに追加します。
パートナー定義 EYUSTARTPARTDEF.CREATE	パートナー定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
パートナー定義 EYUSTARTPARTDEF.DETAILED	選択したパートナー定義に関する詳細情報
パートナー定義 EYUSTARTPARTDEF.INSTALL	パートナー定義をアクティブなシステムにインストールします。
パートナー定義 EYUSTARTPARTDEF.REMOVE	データ・リポジトリからパートナー定義を除去します。

表 314. 提供された「パートナー定義」(PARTDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
パートナー定義 EYUSTARTPARTDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのパートナー定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 315. PARTDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上のパートナー定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	パートナー定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	パートナー定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからパートナー定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のパートナー定義を更新します。

フィールド

表 316. PARTDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	パートナー定義の説明。
名前	NAME	パートナー定義の名前。
VTAM ノード名	NETNAME	パートナー・アプリケーション・プログラムが実行されている論理装置のネットワーク名。これは、接続定義で指定された NETNAME 属性と一致します。名前の最大長は 8 文字です。
ネットワーク名	NETWORK	(オプション。) パートナー LU が置かれているネットワークの名前。名前の最大長は 8 文字です。
プロファイル定義名	PROFILE	セッションおよび会話に使用される通信プロファイル。デフォルトの PROFILE は DFHCICSA です。

表 316. PARTDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リモート・トランザクション・プログラム名 (文字)	TPNAME	パートナー LU で実行されるリモート・トランザクション・プログラムの名前。リモート TP 名の定義は必須です。TPNAME またはその代わりとなる XTPNAME のいずれかを指定する必要があります。この名前の長さは最大 64 文字です。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
リモート・トランザクション・プログラム名 (16 進数)	XTPNAME	パートナー LU で実行されるリモート・トランザクション・プログラムの名前を表す、最大 128 文字の長さの 16 進数ストリング。X'40'を除くすべての 16 進数の組み合わせが許容されます。この属性は、TPNAME の代替として使用されます。リモート TP 名の定義は必須であるため、この 2 つのうちどちらかを指定する必要があります。

パイプライン定義 - PIPEDEF

「パイプライン定義」(PIPEDEF) ビューには、サービス要求および応答で動作するメッセージ・ハンドラー・プログラムに関する情報が表示されます。CICS アプリケーションが Web サービスのプロバイダーまたはリクエスターとして動作している場合に、パイプライン・リソース定義が使用されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「パイプライン定義」

表 317. 提供された 「パイプライン定義」 (PIPEDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
パイプライン定義 EYUSTARTPIPEDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のパイプライン定義をリソース・グループに追加します。
パイプライン定義 EYUSTARTPIPEDEF.CREATE	パイプライン定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
パイプライン定義 EYUSTARTPIPEDEF.DETAILED	選択したパイプライン定義に関する詳細情報
パイプライン定義 EYUSTARTPIPEDEF.INSTALL	パイプライン定義をアクティブなシステムにインストールします。FORCE インストールを通して上書きされるすべてのパイプラインを使用不可にする必要があります。
パイプライン定義 EYUSTARTPIPEDEF.REMOVE	データ・リポジトリからパイプライン定義を除去します。
パイプライン定義 EYUSTARTPIPEDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのパイプライン定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 318. PIPEDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上のパイプライン定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	パイプライン定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	パイプライン定義をアクティブなシステムにインストールします。 FORCE インストールを通して上書きされるすべてのパイプラインを使用不可にする必要があります。
REMOVE	データ・リポジトリからパイプライン定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにあるパイプライン定義を更新します。

フィールド

表 319. PIPEDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラム プル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
このパイプライン用の zFS 上の構成ファイル名	CONFIGFILE	PIPELINE リソースに関連したパイプライン構成ファイルの名前。 この名前は最大 255 文字の長さにできます。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	定義の説明。
名前	NAME	定義の名前。
zFS のパイプライン・ポリシー・ディレクトリーの名前	POLICYDIR	このフィールドは現在使用するためのものではなく、将来の開発用のプレースホルダーです。
リクエスター・パイプラインの応答待ち時間 (SSSS)	RESPWAIT	アプリケーション・プログラムがリモートの Web サービスからの応答メッセージを待機する秒数を指定します。この値の範囲は 0 から 9999 秒で、キーワード値 DEFT を指定することもできます。この属性に RESPWAIT (DEFT) を指定すると、トランスポート・プロトコルのデフォルトのタイムアウト値が使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> HTTP のデフォルトのタイムアウト値は 10 秒です。 MQ のデフォルトのタイムアウト値は 60 秒です。
WSBind ファイルのディレクトリー名 (シェルフ)	SHELF	シェルフ・ディレクトリーの名前。この名前は最大 255 文字の長さにできます。

表 319. PIPEDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
使用可能状況	STATUS	PIPELINE の状況: <ul style="list-style-type: none"> ENABLED - この PIPELINE の Web サービス要求は正常に処理されます。 DISABLED - この PIPELINE の Web サービス要求は処理できません。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
zFS 上の WSBind (ピックアップ) ディレクトリー名	WSDIR	Web サービス・バインディング・ディレクトリー(ピックアップ・ディレクトリーとしても知られる)の名前。この名前は最大 255 文字の長さになります。

プロセス・タイプの定義 - PROCDEF

「プロセス・タイプ定義」(PROCDEF) ビューには、CICS ビジネス・トランザクション・サービス (BTS) プロセス・タイプ定義の物理的および操作面の特性に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「プロセス・タイプ定義」

表 320. 提供された「プロセス・タイプ定義」(PROCDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
プロセス・タイプ定義 EYUSTARTPROCDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のプロセス・タイプ定義をリソース・グループに追加します。
プロセス・タイプ定義 EYUSTARTPROCDEF.CREATE	プロセス・タイプ定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
プロセス・タイプ定義 EYUSTARTPROCDEF.DETAILED	選択したプロセス・タイプ定義に関する詳細情報
プロセス・タイプ定義 EYUSTARTPROCDEF.INSTALL	プロセス・タイプ定義をアクティブなシステムにインストールします。FORCE インストールを通して上書きされるすべてのプロセス・タイプを使用不可にする必要があります。
プロセス・タイプ定義 EYUSTARTPROCDEF.REMOVE	データ・リポジトリからプロセス・タイプ定義を除去します。
プロセス・タイプ定義 EYUSTARTPROCDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのプロセス・タイプ定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 321. PROCDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上のプロセス・タイプ定義をリソース・グループに追加します。

表 321. PROCDEF ビューで使用可能なアクション (続き)	
アクション	説明
CREATE	プロセス・タイプ定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	プロセス・タイプ定義をアクティブなシステムにインストールします。FORCE インストールを通して上書きされるすべてのプロセス・タイプを使用不可にする必要があります。
REMOVE	データ・リポジトリからプロセス・タイプ定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにあるプロセス・タイプ定義を更新します。

フィールド

表 322. PROCDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
監査レベル	AUDITLEVEL	このタイプのプロセス用の監査ログの初期レベル。OFF 以外の値を指定する場合、AUDITLOG オプションも指定する必要があります。
監査ログ名	AUDITLOG	このタイプのプロセスおよびそれを構成する活動用の、監査証跡レコードが書き込まれる CICS ジャーナルの名前。名前の長さは 8 文字以下です。監査ログを指定しないと、このタイプのプロセスで監査レコードは保持されません。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	CICS BTS プロセス・タイプ定義の説明。
ファイル名 (File name)	FILE	このプロセス・タイプのプロセス・レコードおよびアクティビティー・レコードを、関連したリポジトリ・データ・セットに書き込むのに使用する CICS ファイル定義の名前。名前の長さは 8 文字以下です。
名前	NAME	CICS BTS プロセス・タイプ定義の名前。
Enable status (使用可能状況)	STATUS	プロセス・タイプの初期状況。 <ul style="list-style-type: none"> DISABLED - このタイプのプロセスは作成できません。このタイプのプロセスを作成する EXEC CICS DEFINE PROCESS 要求を実行すると、アプリケーション・プログラムに INVREQ の状態が戻されます。 ENABLED - このタイプのプロセスを作成できます。

表 322. PROCDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

プロファイル定義 - PROFDEF

「**プロファイル定義**」(PROFDEF) ビューには、トランザクションと端末または論理装置との間の相互作用に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**プロファイル定義**」

表 323. 提供された「 プロファイル定義 」(PROFDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
プロファイル定義 EYUSTARTPROFDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のプロファイル定義をリソース・グループに追加します。
プロファイル定義 EYUSTARTPROFDEF.CREATE	プロファイル定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
プロファイル定義 EYUSTARTPROFDEF.DETAILED	選択したプロファイル定義に関する詳細情報
プロファイル定義 EYUSTARTPROFDEF.INSTALL	プロファイル定義をアクティブなシステムにインストールします。
プロファイル定義 EYUSTARTPROFDEF.REMOVE	データ・リポジトリからプロファイル定義を除去します。
プロファイル定義 EYUSTARTPROFDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのプロファイル定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 324. PROFDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上のプロファイル定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	プロファイル定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	プロファイル定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからプロファイル定義を除去します。

表 324. PROFDEF ビューで使用可能なアクション (続き)	
アクション	説明
UPDATE	データ・リポジトリ内のプロファイル定義を更新します。

フィールド

表 325. PROFDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アウトバウンド・チェーニング制御	CHAINCONTROL	アプリケーション・プログラムで要求単位のアウトバウンド・チェーンを制御できるかどうかを指定します。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	プロファイル定義の説明。
サポートされるデバイス	DVSUPRT	次のデバイス (端末または論理装置) がサポートされます。 <ul style="list-style-type: none"> • ALL - このプロファイルは、どの端末や論理装置でも使用することができます。 • NONVTAM - プロファイルは非 VTAM 端末のみで使用できます。 • VTAM - プロファイルは論理装置のみで使用できます。
機能モデル	FACILITYLIKE	1 文字から 4 文字までの端末定義名、またはブリッジ出口ルーチンによりテンプレートとして使用されるインストール済み端末定義 (TERMDEF)。このトランザクションが 3270 ブリッジ環境で実行される場合、基本機能は、このフィールドで定義された端末と同じ属性を持つように構築されます。この属性にデフォルト値はありません。

表 325. PROFDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
機能管理ヘッダー (FMH) をアプリケーションに渡す	INBFMH	<p>論理装置で使用するプロファイルにおいて、論理装置から受け取る機能管理ヘッダー (FMH) がアプリケーション・プログラムに渡されるかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ALL - すべての FMH (CICS によって処理された APPC FMH、LU6.1 ATTACH、および SYNCPOINT FMH を除く) はアプリケーション・プログラムに渡されます。この値は、CSMI のような機能シップ・トランザクション (分散トランザクション処理を使用するトランザクション) や分散プログラム・リンク要求が必要です。 DIP - バッチ・データ交換プログラム (DFHDIP) によってインバウンドの FMH を処理します。BMS 受信要求が発行されていて、端末管理受信要求ではなくバッチ・データ交換受信要求が発行される場合、BMS はバッチ・データ交換受信要求を発行します。 EODS - データ・セットの終わり (EODS) が示されている場合のみに、FMH がアプリケーション・プログラムに渡されます。 NO - FMH は破棄されます。
ジャーナル ID	JOURNAL	<p>メッセージの自動ジャーナル処理が行われるかどうかを、ジャーナルの ID を設定することにより指定します。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO - メッセージの自動ジャーナル処理は行われません。 数値 - 自動ジャーナル処理で使用するジャーナル ID。これは 01 から 99 の範囲の任意の数です。「DFHJ」にこの数字を追加して、DFHJnn という形式のジャーナル ID を生成します。この ID は MVS システム・ロガー汎用ログ・ストリームにマップされます。
受信に論理レコードを必要とする	LOGREC	アプリケーションの設計において、各 EXEC CICS RECEIVE 要求が論理レコードにより満たされる必要があるかどうかを指定します。
モード名	MODENAME	APPC 接続で使用するセッションのグループを指定する名前。名前の最大長は 8 文字です。
要求されたメッセージ応答	MSGINTEG	確定応答が論理装置への出力要求で要求されるかどうかを指定します。
ジャーナルに記録されるメッセージ	MSGJRNL	<p>どのメッセージが自動的にジャーナルに記録されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO - メッセージのジャーナル処理は必要ありません。 INPUT - ジャーナル処理は入力メッセージで必要です。 OUTPUT - ジャーナル処理は出力メッセージで実行されます。 INOUT - ジャーナル処理は入力メッセージおよび出力メッセージで実行されます。
名前	NAME	プロファイル定義の名前。
ノード・エラー・プログラム・トランザクション・クラス	NEPCCLASS	<p>ノード・エラー・プログラム・トランザクション・クラス:</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 - VTAM 装置のデフォルト・ノード・エラー・プログラム・モジュールへのリンクになります。または、非 VTAM 装置のデフォルト値です。 値 - (デフォルトではない) ノード・エラー・プログラム・モジュールのトランザクション・クラス。この値は 1 から 255 の範囲です。
一括書き込み操作	ONEWTE	トランザクションの実行中に 1 回の書き込み操作のみ、または EXEC CICS SEND が許可されるかを指定します。YES を指定すると、トランザクションの最初の書き込みにおいて LAST オプションを強制する効果があります。すべての追加書き込み要求はエラーとして処理され、タスクは異常終了するように準備されます。
プリンター互換性オプション	PRINTERCOMP	<p>データ・ストリームの生成で BMS SEND TEXT コマンドのプリンター互換性オプションをサポートするために必要な互換性レベル。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO - 出力の形式が属性バイトが各行の前に置かれる 3270 ディスプレイの形式と同等となるように、出力の各行はブランク文字で始まります。 YES - ブランク文字は挿入されないため、データの先頭文字として組み込まれる用紙送り文字が尊重され、プリンターの幅全部がデータに使用できます。BMS 用紙送りオプションを使用する場合には、YES を選択します。

表 325. PROFDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
出力メッセージ・リカバリー処理	PROTECT	CICS/MVS 2.1 以降、これは廃止になりました。SNA 論理装置において、YES または NO を指定して出力メッセージのリカバリーが必要かどうかを指定します。Protect の値がこの定義に適用されない場合には、N/A を指定します。
先読み取りキュー・オプション	RAQ	<p>「先読みキュー」オプションが必要かどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - トランザクションは SNA プロトコルに従い、正しいモードの場合にのみ SEND および RECEIVE を行います。プロトコルに従わない場合、コード ATCV で異常終了することがあります。 • YES - トランザクションは SNA プロトコルに従わない場合があります、CICS は、着信データがトランザクションにより具体的に要求されるまでそのデータを一時記憶域にキューとして入れます。RAQ(YES)は、2 進同期デバイスと論理装置の両方をサポートするトランザクションの互換性にのみ設定されますが、使用は推奨されません。
読み取りタイムアウト値	RTIMOUT	<p>タイムアウト値。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 読み取りタイムアウト機能。タイムアウトになったタスクは、AKCT、AZCT、または AZIG 異常終了を受け取ります。値が指定されていて、デフォルトの NO にしたい場合は、以前に指定された値を完全に削除する必要があります。 • RTIMOUT 値より長くメソッド要求を待機している IIOP 要求プロセッサ・タスクを終了するためのもの。 <p>値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - 読み取りタイムアウト機能は必要ありません。 • 値 - 端末から入力を受信しない場合に、タスクを終了するまでの間隔 (MMSS で分と秒を表す)。指定可能な最大値は、70 分です。
画面サイズ	SCRNSIZE	3270 ディスプレイまたはプリンターのバッファ・サイズに DEFAULT と ALTERNATE のどちらが使用されるかを指定します。TYPETERM 定義に ALTSCREEN(0,0) および DEFSCREEN(0,0) が含まれる場合、SCRNSIZE 値は無視されます。つまり、画面サイズは TYPETERM 定義内の関連した TERMMODEL 属性から想定されます。ページ・サイズは PAGESIZE から取られ、ALTPAGE 値は無視されます。出力要求のために 3270 削除書き込み (EW) コマンドに ERASE オプションを付けて挿入されます。
大文字変換	UCTRAN	このプロファイルを使用するトランザクション用にプログラムに端末入力を引き渡す前にそれを大文字に変換するかどうかを指定します。(VTAM のみ。)
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

プログラム定義 - PROGDEF

「プログラム定義」(PROGDEF) ビューは、プログラム・ライブラリーに保管されてトランザクションの処理に使用される、プログラムの制御情報に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「プログラム定義」

表 326. 提供された「プログラム定義」(PROGDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
プログラム定義 EYUSTARTPROGDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のプログラム定義をリソース・グループに追加します。
プログラム定義 EYUSTARTPROGDEF.CREATE	プログラム定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
プログラム定義 EYUSTARTPROGDEF.DETAILED	選択したプログラム定義に関する詳細情報
プログラム定義 EYUSTARTPROGDEF.INSTALL	プログラム定義をアクティブなシステムにインストールします。
プログラム定義 EYUSTARTPROGDEF.REMOVE	データ・リポジトリからプログラム定義を除去します。
プログラム定義 EYUSTARTPROGDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのプログラム定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 327. PROGDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上のプログラム定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	プログラム定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	プログラム定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからプログラム定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のプログラム定義を更新します。

フィールド

表 328. PROGDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
アプリケーション・プログラム・インターフェース	API	<p>インストールされたプログラム定義の API 属性。API 属性は、アプリケーション・プログラム、PLT プログラム、ユーザー置き換え可能モジュール、およびタスク関連のユーザー出口に使用されます。API 属性は、グローバルなユーザー出口には使用されません。CVDA 値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> CICSAPI - プログラムは CICS が許可したアプリケーション・プログラム・インターフェースの使用に制限されます。プログラムの CONCURRENCY 設定に応じて、アプリケーションは常に準再入可能 (QR) TCB 上で実行するか、またはスレッド・セーフとして定義されている場合には、そのとき CICS によって使用されている TCB のうち適切と判断されるものの上で実行できます。 OPENAPI - プログラムは、CICS が許可したアプリケーション・プログラム・インターフェースのみに制限されることはありません。EXECKEY 設定に応じて、CICS はプログラムを独自のオープン TCB 上で実行します。CICS コマンドの実行中に CICS が QR TCB への切り替えを必要とする場合、それは制御を元のアプリケーション・プログラムに渡す前に開いた TCB に戻ります。OPENAPI では、プログラムがスレッド・セーフ標準に適合するようにコード化され、CONCURRENCY(REQUIRED) を指定して定義される必要があります。

表 328. PROGDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
実行診断機能画面 (EDF) 画面を表示	CEDF	<p>EDF 診断画面が表示されるかどうかを示します。EDF オプションを指定してプログラムが変換された場合、すべての EDF 画面が表示されます。NOEDF を指定して変換された場合、プログラムの開始画面および終了画面だけが表示されます。CVDA 値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CEDF - EDF 診断画面が表示されます。EDF オプションを指定してプログラムが変換された場合、すべての EDF 画面が表示されます。NOEDF を指定して変換された場合、プログラムの開始画面および終了画面だけが表示されます。 • NOCEDF - EDF 画面は表示されません。 • NOTAPPLIC - モジュールがリモート・プログラム、マップ・セット、または区分セットのいずれかなので、EDF は適用されません。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
並行性状況	CONCURRENCY	<p>インストールされたプログラム定義の並行性属性。CVDA 値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • QUASIRENT - プログラムは準再入可能として定義され、CICS QR TCB でのみ実行できます。 • THREADSAFE - プログラムはスレッド・セーフなものとして定義されて、プログラムに制御が付与されるときにユーザー・タスクによって使用されるどの TCB の下でも実行できます。これはオープン TCB か CICS QR TCB のいずれかになります。プログラムはスレッド・セーフ標準に適合するようにコード化される必要があります。 • REQUIRED - プログラムはオープン TCB 上で実行する必要があります。使用するオープン TCB のタイプは、アプリケーション・プログラム・インターフェース 属性の設定とプログラムの言語によって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> – Java プログラムの場合、T8、J8 または J9 が使用されます。J8 および J9 の TCB は CICS Transaction Server 5.1 以降では廃止されています。 – C または C++ XPLINK プログラムの場合、X8 または X9 が使用されます。 – COBOL、PLI、非 XPLINK の C およびアセンブラー・プログラムでは、CICSAPI が設定されている場合、TCB のキーに関係なく CICS サービスが CICS キーまたは USER キーで実行されていると、L8 TCB が常に使用されます。OPENAPI を設定した場合は、プログラムの実行キーに応じて、L8 または L9 の TCB を使用します。 <p>プログラムはスレッド・セーフ標準に適合するようにコード化される必要があります。</p>
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。

表 328. PROGDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
データ・ロケーション	DATALOCATION	このモジュールが 16 MB を超えるデータ・アドレスを受け入れることが可能かどうかを示します。CVDA 値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • ANY - プログラムは 16MB より大きいアドレスを受け入れることができます。 • BELOW - プログラムに CICS から戻されるどのデータ・アドレスも 16MB より小さくしなければなりません。 • NOTAPPLIC - モジュールがリモート・プログラム、マップ・セット、または区分セットのいずれかなので、このオプションは適用されません。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	プログラム定義の記述。
動的ルーティング状況	DYNAMIC	プログラムがプログラム・リンク要求の対象である場合に、その要求を動的にルーティングできるかどうかを指定します。CVDA 値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • DYNAMIC - プログラムがプログラム・リンク要求の対象である場合に、CICS 動的ルーティング・プログラムが起動されます。リモート・サーバー領域が LINK コマンドの SYSID オプションで明示的に指名されていないとき、ルーティング・プログラムは要求をプログラムが実行される領域にルーティングできます。 • NOTDYNAMIC - プログラムがプログラム・リンク要求の対象である場合に、動的ルーティング・プログラムは起動されません。分散プログラム・リンク (DPL) 要求の場合、プログラムが実行されるサーバー領域を PROGRAM 定義の REMOTESYSTEM オプションまたは LINK コマンドの SYSID オプションで明示的に指定する必要があります。指定しない場合は、デフォルトのローカル領域になります。
プログラム実行キー	EXECKEY	CICS がプログラムに制御を与えて、プログラムが CICS キー・ストレージを変更できるかどうかを決めるためのキー。 <ul style="list-style-type: none"> • CICS - CICS が起動するとき CICS キーによってプログラムに制御を与えることを指定します。 • USER - CICS が起動するときユーザー・キーによってプログラムに制御を与えることを指定します。
API サブセット制限タイプ	EXECUTIONSET	CICS がプログラムにリンクして、リモート CICS 領域で実行しているかのようにそのプログラムを実行するかどうかを指定します。
ホット・プーリング状況	HOTPOOL	HOTPOOLING オプションは廃止されました。
Java 仮想マシン (JVM) モード	JVM	プログラムが Java 仮想マシン (JVM) の制御下で実行する必要がある Java プログラムかどうかを指定します。
Java 仮想マシン (JVM) クラス	JVMCLASS	<ul style="list-style-type: none"> • OSGi JVM サーバー内の OSGi バンドルの場合、この値は OSGi サービスの名前です。 • Liberty JVM サーバー内の Liberty アプリケーションの場合、これはサービスの名前です。 • JVM プール内の Java プログラムの場合、これはパッケージ名で修飾されたクラス名です。
Java 仮想マシン (JVM) プロファイル	JVMPROFILE	これは CICS TS バージョン 5 リリース 1 以降では廃止されています。JVM プロファイル名。名前の最大長は 8 文字です。DFH で始まるプロファイル名は使用できません。DFH という文字は、CICS による使用のために予約されています。
Java 仮想マシン (JVM) サーバー	JVMSERVER	このプログラムで使用する JVMSERVER リソース。名前の最大長は 8 文字です。PROGRAM が JVMSERVER を使用する場合は、CICS の EXECKEY および REQUIRED の並行性の状況を指定する必要があります。

表 328. PROGDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
言語	LANGUAGE	<p>プログラム言語。 オプションは、ASSEMBLER、C、COBOL、LE370、PLI です。</p> <p>プログラムが複数言語サポートを活用する場合、またはプログラムが言語環境プログラムに準拠したコンパイラでコンパイルされている場合には、LE370 を指定します。</p> <p>ほとんどの場合、LANGUAGE 属性を指定する必要はありません。 CICS プログラム・マネージャによって正しい言語が推測され、指定した値は無視されます。 言語が指定されていない場合、CICS がそれを推定できないときは、プログラムを使用しようとしたトランザクションはコード ALIG を出して異常終了します。</p>
名前	NAME	プログラム定義の名前。
新規コピーを再ロード	RELOAD	<p>プログラム制御リンク、ロード、または XCTL 要求によって、プログラムの新しいコピーが取り込まれるかどうかを指定します。 この属性は、JVM プログラムには適用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - ストレージに現在保管されているプログラムの有効なすべてのコピーは、要求で再使用されます。 • YES - それぞれの要求に対して、プログラムの新規コピーがストレージに配置されます。さらに、これらのプログラム・コピーが不要になった場合は、トランザクションが終了する前にストレージ管理 FREEMAIN 要求を使用して、それぞれのコピーをストレージから明示的に除去する必要があります。関連する FREEMAIN が発行されていない場合、DSA/EDSA の領域がアクセス不能なプログラム・コピーと関連付けられ、ストレージ不足やフラグメント化の原因となる可能性があります。注: プログラムの新規バージョンが LIBRARY 連結に既に配置された場合、新規バージョンがロードされる前にプログラムに対して NEWCOPY または PHASEIN を発行する必要があります。 <p>RELOAD(YES)を使用して、関連するプログラムの実行によって変更されたテーブルまたは制御ブロックをロードできます。これは、タスクで最初にロードされたプログラムには指定できません。なぜかといえば、タスクでそのプログラムに対して FREEMAIN を実行する方法がないからです。</p> <p>再入不可プログラムに対しては RELOAD(YES) を指定する必要があります。</p>
リモート・システムにおけるプログラム名	REMOTENAME	<p>(オプション。) プログラムがリモート・システム上に存在する場合に、リモート CICS 領域内でそのプログラムが知られている名前を指定します。 REMOTESYSTEM を指定して REMOTENAME を指定しない場合、この属性はデフォルトでローカル名と同じ名前 (つまり、このリソース定義でのプログラム名) になります。</p>
リモート・システム名	REMOTESYSTEM	<p>(オプション。) CICS が DPL 要求を他の CICS システムに送るようにするには、リモート・システムのシステム ID を指定します。 REMOTENAME が指定されている場合、REMOTESYSTEM の値も指定する必要があります。この値は、リモート・システムにリンクするための接続定義の名前 (CONNDEF または IPCONDEF) でなければなりません。 CICSplex SM がこのシステム ID を使用するの、プログラムがリソース記述に (RESINDSC を介して) 直接関連付けられているリソース・グループの一部である場合だけです。プログラムがリソース割り当て (RASGNDEF) によって割り当てられている場合、CICSplex SM は以下のように規則に従ってリモート・システムを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • USAGE(LOCAL) MODE(N/A): プログラム定義のリモート・システム値が使用されます。 • USAGE(REMOTE) MODE(DYNAM): プログラム定義のリモート・システム値が使用されます。 • USAGE(REMOTE) MODE(STAT): リモート・システム値が、関連システムの SYSID に設定されます。
常駐状況	RESIDENT	プログラムの常駐状況。 この属性は、JVM プログラムには適用されません。

表 328. PROGDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リソース・セキュリティ値	RSL	<p>CICS/MVS 2.1.2 を実行しているシステムでは、プログラムに関連付けるリソース・セキュリティ値を次のように指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0: RSL 検査が指定されたトランザクションは、プログラムへのアクセスが許可されません。 値: 1 - 24 の範囲のリソース・セキュリティ値。 PUBLIC: どのトランザクションでもプログラムにアクセスできます。CICS/MVS 2.1.2 以外のバージョンの CICS を実行しているシステムでは、このフィールドはブランクとなります。
使用可能状況	STATUS	<p>モジュールが使用可能かどうかを示します。CVDA 値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> DISABLED - モジュールは使用不可です。 ENABLED - モジュールは使用できます。
リモート接続に対するミラー・トランザクション名	TRANSID	<p>プログラムが動的である場合、これが分散プログラム・リンク (DPL) 要求で使用するデフォルトの TRANSID となります。プログラムが静的でない場合、これはリモート CICS が接続するトランザクションの名前を指定し、その名前でリモート・プログラムを実行します。TRANSID 属性にトランザクション名を指定しない場合、リモート領域は、CICS が提供するデフォルト・ミラー・トランザクションの 1 つで DPL プログラムを実行します。</p>
プログラム・ストレージの解放	USAGE	<p>このプログラムのストレージをいつ解放するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> NORMAL: プログラムの使用回数がゼロに達したとき、通常の動的ストレージ圧縮プロセスの一部として、ストレージからの除去が適格になります。 TRANSIENT: プログラムの使用回数がゼロに達したとき、ストレージが解放されます。
リンク・バック域 (LPA) のプログラムを使用	USELPACOPY	<p>プログラムをリンク・バック域 (LPA) から使用するかどうかを指定します。この属性は、JVM プログラムには適用されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO - プログラムは LPA から使用されません。それは CICS アドレス・スペースにロードされます。 YES - システム初期化パラメーターとして LPA=YES が指定されている場合、プログラムを LPA から使用できます。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	<p>BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。</p>
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	<p>BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。</p>
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	<p>BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。</p>

要求モデルの定義 - RQMDEF

「要求モデル定義」(RQMDEF) ビューには、要求モデル定義の特性に関する情報が表示されます。これは、インバウンド IIOP 要求を、セキュリティまたは優先度などの一連の実行特性、およびモニター・データやアカウンティング・データと関連付けます。

要求モデル定義は、CICS TS for z/OS バージョン 5.1 以降を実行している CICS 領域にインストールすることはできません。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「要求モデル定義」

表 329. 提供された「要求モデル定義」(RQMDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
要求モデル定義 EYUSTARTRQMDEF.ADDTOGRP	RQMDEF をリソース・グループに追加します。
要求モデル定義 EYUSTARTRQMDEF.CREATE	要求モデル定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
要求モデル定義 EYUSTARTRQMDEF.DETAILED	選択した要求モデル定義に関する詳細情報
要求モデル定義 EYUSTARTRQMDEF.INSTALL	要求モデル定義をアクティブなシステムにインストールします。
要求モデル定義 EYUSTARTRQMDEF.REMOVE	データ・リポジトリから要求モデル定義を除去します。
要求モデル定義 EYUSTARTRQMDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての要求モデル定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 330. RQMDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	RQMDEF をリソース・グループに追加します。
CREATE	要求モデル定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	要求モデル定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから要求モデル定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある要求モデル定義を更新します。

フィールド

表 331. RQMDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
エンタープライズ Bean	BEANNAME	XML 配置記述子内のエンタープライズ Bean 名と一致する、最大 240 文字の Bean 名。許容文字は、A から Z、a から z、0 から 9 です。- _ およびアクセント付き英字です。 BEANNAME の総称値を指定する場合、INTFACETYPE を BOTH に、OPERATION を * に指定する必要があります。RTYPE を総称に指定する場合、BEANNAME を * に指定する必要があります。CORBA REQUESTMODEL の場合 (つまり、RTYPE が CORBA の場合)、このフィールドはブランクにしてください。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラムブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。

表 331. RQMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
CorbaServer	CORBASERVER	この REQUESTMODEL の宛先 CORBASERVER の名前。この名前は最大 4 文字の長さにできます。許容文字は、A から Z、a から z、0 から 9 です。アスタリスクを最後の文字に使用（またはそれだけで使用）して、汎用名を指定することもできます。汎用の CORBASERVER が指定されている場合、BEANNAME、CORBA 属性(MODULE および INTERFACE)、および COMMON 属性(OPERATION)はすべてアスタリスク(*)にする必要があります。INTFACETYPE は BOTH にする必要があります。CICS TS バージョン 6 リリース 2 より前のリリースの場合、廃止された属性値 (OMGINTERFACE、OMGMODULE および OMGOPERATION) のいずれかが要求モデル定義に存在する場合、CORBASERVER はブランクにする必要があります。存在しない場合、CORBASERVER は必須属性です。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	要求モデル定義の説明。
インターフェース名	INTERFACE	IDL インターフェース名と一致する最大 255 文字の名前。許容文字は、A から Z、a から z、0 から 9、_、: およびアクセント付き英字です。 大/小文字は区別され、元の Java または IDL ソースと一致していなければなりません。ただし、CORBA と準拠させるため、以前にインストールされた定義と大/小文字だけが異なる値で INTERFACE を指定する REQUESTMODEL のインストールは拒否されます。総称 INTERFACE が指定されている場合、共通属性 (OPERATION) をアスタリスク (*) にする必要があります。EJB REQUESTMODEL の場合 (つまり、RTYPE が EJB の場合) は、このフィールドをブランクにしてください。RTYPE を GENERIC に指定する場合、INTERFACE(*) を指定する必要があります。廃止された属性値 (OMGINTERFACE、OMGMODULE および OMGOPERATION) のいずれかが要求モデル定義に存在する場合、INTERFACE はブランクにする必要があります。
Java インターフェース・タイプ	INTFACETYPE	この REQUESTMODEL の Java インターフェース・タイプ: <ul style="list-style-type: none"> • BOTH - Bean のホーム・インターフェースまたはリモート・インターフェースのいずれかと一致します。OPERATION はアスタリスク (*) でなければなりません。 • HOME - これが Bean のホーム・インターフェースであることを指定します。 • REMOTE - これが Bean のリモート・インターフェースであることを指定します。 • NOTAPPLIC - この属性がこの要求モデル定義に適用されないことを指定します。つまり、インターフェース・タイプは CORBA になります。

表 331. RQMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
モジュール名	MODULE	<p>IDL モジュール名 (インターフェースおよび 操作の名前の有効範囲を定義する) と一致する最大 255 文字の名前。 許容文字は、A から Z、a から z、0 から 9、_ です。 この範囲外の文字を使用すると、予測不能な結果が発生します。 ただし、最後の (または唯一の) 文字としてアスタリスクを使用して、総称名を指定することは可能です。</p> <p>大/小文字の区別は重要で、元の Java ソースまたは IDL ソースと一致している必要があります。ただし、CORBA と準拠させるため、以前にインストールされた定義と大/小文字だけが異なる値で MODULE を指定する REQUESTMODEL のインストールは拒否されます。MODULE の総称値を指定する場合、INTERFACE および OPERATION を * に指定する必要があります。RTYPE を GENERIC に指定する場合、MODULE を * に指定する必要があります。デフォルト・パッケージを表すには、このフィールドをブランクのままにして、非ブランク (で汎用の) INTERFACE を指定してください。EJB REQUESTMODEL の場合 (つまり、RTYPE が EJB の場合) は、このフィールドをブランクにしてください。廃止された属性値 (OMGINTERFACE、OMGMODULE および OMGOPERATION) のいずれかが要求モデル定義に存在する場合、MODULE はブランクにする必要があります。</p>
名前	NAME	要求モデル定義の名前。
オブジェクト管理グループ (OMG) インターフェース名	OMGINTERFACE	この属性は廃止されましたが、CICS の以前のリリースに BAS 定義サポートを提供するためにサポートされています。この属性が要求モデル定義に存在する場合、次の属性をブランクにする必要があります。BEANNAME、CORBASERVER、INTFACETYPE、INTERFACE、OPERATION、および RTYPE。
オブジェクト管理グループ (OMG) モジュール名	OMGMODULE	この属性は廃止されましたが、CICS の以前のリリースに BAS 定義サポートを提供するためにサポートされています。この属性が要求モデル定義に存在する場合、次の属性をブランクにする必要があります。BEANNAME、CORBASERVER、INTFACETYPE、INTERFACE、OPERATION、および RTYPE。
オブジェクト管理グループ (OMG) 操作名	OMGOPERATION	この属性は廃止されましたが、CICS の以前のリリースに BAS 定義サポートを提供するためにサポートされています。この属性が要求モデル定義に存在する場合、次の属性をブランクにする必要があります。BEANNAME、CORBASERVER、INTFACETYPE、INTERFACE、OPERATION、および RTYPE。
オペレーション名	OPERATION	Bean メソッド・シグニチャーの IDL 操作または IDL 表記と一致する最大 255 文字の名前。 許容文字は、A から Z、a から z、0 から 9、_ およびアクセント付き英字です。
要求モデル・タイプ	RTYPE	<p>REQUESTMODEL のタイプ:</p> <ul style="list-style-type: none"> • GENERIC - エンタープライズ Bean 要求と CORBA 要求の両方に一致。GENERIC を指定した場合、以下も指定する必要があります。BEANNAME(*) INTERFACE(*) INTFACETYPE(BOTH) MODULE(*) OPERATION(*) • CORBA - CORBA 属性 (MODULE および INTERFACE) で指定された CORBA 要求と一致します。CORBA 属性および OPERATION 属性のみを指定できます。EJB 属性 BEANNAME、INTFACETYPE、および廃止された CICS TS V1R3 の属性 (OMGINTERFACE、OMGMODULE、および OMGOPERATION) はブランクにする必要があります。 • EJB - EJB (BEANNAME および INTFACETYPE) で指定されたエンタープライズ Bean 要求と一致します。EJB 属性および COMMON 属性 (OPERATION) のみが有効です。CORBA 属性 (MODULE および INTERFACE) はブランクにする必要があります。
CICS トランザクション ID	TRANSID	REQUESTMODEL の仕様と一致するメソッド要求を処理するのに新規の要求プロセッサ・トランザクション・インスタンスが必要な場合に使用する、CICS トランザクションの 4 文字の名前。 トランザクション定義には、初期プログラムとして、JVMClass に com.ibm.cics.iiop.RequestProcessor が指定された JVM プログラムが定義されている必要があります。トランザクション定義は 論理 EJB サーバのすべての AOR にインストールされている必要があります。AOR ではないリスナー領域にインストールする必要はありません。

表 331. RQMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

セッション定義 - SESSDEF

「セッション定義」(SESSDEF) のビューは、システム間連絡 (ISC) または複数領域操作 (MRO) を使用して通信するシステム間の論理リンクに関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「セッション定義」

表 332. 提供された「セッション定義」(SESSDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
セッション定義 EYUSTARTSESSDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のセッション定義をリソース・グループに追加します。
セッション定義 EYUSTARTSESSDEF.CREATE	セッション定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
セッション定義 EYUSTARTSESSDEF.DETAILED	選択したセッション定義に関する詳細情報
セッション定義 EYUSTARTSESSDEF.REMOVE	データ・リポジトリからセッション定義を除去します。
セッション定義 EYUSTARTSESSDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのセッション定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 333. SESSDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上のセッション定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	セッション定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
REMOVE	データ・リポジトリからセッション定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のセッション定義を更新します。

フィールド

表 334. SESSDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
自動接続オプション	AUTOCONNECT	<p>接続の確立方法を指定します。</p> <p>接続定義で Autoconnect が YES または ALL に設定された APPC VTAM 接続のシステムでは、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - CICS は接続が確立されるときにセッションのバインドを試行しません。 • YES または ALL - CICS の初期化中に、または CEMT SET VTAM OPEN コマンドによって VTAM との通信が開始されるときに、コンテンション勝者セッションが確立されます (つまり、BIND が実行されます)。 <p>CONNECTION 定義で Autoconnect が NO に設定された APPC VTAM 接続のシステムでは、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ALL - CEMT SET CONNECTION(name) ACQUIRED の発行によって接続が獲得されたとき、またはリモート・システムが自ら通信を開始するときに、コンテンション勝者だけではなくすべてのセッションが確立されます。 • NO - CICS は接続が確立されるときにセッションのバインドを試行しません。 • YES - CEMT SET CONNECTION(sysid) ACQUIRED の発行によって接続が獲得されるとき、またはリモート・システムが自ら通信を開始するときに、コンテンション勝者セッションが確立されます。 <p>LU6.1 セッションの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - 接続は初期化の際にも CEDA インストールの際にも確立されません。 • YES - 接続は初期化の際、または CEDA インストールの際に確立されます。
チェーン・アセンブリが必要	BUILDCHAIN	<p>CICS が入力データをアプリケーション・プログラムに渡す前にチェーン・アセンブリを実行するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - この論理装置からアプリケーション・プログラムが受信した端末入出力域(TIOA)には、1つの要求単位(RU)が含まれています。 • YES - アプリケーション・プログラムがこの論理装置から受け取る TIOA には、完全なチェーンが含まれます。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
接続定義名	CONNECTION	このセッション定義で使用する接続定義の名前。 名前の長さは最大 4 文字です。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

表 334. SESSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
説明	DESCRIPTION	セッション定義の説明。
切断要求を尊重	DISCREQ	切断要求を受け入れるかどうかを指定します。 DISCREQ は LUTYPE6.1 ISC セッションに適用されますが、CICS が VTAM 装置を処理しない MRO セッションへは適用されません。
サービス中セッション	INSERVICE	CICS/MVS 2.1.2 または CICS/ESA 3.3 を実行しているシステム上の LU 6.1 ISC セッションでは、YES または NO を指定して、そのセッションを通信に使用できるかどうかを指示します。 定義が LU 6.1 ISC セッション用ではない場合、または CICS/MVS 2.1.2 または CICS/ESA 3.3 システム上では使用されない場合には、N/A を指定します。
端末入出力域 (TIOA) の最小サイズ	IOAREALEN	MRO リンクに送信されたメッセージの処理に使用される、端末入出力域の最小サイズ (バイト数)。
端末入出力域 (TIOA) の代替サイズ	IOAREALEN2	MRO リンクに送信されたメッセージの処理に使用される、端末入出力域の長さ (バイト数)。代替 TIOA 値が指定されていない場合、または最小 TIOA 値 (IOAREALEN) よりも小さい場合には、デフォルトで最小 TIOA の値になります。
コンテンション勝者セッションの最大数	MAXCTWIN	コンテンション勝者としてサポートされるセッションの最大数。この値の範囲は、0 から 999 です。デフォルトは 0 です。このオペランドは単一セッション接続では意味がないことに注意してください。この値は、グループ内のセッションの最大数 (MAXINGRP) よりも小さくなければなりません。
グループ内最大セッション数	MAXINGRP	このグループ内のセッションの最大数。この値の範囲は、1 から 999 です。 デフォルトは 1 です。この値は、コンテンション勝者セッションの最大数 (MAXTWIN) よりも大きくなければなりません。
モード名	MODENAME	APPC 接続で使用されるセッションのグループを指定する名前。 名前の長さは、8 文字までとすることができ、VTAM に定義された VTAM LOGMODE 項目の名前でなければなりません (APPC のみ)。
名前	NAME	セッション定義の名前。
ネットワーク・エラー・プログラム・トランザクション・クラス	NEPCCLASS	ノード・エラー・プログラム・モジュールのトランザクション・クラス: <ul style="list-style-type: none"> 0 - これを指定すると、デフォルトのノード・エラー・プログラム・モジュールへのリンクになります。 値 - ノード・エラー・プログラム・モジュールのトランザクション・クラス。この値は 1 から 255 の範囲です。 これらのフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。
IMS 命名システムをセッションの識別に使用	NETNAMEQ	リモート IMS システムがこの特定のセッションを識別する名前。 これは、CICS-IMS セッションに使用されます。
オペレーター ID	OPERID	セッションに関連付ける 3 文字のオペレーター ID。
オペレーター優先順位	OPERPRIORITY	セッションに接続されたトランザクションごとにタスク処理の優先度を判別するために使用されるオペレーター優先度。範囲は 0 から 255 までです。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。
オペレーター・リソース・セキュリティ・キー	OPERRSL	事前設定されたセッションのリソース・セキュリティ・キー。1 から 24 の範囲で 1 つ以上の 10 進値を指定します。 リソース・セキュリティ・キーを識別しない場合には、0 を指定します。
オペレーター・トランザクション・セキュリティ・キー	OPERSEC	1 から 64 の範囲で 1 つ以上の 10 進値を指定することにより事前設定された装置のトランザクション・セキュリティ・キー。
パートナー・コード・ページ	PARTCODEPAGE	パートナーのコード。範囲は 0 から 65534 です。

表 334. SESSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
相互通信リンク・プロトコル	PROTOCOL	相互通信リンク (ISC または MRO) に使用されるプロトコルのタイプ: <ul style="list-style-type: none"> • APPC (LUTYPE6.2) - 拡張プログラム間通信機能 (APPC) プロトコル。これは CICS-CICS ISC に対して指定します。 • EXCI - 外部 CICS インターフェース。これは、外部 CICS インターフェースを使用する非 CICS クライアント・プログラムによってセッションが使用されることを示すために指定します。EXCI を指定する場合、SENDSCOUNT はブランクのままにしなければなりません。 • LU61 - LUTYPE6.1 プロトコル。 • NOTAPPLIC - セッションは、相互通信リンクを表しません。
受信カウント	RECEIVECOUNT	MRO と VTAM LU6.1 セッション、および EXCI クライアントのあるセッションでは、送信する前に通常受信するセッション数を指定します。
受信接頭部	RECEIVEPFX	CICS が受信セッション名 (セッションの端末管理テーブル端末入力 (TCTTE) の名前) の先頭の 1 文字または 2 文字として使用する、1 文字または 2 文字の接頭部。
受信バッファー・サイズ	RECEIVESIZE	セッションが受信可能な最大 VTAM 要求単位 (RU) サイズ。値は、LU61 セッションでは 1 から 30720 の間に、または APPC セッションでは 256 から 30720 の間に設定する必要があります。デフォルトは 4096 です。
XRF リカバリー通知オプション	RECOVNOTIFY	XRF と共に実行している CICS 領域内のセッションに対するリカバリーのタイプを指定します。
リカバリー処理オプション	RECOVOPTION	VTAM 持続セッションと共に実行している CICS 領域内のセッションに対するリカバリーのタイプを指定します。
解放要求を尊重	RELREQ	CICS が他の VTAM アプリケーション・プログラムによる要求に応じて論理装置を解放するようにするかどうかを指定します。
送信カウント	SENDSCOUNT	MRO および VTAM LU6.1 セッション、および EXCI クライアントのあるセッションでは、送信セッションつまり受信する前に通常送信するセッションの数を指定します。
送信接頭部	SENDPFX	CICS が送信セッション名 (セッションの端末管理テーブル端末入力 (TCTTE) の名前) の先頭の 1 文字または 2 文字として使用する、1 文字または 2 文字の接頭部。選択する接頭部によって、セッションまたは端末名の重複が生じないようにする必要があります。
送信バッファー・サイズ	SENDSIZE	これらのセッションが送信可能な最大 VTAM 要求単位 (RU) サイズ。LU 6.1 の場合は 1 から 30720 までの範囲、APPC セッションの場合は 256 から 30720 までの範囲です。
セッション名	SESSNAME	CICS 相互通信並列セッションで、セッション修飾子の対のローカル側の一方として使用されるシンボリック ID。名前の長さは最大 4 文字です。
セッション優先順位	SESSPRIORITY	端末優先度 - この 10 進値 (0 から 255) は、全体的なトランザクション処理の優先度を確立するために使用されます。(トランザクション処理の優先度は、端末優先度、トランザクション優先度、およびオペレーター優先度の合計と等しくなります。この値は 255 を超えることはできません。) このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。
デバイスから開始されるトランザクション	TRANSACTION	この装置から開始されるトランザクションの、1 文字から 4 文字の ID。
ユーザー域サイズ	USERAREALEN	このセッションのユーザー域の長さ (バイト数)。範囲は 0 から 255 です。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

表 334. SESSDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・サインオン ID	USERID	サインオン (SEC=YES または MIGRATE) で使用され、セキュリティ・エラー・メッセージ、セキュリティ違反メッセージ、および監査証跡で参照されるユーザー ID。名前の最大長は 8 文字です。

TCP/IP サービス定義 - TCPDEF

TCP/IP サービス定義 (TCPDEF) ビューには、内部ソケット・サポートを使用する TCP/IP サービス定義に関する情報が表示されます。定義可能なサービスは IIOP および CICS Web インターフェースです。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**TCP/IP サービス定義**」

表 335. 提供された「TCP/IP サービス定義」 (TCPDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
TCP/IP サービス定義 EYUSTARTTCPDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の TCP/IP サービス定義をリソース・グループに追加します。
TCP/IP サービス定義 EYUSTARTTCPDEF.CREATE	TCP/IP サービス定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
TCP/IP サービス定義 EYUSTARTTCPDEF.DETAILED	選択した TCP/IP サービス定義に関する詳細情報。
TCP/IP サービス定義 EYUSTARTTCPDEF.INSTALL	TCP/IP サービス定義をアクティブなシステムにインストールします。
TCP/IP サービス定義 EYUSTARTTCPDEF.REMOVE	データ・リポジトリから TCP/IP サービス定義を除去します。
TCP/IP サービス定義 EYUSTARTTCPDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての TCP/IP サービス定義に関する表形式の情報。

アクション

表 336. TCPDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上の TCP/IP サービス定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	TCP/IP サービス定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	TCP/IP サービス定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから TCP/IP サービス定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある TCP/IP サービス定義を更新します。

フィールド

表 337. TCPDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
付加時セキュリティ	ATTACHSEC	<p>CICS クライアントへの TCP/IP 接続に必要な接続時セキュリティのレベル:</p> <ul style="list-style-type: none"> LOCAL - CICS はクライアントからのユーザー ID またはパスワードを必要としません。 VERIFY - 着信接続要求でユーザー ID およびユーザー・パスワードを指定する必要があります。接続中のシステムが不明であるか、あるいは信頼できない場合は、VERIFY を指定します。 NOTAPPLIC - ECI 以外の PROTOCOL の値が指定されています。 <p>NOTAPPLIC 以外の値が適用されるのは、PROTOCOL(ECI) が指定されている場合のみです。</p>
認証レベル	AUTHENTICATE	<p>HTTP および IIOP プロトコルのインバウンド TCP/IP 接続で使用される認証および識別の方式。各プロトコルは、異なる認証方式のセットをサポートします。ECI プロトコルの場合、この属性は無効です。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO - クライアントは認証情報または識別情報を送信する必要はありません。ただし、クライアントが、セキュリティ・マネージャーに既に登録済みの、ユーザー ID に関連した有効な証明書を送信した場合、そのユーザー ID はクライアントを識別します。 BASIC - HTTP 基本認証を使用してクライアントからユーザー ID およびパスワードを入手します。提供されるユーザー ID とパスワードが無効な場合、有効な情報が提供されるまで、またはユーザーが接続を取り消すまで、このプロセスが反復されます。ユーザーが正常に認証されると、指定されたユーザー ID によってクライアントが識別されます。 CERTIFICATE - SSL クライアント証明書による認証を使用して、クライアントを認証および識別します。クライアントは、セキュリティ・マネージャーに既に登録済みの、ユーザー ID に関連した有効な証明書を送信する必要があります。有効な証明書を受信していないか、証明書がユーザー ID に関連付けられていない場合は、接続は拒否されます。ユーザーが正常に認証されると、証明書に関連付けられているユーザー ID によってクライアントが認証されます。CERTIFICATE を指定した場合、CLIENTAUTH または ATTLISAWARE として SSL を指定する必要もあります。 AUTOREGISTER - SSL クライアント証明書認証を使用して、クライアントを認証します。セキュリティ・マネージャーに既に登録済みでユーザー ID に関連付けられている有効な証明書をクライアントが送信する場合、そのユーザー ID によってクライアントが識別されます。クライアントが送信する有効な証明書が、セキュリティ・マネージャーに登録されていない場合、HTTP 基本認証を使用して、クライアントからユーザー ID とパスワードが取得されます。パスワードが有効な場合、CICS はその証明書をセキュリティ・マネージャーに登録し、ユーザー ID と関連付けます。ユーザー ID によってクライアントが識別されます。AUTOREGISTER を指定した場合、CLIENTAUTH または ATTLISAWARE として SSL を指定する必要もあります。 AUTOMATIC - AUTOREGISTER と BASIC の機能を結合します。セキュリティ・マネージャーに既に登録済みでユーザー ID に関連付けられている証明書をクライアントが送信する場合、そのユーザー ID によってクライアントが識別されます。クライアントが送信する証明書が、セキュリティ・マネージャーに登録されていない場合、HTTP 基本認証を使用して、クライアントからユーザー ID とパスワードが取得されます。パスワードが有効な場合、CICS はその証明書をセキュリティ・マネージャーに登録し、ユーザー ID と関連付けます。ユーザー ID によってクライアントが識別されます。クライアントが証明書を送信しなかった場合、HTTP 基本認証を使用して、ユーザーからユーザー ID およびパスワードを入手します。ユーザーが正常に認証されると、指定されたユーザー ID によってクライアントが識別されます。 ASSERTED - 宣言 ID 認証が使用されます。 NOTAPPLIC - 認証は使用されません。

表 337. TCPDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
キュー・バックログ限度	BACKLOG	<p>TCP/IP が着信クライアント要求を拒否し始める前に TCP/IP でキューに入れられる、このサービス用の TCP/IP 接続の数。ブランクの場合、デフォルト値が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> CICS Transaction Server for z/OS バージョン 5 リリース 1 以降では、デフォルトは 0 であり、CICS はバックログを制限しません。代わりに、TCP/IP SOMAXCONN 属性によって指定された値が使用されます。 CICS Transaction Server for z/OS バージョン 4 リリース 2 以前では、デフォルトは 1 であり、バックログが 0 に設定されている場合、CICS は接続を受け取りません。 値の範囲は 0 から 32767 です。
Certificate	CERTIFICATE	TCP/IP サービスの SSL ハンドシェイク中にサーバー証明書として使用される X.509 証明書のラベル。この属性が省略されている場合、CICS 領域ユーザー ID の鍵リングで定義されているデフォルトの証明書が使用されます。証明書ラベルの長さは最大で 32 バイトです。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSEBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
SSL 暗号スイート・コード	CIPHERS	<p>2 桁の暗号スイート・コードを最大 28 個含むリストとして解釈される、最大 56 桁の 16 進数字のストリングを指定します。リソースを定義すると、CICS は、デフォルトの許容コード・リストに従ってその属性を自動的に初期化します。暗号コードを再配列したり、初期リストから削除したりできます。ただし、指定した暗号化レベルのデフォルト・リストに含まれていない暗号コードを追加することはできません。値をコードのデフォルト・リストにリセットするには、暗号化スイート・コードをすべて削除してください。フィールドにデフォルト・リストが自動的に再設定されます。CICS Transaction Server 5.1 以降、このフィールドでは、暗号リストが含まれる zFS にある XML ファイルの名前を代わりに指定できます。XML ファイル名は最大 28 文字で指定できます。</p>
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	TCP/IP サービス定義の説明。
ドメイン・ネーム・サービス (DNS) グループ	DNSGROUP	これは CICS TS バージョン 5 リリース 2 以降では廃止されています。DNS グループ名。

表 337. TCPDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
重要なドメイン・ネーム・サービス (DNS) グループ・メンバー	GRPCRITICAL	これは CICS TS バージョン 5 リリース 2 以降では廃止されています。(オプション) DNS グループの重要なメンバーとしてサービスにマークを付けます。これは、このサービスを閉じたり、サービスが失敗すると、WLM に対してこのグループ名の登録を取り消すための呼び出しが行われることを意味します。デフォルトは NO です。これにより、同じグループにある 2 つ以上のサービスは個別に失敗し、CICS はグループに登録されたままになります。グループにある最後のサービスが閉じられた場合にのみ、まだ明示的に行われていなければ、WLM に対して登録取り消しの呼び出しが行われます。同じグループ名を持つ複数のサービスに、異なる GRP Critical 設定を指定できます。GRP Critical を NO に指定すると、登録取り消しが行われなまま、サービスが閉じたり失敗したりする可能性があります。GRP Critical が YES であるサービスが閉じたり失敗すると、グループは WLM から登録を取り消されます。
着信接続のリスニング・アドレス	HOST	<p>この TCPIPService が着信接続を listen する 116 文字までのアドレス。このフィールドには、以下の値が入る可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ANY - TCPIPService は、ホスト・システムの TCP/IP に認識されている任意のアドレスで listen します。ANY を指定することによって TCPIPService 定義を CICS サーバー間で共有することが可能になります。さらに、複数の CICS 領域でポートをバインドする場合は、ポートを定義するすべてのスタックで SHAREPORT オプションを指定する必要があります。 DEFAULT - このオプションは、マルチ・スタックの CINET 環境でデフォルトに定義されている TCP/IP スタックにアフィニティを割り当てます。 文字によるホスト名 - (例、server.example.com)。ホスト名に対応する最初の IP アドレスはドメイン・ネーム・サーバーで検索されます。名前は小文字に変換されます。 IPv4 アドレス - (例、10.20.30.40)。アドレスが、IPv4 互換フォーマットあるいは IPv4 マップ IPv6 フォーマットで指定されると、それは IPv4 のドット 10 進アドレス・フォーマットに変換されます。 IPv6 アドレス - (例、1234:5678::90AB:CDEF)。これは、コロン 16 進アドレス・フォーマットで入力され、大文字に変換されます。 <p>また、以下の事項に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> IPADDRESS フィールドより HOST フィールドを優先して使用するようにして、この 2 つのフィールドのいずれか 1 つのみに入力をし、他方はブランクにするかまたは同じ値にしておいてください。 HOST フィールドは、ホスト名または IPv6 アドレスの指定に使用します。 この定義を、CICS Transaction Server for z/OS、バージョン 3 リリース 2 以前のリリースで使用する場合、入力できるのは ANY、DEFAULT、または IPv4 アドレスのみです。この場合、HOST フィールドの内容が IPADDRESS フィールドにコピーされます。 HOST フィールドが空で、IPADDRESS フィールドに有効な値が入力されている場合、IPADDRESS フィールドの内容が HOST フィールドにコピーされます。 HOST と IPADDRESS の両方もが空の場合、値は ANY に設定されます。
IPv4 アドレス	IPADDRESS	TCP/IP サービスの IPv4 小数点付き 10 進数アドレス、ANY、INADDR_ANY、または DEFAULT。このパラメーターは、CICS Transaction Server for z/OS、バージョン 3 リリース 2 以前のリリースとの互換性のために維持されています。これより後のリリースでは、HOST パラメーターを使用してください。
受信または送信されるデータの最大長	MAXDATALEN	HTTP プロトコルまたは USER プロトコルにおいて、CICS が HTTP サーバーとして受け取ることが可能なデータの最大長。デフォルト値は 32K です。最小値は 3K で、最大値は 524288K です。CICS Web サポートのセキュリティを高めるには、HTTP プロトコルの TCPIPService 定義ごとにこのオプションを指定します。これは、大量のデータ伝送を含む、サービス妨害アタックから保護するのに役立ちます。

表 337. TCPDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
持続接続の最大数	MAXPERSIST	CICS が受け入れる持続接続の最大数。 <ul style="list-style-type: none"> NO - CICS が受け入れる持続接続の数に制限はありません。 nnnn - CICS が受け入れる、0 から 65535 までの範囲の持続接続の最大数。
名前	NAME	TCP/IP サービス定義の名前。
HTTP OPTIONS のハンドラー・プログラム	OPTIONSPGM	HTTP OPTIONS 要求を処理するために呼び出されるハンドラー・プログラムの名前。CICS Transaction Server for z/OS バージョン 5 リリース 6 以降のシステムでのみ有効です。OPTIONS ハンドラー名の長さは 8 文字までです。
ポート番号	PORTNUMBER	CICS が着信クライアント要求用に listen するポートの 10 進数 (1 から 65535)。0 から 1023 まではウェルノウン・ポートです。予約済みポート番号は、通常割り当てられるサービスだけに使用することをお勧めします。
プライバシー	PRIVACY	これは CICS TS バージョン 3 リリース 1 以降では廃止されています。このサービスへのインバウンド IIOP 接続に必要な SSL 暗号化のレベル。この属性は PROTOCOL が IIOP の場合にのみ適用されます。SSL ハンドシェイク中に、クライアントとサーバーは、サポートする暗号スイートを公示し、両方がサポートするスイートの中から、最も安全な暗号化のレベルを提供するスイートを選択します。オプションは以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> REQUIRED - 暗号化を使用する必要があります。SSL ハンドシェイク中に、CICS は、暗号化を提供するサポートされた暗号スイートのみを公示します。 SUPPORTED - クライアントとサーバーの両方がサポートする場合に暗号化を使用します。SSL ハンドシェイク中に、CICS は、サポートされる暗号スイートをすべて公示します。 NOTSUPPORTED - 暗号化を一切使用しません。SSL ハンドシェイク中に、CICS は、暗号化を提供しないサポートされた暗号スイートのみを公示します。 NOTAPPLIC - SSL を使用しない場合、暗号化は適用外です。
Protocol	PROTOCOL	TCP/IP ポートで使用するアプリケーション・レベルのプロトコル。 <ul style="list-style-type: none"> ECI <ul style="list-style-type: none"> ECI over TCP/IP プロトコル。 HTTP <ul style="list-style-type: none"> HTTP。HTTP プロトコルは、CICS Web サポートによって処理されます。 IIOP <ul style="list-style-type: none"> これは CICS TS バージョン 5 リリース 1 以降では廃止されています。Internet Inter-ORB Protocol。エンタープライズ Bean および CORBA ステートレス・オブジェクトのインバウンド要求を受け入れる TCIPSERVICE によって使用されます。 IPIC <ul style="list-style-type: none"> IP インター・コネクティビティー・プロトコル。IPIC を指定した場合、AUTHENTICATION を NOTAPPLIC として指定する必要もあります。 NOTAPPLIC <ul style="list-style-type: none"> CICS は、デフォルト (HTTP) を使用します。この場合、ユーザーによって置換可能なプログラムを指定する必要があります。
基本認証レルム名	REALM	CICS が基本認証を要求したときに提供されるレルム。この属性は、CICS Transaction Server for z/OS バージョン 3 リリース 2 以降のシステムでのみ有効です。レルムを指定しなかった場合に CICS が使用するデフォルトは、CICS アプリケーション aaaaaaaaaa です。aaaaaaaaa は CICS 領域のアプリケーション ID です。レルムは最大 56 文字の長さででき、埋め込みブランクを含めることが可能です。二重引用符の開始と終了の記号は、CICS が WWW 認証ヘッダーをアセンブルするときに提供するので、ここでは指定しないでください。

表 337. TCPDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ソケット・クローズに対するタイムアウト (HHMMSS)	SOCKETCLOSE	<p>ソケットでの着信データの受け取りを発行してからそのソケットを閉じるまで CICS を待機させるかどうか、およびその場合の待機時間を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO - データを受け取るまで、あるいはクライアントによって閉じられるまで、ソケットは開いたままです。ソケットが開いている間は、それを他のタスクで使用することはできません。また、ソケットに関連した CICS タスクは無期限に中断状態になります。 0 から 240000 まで - CICS がソケットを閉じるまでの期間 (HHMMSS 形式)。000000 を指定した場合、最初の RECEIVE 以外の RECEIVE に対して利用可能なデータがないときは、ソケットは即時にクローズされます。
特定の TCPIPService	SPECIFTCPS	TCPIPService で使用する特定の TCPIPService の名前。この属性は、CICS Transaction Server for z/OS バージョン 5 リリース 2 以降のシステムでのみ有効です。TCPIPService の名前の長さは最大 8 文字です。指定された場合、この TCPIPService は一般的な TCPIPService になります。
Secure sockets layer (SSL) タイプ	SSL	<p>TCP/IP サービスで暗号化と認証のために Secure Sockets Layer (SSL) を使用するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO - SSL を使用しません。 YES - SSL セッションを使用します。CICS はサーバー証明書をクライアントに送信します。 CLIENTAUTH - SSL セッションを使用します。CICS はサーバー証明書をクライアントに送信し、クライアントはクライアント証明書を CICS に送信する必要があります。 ATTLSAWARE - CICS は、SSL セッションが AT-TLS で作成されることを想定して処理します。CICS は、クライアント接続に照会して AT-TLS 状態を抽出します。この状態情報にクライアントの証明書が含まれる場合があります。
TCP/IP サービス状況	STATUS	インストール後のサービスの初期状況。インストール後に CICS がこのサービス用に listen を開始する場合は、これを OPEN に設定します。インストール後に、CICS がこのサービス用に listen しない場合は、CLOSE に設定します。
CICS トランザクション ID	TRANSACTION	このサービスに対して受け取る新しい要求を処理するよう付加された、CICS トランザクションの 4 文字の ID。
TS キュー接頭部	TSQPREFIX	このパラメーターは、CICS Transaction Server for z/OS バージョン 3 リリース 2 以降では必要なくなったか、あるいは使用されなくなりました。
ユーザー置き換え可能モジュール名	URM	<p>このサービスによって呼び出される、ユーザーが置換可能なプログラムの名前。指定する名前は、PROTOCOL 属性の値に依存します。</p> <ul style="list-style-type: none"> HTTP プロトコルでは、分析プログラムの名前を指定します。 IIOP プロトコルの場合、IIOP セキュリティーのユーザーによって置換可能なプログラムの名前を指定します。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

一時記憶域モデルの定義 - TSMDEF

「一時記憶域モデル定義」(TSMDEF) ビューは、CPSM データ・リポジトリに定義された一時記憶域モデルの属性に関する情報を表示します。ターゲット CICS システムにインストールされると、これらの一時記憶域モデル属性は、名前が総称的に接頭部フィールドの名前と一致する CICS 一時記憶域キューの特性を規定します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー (Administration views)」 > 「CICS リソース定義 (CICS resource definitions)」 > 「一時記憶域モデル定義 (Temporary storage model definitions)」

表 338. 提供された「一時記憶域モデル定義」(TSMDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
一時記憶域モデル定義 EYUSTARTTSMDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の一時記憶域モデル定義をリソース・グループに追加します。
一時記憶域モデル定義 EYUSTARTTSMDEF.CREATE	一時記憶域モデル定義を作成して、それをデータ・リポジトリに追加します。
一時記憶域モデル定義 EYUSTARTTSMDEF.DETAILED	選択した一時記憶域モデル定義に関する詳細情報
一時記憶域モデル定義 EYUSTARTTSMDEF.INSTALL	一時記憶域モデル定義をアクティブなシステムにインストールします。
一時記憶域モデル定義 EYUSTARTTSMDEF.REMOVE	データ・リポジトリから一時記憶域モデル定義を除去します。
一時記憶域モデル定義 EYUSTARTTSMDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての一時記憶域モデル定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 339. TSMDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上の一時記憶域モデル定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	一時記憶域モデル定義を作成して、それをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	一時記憶域モデル定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから一時記憶域モデル定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の一時記憶域モデル定義を更新します。

フィールド

表 340. TSMDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none">CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。CSEBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。

表 340. TSMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	一時記憶域モデル定義の説明。
TS キューの期限切れ間隔 (時間数)	EXPIRYINT	<p>このパラメーターは、CICS TS 5.2 以降では推奨されません。EXPIRYINTMIN に何らかの値が指定された場合、パラメーターは無視されます。このパラメーターでは、最終使用間隔制限時間 (時間数) を指定します。この値に基づいて、TSMODEL に基づく一時記憶域キューが既に期限切れになっていて、自動削除の対象になるかどうかが判別されます。TSMODEL がその後に変更された場合でも、一時記憶域キュー作成時の TSMODEL の値がキューの存続期間として使用されます。EXPIRYINT の値として、0 から 15000 までの範囲が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 - この TSMODEL には期限切れ間隔が適用されません。したがって、この TSMODEL に基づく一時記憶域キューが期限切れになることはありません。これはデフォルト値です。 指定する値は、最後に使用されるインターバル (時間) です。これが経過した後、キューは自動削除の対象となります。
TS キューの期限切れ間隔 (分)	EXPIRYINTMIN	<p>このパラメーターは、CICS TS 5.2 以降に適用されます。これは、最終使用間隔制限時間を分数で指定します。このパラメーターは、EXPIRYINT に指定された任意の値を指定変更します。この値に基づいて、TSMODEL に基づく一時記憶域キューが既に期限切れになっていて、自動削除の対象になるかどうかは判別されます。TSMODEL がその後に変更された場合でも、一時記憶域キュー作成時の TSMODEL の値がキューの存続期間として使用されます。EXPIRYINTMIN の値としては、0 から 900000 までの範囲が可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 - この TSMODEL には期限切れ間隔が適用されません。したがって、この TSMODEL に基づく一時記憶域キューが期限切れになることはありません。これはデフォルト値です。 値 - 最後に使用される間隔 (分) を指定します。その時間が過ぎると、キューが自動削除の対象になります。
キュー・ロケーション	LOCATION	<p>補助記憶域または主記憶域のどちらにキューを保持するかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> AUXILIARY - このモデルに一致するキューは、補助記憶域に保持されます。API 要求に指定されている内容はすべて無視されます。 MAIN - このモデルと一致するキューは、主記憶域に保持されます。API 要求に指定されている内容はすべて無視されます。 <p>注: Migrate コマンドを使用して作成した TSMODEL 定義は、位置属性がデフォルト値の AUXILIARY に設定されます。リモート TSMODEL と共用 TS プール・モデルでは LOCATION は無視されます。リモート項目で LOCATION を使用すると、ローカル領域とリモート領域の両方に同じ定義がインストールされます。</p>
名前	NAME	一時記憶域モデル定義の名前。
共用 TS プール名	POOLNAME	この TSMODEL 定義と共に使用する共用一時記憶域プール定義の 8 文字の名前。名前は最大 8 文字です。

表 340. TSMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
TS キュー接頭部	PREFIX	このモデルの接頭部として使用される文字ストリング。接頭部の長さは、16 文字までとすることができます。 大文字、小文字、またはそれら 2 つの混合を接頭部名に使用できます。小文字は大文字変換されません。例えば、キュー接頭部の EYUPREFIX、EYUprefix、および eyuprefix は、3 つの異なるキュー・モデルを識別します。CECI または大/小文字混合の接頭部名をサポートしない他のアプリケーションを使用している場合、データが正しい一時ストレージ・キューに書き込まれているか確認する必要があります。
リカバリー処理オプション	RECOVERY	このモデルと一致するキューがリカバリー可能かどうかを指定します。
リモート TS キュー接頭部	REMOTEPREFIX	リモート・システムで接頭部として使用される文字ストリング。接頭部の長さは、16 文字までとすることができます。
リモート・システム ID	REMOTESYSTEM	ローカル・システムを一時記憶域キューがあるリモート・システムにリンクする接続の名前。REMOTESYSTEM および POOLNAME は相互に排他的です。REMOTESYSTEM を指定すると、POOLNAME は無視されます。
セキュリティ・オプション	SECURITY	このモデルと一致するキューに対してセキュリティ検査を実行するかどうかを指定します。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
16 進数 TS キュー接頭部	XPREFIX	PREFIX の代替。このモデルで接頭部として使用される最大長 32 文字の 16 進数ストリングを入力します。16 進形式で XPREFIX を指定するため、PREFIX 属性では入力できなかった文字を含む名前を使用できます。単一のワイルドカード文字、16 進の 4E を使用する総称接頭部名も使用できます。
16 進数リモート TS キュー接頭部	XREMOTEPFX	REMOTEPREFIX の代替。リモート・システムで接頭部として使用される最大長 32 文字の 16 進数ストリングを入力します。XREMOTEPREFIX は 16 進形式で指定されるので、REMOTEPREFIX 属性には入力できない文字を含む名前を使用できます。単一のワイルドカード文字、16 進の 4E を使用する総称接頭部名も使用できます。

端末定義 - TERMDEF

「**端末定義**」(TERMDEF) ビューは、CICS が通信する端末装置定義 (ディスプレイ 装置、プリンター、およびオペレーティング・システムのコンソールを含む) の固有特性に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」 > 「**CICS リソース定義**」 > 「**端末定義**」

表 341. 提供された 「 端末定義 」 (TERMDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
端末定義 EYUSTARTTERMDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の端末定義をリソース・グループに追加します。
端末定義 EYUSTARTTERMDEF.CREATE	端末定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。

表 341. 提供された「端末定義」(TERMDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
端末定義 EYUSTARTTERMDEF.DETAILED	選択した端末定義に関する詳細情報
端末定義 EYUSTARTTERMDEF.INSTALL	端末定義をアクティブなシステムにインストールします。
端末定義 EYUSTARTTERMDEF.REMOVE	データ・リポジトリから端末定義を除去します。
端末定義 EYUSTARTTERMDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての端末定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 342. TERMDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の端末定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	端末定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	端末定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから端末定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の端末定義を更新します。

フィールド

表 343. TERMDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
代替プリンターに対するハードウェア COPY 機能	ALTPRINTCOPY	CICS がハードウェア・コピー機能を使用して、ALTPRINTER オプションで指名されたプリンターでの印刷要求に対応するかどうかを指定します。値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> YES - CICS はハードウェア・コピー機能を使用します。 NO - CICS は、ハードウェア・コピー機能を使用しません。
代替プリンター名	ALTPRINTER	この端末定義の PRINTER 属性で指名されたプリンターが使用不可の場合に、使用する 3270 印刷装置の名称。名前の長さは、4 文字までとすることができます。詳しくは、PRINTER 属性を参照してください。PRINTER を指定しないで ALTPRINTER を指定した場合、ALTPRINTER は無視されます。
関連プリンター	ASSOCPRNTR	プリンターを定義する 4 文字の TERMINAL 名。
OS/2 非同期伝送速度 (ビット / 秒 (bps))	ASYNCBPS	ビット/秒で表した、OS/2 非同期回線速度。
3151 非同期ポート (OS/2)	ASYNCPORT	3151 非同期ポート (OS/2 のみ)。値は、COM1 から COM8 です。
自動トランザクションの初期設定許可	ATI	CICS がこの端末でタスクを基本機能として自動的に開始 (ATI) できるかどうかを示します。 <ul style="list-style-type: none"> YES - 端末を ATI に使用できます。 NO - 端末を ATI に使用することはできません。

表 343. TERMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
接続時セキュリティ・レベル	ATTACHSEC	<p>接続に必要な接続時ユーザー・セキュリティのレベル。</p> <ul style="list-style-type: none"> LOCAL - ユーザーの権限はリンク自体の権限として認識され、リソースの保護はリンクのセキュリティだけに依存します。 IDENTIFY - 着信接続要求は、ユーザー ID を指定する必要があります。接続中の端末に安全保護マネージャーがある場合は、IDENTIFY を指定します。 MIXIDPE - 接続は、IDENTIFY および PERSISTENT の一方または両方のセキュリティ・タイプを使用して、接続をサポートできます。使用されるセキュリティ・タイプは、着信接続によって異なります。 PERSISTENT - これには、ユーザーがリモート・システムをサインオフするまで複数の会話にわたって持続する、リモート・システムへのユーザー・サインオンが含まれます。このように、ユーザーの ID とパスワードは最初の（サインオン）接続でのみ渡されます。後続の接続要求には、ユーザーの ID だけが必要です。 VERIFY - 着信接続要求でユーザー ID およびユーザー・パスワードを指定する必要があります。接続している端末にセキュリティ・マネージャーがないために検査が必要な場合、VERIFY を指定します。
端末への自動接続を行う	AUTOCONNECT	<p>VTAM との通信が確立されたとき、CICS がこのターミナルとのセッションを確立 (バインド) しようとするかどうかを示します。値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ALL - CICS は、競合勝者と競合敗者の両方のセッションをバインドします。 YES - CICS は競合勝者のみのセッションをバインドします。 NO - CICS はセッションをバインドしません。
自動インストール・オプションのモデル	AUTOINSMODEL	<p>この端末定義を自動インストールのモデル端末定義として使用できるかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO - この定義は自動インストールのモデルとして使用できません。これは、自動インストールされない特定の装置の定義としてのみ使用されます。 ONLY - この定義は、自動インストールのモデルとしてのみ使用できます。これは、特定の装置の定義としては使用されません。 YES - この定義は、自動インストールされない特定の装置に使用できます。定義は、自動インストールのモデルとしても使用されます。
自動インストール・モデル定義名	AUTOINSNAME	自動インストール制御プログラム内で、このモデル定義が知られている名前。名前の最大長は 8 文字です。
バインド・パスワード	BINDPASSWORD	最大 16 文字の 16 進文字 (0-9、A-F) によるパスワード (APPC のみ)。
バインド時のセキュリティ	BINDSECURITY	<p>外部セキュリティ・マネージャー (ESM) がバインド時のセキュリティ用に使用されているかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO - 外部バインド時安全保護は不要です。 YES - セキュリティがアクティブで XAPPC システム初期化パラメーターが YES に設定されている場合、ESM が呼び出されます。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラムブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSDBATC - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。

表 343. TERMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
コード・ページ	CODEPAGE	端末のコード・ページ ID。
拡張カラー機能	COLOR	フィールドまたは文字ごとの色の選択を可能にする拡張カラー機能が装置にあるかどうかを示します (COLOR または NOCOLOR)。
コンソール名	CONSNAME	接続先の MVS イメージには関係なく、CICS 領域内でのコンソール装置の固有の名前。同じ CONSNAME で 2 つのコンソール定義をインストールすることはできません。CONSNAME は、MVS SYS1.PARMLIB メンバーの CONSOLEnn 内でコンソールに対して定義される名前に相当します。CONSNAME の長さは 2 から 8 文字で、英字または #、@、\$ のいずれかで開始しなければなりません。
コンソール ID	CONSOLE	MVS コンソールに限り、コンソールの ID を示します。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	端末定義の記述。
ウィンドウ・スタイル (OS/2)	FULLSCREEN	この属性は廃止されています。
グラフィック文字設定コード	GCHARCODE	その端末で入力または出力できる図形文字のセットを示すための図形文字セット・グローバル ID (GCSGID) を指定する、ハーフワード・バイナリー・フィールド。これは、グラフィック端末にのみ適用されます。その他の端末では、0 が戻されます。
拡張強調表示機能	HIGHLITE	3270 装置または SCS プリンターに、フィールドまたは文字を反転表示、下線モード、または明滅で表示するための拡張強調表示機能があるかどうかを示します。オプションは HILIGHT または NOHILIGHT です。
端末サービス中	INSERVICE	定義されている端末の状況: <ul style="list-style-type: none"> • YES - トランザクションが開始され、メッセージが自動的に端末へ送信されます。 • NO - 端末はメッセージを受信することも入力を送信することもできません。
英数カナ文字モード機能サポート	KATAKANA	装置がカタカナ端末かどうかを示します (YES または NO)。
ログモード名	MODENAME	VTAM に LOGMODE 名として渡される名前 (APPC 単一セッション端末のみ)。
名前	NAME	端末定義の名前。
NLS 使用可能メッセージ用言語	NATLANG	この端末で使用するよう最初に定義された各国語を示す 1 文字の英数字値。これをブランクのままにした場合、CICS はシステム初期設定テーブル (SIT) に指定されたシステム・デフォルトを使用します。

表 343. TERMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
VTAM ネットワーク名	NETNAME	<p>ACF/VTAM に対する端末を示すネットワーク名。この名前は、8 文字までの長さで、英字で始めなければなりません。名前を指定しない場合、NETNAME はデフォルトで TERMINAL 名になります。</p> <p>NETNAME は、リモート端末の場合を除いて、固有でなければなりません。つまり、同じ NETNAME を持つ 2 つのローカル端末をインストールすることはできません。しかし、リモート端末の NETNAME は、その他の端末の NETNAME や接続の NETNAME と同じにすることができます。</p> <p>CICS 領域が VTAM 動的 LU 別名をサポートしている (つまり、LUAPFX=xx が CICS 領域の APPL ステートメントで指定されている) 場合、この NETNAME を持つ端末は CICS 領域と同じネットワーク内にあると想定されます。端末が別のネットワーク内にある場合は、VTAM 動的割り振りを指定変更するため、定義済みの LUALIAS (LUALIAS=netname) を持つ CDRSC 定義で VTAM に対して定義されている必要があります。この場合、LUALIAS パラメーターの netname がこの端末資源定義で定義された NETNAME と一致している必要があります。</p>
BMS に対するオペレーター ID	OPERID	端末に関連付ける 3 文字のオペレーター ID。
オペレーター優先順位	OPERPRIORITY	<p>端末に接続されたトランザクションごとにタスク処理の優先度を判別するために使用されるオペレーター優先度。範囲は 0 から 255 までです。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。</p>
オペレーター・リソース・セキュリティ・キー	OPERRSL	1 から 64 までの範囲内にある 1 つ以上の 10 進値として、事前設定された装置のリソース・セキュリティ・キーを指定します。
オペレーター・トランザクション・セキュリティ・キー	OPERSEC	1 から 64 までの範囲内にある 1 つ以上の 10 進値として、事前設定された装置のトランザクション・セキュリティ・キーを指定します。
端末タイプ (OS/2)	OS2TERMTYP	この属性は廃止されています。
パイプライン端末のプール名	POOL	他のパイプライン端末と共にプールされる 3600 または 3650 パイプライン端末のプール名。
プリンター・クローズ・モード	PRINCLSMODE	この属性は廃止されています。
メッセージをプリンターに送信する	PRINTEDMSG	この属性は廃止されています。
プリンター名	PRINTER	ISSUE PRINT コマンドまたはプログラム・アクセス (PA) キーを押したオペレーターによる PRINT 要求に応答するために使用する、1 次 3270 印刷装置の名前。名前の長さは、4 文字までとすることができます。
ハードウェア・コピー機能	PRINTERCOPY	<p>CICS がハードウェア・コピー機能を使用して、プリンターでの印刷要求に対応するかどうかを指定します。値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • YES - CICS はハードウェア・コピー機能を使用します。 • NO - CICS は、ハードウェア・コピー機能を使用しません。
レポート終了標識を送信する	PRINTIMMED	この属性は廃止されています。
リモート・システムにおける端末名	REMOTENAME	この端末が定義されているリモート CICS 領域での端末の 4 文字の名前。これは、リモートとして定義された端末にのみ適用されます。その他の端末では、戻される値はブランクになります。
リモート・システム・ネットワーク名	REMOTESYSNET	端末を所有する領域のネットワーク名 (APPLID)。定義がインストールされた領域と端末専有領域との間に直接リンクがない場合に、これが使用されます。

表 343. TERMDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
リモート・システム名	REMOTESYSTEM	<p>端末を所有するシステムに対して相互通信リンクを示す名前。この名前は最大 4 文字の長さにできます。</p> <p>REMOTESYSTEM は、以下の ID のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IPIC 接続の場合、サービス中で獲得済みの IPCONN 定義における IPCONN 名の最初の 4 文字です。 • MRO および APPC 接続の場合、CONNECTION DEFINITION 上の CONNECTION 名です。CONNECTION 名が指定されていない場合、あるいは、ローカル・システムのシステム ID として名前が指定されている場合、端末はこのシステムのローカル端末です。その名前が別のシステムの名前である場合、端末はリモートです。したがって、ローカル・システムとリモート・システムの両方で端末に対して同じ定義を使用できます。 <p>この CICS と端末専有領域の間に中間システムがある場合、REMOTESYSTEM で TOR に対するパスの最初のリンクを指定します。複数のパスが可能な場合、REMOTESYSTEM は優先パスの最初のリンクを指定します。</p> <p>AUTINSTMODEL(YES) あるいは AUTINSTMODEL(ONLY) を指定している場合、REMOTESYSTEM は無視されます。</p>
画面の高さ	SCRHIGH	現行の画面サイズの高さ (行数) を指定する、ハーフワード・バイナリー・フィールド。
画面幅	SCRWIDTH	端末画面の現行の幅を (文字数で) 指定する、ハーフワード・バイナリー・フィールド。
リモート・システムにおけるセキュリティ名	SECURITYNAME	<p>リモート・システムにおけるセキュリティ名。セキュリティが初期化された CICS システム (SEC=YES) では、セキュリティ名はリモート・システムの権限を設定するために使用されます。セキュリティ名 (またはセッション定義の USERID) は、ご使用のシステムの有効な RACF ユーザー ID でなければなりません。システム上の保護リソースへのアクセスは、RACF ユーザー・プロファイルおよびそのグループ・メンバーシップに基づいています。</p>
送信請求メッセージ	SOLICITED	<p>コンソールに対して発行された CICS メッセージを NetView が送信請求または非送信請求のどちらとして扱うかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - CICS メッセージは非送信請求として処理されます。 • YES - CICS メッセージは、送信請求として扱われます。コンソールで SOLICITED(YES)が指定されると、CICS は コンソール名またはコンソール識別番号と、コマンドおよび 応答トークンを各コンソールに追加します。
スプールの宛先	SPOOLDEST	この属性は廃止されています。
スプール印刷リソース・セキュリティ・レベル (RSL)	SPOOLPRTRSL	この属性は廃止されています。
スプール・プリンター非アクティブ時間の許可	SPOOLPRTTO	この属性は廃止されています。
デフォルト・スプール・プリンター名	SPOOLTO	この属性は廃止されています。
パイプライン・セッションに対する同時タスク限度	TASKLIMIT	<p>パイプライン・セッション内またはパイプライン・セッションのプール内で実行が許可された並行タスクの数。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - 並行タスクは許可されていません。 • 数値 - 実行が許可された並行タスクの数。範囲は 1 から 32767 までです。
端末優先順位	TERMPRIORITY	他の端末との関係での、端末の優先度。範囲は 0 から 255 までです。
固定トランザクション ID	TRANSACTION	この端末が基本機構となるタスクによって実行されているトランザクションの 4 文字の ID。現在端末で実行中のタスクがない場合、ブランクが戻されます。
入力条件定義名	TYPETERM	この TERMINAL 定義に関連した TYPETERM 定義の名前。名前の最大長は 8 文字です。

表 343. TERMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
大文字変換	UPCASETR	この端末に関連したトランザクションで、大文字変換オプションがサポートされているかどうかを示します。 オプションは UCTRAN、NOUCTRAN、TRANIDONLY です。
デフォルト・ユーザーを使用	USEDFLTUSER	<p>端末で、CICS システムに指定されたデフォルトのユーザー ID を使用するかどうかを指示します。すなわち各インバウンド接続 FMH に対して実行されるセキュリティ検査の種類を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • N/A - USEDFLTUSER 値はこの定義に適用されず、CICSplex SM より妥当性検査されません。 • NO - デフォルトのユーザー ID を使用しません。各インバウンド接続の FMH で、ATTACHSEC オプションに必須のこれらのフィールドがあるか検査が行われ、必須フィールドがない場合には、プロトコル違反メッセージが出されて接続は失敗します。 • YES - CICS システム用に DFLTUSER SIT パラメーターで指定されたデフォルトのユーザー ID を使用します。接続の FMH の妥当性に関するいくつかの検査は迂回されます。これは、CICS/ESA 4.1 より前の CICS のリリースと同じ 安全保護レベルになります。
端末のユーザー域の長さ	USERAREALEN	この端末のプロセス制御情報を含む TCTUA のアドレス。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー ID	USERID	サインオンで使用され、セキュリティ・エラー・メッセージ、セキュリティ違反メッセージ、および監査証跡で参照されるユーザー ID。これはセキュリティ・マネージャーに定義された有効なユーザー ID でなければなりません。
ワークステーションのセットアップ (OS/2)	WSSETUP	この属性は廃止されています。

トランザクション・クラス定義 - TRNCLDEF

「トランザクション・クラス定義」(TRNCLDEF) ビューは、クラスに属するトランザクションの操作可能な特性に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「**CICS** リソース定義」 > 「トランザクション・クラス定義」

表 344. 提供された「トランザクション・クラス定義」(TRNCLDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
トランザクション・クラス定義 EYUSTARTTRNCLDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のトランザクション・クラス定義をリソース・グループに追加します。
トランザクション・クラス定義 EYUSTARTTRNCLDEF.CREATE	トランザクション・クラス定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
トランザクション・クラス定義 EYUSTARTTRNCLDEF.DETAILED	選択したトランザクション・クラス定義に関する詳細情報

表 344. 提供された「トランザクション・クラス定義」 (TRNCLDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
トランザクション・クラス定義 EYUSTARTTRNCLDEF.INSTALL	トランザクション・クラス定義をアクティブなシステムにインストールします。
トランザクション・クラス定義 EYUSTARTTRNCLDEF.REMOVE	データ・リポジトリからトランザクション・クラス定義を除去します。
トランザクション・クラス定義 EYUSTARTTRNCLDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのトランザクション・クラス定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 345. TRNCLDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上のトランザクション・クラス定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	トランザクション・クラス定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	トランザクション・クラス定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからトランザクション・クラス定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のトランザクション・クラス定義を更新します。

フィールド

表 346. TRNCLDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSEBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間および日付。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	トランザクション・クラス定義の説明。
クラス内の最大許容アクティブ・トランザクション数	MAXACTIVE	このトランザクション・クラス内で、アクティブになれるトランザクションの最大数。 トランザクション・クラスを定義するときには、0 から 999 の範囲で MAXACTIVE 値を指定する必要があります。

表 346. TRNCLDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
名前	NAME	トランザクション・クラス定義の名前。
ページしきい値	PURGETHRESH	<p>これはトランザクション・クラス用のオプションのページしきい値です。これはトランザクション・クラスのメンバーシップについてキューイングしているトランザクションがページされるしきい値を規定します。このトランザクション・クラス内でキューイングするトランザクションの数を制限するには、この値を指定します。この値には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - キューのサイズは無制限です（タスクの接続に使用できる記憶域以外）。 • 数 - 範囲が 1 から 1 000 000 のページしきい値。この値を 1 に指定すると、キューが許可されるトランザクションはありません。それ以外の数(n)を指定すると、キューのサイズはその数値から 1 を引いた数に制限されます。n-1 の限界に達した後に接続された新規トランザクションはすべて ページされます。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。

トランザクション定義 - TRANDEF

「トランザクション定義」(TRANDEF) ビューは、トランザクションが CICS システムで実行する方法についての情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「トランザクション定義」

表 347. 提供された「トランザクション定義」(TRANDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
トランザクション定義 EYUSTARTTRANDEF.ADDTOGRP	1 つ以上のトランザクション定義をリソース・グループに追加します。
トランザクション定義 EYUSTARTTRANDEF.CREATE	トランザクション定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
トランザクション定義 EYUSTARTTRANDEF.DETAILED	選択したトランザクション定義に関する詳細情報
トランザクション定義 EYUSTARTTRANDEF.INSTALL	トランザクション定義をアクティブなシステムにインストールします。
トランザクション定義 EYUSTARTTRANDEF.REMOVE	データ・リポジトリからトランザクション定義を除去します。
トランザクション定義 EYUSTARTTRANDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのトランザクション定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 348. TRANDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上のトランザクション定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	トランザクション定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	トランザクション定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからトランザクション定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のトランザクション定義を更新します。

フィールド

表 349. TRANDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
トランザクションの別名	ALIAS	このトランザクションの別名トランザクションの名前。 名前の長さは、4 文字までとすることができます。
ブリッジ出口ルーチン名	BREXIT	トランザクションが START BREXIT コマンドを使用して 3270 ブリッジ環境で開始され、BREXIT で名前を指定していない場合に、このトランザクションに関連付けられるデフォルトのブリッジ出口ルーチンを定義する 8 文字の名前。 値が存在すれば、トランザクションはブリッジ・トランザクションとして識別されます。ユーザー・トランザクションでこの値を指定することはできません。値を指定する場合、Remotename または Remotesystem にも値を指定することはできません。 Dynamic(YES) または Restart(YES) を指定することもできません。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSEBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
コマンド・レベル・セキュリティ・オプション	CMDSEC	このトランザクションを実行しているタスクに対して、コマンド・セキュリティ検査を実行する必要があるかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> NO - コマンド・セキュリティ検査は実行する必要がありません。 YES - コマンド・セキュリティ検査を実行する必要があります。
トレース・エントリーにおけるユーザー・データを抑制	CONFDATA	CONFDATA システム抑制初期化パラメーターに HIDE (HIDETC for CICS TS 5.5 以前) が指定されているとき、CICS が CICS トレース・エントリーからのユーザー・データを抑制するかどうかを指定します。
作成時刻	CREATETIME	トランザクション定義を参照または更新するとき、定義が作成された日時および最後に更新された日時を示します (保守ポイント CMAS の時間帯を使用)。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。

表 349. TRANDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	トランザクション定義の説明。
デッドロック・タイムアウト値	DTIMOUT	<p>デッドロック・タイムアウトをタスクに適用するかどうかを指定します。タスクの実行が(ストレージ不足などにより)中断状態になった場合、タスクが DTIMOUT 値よりも長く中断状態のままであれば、タスクのページが開始されます。ページによってトランザクションが異常終了した場合、使用される異常終了コードは、CICS のどの部分がタスクを中断状態にしたかによって異なります。CEDF を使用する場合、ユーザー・タスクには可能であれば DTIMOUT(NO) または大きな値を指定してください。これは現在、DTIMOUT がゼロでない場合にすべての RLS ファイル要求に対するタイムアウトとしても使用されます。ゼロである場合は要求によって SIT FTIMEOUT 値が取得されます。FTIMEOUT は、デッドロック・タイムアウト・インターバルがアクティブではないトランザクションに適用されます。TRANSACTION 定義の DTIMOUT キーワードが指定された場合、それはそのトランザクションに対するファイル・タイムアウト値として使用されます。</p> <p>注: CEDF を使用しているとき、DTIMOUT 値がユーザー・タスクに指定されていれば、ユーザー・タスクが中断状態にある間 DTIMOUT 値は無視されて、CEDF タスクがアクティブになります。したがって、CEDF タスクがユーザー応答を待機しているときに、デッドロック・タイムアウト (ABEND AKCS) を使用して、中断されたユーザー・タスクを終了することはできません。</p> <p>RLS の使用以外で DTIMOUT を有効にするには、SPURGE を YES に設定する必要があります。</p> <p>CICS は、特定の時点ではデッドロック・タイムアウトを禁止します。</p> <p>DTIMOUT は、端末入出力待ちに対して起動されません。中継トランザクションはセッションを取得した後にリソースにアクセスしないので、中断状態にある割り振り要求をトラップする以外には DTIMOUT の必要はほとんどありません。しかし、セッションでの入出力待ちの場合、MRO セッションおよびマップされた APPC 接続でのトランザクション・ルーティングのために、PROFILE 定義で RTIMOUT 属性を指定できます。</p> <p>デッドロック・タイムアウトはストレージ不足 (SOS) 状態に対処するために CICS が使用する仕組みであるため、一部のトランザクションには DTIMOUT 値を定義することが重要です。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - デッドロック・タイムアウト機能は必要ありません。 • mmss - デッドロック・タイムアウト機能が中断状態のタスクを強制終了させるまでの時間 (mmss は分数と秒数を示します)。指定できる最大値は 68 分 (6800) です。この精度は 1 秒単位です。
トランザクション・ダンプ・オプション	DUMP	トランザクションが異常終了した場合に、ダンプ・ドメインを呼び出してトランザクション・ダンプを生成するかどうかを指定します。
動的ルーティング・オプション	DYNAMIC	<p>CICS 動的トランザクション・ルーティング機能を使用して、トランザクションをリモート領域に動的にルーティングできるかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - REMOTESYSTEM 属性によって、ローカルまたはリモートの定義が作成されます。 • YES - 呼び出し時に動的トランザクション・ルーティング・プログラムがローカルまたはリモート状況を動的に判断できるようにします。
外部セキュリティー・マネージャー・オプション	EXTSEC	この属性は廃止されています。
CICS 障害時処置	FAILACTION	トランザクションの障害の際に CICS が実行する失敗アクション。デフォルト値は BACKOUT です。
未確定障害処理アクション	INDOUBT	この属性は廃止されています。

表 349. TRANDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
トランザクション分離オプション	ISOLATE	CICS がトランザクションのユーザー・キーのタスク存続期間ストレージを分離して、トランザクションからトランザクションへの保護を提供するかどうかを指定します。分離とは、ユーザー・キーのタスク存続期間ストレージが他のトランザクションのユーザー・キー、つまり EXECKEY(USER) が指定されて定義されたプログラムによる読み取りと書き込みの両方に対して保護されていることを意味します。
ローカル・システムにおけるキュー処理	LOCALQ	ローカル・システムでのキューイングを実行するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • NO - ローカル・キューイングは実行されません。 • YES - システムが使用可能ではなく、システム名が有効なとき、EXEC START NOCHECK 要求に対してローカル・キューイングを試行できます。 • N_A - Localq 属性は、インストール時にデフォルト値を使用します。
名前	NAME	トランザクション定義の名前。
オブジェクト・トランザクション・サービス (OTS) のタイムアウト (HHMMSS)	OTSTIMEOUT	この CICS トランザクションの下で実行している EJB 環境で作成された OTS トランザクションを、同期点より前に実行することが許可されているデフォルトの期間 (時間、分、および秒数)。 <ul style="list-style-type: none"> • NO - OTS トランザクションはタイムアウトになりません。これはデフォルトです。 • hhmss - タスクがパージされるまでの期間 (HHMMSS 形式)。最大期間は 24 時間 (240000) です。
デフォルト・アプリケーション区分セット	PARTITIONSET	デフォルトのアプリケーション区分セットとなる区分セットの名前を指定します。名前の最大長は 8 文字です。特殊値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • KEEP - トランザクションは、この端末のアプリケーション区分セットを使用します。 • OWN - トランザクションは、そのトランザクション自体の区分管理を実行します。
プライム状態のストレージ割り振り	PRIMEDSIZE	この属性は廃止されています。
トランザクション優先順位	PRIORITY	他のトランザクションに対するトランザクションの相対的な優先度。トランザクションが CICS タスクとして稼働しているとき、タスクの優先度はトランザクションの優先度、端末の優先度、およびオペレーターの優先度の合計になります。「値」の範囲は 0 から 255 で、255 が最高の優先度となります。
トランザクション・プロファイル	PROFILE	このトランザクションのプロファイル定義の 8 文字の名前。プロファイルは、トランザクションを実行しているタスクと端末またはその基本機能であるセッションとの間の対話を支配する属性を規定します。
最初のプログラム名	PROGRAM	CICS がこのトランザクションを処理するために制御を付与するプログラムの名前。名前の最大長は 8 文字です。このトランザクション定義をリモート・プログラム・リンク要求に対して使用する場合、この属性で指定するプログラム名は、CICS ミラー・プログラム DFHMIRS の名前である必要があります。
リモート・トランザクション名	REMOTENAME	このトランザクションがリモート・システム内またはシステム間連絡を使用する領域で実行される場合、リモート・システム内で知られているこのトランザクションの名前。別の CICS 領域または IMS システムをリモート・システムとして使用できます。REMOTESYSTEM 属性が別の CICS 領域を指定する場合、REMOTENAME の長さは 1 から 4 文字です。REMOTESYSTEM 属性が IMS システムを指定する場合、REMOTENAME の長さは 1 から 8 文字です。リモート名を指定する場合、CICSplex SM はトランザクションを関連システムに割り当てるときにその名前を使用します。リモート・システムを指定してリモート名を指定しない場合、ローカル名 (つまりこのトランザクション定義の名前) がターゲット・システムと関連システムの両方で使用されます。

表 349. TRANDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リモート・システム名	REMOTESYSTEM	<p>(オプション) ターゲット・システムをトランザクションがある 関連システムにリンクする接続の名前。このパラメーターが指定されない場合、接続名は関連システムの CICS システム ID から直接派生します。名前の長さは、4 文字までとすることができます。CICSplex SM がこのシステム ID を使用するの、トランザクションがリソース記述に (RESINDSC を介して) 直接関連付けられているリソース・グループの一部である場合だけです。トランザクションがリソース割り当て (RASGNDEF) によって割り当てられている場合、CICSplex SM は関連システムの実際の CICS システム ID を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IPIC 接続の場合、IPCONN 定義の最初の 4 文字が使用されます。この方法で参照されるすべての IPIC 接続では、最後の 4 文字をブランクにする必要があります。 • MRO および APPC 接続の場合、CONNECTION 定義の CONNECTION 名が使用されます。
リソース・セキュリティ検査	RESSEC	リソース・セキュリティ検査がトランザクションに必要なかどうかを示します。
トランザクション再始動機能	RESTART	トランザクション再始動機能を使用して、異常終了した後に動的トランザクション・バックアウト機能によりバックアウトされたタスクを再始動するかどうかを指定します。YES が指定された場合、失敗したタスクは初期プログラムの最初から再始動します。動的トランザクション・バックアウトが失敗した場合、または再始動が動的に抑制された場合は、DFHPEP が通常の方法で呼び出されます。トランザクション再始動機能は、タスクを手動で再実行依頼する代わりに自動的に再始動できるプログラム分離デッドロックなどの状態のときに特に役立ちます。
動的ルーティング状況	ROUTABLE	<p>トランザクションが適格な START コマンドの対象である場合に、トランザクションを拡張ルーティング方式でルーティングするかどうかを指定します。値は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - トランザクションが START コマンドの主体である場合に、それは「従来の」方式でルーティングされます。 • YES - トランザクションが適格な START コマンドの主体である場合に、それは拡張方式を使用してルーティングされます。
リソース・セキュリティ値	RSL	この属性は廃止されています。
リソース・セキュリティ・レベル検査	RSLC	このトランザクションによってアクセスされるリソースに、セキュリティ検査が必要であることを示します。
ランナウェイ・タイムアウト値	RUNAWAY	<p>このトランザクション定義の下で実行しているタスクが、ランナウェイ状態 (論理ループ) になったと想定されるまでの間、プロセッサの制御を保持できる時間 (ミリ秒)。このインターバルが満了すると、CICS はタスクを異常終了することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SYSTEM - CICS は ICVR システム初期化パラメーター値をこのトランザクションのランナウェイ制限時間として使用します。 • 0 - 制限はなく、ランナウェイ・タスク検出はトランザクションに必要ありません。 • 250 から 2700000 - 250 から 2700000 までの範囲のランナウェイ制限時間。 <p>このフィールドがブランクの場合、CICS 環境のデフォルト値が存在すれば、CICSplex SM はそれを使用します。</p>
オペレーターのサインオン要	SECURE	トランザクションにアクセスするために、オペレーターがサインオンする必要があるかどうかを指定します。
シャットダウン実行状況	SHUTDOWN	<p>CICS シャットダウン中にトランザクションを実行できるかどうかを示します。これは EXEC CICS PERFORM SHUTDOWN の XLT オプションを補足するものです。シャットダウン中にトランザクションを付加するには、それが SHUTDOWN(ENABLED) として定義されているか、または EXEC CICS SHUTDOWN コマンドの XLT 内で指名されている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DISABLED - CICS シャットダウン中は、トランザクションを実行できません。 • ENABLED - CICS シャットダウン中にトランザクションを実行できます。

表 349. TRANDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
システム・パージ可能オプション	SPURGE	<p>トランザクションが当初システム・パージ可能かどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - デッドロック・タイムアウト (DTIMOUT) 機能、EXEC CICS ... PURGE コマンド、ノード・エラー・プログラム (NEP) に設定されている TWAOCT (取り消しタスク)、あるいは CEMT SET ... PURGE コマンドによって、トランザクションがパージされることを防止します。 • YES - ユーザーが関与している限り、そのようなパージの実行を許可します。ただし、トランザクションが到達したポイントでパージを許可すると安全でない場合、CICS がパージを禁止することがあります。
使用可能状況	STATUS	<p>トランザクションが使用可能かどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DISABLED - トランザクションは使用不可です。 • ENABLED - トランザクションは使用可能です。
ストレージ・クリア状況	STORAGECLEAR	<p>このトランザクションのタスク存続期間ストレージを解放時にクリアするかどうかを指定します。これを使用して、タスク存続期間ストレージ中にこのトランザクションによって保管されている機密または重要データを他のタスクが偶然に見ることを防止できます。</p>
タスク・データ・キー	TASKDATAKEY	<p>CICS がタスク期間のためにタスク初期設定時に割り振るタスク存続期間ストレージ (アプリケーションからアクセス可能) のストレージ・キー。これらのストレージ域は、EXEC インターフェース・ブロック (EIB) およびトランザクション作業域 (TWA) です。これは、トランザクションの下で実行するすべてのプログラムのために、CICS が取得するストレージのキーも指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CICS - CICS はこのトランザクション用の CICS キー・ストレージを取得します。CICS キーで実行しているアプリケーション・プログラムは、これらのストレージ域の読み取りと変更の両方を行えます。ユーザー・キーで実行しているアプリケーション・プログラムは、これらのストレージ域の読み取りのみ行えます。 • USER - CICS は、このトランザクションのユーザー・キー・ストレージを取得します。いずれかのキーで実行しているアプリケーション・プログラムは、これらのストレージ域の読み取りと変更の両方を行えます。
タスク・データ・ロケーション	TASKDATALOC	<p>CICS がトランザクションの期間にわたって獲得するタスク存続期間ストレージを、仮想記憶域の 16 MB 境界より上に配置できるかどうかを指定します。特定の CICS タスクに関連しているこれらの領域は、EXEC インターフェース・ブロック (EIB) およびトランザクション作業域 (TWA) を含んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BELOW - CICS がトランザクション用に獲得するストレージ域は 16 MB 境界より下に置く必要があります。 • ANY - CICS がトランザクション用に獲得するストレージ域は、仮想記憶域内の 16 MB 境界より上に置くことができます。 <p>トランザクションを形成するプログラムのいずれかを 24 ビットのアドレッシング・モードで実行する場合、BELOW を指定する必要があります (これはトランザクションに代って実行しているタスク関連のユーザー出口にも適用されます)。</p> <p>これらの条件のいずれも満たさないトランザクションの場合、ANY を指定して、関連する仮想ストレージ制約解放を取得できます。</p>
トランザクション開始	TASKREQ	<p>トランザクションを開始する方法として、PF キーを押すこと、ライト・ペンを使用すること、またはカードを使用することのいずれかを指定します。可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PA キーの場合は PA1、PA2、または PA3。 • PF キーの場合は PF1 から PF24。 • オペレーター ID カード読取機構の場合は、OPID です。 • 3270 装置上のライト・ペン検出可能フィールドの場合は LPA。 • 10/63 文字磁気スロット読取装置の場合は、MSRE です。

表 349. TRANDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
トランザクション・クラス番号	TCLASS	CICS/ESA 3.3 以降、これは廃止になりました。トランザクションが属する 8 文字のトランザクション・クラス名を指定します。トランザクションがクラスに属さない場合、DFHTCL00 が戻されます。TCLASS の省略形は、Tcl です。トランザクションをその TCLASS から除去するには、Tcl フィールドが DFHTCL00 に設定されている必要があります。一連のブランクを挿入することもでき、その場合には DFHTCL00 が戻されます。追加または変更された TClass が定義される必要があります。
APPC パートナー・トランザクション名	TPNAME	TRANSACTION 属性の長さに対する 4 文字の制限が制約的すぎる場合に、APPC パートナーが使用できるトランザクションの名前。この名前の長さは最大 64 文字です。
端末エラーに対してページ可能オプション	TPURGE	端末エラーを理由に、トランザクションをページできるかどうかを指定します (非 VTAM 端末のみ)。 <ul style="list-style-type: none"> • NO - 端末エラーが生じたとき、タスクはページできません。 • YES - 端末エラーが生じたとき、タスクはページできます。
トランザクション・アクティビティのトレース・オプション	TRACE	このトランザクションのアクティビティをトレースするかどうかを指定します。
トランザクション・クラス名	TRANCLASS	トランザクションが属するトランザクション・クラスの名前。トランザクション・クラスに属するトランザクションは、実行可能になる前にスケジューリング制約に従います。予約済み TRANCLASS 名 DFHTCL00 は、トランザクションがどのトランザクション・クラスにも属さないことを示すために使用されます。名前の長さは、最大で 8 文字です。
トランザクション・セキュリティ値	TRANSEC	この属性は廃止されています。
トランザクション・ルーティング・プロファイル	TRPROF	ISC トランザクション・ルーティングの際にシステム間フローを送達するセッションのプロファイルの名前。名前の最大長は 8 文字です。
トランザクション作業域 (TWA) のサイズ (バイト数)	TWASIZE	このトランザクションのために取得する必要がある、トランザクション作業域のサイズ (バイト数)。0 から 32767 の範囲で、1 から 5 桁の 10 進値を指定します。
代替画面サイズを使用	USEALTSCRSIZ	この属性は廃止されています。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
未確定待機オプション	WAIT	作業単位 (UOW) が未確定状態になった後に障害が発生した場合に、その障害のリカバリーを未確定 UOW が待機するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • YES - UOW は、障害からのリカバリーを保留にして待機し、その未確定の状態を解決して、リカバリー可能リソースをバックアウトするかまたはコミットするかを判別します。つまり、UOW は延期されます。 • NO - UOW は待機しません。CICS は、ACTION 属性で指定された操作を即時に実行します。
未確定待機時間 (日)	WAITTIMEDD	ACTION 属性に指定された値に基づいて未確定の作業単位に関する任意の決定をするまでに、トランザクションが待機する日数。最大値は 99 です。3 つの待ち時間フィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。
未確定待機時間 (時間)	WAITTIMEHH	ACTION 属性に指定された値に基づいて未確定の作業単位に関する任意の決定をするまでに、トランザクションが待機する時間数。最大値は 23 です。3 つの待ち時間フィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。

表 349. TRANDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
未確定待機時間 (分)	WAITTIME	ACTION 属性に指定された値に基づいて未確定の作業単位に関する任意の決定をするまでに、トランザクションが待機する分数。最大値は 59 です。3 つの待ち時間フィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。
代替パートナー・トランザクション名 (16 進数)	XTPNAME	(オプション) TPNAME の代替。APPC パートナーによって使用されるトランザクションの名前を表す、長さが 128 文字までの 16 進数ストリングを入力します。X'40'を除くすべての 16 進数の組み合わせが許容されます。
トランザクション開始の代替名 (16 進数)	XTRANID	(オプション) トランザクションを開始するために TRANSACTION 名の代わりに使用する別の名前。名前の長さは、8 個までの 16 進数字とすることができます。XTRANID は 16 進形式で指定されるので、TRANSACTION 属性には指定できない文字を含む名前を使用できます。

一時データ・キューの定義 - TDQDEF

「一時データ・キュー定義」(TDQDEF) のビューは、区画内、区画外、間接、およびリモートの一時データ宛先定義に関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「一時データ・キュー定義」

表 350. 提供された「一時データ・キュー定義」(TDQDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
一時データ・キュー定義 EYUSTARTTDQDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の一時データ・キュー定義をリソース・グループに追加します。
一時データ・キュー定義 EYUSTARTTDQDEF.CREATE	一時データ・キュー定義を作成して、それをデータ・リポジトリに追加します。
一時データ・キュー定義 EYUSTARTTDQDEF.DETAILED	選択した一時データ・キュー定義に関する詳細情報
一時データ・キュー定義 EYUSTARTTDQDEF.INSTALL	一時データ・キュー定義をアクティブなシステムにインストールします。
一時データ・キュー定義 EYUSTARTTDQDEF.REMOVE	データ・リポジトリから一時データ・キュー定義を除去します。
一時データ・キュー定義 EYUSTARTTDQDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての一時データ・キュー定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 351. TDQDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の一時データ・キュー定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	一時データ・キュー定義を作成して、それをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	一時データ・キュー定義をアクティブなシステムにインストールします。

表 351. TDQDEF ビューで使用可能なアクション (続き)	
アクション	説明
REMOVE	データ・リポジトリから一時データ・キュー定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の一時データ・キュー定義を更新します。

フィールド

表 352. TDQDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
宛先タイプ	ATIFACILITY	<p>キューで示される宛先のタイプ。</p> <ul style="list-style-type: none"> • TERMINAL - 一時データ・キューは、端末に関連付けられます。この端末は、CICS に定義されていなければなりません。TERMINAL を指定しなかった場合、これはデフォルト値である FACILITYID になります。TRANSID および TRIGGERLEVEL 属性で指定された ATI が使用される場合、開始されるトランザクションは、指定された端末に関連付けられます。これは、トランザクションの開始前に使用可能になっている必要があります。 • FILE - 一時データ・キューは、特定の端末またはシステムに関連付けられていないデータ・レコードを含むファイルとして使用されます。ATI は、端末が使用可能であることを必要としません。 • SYSTEM - 特定のシステム ID に関連付けられる一時データ・キュー。システムは、RDO CONNECTION 定義を使用して ローカル CICS システムに対し定義されている必要があります。
ブロック・オプション	BLOCKFORMAT	<p>(区画外キューのみ) データ・セットのブロック形式。デフォルトはありません。レコード形式 (RECORDFORMAT 属性) を未定義として指定した場合 (またはデフォルトが適用されるようにした場合)、BLOCKFORMAT 属性には何も指定できません。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BLOCKED - ブロック化レコード形式。 • UNBLOCKED - 非ブロック化レコード形式。 • NOTAPPLIC - このデータ・セットにはブロック形式が定義されません。
ブロック・サイズ	BLOCKSIZE	<p>(区画外キューのみ) バイト数による、ブロックの長さ。ブロック長の範囲は、0 から 32767 までです。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。</p>
バッファースの数	BUFNO	提供されるバッファースの数。255 までの任意の数を使用できます。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSEBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バッファースの数	DATABUFFERS	最大 255 までの、提供されるバッファースの数。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。

表 352. TDQDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
DD 名	DDNAME	区画外 TD キューに関連付けられたデータ定義 (DD) ステートメントを指す 1 文字から 8 文字までの値。この名前の DD ステートメントが CICS 領域の JCL にコーディングされていない場合、この名前を使用して、データ・セットまたは SYSOUT ファイルが動的に割り振られます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	一時データ・キュー定義の説明。
デバイス・ファイル名	DEVFILENAME	この属性は廃止されています。
初期設定時にオープン	DEVICEINIT	この属性は廃止されています。
デバイス・タイプ	DEVICETYPE	この属性は廃止されています。
ファイル属性指定	DISPOSITION	<p>データ・セットの処理 (区画外キューのみ)。</p> <ul style="list-style-type: none"> MOD - CICS はまず、データ・セットが存在することを想定します。既存の順次データ・セットでは、MOD は読み取り/書き込み機構がデータ・セット内の最終レコードの後に配置されるようにします。読み取り/書き込み機構は、データ・セットが出力のために開かれるたびに、最終レコードの後に配置されます。 OLD - データ・セットは、このジョブ・ステップよりも前に存在していました。 SHR - データ・セットはこのジョブ・ステップよりも前に存在していて、他の並行ジョブによって読み取り可能です。
DS 名	DSNAME	区画外 TD キューに動的に割り振られるデータ・セット (DS) 名を識別する 1 から 44 文字の値。指定された DD 名の値が CICS 領域の JCL に DD ステートメントとしてコーディングされている場合、この値は無視されます。
エラー・オプション	ERROROPTION	<p>入出力エラーが生じた場合に実行される処置 (区画外キューのみ)。これは、次のどれかにすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> IGNORE - エラーの原因となったブロックが受け入れられます。 SKIP - エラーの原因になったブロックがスキップされます。
機能 ID	FACILITYID	<p>次のいずれかを含む 4 文字のフィールド:</p> <ul style="list-style-type: none"> ATIFACILITY を SYSTEM として指定する、区画内キューのシステム ID。 ATIFACILITY に TERMINAL が指定された場合の端末 ID。 <p>FACILITYID フィールドで何も指定しないと、デフォルトで各ケースのキューの名前になります。ATIFACILITY 属性に FILE が指定されている場合は、このフィールドはブランクのままになります。</p>
標準ラベルを書き込む	FILELABEL	この属性は廃止されています。
間接的一時データ・キュー (TDQ) 名	INDIRECTNAME	一時データ・キューの名前。キューは、区分内、区分外、リモート、または間接です。
JES 内部 rdr に対するジョブのデフォルトのジョブ・ユーザー ID	JOBUSERID	JES 内部読み取りプログラムにサブミットされる JCL の JOB カードに USER= オプションが指定されていない場合は、この TDQ を使用して、値を指定した USER= オプションが、使用される JOB カードに追加されます。値がブランクの場合は、リージョンのユーザー ID が使用されます。(区画外キューのみ)。
名前	NAME	一時データ・キュー定義の名前。
データ・セット・オープン時刻	OPENTIME	<p>(区画外キューのみ。) データ・セットの初期状況。オプションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> DEFERRED - CEMT INQUIRE SET TDQUEUE コマンドを使用して開く指定をするまで、データ・セットは閉じたままになります。 INITIAL - データ・セットはインストール時に開かれます。

表 352. TDQDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
プリンター制御	PRINTCONTROL	(区画外キューのみ。) 使用する制御文字は以下のとおりです: <ul style="list-style-type: none"> • ASA - ASA 制御文字。 • MACHINE - マシン制御文字。 • N/A - Printcontrol 値はこの定義に適用されず、妥当性検査は行われません。
プリンター番号	PRINTERNUM	この属性は廃止されています。
レコード形式	RECORDFORMAT	キューに固定長レコードまたは可変長レコードのどちらがあるかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • FIXED - キューには固定長レコードがあります。 • UNDEFINED - キューが開いていないか、または区画外ではありません。 • VARIABLE - キューには可変長レコードがあります。
レコード・サイズ	RECORDSIZE	固定長レコードを持つキューのレコード長 (バイト数)、または可変長レコードを持つキューの最大レコード長。このフィールドは、区画外キューにのみ適用されます。その他については、-1 が戻されます。
リカバリー処理オプション	RECOVSTATUS	キューに定義されたリカバリーのタイプ (区画内キューのみ): <ul style="list-style-type: none"> • LOGICAL - キューは、論理的にリカバリー可能です。このキューにアクセスしたトランザクションが、異常終了時、あるいは、その後の緊急時再始動や動的トランザクション・バックアウト時に実行中であった場合、キューは、実行中の UOW によって変更される前の状態に復元されます。 • NOTAPPLIC - キューは区画内ではありません。 • NO - キューはリカバリー可能ではありません。 • PHYSICAL - キューは物理的にリカバリー可能です。緊急再始動が行われると、このキューは CICS 終了時の状況にリカバリーされます。
リモート長	REMOTELength	(オプション。) 範囲が 1 から 32767 までの、バイト数による長さ。デフォルト値は 1 です。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のためにデフォルト値があればそれを使用します。
リモート一時データ・キュー (TDQ) 名	REMOTENAME	キューが (定義内の RMTNAME オプションから) 定義されたリモート CICS 領域での、このキューの 4 文字の名前。REMOTENAME は、リモートとして定義されたキューにのみ適用されます。その他のキューでは、戻される値はブランクになります。
リモート宛先のシステム ID	REMOTESYSTEM	(オプション。) 一時データ・キューがリモート・システム上にある場合、一時データ・キューが存在する関連した (リモート) システムにターゲット (ローカル) システムをリンクする接続の名前を指定します。属性が指定されない場合、それは関連システムの CICS システム ID から直接派生して、ターゲット・システムを関連システムにリンクする接続は関連システムの CICS システム ID と同じ名前であればなりません。
キューが常駐否か	RESIDENT	キューが常駐するかどうかを指定します。
再使用制御間隔	REUSE	この属性は廃止されています。
テープのファイル属性指定	REWIND	テープ・データ・セットの処理 (区画外キューのみ)。後処理は次のいずれかです。 <ul style="list-style-type: none"> • LEAVE - 現行のテープは、データ・セットの論理終了位置に配置されます。 • REREAD - 現行のテープは、データ・セットの論理開始位置に位置合わせされます。 • NOTAPPLIC - これはこのリソースには適用されません。
リソース・セキュリティー値	RSL	この属性は廃止されています。

表 352. TDQDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
システム出力 (SYSOUT) クラス	SYSOUTCLASS	<p>区画外キューを物理データ・セットに割り振る代わりに、それをシステム出力データ・セット (SYSOUT と呼ばれる) に割り振ることができます。SYSOUTCLASS 属性を使用して、SYSOUT データ・セットのクラスを指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • A..Z 0..9 - CICS ジョブが実行される z/OS システム上にセットアップされた出力クラスを表す単一の英字または数字。 • * - これは、デフォルトのクラスです。DSNAME 属性をブランクのままにして TYPEFILE フィールドに OUTPUT を指定した場合、SYSOUTCLASS はデフォルトのアスタリスク (*) になります。 • ブランク - DSNAME 属性をブランクのままにして TYPEFILE 属性に INPUT または RDBACK を指定した場合、SYSOUTCLASS はデフォルトでブランク文字になります。
ファイル・テープ・マークを書き込む	TAPEMARK	この属性は廃止されています。
一時データ・キュー (TDQ) タイプ	TDQTYPE	<p>キューのタイプ:</p> <ul style="list-style-type: none"> • EXTRA - CICS 領域の外部にあるキューは CICS に割り振られます。 • INDIRECT - 間接キューは、実際のデータ・セットではなく別のキューを指すキューです。間接キューは、区画外、区画内、リモート、さらには他の間接キューであることもあります。 • INTRA - 一時的に保管されるデータのキュー。 • REMOTE - リモート・システム上に存在するキュー。
端末名 (Terminal name)	TERMINID	端末の ID。
トリガー・レベルで開始されるトランザクション	TRANSID	トリガー・レベルに達したときに自動的に開始されるトランザクションの名前。こうした方法でトランザクションを開始し、キューからレコードを読み取ります。TRANSID 属性が指定されていない (あるいは、TRIGGERLEVEL 属性に 0 が指定されている) 場合、別のメソッドを使用して、一時データ・キューからレコードの読み取りを行うトランザクションをスケジュールする必要があります。
トリガー・レベル	TRIGGERLEVEL	タスクが処理のために自動的に開始される前に、集計されるレコードの数。ATI 処理を使用不可に設定するには、トリガー・レベルを 0 に指定します。トランザクション ID を指定しない場合、トリガー・レベルは無視されます。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。
Data set type (データ・セット・タイプ)	TYPEFILE	<p>キューが関連付けられるデータ・セットのタイプ:</p> <ul style="list-style-type: none"> • INPUT - 入力データ・セット。 • OUTPUT - 出力データ・セット。 • RDBACK - 逆方向に読み取る入力データ・セット。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
起動されるトランザクションのユーザー ID	USERID	TRANSID フィールドに指定されたトリガー・レベルのトランザクションを検査するときに、CICS がセキュリティー検査のために使用するユーザー ID (区画内キューのみ)。

表 352. TDQDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
UOW 再同期の待機	WAIT	<p>論理的にリカバリー可能なキューを変更した未確定の作業単位 (UOW) が、変更をコミットするか取り消すかを定めるために、コーディネーターとの再同期を待機する必要があるかどうかを指定します (区画内キューのみ)。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO - UOW は待機しません。リカバリー可能資源に加えられた変更は、TRANSACTION 資源定義の ACTION 属性によって指定されたとおり、バックアウトまたはコミットされます。 YES - UOW は待機して、待機中に必要なアクションは WAITACTION 属性によって判別されます。 N/A - 「待機」フィールドは、この定義に適用されません。
未確定 UOW 待機アクション	WAITACTION	<p>このキューの定義が WAIT(YES) を指定している場合に、CICS が未確定の作業単位 (UOW) に対して実行するアクション (区画内キューのみ)。可能なアクションは以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> QUEUE - UOW が未確定で待機中の場合、UOW がこのキューで保留にしたロックはすべて、UOW が最終状態にあることが確認されるまでアクティブな状態を続けます。つまり、タスクは LOCKED 応答を受け取るのではなく、中断状態になります。UOW の最終状態が判別されると、それによる変更はコミットされるかまたは取り消されます。そのときまで、アクティブなロックの 1 つを必要とする以下のタイプのそれ以降の要求は待機する必要があります。READQ (未確定 UOW が READQ または DELETEQ 要求を発行した場合)。WRITEQ - 未確定の UOW が WRITEQ または DELETEQ 要求を発行した場合。DELETEQ - 未確定の UOW が READQ, WRITEQ または DELETEQ 要求を発行した場合。 REJECT - UOW は未確定で待機中です。このキューに対して UOW が保持しているロックは、UOW の最終状態が判明するまで保持されます。最終状態が判別されると、UOW による変更はコミットされるかまたは取り消されます。そのときまで、保持されたロックの 1 つを必要とするそれ以降の要求は拒否されて、LOCKED 応答が戻されます。WAITACTION=REJECT は QUEUE がトランザクションを待機させるのと同じ状況で LOCKED を発生させます。 N/A - このフィールドはこの定義に適用されず、妥当性検査は行われません。

TYPETERM 定義 - TYPTMDEF

「入力条件定義」(TYPTMDEF) ビューは、端末のグループに対する共通属性のセットについての情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「入力条件定義」

表 353. 提供された 「入力条件定義」 (TYPTMDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
入力条件定義 EYUSTARTTYPTMDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の入力条件定義をリソース・グループに追加します。
入力条件定義 EYUSTARTTYPTMDEF.CREATE	入力条件定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
入力条件定義 EYUSTARTTYPTMDEF.DETAILED	選択した入力条件定義に関する詳細情報
入力条件定義 EYUSTARTTYPTMDEF.INSTALL	入力条件定義をアクティブなシステムにインストールします。

表 353. 提供された「入力条件定義」(TYPTMDEF) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
入力条件定義 EYUSTARTTYPTMDEF.REMOVE	データ・リポジトリから入力条件定義を除去します。
入力条件定義 EYUSTARTTYPTMDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての入力条件定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 354. TYPTMDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の入力条件定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	入力条件定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	入力条件定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから入力条件定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の入力条件定義を更新します。

フィールド

表 355. TYPTMDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
代替 BMS ページ・サイズ (列数)	ALTPAGECOL	画面サイズとして ALTSCREEN が選択されているときに、このタイプのデバイス用に BMS によって使用されるページ・サイズの列数。デフォルトは PAGESIZE です。行値と列値のどちらも、それぞれ 0 から 255 の範囲になければなりません。さらに、行値と列値の積が 32767 を超える場合、CICS はこの TYPTMDEF をインストールする試みをすべて拒否します。これらのフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。 ALTPAGE の列値が ALTSCREEN の列値と異なる場合、予期しない結果が生じます。
代替 BMS ページ・サイズ (行数)	ALTPAGEROW	画面サイズとして ALTSCREEN が選択されているときに、このタイプのデバイス用に BMS によって使用されるページ・サイズの行数。デフォルトは PAGESIZE です。行値と列値のどちらも、それぞれ 0 から 255 の範囲になければなりません。さらに、行値と列値の積が 32767 を超える場合、CICS はこの TYPTMDEF をインストールする試みをすべて拒否します。これらのフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。 ALTPAGE の行値は ALTSCREEN の行値よりも小さくすることができるので、例えば画面の一番下の行をエラー・メッセージ用に予約することができます。
代替画面サイズ (列数)	ALTSCREENCOL	関連するプロファイル定義 (PROFDEF) でデフォルト画面サイズが指定されているトランザクションに付加されるとき、このタイプの装置で使用する代替 3270 画面サイズの列数。行値と列値のどちらも、それぞれ 0 から 255 の範囲になければなりません。これらのフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。
代替画面サイズ (行数)	ALTSCREENROW	関連するプロファイル定義 (PROFDEF) でデフォルト画面サイズが指定されているトランザクションに付加されるとき、このタイプの装置で使用する代替 3270 画面サイズの行数。行値と列値のどちらも、それぞれ 0 から 255 の範囲になければなりません。これらのフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。

表 355. TYPTMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
マップ・セット名の接尾部	ALTSUFFIX	<p>BMS がマップ・セット名に付加する 1 文字の数値接尾部。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ブランク - 接尾部のあるマップ・セットが不要の場合、この属性をブランクのままにします。 • 数値 - 使用されている画面サイズの値が代替画面サイズと同じである場合、すなわち、トランザクションの代替画面サイズが PROFILE 定義に指定されている場合や、あるいは、デフォルトの画面サイズと代替画面サイズが同じである場合には、BMS はこの接尾部をマップ・セット名に付加します。
APL キーボード機能	APLKYBD	3270 装置に APL キーボード機能があるかどうかを指定します。
APL テキスト機能	APLTEXT	3270 装置に APL テキスト機能があるかどうかを指定します。
ASCII 機能	ASCII	<p>端末に ASCII 機能があるかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - この端末には ASCII 機構がありません。 • 7 - ASCII-7 端末と通信するには、この値を指定します。ASCII-7 機能で構成された装置は、拡張 3270 機能のない LUTYPE2 または LUTYPE3 でなければなりません。次の装置だけがサポートされます。3274 モデル 1C と 51C、3276 モデル 12、3278、3287。 <p>ASCII-7 オプションを指定して構成された端末では、CICS から送信されるすべての FM データは ASCII-7 に変換され、CICS に送信されるすべての FM データは EBCDIC に変換されます。FM 要求データだけが変換されます。LU 状況やセンス・データなど RU 内の他のすべてのデータは、出力時には EBCDIC であると想定されます。ASCII-7 は、構造化フィールドおよび機能管理ヘッダーなどの拡張属性を含むデータ・ストリームをサポートしません。ASCII-7 サポートは、標準マイクロコードの構成で、3274-1C でのオプションとして使用できます。ASCII-7 オプションの使用については、上述の TCT 定義の結果として CICS が設定する BIND パラメーターによって、セッション開始時に決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 8 - ASCII-8 端末と通信するには、この値を指定します。ASCII-8 機能で構成される装置には、LUTYPE1、LUTYPE2、または LUTYPE3 があり、拡張 3270 および SCS データ・ストリーム機能の有無は問いません。ASCII-8 オプションを指定して構成された端末では、CICS から送信されるすべての FM データは ASCII-8 に変換され、CICS に送信されるすべての FM データは EBCDIC に変換されます。すべての FM 要求データが変換されます。これには、AID、カーソル・アドレス、FM ヘッダー、および構造化フィールドが含まれます。LU 状況やセンス・データなどの RU のその他の形式のデータは、入力では EBCDIC と見なされ、出力では EBCDIC で送信されます。 <p>ASCII-8 サポートは、この CICS サポートで行われているように、EBCDIC で作動しながら、データ・ストリームを ASCII-8 との間で変換または再変換する装置のみを対象としています。これは、データ・ストリームが文字ストリングとして扱われ、2 進数フィールドが図形文字のようにバイトごとに変換されるためです。そのため、ASCII 形式では、正しい値を表さない場合があります。ASCII-8 サポートは、3274 上のマイクロコード RPQ として使用可能であり、ASCII-7 オプションとは相互に排他的です。ASCII-8 オプションの使用については、上述の TCT 定義の結果として CICS が設定する BIND パラメーターによって、セッション開始時に決まります。</p>
非同期伝送速度 (OS/2)	ASYNCBPS	ビット/秒で表した、OS/2 非同期回線速度。
3151 非同期ポート名 (OS/2)	ASYNCPRT3151	3151 非同期ポート (OS/2 のみ)。値は、COM1 から COM8 です。
自動トランザクション開始オプション	ATI	トランザクションが自動トランザクション開始によって端末で開始可能かどうかを指定します。
音響警報機能	AUDIBLEALARM	音響アラーム機能が 3651 制御装置に接続された 3270 表示装置または 3270 印刷装置にインストールされているかどうかを指定します。

表 355. TYPTMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
端末の自動接続オプション	AUTOCONNECT	<p>自動接続処理が端末に対して生じるかどうかを指定します。YES または ALL は、CICS の初期化時に、または VTAM との通信が CEMT SET VTAM OPEN コマンドを使用して開始されるときに、端末とのセッションが確立されることを指定します (つまり、BIND が実行されます)。VTAM LOGAPPL 機能を使用する場合、競合状態が生じてエラーが生じたり論理装置がハングすることがあるので、YES は指定しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - CICS は接続の確立時にセッションのバインドを試行しません。 • YES - 接続の確立時に、CICS はコンテンション勝者セッションとしてバインドを試行します。 • ALL - 適用不可。
BMS 自動ページング・オプション	AUTOPAGE	BMS 自動ページングを使用するかどうかを指定します。プリンターには YES、ディスプレイ 装置には NO を指定してください。
バックグラウンド透過性オプション	BACKTRANS	装置に背景透過性機能があるかどうかを指定します。
ブラケット・プロトコル強制	BRACKET	ブラケット・プロトコルをこの論理装置に強制適用するかどうかを指定します。
CICS チェーン・アセンブリー実行	BUILDCHAIN	<p>CICS が入力データをアプリケーション・プログラムに渡す前にチェーン・アセンブリーを実行するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - この論理装置からアプリケーション・プログラムが受信した端末入出力域(TIOA)には、1 つの要求単位(RU)が含まれています。 • YES - アプリケーション・プログラムがこの論理装置から受け取る TIOA には、完全なチェーンが含まれます。
グラフィック文字セット・グローバル・コード	CGCSGIDCODE	グラフィック文字セット・グローバル・コード。
グラフィック文字セット・グローバル ID	CGCSGIDGBLID	<p>コード化図形文字セット・グローバル ID (CGCSGID) により、アプリケーション・プログラムは装置でサポートされる文字セットを判別できます。この情報は、いくつかの装置の QUERY 構造化フィールドから取得できます。その他の装置では、この情報をここで提供して、アプリケーション・プログラムが EXEC CICS ASSIGN コマンドを使用してそれを取り出せるようにする必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0,0 - CGCSGID は指定されません。 • gcsid,cpgid - CGCSGID は 2 つの 5 桁の 10 進数で構成されます。それらの値の範囲は、1 から 65535 です。gcsid は図形文字セット・グローバル ID (GCSGID) で、cpgid はセットのコード・ポイントの仕様であるコード・ページ・グローバル ID (CPGID) です。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	<p>最後に変更を行った変更エージェントの ID。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 • CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
コード・ページ値	CODEPAGE	端末のコード・ページ ID。
拡張カラー機能	COLOR	3270 装置または SCS プリンターに、フィールドまたは文字ごとの色の選択を可能にする拡張カラー機能があるかどうかを指定します。
コピー機能	COPY	3270 表示装置または印刷装置が 3270 制御装置に含まれるかどうかを指定します。

表 355. TYPTMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
セッションを構築	CREATESESS	セッションを作成するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • NO - 内部で生成されたセッション要求が、実際にセッションを作成することを防ぐにはこれを指定します。 • YES - 内部的に生成されたセッション要求でセッションを作成できるようにする状況では、この値を指定します。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
デフォルト画面サイズ (列数)	DEFSCREENCOL	関連するプロファイル定義 (PROFDEF) でデフォルト画面サイズが指定されているトランザクションに付加されるとき、このタイプの装置で使われる 3270 画面サイズ (または 3270 印刷装置のページ・サイズ) の列数。行値と列値のどちらも、それぞれ 0 から 255 の範囲になければなりません。これらのフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。
デフォルト画面サイズ (行数)	DEFSCREENROW	関連するプロファイル定義 (PROFDEF) でデフォルト画面サイズが指定されているトランザクションに付加されるとき、このタイプの装置で使われる 3270 画面サイズ (または 3270 印刷装置のページ・サイズ) の行数。行値と列値のどちらも、それぞれ 0 から 255 の範囲になければなりません。これらのフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	入力条件定義の説明。
デバイス・タイプ	DEVICE	この TYPETERM が定義する装置タイプ。
切断要求を尊重	DISCREQ	VTAM 装置の切断要求を受け入れるかどうかを指定します。
上下両段キーボード・サポート	DUALCASEKYBD	3270 表示装置にタイプライター型キーボードまたはオペレーター・コンソール・キーボードのどちらがあるかを指定します。これらのキーボードのどちらでも、大文字データと小文字データの両方を伝送できます。
エラー・メッセージの色	ERRCOLOR	エラー・メッセージをカラーで表示するかどうかを指定します。指定できる色は、青、赤、ピンク、緑、青緑、黄、および中立です。
エラー・メッセージを強調表示	ERRHILIGHT	エラー・メッセージを表示するための強調表示 (存在する場合) を指定します。指定できる強調表示の形成は、明滅、反転、または下線です。
エラー・メッセージ表示を高輝度に	ERRINTENSIFY	エラー・メッセージを高輝度フィールドで表示するかどうかを指定します。
最終行にエラー・メッセージを表示	ERRLASTLINE	エラー・メッセージを表示する場所を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • NO - エラー・メッセージは現行カーソル位置に追加属性なしで表示されます。 • YES - エラー・メッセージは、メッセージ全体が画面内に収まるようにした場合の最も下部に近い行の先頭から表示されます。 すべてのエラー・メッセージが同じ行に表示されるため、メッセージが立て続けに受信されると相互にかぶさり、前のメッセージが読む前に消えてしまうこともあります。
拡張 3270 データ・ストリーム	EXTENDEDDS	3270 装置または SCS プリンターが、3270 データ・ストリームへの拡張をサポートするかどうかを指定します。
機能管理ヘッダー (FMH) にユーザー提供のデータを受け入れる	FMHPARM	BMS によって作成された機能管理ヘッダーに含めるためのユーザー提供のパラメーターを、BMS が受け入れるかどうかを指定します。DEVICE タイプが 3650 の場合にのみ、YES を指定します。
用紙送り機能	FORMFEED	装置に用紙送り機能があるかどうか、つまり BMS が出力文書をフォーマットする際に書式送り文字を使用するかどうかを指定します。

表 355. TYPTMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
フルスクリーン・オプション (OS/2)	FULLSCREEN	装置にフルスクリーン機能があるかどうかを指定します (OS/2 のみ)。
拡張強調表示機能	HILIGHT	3270 装置または SCS プリンターに、フィールドまたは文字を反転表示、下線モード、または明滅 (3270 のみ) で表示するための拡張強調表示機能があるかどうかを指定します。
BMS で水平タブを使用	HORIZFORM	装置に水平フォーム機能があるかどうか、つまり BMS が出力文書をフォーマットする際に水平タブを使用する必要があるかどうかを指定します。
I/O バッファの長さ	IOAREALEN	<p>トランザクションに渡す端末入出力域のバイト数による長さ。</p> <p>IOAREALENALT は IOAREALEN より大きいか等しい値に指定できます。この場合、入力メッセージのサイズが IOAREALEN を超過すると、CICS は端末入出力域に IOAREALENALT のサイズを使用します。入力メッセージのサイズが IOAREALENALT も超える場合、ノード異常条件 プログラムが端末に例外応答を送信します。IOAREALENALT が指定されていない場合、または IOAREALEN よりも短い場合、デフォルト値は IOAREALEN の値になります。</p> <p>指定可能な最大値は 32767 バイトです。</p>
代替 I/O バッファの長さ	IOAREALENALT	<p>トランザクションに渡す代替の端末入出力域のバイト数による長さ。</p> <p>IOAREALENALT は IOAREALEN より大きいか等しい値に指定できます。この場合、入力メッセージのサイズが IOAREALEN を超過すると、CICS は端末入出力域に IOAREALENALT のサイズを使用します。入力メッセージのサイズが IOAREALENALT も超える場合、ノード異常条件 プログラムが端末に例外応答を送信します。IOAREALENALT が指定されていない場合、または IOAREALEN よりも短い場合、デフォルト値は IOAREALEN の値になります。</p> <p>指定可能な最大値は 32767 バイトです。</p>
カタカナ機能	KATAKANA	英数カナ文字モードのサポートが必要かどうかを指定します。英数カナ文字モード端末は、大/小文字混合の出力を表示できません。大文字は英語の大文字として表示されますが、小文字はカタカナ文字として表示されます。
論理装置コード・リストの名前	LDCLIST	論理装置コード (LDC) リストの名前。名前の長さは、8 文字までとすることができます。名前はアセンブラ言語の規則に従います。先頭文字は英字でなければなりません。
選択ペン機能	LIGHTPEN	3270 表示装置に選択ペン機能があるかどうかを指定します。
ログモード名	LOGMODE	<p>論理装置に送信される BIND を CICS がビルドする方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブランク - 定義済み端末定義では、この TYPETERM 定義および関連した端末定義を使用してこの装置用に CICS 定義により生成された BIND イメージを使用します。 ・ 名前 - この論理装置で使用するためにセットアップされた、VTAM ログオン・モード・テーブルから取得した LOGMODE 名です。名前の長さは、8 文字までとすることができます。 ・ 0 (ゼロ) - この値を指定すると、CICS は、論理装置から送られる CINIT に含まれる BIND イメージから情報の一部を使用します。
Good Morning トランザクション自動開始	LOGONMSG	<p>GMTRAN システム 初期設定パラメーターで指定された「good morning」トランザクションが以下になるかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論理装置が VTAM 経由で CICS に最初にログオンしたときに自動的に開始される。 ・ 一定の条件のもと、端末ユーザーの TIMEOUT 期間の期限が切れた後に開始される。 <p>ERRLASTLINE に YES を指定すると、トランザクションによって書き込まれるメッセージはエラー・メッセージ行を上書きしません。</p>
磁気スロット読取装置サポート	MSRCONTROL	端末 8775 または 3643 に磁気スロット読取装置があるかどうかを指定します。
名前	NAME	入力条件定義の名前。

表 355. TYPTMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ノード・エラー・プログラム・トランザクション・クラス	NEPCCLASS	ノード・エラー・プログラム・トランザクション・クラス: <ul style="list-style-type: none"> • 0 - これを指定すると、デフォルトのノード・エラー・プログラム・モジュールへのリンクになります。 • 値 - (非デフォルトの) ノード・エラー・プログラム・モジュールのトランザクション・クラス。範囲は 1 から 255 までです。
外部フォーマット機能を使用	OBFORMAT	外部様式設定機能が使用されるかどうかを指定します。これは、次の 2 つの装置タイプに対してのみ指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 3650 SESSIONTYPE(3270) • 表示サービスに DPPX/DPS バージョン 2 の DPPX オペレーティング・システムを使用する 8100 情報システム用 LUTYPE2。
外部オペレーター ID の BMS ルーティング	OBOPERID	CICS が外部オペレーター ID を使用してこの端末に必要な BMS ルーティング機能をサポートするかどうかを指定します。このオプションは、3790 および 3770 パッチ・データ交換論理装置にのみ適用されます。
デバイスでフィールド外形線をサポート	OUTLINE	装置がフィールド外形線をサポートするかどうかを指定します。
ページ・サイズ (列数)	PAGESIZECOL	関連するプロファイル定義 (PROFDEF) でデフォルト画面サイズが指定されているトランザクションに付加されるとき、このタイプの印刷装置用のデフォルトのページ・サイズの列数。行値と列値のどちらも、それぞれ 0 から 255 の範囲になければなりません。さらに、行値と列値の積が 32767 を超える場合、CICS はこの TYPTMDEF をインストールする試みをすべて拒否します。これらのフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。
ページ・サイズ (行数)	PAGESIZEROW	デフォルト画面サイズが関連するプロファイル定義 (PROFDEF) で指定されているトランザクションに付加されるとき、このタイプの印刷装置用のデフォルトのページ・サイズの行数。行値と列値のどちらも、それぞれ 0 から 255 の範囲になければなりません。さらに、行値と列値の積が 32767 を超える場合、CICS はこの TYPTMDEF をインストールする試みをすべて拒否します。これらのフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれらを使用します。
デバイスで区画を使用	PARTITIONS	装置が区画化を使用するかどうかを指定します。このオプションは、SCS プリンターでは無効です。
プリンター・アダプター機能	PRINTADAPTER	<ul style="list-style-type: none"> • 3275 では、プリンター・アダプター機能および対応する 3284 プリンター・モデル 3 が 3275 ディスプレイ 装置にあるかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - NO - プリンター・アダプター機能および対応する 3284 プリンター・モデル 3 は使用できません。 - YES - プリンター・アダプター機能および対応する 3284 プリンター・モデル 3 は使用できます。 • LUTYPE2 論理装置の場合: PRINT キーまたは ISSUE PRINT コマンドによって開始された印刷要求に対するプリンターの割り振りが、VTAM および非 VTAM 接続の両方のプリンター許可マトリックスに従って、3790 によって、あるいは、3274 または 3276 によって処理されるかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - NO - 印刷要求は、VTAM および非 VTAM 接続の両方のプリンター許可マトリックスに応じて処理されません。 - YES - 印刷要求は、VTAM および非 VTAM 接続の両方のプリンター許可マトリックスに応じて処理されます。
プログラム式記号使用可能	PROGSYMBOLS	プログラム式シンボル (PS) 機能をこの 3270 装置または SCS プリンターで使えるかどうかを指定します。

表 355. TYPTMDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
照会構造化フィールドを使用する	QUERY	<p>CICS が QUERY 構造化フィールドを使用して装置の特性を判別する必要があるかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NO - CICS は QUERY 機能を使用しません。 • COLD - 装置が CICS の初期またはコールド・スタートの後に初めて接続されたときのみ、CICS は QUERY 機能を使用して装置の特性を判別します。装置特性は、後続のウォームおよび緊急開始で使用するために、CICS グローバル・カタログに保管されます。 • ALL - 装置が接続されるたびに、CICS は QUERY 機能を使用して装置の特性を判別します。
要求単位の最大サイズ	RECEIVESIZE	<p>VTAM RECEIVE 要求を満たすことのできる要求単位の最大サイズ。RECEIVESIZE 値は、接続された論理装置に伝送され、その範囲は 0 から 30720 でなければなりません。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。</p>
XRF リカバリー通知オプション	RECOVNOTIFY	<p>このオプションは、VTAM 持続セッションまたは XRF のどちらかで実行されている CICS 領域での、端末のセッションのリカバリーに適用されます。CICS 再始動後の再サインオン のように、端末ユーザーが操作を行う必要がある場合に使用されます。そのようなユーザーへの通知方法を指定するには、RECOVNOTIFY を使用します。</p> <p>VTAM 持続セッション: 持続セッション・サポートで実行している CICS 領域で、これは端末エンド・ユーザーが端末セッションの回復についての通知を受ける方法を指定します。</p> <p>XRF: XRF サポートで実行している CICS 領域で、これは端末ユーザーが XRF テークオーバーの発生についての通知を受ける方法を指定します。このオプションは、APPC セッションには適用されません。</p> <p>有効なオプションは、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • NONE - テークオーバーが発生したことを示す通知はありません。 • MESSAGE - システムが回復したことを示すメッセージが画面に表示されます。このメッセージは 2 つの BMS マップに指定されます。XRF の場合は DFHXRC1 と DFHXRC2、VTAM 持続セッションの場合は DFHXRC3 と DFHXRC4 です。これらのマップはマップ・セット DFHXMSG にあります。テークオーバー時間の削減が重要な場合、TRANSACTION ではなく MESSAGE を使用してください。端末には ATI(YES)オプションが定義され、BMS マップの表示が可能である必要があります。 • TRANSACTION - トランザクションが端末で開始されます。トランザクションの名前は、RMTRAN システム初期設定パラメーターで指定します。(RMTRAN のデフォルト・トランザクションは、GMTRAN システム初期化パラメーターで指定された good-morning トランザクションです。) TRANSACTION オプションでは、端末は ATI(YES) オプションを指定して定義する必要があります。テークオーバー時間の削減が重要な場合、TRANSACTION ではなく MESSAGE を使用してください。

表 355. TYPTMDEF ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
セッション・リカバリー処理オプション	RECOVPTION	<p>これは、VTAM 持続セッションまたは XRF で実行されている CICS 領域での、セッションのリカバリーに適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> これは、SYSDEFAULT - 持続セッション・サポートで実行している CICS 領域では、システム再始動の際に持続セッション遅延インターバル内にセッションをリカバリーするための最適な手順を、CICS がセッション・アクティビティや端末の特性に応じて選択することを指定します。XRF サポートと共に実行している CICS 領域で、これはテークオーバーの際に使用中のセッションを回復するための最適な手順を、セッション・アクティビティおよび端末の特性に応じて、CICS が選択することを指定します。 CLEARCONV - CICS がブラケット内セッションを終了するための終了ブラケット標識を送信しないようにします。代わりに、CICS は CLEAR 要求を送信して会話状態をリセットします。セッションで CLEAR 要求がサポートされない場合、CICS は UNBIND 要求を送信します。CLEAR または UNBIND が送信されるのは、システム再始動 (持続セッションの場合) またはテークオーバー (XRF の場合) の際にセッションが使用中だったときだけです。 RELEASESESS - アクティブ・セッションを解放するための UNBIND 要求を送信するように CICS に要求します。UNBIND が送信されるのは、システム再始動 (持続セッションの場合) またはテークオーバー (XRF の場合) の際にセッションが使用中だったときだけです。 UNCONDREL - アクティブ・セッションを解放するための UNBIND 要求を送信するように CICS に要求します。システム再始動 (持続セッション・サポートの場合) またはテークオーバー (XRF の場合) の際にセッションが使用中であってもなくても、UNBIND が送信されます。 NONE - VTAM 持続セッション; 持続セッション・サポートで実行している CICS 領域で、システム再始動の際に端末セッションが、持続セッション遅延インターバル内にリカバリーしないことを指定します。事実上、端末には持続セッション・サポートがありません。
解放要求を尊重	RELREQ	<p>CICS が他の VTAM アプリケーション・プログラムによる要求に応じて論理装置を解放するようにするかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> NO - CICS は論理装置を解放しません。 YES - 論理装置が現在トランザクションの一部を成していない場合には、CICS は論理装置を解放します。
端末に経路指定されるメッセージのサポート	ROUTEDMSG	<p>EXEC CICS ROUTE コマンドによってどのメッセージがこの端末に経路指定されるのかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ALL - BMS はすべての端末に宛てられたメッセージおよびこの端末に特に宛てられたメッセージを、この端末に経路指定します。 NONE - BMS は、すべての端末に宛てられたメッセージもこの端末に特に宛てられたメッセージも、この端末にメッセージを経路指定しません。 SPECIFIC - BMS は、この端末に特に宛てられたメッセージをこの端末に経路指定しますが、すべての端末に宛てられたメッセージは経路指定しません。
サインオン特性	RSTSIGNOFF	<p>持続セッションの再始動または XRF テークオーバーが生じた場合の、端末のグループのサインオン特性。これは、廃止された XRFSGNOFF 属性を置き換えるものです。例えば、セキュリティが重要な領域に端末のグループがある場合、持続セッションの再始動または XRF テークオーバーの後に、それらの端末を強制的にサインオフするように選択して、許可ユーザーが不在の場合に端末が使用されないようにします。(こうしたことは、再始動またはテークオーバーの間に許可ユーザーが端末を離れて、端末に人がいないときに再びアクティブになった場合に生じる可能性があります。) このオプションは、RSTSIGNOFF システム初期化パラメーターおよび RACF ユーザー・プロファイルにある CICS セグメントの XRFSGOFF 項目との併用で機能します。</p>
最大送信サイズ	SENDSIZE	<p>VTAM SEND 要求を満たすことのできる要求単位の最大サイズ (バイト単位) で、範囲は 0 から 30720 です。このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォルト値があればそれを使用します。</p>

表 355. TYPTMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
セッションのタイプ	SESSIONTYPE	VTAM SNA 論理装置で使用可能なセッションのタイプ。
定義がリモート・システムにシ ップされる	SHIPPABLE	この装置がリモート・トランザクションの開始を試行する場合に、定義を リモート・システムに送信できるかどうかを指定します。
自動タイムアウト	SIGNOFF	端末が自動的にタイムアウトになるかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • YES - オペレーターが最後に入力した後、指定された時間が経過すると、 端末は自動的に CICS からサインオフされます。 • NO - 端末はタイムアウトになりません。 • LOGOFF - オペレーターからの最後の入力の後に指定の時間が経過する と、端末は CICS から自動的にサインオフされ、VTAM からログオフさ れます。
混合 EBCDIC/DBCS サポート	SOSI	装置が混合 EBCDIC および 2 バイト文字セット (DBCS) フィールドをサポ ートするかどうかを指定します。
端末形式番号	TERMMODEL	端末の型式番号。装置が 3270 情報表示システムのコンポーネントであ る場合、端末の型式番号を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 1 - デフォルトの画面またはバッファー・サイズが 12x40 (480 バイト/ 文字) の 3270 モデル 1 表示装置および印刷装置 (例えば、3277 モデル 1 など) では、1 を指定します。TERMMODEL(1) は 3270 モデル 1 印刷 装置および表示装置のデフォルトです。3275 ディスプレイ 装置モデル 11 では、1 を指定します。利用できる CICS サポートは、3275 DISPLAY STATION MODEL 1 で TERMMODEL(1)をコーディングして利 用できるサポートと同一です。 • 2 - デフォルトの画面またはバッファー・サイズが 24x80 (1920 バイ ット/文字) の 3270 表示装置および印刷装置 (3278 モデル 4 など) では、 2 を指定します。TERMMODEL(2) は、3270 互換モードでの 3286 印刷 装置のデフォルトです。3275 DISPLAY STATION MODEL 12 の場合、 2 を指定します。利用できる CICS サポートは、3275 DISPLAY STATION MODEL 2 で TERMMODEL(2)をコーディングして利用できる サポートと同一です。 このフィールドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境 のデフォルト値があればそれを使用します。
テキスト・キーボード機能	TEXTKYBD	3270 装置にテキスト・キーボード機能があるかどうかを指定します。
テキスト印刷機能	TEXTPRINT	3288 印刷装置にテキスト印刷機能があるかどうかを指定します。
ユーザーによって開始された トランザクション	TTI	端末でユーザーがトランザクションを開始できるかどうかを指定します。
入力を大文字に変換	UCTRAN	端末からの入力データ・ストリームを大文字に変換するかどうかを指定し ます。 <ul style="list-style-type: none"> • NO - 大文字変換は実行されません。 • YES - 端末からのすべてのデータ入力は、トランザクション ID (存在す る場合) とプログラム・データのどちらも、処理される前に大文字に変 換されます。 • TRANID - 入力データ・ストリームにトランザクション ID が含まれる場 合、CICS はその定義の検索をする前に、それを大文字に変換します。 ただし、すべての入力データは、トランザクション ID およびプログ ラム・データのどちらも、変換されないでプログラムに渡されます。
ユーザー域の長さ	USERAREALEN	この端末のユーザー域のバイト数 (0 から 255) による長さ。このフィー ルドをブランクのままにした場合、CICSplex SM は CICS 環境のデフォ ルト値があればそれを使用します。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、 8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソ ース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、 8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソ ース定義では無視されます。

表 355. TYPTMDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
デバイスで拡張妥当性検査をサポート	VALIDATION	8775 または 3290 装置に拡張妥当性検査機能があるかどうかを指定します。
BMS で垂直タブを使用	VERTICALFORM	装置に垂直フォーム機能があるかどうかを指定します。
ワークステーションのセットアップ (OS/2)	WRKSTATIONSU	この属性は廃止されています。
RSTSIGNOFF で置き換えられた。XRFSIGNOFF は互換モードで使用可能	XRFSIGNOFF	この属性は廃止されましたが、以前のリリースの CICS との互換性を保つためにサポートされています。

URI マッピング定義 - URIMPDEF

「**URI マップ定義**」(URIMPDEF) ビューには、HTTP または Web サービス要求の URI に関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー (Administration views)**」 > 「**CICS リソース定義 (CICS resource definitions)**」 > 「**URI マッピング定義 (URI mapping definitions)**」

表 356. 提供された「 URI マップ定義 」(URIMPDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
URI マップ定義 EYUSTARTURIMPDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の URI マップ定義をリソース・グループに追加します。
URI マップ定義 EYUSTARTURIMPDEF.CREATE	URI マップ定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
URI マップ定義 EYUSTARTURIMPDEF.DETAILED	選択した URI マッピング定義に関する詳細情報
URI マップ定義 EYUSTARTURIMPDEF.INSTALL	URI マップ定義をアクティブなシステムにインストールします。
URI マップ定義 EYUSTARTURIMPDEF.REMOVE	データ・リポジトリから URI マップ定義を除去します。
URI マップ定義 EYUSTARTURIMPDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての URI マッピング定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 357. URIMPDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTGRP	1 つ以上の URI マップ定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	URI マップ定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。

表 357. URIMPDEF ビューで使用可能なアクション (続き)	
アクション	説明
INSTALL	URI マップ定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから URI マップ定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリにある URI マップ定義を更新します。

フィールド

表 358. URIMPDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
HTTP 要求の処理にアナライザー・プログラムを使用	ANALYZER	URIMAP 定義のアナライザー・プログラムの設定。可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Analyzer - HTTP 要求の処理時に TCPIPService 定義に関連したアナライザーが使用されます。 Noanalyzer - アナライザー・プログラムを使用しません。
要求を処理する AtomService	ATOMSERVICE	これは USAGE(ATOM) 用の属性です。クライアントがこの URIMAP 定義で指定された URI を使用して CICS に対し Atom フィールドの要求を出すと、ATOMSERVICE が Atom フィールド用の ATOMSERVICE 資源定義の名前(1 から 8 文字)を指定します。ATOMSERVICE 資源定義は Atom サービス、フィールド、コレクション、またはカテゴリー文書を定義し、フィールドのためのデータを提供するのに使用される Atom 構成ファイル、CICS 資源 またはアプリケーション・プログラム、および Atom の バインディング・ファイルを識別します。
認証レベル	AUTHENTICATE	URIMAPS で使用される認証および識別方式。 <ul style="list-style-type: none"> NO - クライアントは認証または識別情報を送信する必要はありません。ただし、クライアントが、セキュリティー・マネージャーに既に登録済みの、ユーザー ID に関連した有効な証明書を送信した場合、そのユーザー ID はクライアントを識別します。 BASIC - HTTP 基本認証を使用してクライアントからユーザー ID およびパスワードを入手します。無効なユーザー ID とパスワードが指定されると、有効な情報が提供されるかエンド・ユーザーが接続を取り消すまでプロセスが繰り返されます。エンド・ユーザーが正常に認証されると、指定されたユーザー ID によってクライアントが識別されます。BASIC には USAGE(CLIENT) が必要です。
アウトバウンド HTTPS 要求用の SSL クライアント証明書	CERTIFICATE	USAGE(CLIENT) の場合、アウトバウンド IIOP 接続で SSL ハンドシェイク内のクライアント証明書として使用される、鍵リング内の証明書のラベル。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラムマプ・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。 CSDBATC - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。 DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
HTTP 要求に対する CICS 応答の文字セット	CHARACTERSET	USAGE(SERVER) の場合、静的応答の文字セット名。最大 40 文字です。

表 358. URIMPDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
アウトバウンド SSL に使用する暗号スイート	CIPHERS	2 桁の暗号スイート・コードを最大 28 個含むリストとして解釈される、最大 56 桁の 16 進数字のストリングを指定します。リソースを定義すると、CICS は、デフォルトの許容コード・リストに従ってその属性を自動的に初期化します。暗号コードを再配列したり、初期リストから削除したりできます。ただし、指定した暗号化レベルのデフォルト・リストに含まれていない暗号コードを追加することはできません。値をコードのデフォルト・リストにリセットするには、暗号化スイート・コードをすべて削除してください。フィールドにデフォルト・リストが自動的に再設定されます。CICS Transaction Server 5.1 以降、このフィールドでは、暗号リストが含まれる zFS にある XML ファイルの名前を代わりに指定できます。XML ファイル名は最大 28 文字で指定できます。
要求内容进行处理するコンバーター・プログラム	CONVERTER	USAGE(SERVER) の場合、HTTP 要求を PROGRAM で指定したアプリケーション・プログラムに適する形式に変換するために使用されるコンバーター・プログラムの名前。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	URI マップ定義の説明。
静的応答を形成する修飾 zFS ファイル	HFSFILE	<p>USAGE(SERVER) の場合、内容が HTTP 応答として返される、z/OS UNIX システム・サービスの zSeries ファイル・システム (zFS) 内にあるファイルの完全修飾名または相対名。</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン・リソース定義で定義される URIMAP リソースの静的応答ファイルについて、そのファイル・パスは、完全修飾 (接頭部がスラッシュ (/) の場合) になるか、CICS 領域のユーザー ID のホーム・ディレクトリーに対して相対になるかのいずれかです。 CICS バンドルで定義されている URIMAP リソースのための静的応答ファイルの場合、ファイル・パスは CICS バンドルのルート・ディレクトリーに対する相対パスとなります。zFS ファイルは、URIMAP リソースと共に CICS バンドルにパッケージされている必要があります。ファイル・タイプを、またファイルがどのコード・ページでエンコードされているかを CICS に通知するには、MEDIATYPE および HOSTCODEPAGE 属性を指定する必要があります。ファイルが CICS バンドルで定義されており、CICS Explorer によって zFS にエクスポートされた場合、ファイルのエンコードのコード・ページは、CICS Explorer が使用しているコード・ページと同じになります。
マップが適用される URI のホスト・コンポーネント	HOST	<p>マップが適用される URI の最大 116 文字のホスト名 (例えば、www.example.com)、ドット 10 進 IPv4 アドレス (例えば、9.20.181.3)、またはコロンの区切りの 16 進数 IPv6 アドレス (例えば、ABCD:EF01::2345:6789)。IPv4 互換 IPv6 アドレス (非推奨) または IPv4 にマップされる IPv6 アドレス (例えば ::FFFF:1.2.3.4) として IPv4 アドレスが入力される場合、標準の IPv4 小数点付き 10 進数アドレスに変換されます。</p> <p>ホスト名は大/小文字で入力できますが、1 文字のホスト名を IP アドレスの代わりに指定した場合、そのホスト名は小文字に変換されます。IPv6 アドレスを指定した場合は、大文字に変換されます。</p> <p>定義を CICS Transaction Server for z/OS バージョン 3 リリース 2 以前のリリースで使用する場合は、IPv6 アドレス・フォーマットを指定しないでください。USAGE(CLIENT) の場合は、SCHEME の標準以外のポート番号を、名前またはアドレスの後にコロン (:) とポート番号を付けて (例えば、www.example.com:1234) 指定することができます。それ以外の場合は、PORT フィールドが非標準ポート番号を指定するための優先方式となりました。</p> <p>USAGE(CLIENT) 以外の USAGE の場合は、ポート番号を指定しないでください。URIMAP 定義を任意のホスト名と突き合わせる場合は、アスタリスク (*) を使用することができます。</p>

表 358. URIMPDF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
静的応答をエンコードするコード・ページ	HOSTCODEPAGE	USAGE(SERVER) の場合、静的応答を形成するテキスト文書がエンコードされている IBM コード・ページ (EBCDIC)。最大 10 文字です。
インバウンド HTTP 要求のリダイレクト先 URI	LOCATION	USAGE(SERVER) または USAGE(Pipeline) の場合、リダイレクトが指定されている場合に Web クライアントのリダイレクト先となる代替 URL。REDIRECTYPE は、リダイレクトのタイプを定義するために使用されます。
HTTP 要求に対する CICS 応答のメディア・タイプ	MEDIATYPE	CICS が HTTP 要求に対して提供する静的応答のメディア・タイプ (データ内容) を指定します。これは、USAGE(SERVER) の場合で、静的応答が提供され、最高 56 文字まで使用できます。データ内容について正式に認識されるそれぞれのタイプの名前は、IANA によって定義されています。
名前	NAME	URI マップ定義の名前。
マップが適用される URI のパス・コンポーネント	PATH	URL のパス・コンポーネント。これは最大 255 文字にできます。
要求を処理するパイプライン	PIPELINE	USAGE(Pipeline) の場合、着信 HTTP 要求を処理する、Web サービス用 Pipeline リソース定義の名前。
ポート番号	PORT	<p>USAGE(CLIENT) または USAGE(JVMSEVER) の場合、リモート CICS システムが着信クライアント要求用に listen しているポートの 10 進数 (1 から 65535 の範囲)。予約済みポートは、1 から 1023 のポートです。予約済みポート番号は、通常割り当てられるサービスだけに使用することをお勧めします。「NO」に設定した状態で、SCHEME のデフォルトのポート番号を使用する場合は、PORT を指定する必要はありません。</p> <p>ポート番号が HOST フィールドでオプション指定されている場合は、PORT フィールドに同じポート番号を入力するか、デフォルトを「NO」に設定または設定可能にする必要があります。この場合、URIMAP のインストール時に、HOST フィールドに指定したポート番号が使用されます。</p> <p>USAGE(CLIENT) または USAGE(JVMSEVER) 以外の USAGE の場合、PORT を指定する必要はありません。この値は常に「NO」に設定されます。</p>
要求を処理するアプリケーション・プログラム	PROGRAM	USAGE(SERVER) の場合、着信 HTTP 要求を処理するアプリケーション・プログラムの名前。
リダイレクトのタイプ	REDIRECTYPE	<p>この URIMAP 定義と一致する要求のリダイレクトのタイプ。ロケーション・オプションで指定されたリダイレクトの URL。可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • None - 要求はリダイレクトされません。ロケーション・オプションで指定された URL はすべて無視されます。 • Temporary - 要求は一時的にリダイレクトされます。応答に使用される状況コードは 302 (Found) です。 • Permanent - 要求は永久にリダイレクトされます。応答に使用される状況コードは 301 (Moved Permanently) です。
マップが適用される URI のスキーム・コンポーネント	SCHEME	<p>URL のスキーム・コンポーネント。可能な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HTTP - Secure Sockets Layer (SSL) を使用しない HTTP。 • HTTPS - Secure Sockets Layer (SSL) を使用する HTTP。
プールに入っているソケットのタイムアウト (HHMMSS)	SOCKETCLOSE	<p>これは USAGE (CLIENT) 用の属性です。SOCKETCLOSE では、CICS アプリケーションがクライアント HTTP 接続の使用を終えた後に、CICS がその接続を開いたままにするかどうか、およびその場合の待機時間の長さを指定します。使用後、CICS により接続の状態が確認され、その接続は休止状態でプールに配置されます。休止状態の接続は、同じアプリケーション、または同じホストおよびポートに接続する別のアプリケーションが再使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 から 240000 まで - CICS がソケットを閉じるまでの期間 (HHMMSS 形式)。000000 を指定すると、ソケットが直ちに閉じ、プールに入らなくなります。

表 358. URIMPDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
使用可能状況	STATUS	URIMAP 定義の状況。可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Enabled - URIMAP 定義にアクセスできます。 • Disabled - URIMAP 定義にアクセスできません。この状況の URIMAP 定義は削除できます。 • Hdisabled - URIMAP 定義を含む仮想ホストが使用不可になっているため、URIMAP 定義にアクセスできません。CEMT SET HOST を使用して、仮想ホストですべての URIMAP 定義を再度有効にします。URIMAP 定義がこの状況である場合は、削除できません。
この URI マップに関連するインバウンド TCP/IP サービス	TCPIPSERVICE	USAGE(SERVER) または USAGE(PIPELINE) の場合、この URIMAP 定義が適用される TCPIPSERVICE。この TCPIPSERVICE で受信された要求にのみ、この URIMAP 定義が適用されます。TCPIPSERVICE が指定されていない場合、URIMAP 定義はすべての 着信 HTTP 要求に適用されます。
静的応答を形成する文書テンプレート	TEMPLATENAME	USAGE(SERVER) の場合、内容が HTTP 応答として返される CICS 文書テンプレートの名前。
応答用アプリケーションを実行するための別名トランザクション	TRANSACTION	USAGE(SERVER)、USAGE(JVMSEVER)、または USAGE(PIPELINE) の場合の、着信 HTTP 要求を処理する別名トランザクション名。
URI マップ使用法	USAGE	URIMAP 定義の使用法。可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Server - URIMAP 定義は HTTP サーバーとしての CICS 用です。これは、Web クライアントからの着信 HTTP 要求の URL を、CICS アプリケーション・リソースにマップするのに使用されます。 • Client - URIMAP 定義は HTTP クライアントとしての CICS 用です。これは、CICS がリモート・サーバーで HTTP リソースを要求する場合に使用されます。これにより、ご使用のアプリケーション・プログラムで URL を指定しないようにすることができます。 • Pipeline - URIMAP 定義は Web サービス用です。これは、クライアントが CICS 内の Web サービスを呼び出す要求で実行される処理を指定するのに使用されます。 • Atom - URIMAP 定義は Atom サービス用です。これは、クライアントが CICS 内の Atom サービスを呼び出す要求で実行される処理を指定するのに使用されます。 • JVMSEVER - URIMAP 定義は JVM サーバー用です。これは、クライアントが CICS 内の Java サービスを呼び出す要求で実行される処理を指定するのに使用されます。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
別名トランザクションに割り当てるユーザー ID	USERID	USAGE(SERVER)、USAGE(JVMSEVER)、または USAGE(PIPELINE) の場合の、別名トランザクションが接続される際の 8 文字のユーザー ID。
要求を処理する Web サービス	WEBSERVICE	USAGE(PIPELINE) の場合、着信 HTTP 要求を処理する、Web サービス用 WEBSERVICE リソース定義の名前。

Web サービス定義 - WEBSVDEF

「**WEB サービス定義**」(WEBSVDEF) ビューには、Web サービス設定にデプロイされている CICS アプリケーション・プログラムの実行時環境の各種局面に関する情報が表示されます。そこでは、CICS WEB サービス・アシスタントを使用して、アプリケーション・データ構造と SOAP メッセージとの間のマッピングが生成されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「CICS リソース定義」 > 「WEB サービス定義」

表 359. 提供された「WEB サービス定義」(WEBSVDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
WEB サービス定義 EYUSTARTWEBSVDEF.ADDTOGRP	1 つ以上の Web サービス定義をリソース・グループに追加します。
WEB サービス定義 EYUSTARTWEBSVDEF.CREATE	Web サービス定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
WEB サービス定義 EYUSTARTWEBSVDEF.DETAILED	選択した WEB サービス定義に関する詳細情報
WEB サービス定義 EYUSTARTWEBSVDEF.INSTALL	アクティブなシステムに Web サービス定義をインストールします。
WEB サービス定義 EYUSTARTWEBSVDEF.REMOVE	データ・リポジトリから Web サービス定義を除去します。
WEB サービス定義 EYUSTARTWEBSVDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべての WEB サービス定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 360. WEBSVDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTOGRP	1 つ以上の Web サービス定義をリソース・グループに追加します。
CREATE	Web サービス定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
CSDCOPY	CICS CSD リソース定義をコピーします。
CSDINSTALL	CICS CSD リソース定義をアクティブなシステムにインストールします。
INSTALL	アクティブなシステムに Web サービス定義をインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリから Web サービス定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内の Web サービス定義を更新します。

フィールド

表 361. WEBSVDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
zFS 上の完全修飾アーカイブ・ファイル	ARCHIVEFILE	この Web サービスの WSDL 文書を含むアーカイブ・ファイル。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none">• CSDAPI - リソースは CEDA トランザクション、DFHEDAP へのプログラマブル・インターフェース、または EXEC CICS CSD コマンドによって最終変更されました。• CSDBATCH - リソースは DFHCSDUP ジョブによって最終変更されました。• DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。

表 361. WEBSVDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最終変更時刻	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成された現地の日時。
CSD グループ	CSDGROUP	この CICS リソース定義の CSD グループ名。このフィールドは BAS 定義では無視されます。
バージョン	DEFVER	1 から 15 までの BAS リソース定義のバージョン番号。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
説明	DESCRIPTION	Web サービス定義の説明。
名前	NAME	Web サービス定義の名前。
この WEB サービスをインストールするパイプライン	PIPELINE	WEBSERVICE がインストールされる PIPELINE の名前。つまりこの WEBSERVICE リソースの入った PIPELINE リソースの名前。名前の長さは 8 文字以下です。
zFS の Web サービス・ポリシー・ディレクトリー	POLICYDIR	このフィールドは使用不可ですが、将来の開発のために予約済みです。
ユーザー・データ域 1	USERDATA1	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 2	USERDATA2	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
ユーザー・データ域 3	USERDATA3	BAS リソース定義に関連したサイト特定の追加データを指定可能にする、8 文字までのオプションのストリング。このフィールドは CICS CSD リソース定義では無視されます。
WSDL に対して SOAP メッセージの検査を実施	VALIDATION	Web サービス記述内の対応するスキーマに照らした SOAP メッセージの完全な妥当性検査が指定されているかどうかを示します。
zFS 上の完全修飾 WSBIND ファイル	WSBIND	Web サービス・リソースに関連付けられている Web サービス・バインディング・ファイルのファイル名。
zFS 上の完全修飾 WSDL ファイル	WSDLFILE	Web サービス・リソースに関連付けられている Web サービス記述 (WSDL) ファイルのファイル名。

付録 M 完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー

「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理」ビューには、現行コンテキストおよびスコープ内の CICS リソース管理に関する情報が表示されます。「BAS 管理の完全機能フォーム」ビューでは、リソース割り当てを作成して保守することができます。リソース割り当てを使用するのは、リソース・グループおよびリソース記述の内容の修飾や、CICS システムに対するリソースの割り当ての制御を行うときです。

リソース・グループ - RESGROUP

「リソース・グループ定義」(RESGROUP) ビューには、関連したリソース定義に関する情報が表示されます。リソース・グループ内のリソース定義は、同じリソース・タイプを対象とすることもできますし、異なるリソース・タイプを対象とすることもできます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」>「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」>「リソース・グループ」

表 362. 提供された「リソース・グループ定義」(RESGROUP) ビュー・セットのビュー

ビュー	注
リソース・グループ定義 EYUSTARTRESGROUP.ADDTODSC	1 つ以上のリソース・グループ定義をリソース記述に追加します。
リソース・グループ定義 EYUSTARTRESGROUP.CREATE	リソース・グループ定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。CICS 定義の管理の一環として、この定義をリソース・グループ (RESGROUP) 内の論理リソース・セットに結合します。リソース・グループの作成時には、既存のリソース・グループをモデルとして使用することを指定できます。
リソース・グループ定義 EYUSTARTRESGROUP.DETAILED	選択したリソース・グループ定義に関する詳細情報
リソース・グループ定義 EYUSTARTRESGROUP.INSTALL	リソース・グループ定義をアクティブなシステムにインストールします。
リソース・グループ定義 EYUSTARTRESGROUP.REMOVE	データ・リポジトリからリソース・グループ定義を除去します。
リソース・グループ定義 EYUSTARTRESGROUP.TABULAR	現行コンテキストのすべてのリソース・グループ定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 363. RESGROUP ビューで使用可能なアクション

アクション	説明
ADDTODSC	1 つ以上のリソース・グループ定義をリソース記述に追加します。
CREATE	リソース・グループ定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。CICS 定義の管理の一環として、この定義をリソース・グループ (RESGROUP) 内の論理リソース・セットに結合します。リソース・グループの作成時には、既存のリソース・グループをモデルとして使用することを指定できます。

表 363. RESGROUP ビューで使用可能なアクション (続き)	
アクション	説明
INSTALL	リソース・グループ定義をアクティブなシステムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからリソース・グループ定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のリソース・グループ定義を更新します。

フィールド

表 364. RESGROUP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 ・ DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	リソース・グループの説明。
名前	RESGROUP	リソース・グループの名前。

リソース割り当て - RASGNDEF

「リソース割り当て定義」(RASGNDEF) ビューには、個々のリソース・グループおよびクラスのリソース定義の特性に関する情報が表示され、さらに、そのようなリソースを一連の CICS システムへ割り当てる方法とインストールする方法も示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」 > 「リソース割り当て」

表 365. 提供された「リソース割り当て定義」(RASGNDEF) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
リソース割り当て定義 EYUSTARTRASGNDEF.ADDTODSC	1 つ以上のリソース割り当て定義をリソース記述に追加します。
リソース割り当て定義 EYUSTARTRASGNDEF.CREATE	リソース割り当て定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
リソース割り当て定義 EYUSTARTRASGNDEF.DETAILED	選択したリソース割り当て定義に関する詳細情報
リソース割り当て定義 EYUSTARTRASGNDEF.REMOVE	データ・リポジトリからリソース割り当て定義を除去します。
リソース割り当て定義 EYUSTARTRASGNDEF.TABULAR	現行コンテキストのすべてのリソース割り当て定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 366. RASGNDEF ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
ADDTODSC	1 つ以上のリソース割り当て定義をリソース記述に追加します。
CREATE	リソース割り当て定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
REMOVE	データ・リポジトリからリソース割り当て定義を除去します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のリソース割り当て定義を更新します。

フィールド

表 367. RASGNDEF ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 <ul style="list-style-type: none"> DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	リソース割り当ての説明。
フィルター・ストリング	FILTER	<p>(オプション。) 割り当てられるリソースを選択するために使用する属性を指定します。CICSplex SM は、指定されたフィルター基準を満たす資源のみを処理します。</p> <p>フィルター式は、「attribute operator value」という形式の 1 つ以上の属性式から構成できます。有効な演算子は、<、<=、=、>=、>、および != です。属性式を結合する場合には AND または OR 演算子を、式をグループ化するには小括弧を、式を否定するには NOT を使用します。</p> <p>値に埋め込みブランクまたは特殊文字 (ピリオド、コンマ、または等号を含む) が含まれている場合は、その値全体を単一引用符で囲まなければなりません。値の中に単一引用符が含まれている場合には、それを 2 つの単一引用符に変換してください。</p> <p>フィルター式は、ピリオドで終了させなければなりません。</p>

表 367. RASGNDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リソース使用修飾子	MODE	<p>リソース・タイプによっては、CICSplex SM でリソース割り当てを処理するためにリソース属性のどのサブセットを使用するかを判別するための追加情報が必要になります。指定する必要がある値は、割り当てられるリソース・タイプによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラム (PROGDEF) - 「使用法」フィールドで LOCAL を指定した場合は、CICS がプログラムをシステムへ自動的にインストールするよう、AUTO を指定できます。AUTO は、CICS システムでプログラムの明示的定義を必要としないことを意味します。その他の場合、N/A を指定します。「使用法」フィールドに REMOTE が指定されている場合、次のようにプログラムの経路指定方法を指定することができます。 <ul style="list-style-type: none"> DYNAM - プログラムは動的ルーティング・プログラム (DTR) により処理されます。 STAT - プログラムは「関連スコープ」で指定されたリモート CICS システムに送信されます。 トランザクション (TRANDEF) - トランザクションが動的ルーティング・プログラムにより処理されるかどうかを指定することができます。「使用法」フィールドに REMOTE が含まれている場合は、「モード」を指定する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> DYNAM - トランザクションが動的ルーティング・プログラムによって処理されます。 STAT - 各トランザクションは、トランザクション定義 (TRANDEF) で指定されたリモート CICS システムに送信されます。このモードを指定できるのは、「使用法」フィールドに REMOTE がある場合だけです。注: TRANDEF の「動的」な値は、資源割り当ての作成時に指定する値に指定変更されます。 <p>注: TRANDEF の「動的」の値は、リソース割り当ての作成時に指定する値に指定変更されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一時データ・キュー (TDQDEF) - 割り当てられる一時データ・キューのタイプを次のように指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> EXTRA - 区画外 TDQ。 IND - 間接 TDQ。 INTRA - 区画内 TDQ。 <p>N/A を指定した場合、CICSplex SM は TDQDEF の「タイプ」の値を使用し、一時データ・キューを割り当てます。「タイプ」の値が REMOTE である場合、CICSplex SM は間接 TDQ を割り当てます。</p> <p>その他のすべてのリソースでは MODE データは必要でないため、N/A を指定します。</p>
指定変更ストリング	ORSTRING	<p>(オプション。) OVERRIDE フィールドで指定されたスコープ (複数可) に割り当てられたときに、指定変更される値を持つ指定リソースの属性を示します。</p> <p>指定変更する値を定義するストリングは、コンマで区切られ、ピリオドで終了する 1 つ以上の attribute=value という書式の式から構成することができます。</p> <p>値に埋め込みブランクまたは特殊文字 (ピリオド、コンマ、または等号を含む) が含まれている場合は、その値全体を単一引用符で囲まなければなりません。値の中に単一引用符が含まれている場合には、それを 2 つの単一引用符に変換してください。</p>
指定変更が適用されるスコープ	OVERRIDE	<p>リソースの指定変更式を指定する場合は、指定変更値を適用するスコープを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> NONE - 指定変更値を適用しません。 BOTH - 指定変更値を両方のスコープに適用します。 RELATED - 指定変更値を「関連スコープ」のみに適用します。 TARGET - 指定変更値を「ターゲット・スコープ」のみに適用します。
リソース・タイプ	RDEFTYPE	割り当てにより処理されるリソースのタイプ。

表 367. RASGNDEF ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
参照リソース割り当て名	REFASSGN	「リソース・タイプ」フィールドに CONNDEF (接続用) が入っている場合に関連したセッション定義 (SESSDEF) に適用されるリソース割り当て。実際の CICS リンクを適切に構成するために、CICSplex SM はそれぞれの接続ごとに 1 つ以上のセッション定義を必要とします。
名前	RESASSGN	リソース割り当ての名前。
リソース・グループ	RESGROUP	割り当てられる指定されたリソース・タイプのリソースの定義を含むリソース・グループの名前。リソース割り当て定義 (RASGNDEF) に含まれているリソース・グループ情報の方が、リソース記述とリソース割り当て (RASINDSC) の間の関連に含まれている情報より優先され、さらに、リソース記述 (RESDESC) に含まれている情報よりも優先されます。
関連スコープ	RSCOPE	ターゲット・スコープから見て REMOTE と識別されるリソースが LOCAL として割り当てられる、CICS システムまたはシステム・グループの名前。資源割り当て (RASGNDEF) に含まれる スコープ情報の方が、資源記述と資源割り当てビュー (RASINDSC) の間の関連付けに含まれる情報および 資源記述ビュー (RESDESC) に含まれる情報よりも優先されます。
ターゲット・スコープ	TSCOPE	リソースが割り当てられる CICS システムまたはシステム・グループの名前。資源割り当て (RASGNDEF) に含まれる スコープ情報の方が、資源記述と資源割り当てビュー (RASINDSC) の間の関連付けに含まれる情報および 資源記述ビュー (RESDESC) に含まれる情報よりも優先されます。
リソース使用量	USAGE	次のように、リソースの使用方法を示します。 <ul style="list-style-type: none"> • LOCAL - リソースはターゲット CICS システム内に含まれます。 • REMOTE - リソース定義は、「関連スコープ」フィールドで指定されている別の CICS システムにインストールされたリソースを参照します。

リソース記述 - RESDESC

「リソース記述定義」 (RESDESC) ビューには、リソースのインストールをサポートするか CICSplex SM 要求のスコープとして指定されている CICS システムにインストールできる、論理的に関連したリソース定義のセットに関する情報が表示されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」 > 「リソース記述」

表 368. 提供された「リソース記述定義」 (RESDESC) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
リソース記述定義 EYUSTARTRESDESC.CREATE	リソース記述定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
リソース記述定義 EYUSTARTRESDESC.DETAILED	選択したリソース記述定義に関する詳細情報
リソース記述定義 EYUSTARTRESDESC.INSTALL	リソース記述に関連付けられたリソースをアクティブ CICS システムにインストールします。
リソース記述定義 EYUSTARTRESDESC.REMOVE	データ・リポジトリからリソース記述定義を除去します。
リソース記述定義 EYUSTARTRESDESC.REPLACE	現在インストールされているリソース記述定義を置換します。

表 368. 提供された「リソース記述定義」(RESDESC) ビュー・セットのビュー (続き)	
ビュー	注
リソース記述定義 EYUSTARTRESDESC.TABULAR	現行コンテキストのすべてのリソース記述定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 369. RESDESC ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	リソース記述定義を作成してそれをデータ・リポジトリに追加します。
INSTALL	リソース記述に関連付けられたリソースをアクティブ CICS システムにインストールします。
REMOVE	データ・リポジトリからリソース記述定義を除去します。
REPLACE	現在インストールされているリソース記述定義を置換します。
UPDATE	データ・リポジトリ内のリソース記述定義を更新します。

フィールド

表 370. RESDESC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
Atom サービス定義に対するリソース・グループ	ATMDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
Atom サービス定義に対する関連スコープ	ATMDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
Atom サービス定義に対するターゲット・スコープ	ATMDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
自動インストール要求タイプ	AUTOINST	ターゲット MAS が CICSplex に接続する時に、この記述とそれに関連付けられたリソース割り当て、およびリソース・グループにより参照されるリソース定義のセットが自動的にインストールされるかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • YES - 参照されたリソース定義セットは自動的にインストールされます。 • NO - 参照されたリソース定義セットは自動的にインストールされません。
バンドル定義に対するリソース・グループ	BUNDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
バンドル定義に対する関連スコープ	BUNDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。

表 370. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
バンドル定義に対するターゲット・スコープ	BUNDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
接続定義に対するリソース・グループ	CONDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
接続定義に対する関連スコープ	CONDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
接続定義に対するターゲット・スコープ	CONDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
DB2 接続定義に対するリソース・グループ	D2CDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
DB2 接続定義に対する関連スコープ	D2CDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
DB2 接続定義に対するターゲット・スコープ	D2CDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
DB2 エントリー定義に対するリソース・グループ	D2EDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
DB2 エントリー定義に対する関連スコープ	D2EDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。

表 370. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
DB2 エントリ定義に対するターゲット・スコープ	D2EDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
DB2 トランザクション定義に対するリソース・グループ	D2TDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
DB2 トランザクション定義に対する関連スコープ	D2TDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
DB2 トランザクション定義に対するターゲット・スコープ	D2TDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	リソース記述の説明。
文書テンプレート定義に対するリソース・グループ	DOCDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
文書テンプレート定義に対する関連スコープ	DOCDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
文書テンプレート定義に対するターゲット・スコープ	DOCDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
CorbaServer 定義のリソース・グループ	EJCDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
CorbaServer 定義の関連スコープ	EJCDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
CorbaServer 定義のターゲット・スコープ	EJCDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
CICS-配置 jar ファイル定義のリソース・グループ	EJDDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。

表 370. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
CICS-配置 jar ファイル定義の 関連スコープ	EJDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
CICS-配置 jar ファイル定義の ターゲット・スコープ	EJDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
エンキュー・モデル定義に対す るリソース・グループ	ENQDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
エンキュー・モデル定義に対す る関連スコープ	ENQDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
エンキュー・モデル定義に対す るターゲット・スコープ	ENQDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
ファイル定義に対するリソー ス・グループ	FLEDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
ファイル定義に対する関連ス コープ	FLEDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
ファイル定義に対するターゲ ット・スコープ	FLEDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
FEPI ノード定義に対するリソ ース・グループ	FNODEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
FEPI ノード定義に対する関連 スコープ	FNODEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
FEPI ノード定義に対するター ゲット・スコープ	FNODEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
FEPI プール定義に対するリソ ース・グループ	FPODEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。

表 370. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
FEPI プール定義に対する関連スコープ	FPODEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
FEPI プール定義に対するターゲット・スコープ	FPODEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
FEPI プロパティ・セット定義に対するリソース・グループ	FPRDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
FEPI プロパティ・セット定義に対する関連スコープ	FPRDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
FEPI プロパティ・セット定義に対するターゲット・スコープ	FPRDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
ファイル・キー・セグメント定義に対するリソース・グループ	FSGDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
ファイル・キー・セグメント定義に対する関連スコープ	FSGDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
ファイル・キー・セグメント定義に対するターゲット・スコープ	FSGDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
FEPI ターゲット定義に対するリソース・グループ	FTRDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
FEPI ターゲット定義に対する関連スコープ	FTRDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
FEPI ターゲット定義に対するターゲット・スコープ	FTRDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
IPIC 接続定義に対するリソース・グループ	IPCDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。

表 370. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
IPIC 接続定義に対する関連スコープ	IPCDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
IPIC 接続定義に対するターゲット・スコープ	IPCDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
JVM サーバー定義に対するリソース・グループ	JMSDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
JVM サーバー定義に対する関連スコープ	JMSDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
JVM サーバー 定義に対するターゲット・スコープ	JMSDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
ジャーナル定義に対するリソース・グループ	JRLDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
ジャーナル定義に対する関連スコープ	JRLDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
ジャーナル定義に対するターゲット・スコープ	JRLDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
ジャーナル・モデル定義に対するリソース・グループ	JRMDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
ジャーナル・モデル定義に対する関連スコープ	JRMDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
ジャーナル・モデル定義に対するターゲット・スコープ	JRMDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
LIBRARY 定義に対するリソース・グループ	LIBDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。

表 370. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
LIBRARY 定義に対する関連スコープ	LIBDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
LIBRARY 定義に対するターゲット・スコープ	LIBDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
論理的スコープ名	LSCOPE	リソース記述が作成された時にそれに割り当てられた論理的スコープ名。この名前は、CICSplex SM のエンド・ユーザー・インターフェース 要求および API 要求のスコープとして使用できます。 このフィールドがブランクである場合、論理的スコープ名は割り当てられていません。
LSR プール定義に対するリソース・グループ	LSRDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
LSR プール定義に対する関連スコープ	LSRDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
LSR プール定義に対するターゲット・スコープ	LSRDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
論理的スコープ登録	LSREGSTR	リソース記述が論理的スコープとして登録されるかどうかを示します。 CICSplex SM に対して CICS リソースを定義した後、CICSplex 内での物理ロケーションではなく、指定のビジネス・アプリケーションに所属するかどうかの観点で、リソースをモニターして制御することができます。論理的に関連付けられたリソースどうしを、いつでもそれらのリソースが実際に常駐するかどうかに関係なく、セットとして識別し、セットとして参照することができます。定義セットは再利用可能であり、リソースの他の論理的な関連付けと任意の数だけ関連付けることができます。これらのリソースは、システム構成ではなく業務要件を反映したものです。 スコープをアプリケーションに設定した場合、操作またはモニター・ビューにはすべて、選択基準を満たすリソースのみが表示されます。それによって、それらのリソースの管理方法を仔細に制御できるようになります。 <ul style="list-style-type: none"> • YES - この記述で示されるリソースは論理的スコープと見なされます。「スコープ名」の値を CICSplex SM 要求のスコープとして使用できます。 • NO - この記述で示されるリソースは論理的スコープと見なされません。
マップ・セット定義に対するリソース・グループ	MAPDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
マップ・セット定義に対する関連スコープ	MAPDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。

表 370. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
マップ・セット定義に対するターゲット・スコープ	MAPDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
MQ 接続定義に対するリソース・グループ	MQCDEFGR	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
MQ 接続定義に対する関連スコープ	MQCDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定されたタイプのリソース定義について、リソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
MQ 接続定義に対するターゲット・スコープ	MQCDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
MQ モニター定義のリソース・グループ	MQMDEFGR	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
MQ モニター定義の関連スコープ	MQMDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
MQ モニター定義のターゲット・スコープ	MQMDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
パートナー定義に対するリソース・グループ	PARDEFGR	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
パートナー定義に対する関連スコープ	PARDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
パートナー定義に対するターゲット・スコープ	PARDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
パイプライン定義に対するリソース・グループ	PIPDEFGR	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
パイプライン定義に対する関連スコープ	PIPDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。

表 370. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
パイプライン定義に対するターゲット・スコープ	PIPDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
プロセス・タイプ定義に対するリソース・グループ	PRCDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
プロセス・タイプ定義に対する関連スコープ	PRCDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
プロセス・タイプ定義に対するターゲット・スコープ	PRCDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
プログラム定義に対するリソース・グループ	PRGDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
プログラム定義に対する関連スコープ	PRGDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
プログラム定義に対するターゲット・スコープ	PRGDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
プロファイル定義に対するリソース・グループ	PRODEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
プロファイル定義に対する関連スコープ	PRODEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
プロファイル定義に対するターゲット・スコープ	PRODEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
区画セット定義のためのリソース・グループ	PRTDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
区画セット定義のための関連スコープ	PRTDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。

表 370. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
区画セット定義のためのターゲット・スコープ	PRTDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
リソース記述名	RESDESC	リソース記述定義の名前。
リソース・グループ・スコープ名	RGSCOPE	記述内のリソース (RESINDSC) リソースを使用してリソース記述 (RESDESC) と直接関連付けられているリソース・グループ (RESGROUP) 内の CICS リソース定義のインストール先となる CICS システム (CSYSDEF) または CICS システム・グループ (CSYSGRP) を識別するのに使用する 1 文字から 8 文字までの名前。スコープ名は CICSplex 内で 固有である必要があります。
要求モデル定義に対するリソース・グループ	RQMDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
要求モデル定義に対する関連スコープ	RQMDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
要求モデル定義に対するターゲット・スコープ	RQMDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
セッション定義に対するリソース・グループ	SESDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
セッション定義に対する関連スコープ	SESDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
セッション定義に対するターゲット・スコープ	SESDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
トランザクション・クラス定義に対するリソース・グループ	TCLDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
トランザクション・クラス定義に対する関連スコープ	TCLDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
トランザクション・クラス定義に対するターゲット・スコープ	TCLDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。

表 370. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
TCP/IP サービス定義に対するリソース・グループ	TCPDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
TCP/IP サービス定義に対する関連スコープ	TCPDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
TCP/IP サービス定義に対するターゲット・スコープ	TCPDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
TD キュー定義に対するリソース・グループ	TDQDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
TD キュー定義に対する関連スコープ	TDQDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
TD キュー定義に対するターゲット・スコープ	TDQDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
端末定義に対するリソース・グループ	TRMDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
端末定義に対する関連スコープ	TRMDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
端末定義に対するターゲット・スコープ	TRMDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
トランザクション定義に対するリソース・グループ	TRNDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
トランザクション定義に対する関連スコープ	TRNDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
トランザクション定義に対するターゲット・スコープ	TRNDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。

表 370. RESDESC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
TS モデル定義に対するリソース・グループ	TSMDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
TS モデル定義に対する関連スコープ	TSMDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
TS モデル定義に対するターゲット・スコープ	TSMDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
入力条件定義に対するリソース・グループ	TYPDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
入力条件定義に対する関連スコープ	TYPDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
入力条件定義に対するターゲット・スコープ	TYPDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
URIMAP 定義に対するリソース・グループ	URIDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
URIMAP 定義に対する関連スコープ	URIDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
URIMAP 定義に対するターゲット・スコープ	URIDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。
WebService 定義に対するリソース・グループ	WEBDEFRG	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、リソース・グループが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てに使用されるリソース・グループの名前。
WebService 定義に対する関連スコープ	WEBDEFRS	リソース割り当ての「使用法」の値が REMOTE である場合に、指定されたタイプのリモート・リソースが LOCAL として割り当てられる既存の CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、関連スコープが以前に指定されていない場合に、この値が使用されます。
WebService 定義に対するターゲット・スコープ	WEBDEFTS	指定のタイプのリソース定義についてリソース割り当て定義 (RASGNDEF) またはリソース記述 (RASINDSC) 内のリソース割り当てのいずれかで、ターゲット・スコープが以前に指定されていない場合に、リソース割り当てのターゲット・スコープとして使用される CICS システムまたは CICS システム・グループの名前。

リソース・グループ内の CICS リソース定義 - RESINGRP

「リソース・グループ内のリソース定義」(RESINGRP) ビューには、リソース・グループおよびそれに関連付けられているリソース定義に関する情報が表示されます。RESINGRP の関連は、リソース定義がリソース・グループ (RESGROUP) に追加される時に自動的に作成されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」 > 「リソース・グループ内の CICS リソース定義」

表 371. 提供された「リソース・グループ内の CICS リソース定義」(RESINGRP) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
リソース・グループ内の CICS リソース定義 EYUSTARTRESINGRP.DETAILED	選択したリソースに関する詳細情報
リソース・グループ内の CICS リソース定義 EYUSTARTRESINGRP.REMOVE	リソース・グループとリソース定義との間の関連付けを除去します。
リソース・グループ内の CICS リソース定義 EYUSTARTRESINGRP.TABULAR	リソース・グループとそれに関連したリソース定義に関するテーブル形式の情報

アクション

表 372. RESINGRP ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
REMOVE	リソース・グループとリソース定義との間の関連付けを除去します。

フィールド

表 373. RESINGRP ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
リソース定義の説明	DEFDESC	リソース定義の説明
リソース定義	DEFNAME	リソース定義の名前。
リソース定義タイプ	DEFTYPE	リソース・グループが関連付けられているリソース定義のタイプを識別します。
リソース定義 ID	DEFTYPEX	リソース・グループが関連付けられているリソース定義の ID を識別します。
リソース定義のバージョン	DEFVER	リソース定義のバージョン番号 (1 から 15)。
グループ・タイプ内のリソース	INGPTYPE	リソース・グループ内のリソースのタイプ。
グループ ID 内のリソース	INGTYPX	リソース・グループ内のリソースの ID。

表 373. RESINGRP ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リソース・グループ	RESGROUP	リソース・グループの名前。

リソース記述内のリソース・グループ - RESINDSC

「リソース記述内のリソース・グループ」(RESINDSC) ビューには、リソース記述 (RESDESC) 内のリソース・グループ (RESGROUP) のメンバーシップに関する情報が表示されます。RESINDSC の関連は、リソース・グループがリソース記述に追加される時、つまりリソース記述とリソース割り当て (RASGNDEF) の間に何の関連もない時に、自動的に作成されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」>「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」>「リソース記述内のリソース・グループ」

表 374. 提供された「記述内のリソース・グループ」(RESINDSC) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
記述内のリソース・グループ EYUSTARTRESINDSC.CREATE	リソース・グループとリソース記述との間の関連を作成します。
記述内のリソース・グループ EYUSTARTRESINDSC.DETAILED	リソース・グループとそれに関連したリソース記述に関する詳細情報
記述内のリソース・グループ EYUSTARTRESINDSC.REMOVE	リソース・グループとリソース記述との間の関連を除去します。
記述内のリソース・グループ EYUSTARTRESINDSC.TABULAR	リソース・グループとそれに関連したリソース記述に関するテーブル形式の情報

アクション

表 375. RESINDSC ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	リソース・グループとリソース記述との間の関連を作成します。
REMOVE	リソース・グループとリソース記述との間の関連を除去します。
UPDATE	リソース記述定義内のリソース・グループの記述を更新します。

フィールド

表 376. RESINDSC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地時間。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。

表 376. RESINDSC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	リソース記述とグループとの間の関連の説明。
リソース記述名	RESDISC	リソース記述の名前。
リソース・グループ名	RESGROUP	指定されたリソース記述に関連付けられるリソース・グループの名前。

リソース記述内のリソース割り当て - RASINDSC

「リソース記述内のリソース割り当て」(RASINDSC) ビューには、リソース記述 (RESDISC) 内のリソース割り当て (RASGNDEF) のメンバーシップに関する情報が表示されます。RASINDSC の関連は、リソース割り当てがリソース記述に追加される時に自動的に作成されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」 > 「リソース記述内のリソース割り当て」

表 377. 提供された「リソース記述内のリソース割り当て」(RASINDSC) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
リソース記述内のリソース割り当て EYUSTARTRASINDSC.CREATE	リソース割り当てとリソース記述との間の関連を作成します。
リソース記述内のリソース割り当て EYUSTARTRASINDSC.DETAILED	選択した関連付けに関する詳細情報
リソース記述内のリソース割り当て EYUSTARTRASINDSC.REMOVE	リソース割り当てとリソース記述との間の関連を除去します。
リソース記述内のリソース割り当て EYUSTARTRASINDSC.TABULAR	リソース割り当てとそれに関連したリソース記述に関するテーブル形式の情報

アクション

表 378. RASINDSC ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
CREATE	リソース割り当てとリソース記述との間の関連を作成します。
REMOVE	リソース割り当てとリソース記述との間の関連を除去します。
UPDATE	リソース記述定義内のリソース割り当てを更新します。

フィールド

表 379. RASINDSC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
最終変更をしたエージェント	CHANGEAGENT	最後に変更を行った変更エージェントの ID。 • DREPAPI - リソースは CICSplex SM API コマンドによって最終変更されました。
最終変更をしたエージェントのリリース	CHANGEAGREL	最終変更を行ったエージェントの CICS リリース・レベル。

表 379. RASINDSC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
最終変更日時	CHANGETIME	定義が最後に変更されたときの現地日時。
最終変更をしたユーザー ID	CHANGEUSRID	最後に変更を行ったユーザー ID。
作成時刻	CREATETIME	定義が作成されたときの現地時刻。
記述コード・ページ	DESCCODEPAGE	記述フィールドのコード・ページ。
説明	DESCRIPTION	リソース記述と割り当てとの間の関連の説明。
リソース割り当て (RASGNDEF) 名	RESASSGN	指定されたリソース記述に関連付けられるリソース割り当ての名前。
リソース記述 (RESDESC) 名	RESDESC	リソース記述の名前。
リソース・グループ名	RESGROUP	割り当てられる指定されたリソース・タイプのリソースの定義を含むリソース・グループの名前。リソース記述およびリソース割り当て (RASINDSC) 間の関連に示されているリソース・グループ情報の方が、リソース記述 (RESDESC) に示される情報より優先されます。これはリソース割り当て定義 (RASGNDEF) に示されている情報より優先されません。
関連スコープ名	RSCOPE	ターゲット・スコープから見て REMOTE と識別されるリソースが LOCAL として割り当てられる、CICS システムまたはシステム・グループの名前。リソース割り当て (RASGNDEF) に指定されているスコープ情報の方が、このビュー (RASINDSC) に指定されている情報より優先されます。さらに、このビュー (RASINDSC) に指定されているスコープ情報のほうが、リソース記述ビュー (RESDESC) に指定されている情報より優先されます。
ターゲット・スコープ名	TSCOPE	リソースが割り当てられる CICS システムまたはシステム・グループの名前。リソース割り当て (RASGNDEF) に指定されているスコープ情報の方が、このビュー (RASINDSC) に指定されている情報より優先されます。さらに、このビュー (RASINDSC) に指定されているスコープ情報のほうが、リソース記述ビュー (RESDESC) に指定されている情報より優先されます。

リソース記述 - RDSCPROC

「リソース記述で選択されたリソース」(RDSCPROC) ビューは、指定されたリソース記述の処理時に選択されるリソースに関する情報を表示します。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」>「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」>「リソース記述」

表 380. 提供された「リソース記述で選択されたリソース」(RDSCPROC) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
リソース記述で選択されたリソース EYUSTRDSCPROC.DETAILED	リソース記述で選択されている指定されたリソースに関する詳細情報
リソース記述で選択されたリソース EYUSTRDSCPROC.TABULAR	リソース記述で選択されているリソースに関するテーブル形式の情報

アクション

表 381. RDSCPROC ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
GET	処理されるリソース記述の名前。

フィールド

表 382. RDSCPROC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
リモート定義の別名	ALIAS	リモート資源の場合、 リモート・システムで認識される資源の名前。
リソース定義のバージョン	DEFVER	リソース定義のバージョン番号 (1 から 15)。
リソース使用修飾子	MODE	<p>記述処理中に使用されるリソース属性のサブセットを判別するのに、CICSplex SM で必要な特定のリソース・タイプに関する追加情報。</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラム (PROGDEF) - 「使用」 値が LOCAL の場合、値を AUTO にすると、プログラムは CICS システムに自動的にインストールされます。 トランザクション (TRANDEF) - 「使用」 値が REMOTE の場合、リモート参照のタイプを示します。 <ul style="list-style-type: none"> DYNAM - トランザクションは DTR プログラムで処理される必要があります。 STAT - 各トランザクションを TRANDEF で示されたリモート CICS システムに送信する必要があります。 一時データ・キュー (TDQDEF) - 「使用」 値が REMOTE の場合、「関連スコープ」 で割り当てられる一時データ・キューのタイプを示します。 <ul style="list-style-type: none"> INTRA - 区画内 TDQ。 EXTRA - 区画外 TDQ。 IND - 間接 TDQ。 <p>値 N/A は、資源タイプに MODE データが必要ないことを示します。</p>
リソース定義タイプ	RDEFTYPE	割り当てられるリソースのタイプ。
参照定義名	REFDEF	割り当てられているリソースで参照されるリソースの名前。例えば、接続 (CONNDEF)や参照 セッション(SESSDEF)など。
参照した定義型	REFTYPE	参照されるリソース定義のリソース・タイプ。
参照定義のバージョン	REFVER	1 から 15 までの、参照される資源定義の バージョン番号。
リソース割り当て名	RESASSGN	資源定義と、指定された記述とを関連付ける 資源割り当ての名前。
リソース定義名	RESDEF	指定されたリソース記述の処理時に割り当てられるリソースの名前。
リソース記述名	RESDESC	処理されるリソース記述の名前。
リソース・グループ名	RESGROUP	割り当てられるリソースの定義を含むリソース・グループの名前。
関連スコープ名	RSCOPE	ターゲット・スコープに対して REMOTE と指定されるリソースが LOCAL として割り当てられる CICS システムかシステム・グループの名前。
ターゲット・スコープ名	TSCOPE	リソースが割り当てられる CICS システムかシステム・グループの名前。
リソース使用タイプ	USAGE	<p>リソースの使用方法を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> LOCAL - リソースはターゲット CICS システムにあります。 REMOTE - リソース定義は「関連スコープ」 フィールドで指定されている別の CICS システム中にあるリソースを参照します。 ASIS - リソースは、リソース記述に直接関連したリソース・グループの一部であり、リソース割り当てには関連していません。

リソース割り当て - RASPROC

「リソース割り当てで選択されたリソース」(RASPROC) ビューは、指定されたリソース割り当ての処理時に選択されるリソースに関する情報を表示します。リソースは、関連したリソース・グループの内容と、割り当て自体の選択基準に基づいて選択されます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「管理ビュー」 > 「完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー」 > 「リソース割り当て」

表 383. 提供された「リソース割り当てで選択されたリソース」(RASPROC) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
リソース割り当てで選択されたリソース EYUSTRASPROC.DETAILED	選択したリソースに関する詳細情報
リソース割り当てで選択されたリソース EYUSTRASPROC.TABULAR	リソース割り当てで選択されているリソースに関するテーブル形式の情報

アクション

表 384. RASPROC ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
GET	CICS リソースの選択に使用されるリソース割り当て定義。

フィールド

表 385. RASPROC ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
リモート定義の別名	ALIAS	リモート資源の場合、リモート・システムで認識される資源の名前。
リソース定義のバージョン	DEFVER	リソース定義のバージョン番号 (1 から 15)。
リソース使用修飾子	MODE	<p>割り当ての処理に使用される資源属性のサブセットを判別するために CICSplex SM が特定の資源タイプで必要とする追加情報。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム (PROGDEF) - 「使用」値が LOCAL の場合、値を AUTO にすると、プログラムは CICS システムに自動的にインストールされます。 ・トランザクション (TRANDEF) - 「使用」値が REMOTE の場合、リモート参照のタイプを示します。 <ul style="list-style-type: none"> – DYNAM - トランザクションは DTR プログラムで処理される必要があります。 – STAT - 各トランザクションを TRANDEF で示されたリモート CICS システムに送信する必要があります。 ・一時データ・キュー (TDQDEF) - 「使用」値が REMOTE の場合、「関連スコープ」で割り当てられる一時データ・キューのタイプを示します。 <ul style="list-style-type: none"> – INTRA - 区画内 TDQ。 – EXTRA - 区画外 TDQ。 – IND - 間接 TDQ。 <p>値 N/A は、資源タイプに MODE データが必要ないことを示します。</p>
リソース定義タイプ	RDEFTYPE	割り当てられるリソースのタイプ。
参照定義名	REFDEF	割り当てられているリソースで参照されるリソースの名前。例えば、接続 (CONNDEF) や参照セッション (SESSDEF) など。
参照した定義型	REFTYPE	参照されるリソース定義のリソース・タイプ。
参照定義のバージョン	REFVER	1 から 15 までの、参照される資源定義のバージョン番号。
リソース割り当て名	RESASSGN	処理されるリソース割り当ての名前。
リソース定義名	RESDEF	指定されたリソース割り当ての処理時に割り当てられるリソースの名前。
リソース・グループ名	RESGROUP	割り当てられるリソースの定義を含むリソース・グループの名前。
関連スコープ名	RSCOPE	ターゲット・スコープに対して REMOTE と指定されるリソースが LOCAL として割り当てられる CICS システムかシステム・グループの名前。
ターゲット・スコープ名	TSCOPE	リソースが割り当てられる CICS システムかシステム・グループの名前。

表 385. RASPROC ビューのフィールド (続き)		
フィールド	属性名	説明
リソース使用タイプ	USAGE	リソースの使用方法を示します。 <ul style="list-style-type: none"> • LOCAL - リソースはターゲット CICS システムにあります。 • REMOTE - リソース定義は「関連スコープ」フィールドで指定されている別の CICS システム中にあるリソースを参照します。

CICS システム - SYSRES

「**CICS システム・リソース**」(SYSRES) ビューは、指定された CICS システムに割り当てられるリソースに関する情報を表示します。現在 CICS システムに関連しているリソース記述に基づいてリソースが選択されます。リソース割り当てがリソース記述に関連している場合のみ、その割り当てで名前指定されているリソースが SYSRES ビューに組み込まれます。

提供されるビュー

メインメニューからアクセスするには、

「**管理ビュー**」>「**完全に機能しているビジネス・アプリケーション・サービス (BAS) 管理ビュー**」>「**CICS システム**」

表 386. 提供された「CICS システムに割り当てたリソース」(SYSRES) ビュー・セットのビュー	
ビュー	注
CICS システムに割り当てたリソース EYUSTARTSYSRES.DETAILED	指定した CICS システムに割り当てられているリソースに関する詳細情報
CICS システムに割り当てたリソース EYUSTARTSYSRES.TABULAR	CICS システムに割り当てられているリソースに関するテーブル形式の情報

アクション

表 387. SYSRES ビューで使用可能なアクション	
アクション	説明
GET	(必須) モデルとして使用されるシステム・リンク定義を持った既存の CICS システムの名前を指定します。

フィールド

表 388. SYSRES ビューのフィールド		
フィールド	属性名	説明
リモート定義の別名	ALIAS	リモート資源の場合、 リモート・システムで認識される資源の名前。
CICS システム名	CICSSYS	指定されたリソースの割り当て先の CICS システムの名前。
リソース定義のバージョン	DEFVER	リソース定義のバージョン番号 (1 から 15)。

表 388. SYSRES ビューのフィールド (続き)

フィールド	属性名	説明
リソース使用修飾子	MODE	<p>割り当ての処理に使用される資源属性のサブセットを判別するために CICSplex SM が特定の資源タイプで必要とする追加情報。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プログラム (PROGDEF) - 「使用」値が LOCAL の場合、値を AUTO にすると、プログラムは CICS システムに自動的にインストールされます。 • トランザクション (TRANDEF) - 「使用」値が REMOTE の場合、リモート参照のタイプを示します。 <ul style="list-style-type: none"> - DYNAM - トランザクションは DTR プログラムで処理される必要があります。 - STAT - 各トランザクションを TRANDEF で示されたリモート CICS システムに送信する必要があります。 • 一時データ・キュー (TDQDEF) - 「使用」値が REMOTE の場合、「関連スコープ」で割り当てられる一時データ・キューのタイプを示します。 <ul style="list-style-type: none"> - INTRA - 区画内 TDQ。 - EXTRA - 区画外 TDQ。 - IND - 間接 TDQ。 <p>値 N/A は、資源タイプに MODE データが必要ないことを示します。</p>
リソース定義タイプ	RDEFTYPE	<p>割り当てられるリソースのタイプ。</p> <p>注: 論理スコープのピクチャーを完成させるために、ここにセッション定義 (SESSDEF) が含まれていますが、それらが実際に CICS システムにインストールされることはありません。</p>
参照定義名	REFDEF	割り当てられているリソースで参照されるリソースの名前。例えば、接続 (CONNDEF) や参照セッション (SESSDEF) など。
参照した定義型	REFTYPE	参照されるリソース定義のリソース・タイプ。
参照定義のバージョン	REFVER	1 から 15 までの、参照される資源定義のバージョン番号。
リソース割り当て名	RESASSGN	資源定義と、指定された記述とを関連付ける資源割り当ての名前。
リソース定義名	RESDEF	指定された CICS システムに割り当てられるリソースの名前。
リソース記述名	RESDESC	CICS システムに関連したリソース記述の名前。
リソース・グループ名	RESGROUP	割り当てられるリソースの定義を含むリソース・グループの名前。
リソース使用タイプ	USAGE	<p>CICS システムでの資源の使用法を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • LOCAL - リソースはターゲット CICS システムにあります。 • REMOTE - リソース定義は、別の CICS システムにあるリソースを参照します。 • ASIS - リソースは、リソース記述に直接関連したリソース・グループの一部であり、リソース割り当てには関連していません。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料の他の言語版を IBM から入手できる場合があります。ただし、これを入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラムまたはサービスに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができません。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒 103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス涉外

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様自身の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Director of Licensing

IBM Corporation

North Castle Drive, MD-NC119 Armonk,

NY 10504-1785

United States of America

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関す

る実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名前はすべて架空のものであり、類似する個人や企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

プログラミング・インターフェース情報

CICS には、プログラミング・インターフェースと見なすことのできる資料と、プログラミング・インターフェースと見なすことのできない資料があります。

オンライン製品資料の以下のセクションには、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 6 のサービスを取得するプログラムをお客様が作成するためのプログラミング・インターフェースが含まれています。

- [アプリケーションの開発](#)
- [システム・プログラムの開発](#)
- [CICS TS セキュリティー](#)
- [外部インターフェースに向けた開発](#)
- [アプリケーション開発のリファレンス](#)
- [リファレンス: システム・プログラミング](#)
- [リファレンス: 接続](#)

オンライン製品資料の以下のセクションには、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 6 のプログラミング・インターフェースとして意図されていない (プログラミング・インターフェースと誤解される可能性のある) 情報が含まれています。

- [トラブルシューティングおよびサポート](#)
- [CICS TS 診断参照](#)

PDF 形式のマニュアルで CICS 資料にアクセスする場合は、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 6 のサービスを取得するプログラムをお客様が作成するためのプログラミング・インターフェースが以下のマニュアルに含まれています。

- [アプリケーション・プログラミング・ガイドおよびアプリケーション・プログラミング・リファレンス](#)
- [Business Transaction Services](#)
- [Customization Guide](#)
- [C++ OO Class Libraries](#)
- [Debugging Tools Interfaces Reference](#)
- [Distributed Transaction Programming Guide](#)
- [External Interfaces Guide](#)
- [Front End Programming Interface Guide](#)

- IMS Database Control Guide
- インストール・ガイド
- セキュリティー・ガイド
- Supplied Transactions
- CICSplex SM Managing Workloads
- CICSplex SM Managing Resource Usage
- CICSplex SM アプリケーション・プログラミング・ガイドおよび CICSplex SM アプリケーション・プログラミング・リファレンス
- CICS における Java アプリケーション

PDF 形式のマニュアルで CICS 資料にアクセスする場合は、CICS Transaction Server for z/OS, バージョン 5 リリース 6 のプログラミング・インターフェースとして意図されていない (プログラミング・インターフェースと誤解される可能性のある) 情報が以下のマニュアルに含まれています。

- Data Areas
- Diagnosis Reference
- Problem Determination Guide
- CICSplex SM Problem Determination Guide

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux[®] は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

製品資料に関するご使用条件

これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用範囲

IBM Web サイトの「ご利用条件」に加えて、以下のご使用条件が適用されます。

個人使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布 (頒布、送信を含む) または表示 (上映を含む) することはできません。

商用使用

これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

権利

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品 (ソフトウェア・オファリング) では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース (メイン・インターフェース) の場合:

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、認証、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース (データ・インターフェース) の場合:

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、認証、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名またはその他の個人情報を、セッションごとの Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

CICSplex SM Web ユーザー・インターフェース (「Hello World」ページ) の場合:

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、個人情報を収集しないセッションごとの Cookie を使用する場合があります。これらの Cookie を無効にすることはできません。

CICS Explorer の場合:

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの設定および持続的な設定を使用して収集する場合があります。これらの設定を無効にすることはできませんが、ユーザー・パスワードの暗号化形式でのディスクへの保管は、サインオン中にチェック・ボックスにチェック・マークを付けることによるユーザーの明示的な操作によってのみ有効化することができます。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビー

コン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。
なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクション [99](#)
アクション・コマンド [100](#)
「アクション定義」ビュー
一般 (ACTION) [278](#), [336](#), [358](#)
アクション・ボタン [99](#)
アクセシビリティ・オプション [67](#)
アプリケーション
トラブルシューティング [157](#)
アプリケーション専有領域 (AOR) [2](#)
「一時記憶域モデル定義」ビュー
一般 (TSMDEF) [494](#)
一時データ・キュー定義
COLG [68](#)
COVE [68](#)
COVI [68](#)
COVP [68](#)
「一時データ・キュー定義」ビュー
一般 (TDQDEF) [511](#)
インストール後ジョブ
EYUCMASP [13](#)
インポート・オプション [62](#)
エラー処理、EYU9XDBT ユーティリティ [109](#)
「エンキュー・モデル定義」ビュー
一般 (ENQMDEF) [432](#)

[カ行]

開始する
CMAS
サンプル・プロシージャ [13](#)
システム・コンソールから [13](#)
バッチ・ジョブとして [13](#)
z/OS MAS [38](#)
カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプ [59](#)
カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプ・データ・セット [59](#)
画面の色 [67](#)
管理
専用リソース
表示 [145](#)
プラットフォーム [145](#)
APPLCTN
表示 [145](#)
PLATFORM
表示 [145](#)
管理下アプリケーション・システム (MAS)
更新 [143](#)
リモート (remote) [47](#)
ローカル [47](#)
管理メニュー
構成 [128](#)
「記述内のリソース・グループ」ビュー

「記述内のリソース・グループ」ビュー (続き)
一般 (RESINDSC) [382](#), [551](#)
機動的なサービス・デリバリー
作成 [7](#)
「区画セット定義」ビュー
一般 (PRTNDEF) [464](#)
グリニッジ標準時
時間帯コード [139](#)
時間帯の標準 [139](#)
夏時間調整 [139](#)
「グループ内のモニター定義」ビュー
一般 (MONINGRP) [228](#)
グローバリゼーション [53](#)
結果セット警告のカウント [87](#)
言語 [55](#)
言語 ID
CHS [55](#)
ENU [55](#)
JPN [55](#)
言語サポート [53](#)
更新 [99](#)
構成
機動的なサービス・デリバリー [1](#)
プラットフォーム [1](#)
構成とトポロジー
時間枠定義の作成 [135](#)
CMAS から CMAS への接続の確立 [50](#)
CMAS での NetView への総称アラートの送信の有効化
[143](#)
構成ビュー
アクセス [128](#)
コード・ページ
CHS1 [55](#)
CHS2 [55](#)
ENU1 [55](#)
JPN1 [55](#)
コード・ページ変換テーブル [56](#)
コンテキスト [99](#)
コンポーネントのトレースの活動化
1つ以上の CMAS [151](#)
1つ以上の MAS [153](#)

[サ行]

サーバー [53](#)
作成、CICS システム定義の
データ・リポジトリ [15](#)
サンプル JCL
CMAS [13](#)
MAS [38](#)
サンプル・プログラム
EYU\$CNV1 [56](#)
EYUJWREP [57](#)
時間帯 [136](#)
時間帯属性
指定箇所 [139](#)
使用 [139](#)

時間帯属性 (続き)
定義 [139](#)
時間枠定義
作成 [135](#), [136](#)
「時間枠定義」ビュー
一般 (PERIODEF) [224](#), [245](#), [280](#), [338](#), [360](#)
システム・グループ定義 [135](#)
「システム・グループ定義」ビュー
一般 (CSYSGRP) [165](#), [242](#)
システム 初期設定パラメーター、CICS
z/OS MAS 関連 [39](#)
システム・パラメーター
トポロジーの要件 [47](#)
自動インポート・オプション [62](#)
「ジャーナル・モデル定義」ビュー
一般 (JRNMDEF) [444](#)
ジャーナル・レコード、CMAS [29](#)
「状況プローブ定義」ビュー
一般 (STATDEF) [334](#)
「仕様とシステム・グループとの間のリンク」ビュー
一般 (LNKSRSCG) [282](#), [341](#)
除去
CICSplex 関連付けの CMAS [133](#)
スコープ [99](#)
ストレージの異常終了
異常終了コード [878](#) [109](#)
EYU9XDBT 定義ユーティリティを使用 [109](#)
ストレージ要件
CICS 管理クライアント・インターフェース用 [91](#)
セキュリティ
CICS 管理クライアント・インターフェース用 [96](#)
「セッション定義」ビュー
一般 (SESSDEF) [291](#), [484](#)
セットアップ
CICSplex SM [47](#)
CMAS [11](#)
MVS MAS [35](#)
選択リスト
構成 [128](#)
専用リソース
トラブルシューティング [157](#)

[タ行]

ターゲット領域
CICSplex の要件 [48](#)
端末専有領域 (TOR) [2](#)
「端末定義」ビュー
一般 (TERMDEF) [496](#)
通信
CMAS-CMAS
リンクの作成 [130](#)
定義、マッピング
アクション・コマンド (action command) [100](#)
バッチ処理されるリポジトリ更新機能 [114](#)
定義ユーティリティ、EYU9XDBT [101](#)
停止
MVS MAS [43](#)
データ・リポジトリ
アップグレード [15](#)
拡張 [20](#)
管理 [100](#)
更新 [110](#)
作成 [15](#)

データ・リポジトリ (続き)
順方向リカバリー・ログの定義 [21](#)
それぞれの CMAS に [15](#), [128](#)
バックアップ [20](#)
CMAS 開始 JCL で確認される [13](#)
データ・リポジトリの拡張 [20](#)
データ・リポジトリのバックアップ [20](#)
データ・リポジトリ用順方向リカバリー・ログ [21](#)
データ・リポジトリを初期化する [16](#)
トポロジー
MAS 定義 [142](#)
トポロジー定義
作成
CICS システム・グループ [48](#)
トポロジーと構成
時間枠定義の作成 [135](#)
CMAS から CMAS への接続の確立 [50](#)
CMAS での NetView への総称アラートの送信の有効化
[143](#)
トポロジー・ビュー
定義との関係 [134](#)
「トランザクション・クラス定義」ビュー
一般 (TRNCLDEF) [502](#)
「トランザクション・グループ定義」ビュー
一般 (TRANGRP) [253](#)
「トランザクション・グループ内のトランザクション」ビュー
一般 (DTRINGRP) [261](#)
「トランザクション定義」ビュー
一般 (TRANDEF) [504](#)
トレース
MAS 内 [153](#)

[ナ行]

夏時間
属性の定義 [140](#)
夏時間調整指標 [136](#)
「入力条件定義」ビュー
一般 (TYPTMDEF) [516](#)

[ハ行]

「パートナー定義」ビュー
一般 (PARTDEF) [466](#)
「パイプライン定義」ビュー
一般 (PIPEDEF) [468](#)
バッチ化リポジトリ更新機能 (batched repository-update facility)
設定する、コマンドの処理オプション [115](#)
バッチ処理されるリポジトリ更新機能
使用 [110](#)
入力の作成 [111](#)
入力の送信 [110](#)
OUTPUT コマンドの使用 [116](#)
バッチ・ユーティリティ
データ・リポジトリの更新のための [100](#)
「バッチ・リポジトリ更新要求」ビュー
一般 (BATCHREP) [203](#)
パラメーター
CICS system initialization
z/OS MAS 用 [39](#)
CICS システム 初期設定

パラメーター (続き)
CICS システム 初期設定 (続き)
z/OS MAS 用 40
CICS システム 初期設定パラメーター
CMAS 用 [17, 22](#)
パラメーター、EYUJXBT1 [105](#)
パラメーター、EYUJXBT2 [107](#)
パラメーター、EYUJXBT3 [108](#)
パラメーター、EYUJXBT4 [108](#)
パラメーター、EYUJXBTP [105](#)
バンドル
プラットフォーム [7](#)
「バンドル定義」ビュー
一般 (BUNDDEF) [389](#)
ヒストリー記録 [43](#)
「評価定義」ビュー
一般 (EVALDEF) [328, 352](#)
「ファイル・セグメント定義」ビュー
一般 (FSEGDEF) [423](#)
ファイル専有領域 (FOR) [2](#)
「ファイル定義」ビュー
一般 (FILEDEF) [416](#)
プラットフォーム
作成 [7](#)
デプロイ [8](#)
トラブルシューティング [155](#)
CICS 領域の追加 [145, 148](#)
プラットフォーム設計 [2](#)
プラットフォームのデプロイ [8](#)
プラットフォーム・プロジェクト [7, 8](#)
「プログラム定義」ビュー
一般 (PROGDEF) [475](#)
「プロセス・タイプ定義」ビュー
一般 (PROCDEF) [470](#)
「プロファイル定義」ビュー
一般 (PROFDEF) [472](#)
「文書テンプレート定義」ビュー
一般 (DOCDEF) [406](#)
「分析点仕様内の RTA グループ」ビュー
一般 (RTAINAPS) [363](#)
ヘルプ
カスタマイズ可能なビューおよびメニュー・ヘルプ [59](#)
保守ポイント [47](#)
保守ポイント CMAS
作業 [128](#)
変更 [129](#)
補助記憶装置の使用 [11](#)
ホスト名 [55, 70](#)

[マ行]

マッピング、CICSplex SM 定義
アクション・コマンド (action command) [100](#)
バッチ処理されるリポジトリ更新機能 [114](#)
マップ機能 [100](#)
「マップ・セット定義」ビュー
一般 (MAPDEF) [458](#)
メッセージ・ログ (EYUOLOG)
CMAS JCL での [13](#)
メニュー、管理
構成 [128](#)
「モニター・グループ定義」ビュー
一般 (MONGROUP) [221](#)
「モニター仕様と CICS システムとの間のリンク」ビュー

「モニター仕様と CICS システムとの間のリンク」ビュー (続き)
一般 (LNKSMSCS) [225](#)
「モニター仕様とシステム・グループとの間のリンク」ビュー
一般 (LNKSMSCG) [226](#)
「モニター仕様内のモニター・グループ」ビュー
一般 (MONINSPC) [227](#)
「モニター仕様」ビュー
一般 (MONSPEC) [219](#)
「モニター定義」ビュー
一般 (MONDEF) [222](#)

[ヤ行]

「要求モデル定義」ビュー
一般 (RQMDEF) [480](#)

[ラ行]

「リソース記述定義」ビュー
一般 (RESDESC) [368, 537](#)
「リソース記述で選択されたリソース」ビュー
一般 (RDSCPROC) [383, 553](#)
「リソース記述内のリソース割り当て」ビュー
一般 (RASINDSC) [552](#)
「リソース・グループ定義」ビュー
一般 (RESGROUP) [367, 533](#)
「リソース・グループ内の CICS リソース定義」ビュー
一般 (RESINGRP) [381, 550](#)
リソース・テーブル
BATCHREP でサポートされる [120](#)
「リソース割り当て定義」ビュー
一般 (RASGNDEF) [534](#)
「リソース割り当てで選択されたリソース」ビュー
一般 (RASPROC) [554](#)
リモート MAS
説明 [47](#)
領域タイプ
CICS 領域の追加 [145, 148](#)
リリースの同期、CMAS と CICS の [11](#)
リンク、通信
作成
CMAS-CMAS [130](#)
レコード・カウント警告 [87](#)
「ローカル CMAS 認知の CMAS」ビュー
一般 (CMASLIST) [189](#)
ローカル MAS [53](#)

[ワ行]

ワークロード管理
CICSplex の要件 [48](#)

[数字]

「1 次 CMAS 分析点仕様」ビュー
一般 (CMDMPAPS) [361](#)
「2 次 CMAS 分析点仕様」ビュー
一般 (CMDMSAPS) [362](#)

A

ACTION ビュー [278, 336, 358](#)

ADD TOGROUP コマンド [101](#)
AOR [2](#)
APSPEC ビュー [347](#)
ATOMDEF ビュー [387](#)
「Atomservice 定義」ビュー
一般 (ATOMDEF) [387](#)
AUTOIMPORTDSN [62](#)
AUTOIMPORTMEM [62](#)
AUTOIMPORTTDQ [62](#)
AUTOREFRESH [64](#)
AUTORESETTIME [55](#)

B

BATCHREP
サポートされるリソース・テーブル [120](#)
BATCHREP ビュー [203](#)
BBACTDEF DD ステートメント
CMAS 開始 JCL での [13](#)
BUNDDEF ビュー [389](#)

C

CHS [55](#)
CHS1 [55](#)
CHS2 [55](#)
CICS 管理クライアント・インターフェース
ストレージ要件 [91](#)
セキュリティのセットアップ [96](#)
セットアップ [71](#), [94](#), [96](#)
CICS 領域のセットアップ [94](#)
CMCIPORT WUI サーバー 初期設定パラメーター [62](#)
DFH\$WUTC サンプル [94](#)
DFH\$WUUR サンプル URI マップ [94](#)
CICS システム
CICS システム・グループの一部
追加 [48](#)
CICS システム・グループ
作成 [48](#)
表示
CICSplex に認識される [135](#)
メンバーの追加 [48](#)
CICS システムおよび CICSplex との関係 [134](#)
CICS システム・グループ定義の作成 [48](#)
「CICS システム・グループとシステム・グループとの間のリンク」ビュー
一般 (CSGLCGCG) [243](#)
CICS システム・グループへの CICS システムの追加 [48](#)
CICS システム 初期設定パラメーター
CPSMCONN [54](#)
CWAKEY [54](#)
INITPARM
EYU9VKEC [55](#)
EYU9VWAN [55](#)
WRKAREA [54](#)
z/OS MAS 関連 [39](#)
CICS システム定義 [47](#)
CICS システム定義ビュー
一般 (CSYSDEF) [166](#), [231](#), [263](#), [306](#)
「CICS システムとシステム・グループとの間のリンク」ビュー
一般 (CSGLCGCS) [244](#)
「CICS システムに割り当てたリソース」ビュー

「CICS システムに割り当てたリソース」ビュー (続き)
一般 (SYSRES) [384](#), [556](#)
CICS システムの CICS システム・グループへの関連付け [48](#)
「CICS システム・リンク定義」ビュー
一般 (SYSLINK) [285](#)
CICS ストレージ、CMAS 内の [27](#)
CICS モニター機能 (CMF) [41](#)
「CICS-配置 JAR ファイル定義」ビュー
一般 (EJDJDEF) [391](#)
CICSplex
関連付けられている CMAS
除去 [133](#)
追加 [49](#)
表示
CICS システム・グループ、認識される [135](#)
CICS システムおよび CICS システム・グループとの関係
[134](#)
CICSplex SM
使用 [101](#)
初期設定パラメーター [47](#)
EYU9XDBT 定義ユーティリティ [101](#)
「CICSplex 管理の CMAS」ビュー
一般 (CICSPLEX) [194](#)
CICSplex 定義からの CMAS の削除 [133](#)
CICSplex 定義からの CMAS の割り当て解除 [133](#)
「CICSplex 定義中の CMAS」ビュー
一般 (CPLXCMAS) [209](#)
CICSplex 定義の更新
リンクの説明
CMAS から CMAS への [130](#)
「CICSplex 認知の MAS」ビュー
一般 (MAS) [177](#)
CICSplex の定義 (CICSplex definitions)
管理 [133](#)
作成 [47](#)
ビューごとの要約
CPLXCMAS [133](#)
CMAS の削除 [133](#)
CMAS の割り当て [49](#)
「CICSplex の定義」ビュー
一般 (CPLXDEF) [205](#)
CICSplex の表示
CICS システム・グループ
CICSplex に認識される [135](#)
CICSPLEX ビュー [194](#)
CMAS
データ・セットのカスタマイズ [26](#)
データ・セットを作成する [26](#)
夏時間調整 [137](#)
DAYLIGHT [137](#)
NetView へのアラートの送信 [143](#)
CMAS (アドレス・スペース)
ウォーム・スタート [131](#)
開始する
システム・コンソールから [13](#)
バッチ・ジョブとして [13](#)
コールド・スタート [131](#)
再始動 [32](#), [131](#)
データ・リポジトリを作成する [15](#)
CICS システム 初期設定パラメーター [17](#), [22](#)
CICS システム定義を追加する [15](#)
CMAS 用 START コマンド [28](#)
CMAS (CICSplex SM アドレス・スペース)
タスクの制御 [25](#)

CMAS (CICSplex SM アドレス・スペース) (続き)
 CICS ストレージの制御 [27](#)
 CMAS から CMAS へのリンク
 更新 [130](#)
 除去 [131](#)
 「CMAS から CMAS へのリンク定義」ビュー
 一般 (CMTCMDEF) [213](#)
 「CMAS から CMAS へのリンク」ビュー
 一般 (CMTCMLNK) [197](#)
 「CMAS から MAS へのリンク」ビュー
 一般 (CMTPLNK) [199](#)
 「CMAS からリモート MAS へのリンク定義」ビュー
 一般 (CMTPMDEF) [216](#)
 「CMAS 管理の CICSplex」ビュー
 一般 (CMASPLEX) [190](#)
 CMAS コンテキスト [99](#)
 CMAS コンポーネントのトレース [151](#)
 CMAS ジャーナリング [29](#)
 CMAS 詳細ビュー [143](#)
 CMAS 特定の JCL 必要条件
 BBACTDEF [13](#)
 CICS EXEC [13](#)
 DFHRPL [13](#)
 EYUCMASP [13](#)
 EYUDREP [13](#)
 EYULOG [13](#)
 EYUPARM [13](#)
 STEPLIB [13](#)
 CMAS の CICSplex との関連付け [49](#)
 CMAS の CICSplex の定義への割り当て [49](#)
 CMAS の再始動 [32](#), [131](#)
 CMAS のシャットダウン [31](#)
 CMAS の初期設定 [13](#)
 「CMAS 別の MAS 状況」ビュー
 一般 (MASSTAT) [188](#)
 CMAS リリースと CICS リリースとの同期 [11](#)
 CMAS リンク
 作成
 別の CMAS [130](#)
 CMAS リンクの作成
 別の CMAS [130](#)
 CMASLIST ビュー [189](#)
 CMASPLEX ビュー [190](#)
 CMCI
 ストレージ要件 [91](#)
 セットアップ [71](#)
 レコード・カウント警告の設定 [87](#)
 CMCIPOrt WUI サーバー 初期設定パラメーター [62](#)
 DEFAULTWARNCNT [87](#)
 CMCIPOrt [62](#)
 CMDMPAPS ビュー [361](#)
 CMDMSAPS ビュー [362](#)
 CMF レコードの抑止 [41](#)
 CMTCMDEF ビュー [213](#)
 CMTCMLNK ビュー [197](#)
 CMTPMDEF ビュー [216](#)
 CMTPLNK ビュー [199](#)
 COLG [68](#)
 COLORINK [68](#)
 COLORINKBANNER [68](#)
 COLORINKLINK [68](#)
 COLORINKVLINK [68](#)
 COLORPAPER [68](#)
 COLORPAPERALT [68](#)

COLORPAPERERROR [68](#)
 COLORPAPERHEAVY [68](#)
 COLORPAPERLIGHT [68](#)
 COLORPAPERRULE [68](#)
 COLORPAPERWARN [68](#)
 COMMNDaa、オペレーター・コマンド・メンバー
 CMAS 用 [13](#)
 CONNDEF ビュー [286](#), [439](#)
 CONTEXT コマンド [101](#)
 「CorbaServer 定義」ビュー
 一般 (EJCODEF) [393](#)
 COVC [70](#)
 COVE [68](#)
 COVI [68](#)
 COVP [68](#)
 CPLEXDEF [47](#), [133](#)
 CPLEXDEF ビュー [205](#)
 CPLXCMAS ビュー [209](#)
 CPSM.EYUDREP
 CMAS 開始 JCL における [13](#)
 CPSM.SEYUAEDEF
 CMAS 開始 JCL における [13](#)
 CPSM.SEYUAUTH
 CMAS 開始 JCL における [13](#)
 CPSM.SEYULOAD
 CMAS 開始 JCL における [13](#)
 CPSM.SEYUVDEF
 CMAS 開始 JCL における [13](#)
 CPSM310.SEYUAUTH
 MAS 開始 JCL における [38](#)
 CPSM310.SEYULOAD
 MAS 開始 JCL における [38](#)
 CPSMCONN [54](#)
 CSD ファイル要件
 リンクを作成する場合
 CMAS-CMAS [130](#)
 CSGLCGCG ビュー [243](#)
 CSGLCGCS ビュー [244](#)
 CSYSDEF ビュー [166](#), [231](#), [263](#), [306](#)
 CSYSGRP [2](#)
 CSYSGRP ビュー [165](#), [242](#)
 CVDASTYLE [63](#)
 CWAKEY [54](#)

D

DATEFORMAT [63](#)
 DATESEPARATOR [64](#)
 「DB2 エントリー定義」ビュー
 一般 (DB2EDEF) [401](#)
 「DB2 接続定義」ビュー
 一般 (DB2CDEF) [396](#)
 「DB2 トランザクション定義」ビュー
 一般 (DB2TDEF) [404](#)
 DB2CDEF ビュー [396](#)
 DB2EDEF ビュー [401](#)
 DB2TDEF ビュー [404](#)
 DECIMALSEPARATOR [64](#)
 DEFAULTCICSplex [66](#)
 DEFAULTCICSrgn [66](#)
 DEFAULTCMASCTXT [65](#)
 DEFAULTCONNECT [66](#)
 DEFAULTCONTEXT [65](#)
 DEFAULTCSYSGRP [66](#)

DEFAULTDB2SS [66](#)
 DEFAULTTEJCOBEAN [66](#)
 DEFAULTTEJDJBEAN [66](#)
 DEFAULTTEVENT [66](#)
 DEFAULTLOCFILE [66](#)
 DEFAULTLOCTRAN [66](#)
 DEFAULTMAPBAS [65](#)
 DEFAULTMAPCOLL [65](#)
 DEFAULTMAPMON [65](#)
 DEFAULTMAPRTA [65](#)
 DEFAULTMAPWLM [65](#)
 DEFAULTMENU [65](#)
 DEFAULTNAVIGATE [65](#)
 DEFAULTPROGRAM [66](#)
 DEFAULTTREMFILE [66](#)
 DEFAULTTREMTRAN [66](#)
 DEFAULTSCOPE [65](#)
 DEFAULTTASK [66](#)
 DEFAULTWARNCNT [65](#)
 DEFINE コマンド [101](#)
 DELETE コマンド [101](#)
 DFH\$WUTC サンプル TCP/IP サービス [94](#)
 DFH\$WUUR サンプル URI マップ [94](#)
 DFHCNV [56](#)
 DFHHTML [59](#), [69](#)
 DFHISTAR
 CMAS インストール後ジョブのカスタマイズ [27](#)
 CMAS のインストール後メンバー [26](#)
 CMASNAME パラメーター [15](#)
 DSINFO [15](#)
 MAS インストール後ジョブのカスタマイズ [37](#)
 MAS 用のインストール後メンバー [36](#)
 WUI インストール後ジョブのカスタマイズ [59](#)
 WUI のインストール後メンバー [57](#)
 DFHRPL (動的トランザクション・ルーティング出口)
 CMAS 開始 JCL における [13](#)
 MAS 開始 JCL における [38](#)
 DFLTUSER システム初期設定パラメーター
 z/OS MAS 用 [40](#)
 DOCDEF ビュー [406](#)
 DTRINGRP ビュー [261](#)

E

EJCODEF ビュー [393](#)
 EJDJDEF ビュー [391](#)
 ENQMDEF ビュー [432](#)
 ENU [55](#)
 ENU1 [55](#)
 EVALDEF ビュー [328](#), [352](#)
 EXPORT コマンド [101](#)
 EYU\$CNV1 [56](#)
 EYU9VKEC [55](#)
 EYU9VWAN [55](#)
 EYU9XDBT [100](#)
 EYU9XDBT CICSplex SM 定義ユーティリティ
 概要 [101](#)
 EYU9XDBT 定義ユーティリティ
 エラー [109](#)
 コマンド
 ADD TOGROUP [101](#)
 CONTEXT [101](#)
 DEFINE [101](#)
 DELETE [101](#)

EYU9XDBT 定義ユーティリティ (続き)
 コマンド (続き)

 EXPORT [101](#)
 IMPORT [101](#)
 OPTION [101](#)
 PRINT [101](#)
 REMOVE FROMGROUP [101](#)
 データ・セット [105](#)
 EYUJXBT1 パラメーター [105](#)
 EYUJXBT2 パラメーター [107](#)
 EYUJXBT3 パラメーター [108](#)
 EYUJXBT4 パラメーター [108](#)
 EYUJXBTP パラメーター [105](#)
 EYU9XDUT [16](#)
 EYU9XDUT の CMASNAME パラメーター [16](#)
 EYU9XDUT の DAYLIGHT パラメーター [16](#)
 EYU9XDUT の SYSID パラメーター [16](#)
 EYU9XDUT の WUI パラメーター [16](#)
 EYU9XDUT の WUIAPPLID パラメーター [16](#)
 EYU9XDUT の WUINAME パラメーター [16](#)
 EYU9XDUT の WUIPLEX パラメーター [17](#)
 EYU9XDUT の WUISYSID パラメーター [17](#)
 EYU9XDUT の ZONEOFFSET パラメーター [16](#)
 EYUCHS1 [56](#)
 EYUCHS2 [56](#)
 EYUCMS01
 CICS システム初期設定パラメーター [17](#), [22](#)
 EYUCMS1A [65](#)
 EYUCOVE [68](#), [69](#)
 EYUCOVI [68](#), [69](#)
 EYUDREP データ・セット
 データ・リポジトリの作成 [15](#)
 CMAS 開始 JCL における [13](#)
 EYUENU1 [56](#)
 EYUHISTx [43](#)
 EYUHISTx DD ステートメント [38](#)
 EYUJPN1 [56](#)
 EYUJWREP [57](#)
 EYULOG [68](#), [69](#)
 EYULOG DD ステートメント
 CMAS 開始 JCL [13](#)
 EYUPARM DD ステートメント
 CMAS 開始 JCL における [13](#)
 MAS 開始 JCL における [38](#)
 EYUPARM パラメーター
 トポロジーの要件 [47](#)
 EYUPLX01 [65](#)
 EYUSTARTCPLEXDEF ビュー [133](#)
 EYUWREP (Web ユーザー・インターフェースのサーバー・リ
 ポジトリ) [56](#), [69](#)
 EYUWUI [68](#), [69](#)

F

FENODDEF ビュー [409](#)
 「FEPI ターゲット定義」ビュー
 一般 (FETRGDEF) [415](#)
 「FEPI ノード定義」ビュー
 一般 (FENODDEF) [409](#)
 「FEPI プール定義」ビュー
 一般 (FEPOODEF) [410](#)
 「FEPI プロパティ・セット定義」ビュー
 一般 (FEPRODEF) [412](#)
 FEPOODEF ビュー [410](#)

FEPRODEF ビュー [412](#)
FETRGDEF ビュー [415](#)
FILEDEF ビュー [416](#)
FOR 2
FSEGDEF ビュー [423](#)

G

GLOBALPREFILTER [65](#)
GMMTEXTMSG [64](#)
GMT オフセット [136](#)
GRPLIST
 z/OS MAS パラメーター [40](#)

H

HISTRECSMSG [43](#)
http [55](#), [70](#)

I

IBM Tivoli NetView
 一般的なアラートの送信 [12](#)
IBM Tivoli NetView へのアラート
 受信用に IBM Tivoli NetView を準備する [12](#)
IMPORT コマンド [101](#)
INACTIVETIMEOUT [66](#)
INITPARM
 EYU9VKEC [55](#)
 EYU9VWAN [55](#)
IPCONDEF ビュー [295](#), [434](#)
「IPIC 接続定義」ビュー
 一般 (IPCONDEF) [295](#), [434](#)
「ISC/MRO 接続定義」ビュー
 一般 (CONNDEF) [286](#), [439](#)

J

JPN [55](#)
JPN1 [55](#)
JRNMDEF ビュー [444](#)
「JVM サーバー定義」ビュー
 一般 (JVMSVDEF) [446](#)
JVMSVDEF ビュー [446](#)

L

LIBDEF ビュー [448](#)
「LIBRARY 定義」ビュー
 一般 (LIBDEF) [448](#)
LNKSMSCG ビュー [226](#)
LNKSMSCS ビュー [225](#)
LNKSRSCG ビュー [282](#), [341](#)
LNKSRSCS ビュー [281](#), [340](#)
LNKSWSCG ビュー [258](#)
LNKSWSCS ビュー [257](#)
「LSR プール定義」ビュー
 一般 (LSRDEF) [454](#)
LSRDEF ビュー [454](#)
LU 6.2 通信リンク
 CMAS 間
 作成 [130](#)

M

MAPDEF ビュー [458](#)
MAS
 データ・セットのカスタマイズ [36](#)
 データ・セットを作成する [36](#)
 夏時間調整 [137](#)
 DAYLGHTSV [137](#)
MAS (管理下アプリケーション・システム)
 更新 [143](#)
 リモート (remote) [47](#)
 ローカル [47](#)
MAS 関連のパラメーター
 CICS システム 初期設定 [40](#)
MAS コンポーネントのトレース [153](#)
MAS 定義 [142](#)
MAS 特定の JCL 必要条件
 DFHRPL DD [38](#)
 EYUPARM DD [38](#)
 STEPLIB DD [38](#)
MAS ビュー [177](#)
MASSTAT ビュー [188](#)
MAXUSERS [67](#)
MONDEF ビュー [222](#)
MONGROUP ビュー [221](#)
MONINGRP ビュー [228](#)
MONINSPC ビュー [227](#)
MONSPEC ビュー [219](#)
MQCONDEF ビュー [460](#)
MQMONDEF ビュー [462](#)
MRO 接続
 一時的エラーのメッセージ DFHIR3788 [51](#)
MRO 通信リンク
 CMAS 間
 作成 [130](#)
MSGCASE [64](#)
MVS MAS の再開 [43](#)

N

NetView
 CMAS での総称アラートの送信の有効化 [143](#)

O

OPTION コマンド [101](#), [115](#)
OUTPUT コマンド [116](#)

P

PARTDEF ビュー [466](#)
PERIODEF
 作成 [136](#)
PERIODEF ビュー [224](#), [245](#), [280](#), [338](#), [360](#)
PIPEDEF ビュー [468](#)
PLATDEF [2](#), [8](#)
PLATFORM [8](#)
port [55](#), [70](#)
PRINT コマンド [101](#)
PROCDEF ビュー [470](#)
PROFDEF ビュー [472](#)
PROGDEF ビュー [475](#)
PRTNDEF ビュー [464](#)

R

RASGNDEF ビュー [534](#)
RASINDSC ビュー [552](#)
RASPROC ビュー [554](#)
RDSCPROC ビュー [383, 553](#)
REMOVE FROMGROUP コマンド [101](#)
RESDESC ビュー [368, 537](#)
RESGROUP ビュー [367, 533](#)
RESINDSC ビュー [382, 551](#)
RESINGRP ビュー [381, 550](#)
RESOURCELIMIT [65](#)
REXX ランタイム・ライブラリー
事前インストール [109](#)
代替 [109](#)
RQMDEF ビュー [480](#)
「RTA グループ内の RTA 定義」ビュー
一般 (RTAINGRP) [343, 364](#)
「RTA グループ内の状況定義」ビュー
一般 (STAINGRP) [344, 365](#)
「RTA グループ」ビュー
一般 (RTAGROUP) [323, 348](#)
「RTA 仕様と CICS システムとの間のリンク」ビュー
一般 (LNKSRSCS) [281, 340](#)
「RTA 仕様内の RTA グループ」ビュー
一般 (RTAINSPC) [342](#)
「RTA 仕様」ビュー
一般 (RTASPEC) [274, 319](#)
「RTA 定義」ビュー
一般 (RTADEF) [325, 349](#)
「RTA 分析点仕様」ビュー
一般 (APSPEC) [347](#)
RTADEF ビュー [325, 349](#)
RTAGROUP ビュー [323, 348](#)
RTAINAPS ビュー [363](#)
RTAINGRP ビュー [343, 364](#)
RTAINSPC ビュー [342](#)
RTASPEC ビュー [274, 319](#)

S

SESSDEF ビュー [291, 484](#)
SIGNONPANEL [67](#)
SIT [17, 22](#)
SMSS
セキュリティのセットアップ [96](#)
セットアップ [94](#)
SNA 総称アラート [143](#)
STAINGRP ビュー [344, 365](#)
START コマンド
CMAS [28](#)
STATDEF ビュー [334](#)
SUPPRESSCMF システム・パラメーター [41](#)
SYS1.PARMLIB ライブラリー
オペレーター・コマンド付きの COMMNDaa メンバー [13](#)
SYS1.PROCLIB
CMAS 始動プロシージャ [13](#)
SYSLINK ビュー [285](#)
SYSRES ビュー [384, 556](#)

T

TCP/IP サービス

TCP/IP サービス (続き)
DFH\$WUTC サンプル [94](#)
「TCP/IP サービス定義」ビュー
一般 (TCPDEF) [300, 488](#)
TCPDEF ビュー [300, 488](#)
TCPIPADDRESS [60](#)
TCPIPHOSTNAME [55, 60, 70](#)
TCPIPHTTPOST [61](#)
TCPIPPOST [55, 60, 70](#)
TCPIPSSL [61](#)
TCPIPSSLCERT [61](#)
TCPIPSSLCIPHERS [61](#)
TDQDEF ビュー [511](#)
TERMDEF ビュー [496](#)
THOUSNDSEPARATOR [64](#)
TIMESEPARATOR [64](#)
TIMEZONE パラメーター
EYUINST EXEC [16](#)
TOR 2
TRANDEF ビュー [504](#)
TRANGRP ビュー [253](#)
TRNCLDEF ビュー [502](#)
TSMDEF ビュー [494](#)
TYPTMDEF ビュー [516](#)

U

URI マップ
DFH\$WUUR サンプル [94](#)
「URI マップ定義」ビュー
一般 (URIMPDEF) [526](#)
URIMPDEF ビュー [526](#)

W

「WEB サービス定義」ビュー
一般 (WEBSVDEF) [530](#)
web ブラウザー接続 [70](#)
Web ユーザー・インターフェース
アクション・コマンド [100](#)
アクション・ボタン [99](#)
トポロジー定義の管理 [134](#)
CICS システム定義 [135](#)
CSYSDEF [135](#)
Web ユーザー・インターフェース・サーバー
データ・セットのカスタマイズ [57](#)
データ・セットを作成する [57](#)
Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定オプション・パラメーター [60](#)
Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメーター
AUTOREFRESH [64](#)
CMCIPOST [62](#)
COLORINK [68](#)
COLORINKBANNER [68](#)
COLORINKLINK [68](#)
COLORINKVLINK [68](#)
COLORPAPER [68](#)
COLORPAPERALT [68](#)
COLORPAPERERROR [68](#)
COLORPAPERHEAVY [68](#)
COLORPAPERLIGHT [68](#)
COLORPAPERRULE [68](#)

Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定パラメータ WLM 仕様とシステム・グループとの間のリンク」ビュー (続き)

COLORPAPERWARN [68](#)
 CVDASTYLE [63](#)
 DATEFORMAT [63](#)
 DATESEPARATOR [64](#)
 DECIMALSEPARATOR [64](#)
 DEFAULTCICSPLX [66](#)
 DEFAULTCICSRGN [66](#)
 DEFAULTCMASCTXT [65](#)
 DEFAULTCONNECT [66](#)
 DEFAULTCONTEXT [65](#)
 DEFAULTCSYSGRP [66](#)
 DEFAULTDB2SS [66](#)
 DEFAULTEJCOBEAN [66](#)
 DEFAULTEJDJBAN [66](#)
 DEFAULTEVENT [66](#)
 DEFAULTLOCFILE [66](#)
 DEFAULTLOCTRAN [66](#)
 DEFAULTMAPBAS [65](#)
 DEFAULTMAPCOLL [65](#)
 DEFAULTMAPMON [65](#)
 DEFAULTMAPRTA [65](#)
 DEFAULTMAPWLM [65](#)
 DEFAULTMENU [65](#)
 DEFAULTNAVIGATE [65](#)
 DEFAULTPROGRAM [66](#)
 DEFAULTREMFIL [66](#)
 DEFAULTREMTAN [66](#)
 DEFAULTSCOPE [65](#)
 DEFAULTTASK [66](#)
 DEFAULTWARNCNT [65](#)
 GLOBALPREFILTER [65](#)
 GMMTEXTMSG [64](#)
 INACTIVETIMEOUT [66](#)
 MAXUSERS [67](#)
 MSGCASE [64](#)
 RESOURCELIMIT [65](#)
 SIGNONPANEL [67](#)
 TCPIPADDRESS [60](#)
 TCPIPHOSTNAME [55, 60, 70](#)
 TCPIPHTTTPHOST [61](#)
 TCPIPSPORT [55, 60, 70](#)
 TCPIPSSL [61](#)
 TCPIPSSLCERT [61](#)
 TCPIPSSLCIPHERS [61](#)
 THOUSNDSEPARATOR [64](#)
 TIMESEPARATOR [64](#)
 WUITRACE [68](#)

Web ユーザー・インターフェース・サーバーの初期設定必要
 パラメーター [60](#)

Web ユーザー・インターフェースのサーバー・リポジトリ
 (EYUWREP) [56, 69](#)

「WebSphere MQ 接続定義」ビュー
 一般 (MQCONDEF) [460](#)

「WebSphere MQ モニター定義」ビュー
 一般 (MQMONDEF) [462](#)

WEBSVDEF ビュー [530](#)

「WLM グループ内の WLM 定義」ビュー
 一般 (WLMINGRP) [260](#)

「WLM グループ」ビュー
 一般 (WLMGROUP) [250](#)

「WLM 仕様と CICS システムとの間のリンク」ビュー
 一般 (LNKSWSCS) [257](#)

「WLM 仕様とシステム・グループとの間のリンク」ビュー

「WLM 仕様とシステム・グループとの間のリンク」ビュー (続き)
 一般 (LNKSWSCG) [258](#)
 「WLM 仕様内の WLM グループ」ビュー
 一般 (WLMINSPC) [259](#)
 「WLM 仕様」ビュー
 一般 (WLMSPEC) [247](#)
 「WLM 定義」ビュー
 一般 (WLMDEF) [251](#)
 WLMDEF ビュー [251](#)
 WLMGROUP ビュー [250](#)
 WLMINGRP ビュー [260](#)
 WLMINSPC ビュー [259](#)
 WLMSPEC ビュー [247](#)
 WRKAREA [54](#)
 WUI
 データ・リポジトリ定義のインポート [62](#)
 WUITRACE [68](#)

Z

z/OS MAS の初期化 [36, 38](#)

[特殊文字]

アドレス・スペース (CMAS)

開始する
 システム・コンソールから [13](#)
 バッチ・ジョブとして [13](#)

再始動 [32, 131](#)

データ・リポジトリを作成する [15](#)

CICS システム初期設定パラメーター [17, 22](#)

CICS システム定義を追加する [15](#)

CMAS 用 START コマンド [28](#)

